

2026年度

シラバス

大学院

応用言語学研究科 博士前期課程
博士後期課程
経済学研究科 修士課程
不動産学研究科 博士前期課程
博士後期課程

明海大学

目次

2026年度 大学院シラバス

応用言語学研究科 博士前期課程

応用言語学研究法特論	木山 三佳	6
応用言語学特論	中川 仁	7
日本語教育方法特論	田川 麻央	9
日本語教育教材特論	片桐 史尚	11
日本語教育学特論	木山 三佳	13
英語教育方法特論	ケイコ ナカムラ	14
英語教育教材特論	平井 清子	16
中国語教育方法特論	小川 唯	18
言語教育評価特論	田川 麻央	20
一般言語学特論	嶋田 珠巳	22
異文化コミュニケーション特論	鍛冶 広真	23
言語心理学特論	ケイコ ナカムラ	25
対照研究特論	中川 仁	27
日本語学特論	佐々木文彦	29
現代英文法特論	辰己 雄太	31
現代中国語文法特論	曹 泰和	33
コンピューター言語学特論	長谷川守寿	35
意味論特論	鍛冶 広真	37
日・英比較文学特論	横山竜一郎	39
中国中世文化特論	中嶋 諒	41
中国古典文学特論	土谷 彰男	43
中国現代文学特論	河村 昌子	45
通訳理論特論	神崎 龍志	47
特別演習 I	鍛冶 広真	49
	河村 昌子	50
	片桐 史尚	51
	木山 三佳	52
	ケイコ ナカムラ	53
	佐々木文彦	54
	嶋田 珠巳	56
	曹 泰和	57
	田川 麻央	58
	辰己 雄太	59
	中川 仁	60
	中嶋 諒	61

特別演習 II	片桐 史尚	62
	河村 昌子	63
	木山 三佳	64
	佐々木文彦	65
	嶋田 珠巳	67
	田川 麻央	68
応用言語学研究科 博士前期課程 特別演習指導テーマ一覧		69

応用言語学研究科 博士後期課程

日本語教育学特講	佐々木文彦	72
英語教育学特講	平井 清子	74
中国語教育学特講	曹 泰和	75
言語接触特講	嶋田 珠巳	76
異文化間コミュニケーション特講	木山 三佳	77
言語習得特講	木山 三佳	79
語用論特講	辰己 雄太	80
意味論特講	辰己 雄太	81
対照言語学特講	中川 仁	82
統語論特講	嶋田 珠巳	84
言語機能特講	嶋田 珠巳	85
近代英文学特講	佐藤 亨	86
中国思想・文化特講	中嶋 諒	87
中国古典文学特講	土谷 彰男	88
中国現代文学特講	河村 昌子	89
特別研究 I	河村 昌子	91
	木山 三佳	92
	嶋田 珠巳	93
	中川 仁	94
特別研究 II	中川 仁	95
特別研究 III	河村 昌子	96
	木山 三佳	97
応用言語学研究科 博士後期課程 特別研究指導テーマ一覧		98

経済学研究科 修士課程

ミクロ経済学特論	廣部 恒忠	100
マクロ経済学特論	影山 純二	102
実証分析特論	中澤 栄一	104
データサイエンス特論	萩原 里紗	106
税法通則特論	工藤 克宜	108

財政学特論	中平 千彦	110
金融論特論	小黑 曜子	112
経済政策特論	宮崎 礼二	114
国際経済学特論	中澤 栄一	115
グローバル経済特論	宮崎 礼二	117
所得課税法特論	工藤 克宜	118
消費税法特論	工藤 克宜	120
会計学特論	池田 晋	122
企業金融特論	大石 隆介	124
監査論特論	池田 晋	126
経営学特論	飯田 信一	128
経営管理特論	岡村 龍輝	130
公共経済学特論	廣部 恒忠	132
ゲーム理論特論	友利 厚夫	134
人口問題特論	影山 純二	136
社会保障特論	下田 直樹	138
労働経済学特論	白紙 利恵	140
特別演習 I	池田 晋	142
	岡村 龍輝	144
	影山 純二	146
	工藤 克宜	148
	下田 直樹	150
	廣部 恒忠	152
	宮崎 礼二	154
特別演習 II	池田 晋	155
	岡村 龍輝	157
	影山 純二	159
	工藤 克宜	161
	廣部 恒忠	163
	宮崎 礼二	165
研究・論文技法演習	中平 千彦	166
経済学研究科 修士課程 特別演習指導テーマ一覧		168

不動産学研究科 博士前期課程

不動産研究方法論	小松 広明	170
	斎藤 千尋	170
	浜島 裕美	170
不動産数理の基礎演習	金 東煥	172
	斎藤 千尋	172

日本不動産事情特論	兼重賢太郎	174
	前島 彩子	174
	山本 卓	174
地域再生特論	小杉 学	176
	藤木 亮介	176
居住環境マネジメント特論	小杉 学	178
不動産企画・経営特論	中城 康彦	180
不動産経済学特論	金 東煥	182
不動産計量経済分析特論	原野 啓	184
不動産金融特論	小林 誠	186
不動産投資特論	小松 広明	188
アセットマネジメント特論	小林 誠	190
都市空間データ処理特論	斎藤 千尋	192
不動産公法特論	兼重賢太郎	194
建築計画特論	藤木 亮介	196
不動産政策特論	小林 正典	198
不動産取引法特論	浜島 裕美	200
都市空間マネジメント特論	前島 彩子	201
不動産会計特論	山本 卓	203
特別演習 I	兼重賢太郎	205
	金 東煥	207
	小杉 学	209
	小松 広明	211
	斎藤 千尋	213
	中城 康彦	214
	浜島 裕美	216
	原野 啓	218
	藤木 亮介	220
	前島 彩子	222
	山本 卓	224
特別演習 II	兼重賢太郎	226
	金 東煥	228
	小杉 学	230
	小松 広明	232
	斎藤 千尋	234
	中城 康彦	235
	浜島 裕美	237
	原野 啓	239
	藤木 亮介	241
	前島 彩子	243
	山本 卓	245

特別演習Ⅲ	兼重賢太郎	247
	小杉 学	249
	小松 広明	251
	中城 康彦	253
	浜島 裕美	255
	藤木 亮介	257
	前島 彩子	259
特別演習Ⅳ	兼重賢太郎	261
	小杉 学	263
	小松 広明	265
	中城 康彦	267
	浜島 裕美	269
	藤木 亮介	271
	前島 彩子	273
不動産学研究科 博士前期課程 特別演習指導テーマ一覧		275

不動産学研究科 博士後期課程

環境・情報分析特講	斎藤 千尋	278
不動産鑑定理論特講	中城 康彦	279
不動産投資理論特講	小松 広明	281
企業不動産管理理論特講	山本 卓	283
不動産市場分析特講	原野 啓	285
地域再生特講	小杉 学	286
建築計画論特講	前島 彩子	288
住宅政策論特講	藤木 亮介	290
不動産公法特講	兼重賢太郎	291
環境法政策論特講	浜島 裕美	293
特別研究Ⅰ	兼重賢太郎	294
	小杉 学	295
	小松 広明	297
	斎藤 千尋	298
	中城 康彦	299
	浜島 裕美	301
	原野 啓	302
	藤木 亮介	303
	前島 彩子	305
	山本 卓	306
特別研究Ⅱ	山本 卓	308
特別研究Ⅲ	小松 広明	310
	斎藤 千尋	311
不動産学研究科 博士後期課程 特別研究指導テーマ一覧		312

応用言語学研究科

[博士前期課程]

応用言語学研究法特論

開講学科等：応用博前 | 2 単位 | 開講期：前

木山 三佳 (きやま みか)

■ 授業の概要

応用言語学研究科において修士論文を作成するために必要な知識と技能の習得をはかる。修士論文を期限までに完成させるためには、1 年次に研究目的と研究課題を決定したい。そこで本授業では、自分の研究領域における先行文献を少なくとも 30 本以上集め、批判的に読む。読んだ内容に基づいて、自分の研究領域における研究成果を自身の切り口から体系化して、レビュー論文を作成する。レビュー論文の作成により、研究意義のある目的を見出し、研究方法を考えて現実的な研究課題に落とし込む。

■ 到達目標

一般目標：研究に必要な批判的思考を身につけ、まとまった分量の先行研究を読み、レビュー論文の第一稿を完成させ、自分の修士論文の目的をある程度決定することができる。

個別目標：先行研究を批判的に読む力を身につけ、まとまった分量の先行研究を独自の切り口で体系的に整理することができる。

レビュー論文の第一稿を完成させる。

自身の修士論文の目的と研究課題の第一案を決めることができる。

■ 履修条件

初年度に必ず履修すること

■ 評価基準・方法

授業内課題 20 %、先行研究の整理表 20 %、レビュー論文 60 %

■ フィードバック方法

対面でフィードバックを行う。また、随時 manaba でフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（話し合い学習・ピアレビュー）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（参考資料の閲覧、学生間での課題の相互参照、事前・事後課題の作成提出）

■ 教科書

授業レジュメを配布する。

■ 参考書

『究極の大改訂版 これから論文を書く若者のために』酒井聡樹著 共立出版

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』佐渡島沙織・吉野亜矢子著 ひつじ書房

そのほか、適宜授業で紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

- 1 研究とは
- 2 先行研究を探そう（研究論文の検索）
- 3 研究論文の読み方
- 4 研究論文の整理表を作ろう
- 5 先行研究をグループ化しよう
- 6 さらに先行研究を探そう（参考文献リストを全て読む）
- 7 研究の種類について
- 8 研究目的と研究課題
- 9 研究方法（量的研究）
- 10 研究方法（統計結果の読み方）
- 11 研究方法（質的研究）
- 12 先行研究を体系化しよう
- 13 アウトラインを考える
- 14 論文の骨組みを書こう
- 15 レビュー論文を読み合おう

授業内容

講義によって知識やスキルを身につける、演習によってスキルを磨く。

大学院で学修する基礎としての「研究マインド」を養成するためにディスカッションやピアレビューを行う。

事前学修

自分の興味がある分野における先行研究を毎週 2 つ以上読む。

事後学修

授業で提示された課題を作成する。

応用言語学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

中川 仁 (なかがわ ひとし)

■ 授業の概要

前期における授業については、基礎言語学を主軸として、言葉の本質と概念のみを理解するのではなく、その周辺にある関連諸分野(歴史、文学、社会、芸能、民俗学)といった視点において、言葉がどう関わりをもっているのかということに言及するものである。つまり基礎言語学(音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論)の概念を理解し、言語とそれぞれの関連諸分野の論文とそれに関わる文献をみていくことによって、その関係性を紐解いていくものである。またその研究方法の構築過程や理論展開がどう発展していったのかを導きだし、それぞれのことからについても言及していく。後期は、応用言語学研究科の担当教員とも協力し、さまざまな角度からオムニバス形式で講義を進めていく。

■ 到達目標

一般目標：言語学的な知識を習得し、関連諸分野との関係性を理解することができる。また「論理的な思考」を構築する能力を身につけることができる。そして自らの研究について、そのテーマを設定し、研究方法についての考え方を整理できる。

個別目標：基礎言語学の視点を十分に理解し説明できる。また言語学とその周辺にある関連諸分野についても詳しく説明ができる。

幅広い視野から応用言語学に関するさまざまな知見を得るとともに、自らの研究構想を構築するべき指針を立てることができる。

■ 履修条件

応用言語学研究科における博士前期課程の1年生は必ず履修するべき科目である。(また前年度において、特別な事情で履修できなかった2年生についても履修することを進める。)

■ 評価基準・方法

毎回の振り返りも含め、課題を提出することを義務付ける。また欠席については、事前に連絡をすること。(評価方法は、授業時の発言や発表、毎回の課題の提出も含める。)総合的な判断により評価をする。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うこととする。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッション及びプレゼンテーション等を行う。)

■ 授業でのPCの利用(利用内容)

あり(事前事後における学修及び論文、課題作成においてパソコンを使用する。)

■ 教科書

とくに前期は教科書は指定していないが、毎回の資料は manaba において提示する。(プリントは配布することもある。)また後期については、担当教員が授業ごとに必要な資料を配布することになる。

■ 参考書

とくに参考書はないが、授業時にその都度、先行研究となる論文や資料、文献を紹介する。(また授業時に必要に応じて指示することもある。)

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：応用言語学の考え方について 授業内容：応用言語学についての考え方を説明していく。とくに近代日本の言語研究の方法論に遡り、明治35年に出版された岡倉由三郎の『応用言語学十回講話』などの資料をもとに言語研究の基本的な姿勢を概観していく。 事前学修 2.0hr：言語と関連分野について調べておく。 事後学修 2.0hr：言語と関連分野で学んだことをまとめる。	16 回	授業テーマ：日本人と日本語 授業内容：日本人の日本語観について、さまざまな事例を通し考察する。一例として、カナダに在住する日本人家庭における子供の言語環境を「二言語重視型」「日本語重視型」「自由放任型」「現地語重視型」に分けた場合の傾向から、日本人の言語に対する考えを分析する。さらに、履修者一人ひとりの経験や知識も採り入れ考察する。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。
2 回	授業テーマ：基礎言語学という考え方(音声学及び音韻論) 授業内容：基礎言語学の概念として、音声学及び音韻論の概要を説明していく。ここでは「声の文化」を説明していくなかで、音素、音節構造、調音方法などを説明し理解していく。 事前学修 2.0hr：音の構造と音素について調べておく。(また音節構造についても調べておくことも含む。) 事後学修 2.0hr：音の構造と音素について学んだことをまとめる。(音の構造組織とその方法をまとめることも含む。)	17 回	授業テーマ：言語学とフィールドワーク 授業内容：言語研究においては、研究目的に応じた言語データを収集することが必要である。この講義では主にフィールドワークによる少数言語の聞き取り調査と文法記述について論じる。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。
3 回	授業テーマ：基礎言語学という考え方(形態論) 授業内容：基礎言語学の概念として、形態論の概要を説明していく。ここでは音素から音節構造を作り、その要素が単語として成り立つ仕組みを説明し理解していく。また単語のレベルにおける意味、語構成などにも触れ、その機能を理解していく。 事前学修 2.0hr：語、単語、接辞について調べておく。 事後学修 2.0hr：語、単語、接辞について学んだことをまとめる。	18 回	授業テーマ：文学と文献学 授業内容：主に文学研究の立場から、文献学(フィロロジー)の基礎と応用を紹介する。具体例として、海外の学術誌に掲載された初期近代イギリス詩についての文献学の論文を取り上げる。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。
4 回	授業テーマ：基礎言語学という考え方(統語論) 授業内容：基礎言語学の概念として、統語論の概要を説明していく。ここでは文構造の規則性などを日本語や中国語からその差異を抽出し、説明をしていく。とくに文法的な特徴を見出し理解していく。 事前学修 2.0hr：文の構造と仕組みについて調べておく。 事後学修 2.0hr：文の構造と仕組みについて学んだことをまとめる。	19 回	授業テーマ：ことばとコミュニティ 授業内容：社会言語学のもの見方、考え方の導入講義を行う。<社会>のあらわれを具体例を通して考察する。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。
5 回	授業テーマ：基礎言語学という考え方(意味論及び語用論) 授業内容：基礎言語学の概念として、例文をもとに意味論及び語用論の概要を説明していく。ここでは例文による直接的な意味合いや意味の異なり方なども含め、解釈の差異をみていき、それぞれを分析し理解していく。 事前学修 2.0hr：文の解釈と分析をする。 事後学修 2.0hr：文の解釈と分析したものをまとめる。	20 回	授業テーマ：中国の現代文学 授業内容：現代中国最大の文字の獄である「胡風事件」を取り上げ、あわせて巴金が胡風を追悼した文章「懐念胡風」を読む。文学表現、文学者の営みが、政治に多大な影響を被った例を通して、言語表現のあり方を考える。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。

6 回	<p>授業テーマ：言語学と文学(通時的な文学の生成として、文学史もみていく。) 授業内容：言葉と文学との関連性を説明し、とくに識字率が高かった江戸時代の文学作品に触れ、言葉の流動性により出版が盛んとなり、その文体が口語化されていくことにより、言葉が浸透していくことがらを理解していく。そして通時的な文学の生成過程と文学史をもみていく。 事前学修 2.0hr：文学作品にみえる文体の特徴について調べる。(また文学の生成過程と文学史的なことについても調べる。) 事後学修 2.0hr：その作品の文体の特徴を整理しまとめる。(文学の生成過程を文学史的な関連からもまとめる。)</p>	<p>授業テーマ：通訳・翻訳で留意すべき要点について 授業内容：通訳・翻訳の視点から、日本語の文語・口語表現において、注意すべき点を、複数の分野を例に挙げ、実践を交えて、お話しします。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。</p>
7 回	<p>授業テーマ：言語学と文学(近代にみる文学作品と言葉との関連性・近代文学の主張とジャーナリズムと言論にも言及する。) 授業内容：言葉と近代文学との関連性を説明し、とくに「言文一致体」による文体の成立が、明治時代に興ったことを理解し、この概念が落語、芸能、言葉遊びからの影響であることを説明し、言葉と文体との相関性を理解する。この時代の近代文学の主張とジャーナリズムと言論にも関連性という形で提示する。 事前学修 2.0hr：その時代の単語の特徴について調べる。そして言葉と主張との関連をも同時に考えて調べる。 事後学修 2.0hr：単語の特徴を時代的変遷などを踏まえてまとめる。そして言葉と主張との連動についてもまとめる。</p>	<p>授業テーマ：言葉の意味・用法の変遷 授業内容：言葉の意味と用法は時がたつにつれて変化する。いくつかの語について辞書の記述を検討し、コーパスを用いて用例を観察し、変化の様相を記述する方法について考察する。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。</p>
8 回	<p>授業テーマ：言語学と歴史(植民地下の言語政策＝教育勅語と国語教育) 授業内容：言葉が植民地下において、どのように言語教育としておこなわれてきたのか、その様相を地域(台湾、朝鮮半島、満州、南洋群島)により説明していく。またその教育に当たった人々の言語及び教育研究についても言及する。またその時代のに教育勅語と国語についても提示する。 事前学修 2.0hr：植民地下の言語政策について調べる。(国語教育の実態的なことからも把握する。) 事後学修 2.0hr：植民地下の状況と言葉の政策などを踏まえてまとめる。(国語教育からどのようなことがらが生まれたのかもまとめる。)</p>	<p>授業テーマ：現代中国語語法 授業内容：中国語語法の授業では、まず中国語の誕生、文字の起源、中国語の統語的な特徴、音韻の特徴、意味の特徴(「意合法」)などを概説する。次に、中国語文法研究の具体例としてアスペクト助詞の“了”を取り上げる。中国語の“了”は、日本語のテンス・アスペクト助詞とどのような違いがあるのか、また、“了”の位置や要・不要をめぐって認知言語学からどのように解釈されているのかについて紹介する。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。</p>
9 回	<p>授業テーマ：言語学と歴史(植民地下の文学運動＝母語の復権と表記形態及び表現形態試論の生成) 授業内容：植民地下台湾で行われた言語教育(日本語教育)が、浸透していくことについて、その教育を受けてきた人は、識字率が上がり、自分たちの母語の復権を考えるようになった。その経緯は文学運動へと結びつき、その状況を説明していく。具体的な表記形態及び表現形態試論の生成も提示する。 事前学修 2.0hr：植民地下に興った文学運動について調べる。(表記形態と表現形態についても調べることを含む。) 事後学修 2.0hr：植民地下に興った表現形態についてまとめる。(表記形態と表現形態試論について具体的なことがらをまとめる。)</p>	<p>授業テーマ：日本語教育にいかす第二言語習得論 授業内容：第二言語習得に関する論文を読み、この分野の研究のあり方、論文の書き方について学ぶ。またこれらの先行研究の知見を活かした教室活動や評価などの方法をそれぞれが考え、学生間で相互評価を行う。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。</p>
10 回	<p>授業テーマ：言語学と社会(「マクロ的な視点」と「ミクロ的な視点」の研究) 授業内容：言葉のバリエーションを段階的にみていくものであり、とくに「マクロ的な視点」と「ミクロ的な視点」との分けて、その言語状況を説明し、その社会における言葉との接点を理解していく。 事前学修 2.0hr：言葉と民族、そして言葉のバリエーションについて調べる。「マクロ的な視点」と「ミクロ的な視点」も調べる。 事後学修 2.0hr：言葉と民族、バリエーションの多様性を踏まえてまとめる。(政策的なことや個々人の言語運用についてもまとめる。)</p>	<p>授業テーマ：日本語教育における読解指導 授業内容：母語あるいは第二言語として、人はどのようにテキストを読んでいるのかを学習する。読むとはどのような心の働きによるものなのか、また読みのゴールとは何なのか考え、日本語学習者の読みの特徴、工夫を探っていく。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。</p>
11 回	<p>授業テーマ：言語学と社会(「ことば」と言語権) 授業内容：言葉を勢力拡大の言語と勢力後退の言語とに分け、大言語としての存在と小言語としての言語のありかたをみていき、言葉への権利とその有益な法について説明していく。言語権と言語平等法などを理解していく。 事前学修 2.0hr：民族と言葉との関係性を調べる。 事後学修 2.0hr：民族と言葉との関連性を踏まえてまとめる。</p>	<p>授業テーマ：ジェンダーと言語 授業内容：ジェンダーについて、心理言語学の観点から考察する。複数の言語を比較しながら、「ことば」と「ジェンダー」に関するこれまでの研究の歴史的展開や現在の理論を概説し、最新の研究を紹介する。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。</p>
12 回	<p>授業テーマ：言語学と芸能(「地域とその芸能」＝伊波普猷『おもろさうし』をみる。) 授業内容：ここでは伊波普猷の考え方をもとに、「おもろさうし」などの南島文化を芸能という立場から説明し、その概観を理解していく。またそれ以外にも、祭事、芸能が言葉とどのように関わってきたかを理解していく。 事前学修 2.0hr：言葉と芸能との関連性を調べる。 事後学修 2.0hr：言葉と芸能の意味、言語生活の視点を踏まえてまとめる。</p>	<p>授業テーマ：台湾語研究の視点 授業内容：日本統治時代における台湾語研究の文献を紹介するとともに、その研究史の様相をみていく。とくに統治時代及び戦後初期の研究の生成を捉えていく。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認し、その概要をまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。</p>
13 回	<p>授業テーマ：言語学と芸能(言葉と芸能との関連性として「南島文化」をみる) 授業内容：言葉と芸能の接点を南島文化として捉えていく。ここではその芸能が社会運動を包摂する演劇などを通して、人々が言葉を理解していく様相を説明し、これらの言葉の理解が大眾を巻き込む運動となっていき、文化形成の一助を担っていることを理解する。 事前学修 2.0hr：明治期の言葉と社会運動と言葉との関係性を調べる。(そこには芸能の存在もあることを認識し調べる。) 事後学修 2.0hr：言語生活のなかでの言葉の重みと大眾性を踏まえてまとめる。(大眾を動かすことばの力についても提示しまとめる。)</p>	<p>授業テーマ：近代の日中関係と新語の導入 授業内容：近代の日中関係において、日本への中国留学生や日本書籍の中国語翻訳を通じ、中国社会が新語や新概念を取り入れた過程を追い、歴史が言語に与えた影響を分析します。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認する。それについてまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。</p>
14 回	<p>授業テーマ：言語学と民俗(「三郷巷談」による民俗学の視点を理解する) 授業内容：言葉を民俗学的な視点で捉え、地域における言葉、慣習、風土、祭事などに言及していく。ここでは『三郷巷談』をもとに、その様相を捉え、説明を加えていく。そして言語生活の表情を理解する。 事前学修 2.0hr：近代における言語生活の視点で捉える。 事後学修 2.0hr：口頭芸術の視点を踏まえて言葉との関連性をまとめる。</p>	<p>授業テーマ：朱子学と東アジア 授業内容：朱子学は、中国宋代の朱熹が構築した学問であるが、のちに朝鮮、ベトナム、日本など東アジア全域に広がり、これらの地域に様々な影響を与えてきた。この朱子学と東アジアの関わりについて考えていく。 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認する。それについてまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理し、自分なりの問題意識をもつ。</p>
15 回	<p>授業テーマ：言語学と民俗(「国語学と文学」＝折口学を学ぶ) 授業内容：折口信夫のいう国語学の定義を紐解いていく。ここでは文学作品が、所謂、言語学的な研究の資料となり、その文献研究を進めることによって、現状の研究分野が開花したということを理解していく。 事前学修 2.0hr：民俗誌の資料を基に、その状況を把握し調べる。 事後学修 2.0hr：その資料の状況を基に、論点を整理してまとめる。</p>	<p>授業テーマ：まとめと総括 授業内容：それぞれの授業についての概要を説明する。(授業におけるまとめ) 事前学修 2.0hr：毎回の授業の内容を確認する。それについてまとめる。 事後学修 2.0hr：各先生の講義内容を整理したものを提出する。</p>

日本語教育方法特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

田川 麻央 (たがわ まお)

■ 授業の概要

近年提唱されている日本語の指導法、その指導法を支える理論や研究、指導上留意すべき日本語の特徴について学習する。これにより、「どのような目的で何をどうやって教えるか」だけでなく、「なぜそうすることが重要なのか」を検討する。
指定された文献を読んで内容を整理し、教育活動の効果を高める方法を考える。

■ 到達目標

一般目標：学習者の学習過程と言語習得上の問題点を発見することができる。
学習者に合わせた授業をデザインすることができる。
個別目標：授業で行う活動の役割と意味が説明できる。
学習者に合わせて授業をデザインすることができる。
資料を批判的に読むを提案することができる。

■ 履修条件

発表時には指定された文献以外も調査し、他の人からの質問にも回答できるよう理解を深める。
メンバーの発表に対して質問や意見を述べて授業に貢献する。

■ 評価基準・方法

課題の内容と質 50%、発表 30%、授業への参加度 20%で評価する。

■ フィードバック方法

フィードバックは対面授業、manaba で行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（毎回、クラスメートと議論を行う。発表も担当回に行う。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（manaba を利用する。）

■ 教科書

開講時に指示する。

■ 参考書

小池生夫『応用言語学事典』研究社
サラ・マーサー、ゾルダン・ドルニューイ(2022)『外国語学習者エンゲージメント』アルク
第二言語習得研究会『第二言語としての日本語習得研究』
日本語教育学会『日本語教育』
日本語教育方法研究会『日本語教育方法研究会論文誌』
畑佐 由紀子(2022)『学習者を支援する日本語教育指導法Ⅰ・Ⅱ』くろしお出版

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、次回以降の授業への導入 授業内容：授業の概要、目標、学習の進め方について理解する。日本語教育の方法に関連する研究の動向について解説を聞き、理解する。 事前学修 2.0hr：日本語教育の方法を整理し、長所と短所を考える。 事後学修 2.0hr：コース終了時の自分をイメージして目標を立てる。	16 回	授業テーマ：語彙指導 1 形態素、語と語彙 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
2 回	授業テーマ：文法指導 1 文法項目の難易度、文法の習得 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	17 回	授業テーマ：語彙指導 2 日本語の語彙の特徴 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
3 回	授業テーマ：文法指導 2 文法指導研究 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	18 回	授業テーマ：語彙指導 3 L2 語彙習得に影響する要因、語彙の指導 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
4 回	授業テーマ：文法指導 3 文法の指導 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	19 回	授業テーマ：聴解指導 1 リスニングの過程 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
5 回	授業テーマ：会話指導 1 スピーキング、コミュニケーション能力 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	20 回	授業テーマ：聴解指導 2 聴解能力の習得と指導法 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。

6 回	授業テーマ：会話指導2 スピーキング能力の習得、初級のスピーキング指導 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	21 回	授業テーマ：学習者エンゲージメントと学習者エンゲージメントを取り巻くもの 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
7 回	授業テーマ：会話指導3 中上級のスピーキング指導 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	22 回	授業テーマ：学習者の促進的マインドセット 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
8 回	授業テーマ：作文指導1 書くこと、文章の特徴 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	23 回	授業テーマ：教師と学習者の信頼関係 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
9 回	授業テーマ：作文指導2 書く能力、ライティングの指導 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	24 回	授業テーマ：ポジティブな教室力学と教室文化1 理論的根拠と原則 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
10 回	授業テーマ：作文指導3 習熟度別のライティング指導 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	25 回	授業テーマ：ポジティブな教室力学と教室文化2 教師の行動 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
11 回	授業テーマ：総合学習1 内容中心指導法 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	26 回	授業テーマ：タスク・エンゲージメントの喚起1 タスク・エンゲージメントを喚起する原則 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
12 回	授業テーマ：総合学習2 内容言語統合型学習 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	27 回	授業テーマ：タスク・エンゲージメントの喚起2 教師の行動 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
13 回	授業テーマ：総合学習3 タスク中心指導法 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	28 回	授業テーマ：学習者エンゲージメントの維持1 学習者エンゲージメントを維持する原則 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
14 回	授業テーマ：総合学習4 授業改善の検討、改善の手順 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	29 回	授業テーマ：学習者エンゲージメントの維持2 教師の行動 授業内容：授業テーマに沿って作成したレジュメをもとに発表、質疑、および議論を行ない、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
15 回	授業テーマ：まとめとふり返し 授業内容：これまでの学習内容を振り返り、学びと気づきを整理する。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	30 回	授業テーマ：コースのまとめとふり返し 授業内容：コース全体のまとめを行い、日本語教育の方法に関する学びと気づきを内省する。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。

日本語教育教材特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

片桐 史尚 (かたぎり ふみたか)

■ 授業の概要

授業の前半では、予習してきた項目の確認と、講義形式によりその日のメインテーマを学ぶ。後半は、各自が調べてきたものと講義で学んだ項目の比較検討を行い、それぞれの論について議論形式で意見を述べ合う。このように、体系的に教材論の領域全体を捉えられるよう「理論」と「実践」の方法を学ぶ。また、修士課程 1 年ということもあり、学部時代に学んだことを「総復習」する必要がある、各自において欠落している項目の整理と補強も行っていく。

■ 到達目標

一般目標：さまざまな教科書の分析ができるようになる。
学習者のニーズに合った教科書の選定ができるようになる。
個別目標：各院生の専門に留意しつつ、講義を行う。

■ 履修条件

日本語教員志望者であること。
外国語教育に強く関心のある者。

■ 評価基準・方法

毎回の授業時における課題(授業内容の振り返り及び課題への取り組み)を 60 %とし、テストを 40 %とする。出席は 5 分の 4 以上とする。(欠席については事前に連絡をする。)

■ フィードバック方法

対面、manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ピア・ラーニングを行う。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (適宜、統計、歴史的事実の確認等において使用する。)

■ 教科書

特になし

■ 参考書

岡崎敏雄『日本語教育の教材分析・使用・作成(アルク)』
日本語教育学会編『新版日本語教育事典』(大修館書店)
小林ミナ『よくわかる教授法』(アルク)
三牧陽子『日本語教授法を理解する本 実践編 解説と演習』(バベル・プレス)

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 講義内容の説明 授業内容：コース・デザインの基本的な流れを知ることにより、日本語教師として必要とされる知識や技術の範囲、内容を理解する。また、コース・デザインとニーズの分析の重要性を再認識する。大切なことは、まずコース・デザインについての理解を深め、その重要性について把握することである。また、「ニーズ分析」「目標言語調査」「言語資料分析」「シラバス・デザイン」「カリキュラム・デザイン」を実際の例から学び、各自の受けた授業を思い起こし比較対照する。 事前学修 2.0hr：異なるタイプの日本語の教科書を閲覧しておく。 事後学修 2.0hr：さまざまな日本語学習の動機をまとめる。	16 回	授業テーマ：読解教育 A 1 成績不振の学習者に見られる読解ストラテジーから学ぶこと。 授業内容：1 読解の種類 2 読解ストラテジー 3 読解指導 1 / 授業形態 以上 3 点を学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
2 回	授業テーマ：教材論を体系的に把握する(1)さまざまな学習者への対応 授業内容：コース・デザインの応用的な流れを知ることにより、日本語教師として必要な知識や技術の範囲、内容を理解する。また、コース・デザインとニーズの分析の重要性について各自発表する。具体的な項目としては、まずコース・デザインについての理解を深め、その重要性について把握した上で、「ニーズ分析」「目標言語調査」「言語資料分析」「シラバス・デザイン」「カリキュラム・デザイン」を実際の例から学び、各自の受けた授業と比較対照しまとめる。 事前学修 2.0hr：自らの外国語学習の動機をまとめてくる。 事後学修 2.0hr：教材論の体系的把握の方法を再考すること。	17 回	授業テーマ：読解教育 A 2 成績優秀者の読解ストラテジーのタイプを提示する。 授業内容：1 読解の種類 2 読解ストラテジー 3 読解指導 1 / 授業形態 以上 3 点を学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
3 回	授業テーマ：教材論を体系的に把握する(2)コースデザインを中心に 授業内容：日本語学習者と日本語教育の多様化について論じる。 事前学修 2.0hr：コースデザインについて調べてくる。 事後学修 2.0hr：コースデザインを中心にした場合の方法を再考すること。	18 回	授業テーマ：読解教育 B1 特に、統合的読解指導の重要性について論じる。 授業内容：1 読解の指導 2 / 統合的アプローチ 2 読解指導 3 / 統合的読解指導のプロセス 3 読解の指導 4 / 読解スキルの指導 4 タスクと評価 以上 4 点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
4 回	授業テーマ：言語技能の扱い方 授業内容：1 総合的・統合的扱い 2 総合的学習活動 3 技能(スキル)別扱いと学習活動 以上 3 点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：個別教材について調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	19 回	授業テーマ：読解教育 B2 タスクと評価はいかにあるべきかを論じる。 授業内容：1 読解の指導 2 / 統合的アプローチ 2 読解指導 3 / 統合的読解指導のプロセス 3 読解の指導 4 / 読解スキルの指導 4 タスクと評価 以上 4 点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
5 回	授業テーマ：授業活動 1 自らの教授活動を振り返りながら考察する。 授業内容：1 授業の環境 2 授業活動の流れ 3 初級クラスの授業活動 4 活動中のインターアクション 5 教師の授業技術 以上 5 点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	20 回	授業テーマ：作文教育 1 作文の苦手な学習者の発話に注意する。 授業内容：1 目的指導法 1 / 総合力の養成 2 目的別指導法 2 / ライティング・スキルの養成 以上 2 点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。

6 回	授業テーマ：授業活動2 自らの教授活動で欠落しているものを見出す。 授業内容：1 授業の環境 2 授業活動の流れ 3 初級クラスの授業活動 4 活動中のインターアクション 5 教師の授業技術 以上5点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	21 回	授業テーマ：作文教育2 作文が得意な学習者の発話からみえてくるものをまとめる。 授業内容：3 レベル別指導法1 / 初級の作文指導 4 レベル別指導法2 / 中級の作文指導 以上7点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
7 回	授業テーマ：授業活動3 今後の教授活動に向けて「指針」を示す。 授業内容：1 授業の環境 2 授業活動の流れ 3 初級クラスの授業活動 4 活動中のインターアクション 5 教師の授業技術 以上5点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	22 回	授業テーマ：作文教育3 作文が得意な学習者同士、苦手な学習者同士でピアライティングを行うとどのようなことが起きるか。 授業内容：5 レベル別指導法3 / 上級の作文指導 6 添削と評価 以上2点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
8 回	授業テーマ：教材・教具1 授業内容：1 教材・教具・教育機器の種類と特徴 2 シラバス、カリキュラムと教材・教具 以上2点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	23 回	授業テーマ：語彙教育1 学習者の語彙力と発話力の関係を考察する。 授業内容：1 語彙教育の目的 2 指導法1 / 指導の前提として 以上2点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
9 回	授業テーマ：会話・スピーチ教育1 発話を嫌がる学習者の扱い方 授業内容：1 正確さの練習 2 流暢さの練習 3 スピーチ・スキルの指導 4 フィードバックと評価 以上4点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	24 回	授業テーマ：語彙教育2 自らの語彙力と発話力の関係を内省する。 授業内容：3 指導法2 / 語句の提出法 4 指導法3 / 意味の把握と練習 5 評価 以上3点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
10 回	授業テーマ：会話・スピーチ教育2 「話す」能力の陰になりがちが「聞く」の重要性を認識させる。 授業内容：1 正確さの練習 2 流暢さの練習 3 スピーチ・スキルの指導 4 フィードバックと評価 以上4点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	25 回	授業テーマ：評価1 授業内容：評価のタイプについて学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
11 回	授業テーマ：会話・スピーチ教育3 「発話」に終わらず、「傾聴」を学ばせる方法を加味する。 授業内容：1 正確さの練習 2 流暢さの練習 3 スピーチ・スキルの指導 4 フィードバックと評価 以上4点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	26 回	授業テーマ：評価2 授業内容：評価の方法について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
12 回	授業テーマ：聴解教育1 ディクテーションをとり入れた聴解教育を考える。 授業内容：1 インプットと聴解能力 2 聴解の指導 3 タスクと評価 以上3点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	27 回	授業テーマ：評価3 授業内容：テストの種類について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
13 回	授業テーマ：聴解教育2 メモをとり入れた聴解教育を考える。 授業内容：1 インプットと聴解能力 2 聴解の指導 3 タスクと評価 以上3点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	28 回	授業テーマ：評価4 授業内容：学力テストの形式について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
14 回	授業テーマ：聴解教育3 「聞く」と「書く」の同時作業を授業内で行うための試案を提示する。 授業内容：1 インプットと聴解能力 2 聴解の指導 3 タスクと評価 以上3点について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。	29 回	授業テーマ：評価5 授業内容：学力テストの形式について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：各自がそれまで学んだ項目から2点を選び、まとめたものを発表する。 発表は教師のチェックを受けた上で行う。 事前学修 2.0hr：発表原稿を準備してくる。 事後学修 2.0hr：ピア・ラーニングで指摘されたことをもとに発表原稿を修正する。	30 回	授業テーマ：評価6 授業内容：コース・デザインの評価について学ぶ。 事前学修 2.0hr：授業内容について不明な点を調べてくる。 事後学修 2.0hr：学んだことをまとめる。

日本語教育学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

木山 三佳 (きやま みか)

■ 授業の概要

第二言語習得研究の知見から日本語教育学においてどのような課題があるのかを探る。

■ 到達目標

一般目標：日本語教育学に関わる専門的な知識を得る。

修士論文執筆に向けて、研究領域における先行研究の成果に基づき、自分の研究を位置付けられるようにする。

個別目標：日本語教育に関わる各領域の専門的な知見を説明することができる。

研究と教育実践の結びつきを意識して、先行研究(英文を含む)を探索的に読むことができる。

興味のある分野の参考文献を読み、自分の研究の軸となる研究課題を見つけることができる。

論文を批判的思考に基づき読むことで、論文の執筆方法を理解する。

■ 履修条件

・自らの課題を見出すために、主体的に取り組むこと。

・学部で日本語教育に関する授業を履修しているか、日本語教育能力試験対策レベルの日本語教育に関する知識を得ていることが望ましい。

■ 評価基準・方法

授業課題の提出、授業でのディスカッションへの参加、期末レポートで評価する。

■ フィードバック方法

授業においては、論文の論旨を正確に理解するために、十分にディスカッションを行う。

課題のフィードバックは manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（レジュメを共有する）

■ 教科書

授業内で指示する。

■ 参考書

『日本語教師のための新しい言語習得概論』 小柳かおる スリーイーネットワーク

『詳説第二言語習得研究 理論から研究方法まで』 白畑知彦・若林茂則・村野井仁 著 研究社

『外国語学習での暗示的・明示的知識の役割とは何か』 鈴木渉・佐久間康之・寺澤孝文 編 大修館書店

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

第二言語習得研究の知見を踏まえて、より良い日本語教育を考える。

授業内容

日本語教育にかかわる先行研究を体系的に読んでいく。

事前にレジュメと論文を提示し、授業時間においては批判的思考に基づきディスカッションを行う。

事前学修

テキストを理解する。

各自の研究テーマに沿って、先行研究を収集する。

論文を紹介するためのレジュメを作成する。

論文だけでなく、紹介されている参考文献も読む。

事後学修

授業でのディスカッションを踏まえて、次に読む論文をリスト化する。

英語教育方法特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

ケイコ ナカムラ

■ 授業の概要

Teaching in the English language classroom should reflect a clear understanding of the processes of and factors involved in second language acquisition (SLA). This course closely examines the main theories and developments in the field of SLA and engages students in seeking answers to questions regarding the implications of SLA theory for language classroom practices. We will critically examine theoretical and practical issues of English language education based on current knowledge of second acquisition and classroom research. We will first discuss the influences of second language research on English language education. Then we will explore the acquisition of specific English language skills.

■ 到達目標

一般目標：1. Students will be able to critically examine theoretical and practical issues of English language education.
2. Students will be able to read and understand previous research in second language acquisition focusing on specific English language skills.
3. Students will be able to write a literature review.

個別目標：1. Students will be able to read, understand, and summarize academic papers.
2. Students will be able to form plans independently as a self-motivated scholar and to learn creatively while strengthening their academic foundation.
3. Students will be able to express ideas effectively in both oral and written communication.

■ 履修条件

Students should be interested in English language education.

■ 評価基準・方法

Active class participation in class activities (e.g., article summaries, discussions) 60%; literature review 40%

■ フィードバック方法

Feedback will be provided in class directly and through manaba.

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（Discussions and presentations）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Will use PCs for Word, Powerpoint, and Google Docs）

■ 教科書

Readings will be assigned in class.

■ 参考書

Ellis, R. & Shintani, N. (2014). Exploring language pedagogy through second language acquisition research. Routledge.

Loewen, S. (2025). Introduction to Instructed Second Language Acquisition, 3rd edition, Routledge.

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：Course orientation & Introduction to English language education & second language acquisition research 授業内容：A look at English language education and second language acquisition 事前学修 2.0hr：Preview course syllabus 事後学修 2.0hr：Read text	16 回	授業テーマ：The Acquisition of Pronunciation I 授業内容：Theoretical Concerns (Aspects of pronunciation; Issues in pronunciation acquisition; instruction and pronunciation); Empirical Evidence (Focus of form; Explicit instruction); Pedagogical Implications 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned
2 回	授業テーマ：Introduction to English language education & second language acquisition research II 授業内容：ISLA; SLA Theory; SLA Research Methodology; The effectiveness of L2 instruction 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	17 回	授業テーマ：The Acquisition of Pronunciation II 授業内容：Theoretical Concerns (Aspects of pronunciation; Issues in pronunciation acquisition; instruction and pronunciation); Empirical Evidence (Focus of form; Explicit instruction); Pedagogical Implications; Activities and Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
3 回	授業テーマ：Introduction to English language education & second language acquisition research III 授業内容：ISLA; SLA Theory; SLA Research Methodology; The effectiveness of L2 instruction; Activities and Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	18 回	授業テーマ：The Acquisition of Pragmatics I 授業内容：Theoretical Concerns (Aspects of Pragmatics; Issues of pragmatics acquisition; Instruction and pragmatics acquisition); Empirical Evidence (Explicit instruction); Pedagogical implications 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
4 回	授業テーマ：The nature of second language knowledge I 授業内容：The nature of second language knowledge: Explicit vs. implicit knowledge 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	19 回	授業テーマ：The Acquisition of Pragmatics II 授業内容：Theoretical Concerns (Aspects of Pragmatics; Issues of pragmatics acquisition; Instruction and pragmatics acquisition); Empirical Evidence (Explicit instruction); Pedagogical implications; Activities and Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
5 回	授業テーマ：The nature of second language knowledge II 授業内容：The acquisition of second language knowledge; The measurement of second language knowledge; Empirical evidence: The relationship between instruction & knowledge; Pedagogical implications; Activities and Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	20 回	授業テーマ：Psychological individual differences and Instructed SLA I 授業内容：Theoretical Concerns; Empirical Evidence; Pedagogical Implications; Activities & Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
6 回	授業テーマ：Interaction in the second language classroom I 授業内容：Theoretical Concerns (components of interaction; Variables affecting interaction); Empirical Evidence (Factors affecting interaction; Effects of interaction); Pedagogical Implications 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	21 回	授業テーマ：Psychological individual differences and Instructed SLA II 授業内容：Theoretical Concerns; Empirical Evidence; Pedagogical Implications; Activities & Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.

7 回	授業テーマ：Interaction in the second language classroom II 授業内容：Theoretical Concerns (components of interaction; Variables affecting interaction); Empirical Evidence (Factors affecting interaction; Effects of interaction); Pedagogical Implications; Activities and Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	22 回	授業テーマ：Cognitive individual differences and Instructed SLA I 授業内容：Theoretical Concerns; Empirical Evidence; Pedagogical Implications 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
8 回	授業テーマ：Focus on form in second language learning I 授業内容：Theoretical Concerns (Features of focus on form; Noticing; Negative evidence; Type of focus on form); Empirical Evidence (Occurrence of focus on form; Occurrence of language-related episodes; Effect of focus on form on Noticing; Effects of Focus on Form on L2 acquisition); Pedagogical Implications 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	23 回	授業テーマ：Cognitive individual differences and Instructed SLA II 授業内容：Theoretical Concerns; Empirical Evidence; Pedagogical Implications; Activities & Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
9 回	授業テーマ：Focus on form in second language learning II 授業内容：Theoretical Concerns (Features of focus on form; Noticing; Negative evidence; Type of focus on form); Empirical Evidence (Occurrence of focus on form; Occurrence of language-related episodes; Effect of focus on form on Noticing; Effects of Focus on Form on L2 acquisition); Pedagogical Implications; Activities and Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	24 回	授業テーマ：Social individual differences and Instructed SLA I 授業内容：Theoretical Concerns; Empirical Evidence; Pedagogical Implications 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
10 回	授業テーマ：Sociocultural Theory in the Second Language Classroom I 授業内容：Theoretical Concerns (Vgotskian sociocultural theory); Empirical Evidence (Zone of proximal development; Concept-based instruction); Pedagogical Implications 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	25 回	授業テーマ：Social individual differences and Instructed SLA II 授業内容：Theoretical Concerns; Empirical Evidence; Pedagogical Implications; Activities & Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
11 回	授業テーマ：Sociocultural Theory in the Second Language Classroom II 授業内容：Theoretical Concerns (Vgotskian sociocultural theory); Empirical Evidence (Zone of proximal development; Concept-based instruction); Activities and Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	26 回	授業テーマ：The Research-Pedagogy Link I 授業内容：Current relationship between research and pedagogy; Empirical Evidence; Ideal relationship between research and pedagogy; Evidence-based recommendations 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
12 回	授業テーマ：The Acquisition of Grammar I 授業内容：Theoretical Concerns (Aspects of grammar; Issues of grammar acquisition; Instruction and grammar acquisition); Empirical Evidence (Input-based instruction; Present, Practice, Produce (PPP)); Pedagogical Implications 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	27 回	授業テーマ：The Research-Pedagogy Link II 授業内容：Current relationship between research and pedagogy; Empirical Evidence; Ideal relationship between research and pedagogy; Evidence-based recommendations; Activities & Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
13 回	授業テーマ：The Acquisition of Grammar II 授業内容：Theoretical Concerns (Aspects of grammar; Issues of grammar acquisition; Instruction and grammar acquisition); Empirical Evidence (Input-based instruction; Present, Practice, Produce (PPP)); Activities and Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned (e.g., vocabulary).	28 回	授業テーマ：Literature Review on Selected Topic I 授業内容：Prepare a literature review on a topic of your choice. 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
14 回	授業テーマ：The Acquisition of Vocabulary I 授業内容：Theoretical Concerns (Aspects of vocabulary; Issues in vocabulary acquisition; Instruction and vocabulary acquisition); Empirical Evidence (Incidental exposure; Focus on form; explicit instruction); Pedagogical Implications 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	29 回	授業テーマ：Literature Review on Selected Topic II 授業内容：Prepare a literature review on a topic of your choice. 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review contents from class; summarize what you have learned.
15 回	授業テーマ：The Acquisition of Vocabulary II 授業内容：Theoretical Concerns (Aspects of vocabulary; Issues in vocabulary acquisition; Instruction and vocabulary acquisition); Empirical Evidence (Incidental exposure; Focus on form; explicit instruction); Pedagogical Implications; Activities and Discussion Questions 事前学修 2.0hr：Read text in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review materials from class; summarize what you have learned.	30 回	授業テーマ：Literature Review on Selected Topic III 授業内容：Present your literature review on a topic of your choice. 事前学修 2.0hr：Prepare for literature review presentation 事後学修 2.0hr：Reflect on what you have learned from the course.

英語教育教材特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

平井 清子 (ひらい せいこ)

■ 授業の概要

本講義では、英語教育の教材開発に対して理論的側面・実践的側面の両面からアプローチをする。まず、教材開発の理論について深く理解する。次に実践的側面としては、学んだ理論的側面を踏まえて、実際に教材・テストを作成する。受講生は、それぞれの文脈に応じたタスク・テストの開発を行い、それを実際に検討する。

■ 到達目標

一般目標：英語教育の教材開発に対して理解を深める。

教材開発の理論的側面についての基礎的知識を習得する。

教材開発の理論的側面を踏まえた、教材開発ができるようになる。

個別目標：英語教育の教材開発に対する知見を学び、教室における指導にその知見を生かすことができる。

■ 履修条件

日本の英語教育に関心があること。

■ 評価基準・方法

授業への積極的な参加・プレゼンテーション(40%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)

■ フィードバック方法

フィードバックは授業内で適宜行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（予備学習で学生が主体的に問題を発見し、授業では他者との対話や協働を通して理解を深める）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（資料検索・収集をはじめ、資料の配布などにも使用の予定）

■ 教科書

投野由紀夫・根岸雅史(2020)『教材・テスト作成のための CEFR-J リソースブック』大修館書店。

もう一冊のテキストについては授業中に提示する。

■ 参考書

授業中に提示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：Course Introduction 授業内容：この授業の計画、受講上の注意や評価基準などを説明する。 事前学修 0.5hr：シラバスを読み、授業内容や授業方針を把握する。 事後学修 1.0hr：この授業で特に学びたいことについて考えておく。教科書や参考文献に目を通す。	16 回	授業テーマ：CEFR-J の基礎知識 授業内容：CEFR を用いた教材作成の基礎を学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
2 回	授業テーマ：英語教育における教材開発とは 授業内容：英語教材の基礎を学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	17 回	授業テーマ：CEFR-J の基礎知識 授業内容：CEFR を用いた教材作成の基礎を学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
3 回	授業テーマ：Language Materials Design: Approaches and Principles 授業内容：言語教材のデザインをグローバル教育の概要とともに学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	18 回	授業テーマ：CEFR-J の基礎知識 授業内容：CEFR を用いた教材作成の基礎を学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
4 回	授業テーマ：Language Materials Design: Approaches and Principles 授業内容：言語教材のデザインをグローバル教育の概要とともに学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	19 回	授業テーマ：CEFR-J RLD（参照レベル記述）プロジェクトの概要 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
5 回	授業テーマ：Materials Development for EFL Learners 授業内容：日本の EFL 学習者のための教材開発を歴史的にみる 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	20 回	授業テーマ：CEFR-J RLD（参照レベル記述）プロジェクトの概要 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
6 回	授業テーマ：Materials Development for EFL Learners 授業内容：教材開発の基盤となる理念などを学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	21 回	授業テーマ：CEFR-J RLD（参照レベル記述）プロジェクトの概要 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
7 回	授業テーマ：Online Learning Materials in English Education 授業内容：オンライン教材の基礎を学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	22 回	授業テーマ：CEFR-J RLD（参照レベル記述）プロジェクトの概要 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
8 回	授業テーマ：Online Learning Materials in English Education 授業内容：オンライン教材構築の実際を学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	23 回	授業テーマ：CEFR-J RLD 資料に基づく指導・教材作成 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
9 回	授業テーマ：Instructional Materials for Problem-Solving Skills Development 授業内容：課題解決能力育成のための教材開発の基礎を学ぶ。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	24 回	授業テーマ：CEFR-J RLD 資料に基づく指導・教材作成 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
10 回	授業テーマ：Instructional Materials for Problem-Solving Skills Development 授業内容：課題解決能力育成のための教材開発の実践を検討する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	25 回	授業テーマ：CEFR-J RLD 資料に基づく指導・教材作成 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
11 回	授業テーマ：ICT in English Language Education 授業内容：コロナ時代の ICT を考える。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	26 回	授業テーマ：CEFR-J に基づくテスト・タスク作成 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。

12 回	授業テーマ：ICT in English Language Education 授業内容：ポストコロナ ICT 教育を検討する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	27 回	授業テーマ：CEFR-J に基づくテスト・タスク作成 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
13 回	授業テーマ：Studies in English Language Textbooks 授業内容：教科書の意味を検討する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	28 回	授業テーマ：CEFR-J に基づくテスト・タスク作成 授業内容：実際に教材を作成する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 2.0hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。
14 回	授業テーマ：Studies in English Language Textbooks 授業内容：DIY 教科書を検討する。 事前学修 2.0hr：指定された文献の該当箇所を読み、疑問点を書いておく。 事後学修 1.5hr：授業のポイントを各自でまとめておく。課題に取り組む。	29 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：教材とテストの作成の振り返り 事前学修 1.0hr：1年間の学びを振り返る。 事後学修 1.0hr：1年間の学びを振り返る。
15 回	授業テーマ：First Semester Overview 授業内容：前期のまとめをする。 事前学修 2.0hr：前期の学びを振り返る。 事後学修 1.5hr：前期の学びを振り返る。	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：教材とテストの作成の振り返り 事前学修 1.0hr：1年間の学びを振り返る。 事後学修 1.0hr：1年間の学びを振り返る。

中国語教育方法特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

小川 唯 (おがわ ゆい)

■ 授業の概要

中国語教育研究の文献を読み、中国語教育の基本的な言語知識と教育方法を学びます。また、関連資料を調査し、テーマ別の模擬授業を経験することにより、日本における中国語教育の歴史的な背景や教授法の特徴、学習者が抱える課題を理解します。

■ 到達目標

- 一般目標：日本における中国語教育の背景や教授法の特徴を理解する。
中国語教育研究に関する基本的な用語や課題を理解する。
中国語教材の目標や構成をよく理解し、効果的な教育方法を考え、実践することができる。
- 個別目標：①中国語教育研究の文献を読んで理解する。
②目的に合わせ、教育方法を選び、実践できる。
③広い視野で、中国語教育の概要について説明することができる。

■ 履修条件

漢語水平考試 (HSK) 5 級レベルの中国語を習得していること。

■ 評価基準・方法

提出物(レジュメ等) 20 %、レポート 20 %、模擬授業 30 %、討論や課題に対する理解度・積極性 30 %により評価します。

■ フィードバック方法

講義における議論および解説、模擬授業に対するコメントによりフィードバックを行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (議論・模擬授業)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (Word・PowerPoint 資料の作成)

■ 教科書

講義中に指示します。

■ 参考書

高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)

財団法人国際文化フォーラム『外国語学習のめやす—高等学校の中国語と韓国語教育からの提言—』(2012)

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：講義の概要を紹介し、分担発表の詳細を決めます。日本における中国語教育の歴史的展開について理解します。 事前学修 2.0hr：外国語教育における中国語教育の特徴を考えてくる。 事後学修 2.0hr：講義の要点をまとめ、教科書の構成や概要を把握する。	16 回	授業テーマ：文献講読(8)教授法とシラバス 授業内容：文献を読み、外国語教授法とシラバスの構成について種類や特徴を把握します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。教授法の用語を調べておく。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。
2 回	授業テーマ：教材探索(1)教科書、専門誌 授業内容：中国語の教材の種類・対象・目的について理解を深めます。 事前学修 2.0hr：中国語学習用の著名な教科書、専門誌を調査する。 事後学修 2.0hr：中国語学習教材一覧を作成する。	17 回	授業テーマ：文献講読(9)中国語教育における外国語教授法：文法訳読法 授業内容：文献を読み、中国語教育に用いられる文法訳読法とその特徴や課題について把握します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者はレジュメを準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。
3 回	授業テーマ：教材探索(2)視聴覚教材、インターネット 授業内容：中国語の視聴覚教材についての種類・対象・目的について理解を深めます。 事前学修 2.0hr：中国語学習用の著名なアプリケーション、ウェブサイトを調査する。 事後学修 2.0hr：中国語学習教材一覧を更新する。	18 回	授業テーマ：文献講読(10)中国語教育における外国語教授法：オーディオ・リンガル・メソッド 授業内容：文献を読み、中国語教育に用いられるオーディオ・リンガル・メソッドとその特徴や課題について把握します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者はレジュメを準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。
4 回	授業テーマ：文献講読(1)中国語とは 授業内容：文献を読み、中国語の言語的特徴について理解を深めます。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者はレジュメを準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。	19 回	授業テーマ：文献講読(11)中国語教育における外国語教授法：コミュニケーション・アプローチ 授業内容：文献を読み、中国語教育に用いられるコミュニケーション・アプローチについて概要を理解します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者はレジュメを準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。
5 回	授業テーマ：文献講読(2)日本の中国語教育 授業内容：文献および学習指導要領(外国語)を読み、日本における中国語教育の特徴について理解を深めます。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者はレジュメを準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。	20 回	授業テーマ：文献講読(12)教室活動 授業内容：文献を読み、様々な教授法を用いた教室活動について概要を理解します。文献で紹介されている教室活動の指導案を作成し、課題と改善点を議論します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。指導案を作成する教室活動を選んでおく。 事後学修 2.0hr：議論を振り返り、指導案を修正する。
6 回	授業テーマ：文献講読(3)中国の外国人向け中国語教育 授業内容：文献を読み、中国における外国人向けの中国語教育について理解を深めます。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者はレジュメを準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。	21 回	授業テーマ：文献講読(13)発話・コミュニケーション 授業内容：文献を読み、学習者の発話や相互のコミュニケーションを促す方法について概要を理解します。ロールプレイにより、文献で紹介されている方法を実践し、効果と課題について議論します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。教授法の用語を調べておく。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。
7 回	授業テーマ：文献講読(4)発音指導 授業内容：文献を読み、中国語の発音指導の概要について理解を深めます。また、指導案をもとにその効果について考察します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者は発音指導の指導案を準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。	22 回	授業テーマ：文献講読(14)音読 授業内容：文献を読み、教室で音読を行う利点や留意点について概要を理解します。ロールプレイにより、文献で紹介されている方法を実践し、効果と課題について議論します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。教材の音読を練習する。 事後学修 2.0hr：模擬授業を振り返り、改善点をまとめる。

8 回	授業テーマ：文献講読(5)筆記指導 授業内容：文献を読み、中国語の筆記指導の概要について理解を深めます。また、指導案をもとにその効果について考察します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者は筆記指導の指導案を準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。	23 回	授業テーマ：模擬授業(3)発音指導と教室活動 授業内容：指定された教科書の単元に沿って、担当者が発音指導と教室活動を取り入れた45分の模擬授業を行います。また、受講者全員が模擬授業へのフィードバックを行います。 事前学修 3.0hr：教科書の該当単元より前の内容を把握する。担当者は指導案を作成し、模擬授業のリハーサルを行う。 事後学修 2.0hr：議論を振り返り、単元の要点を復習する。担当者は修正した指導案を提出する。
9 回	授業テーマ：文献講読(6)語彙指導 授業内容：文献を読み、中国語の語彙指導の概要について理解を深めます。また、指導案をもとにその効果について考察します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者は語彙指導の指導案を準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。	24 回	授業テーマ：模擬授業(4)文法指導と教室活動 授業内容：指定された教科書の単元に沿って、担当者が文法指導と教室活動を取り入れた45分の模擬授業を行います。また、受講者全員が模擬授業へのフィードバックを行います。 事前学修 3.0hr：教科書の該当単元より前の内容を把握する。担当者は指導案を作成し、模擬授業のリハーサルを行う。 事後学修 2.0hr：議論を振り返り、単元の要点を復習する。担当者は修正した指導案を提出する。
10 回	授業テーマ：文献講読(7)文法指導 授業内容：文献を読み、中国語の文法指導の概要について理解を深めます。また、指導案をもとにその効果について考察します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者は文法指導の指導案を準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。	25 回	授業テーマ：模擬授業(5)試験対策と教室活動 授業内容：指定された教科書の単元に沿って、担当者が試験対策と教室活動を取り入れた45分の模擬授業を行います。また、受講者全員が模擬授業へのフィードバックを行います。 事前学修 3.0hr：教科書の試験範囲を把握する。担当者は指導案を作成し、模擬授業のリハーサルを行う。 事後学修 2.0hr：議論を振り返り、単元の要点を復習する。担当者は修正した指導案を提出する。
11 回	授業テーマ：総合討論：技能の習得と評価 授業内容：習得した四技能の評価方法について概説し、適切な評価の在り方について議論します。 事前学修 2.0hr：中国語の検定試験を調べ、問題形式と評価基準を把握する。 事後学修 2.0hr：議論を振り返り、中国語教育の課題と解決方法を考える。	26 回	授業テーマ：文献講読(15)動機づけ・フィードバック 授業内容：文献を読み、学習者への動機づけやフィードバックについて概要を理解し、具体的な場面での適切な声掛けや添削などの方法について議論します。 事前学修 2.0hr：文献の該当部分を読む。担当者はレジュメを準備する。 事後学修 2.0hr：文献の内容を復習する。
12 回	授業テーマ：中国語学習指導のガイドライン 授業内容：日本における中国語学習指導のガイドライン制定の動向について理解します。 事前学修 2.0hr：資料を読む。 事後学修 2.0hr：授業を振り返り、要点をまとめる。	27 回	授業テーマ：文献講読(16)ICTの活用と課題：自主学习 授業内容：論文を読み、中国語教育における自主学习の支援としてICTを活用した事例や課題について理解します。 事前学修 2.0hr：論文を読む。担当者はレジュメを準備する。 事後学修 2.0hr：中国語学習に効果的だと考えるICT活用事例を記録する。
13 回	授業テーマ：中国語背景を持つ子どもの指導 授業内容：日本における中国語背景を持つ子どもの指導の動向について理解します。 事前学修 2.0hr：文部科学省のデータ「日本語指導が必要な児童生徒」を調べる。 事後学修 2.0hr：授業を振り返り、要点をまとめる。	28 回	授業テーマ：文献講読(17)ICTの活用と課題：オンライン授業 授業内容：論文を読み、中国語教育のオンライン授業にICTを活用した事例や課題について理解します。 事前学修 2.0hr：論文を読む。担当者はレジュメを準備する。 事後学修 2.0hr：中国語学習に効果的だと考えるICT活用事例を記録する。
14 回	授業テーマ：模擬授業(1)中国語学習の導入：中国語 授業内容：学習者の中国語への関心を高めることを目標とし、中国語学習の導入部分について模擬授業を行います。 事前学修 3.0hr：中国語初心者に向けた中国語学習導入の動画や教科書を参照し、模擬授業を準備する。 事後学修 3.0hr：模擬授業を振り返り、改善点をまとめる。	29 回	授業テーマ：教材探索(3)分野別教材 授業内容：中級学習者やビジネス・趣味に特化した教科書や辞書を調査し、適切な教授法と指導案について議論します。 事前学修 2.0hr：学習者や専門分野を限定した中国語教材を調査する。 事後学修 2.0hr：中国語学習教材一覧を更新して提出する。
15 回	授業テーマ：模擬授業(2)中国語学習の導入：中国文化 授業内容：学習者の中国語圏の文化やビジネスへの関心を高めることを目標とし、中国語学習の導入部分について模擬授業を行います。 事前学修 3.0hr：中国語初心者に向けた中国語学習導入の動画や教科書を参照し、模擬授業を準備する。 事後学修 3.0hr：模擬授業を振り返り、改善点をまとめる。	30 回	授業テーマ：総復習、総合討論 授業内容：中国語教育の背景や目的、様々な教授法および模擬授業における運用について振り返り、利点や課題を整理します。 事前学修 3.0hr：講義と模擬授業を振り返り、レポートをまとめる。 事後学修 2.0hr：議論を振り返り、レポートを修正する。

言語教育評価特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

田川 麻央 (たがわ まお)

■ 授業の概要

本授業では、言語教育における評価を概観し、特に日本語教育を中心に、CEFR および日本語教育参照枠の理念に基づいて「行動中心アプローチ」の観点から学習者の言語能力を多面的に捉える方法を検討する。文献講読・発表・討論を通して理論的理解と実践的設計能力の養成を目指す。

■ 到達目標

一般目標：日本語教育における評価の理論と方法を理解し、教育実践および研究において適切な評価を設計・検討できる能力を養う。

個別目標：(1) CEFR および日本語教育参照枠に基づく評価観を説明できる。
(2) 言語テストの妥当性・信頼性・有用性を批判的に検討できる。
(3) パフォーマンス評価・自己評価を設計できる。
(4) 学習成果アセスメントを計画・分析できる。
(5) 能力テスト・プレースメントの理論と運用を理解できる。
(6) 教育実践および研究において適切な評価方法を提案できる。

■ 履修条件

発表時には指定された文献以外も調査し、他の人からの質問にも回答できるよう理解を深める。
メンバーの発表に対して質問や意見を述べて授業に貢献する。

■ 評価基準・方法

発表 50 %、レポート 40 %、授業参加度 10 %

■ フィードバック方法

対面授業で行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（グループワーク、調査、分析、発表、討論など多数ある。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（資料の閲覧、課題の提出、資料作成等で PC を利用する。）

■ 教科書

資料を配布する。

■ 参考書

近藤ブラウン妃美 (2012) 『日本語教師のための評価入門』 ころしお出版

文化庁 (2021) 『日本語教育参照枠 報告』

Bachman, L. & Palmer, A. (2010). Language Assessment in Practice.

Brown, H. D. & Abeywickrama, P. (2019). Language Assessment.

Council of Europe(2020) Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment — Companion volume. Council of Europe Publishing.

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、評価観 授業内容：ガイダンスを聞いて授業の進め方を学習する。評価とは評価とは何か、および CEFR・日本語教育参照枠における評価観に関する講義・討論を行う。 事前学修 2.0hr：評価にかかわる既有知識をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	16 回	授業テーマ：プログラム評価の理念と方法 授業内容：教育プログラム評価の理念と方法について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
2 回	授業テーマ：診断・形成・総括的評価 授業内容：診断的評価・形成的評価・総括的評価の概念と教育的機能について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	17 回	授業テーマ：学習成果アセスメントの設計 授業内容：学習成果アセスメントの設計と実施について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
3 回	授業テーマ：目標基準準拠と集団基準準拠 授業内容：目標基準準拠評価と集団基準準拠評価の特徴および Can-do 評価との関係について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	18 回	授業テーマ：直接評価 授業内容：直接的評価(作文・パフォーマンス評価等)の方法について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
4 回	授業テーマ：妥当性・信頼性・有用性 授業内容：言語テストの妥当性・信頼性・有用性の概念と測定上の課題について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	19 回	授業テーマ：間接評価 授業内容：間接的評価(アンケート・自己報告等)の方法と活用について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
5 回	授業テーマ：構成概念としてのコミュニケーション能力 授業内容：コミュニケーション能力の構成概念と CEFR における能力観について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	20 回	授業テーマ：事例研究と実践上の課題 授業内容：について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。

6 回	授業テーマ：シラバス・目標・評価の整合性 授業内容：シラバス・学習目標・評価の整合性(Constructive Alignment)について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	21 回	授業テーマ：能力(熟達度)テストの概念 授業内容：学習成果アセスメントの事例研究と実践上の課題について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
7 回	授業テーマ：到達度テストの設計 授業内容：到達度テストの設計原理およびクラス内評価への応用について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	22 回	授業テーマ：ACTFL 基準と OPI 授業内容：ACTFL 言語能力基準および OPI の概要について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
8 回	授業テーマ：出題形式と測定対象 授業内容：テストの出題形式と測定対象の関係について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	23 回	授業テーマ：OPI の妥当性・信頼性 授業内容：OPI の妥当性・信頼性に関する研究と評価上の課題について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
9 回	授業テーマ：口頭パフォーマンス評価 授業内容：口頭パフォーマンス評価およびタスク遂行能力の評価方法について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	24 回	授業テーマ：読解・聴解能力の評価 授業内容：読解力・聴解力の評価方法と能力記述について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
10 回	授業テーマ：評定尺度とルーブリック 授業内容：評定尺度およびルーブリック作成の原理と運用について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	25 回	授業テーマ：CEFR と日本語能力評価 授業内容：CEFR と日本語能力評価の対応関係について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
11 回	授業テーマ：評定者訓練と採点の一貫性 授業内容：評定者訓練と採点の一貫性確保について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	26 回	授業テーマ：プレースメント・テストの設計 授業内容：プレースメント・テストの目的と設計方法について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
12 回	授業テーマ：自己評価・相互評価 授業内容：自己評価および相互評価の方法と CEFR の自己評価表について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	27 回	授業テーマ：項目応答理論 授業内容：項目応答理論(IRT)の基礎概念と評価への応用について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
13 回	授業テーマ：項目品質分析の基礎 授業内容：テスト項目の品質分析の基礎概念と方法について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	28 回	授業テーマ：年少者対象プログラムの評価 授業内容：年少者対象日本語プログラムにおける評価方法と課題について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
14 回	授業テーマ：テスト結果の解釈と改善 授業内容：テスト結果の解釈および評価改善への活用について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	29 回	授業テーマ：教師教育・教育実習における評価 授業内容：教師教育および教育実習における評価について討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。
15 回	授業テーマ：前学期の総括討論 授業内容：前学期の内容の総括および発表と討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。	30 回	授業テーマ：総括的討論 授業内容：これまでの内容の総括および発表と討論を行う。 事前学修 2.0hr：指定の資料を読んで疑問点をまとめる。担当となった場合は、発表準備を進める。 事後学修 2.0hr：授業中の質疑・討論を踏まえ、自分自身の意見をまとめる。関連文献を調べて読む。

一般言語学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

嶋田 珠巳 (しまだ たまみ)

■ 授業の概要

言語学の基礎的知識と考え方を養成する。その過程において、ひろく言語学および応用言語学分野で修士論文に取りかかるための、思考力、読解力、理解力、批判的考察、調査、発表をふくめた、「研究基礎力」を養成する。

■ 到達目標

一般目標：言語学の考え方や研究諸分野の知識を身につける。

個別目標：(1)基本となる概念について理解し、例をあげて説明することができる。

(2)教科書の記述と授業内容を手がかりに、関連した文献を見つけ、内容を検討することができる。

(3)修士論文にとりかかるための研究基礎力を養う。

■ 履修条件

主体的に取り組む気持ちのあること。基礎的な英語力のあること。

教科書にとどまらず、その他の文献に積極的にあたり、クラス全体で理解を深める気持ちのあること。

■ 評価基準・方法

評価基準：到達目標の 1～4 ができているか、あるいはその到達度。

方法：授業への取り組み 70%、試験 30%。

■ フィードバック方法

授業内で質問などへのフィードバックを全体に対して行う。

試験等に関するフィードバックは希望者に面談にて応じる。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（授業内で発言することが求められる。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし

■ 教科書

H.G.Widdowson (1996) Linguistics. Oxford University Press.

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

言語とはなにか。どのようにして観察し、分析することが可能か。

授業内容

言語学の基礎知識をテキストを通してひとつひとつ解説する。とくに重要な概念をめぐってはさらに文献にあたり、理解および考察を深める。

言語の性質、言語学の諸分野、分析方法、その後、言語学の各論(音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論)とすすめていく。

より深い理解に積極的な質問と考えのやりとりは欠かせない。それぞれが自分の研究テーマに取り組むこともおのずと求められる。

事前学修

教科書を読んでおく。その日の授業内容について自分のやりかたで準備をしておく。

事後学修

必要な概念を整理する、議論をまとめるなど、学修内容を自分の研究に役立てる。

異文化コミュニケーション特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

鍛治 広真 (かじ ひろみ)

■ 授業の概要

この授業では言語と文化、文化とコミュニケーションの関係について学ぶ。コミュニケーションを分析するための基本的な概念を学び、主に日本語のコミュニケーションの具体的な特徴を中心に考察する。受講者は日本語以外の言語を用いる場合にはどのような違いがあるかを考えながら講義に参加してほしい。

■ 到達目標

一般目標：言語を用いたコミュニケーションの特徴について学習し、文化と言語、コミュニケーションの関連性を考察する

- 個別目標：(1) コミュニケーション学の基本的な概念を理解する
(2) 文化と言語にどのような関係があるかを考察する
(3) 日本語におけるコミュニケーションの特徴を理解する

■ 履修条件

履修の条件は設けない

■ 評価基準・方法

授業への取り組み 50%(発表、ディスカッションなど)、レポート 50%

■ フィードバック方法

課題等に対するフィードバックは授業および manaba を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（グループワーク、ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし

■ 教科書

滝浦真人・大橋理枝『日本語とコミュニケーション』放送大学教育振興会

■ 参考書

授業内に適宜紹介する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：コミュニケーションのモデル 授業内容：対人コミュニケーションを分析するためのモデルについて学ぶ 事前学修 1.0hr：シラバスを読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	16 回	授業テーマ：敬語のコミュニケーション 授業内容：コミュニケーションにおける敬語の機能を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
2 回	授業テーマ：コミュニケーションの種類 授業内容：コミュニケーションを 4 つの分類を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	17 回	授業テーマ：敬語の分類と働き 授業内容：日本語の敬語の種類と機能を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
3 回	授業テーマ：コミュニケーションの普遍と特殊 授業内容：コミュニケーションの普遍的側面と個別文化の特徴があることを学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	18 回	授業テーマ：スピーチと対人コミュニケーションのちがひ 授業内容：対人コミュニケーションとスピーチのコミュニケーションの違いを学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
4 回	授業テーマ：日本語のコミュニケーション 授業内容：日本語のコミュニケーションにおける文化的特徴について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	19 回	授業テーマ：スピーチとレトリック 授業内容：スピーチで用いられるレトリックの特徴および、高コンテクストコミュニケーションと低コンテクストコミュニケーションについて学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
5 回	授業テーマ：言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 授業内容：コミュニケーションにおける言語・非言語の区別と特徴について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	20 回	授業テーマ：レトリック表現と認識 授業内容：レトリック表現と人間の認知活動の関係を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
6 回	授業テーマ：日本語文化圏で使われる非言語メッセージ 授業内容：日本語コミュニケーションにおいて使われる非言語コミュニケーションの特徴を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	21 回	授業テーマ：比喩のコミュニケーション論的意味 授業内容：レトリック表現のコミュニケーションにおける機能について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
7 回	授業テーマ：言語と非言語の境界 授業内容：言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの境界に位置するコミュニケーション行為について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	22 回	授業テーマ：日本語のレトリック 授業内容：日本語的なレトリックにどのようなものがあるか学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
8 回	授業テーマ：あいさつのコミュニケーション論的機能 授業内容：あいさつ言葉の様々な意味から、コミュニケーションにおけるあいさつの機能について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	23 回	授業テーマ：オノマトペと日本語 授業内容：日本語で多く用いられるオノマトペの特徴を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
9 回	授業テーマ：言葉と対人関係 授業内容：心理的・社会的な対人的距離感と言葉の関係を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	24 回	授業テーマ：公共圏のコミュニケーション 授業内容：公共圏という場の性質とそこでのコミュニケーションの特徴を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
10 回	授業テーマ：協調の原理 授業内容：会話の理論としての「協調の原理」について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	25 回	授業テーマ：多言語揭示 授業内容：多言語揭示の意義と難しさについて学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理

11 回	授業テーマ：ポライトネス理論 授業内容：ポライトネス理論と言語行為について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	26 回	授業テーマ：異文化間のコミュニケーション 授業内容：文化の定義と異文化間のコミュニケーションについて学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
12 回	授業テーマ：依頼と勧誘 授業内容：言語行為としての依頼・勧誘の特徴を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	27 回	授業テーマ：文化の機能 授業内容：文化のモデル、文化の機能について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
13 回	授業テーマ：感謝と謝罪のポライトネス 授業内容：感謝と謝罪をポライトネスの観点から考察し、文化的意味を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	28 回	授業テーマ：文化と言語の関係 授業内容：文化と言語の関係、言語相対論について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
14 回	授業テーマ：対人関係のマネージメント 授業内容：コミュニケーションと対人関係構築、展開について学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	29 回	授業テーマ：日本語の変化とコミュニケーション 授業内容：日本語の「変化」「乱れ」とコミュニケーションの変化を学ぶ 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
15 回	授業テーマ：前期のまとめと振り返り 授業内容：前期の学習内容を振り返る 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	30 回	授業テーマ：後期のまとめとふりかえり 授業内容：後期の学習内容を振り返る 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理

言語心理学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

ケイコ ナカムラ

■ 授業の概要

This course will examine the psychology of language as it relates to learning, mind, and brain, as well as to society and culture. How do we learn to speak and understand language? Is language unique to humans? How do we read and write? How do we learn new words? We will explore key issues in the multidisciplinary field of psycholinguistics, such as how children learn to speak, understand and read their first language, second and foreign language acquisition, bilingualism, and the relationship between language, thought and culture.

■ 到達目標

一般目標：In this course, we will learn about psycholinguistics, establishing an understanding of the processes underlying language and examining language as a product of the human mind, from a crosslinguistic and crosscultural perspective. In addition, we will explore a variety of related topics in psychology, to deepen our understanding of the human mind.

個別目標：The goals of this course are:

1. To learn about the psychology of language, and understand current debates and controversies in this field.
2. To develop critical thinking skills and the ability to conduct research (e.g. reading research articles, synthesizing material, analyzing data).
3. To learn how to do both academic writing and oral presentations effectively.

■ 履修条件

To actively participate in class activities (e.g., discussions, debates, projects) and learn about issues pertaining to language, thought, and mind. Both English and Japanese will be used in the class.

■ 評価基準・方法

Active participation in class activities, such as discussions, debates and mini-presentations (40%), research paper (30%), presentations (30%).

■ フィードバック方法

Feedback of assignments, reports, and presentations will be conducted through manaba and face-to-face in class.

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（Group discussions, debates, group projects）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Will use PCs for Word, PowerPoint, Excel & research）

■ 教科書

Readings will be distributed in class. Some of the readings will come from: Steinberg, D. D. & Sciarini N. V. (2006). An Introduction to Psycholinguistics (2nd edition), Pearson/Longman（和訳：心理言語学への招待 ダニエル・スタインバーグ著）Readings will be available in both English and Japanese.

■ 参考書

Supplementary texts/readings will be distributed accordingly from sources including:

西原哲夫編 (2017) 『心理言語学』朝倉書店

福田由紀編 (2012) 『言語心理学入門』培風館

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：Course orientation & Introduction to Psycholinguistics 授業内容：Self-introductions & student questionnaire; Lecture "An introduction to psycholinguistics" 事前学修 0.5hr：Preview course syllabus 事後学修 2.0hr：Read text "Animals and Language Learning"（動物とことば）	16 回	授業テーマ：Second/Foreign Language Acquisition I 授業内容：Lecture & discussion on second language learning Part I: Basic psychological factors in L2 acquisition, such as memory, motivation, intellectual processing. Activity: Learning a foreign language. 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
2 回	授業テーマ：Animal Communication I 授業内容：Lecture & discussion on "Animal Communication, Part I". Watch first half of video "Animals Like Us: Animal Language." 事前学修 2.0hr：Read text in advance 事後学修 2.0hr：Review text & do assignment (video worksheet)	17 回	授業テーマ：Second/Foreign Language Acquisition II 授業内容：Lecture & discussion of second language learning Part II: Basic social factors in L2 acquisition, such as home, classroom, community; comparison of L2 learning in children and adults. 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
3 回	授業テーマ：Animal Communication II 授業内容：Lecture & discussion on "Animal Communication, Part II". Watch second half of video "Animals Like Us: Animal Language" and complete video worksheet. 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & start preparing for animal communication presentations	18 回	授業テーマ：Second/Foreign Language Acquisition III 授業内容：Lecture & discussion on second-language teaching methods, such as grammar-translation, audiolingual, communicative language teaching. Activity: Second Language Teaching Methods. 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & prepare for presentations on L2/Foreign Language Acquisition
4 回	授業テーマ：Animal Communication III 授業内容：Lecture & discussion on "Animal Communication, Part III". Watch video clips on different forms of animal communication (e.g., monkeys, apes, dolphins, whales, birds) and discuss. 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Prepare for animal communication presentations (e.g., gather materials, prepare powerpoint)	19 回	授業テーマ：Second/Foreign Language Acquisition Presentations 授業内容：Read and present an article on second language acquisition. Summarize and critique. 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
5 回	授業テーマ：Animal Communication Presentations 授業内容：Animal communication presentations. Students must prepare questions to ask the class for an interactive discussion following each presentation. 事前学修 2.0hr：Prepare for animal communication presentations 事後学修 2.0hr：Reflect on animal communication presentations	20 回	授業テーマ：An Introduction to Psychology 授業内容：Lecture: An introduction to psychology. A discussion of the various fields of psychology: cognitive, developmental, clinical, social, personality, psychobiology, neuropsychology. Read the table of contents of 40 Studies that Changed Psychology. Instructor will do one or two model presentations showing how to present (e.g., organization, powerpoint). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read through book & find an interesting text

6 回	授業テーマ：Child Language Development I 授業内容：Lecture & discussion on "Child Language Development, Part I". Discuss basic principles of language development & theories of language acquisition (e.g., behaviorist & psycholinguistic approaches) 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & do assignment	21 回	授業テーマ：40 Studies that Changed Psychology 授業内容：Model presentations on Human Interaction & Social Behavior: (1) The power of conformity (Asch); (2) To help or not to help (Darley & Latane). 事前学修 2.0hr：Select text & read 事後学修 2.0hr：Continue reading text
7 回	授業テーマ：Child Language Development II 授業内容：Lecture & discussion on "Child Language Development, Part II". Discuss stages of language acquisition and watch video clips on different language stages (e.g., babbling, one-word utterances). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & prepare for parentese presentations (video clips)	22 回	授業テーマ：Psychology Workshop I 授業内容：Student presentations on The Biological Bases of Human Behavior (Ch. 1) (e.g., twin studies, visual cliff, split brain). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
8 回	授業テーマ：Child Language Development III 授業内容：Lecture & discussion on parentese, focusing on child-directed speech. Worksheet & parentese presentations (with video clips). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & prepare for child language presentations (adult-child/child-child)	23 回	授業テーマ：Psychology Workshop II 授業内容：Student presentations on Consciousness and the Senses (Ch. 2) (e.g., categories, dreams, hypnosis). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
9 回	授業テーマ：Child Language Development IV 授業内容：Lecture & discussion on "Child Language Development, Part III". Discuss milestones of early communication development in terms of different forms of language development (e.g., phonology, syntax, semantics, pragmatics). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & prepare baby article	24 回	授業テーマ：Psychology Workshop III 授業内容：Student presentations on Conditioning & Learning (Ch. 3) (e.g., conditioning, aggression, superstition). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
10 回	授業テーマ：Child Language: Babies 授業内容：Present an article on the language of babies. Summarize & critique. Find a video clip to go with your article on the language of babies and explain how the child communicates (e.g., through words, gestures, facial expressions). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & prepare toddler/preschooler article	25 回	授業テーマ：Psychology Workshop IV 授業内容：Student presentations on Cognition, Memory, and Intelligence (Ch. 4) (e.g., intelligence, memory, expectations, cognitive maps). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
11 回	授業テーマ：Child Language: Toddlers & Preschoolers 授業内容：Present an article on the language of toddlers/preschoolers. Summarize & critique. Find a video clip to go with your article on the language of toddler/preschoolers and explain how the child communicates (e.g., through words, gestures, facial expressions). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & prepare article on older children and adolescents	26 回	授業テーマ：Psychology Workshop V 授業内容：Student presentations on Changes over the Human Lifespan (Ch. 5) (e.g., attachment, moral development, control, object concept). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
12 回	授業テーマ：Child Language: Older Children & Adolescents 授業内容：Read and present an article on the language of older children and adolescents. Summarize and critique. Find a video clip to go with your article on the language of older children/adolescents and explain how the child communicates (e.g., through words, gestures, facial expressions). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & do assignment	27 回	授業テーマ：Psychology Workshop VI 授業内容：Student presentations on Motivation & Emotion (Ch. 6) (e.g., facial expressions, emotions, motivation). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
13 回	授業テーマ：Child Language: Atypical Child Language Development 授業内容：Discuss atypical forms of child language development (e.g., deaf children, Genie). Discuss what kinds of challenges these children face. Watch video clip on Genie. 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & do assignment	28 回	授業テーマ：Psychology Workshop VII 授業内容：Student presentations on Personality (Ch. 7) (e.g., internal vs. external control, masculinity/femininity, relationships). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Read text & do assignment
14 回	授業テーマ：Bilingualism I 授業内容：Discuss types of bilingualism from a sociopsychological perspective. Explore measurements of bilingualism 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & do assignment	29 回	授業テーマ：Psychology Workshop VIII 授業内容：Student presentations on Psychological Disorders (Ch. 8) & Therapy (Ch. 9) (e.g., depression, defense mechanisms, social pathology). 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Prepare presentations of final paper.
15 回	授業テーマ：Bilingualism II 授業内容：Discuss bilingualism from an educational perspective. Explore different types of bilingual education. Codeswitching activity 事前学修 2.0hr：Read text(s) in advance; prepare for class 事後学修 2.0hr：Review text & read articles over summer break	30 回	授業テーマ：Research Presentations 授業内容：Final presentations 事前学修 2.0hr：Prepare presentations of final paper. 事後学修 2.0hr：Finish final paper.

対照研究特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

中川 仁 (なかがわ ひとし)

■ 授業の概要

対照言語学という分野は、それぞれの個別言語を共時的にみていくものである。それは音声面、語彙面、構文面、言語行動などを含め言語学的な観点から比較し、多角的な視点でみていくものであり、それを明らかにしていく学問的な分野である。とくに日本語を中心とし、その周辺諸国にある言語の構造が、どのようなものであるのかを理解し、その特質を把握していく。理論的な側面では、言語学を柱としたところからの解釈をおこない、言語教育の側面では、母語がどのような干渉を与えていくのか、また母語と外国語はどのような点で、異なっているのかを深く言及していくものである。

■ 到達目標

一般目標：言語学の理論的な側面とその分析方法を身につけることができる。そして言語の音声面、構文面、語彙面、言語行動面において、母語がどのように干渉していくのかを考察する態度を身につけることができる。

個別目標：言語的な側面から対比する言語についての特徴が説明できる。(ここでは音声面、構文面、語彙面、言語行動面について、対比する言語がどのように関わっているのか、その構造を理解し、判断できるという意味である。)また母語についての視点も深く理解し、その構造と言語の特殊性が説明できる。

■ 履修条件

言語学の基礎的な知識とその周辺に混在する教養を必要とするので、受講する前に、その知識を培養しておくことである。また母語と日本語の構造について、深く言及する能力をもっていること。

■ 評価基準・方法

一定の回数の研究発表や毎回の討論にも積極的に参加すること。毎回の振り返りも含め、課題を提出することを義務付ける。また欠席については、事前に連絡をすること。(評価方法は、授業時の発言や発表、毎回の課題の提出も含める。)

■ フィードバック方法

課題に関わるフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うこととする。また個別による指導を含めた、フィードバックも進める。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッション及びプレゼンテーション等を行う。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (事前事後における学修及び小論文、課題作成においてパソコンを使用する。)

■ 教科書

とくに教科書は指定しないが、毎回 manaba において資料を提示する。(プリントを配布することもある。)

■ 参考書

とくに参考書はないが、授業時にその都度、先行研究となる論文や資料文献を紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：対照言語学を学ぶことの意味とその把握。 授業内容：対照言語学という分野がどのような研究分野であるのかを概観し、その研究の動向などを説明し、人間と言葉との関係性にも触れ、理解を深めていく。 事前学修 2.0hr：人間社会と言語の関係性について考えてみる。 事後学修 2.0hr：人間と言葉、それに伴う周辺の歴史的な経緯などをまとめる。	16 回	授業テーマ：構文の側面における対照言語学的観点と教育方法 授業内容：個々の言葉における文構造の理解を日本語教育の現場において、どのように把握させていくのか、母語との文構造の差異を理解し、その異なりを説明していく。時間軸、状況、様態などの規則性との関連を理解する。 事前学修 2.0hr：構文を学習者にどのように理解させるかを考えてみる。 事後学修 2.0hr：構文を学習者がどのように分析するかをまとめる。
2 回	授業テーマ：言語とその周辺(歴史・社会・民族・イデオロギーの解明) 授業内容：言葉の周辺にある研究分野との連動性を把握し、その研究との接点を見出していく。とくにそれぞれの自国の文化背景と言語背景なども含め、言葉との接点を理解していく。 事前学修 2.0hr：言語と周辺にある環境について考えてみる。 事後学修 2.0hr：人間と言語の生成を総括した形でまとめる。	17 回	授業テーマ：言語行動に関する対照研究の考察 授業内容：個々の言葉における言語行動を表現や文生成として理解し、日本語教育の現場において、それがどのように使用されていくのかを説明し、その差異を理解していく。 事前学修 2.0hr：人間の言語行動に関する動向を考えてみる。 事後学修 2.0hr：言語行動の動向を自国のスタイルと比べてまとめてみる。
3 回	授業テーマ：言語の構造(記号について) 授業内容：第一次言語のレベルと第二次言語のレベルを把握し、表現形態としての記号の概念を概観し、言葉と記号との関係性を理解していく。 事前学修 2.0hr：言葉の恣意性や言葉の能記、所記について考えてみる。 事後学修 2.0hr：言葉の能記、所記、恣意性を理解しまとめる。	18 回	授業テーマ：考察の結果を討論する(対照研究としての研究方法を討論する) 授業内容：個々の言葉における音声面、形態論面、統語論面をそれぞれまとめ、母語と日本語との差異を比較し、どう研究していくのが妥当なのか、その方法論と仕方を討論していく。 事前学修 2.0hr：今まで学んできて調査した内容について考えてみる。 事後学修 2.0hr：今まで調査した結果について、討論の結果をまとめる。
4 回	授業テーマ：ソシュールの理論の展開(ラングとパロールの関係) 授業内容：ソシュールのいうところのランゲージュ、ラング、パロールの概念を把握し、言葉との関係性を理解していく。また言葉の抽象的な概念とそれに伴う構造主義についても説明していく。 事前学修 2.0hr：言葉の抽象的な概念と先人たちの研究について考える。 事後学修 2.0hr：ソシュールの理論展開と言葉の相関性をまとめる。	19 回	授業テーマ：自分の興味をもった研究分野についての発表(対照研究の範囲) 授業内容：個々の言葉における音学的側面、形態論的側面、統語論的側面のそれぞれが、母語と日本語との差異をどのように引き起こしているのか、また先行研究にも触れ、どのように研究されてきたのかを理解し、まとめたものを発表する。 事前学修 2.0hr：自分の興味のある対照研究の分野を考えてみる。 事後学修 2.0hr：興味のある対照研究の分野をまとめる。
5 回	授業テーマ：言語の類型(個別言語を類型論的な視点で考える) 授業内容：個々の言葉を音声面、形態論面、統語論面に分けて分析をおこなっていく。その方法論と研究の仕方を説明し、言葉の仕組みを理解していく。 事前学修 2.0hr：言葉の類型と構造について考えてみる。 事後学修 2.0hr：言語の分類と言語研究の方法論をまとめる。	20 回	授業テーマ：これから対照研究を行うための計画(調査内容の把握) 授業内容：個々の言葉における言語面の調査内容をそれぞれにまとめていく。基本的な言葉の研究の方法の把握とその方法論が、どのようにおこなわれるべきものなのかを理解し、その進め方をまとめていく。 事前学修 2.0hr：調査内容とその分析をどのように行うかを考える。 事後学修 2.0hr：調査内容の分析に客観性をもたせ、それをまとめる。
6 回	授業テーマ：言語の系統(語族と語派) 授業内容：言葉の語族と語派を理解していく。ここでは音韻対応の法則を説明し、グリムの法則などにも触れ、祖語となる言葉と関係性のある言葉がどのように系統になっているのかを理解していく。 事前学修 2.0hr：言語の系統について考えてみる。 事後学修 2.0hr：言語の系統を音韻の側面からまとめる。	21 回	授業テーマ：音学的側面における対照研究の発表と討論(有声音、無声音との対立など) 授業内容：個々の言葉における音声面の調査内容をそれぞれに討論していく。基本的な言葉の研究の方法を主軸とし、どのような対立が生じているのか、その実態を説明していく。 事前学修 2.0hr：音声の側面から分析方法を討論し、考えてみる。 事後学修 2.0hr：音声の側面から分析し、討論した結果をまとめてみる。

7 回	授業テーマ：構造主義言語学の基礎的な知識(言語の記述方法) 授業内容：ヨーロッパにおける構造主義とアメリカにおける構造主義の研究手法とその記述的な展開がどのようにおこなわれてきたのかを説明し、研究の差異を理解していく。 事前学修 2.0hr：構造主義言語学の生成について考えてみる。 事後学修 2.0hr：記述言語学の方法論についてまとめる。	22 回	授業テーマ：語彙的な側面における対照研究の発表と討論(類義語や漢語の構造) 授業内容：個々の言葉における語彙的な側面の調査内容をそれぞれに討論していく。基本的な単語の構造と意味弁別を主軸とし、どのような意味を中心に、変わっているのか、その実態を説明していく。 事前学修 2.0hr：語彙の側面から意味範囲やその構成の分析方法を考えてみる。 事後学修 2.0hr：語彙の側面から意味の範囲や構成について討論しまとめる。
8 回	授業テーマ：生成文法の基礎的な知識(例文の解釈とその方法) 授業内容：チョムスキーの言葉と人間、人間が言葉をどう習得していくのかを概観し、言葉の修得性なども説明していく。そして人間がどう言葉を生成していくのかを理解していく。 事前学修 2.0hr：生成文法の理論的な展開について考えてみる。 事後学修 2.0hr：生成文法の具体的な理論構築についてまとめる。	23 回	授業テーマ：構文面の対照研究の発表と討論(ヴォイス、テンスなど) 授業内容：個々の言葉における統語論面(文)の構造内容を討論していく。基本的な文構造と解釈を主軸とし、どのような解釈により、その文が成り立っているのか、その実態を説明していく。 事前学修 2.0hr：例文をみていき、それについて考えてみる。 事後学修 2.0hr：例文からその文構造のしくみを分析し、まとめる。
9 回	授業テーマ：対照言語学(日本語、英語、韓国語、中国語からの分析) 授業内容：個々の言葉を音声面、形態論面、統語論面から言語形態の特質を把握し、母語と日本語はどのような差異があるのかを理解していく。それぞれの特徴を見出し理解していく。 事前学修 2.0hr：個々の言語を言語学のレベルで考えてみる。 事後学修 2.0hr：個々の言語を言語学のレベルで分析し、方法論をまとめる。	24 回	授業テーマ：言語行動における対照研究の発表と討論(言語生活と非言語行動) 授業内容：個々の言葉における表現、文生成を言語行動の立場から討論していく。基本的な表現、文生成とそれに伴う人間の行動が、どのように表現されていくのか、その実態を説明していく。 事前学修 2.0hr：日常の言語が生活の上でどのように運用されているかを考える。 事後学修 2.0hr：言語生活の実態を客観的に討論し、非言語行動をもまとめる。
10 回	授業テーマ：日本語教育と対照言語学について(学習者の母語の干渉) 授業内容：日本語教育における母語の存在と母語の干渉を概観し、日本語学習者の言語環境をみていながら、日本語教育の現場で、対照言語学がどのように研究されてきたのかを理解していく。 事前学修 2.0hr：日本語教育における学習者の母語環境について考えてみる。 事後学修 2.0hr：日本語教育の学習者の母語環境を理解し、それをまとめる。	25 回	授業テーマ：対照研究と音声教育の考察 授業内容：個々の言葉における音声面の教育が日本語教育の現場で、どのようにおこなわれているのか、その問題点をとくに母語との対比により抽出し、その実態を説明していく。 事前学修 2.0hr：音声教育の音の対立について、考えてみる。 事後学修 2.0hr：音声教育の実態を自国の言語と比較し、その方法をまとめる。
11 回	授業テーマ：日本語教育と対照言語学(日本語教授法の直説法と対訳法) 授業内容：日本語教育の現場における教室活動で、直説法を使用していくのか、対訳法を使用していくのか、その比重などを考えていく。本来は直説法のみを使用するが、対訳法のありかたもなぜ必要になるのかも説明していく。 事前学修 2.0hr：日本語を教えていくうえでの母語の干渉を考えてみる。 事後学修 2.0hr：母語と日本語との比較を考え、それについてまとめる。	26 回	授業テーマ：対照研究と語彙教育の考察 授業内容：個々の言葉における語彙面の教育が日本語教育の現場で、どのようにおこなわれているのか、その問題点を母語との対比により抽出し、意味の異なり方をも含め、その様態を説明していく。 事前学修 2.0hr：語彙の意味の対立などについて、考えてみる。 事後学修 2.0hr：語彙の意味範囲を自国の言語と比較し、その分析方法をまとめる。
12 回	授業テーマ：音声面における対照研究の考察 授業内容：個々の言葉における音声面(調音音声学)の立場から母語の音節構造を把握し、日本語との差異を考察していく。ここでは国際音声記号をもとにして音声面の差異を理解していく。 事前学修 2.0hr：音声学の側面から学習者の母語と日本語の比較を考えてみる。 事後学修 2.0hr：音声学の側面から学習者の母語と日本語の構造面をまとめる。	27 回	授業テーマ：対照研究と構文教育の考察 授業内容：個々の言葉における構文面の教育が日本語教育の現場で、どのようにおこなわれているのか、文型積み重ね方式により、文生成の過程の実態を知り、構文教育の問題点と母語との対比を説明していく。 事前学修 2.0hr：学習者に構文をどのように理解させるかを考える。 事後学修 2.0hr：構文について、自国の言語と比較し、その構造をまとめる。
13 回	授業テーマ：語彙面での対照言語学的な考察 授業内容：個々の言葉における形態論の側面(語彙)の立場から母語の語彙構造を把握し、日本語との差異を見出していく。ここでは語彙が単語として、どのように機能し、成り立っているのかを理解していく。 事前学修 2.0hr：語彙の語彙構成などを他の言語と比較し、考えてみる。 事後学修 2.0hr：語彙の語彙構成を他の言語と比較し、その分析したものをまとめる。	28 回	授業テーマ：対照研究と言語行動の考察 授業内容：個々の言葉における表現、文の生成が教育日本語教育の現場で、どのようにおこなわれているのか、その表現と文の生成過程を説明し、その行動パターンを理解していく。 事前学修 2.0hr：言語行動のスタイルや言葉の運用について考えていく。 事後学修 2.0hr：言語行動を自国の言語運用スタイルと比較し、方法論をまとめる。
14 回	授業テーマ：語彙の意味素と意義素の分析 授業内容：個々の言葉における形態論の側面(語彙)の立場から語彙構成を把握し、日本語との差異を見出していく。ここでは単語としての意義素と意味素の関係性をも理解し、その単語の意味を記述していく。 事前学修 2.0hr：語彙の意味素、意義素について、分析を考える。 事後学修 2.0hr：語彙の意味素と意義素について分析し、意味範囲とその範囲をまとめる。	29 回	授業テーマ：日本における対照研究の動向 授業内容：日本における対照言語学の方法論は、日本語教育の現場で成り立ったものとして考え、その研究の方法論とさまざまな研究方法があることを、ここでは説明し、母語と日本語との接点を言語教育の立場から理解していく。 事前学修 2.0hr：最近の日本における対照研究の方法論を考えてみる。 事後学修 2.0hr：日本における対照言語学の分析範囲と研究範囲をまとめる。
15 回	授業テーマ：構文面での対照言語学的な考察 授業内容：個々の言葉における統語論の側面の立場から文構造を把握し、日本語との差異を見出していく。ここでは例文を蒐集し、その例文と日本語がどのような異なりが訳文のなかであらわれているのかを説明していく。 事前学修 2.0hr：他の言語との例文を比較し、構文の側面について分析する。 事後学修 2.0hr：他の言語との例文を比較し、構文の側面についての分析を整理する。	30 回	授業テーマ：日本の周辺諸国における対照研究の動向 授業内容：日本では対照言語学は日本語教育の現場から考えられたものであるが、周辺諸国では日本語教育の現場と翻訳という立場からその研究が進められてきたことを説明し、それらの動向を理解していく。 事前学修 2.0hr：日本の周辺諸国における対照研究の方法や分析について考える。 事後学修 2.0hr：周辺諸国の対照研究の現状を把握し、研究方法を学ぶ。

日本語学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

佐々木 文彦 (ささき ふみひこ)

■ 授業の概要

日本語の語彙・語法について歴史的な変遷を視野に入れながら考察する。「花が咲いた」「雨が降った」「困った」などの「た」は同じ「た」なのに、意味は完了・過去・強意・存続など、さまざまな意味をもつとされるが、それは古典語の「き・けり・つ・ぬ・たり・り」の意味と通じるところがある。この授業では現代日本語の意味や用法を、日本語の歴史全体の中で観察しながら分析する方法を検討し、実践する。

■ 到達目標

一般目標：日本語の意味・用法の変化について、問題を発見し、解決することができる

個別目標：①日本語の意味・用法の変化について問題を発見し、課題を設定することができる

②用例を大量に観察することによって語の意味・用法を把握し、変遷の様相を記述することができる

■ 履修条件

特になし

■ 評価基準・方法

授業中の発言や報告、最終レポートによる。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（報告とディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（PC を利用した情報収集とデータ分析）

■ 教科書

なし。適宜資料を配布する。

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：各自の研究テーマと日本語研究との関わりについて確認する。 事前学修 2.0hr：各自の研究テーマを整理しておく。 事後学修 2.0hr：話題になった事柄について調査、確認する。	16 回	授業テーマ：日本語の文法の変遷 1 活用の変遷 授業内容：活用の変遷について考察する。 事前学修 2.0hr：文法史についての論文を読んでおく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
2 回	授業テーマ：現代語と古典語との比較 1 現代語訳の問題点 授業内容：古典語と現代語とを比較し、古典語研究が現代日本語を考察する上でどのような意味を持つか考察する。 事前学修 2.0hr：古語について考察しておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	17 回	授業テーマ：日本語の文法の変遷 2 格助詞の変遷 授業内容：格助詞の変遷について考察する。 事前学修 2.0hr：格助詞について知識を整理する。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
3 回	授業テーマ：現代語と古典語との比較 2 副詞の意味の変遷 授業内容：「わざと」「あへて」などが古典語においてどのような意味を持っていたかを考察する。 事前学修 2.0hr：古典語の副詞について考察する。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	18 回	授業テーマ：日本語の文法の変遷 3 接続助詞の変遷 授業内容：接続助詞の変遷について考察する。 事前学修 2.0hr：接続助詞について知識を整理する。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
4 回	授業テーマ：現代語と古典語との比較 3 主語とは？ 授業内容：古典語の文章を現代語訳する作業を通して、主語の問題について考察する。 事前学修 2.0hr：主語について考えておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	19 回	授業テーマ：日本語の文法の変遷 4 時の助動詞の変遷 授業内容：時の助動詞の変遷について考察する。 事前学修 2.0hr：時の助動詞について整理する。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
5 回	授業テーマ：現代語の語彙 1 品詞分類 授業内容：現代語の品詞分類について考察する。 事前学修 2.0hr：品詞について知識を整理しておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	20 回	授業テーマ：言葉はなぜ変化するのか 1 意味の分岐 授業内容：語の意味が多義的になるのはなぜかを考察する。 事前学修 2.0hr：意味分岐について考察しておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
6 回	授業テーマ：現代語の語彙 2 オノマトペの品詞 授業内容：オノマトペの品詞について考察する。 事前学修 2.0hr：オノマトペについて考察しておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	21 回	授業テーマ：言葉はなぜ変化するのか 2 用法の変遷 授業内容：語の用法の変遷の理由について考察する。 事前学修 2.0hr：言葉の用法の変遷について考えておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
7 回	授業テーマ：現代語の語彙 3 語と文脈 授業内容：語の意味を文脈の中で理解するということについて検討を加える。 事前学修 2.0hr：「文脈とは何か」を考えておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	22 回	授業テーマ：言葉はなぜ変化するのか 3 意味の偏り 授業内容：意味用法の偏りはどのように生じるのかを検討する。 事前学修 2.0hr：「意味の偏り」とは何か、考えておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
8 回	授業テーマ：問題解決のための方法 1 語の意味用法の分析 授業内容：語の意味用法を分析する方法について考察する。 事前学修 2.0hr：意味分析関連の論文を読む。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	23 回	授業テーマ：言葉はなぜ変化するのか 4 語義と解釈 授業内容：語義と解釈との関係を考察する。 事前学修 2.0hr：「解釈」について考えておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
9 回	授業テーマ：問題解決のための方法 2 語義の関係 授業内容：語義の関係について考察する。 事前学修 2.0hr：語義の関係について考える。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	24 回	授業テーマ：言葉の変化と現代語 1 誤用 授業内容：言葉の誤用がなぜ生じるのかを考察する。 事前学修 2.0hr：「誤用」とは何か、考えておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
10 回	授業テーマ：問題解決のための方法 3 語義の記述 授業内容：語義記述の方法と問題点について考察する。 事前学修 2.0hr：辞書における語義の記述を観察し、整理する。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	25 回	授業テーマ：言葉の変化と現代語 2 若者言葉 授業内容：若者言葉とは何かを考察する。 事前学修 2.0hr：若者言葉の存在意義について考えておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
11 回	授業テーマ：資料収集の方法 1 古典語の用例検索 授業内容：古典語の用例検索の方法について考察する。 事前学修 2.0hr：古典作品を読んで疑問点を整理する。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	26 回	授業テーマ：言葉の変化と現代語 3 流行語 授業内容：流行語とは何かを考察する。 事前学修 2.0hr：流行語の存在意義について考えておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。

12 回	授業テーマ：資料収集の方法 2 データベースの利用 授業内容：中納言を利用した用例検索の方法について考察する。 事前学修 2.0hr：データベースについて知識を整理する。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	27 回	授業テーマ：言葉の変化と現代語 4 新語 授業内容：新語とは何かを考察する。 事前学修 2.0hr：新語の存在意義について考えておく。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。
13 回	授業テーマ：資料収集の方法 3 インターネットによる用例収集 授業内容：現代語の用例収集方法について考察する。 事前学修 2.0hr：インターネットの用例収集サイトをチェックする。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	28 回	授業テーマ：言葉の変化と現代語 5 正しい日本語と間違った日本語 授業内容：「正しい日本語」とは何かを考える。 事前学修 2.0hr：言葉の正しさとは何か、考えておく。 事後学修 4.0hr：レポートを書く。
14 回	授業テーマ：前期のまとめ 1 古典語研究の意義 授業内容：古典語研究の意義について考察する。 事前学修 2.0hr：古典語の研究意義についてまとめる。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	29 回	授業テーマ：まとめ 1 レポート内容の確認 授業内容：レポートをまとめて提出する。 事前学修 4.0hr：レポートを書く。 事後学修 4.0hr：レポートを修正する。
15 回	授業テーマ：前期のまとめ 2 言葉と思考 授業内容：言葉と思考の関連について考察する。 事前学修 2.0hr：「言葉と思考」についてまとめる。 事後学修 2.0hr：疑問点を調査し整理する。	30 回	授業テーマ：まとめ 2 レポートの振り返り 授業内容：提出したレポートについて報告しディスカッションする。 事前学修 4.0hr：レポートを修正する。 事後学修 2.0hr：感想をまとめる。

現代英文法特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

辰己 雄太 (たつみ ゆうた)

■ 授業の概要

この講義では、理論言語学の立場から現代英文法を捉え直し、英文法についての理解を深める。講義については Huddleston & Pullum (2002) "The Cambridge Grammar of the English Language" などの文法書を参考にしながら進めてゆくと、受講生の興味・関心に応じて、トピックを適宜調整していく。

■ 到達目標

一般目標：理論言語学の観点から現代英文法について考察することで、現代英文法への理解を深める。

個別目標：1. 理論言語学を通して、現代英文法についての詳細な知識を得る。

2. 言語学の考え方や知識を身につける。

■ 履修条件

英語や日本語で書かれた文献を読み、建設的に批判・検討ができることが望ましい。

■ 評価基準・方法

5分の4以上の出席を評価の前提とする。評点の内訳は、授業への積極的な貢献度 30%、期末レポート 50%、提出物・授業内課題 20% (小テスト・グループワークなどを含む)とする。

■ フィードバック方法

課題及び定期試験のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (必要に応じて、PowerPoint、Word などのソフトを搭載したノートパソコンを持参すること)

■ 教科書

授業中に提示する。

■ 参考書

授業中に提示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：Course introduction 授業内容：講義の計画、受講上の注意や評価基準などを説明する。 事前学修 2.0hr：授業概要を読み、授業内容・授業方針を把握する。 事後学修 2.0hr：授業で紹介された参考図書や文献に目を通しておく。	16 回	授業テーマ：Introduction to the 2nd semester 授業内容：今後の講義計画、期末レポート執筆のための重要事項などを説明する。今後の発表のためのスケジュールなども決める。 事前学修 2.0hr：前学期の授業内容を、授業ノートや資料を参考に総復習しておく。 事後学修 2.0hr：授業で紹介された参考図書や文献に目を通しておく。
2 回	授業テーマ：Preliminaries (1) Theoretical framework, etc. 授業内容：英文法についての研究を理解するために、理論的な枠組みを学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	17 回	授業テーマ：Adjectives and related phenomena (1) Properties of adjectives 授業内容：英語の形容詞に関して、言語学的な性質を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
3 回	授業テーマ：Preliminaries (2) Basic concepts in syntax, etc. 授業内容：統語論における基本的な概念を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	18 回	授業テーマ：Adjectives and related phenomena (2) Adjectives vs other categories 授業内容：英語の形容詞に関して、他の品詞と比較しながら、その言語学的な性質についての理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
4 回	授業テーマ：Preliminaries (3) Syntactic categories, etc. 授業内容：言語における品詞の概念について専門知識を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	19 回	授業テーマ：Adjectives and related phenomena (3) The structure of adjective phrases: complementation 授業内容：節や文と共に起る英語の形容詞に関して、その性質を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
5 回	授業テーマ：Syntactic overview (1) Sentence and clause, etc. 授業内容：英文法における文と節の言語学的な特徴を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	20 回	授業テーマ：Adjectives and related phenomena (4) The structure of adjective phrases: modification 授業内容：英語の形容詞に関して、修飾用法の言語学的な特徴を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
6 回	授業テーマ：Syntactic overview (2) The verb, etc. 授業内容：英文法における動詞の言語学的な特徴を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	21 回	授業テーマ：Adjectives and related phenomena (5) Adjectives and structural differences 授業内容：英語の形容詞に関して、構造に基づいた言語学的な分類を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
7 回	授業テーマ：Syntactic overview (3) Adjective and adverb, etc. 授業内容：英文法における形容詞と副詞の言語学的な特徴を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	22 回	授業テーマ：Review & Student Presentation (1) 授業内容：形容詞についてこれまでの学習内容をまとめ、自身で調査した内容をスライドやハンドアウトなどの資料にまとめる。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
8 回	授業テーマ：Syntactic overview (4) Content clauses, etc. 授業内容：英文法における節の言語学的な特徴を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	23 回	授業テーマ：Review & Student Presentation (2) 授業内容：形容詞についてこれまでの学習内容をまとめ、自身で調査した内容について発表する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
9 回	授業テーマ：Syntactic overview (5) Reported speech, etc. 授業内容：英文法における直接話法・間接話法の特徴を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	24 回	授業テーマ：Prepositions and prepositional phrases (1) The category of prepositions 授業内容：英語の前置詞に関して、言語学的な性質を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。

10 回	授業テーマ：Nouns and noun phrases (1) Count and non-count nouns, Singular and plural nouns 授業内容：英文法における名詞の性質について、名詞の種類や単数・複数の区別に着目しながら、理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	25 回	授業テーマ：Prepositions and prepositional phrases (2) Prepositions vs adjectives 授業内容：英語の前置詞に関して、形容詞と比較しながら、その言語学的な性質についての理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
11 回	授業テーマ：Nouns and noun phrases (2) Non-count quantificational nouns, agreement 授業内容：英文法における名詞について、数量表現や一致現象を学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	26 回	授業テーマ：Prepositions and prepositional phrases (3) Prepositions vs verbs/adverbs 授業内容：英語の前置詞に関して、動詞や副詞と比較しながら、その言語学的な性質についての理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
12 回	授業テーマ：Nouns and noun phrases (3) The articles and definiteness 授業内容：英文法における名詞について、冠詞の用法と、その解釈の理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	27 回	授業テーマ：Prepositions and prepositional phrases (4) Idiomatic expressions 授業内容：英語の前置詞に関して、具体的な熟語表現などを学習しながら、その言語学的な性質についての理解を深める。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
13 回	授業テーマ：Nouns and noun phrases (4) Determinatives (demonstratives and other determiners) 授業内容：英文法における名詞と指示代名詞について学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	28 回	授業テーマ：Review & Student Presentation (3) 授業内容：前置詞についてこれまでの学習内容をまとめ、自身で調査した内容をスライドやハンドアウトなどの資料にまとめる。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
14 回	授業テーマ：Nouns and noun phrases (5) Determinatives (cardinals and other determiners) 授業内容：英文法における名詞と、量詞や数量表現の関係性について学習する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	29 回	授業テーマ：Review & Student Presentation (4) 授業内容：前置詞についてこれまでの学習内容をまとめ、自身で調査した内容について発表する。 事前学修 2.0hr：指定された事前資料を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
15 回	授業テーマ：Review of the 1st semester 授業内容：これまで学習してきた内容をまとめる。 事前学修 3.0hr：前学期の授業内容を振り返っておく。 事後学修 1.0hr：担当者による総復習を参考に、自分の弱点を把握、補強する。	30 回	授業テーマ：Review of the course, Q & A 授業内容：これまで学習してきた内容、期末レポートの内容などを全体としてまとめる。 事前学修 3.0hr：後学期の授業内容を振り返っておく。 事後学修 1.0hr：担当者による総復習を参考に、自分の弱点を把握、補強する。

現代中国語文法特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

曹 泰和 (そう たいわ)

■ 授業の概要

中国語文法に関する基礎知識について確認しつつ、理解を深めていく。
日本語との比較を通じて、中国語の特徴について考える。

■ 到達目標

一般目標：中国語文法の特徴、品詞の分類、文の構造を系統的に理解できる。
分析の方法を把握することができる。

個別目標：諸々の文法事項についてより深い知識を身につける。

■ 履修条件

一定レベルの中国語ができること。

■ 評価基準・方法

課題及びレポート等により、総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、授業時間内及び学習支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（配布資料がある場合は事前に目を通して質問を用意する）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（数回使用する）

■ 教科書

《文法のはなし》朱徳熙著 中川正之・木村秀樹編訳 光生館 1990

《語法答問》朱徳熙著 商務印書館 2007

■ 参考書

《語法講義》朱徳熙著 商務印書館 2002

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：前期講義の概要 授業内容：授業ガイダンス、中国語文法の基本事項を概説する。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	16 回	授業テーマ：後期講義の概要 授業内容：後期授業ガイダンスと前期授業の復習をする。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
2 回	授業テーマ：第1章 中国語文法の特徴(上) 授業内容：形態や語順において他言語との比較をしながら中国語の文法的な特徴について理解を深めていく。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	17 回	授業テーマ：日中対照についての論文を読む① 授業内容：下地早智子(2025) 「日本語と中国語における時間指示」の前半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
3 回	授業テーマ：第1章 中国語の文法の特徴(下) 授業内容：意合法や“流水句”から中国語の特徴を再検討し、理解をより深めていく。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	18 回	授業テーマ：日中対照についての論文を読む② 授業内容：下地早智子(2025) 「日本語と中国語における時間指示」の後半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
4 回	授業テーマ：第2章 品詞(上) 授業内容：品詞分類についてどのような議論があったのかを概観し、なぜ中国語の品詞分類は“老大難問題”とされるのかを考える。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	19 回	授業テーマ：語彙についての論文を読む① 授業内容：侯瑞芬(2024) 「基于搭配の“注意”与“小心”語義分析」の前半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
5 回	授業テーマ：第2章 品詞(下) 授業内容：朱徳熙の品詞分類方法について学習し、他の諸説と比較しながら品詞分類の基準や兼属(“兼類”)について検討する。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	20 回	授業テーマ：語彙についての論文を読む② 授業内容：侯瑞芬(2024) 「基于搭配の“注意”与“小心”語義分析」の後半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：論文の内容を整理し、要点を抽出する。
6 回	授業テーマ：第3章 主語と目的語(上) 授業内容：“台上座席主席团”文をめぐる「主賓語論争」について学習し、形式と意味の対応関係から中国語文法の特徴をさらに理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	21 回	授業テーマ：語彙についての論文を読む③ 授業内容：趙春利, 張佳卉(2025) 「急切副詞“趕緊”的語語関連与語義驗證」の前半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
7 回	授業テーマ：第3章：主語と目的語(中) 授業内容：二重目的語の構造の類型を学習し、構文の意味的特徴をより深く理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	22 回	授業テーマ：語彙についての論文を読む④ 授業内容：趙春利, 張佳卉(2025) 「急切副詞“趕緊”的語語関連与語義驗證」の後半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
8 回	授業テーマ：第3章：主語と目的語(下) 授業内容：主語と話題についての参考文献を読み、主語・話題の従来の議論についての理解を深めていく。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	23 回	授業テーマ：量詞についての論文を読む① 授業内容：小野秀樹 「構文論と文環境から見た汎用量詞“个”の非計数機能」の前半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
9 回	授業テーマ：第4章 連体修飾語・連用修飾語(上) 授業内容：“春天的到来”文についてどのように分析すべきかを検討し連体修飾語と連用修飾語の理解を深めていく。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	24 回	授業テーマ：量詞についての論文を読む② 授業内容：小野秀樹 「構文論と文環境から見た汎用量詞“个”の非計数機能」の後半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。

10 回	授業テーマ：第4章 連体修飾語・連用修飾語(下) 授業内容：“的”の分類について学習し“的”構文の理解を深めていく。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	25 回	授業テーマ：“啊”についての論文を読む① 授業内容：王成慧(2019) 《從互動角度看“啊”的話語標記功能》の前半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
11 回	授業テーマ：第4章 補語と連動構造(上) 授業内容：補語と目的語、あるいは補語と連用修飾語との境界がどこにあるかを考え、補語についての理解を深めていく。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	26 回	授業テーマ：“啊”についての論文を読む② 授業内容：王成慧(2019) 《從互動角度看“啊”的話語標記功能》の後半を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
12 回	授業テーマ：第4章 補語と連動構造(下) 授業内容：連動構造と兼語構造について学習し、この二つの構造はどのような関係があるのかを考え、連動文についての理解を深めていく。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	27 回	授業テーマ：“呢”についての論文を読む① 授業内容：任鷹(2017) 《語氣詞“呢”的功能及其來源再議》(上)を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 1.5hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
13 回	授業テーマ：第5章 中心語分析とIC分析(上) 授業内容：中心語分析法について学習する。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	28 回	授業テーマ：“呢”についての論文を読む② 授業内容：任鷹(2017) 《語氣詞“呢”的功能及其來源再議》(中)を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：論文の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
14 回	授業テーマ：第5章 中心語分析とIC分析(下) 授業内容：IC分析法について学習する。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。	29 回	授業テーマ：“呢”についての論文を読む③ 授業内容：任鷹(2017) 《語氣詞“呢”的功能及其來源再議》(下)を読み、議論する。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、要点を抽出する。
15 回	授業テーマ：前期のまとめ 授業内容：前期の問題点を整理する。 事前学修 2.0hr：教科書の内容を予習し、質問を用意する。 事後学修 2.0hr：第14回までの授業内容を整理し、要点を抽出する。	30 回	授業テーマ：到達度の確認 授業内容：中国語文法に関するテーマを一つ選び、発表を行う。 授業内で講評を行う。 事前学修 2.0hr：発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：全体的見直し、問題点を整理する。

コンピューター言語学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：集中

長谷川 守寿 (はせがわ もりひさ)

■ 授業の概要

日本語テキストデータを扱う基礎的なアプリケーションを実際に操作することにより、日本語の文を計量的に処理する手順を習得する。また、実際に日本語を計量的に扱った研究論文をいくつか講読する。

■ 到達目標

一般目標：テキストデータを対象とした研究論文を講読することにより、計量的研究の歴史的経緯・これまでの成果・意義・問題点が理解できるようになる。また、テキストデータ処理に必要な自然言語処理の技術が理解できるようになる。

個別目標：テキストデータ処理に適したツールの利用方法が理解できるようになる。

■ 履修条件

コンピュータのキーボード入力に慣れておくこと。エクセルでの図表づくりに慣れておくこと。

■ 評価基準・方法

提出物、予習の有無、授業内における参加姿勢・発表、及び到達目標の達成度に基づき総合的に評価する。また、原則として5分の4以上の出席を評価の前提条件とする。

■ フィードバック方法

受講者は、授業内で指定された観点からデータの集計・分析を行い、その結果を発表する。授業内でその結果について、フィードバックを受ける。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (論文講読については、一部反転授業を取り入れる)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (情報処理室にインストール済みの日本語処理に適したアプリケーションや、表計算ソフトを使用する)

■ 教科書

使用しない。プリントを使用する。

■ 参考書

金澤裕之編 (2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房

山崎誠編 (2014)『書き言葉コーパス—設計と構築—』朝倉書店

李在鎭・石川慎一郎・砂川有里子 (2018)『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版

石川慎一郎 (2021)『ベーシックコーパス言語学 第2版』ひつじ書房

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：オリエンテーション 授業内容：これからの授業の進め方、PC の使い方について理解する 事前学修 2.0hr：タイピング練習ソフトなどを使い、キーボードでの日本語入力に慣れる 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す	16 回	授業テーマ：コーパスと日本語教育(1) 授業内容：学習者コーパスを用いることで、日本語教育にどのような貢献が出来るか、理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す
2 回	授業テーマ：コーパスとは何か 授業内容：コーパスの基本的性質について理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す	17 回	授業テーマ：コーパスと日本語教育(2) 授業内容：日本語母語話者のコーパスを用いることで、日本語教育にどのような貢献が出来るか、理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す
3 回	授業テーマ：日本語コーパスの現状 授業内容：現在使用できるコーパスと、その使用方法について理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す	18 回	授業テーマ：Excel と語彙頻度表で出来ること(1) 授業内容：形態素解析結果を対象に、Excel のソートやフィルターの機能を用いて語彙頻度表を作成する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する
4 回	授業テーマ：各種コーパスについて 授業内容：話者別、スタイル別コーパスの基本的性質について理解する 事前学修 2.0hr：タイピング練習ソフトなどを使い、キーボードでの日本語入力に慣れる 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す	19 回	授業テーマ：Excel と語彙頻度表で出来ること(2) 授業内容：語彙頻度表を対象に、Excel の vlookup 機能を用いて、他のコーパスとの比較を行う 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する
5 回	授業テーマ：エディタで出来ること(1) 授業内容：簡単な正規表現を用いた、文字列検索について理解する 事前学修 2.0hr：タイピング練習ソフトなどを使い、キーボードでの入力に慣れる 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す	20 回	授業テーマ：Excel と語彙頻度表で出来ること(3) 授業内容：語彙頻度表を対象に、Excel の vlookup 機能を用いて、特徴度を計算し、特徴語を抽出する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する
6 回	授業テーマ：コーパスのための形態素情報(1) 授業内容：日本語の文を語に分割することの利点を理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す	21 回	授業テーマ：コーパスと言語習得(1) 授業内容：学習者の作文コーパスを用いて、言語習得にどのような貢献が出来るか、理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す
7 回	授業テーマ：コーパスのための形態素情報(2) 授業内容：日本語の文を語に分割する際の問題点を理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す	22 回	授業テーマ：コーパスと言語習得(2) 授業内容：学習者の会話コーパスを用いて、言語習得にどのような貢献が出来るか、理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す
8 回	授業テーマ：エディタで出来ること(2) 授業内容：少し複雑な正規表現を用いた文字列検索を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する	23 回	授業テーマ：WEB アプリケーション「中納言」で出来ること(1) 授業内容：「中納言」内の「まとめて検索」を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する
9 回	授業テーマ：オンライン形態素解析ツール「Web 茶まめ」で出来ること(1) 授業内容：「Web 茶まめ」の基本的な使用方法を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する	24 回	授業テーマ：WEB アプリケーション「中納言」で出来ること(2) 授業内容：「中納言」を用いて、文字列検索を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する

10 回	授業テーマ：オンライン形態素解析ツール「Web 茶まめ」で出来ること(2) 授業内容：「Web 茶まめ」の結果をファイルに出力する方法を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する	25 回	授業テーマ：WEB アプリケーション「中納言」で出来ること(3) 授業内容：「中納言」を用いて、複数の条件を用いた短単位検索を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する
11 回	授業テーマ：コーパスによる文法の研究(1) 授業内容：日本語コーパスを用いることで、どのような文法の研究が可能になるか、理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す	26 回	授業テーマ：コーパスと統計(1) 授業内容：コーパスを分析するのに必要となる基本的な統計的観点を理解する 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す
12 回	授業テーマ：コーパスによる文法の研究(2) 授業内容：日本語コーパスを用いることで、どのような文法の研究が可能になるか、理解する(2) 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す	27 回	授業テーマ：コーパスと統計(2) 授業内容：コーパスを分析するのに必要となる基本的な統計的観点を理解する(2) 事前学修 2.0hr：配付資料の指定部分を読んで予習する 事後学修 2.0hr：配付資料を読み直す
13 回	授業テーマ：オンライン形態素解析ツール「Web 茶まめ」で出来ること(3) 授業内容：「Web 茶まめ」を使用し、その結果を用いて、度数分布表の作成方法とその意義を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する	28 回	授業テーマ：WEB アプリケーション「中納言」で出来ること(4) 授業内容：「中納言」を用いて、長単位検索を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する
14 回	授業テーマ：Excel で出来ること(1) 授業内容：形態素解析結果を用いて、フィルターの機能を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する	29 回	授業テーマ：「現代日本語書き言葉均衡コーパス」語種構成表で分かること 授業内容：Excel を用いて、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」語種構成表から分かることを理解する 事前学修 2.0hr：今までの配付資料を用いて復習する 事後学修 2.0hr：今までの配付資料を用いて復習する
15 回	授業テーマ：Excel で出来ること(2) 授業内容：形態素解析結果を用いて、ピボットの機能を理解する 事前学修 2.0hr：前回の配付資料を基に復習し、疑問点を整理する 事後学修 2.0hr：配付資料を基に復習する	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：この授業で行った実習・講読を振り返り、その意義を確認する 事前学修 2.0hr：今までの配付資料を用いて復習する 事後学修 2.0hr：今までの配付資料を用いて復習する

意味論特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

鍛治 広真 (かじ ひろみ)

■ 授業の概要

この授業では日本語を題材に言葉の意味について自ら研究する、あるいは意味についての言語学的な議論に参加するために必要な知識を身につけることを目指す。形式と意味の関係、同義、類義、反義、多義、曖昧性、同音異義、意味変化、文法と意味などの問題についてテキストを読み、受講者とともに考える。

また、受講者自身の知っている日本語以外の言語について、類例を探し分析することを期待する。

■ 到達目標

一般目標：意味について言語学の観点から論じるための基本的な考え方を習得し、実践する能力を身につける。

個別目標：(1) 言葉の意味を議論するための基本的な概念を理解する

(2) 個別の表現について意味分析をの実践ができる

(3) 形式と意味の結びつきに関する論点を理解する

■ 履修条件

履修の条件は設けない

■ 評価基準・方法

授業への取り組み 50%(発表、ディスカッションなど)、レポート 50%

■ フィードバック方法

課題等に対するフィードバックは授業および manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (グループワーク、ディスカッション)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

なし

■ 教科書

池上嘉彦.2024.『意味の世界 現代言語学から見る [改版]』NHK 出版

■ 参考書

授業内で適宜紹介する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：イントロダクション 授業内容：形式と意味の結びつきと恣意性について考える。 事前学修 1.0hr：シラバスを読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	16 回	授業テーマ：意味の変化(1) 授業内容：意味変化とそのメカニズムについて考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
2 回	授業テーマ：言葉ともの(1) 授業内容：言葉の意味と指示対象の関係について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	17 回	授業テーマ：意味の変化(2) 授業内容：意味変化とそのメカニズムについて考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
3 回	授業テーマ：言葉ともの(2) 授業内容：言葉の意味と指示対象の関係について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	18 回	授業テーマ：意味の変化(3) 授業内容：意味変化とそのメカニズムについて考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
4 回	授業テーマ：意味の類似性(1) 授業内容：言葉の意味の類似性について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	19 回	授業テーマ：意味の変化(4) 授業内容：意味変化とそのメカニズムについて考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
5 回	授業テーマ：意味の類似性(2) 授業内容：言葉の意味の類似性について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	20 回	授業テーマ：文法と意味(1) 授業内容：品詞、文法関係、意味役割、情報構造について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
6 回	授業テーマ：意味の類似性(3) 授業内容：言葉の意味の類似性について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	21 回	授業テーマ：文法と意味(2) 授業内容：品詞、文法関係、意味役割、情報構造について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
7 回	授業テーマ：意味の類似性(4) 授業内容：言葉の意味の類似性について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	22 回	授業テーマ：文法と意味(3) 授業内容：品詞、文法関係、意味役割、情報構造について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
8 回	授業テーマ：意味の曖昧さ(1) 授業内容：言葉の意味の不確かさ、曖昧さについて考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	23 回	授業テーマ：文法と意味(4) 授業内容：品詞、文法関係、意味役割、情報構造について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
9 回	授業テーマ：意味の曖昧さ(2) 授業内容：言葉の意味の不確かさ、曖昧さについて考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	24 回	授業テーマ：センスとナンセンス(1) 授業内容：コンテキストの役割について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
10 回	授業テーマ：意味の曖昧さ(3) 授業内容：言葉の意味の不確かさ、曖昧さについて考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	25 回	授業テーマ：センスとナンセンス(2) 授業内容：コンテキストの役割について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
11 回	授業テーマ：意味の曖昧さ(4) 授業内容：言葉の意味の不確かさ、曖昧さについて考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	26 回	授業テーマ：センスとナンセンス(3) 授業内容：コンテキストの役割について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理

12 回	授業テーマ：言葉の意味する部分と意味しない部分(1) 授業内容：形式の分節と意味について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	27 回	授業テーマ：言語と文化・思考(1) 授業内容：文化：思考の特徴と個別言語の意味構造の関係について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
13 回	授業テーマ：言葉の意味する部分と意味しない部分(2) 授業内容：形式の分節と意味について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	28 回	授業テーマ：言語と文化・思考(2) 授業内容：文化：思考の特徴と個別言語の意味構造の関係について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
14 回	授業テーマ：言葉の意味する部分と意味しない部分(3) 授業内容：形式の分節と意味について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	29 回	授業テーマ：言語と文化・思考(3) 授業内容：文化：思考の特徴と個別言語の意味構造の関係について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理
15 回	授業テーマ：前期のまとめと振り返り 授業内容：前期の学習内容を振り返る 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理	30 回	授業テーマ：後期のまとめとふりかえり 授業内容：後期の学習内容を振り返る 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読む 事後学修 2.0hr：授業内容の整理

日・英比較文学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

横山 竜一郎 (よこやま りゅういちろう)

■ 授業の概要

この授業では、初期近代イギリスの形而上派詩(Metaphysical poetry)の日本における翻訳と受容を事例として、比較文学的な研究の方法を実践的に学ぶ。前期では主に代表的な作家の受容史を辿りながら翻訳の具体例を検討し、後期では比較的マイナーな作家のテキストを対象として日本語訳の演習もおこなう。

■ 到達目標

一般目標：日本語と英語の文化的テキストを対象として、比較文学的な研究をするための知識と技術を身につける。

個別目標：1. 英語で書かれた一次資料・二次資料が読める。

2. 比較文学研究の基本的な手続きを実践できる。

■ 履修条件

初期近代英語で書かれた詩を読むことになるので、ある程度の語学力があることが望ましい。

■ 評価基準・方法

平常点(予習の充実度、授業内の議論への貢献など) 50%、課題(詩の日本語訳など) 50%の結果および到達目標の達成度に基づき総合的に判断する。また、原則として 5 分の 4 以上の出席を評価の前提条件とする。

■ フィードバック方法

主に授業内の講評を通じておこなう。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッションなど)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(インターネット調査、最終課題の作成など)

■ 教科書

Colin Burrow (ed.), Metaphysical Poetry (Penguin, 2006)

個人で入手できない場合、必要なテキストは配布する。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：イントロダクション 授業内容：授業全体のイントロダクションをおこなう。 事前学修 2.0hr：シラバスを読む。 事後学修 2.0hr：授業の内容と評価方法を確認する。	16 回	授業テーマ：エドワード・ハーバート 授業内容：講義とディスカッションを通じて、エドワード・ハーバートの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
2 回	授業テーマ：ジョン・ダン(1) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ジョン・ダンの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	17 回	授業テーマ：ヘンリー・キング 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ヘンリー・キングの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
3 回	授業テーマ：ジョン・ダン(2) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ジョン・ダンの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	18 回	授業テーマ：トマス・ケアリー(1) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、トマス・ケアリーの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
4 回	授業テーマ：ジョン・ダン(3) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ジョン・ダンの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	19 回	授業テーマ：トマス・ケアリー(2) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、トマス・ケアリーの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
5 回	授業テーマ：ジョン・ダン(4) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ジョン・ダンの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	20 回	授業テーマ：ジョン・サックリング 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ジョン・サックリングの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
6 回	授業テーマ：ジョージ・ハーバート(1) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ジョージ・ハーバートの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	21 回	授業テーマ：ウィリアム・カートライト 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ウィリアム・カートライトの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
7 回	授業テーマ：ジョージ・ハーバート(2) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ジョージ・ハーバートの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	22 回	授業テーマ：リチャード・ラヴレイス(1) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、リチャード・ラヴレイスの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
8 回	授業テーマ：ジョージ・ハーバート(3) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ジョージ・ハーバートの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	23 回	授業テーマ：リチャード・ラヴレイス(2) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、リチャード・ラヴレイスの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
9 回	授業テーマ：アンドリュー・マーヴェル(1) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、アンドリュー・マーヴェルの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	24 回	授業テーマ：ヘンリー・ヴォーン(1) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ヘンリー・ヴォーンの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。

10 回	授業テーマ：アンドリュー・マーヴェル(2) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、アンドリュー・マーヴェルの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	25 回	授業テーマ：ヘンリー・ヴォーン(2) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ヘンリー・ヴォーンの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
11 回	授業テーマ：アンドリュー・マーヴェル(3) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、アンドリュー・マーヴェルの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	26 回	授業テーマ：トマス・スタンリー 授業内容：講義とディスカッションを通じて、トマス・スタンリーの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
12 回	授業テーマ：エイブラハム・カウリー(1) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、エイブラハム・カウリーの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	27 回	授業テーマ：トマス・トラハーン(1) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、トマス・トラハーンの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
13 回	授業テーマ：エイブラハム・カウリー(2) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、エイブラハム・カウリーの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	28 回	授業テーマ：トマス・トラハーン(2) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、トマス・トラハーンの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
14 回	授業テーマ：リチャード・クラショー(1) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、リチャード・クラショーの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	29 回	授業テーマ：ジョン・ウィルモット 授業内容：講義とディスカッションを通じて、ジョン・ウィルモットの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。
15 回	授業テーマ：リチャード・クラショー(2) 授業内容：講義とディスカッションを通じて、リチャード・クラショーの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。	30 回	授業テーマ：リチャード・リー 授業内容：講義とディスカッションを通じて、リチャード・リーの詩を精読する。 事前学修 2.0hr：指定されたテキストを読む。 事後学修 2.0hr：授業内の議論を振り返る。

中国中世文化特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

中嶋 諒 (なかじま りょう)

■ 授業の概要

中国古代に活躍した諸子百家らの手による文献は、中世においても盛んに読まれ、また様々な注釈が施されてきた。わずかな文言に対して、ときにアクロバティックな自説が展開されるさまは、さながら中国思想史における英知の結晶であるともいえるであろう。今年度は諸子百家の中でもとりわけ有名な『莊子』の、最も基本的な注釈の一つである郭象(252~312)の注を講読する。またあわせて、中国中世文化を知るうえで必須となる知識の確認も行っていきたい。

■ 到達目標

一般目標：中国中世文化にかんする理解を深め、基本文献を講読する力を身につける。

個別目標：『莊子』やそれに対する郭象の注が、中国中世文化の中でどのように位置づけられるかを理解する。

■ 履修条件

中国古典語(漢文)を講読することになるので、現代中国語、または漢文訓読のいずれかに習熟していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

授業時の積極性(40%)、レポート(60%)

■ フィードバック方法

フィードバックは授業時のコメントと manaba を併用して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(教員と学生が相互に話し合いながら、文献を読み解いていく。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

なし

■ 教科書

授業時に『莊子』郭象注のテキストを配布する(学生の興味関心にあわせて、その他のテキストを配布する場合があります)。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、授業計画 授業内容：今後の授業の進め方と、講読するテキストについて解説する。 事前学修 2.0hr：講義概要をよく読み、この授業の目標を理解しておく 事後学修 2.0hr：授業計画を見直し、中国中世文化にかんするイメージを考えておく	16 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・冒頭章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・冒頭章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
2 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・冒頭章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・冒頭章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	17 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第二章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第二章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
3 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第二章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第二章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	18 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第三章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第三章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
4 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第三章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第三章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	19 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第四章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第四章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
5 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第四章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第四章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	20 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第五章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第五章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
6 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第五章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第五章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	21 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第六章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第六章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
7 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第六章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第六章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	22 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第七章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第七章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
8 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第七章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第七章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	23 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第八章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第八章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
9 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第八章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第八章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	24 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第九章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第九章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する

10 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第九章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第九章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	25 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第十章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第十章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
11 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第十章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第十章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	26 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第十一章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第十一章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
12 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第十一章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第十一章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	27 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第十二章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第十二章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
13 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第十二章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第十二章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	28 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第十三章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第十三章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
14 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・第十三章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・第十三章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	29 回	授業テーマ：『莊子』齊物論篇・第十四章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』齊物論篇・第十四章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する
15 回	授業テーマ：『莊子』逍遙遊篇・最終章の郭象注を読む 授業内容：『莊子』逍遙遊篇・最終章の郭象注を読み解き、その内容について議論し検討する。 事前学修 2.0hr：テキストの指定された箇所を目を通しておく 事後学修 2.0hr：再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：これまでの授業内容を整理して、『莊子』郭象注の思想を明らかにする。 事前学修 2.0hr：これまで学んできたことを整理する 事後学修 2.0hr：これまで学んできたことを完全に理解する

中国古典文学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

土谷 彰男 (つちや あきお)

■ 授業の概要

中国古典文学の作品読解を通じて、この分野に対する理解を深める。本年度は、中唐・白居易の『白氏文集』を取り上げる。『白詩文集』は「諷諭・閑適・感傷・雑律」に分類されるが、そのうち「諷諭」には白居易の代表作である「新楽府」五十首連作をはじめ社会批判を主とする作品が収められており、その成立背景にはこれよりさき白居易が制科に応じた際の「策林」七十五篇(巻六二～六五)の関連が指摘されている。授業ではこの「策林」七十五篇を読み進めつつ、白居易の青年期における社会問題の意識の所在を確認し、「策林」の諸篇が「諷諭」の作品にいかなる影響を与えたのか考察を深めたい。

■ 到達目標

一般目標：中国古典文学の作品読解を通じて、この分野に対する研究方法に習熟し理解を深める。

個別目標：白居易『白氏文集』に収める「策林」七十五篇の作品についてこれをそれぞれ理解し、諷諭詩に対して与えた影響について考察を深める。

■ 履修条件

学部課程において古典文学に関連する授業を履修していることが望ましい。また作品読解にあたって、現代中国語ならびに漢文訓読のいずれにも習熟するよう取り組む姿勢を重視する。

■ 評価基準・方法

授業では受講者間で作品を輪読する。受講者はあらかじめ与えられた作品に対して調査発表を行い、成績はその達成度に応じて評価される。なお、授業時における課題発見とその解決の積極性はこれを重視する。

■ フィードバック方法

課題発見とその解決に至るべくこれに取り組む過程において、いずれも適切な方法を用いてフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

なし

■ 授業での PC の利用(利用内容)

なし

■ 教科書

『白居易文集校注』第3～4冊(謝思焯校注、中華書局、2015)より該当箇所を印刷教材として授業時に配布する。

■ 参考書

『白氏文集』1～12下巻(岡村繁著、明治書院、新釈漢文大系、1988～2018)

そのほか、関連する文献を授業時に適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：本授業内容及び『白氏文集』について解説 授業内容：本授業内容及び『白氏文集』についてこれを説明する。 事前学修 2.0hr：白居易について理解する。 事後学修 2.0hr：『白氏文集』について新たに得られた知見を確認する。	16 回	授業テーマ：作品読解「策林・十」(その一) 授業内容：「策林・十」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
2 回	授業テーマ：作品読解「策林序」及び「一、策頭・二、策項・三、策尾」(その一) 授業内容：「策林序」及び「一、策頭・二、策項・三、策尾」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	17 回	授業テーマ：作品読解「策林・十」(その二) 授業内容：「策林・十」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
3 回	授業テーマ：作品読解「策林序」及び「一、策頭・二、策項・三、策尾」(その二) 授業内容：「策林序」及び「一、策頭・二、策項・三、策尾」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	18 回	授業テーマ：作品読解「策林・十一」(その一) 授業内容：「策林・十一」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
4 回	授業テーマ：作品読解「策林・四」(その一) 授業内容：「策林・四」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	19 回	授業テーマ：作品読解「策林・十一」(その二) 授業内容：「策林・十一」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
5 回	授業テーマ：作品読解「策林・四」(その二) 授業内容：「策林・四」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	20 回	授業テーマ：作品読解「策林・十二」(その一) 授業内容：「策林・十二」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
6 回	授業テーマ：作品読解「策林・五」(その一) 授業内容：「策林・五」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	21 回	授業テーマ：作品読解「策林・十二」(その二) 授業内容：「策林・十二」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
7 回	授業テーマ：作品読解「策林・五」(その二) 授業内容：「策林・五」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	22 回	授業テーマ：作品読解「策林・十三」(その一) 授業内容：「策林・十三」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
8 回	授業テーマ：作品読解「策林・六」(その一) 授業内容：「策林・六」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	23 回	授業テーマ：作品読解「策林・十三」(その二) 授業内容：「策林・十三」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
9 回	授業テーマ：作品読解「策林・六」(その二) 授業内容：「策林・六」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	24 回	授業テーマ：作品読解「策林・十四」(その一) 授業内容：「策林・十四」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
10 回	授業テーマ：作品読解「策林・七」(その一) 授業内容：「策林・七」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	25 回	授業テーマ：作品読解「策林・十四」(その二) 授業内容：「策林・十四」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
11 回	授業テーマ：作品読解「策林・七」(その二) 授業内容：「策林・七」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	26 回	授業テーマ：作品読解「策林・十五」(その一) 授業内容：「策林・十五」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。

12 回	授業テーマ：作品読解「策林・八」(その一) 授業内容：「策林・八」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	27 回	授業テーマ：作品読解「策林・十五」(その二) 授業内容：「策林・十五」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
13 回	授業テーマ：作品読解「策林・八」(その二) 授業内容：「策林・八」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	28 回	授業テーマ：作品読解「策林・十六」(その一) 授業内容：「策林・十六」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
14 回	授業テーマ：作品読解「策林・九」(その一) 授業内容：「策林・九」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	29 回	授業テーマ：作品読解「策林・十六」(その二) 授業内容：「策林・十六」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。
15 回	授業テーマ：作品読解「策林・九」(その二) 授業内容：「策林・九」についてこれを読解する。 事前学修 2.0hr：授業に向けて作品読解の準備を適切に進める。 事後学修 2.0hr：授業により新たに得られた知見を確認する。	30 回	授業テーマ：学習のまとめ 授業内容：本年度の学習のまとめを行う。 事前学修 2.0hr：授業に向けてこれまでの授業内容を振り返る。 事後学修 2.0hr：授業により得られた知見をまとめる。

中国現代文学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

河村 昌子 (かわむら しょうこ)

■ 授業の概要

査建英『八十年代訪談録』、馬国川『我与八十年代』から数編を取り上げて精読する。

1980年代の中国知識界のオピニオンリーダーたちのインタビューや回想録を読むことを通じて、1980年代の中国の思想状況を理解し、文化大革命後の中国文壇の背景を知る。

■ 到達目標

一般目標：中国現代文学を研究する方法を身に付けることができる。

個別目標：①文中で言及されている事柄について調べることができる。

②文章を実証的な視点から読むことができる。

③実証的なアプローチを前提として、作者の思想を理解できる。

■ 履修条件

教材、資料には中国語文献が含まれる。中国語を読んで、日本語に訳せること。

■ 評価基準・方法

授業への取り組み 70 %、レポート 30 %で評価する。

■ フィードバック方法

課題等へのフィードバックは授業時に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（討論）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word を用いての資料作成）

■ 教科書

授業時に配布する。

■ 参考書

授業時に指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：査建英『八十年代訪談録』 授業内容：査建英『八十年代訪談録』について紹介する。 事前学修 2.0hr：授業の概要を読み、到達目標を理解する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	16 回	授業テーマ：劉索拉(3) 授業内容：劉索拉の作品を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
2 回	授業テーマ：阿城(1) 授業内容：阿城のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	17 回	授業テーマ：田壮壮(1) 授業内容：田壮壮のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
3 回	授業テーマ：阿城(2) 授業内容：阿城のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	18 回	授業テーマ：田壮壮(2) 授業内容：田壮壮のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
4 回	授業テーマ：阿城(3) 授業内容：阿城の作品を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	19 回	授業テーマ：田壮壮(3) 授業内容：田壮壮の作品に触れる。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
5 回	授業テーマ：北島(1) 授業内容：北島のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を見て、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	20 回	授業テーマ：馬国川『私と八十年代』 授業内容：馬国川『私と八十年代』について紹介する。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
6 回	授業テーマ：北島(2) 授業内容：北島のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	21 回	授業テーマ：李沢厚(1) 授業内容：李沢厚『我和八十年代』を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
7 回	授業テーマ：北島(3) 授業内容：北島の作品を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	22 回	授業テーマ：李沢厚(2) 授業内容：李沢厚『我和八十年代』を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
8 回	授業テーマ：崔健(1) 授業内容：崔健のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	23 回	授業テーマ：李沢厚(3) 授業内容：李沢厚『我和八十年代』を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
9 回	授業テーマ：崔健(2) 授業内容：崔健のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	24 回	授業テーマ：劉再復(1) 授業内容：劉再復『那是富有活力的年代』を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
10 回	授業テーマ：崔健(3) 授業内容：崔健の作品に触れる。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	25 回	授業テーマ：劉再復(2) 授業内容：劉再復『那是富有活力的年代』を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読む。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
11 回	授業テーマ：李陀(1) 授業内容：李陀のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	26 回	授業テーマ：劉再復(3) 授業内容：劉再復『那是富有活力的年代』を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読む。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。

12 回	授業テーマ：李陀(2) 授業内容：李陀のインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	27 回	授業テーマ：韓少功(1) 授業内容：韓少功「歴史的職圓行方」を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
13 回	授業テーマ：李陀(3) 授業内容：李陀の文章を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	28 回	授業テーマ：韓少功(2) 授業内容：韓少功「歴史的職圓行方」を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
14 回	授業テーマ：劉索拉(1) 授業内容：劉索ラのインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	29 回	授業テーマ：韓少功(3) 授業内容：韓少功「歴史的職圓行方」を読む。 事前学修 2.0hr：参考資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
15 回	授業テーマ：劉索拉(2) 授業内容：劉索ラのインタビューを読む。 事前学修 2.0hr：前期の参考資料を読み、振り返る。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	30 回	授業テーマ：1年間のまとめ 授業内容：1980年代の中国知識界の様相を振り返る。 事前学修 3.5hr：授業の内容を振り返り、レポートを作成する。 事後学修 0.5hr：この授業の到達目標を達成できたか、確認する。

通訳理論特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

神崎 龍志 (かみざき たつし)

■ 授業の概要

通訳理論の概説および中国語から日本語への訳出を中心とした通訳の基礎力と応用力を養成する。
また、実際に通訳の元となる原稿・資料を用いながら、実践も踏まえて通訳力を向上させる。

■ 到達目標

一般目標：通訳理論の基礎を身につけ、それを通訳実践において反映し、運用できること。

個別目標：①通訳理論の基礎について説明ができる。

②中国語通訳の実践的な取り組みができる。

■ 履修条件

日中両言語の語彙力、リスニング力、表現力のいずれもが高いレベルにある者。また、通訳理論を学び、実践に取り組む意欲のある者。

■ 評価基準・方法

授業内容に対する理解度および訳出の品質(100%)に基づき、総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(学生同士でペアを作り、日本語の訳語、訳文のチェックをおこなう。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(調べものをする際、PC を使う場合あり。適宜、指示する。)

■ 教科書

授業ごとに資料を配布する。

■ 参考書

ダニエル・シル著『通訳翻訳訓練～基本的概念とモデル』(みすず書房、2012年)、神崎多實子・大森喜久恵・梅田純子著『聴いて鍛える中国語通訳実践講座』(東方書店、2014年)

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス(講義の進め方) 授業内容：年間を通した授業の概略と要点を説明する。 事前学修 1.0hr：シラバスを読み、大学院で通訳を学ぶことの意味について考えをまとめしておく。 事後学修 2.0hr：大学院で通訳について学ぶことの意味を考える。	16 回	授業テーマ：IT 分野 (2) 授業内容：IT 分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
2 回	授業テーマ：通訳理論 (1) 授業内容：基礎的な通訳理論について学ぶ。 事前学修 1.0hr：配布資料をよく読んでくる。 事後学修 2.0hr：通訳理論の説明が十分に行えるようにする。	17 回	授業テーマ：IT 分野 (3) 授業内容：IT 分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
3 回	授業テーマ：通訳理論 (2) 授業内容：基礎的な通訳理論について学ぶ。 事前学修 1.0hr：配布資料をよく読んでくる。 事後学修 2.0hr：通訳理論の説明が十分に行えるようにする。	18 回	授業テーマ：政治・外交分野 (1) 授業内容：政治・外交分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
4 回	授業テーマ：通訳理論 (3) 授業内容：基礎的な通訳理論について学ぶ。 事前学修 1.0hr：配布資料をよく読んでくる。 事後学修 2.0hr：通訳理論の説明が十分に行えるようにする。	19 回	授業テーマ：政治・外交分野 (2) 授業内容：政治・外交分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
5 回	授業テーマ：観光分野 (1) 授業内容：観光分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	20 回	授業テーマ：政治・外交分野 (3) 授業内容：政治・外交分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
6 回	授業テーマ：観光分野 (2) 授業内容：観光分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	21 回	授業テーマ：医療分野 (1) 授業内容：医療分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
7 回	授業テーマ：天気・気象分野 (1) 授業内容：天気・気象分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	22 回	授業テーマ：医療分野 (2) 授業内容：医療分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
8 回	授業テーマ：天気・気象分野 (2) 授業内容：天気・気象分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	23 回	授業テーマ：医療分野 (3) 授業内容：医療分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
9 回	授業テーマ：環境分野 (1) 授業内容：環境分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	24 回	授業テーマ：芸術分野 (1) 授業内容：芸術分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
10 回	授業テーマ：環境分野 (2) 授業内容：環境分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	25 回	授業テーマ：芸術分野 (2) 授業内容：芸術分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
11 回	授業テーマ：環境分野 (3) 授業内容：環境分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	26 回	授業テーマ：芸術分野 (3) 授業内容：芸術分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。

12 回	授業テーマ：経済分野 (1) 授業内容：経済分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 2.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	27 回	授業テーマ：知的財産権分野 (1) 授業内容：知的財産権分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
13 回	授業テーマ：経済分野 (2) 授業内容：経済分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	28 回	授業テーマ：知的財産権分野 (2) 授業内容：知的財産権分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
14 回	授業テーマ：経済分野 (3) 授業内容：経済分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	29 回	授業テーマ：知的財産権分野 (3) 授業内容：知的財産権分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。
15 回	授業テーマ：IT 分野 (1) 授業内容：IT 分野における通訳の要点を踏まえ、実践に取り組む。 事前学修 1.0hr：配布資料を予習しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容について復習し、次回授業の予習をする。	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：これまでに学んできた理論や知識について総括する。 事前学修 1.0hr：いままでの配布資料に基づき復習する。 事後学修 2.0hr：総復習する。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

鍛治 広真 (かじ ひろみ)

■ 授業の概要

言語学の分野で修士論文執筆を進めるために演習を行う。特に音声学および音韻論の領域における研究課題、あるいは個別言語の文法記述に取り組むために必要となる専門知識の習得と、研究テーマの検討を行う。

■ 到達目標

一般目標：修士論文を書くために専門知識を身につけ、研究テーマ見つけ、研究方法を定める。

個別目標：(1) 自分の関心に基づき研究計画を立て実行することができる

(2) 必要な文献資料を収集することができる

(3) 文献資料を正確に理解し、論文執筆に必要な専門知識を習得することができる

■ 履修条件

履修登録の前に担当教員と面談し、履修について合意を形成すること。

■ 評価基準・方法

到達目標の 1～3 ができているか、あるいはその到達度。

授業への取り組み(発表、ディスカッションなど)

■ フィードバック方法

課題へのフィードバックは授業または manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(プレゼンテーション、ディスカッション)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(発表資料、レポート等の作成に PC を使用する。)

■ 教科書

受講生の関心により決定する。

■ 参考書

受講生の関心に応じ、適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

第 1 回～第 2 回 研究分野・関心の報告

第 3 回～第 7 回 基本的文献の購読

第 8 回～第 10 回 文献収集

第 11 回～第 15 回 文献報告

第 16 回～第 18 回 修士論文テーマの検討

第 19 階～第 23 回 レポートアウトラインの作成

第 24 回～第 27 回 レポート執筆

第 28 回～第 30 回 レポート講評

授業内容

第 1 回～第 2 回 受講生の関心のある研究分野を報告し、演習の方向性を決定する

第 3 回～第 7 回 基本的な文献を講読し言語学の専門知識を習得する

第 8 回～第 10 回 文献資料の検索方法を学び、先行研究の収集を実践的に行う

第 11 回～第 15 回 先行研究を講読し専門知識を習得する。併せて、文献を批判的に検討する力を身につける

第 16 回～第 18 回 受講生の関心とこれまでの学修に基づき、修士論文での研究テーマを決める

第 19 階～第 23 回 1 年次レポートのアウトラインを作成する

第 24 回～第 27 回 アウトラインに基づき 1 年次レポートを執筆する

第 28 回～第 30 回 1 年次レポートを踏まえて、2 年次の修士論文のための研究計画を検討する

事前学修

演習で使用する文献資料を受講生と相談して決定するので、演習の前に文献を読み要点や疑問点を書き留めておくこと。

事後学修

演習で理解したことと疑問点を整理し、研究を進める。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

河村 昌子 (かわむら しょうこ)

■ 授業の概要

中国の近現代文学、近代以降の日中比較文学、現代中国の言語表現に関わるテーマの研究を指導します。

■ 到達目標

一般目標：修士論文執筆に向けて、適切なテーマを設定し、調査研究を行って、論文の枠組みを構築できるようになる。

個別目標：①先行研究、参考文献を調べることができる。

②先行研究、参考文献の内容を理解できる。

③先行研究、参考文献を前提として、自分の研究テーマを設定することができる。

④自分の研究テーマに沿って調査ができる。

⑤調査研究に基づいて、論を立てることができる。

■ 履修条件

日中の近現代文学に関心を持っていることが望ましい。

■ 評価基準・方法

授業中の取り組み 50 %、修士論文執筆に向けた基礎的作業の完成度 50 %で評価します。

■ フィードバック方法

課題等へのフィードバックは授業時に行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（討論）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、PowerPoint を用いての資料作成）

■ 教科書

使用しません。

■ 参考書

適宜指示します。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

修士論文に必要とされる基準を理解して、適切な研究を行い、適格な論文を執筆するための基礎能力を身につけます。

授業内容

第 1-8 週 先行研究の調べ方、論の構築の仕方など、研究の方法を学びます。

第 9-10 週 研究テーマを設定し、今年度の計画を立てます。

第 11-18 週 研究テーマに沿って収集した資料を、読解・分析します。

第 19-22 週 資料を読解・分析した結果に基づいて、研究課題を設定します。

第 23-26 週 研究課題に関連する先行研究を整理します。

第 27-30 週 修士論文執筆に向けて、論文の枠組みを構築します。

事前学修

修士論文執筆を念頭に置いて、多くの資料にあたり、報告ができるようにしてきてください。

事後学修

意義ある研究にするために何が必要か考え、研究計画を修正してください。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

片桐 史尚 (かたぎり ふみたか)

■ 授業の概要

各々の修士論文執筆に必要な知識を確認し発展させる。
自らが調べてきたテーマ、教員側から提示されたテーマの両方からの学びのスタイルを取る。

■ 到達目標

一般目標：1. 修士論文の内容に関する基礎知識を確実なものにすることができる。
2. 修士論文の内容に関連した文献が読める。
3. 修士論文のテーマが明確に説明できる。

個別目標：相談を重ね、院生が選んだテーマについて深く掘り下げていく。

■ 履修条件

しっかりとした論文執筆に対する展望を持った上で(履修登録前に)担当教員と面接をし、履修の許可を得る。

■ 評価基準・方法

毎回の授業時における課題(授業内容の振り返り及び課題への取り組み)を 60 %とし、テストを 40 %とする。出席は 5 分の 4 以上とする。(欠席については事前に連絡をする。)

■ フィードバック方法

対面、manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (テーマに対し議論を重ねる。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (適宜、参考文献、論文、統計などにおいて使用する。)

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

履修者の論文テーマに沿い、適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

授業テーマ

第 1 回～第 10 回 研究テーマに関する基礎知識を確認する。
第 11 回～第 20 回 研究テーマに関する論文を読み議論する。
第 21 回～第 30 回 参考文献を読み具体的な論文執筆におけるテーマを整理する。

授業内容

院生のテーマに合わせた内容とする。

事前学修

事前に配布したプリントを読み整理する。

事後学修

演習時に得た知識を基に事典や文献にあたる。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

木山 三佳 (きやま みか)

■ 授業の概要

修士論文の研究計画に基づき、研究を行い、相互に検討を行う。

■ 到達目標

一般目標：自分の研究テーマの領域の先行研究を読み、自分の研究の切り口から整理することができる。
研究目的から研究課題、研究方法までを整合性のある流れとなるように整理をする。
研究発表、および、研究論文を執筆する。

個別目標：①研究課題を整理する。②レビュー論文を執筆する。③研究発表を行う。

■ 履修条件

提出期限の遵守

■ 評価基準・方法

課題への取り組み(リーディングタスク、事前課題、事後課題)

■ フィードバック方法

課題のフィードバックは manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッション)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(研究課題の整理や論文の共有に利用する。)

■ 教科書

授業内で紹介する

■ 参考書

本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子(2014)『日本語教育学の歩き方 初学者のための研究ガイド』大阪大学出版会
アメリカ心理学会(APA)(2011)APA論文作成マニュアル第二版,医学書院
Swales, M. & Feak, C.B. (2012) Academic Writing for Graduate Students, The University of Michigan Press.
その他、授業において紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

修士論文の書き方を学び、自分の研究の種を育てる。

授業内容

第1回～第5回 研究計画を検討し、自分の研究を位置づけを確認する。

第6回～第10回 一つの研究課題に対して予備調査を行う。

第11回～第15回 先行研究をまとめ発表する。目的、研究課題、研究方法を決める。それに基づき、夏休みに調査を行い、考察まで記述する。

第16回～第20回 調査結果と考察を検討する。再度、先行研究を読み、研究の位置づけ、理論、方法等の整合性を確認する。

第21回～第25回 展望論文を読み、レビュー論文の書き方を学び、自分の研究についてのレビューを執筆する。

第26回～第30回 展望論文についての検討を行い、書き直す。

事前学修

先行研究を読み、その内容を理解し、正しく記述しておくことは期間を通して事前に行うべきことである。

3回には研究計画、11回には先行研究のまとめ、15回には予備調査の研究発表を計画する。26回にはレビュー論文の初稿、を発表するので、その前の回までに全員に資料を送っておく。

送られてきた他の学生の発表資料は、きちんと読んで論点を理解し、それに対する質問やコメントをまとめ、前日の朝までにメールで教員を含めた全員に送っておく。

事後学修

検討された事項を踏まえて加筆、修正する。不足している先行文献を探す。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

ケイコ ナカムラ

■ 授業の概要

The purpose of this course is to design a research plan in order to conduct research on topics related to first and second language acquisition, as well as psycholinguistics.

■ 到達目標

一般目標：The goals of the course include the following:

1. To be able to find a good research topic.
2. To be able to read academic papers in your area of research and organize a literature review.
3. To be able to design a research project, including a research question, literature review and methodology.

個別目標：1. To be able to read and understand academic papers.

2. To be able to develop basic knowledge in your topic area and critical thinking skills.
3. To be able to conduct research on a topic of your choice.
4. To be able to do oral presentations and write a research paper.

■ 履修条件

To be able to set goals and meet deadlines.

■ 評価基準・方法

Active participations in class activities (e.g., reading tasks, article summaries, presentations): 50%

Preparation for master's thesis (e.g., literature review, research plan, methodology, pilot study): 50%

■ フィードバック方法

Feedback will be made through manaba.

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（Discussions and presentations）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Use of Word and Powerpoint; Google Docs）

■ 教科書

Readings will be assigned in class.

■ 参考書

Swales, M. &Feak, C.B. (2012) Academic Writing for Graduate Students, The University of Michigan Press.

APA (2020). Publication Manual of the American Psychological Association: The Official Guide to APA Style, American Psychological Association.

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

To learn how to write a Master's thesis and design/develop a research project.

授業内容

Classes 1-5: Brainstorm and explore some research topics. Do a preliminary search on your selected research topic. Become familiar with some of the literature on your topic.

Classes 6-10: Conduct a thorough review of existing research. Fine-tune your research topic as you proceed.

Classes 11-15: Organize your findings in a literature review and conduct an oral presentation. Explore research methods (e.g., surveys, observations) to be used. Design a pilot study. Choose a relevant, feasible topic, formulate a research question and prepare a research proposal draft. Collect data over the summer.

Classes 16-20: Collect and analyze your pilot study data, report results.

Classes 21-25: Go back to your literature review, adding relevant studies.

Classes 26-30: Critically review your research proposal. Revise and edit based on feedback, as well as peer reviews.

事前学修

Preparation for class will include reading academic papers, understanding and summarizing them, and providing citations.

Throughout the course, there will be various activities, such as presentations on research topics, article summaries, and research proposal drafts.

In the second semester, there will be presentations on pilot studies, and final research proposal.

事後学修

After each class, the material covered must be reviewed. Materials presented must be revised and edited based on feedback received from instructor and classmates.

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

佐々木 文彦 (ささき ふみひこ)

■ 授業の概要

修士論文の研究計画の詳細を確定するために、基礎的な研究と発表を行う。

■ 到達目標

一般目標：修士論文の詳細な研究計画を記すことができる。

個別目標：①修士論文の研究課題について、「背景」「目的」「概要」「研究方法」等を明示することができる。

②修士論文の詳細な研究計画書を作成することができる。

■ 履修条件

特になし。

■ 評価基準・方法

最終レポート(研究計画書) 80 %

毎週の報告等 20 %

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(各自で課題を発見して、調べたことをまとめて報告する。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(課題を PC で提出する。)

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：研究課題の検討 1 授業内容：修士論文の研究課題を検討するため、問題点を書き出して整理する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	16 回	授業テーマ：夏季研究活動の報告 授業内容：夏季研究活動について報告し、評価する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
2 回	授業テーマ：研究課題の検討 2 授業内容：修士論文の研究課題を検討するため、問題点を書き出して整理し、意見交換する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	17 回	授業テーマ：夏季研究成果の確認と今後の計画の立案 授業内容：夏季研究の成果を確認し、今後の研究計画を作成する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査と分析
3 回	授業テーマ：研究課題の検討 3 授業内容：修士論文の研究課題を検討するため、先行研究を収集する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	18 回	授業テーマ：データ分析と課題の確認 授業内容：データ分析を進めて課題を確認する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
4 回	授業テーマ：研究課題の検討 4 授業内容：修士論文の研究課題を検討するため、先行研究を収集する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	19 回	授業テーマ：論文講読 1 授業内容：関連する論文を読む。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
5 回	授業テーマ：先行研究の検討 1 授業内容：修士論文の研究課題を検討するため、先行研究を分析する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	20 回	授業テーマ：論文講読 2 授業内容：関連する論文を読む。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
6 回	授業テーマ：先行研究の検討 2 授業内容：修士論文の研究課題を検討するため、先行研究を分析する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	21 回	授業テーマ：論文講読 3 授業内容：関連する論文を読む。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
7 回	授業テーマ：先行研究の検討 3 授業内容：修士論文の研究課題を検討するため、先行研究を分析する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	22 回	授業テーマ：論文講読 4 授業内容：関連する論文を読む。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
8 回	授業テーマ：先行研究の検討 4 授業内容：修士論文の研究課題を検討するため、先行研究を分析する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	23 回	授業テーマ：研究計画の方向性の検討 授業内容：研究計画の方向性を検討する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
9 回	授業テーマ：研究課題の検討 1 授業内容：研究課題を検討する 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	24 回	授業テーマ：研究計画の詳細の検討 授業内容：研究計画を詳細に検討する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
10 回	授業テーマ：研究課題の検討 2 授業内容：研究課題を検討する 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	25 回	授業テーマ：研究計画書の提出(一次) 授業内容：研究計画書を提出する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
11 回	授業テーマ：研究課題の検討 3 授業内容：研究課題を検討する 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	26 回	授業テーマ：研究計画報告 授業内容：研究計画書について報告する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
12 回	授業テーマ：研究方法の検討 1 授業内容：研究方法を検討する 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	27 回	授業テーマ：研究計画報告のフィードバック 授業内容：前回の研究計画報告に対してフィードバックを受け、課題を検討する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析

13 回	授業テーマ：研究方法の検討 2 授業内容：研究方法を検討する 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	28 回	授業テーマ：研究計画修正のためのディスカッション 授業内容：研究計画を修正するためのディスカッションをする。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
14 回	授業テーマ：研究方法の検討 3 授業内容：研究方法を検討する 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析	29 回	授業テーマ：研究計画の確認 授業内容：研究計画書の修正案を作成する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析
15 回	授業テーマ：夏季研究活動計画の確認 授業内容：夏季研究活動計画書を立案する 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査と分析	30 回	授業テーマ：研究計画書の提出(最終) 授業内容：研究計画書の最終版を作成する。 事前学修 2.0hr：調査及び分析 事後学修 2.0hr：調査及び分析

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

嶋田 珠巳 (しまだ たまみ)

■ 授業の概要

ひろく言語学において修士論文作成にとりかかることができるように演習を行う。とくに、(i) 個別言語の形態法、統語法、語用法に関する諸問題、(ii) 統語論、意味論、語用論の接点的領域、(iii) 英語の多様な形態に関する研究、もしくは (iv) 社会言語学の研究領域のいずれかに関して、その分野における基礎的な内容を理解したうえで、研究テーマが固められるようにサポートする。授業においては、関連文献の読解、理解の確認、研究討議を中心に行う。

■ 到達目標

一般目標：修士論文を書くための素養を身につける。

個別目標：(1) 学修する領域において、基礎的な内容が正しく理解できている。

(2) 授業で扱った論文の内容を正しく理解し、そのうえで批判的な考察ができる。

(3) 研究テーマを固め、そのテーマを追究する手だてや関連論文が分かり、研究をすすめていける状態にある。

■ 履修条件

自分の関心のある分野ないし研究の方向性について、履修登録までに担当教員と面談していること。

■ 評価基準・方法

総合評価とする。

■ フィードバック方法

必要に応じて適宜行う。成績評価に関しても、希望により面談を行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（自ら課題を発見し、考察を発表する）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし

■ 教科書

受講生と相談して決める。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

第 1～3 回 研究領域とテーマの方向性

第 4～10 回 基本文献の読解

第 11～17 回 研究論文の読解と討議

第 18～21 回 修士論文テーマの決定

第 22～25 回 1 年次レポートの作成

第 26～30 回 フィードバックと研究討議

授業内容

第 1～3 回 研究領域とテーマの方向性

第 4～10 回 基本文献の読解

第 11～17 回 研究論文の読解と討議

第 18～21 回 修士論文テーマの決定

第 22～25 回 1 年次レポートの作成

第 26～30 回 フィードバックと研究討議

事前学修

前回授業時の指導内容に応じて必要な準備を行う。

事後学修

授業内での疑問点を解決する。気になる文献にあたるなど、自分が興味をもったことがらに対して、自発的に研究に取り組む。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

曹 泰和 (そう たいわ)

■ 授業の概要

現代中国語文法、日中言語対照に関わるテーマの研究を指導する。

■ 到達目標

一般目標：1. 中国語文法に関する基礎知識を固めた上で、専門知識を身に着ける。
2. 修士論文のテーマに関する研究の現状を把握し、理解できる。
3. 修士論文の執筆に向けて、論文の枠組みを構築できるようになる。

個別目標：①修士論文のテーマについて、研究目的、研究方法を明示することができる。
②文献を読み、内容を理解することができる。
③先行研究の不十分な点を指摘できる。
④正しく記述し論理的に述べることができる。

■ 履修条件

現代中国語文法、日本語と中国語の比較研究に関心を持っていることが望ましい。

■ 評価基準・方法

授業中の取り組み 50 %、修士論文執筆の内容 50%で評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは主に授業時に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（事前に学習する項目について調べてもらうことがある。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（PPT を使い、プレゼンテーションを行う場合がある。）

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

授業中に提示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業内容

第 1 回～第 5 回 参考文献を決め、資料の検索手法を学び、書誌情報を作成し検討をする。
第 6 回～第 10 回 修士論文のテーマに関する知識を確認する。
第 11 回～第 15 回 先行研究に関する論文を読み、問題点を指摘し議論する。
第 16 回～第 20 回 研究方法を学び、修士論文の枠組みを構築する。
第 21 回～第 25 回 データの収集、考察をし、さらに分析を行う。
第 26 回～第 30 回 修士論文の内容を検討し、議論を重ね修正を行う。

事前学修

先行研究に関する参考文献を読み、内容の要旨や問題点の指摘などを準備してきてください。

事後学修

修士論文の内容整理、修正を行い、更に必要があれば新たな文献を探してください。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

田川 麻央 (たがわ まお)

■ 授業の概要

修士論文の研究計画をもとに、文献購読、分析を行い、相互に検討する。

■ 到達目標

一般目標：先行研究を読み、修士論文の研究課題を立てることができる。
整合性のある研究計画を立て、先行研究をまとめることができる。
個別目標：(1) 研究課題、先行研究を整理する。
(2) ミニレビュー論文を執筆する。
(3) 研究について発表をする。

■ 履修条件

課題の締め切りを守る。
積極的に取り組む。

■ 評価基準・方法

課題 70 % (事前課題、事後課題、発表資料、研究計画書、ミニレビュー論文等)、発表 30%

■ フィードバック方法

フィードバックは対面授業及び manaba で行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (発表資料をもとに発表する。意見交換をする。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (manaba を利用する。発表資料を作成したり提示したりする。)

■ 教科書

適宜資料を配布する。

■ 参考書

本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子 (2019) 『[改訂版] 日本語教育学の歩き方 初学者のための研究ガイド』大阪大学出版会
アメリカ心理学会 (APA) (2023) APA 論文作成マニュアル第 3 版, 医学書院

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

授業テーマ

修士論文作成のプロセスを学び、自身の研究を育てる。

授業内容

第 1 回～第 5 回 研究計画を検討し、問題点を洗い出す。
第 6 回～第 9 回 先行研究を検討する。
第 10 回～第 13 回 予備調査の計画 (目的、研究課題、方法) を立てる。
第 14 回～第 15 回 夏休みに予備調査を実施しレポートを執筆する。
第 16 回～第 17 回 予備調査について発表する。
第 18 回～第 20 回 展望論文を読んで、ミニレビュー論文の計画を立てる。
第 21 回～第 23 回 アウトラインを発表する。
第 24 回～第 26 回 ミニレビュー論文の草稿を検討する。
第 27 回～第 30 回 自身の研究計画を見直し、目的、理論、方法の整合性を確認する。

事前学修

コースの間、先行研究を読み進め、まとめておく。
発表前に発表資料を作成し、事前に送付する。
送られてきた発表資料を読んで、論点と質問をまとめておく。

事後学修

自分の発表の内容や他者からのコメントを振り返り、加筆修正して研究を進める。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

辰己 雄太 (たつみ ゆうた)

■ 授業の概要

修士論文執筆に向けて演習と指導を行う。特に理論言語学の各分野の知識習得に努め、論文執筆のための基礎を構築していく。研究計画に基づき研究を進めていく。

■ 到達目標

一般目標：1. 理論言語学について、専門的な知識を習得することができる。
2. 先行研究などの情報を体系的に理解し、整理することができる。
3. 修士論文の研究課題を明確にすることができる。

個別目標：研究課題について、研究の目的、意義、概要、研究方法などを明確に説明できるようになる。
複数の言語を理論言語学の観点から比較・分析できるようになる。
理論言語学における研究課題の分析方法を身につける。

■ 履修条件

自身の研究課題に対して研究計画を決めた上で、担当教員と面談を行い、履修登録をする前に履修の許可を得ること。

■ 評価基準・方法

論文作成状況、課題への取り組みなどを総合的に判断し、評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うこととする。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（必要に応じて、PowerPoint、Word などのソフトを搭載したノートパソコンを持参すること）

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

必要に応じて適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

修士論文の執筆方法を学び、自身の研究課題に取り組む。

授業内容

第 1 回～第 5 回 研究分野や研究課題の方向性を選定する。

第 6 回～第 10 回 研究課題に関連する基礎文献及び先行研究について調査を行う。

第 11 回～第 18 回 基礎文献及び先行研究をまとめる。またその内容について議論し、今後の研究計画を検討する。

第 19 回～第 22 回 調査した文献や先行研究を踏まえ、修士論文の研究課題の詳細と研究計画を決定する。

第 23 回～第 26 回 修士論文執筆に向けて、論文の書き方を学び、実際に論文やレポートの執筆を始める。

第 27 回～第 30 回 執筆した論文やレポートを検討し、適宜修正を加えていく。

事前学修

事前に指示した参考文献や資料について、必ず目を通しておくこと。

事後学修

演習の中で扱った文献以外にも、関連する文献を自身で探し、積極的に研究を進めること。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

中川 仁 (なかがわ ひとし)

■ 授業の概要

修士論文を執筆するために演習と指導を行う。ひろく言語学的な基礎知識の習得に努め、文献及びその他の相関関係にある学問分野にも言及する姿勢をもつこと。とくに中国語及び日本語の言語学的な知識(音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論)を基礎から研究し、それ以外の相関関係にある分野(歴史的要因・社会的要因・民族誌・言語問題・文学等を含める)にも言及し、論文執筆のための基礎的な土台を構築していく。またそれぞれの分野で研究テーマを決め、先行研究の理解や参考文献の解釈の仕方も同時に学修していく。(文献を忠実に理解し、批判的な立場やそれに伴う解釈に言及する。)

■ 到達目標

- 一般目標：1. 修士論文の執筆にあたり、自分の興味や関心のある論文題目を明確にすることができる。
2. 研究を進めていくうえで、基礎的な言語学の知識と文献の解釈、方法論などを習得することができる。
3. 修士論文の論文題目を明確にすることができる。

個別目標：基礎的な研究への探究心を説明できる。(あくまで研究分野の選定に向けた各々人の研究分野の説明ができるという意味である。)また基礎言語学の周辺にある学問分野への認識も深め、先行研究を整理し、その分野との関連性についても説明ができる。

■ 履修条件

自分の関心のある分野とそれに対して、研究していく方向性をきちんと決めて、履修登録をする前までに担当教員と面談をすること。

■ 評価基準・方法

論文作成状況等を総合的に判断し評価する。

■ フィードバック方法

課題に関わるフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うこととする。また個別による指導を含めた、フィードバックも進める。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッション及びプレゼンテーション等を行う。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(事前事後における学修及びレポート、課題作成においてパソコンを使用する。)

■ 教科書

受講生と相談し決めていく。

■ 参考書

その都度紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

- 第 1 回～第 5 回 研究分野や各個人の研究題目の方向性(興味、関心のある分野を選定する)
第 6 回～第 10 回 基礎文献及び先行研究の解釈(文献の選定とその文献の解釈と方法論を理解する)
第 11 回～第 18 回 研究論文の解釈と討論(研究論文の解釈の仕方とそれについて議論をしていく)
第 19 回～第 22 回 修士論文の題目の決定とその研究方法の構築(論文における研究題目の決定と研究の方向性について模索する)
第 23 回～第 26 回 研究にそった小論文の作成(研究小論文の書き方について習得する)
第 27 回～第 30 回 小論文についての研究及び討論をおこなう。(自分の書いた小論文について、他者との議論を通して、客観性を整えていく)

授業内容

- 第 1 回～第 5 回 研究分野と研究の方向性、興味関心のある分野に着目し、進めていくこと。
第 6 回～第 10 回 基礎文献及び先行研究の解釈に着目し、先人の考えと自分の考え方を見出し、比較していくこと。
第 11 回～第 18 回 研究論文を解釈し、それぞれの討論を通して、議論していくこと。
第 19 回～第 22 回 修士論文の論文題目を決め、その研究方法を構築していくこと。
第 23 回～第 26 回 研究にそった小論文を作成すること。
第 27 回～第 30 回 小論文についての研究及び討論を通して議論していくこと。

事前学修

事前に配布したプリント及び参考文献に対して、演習の前には、必ず目を通しておくこと。

事後学修

演習時に疑問点等があった場合などを含め、すぐに解決方法を見出し、辞書や文献等に当たること。また興味、関心のある分野を発見した場合は、積極的に研究を進めていくこと。

特別演習 I

開講学科等：応用博前 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

中嶋 諒 (なかじま りょう)

■ 授業の概要

中国古典、中国古典語(漢文)、および日本における中国古典の受容にかかわるテーマの研究を指導します。

■ 到達目標

一般目標：修士論文執筆に向けて、適切なテーマを設定し、修士論文の枠組みを構築できるようになる。

個別目標：①自らの研究テーマを設定することができる。

②自らの研究テーマにかかわる原典資料を、正確に読み説くことができる。

③自らの論を立てて、先行研究との差異を明らかにすることができる。

■ 履修条件

中国古典に関心があることが望ましい。

■ 評価基準・方法

授業中の取り組み 50 %、課題(修士論文執筆に向けた基礎的作業)への取り組み 50 %で評価する。

■ フィードバック方法

課題へのフィードバックは、授業時のコメントとする。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(教員と学生が相互に討論しながら、修士論文の枠組みを構築していく。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(ワード等を用いて資料を作成する。)

■ 教科書

使用しない。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

原典資料を正確に読み解き、そこから自らの論を立てる能力を身につける。

修士論文に必要とされる基準を理解して、適格な論文を執筆するための基礎的能力を身につける。

授業内容

第 1 回～第 5 回 研究テーマに関する基礎知識を確認する。

第 6 回～第 20 回 研究テーマに関する原典資料を講読し、議論する。

第 21 回～第 30 回 先行研究を読み解き、自らの論との差異を明らかにする。

事前学修

修士論文執筆を念頭に置いて、研究テーマに関連する原典資料、先行研究を読み進めておく。

ただし先行研究にとらわれすぎず、まずは原典資料から自らの論を立てることを優先してもらいたい。

事後学修

授業中の指導内容を踏まえて、自らの論を整理するとともに、先行研究との差異を明らかにする。

ただし先行研究にとらわれすぎず、まずは原典資料をもとに自らの論を整理することを優先してもらいたい。

特別演習Ⅱ

開講学科等：応用博前 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

片桐 史尚 (かたぎり ふみたか)

■ 授業の概要

1年次における特別演習において、まとめた研究計画にそって、修士論文を作成する。

■ 到達目標

一般目標：研究についての意義とその探求心を培養し、自らの専門性をもとに、修士論文を完成させることができる。

個別目標：基礎的な研究への探究心を説明できる。(あくまで研究分野の選定に向けた個々人の研究分野の説明ができるという意味である。)また基礎言語学の周辺にある学問分野への認識も深め、先行研究を整理し、その分野との関連性についても説明ができる。専門性の高い能力を身につける。

■ 履修条件

隣接する学問分野の知識にも深い関心を持つこと。

■ 評価基準・方法

毎回の授業時における課題(授業内容の振り返り及び課題への取り組み)を60%とし、テストを40%とする。出席は5分の4以上とする。(欠席については事前に連絡をする。)

■ フィードバック方法

対面、manabaを通して行うこととする。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(個別テーマに対し議論する。)

■ 授業でのPCの利用(利用内容)

あり(適宜、語彙調査、統計閲覧などにおいて使用する。)

■ 教科書

とくに使用しない。

■ 参考書

その都度、紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

第1～3回 論文作成における基本的な知識を培養する。

第4～10回 修士論文の調査内容、文献の整理、そしてその内容を議論していく。

第11～17回 その調査及び内容と考察の展開を検討していく。

第18～24回 修士論文の内容を綿密にまとめ、その草稿を討論していく。

第25～26回 研究発表をおこなう。

第27～30回 修士論文を完成させる。

授業内容

第1～3回 論文作成における基本的な知識を培養する。

第4～10回 修士論文の調査内容、文献の整理、そしてその内容を議論していく。

第11～17回 その調査及び内容と考察の展開を検討していく。

第18～24回 修士論文の内容を綿密にまとめ、その草稿を討論していく。

第25～26回 研究発表をおこなう。

第27～30回 修士論文を完成させる。

事前学修

研究計画にしたがって、資料や文献を整理し、論文執筆を進める。

事後学修

その研究の成果を探究し続けるために、不可分な部分を補っていく。

特別演習Ⅱ

開講学科等：応用博前 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

河村 昌子 (かわむら しょうこ)

■ 授業の概要

中国の近現代文学、近代以降の日中比較文学、現代中国の言語表現に関わるテーマの研究を指導します。

■ 到達目標

一般目標：修士論文を完成する。

個別目標：①修士論文執筆に必要な資料を収集できる。

②収集した資料を理解し、学術的に分析できる。

③資料に基づいて、適切に論を立て、結論を導くことができる。

④適切な日本語で論述できる。

■ 履修条件

日中の近現代文学に関心を持っていることが望ましい。

■ 評価基準・方法

授業中の取り組み 50%、論文 50%で評価します。

■ フィードバック方法

課題等へのフィードバックは授業時に行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（討論）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、PowerPoint を用いての資料作成）

■ 教科書

使用しません。

■ 参考書

適宜指示します。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

修士論文に必要なとされる基準を理解し、適切な研究を行い、適格な論文を完成させます。

授業内容

1年次での研究を基礎にして、論文の枠組みを確認しながら、修士論文を執筆していきます。

授業では、進捗状況に合わせて、随時必要な指導を行っています。

第 1-2 週 1年次に決めた修士論文の枠組みを再確認し、修士論文完成に向けて執筆計画を立てます。

第 3-25 週 修士論文の執筆を進めていきます。進捗状況にあわせて内容を確認し、論述の不備、不足をどう改善するか考えます。

第 26-30 週 書き上がった修士論文全体を見直し、完成させます。

事前学修

研究計画に従って、積極的に資料調査や論文執筆を進めてください。

事後学修

意義ある研究成果をあげるために何が必要か考えながら、授業で見つけた不足点を補ってください。

特別演習Ⅱ

開講学科等：応用博前 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

木山 三佳 (きやま みか)

■ 授業の概要

修士論文の執筆をする。

■ 到達目標

一般目標：論理的な文章で修士論文を執筆することができる。

個別目標：①修士論文の研究課題を整理し、執筆修了まで、研究課題の整理表を更新し続ける。

②先行研究、目的、研究課題、方法、結果、考察、に一貫性を持たせて、論理的な論文を書くことができる。

■ 履修条件

研究発表を1回以上行う。修士論文の執筆を計画的に行う。

■ 評価基準・方法

研究課題の整理表、研究発表、研究論文で評価する。

■ フィードバック方法

課題のフィードバックは manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（研究課題の整理や論文の共有に利用する。）

■ 教科書

授業内で紹介する

■ 参考書

心理学ベーシック第4巻 なるほど！ 心理学観察法 監修 三浦麻子 発行所 株式会社北大路書房 ISBN コード 978-4-7628-3014-3

あなたもできるデータの処理と解析 著者名 岩淵千明 発行所 福村出版株式会社 ISBN コード 978-4-571-20058-8

質的データ分析法 原理・方法・実践 著者名 佐藤郁哉 発行所 株式会社新曜社 ISBN コード 978-4-7885-1095-1

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

修士論文の検討

授業内容

毎回リサーチクエスションの整理表に基づき、修士論文を執筆する。おおむね以下のスケジュールを進める。

5月 2章先行研究

6月 3章目的、研究方法

7月 4章結果

8月 研究論文執筆

9月 5章考察

10月 1章はじめに

11月 修士論文1稿完成

12月 修士論文2稿完成

1月 提出

2月 学会発表

事前学修

ひろく先行研究をあたり、積極的に収集する。

研究動機から、妥当な研究課題に落とし込むために、教員やゼミの仲間の意見を求める。

研究方法についても学習する。

計画的に執筆を進める。

事前に執筆した文章を manaba に提出する。

事後学修

コメントを受けて修正した原稿を manaba に提出する。

特別演習Ⅱ

開講学科等：応用博前 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

佐々木 文彦 (ささき ふみひこ)

■ 授業の概要

1年次の特別演習において確定した研究計画に基づいて研究を進めて、修士論文を作成する。

■ 到達目標

一般目標：修士論文の作成

個別目標：①自らが設定した研究課題について、十分な計画の下に調査分析を進めることができる
②修士論文をまとめることができる

■ 履修条件

特別演習Ⅰを履修済みの学生

■ 評価基準・方法

修士論文の審査により評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（各自で課題を発見して、調べたことをまとめて報告する。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（課題を PC で提出する。）

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：研究計画の確認と春季研究活動の報告 授業内容：特別演習Ⅰにおいて進めた研究の成果を報告し、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	16 回	授業テーマ：夏季研究活動の報告 授業内容：夏季休業期間の研究成果を報告し、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
2 回	授業テーマ：研究計画の見直しと調査執筆計画の確認 授業内容：研究計画の見直しの必要がないかどうか検討し、調査執筆計画の確認をする 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	17 回	授業テーマ：研究経過の整理 授業内容：研究経過を整理する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査と分析
3 回	授業テーマ：研究経過の確認と調査執筆計画の詳細確定 授業内容：研究経過を確認し、調査執筆計画の詳細を確定する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	18 回	授業テーマ：中間報告 1 授業内容：中間報告の発表準備をする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
4 回	授業テーマ：アウトラインの執筆開始にあたって 授業内容：アウトラインの執筆開始にあたって検討を要する事項を確認する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	19 回	授業テーマ：中間報告 2 授業内容：中間報告を行う。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
5 回	授業テーマ：アウトラインの確認 1 授業内容：論文のアウトラインを確認する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	20 回	授業テーマ：中間報告のフィードバック 授業内容：中間報告会で出された質疑について検討する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
6 回	授業テーマ：アウトラインの確認 2 授業内容：論文のアウトラインを確認する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	21 回	授業テーマ：追加調査および検討事項の確認 授業内容：今後の追加の調査および検討事項を確認する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
7 回	授業テーマ：調査報告 1 授業内容：調査報告をし、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	22 回	授業テーマ：調査報告 6 授業内容：調査報告をし、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
8 回	授業テーマ：調査報告 2 授業内容：調査報告をし、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	23 回	授業テーマ：調査報告 7 授業内容：調査報告をし、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
9 回	授業テーマ：調査報告 3 授業内容：調査報告をし、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	24 回	授業テーマ：調査報告 8 授業内容：調査報告をし、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
10 回	授業テーマ：調査報告 4 授業内容：調査報告をし、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	25 回	授業テーマ：論文仮提出 授業内容：論文を仮提出する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
11 回	授業テーマ：調査報告 5 授業内容：調査報告をし、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	26 回	授業テーマ：仮提出論文のフィードバック 授業内容：仮提出論文のフィードバックを行い、ディスカッションする。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
12 回	授業テーマ：新たな課題の設定 授業内容：研究方法を検討する 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	27 回	授業テーマ：修正事項の確認 1 授業内容：フィードバックに基づいて修正すべき点を確認する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析

13 回	授業テーマ：新たな課題の確認 授業内容：研究方法を検討する 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	28 回	授業テーマ：修正事項の確認 2 授業内容：フィードバックに基づいて修正すべき点を確認する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
14 回	授業テーマ：課題解決のための方策の検討 授業内容：研究方法を検討する 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析	29 回	授業テーマ：修正事項の確認 3 授業内容：フィードバックに基づいて修正すべき点を確認する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析
15 回	授業テーマ：夏季研究活動計画の確認 授業内容：夏季研究活動計画書を立案する 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査と分析	30 回	授業テーマ：修士論文完成 授業内容：修士論文を完成させ、提出する。 事前学修 4.0hr：調査及び分析 事後学修 4.0hr：調査及び分析

特別演習Ⅱ

開講学科等：応用博前 | 2 年次 | 4 単位 | 開講期：通

嶋田 珠巳 (しまだ たまみ)

■ 授業の概要

ひろく言語学において修士論文作成を完成させることができるように演習を行う。とくに、(i) 個別言語の形態法、統語法、語用法に関する諸問題、(ii) 統語論、意味論、語用論の接点的領域、(iii) 英語の多様な形態に関する研究、もしくは (iv) 社会言語学の研究領域のいずれかに関して、その分野における基礎的な内容を理解したうえで、研究テーマが固められるようにサポートする。授業においては、関連文献の読解、理解の確認、研究討議を中心に行う。

■ 到達目標

一般目標：修士論文を完成させる。

個別目標：(1) 学修する領域において、基礎的な内容が正しく理解できている。

(2) 研究テーマの関連論文を多く精読し、正しく理解し、そのうえで批判的な考察ができる。

(3) 自らの調査及び考察内容に関して、正確に表現することができる。

■ 履修条件

履修登録までに担当教員と面談していること。

■ 評価基準・方法

総合評価とする。

■ フィードバック方法

必要に応じて適宜行う。成績評価のフィードバックに関しても、希望により面談を行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（修士論文は主体的に取り組むものである。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（必要に応じて持参しても良い。）

■ 教科書

指定しない。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

修士論文執筆のための研究指導

授業内容

修士論文完成までの研究計画、研究テーマに関連する文献の精読と理解の確認、研究方法・執筆内容の検討、研究発表を行う。授業は個別指導とグループ指導とを交えて行う。

事前学修

修士論文の執筆を進め、研究上の問題点を整理しておく。

事後学修

授業内での疑問点を解決する。必要な文献にあたる。執筆を進める。

特別演習Ⅱ

開講学科等：応用博前 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

田川 麻央 (たがわ まお)

■ 授業の概要

修士論文の執筆に取り組む。

■ 到達目標

一般目標：論理的な構成と表現を用いて、修士論文を完成させることができる。

個別目標：修士論文の研究課題を明確に整理し、執筆完了まで研究課題整理表を継続的に更新することができる。

先行研究、研究目的、研究課題、研究方法、結果、考察の各要素に一貫性を持たせ、論理的に構成された論文を執筆することができる。

■ 履修条件

特別演習Ⅰを修得済みである。

修士論文に向けて調査、執筆を計画的に進めていく。

■ 評価基準・方法

研究課題の整理票、発表、論文を総合的に評価する。

■ フィードバック方法

対面および manaba によってフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション等を行う。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（先行研究の整理、データの整理と分析、論文執筆、論文の共有等に使用する。）

■ 教科書

使用しない。

■ 参考書

アメリカ心理学会 (2023)『APA 論文作成マニュアル 第 3 版』医学書院

授業で随時紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

研究課題整理票に基づき、修士論文の執筆を進める。

授業内容

以下のスケジュールを目安に検討を進めていく。

5月 第2章 先行研究の検討

6月 第3章 研究目的・研究方法の検討

7月 第4章 結果の検討

9月 第5章 考察の検討

10月 第1章 はじめにの検討

11月 修士論文第1稿完成および検討

12月 修士論文第2稿完成および検討

1月 提出

2月 学会発表

事前学修

幅広く先行研究を調べ、修士論文に関連する文献を積極的に収集する。

研究動機をもとに、妥当な研究課題へと具体化するため、教員やゼミの仲間の意見を求める。

適切な研究方法を選択できるよう、文献等を通して学習する。

計画的に執筆を進め、事前に執筆した原稿を manaba に提出する。

事後学修

教員およびゼミ内でのコメントを踏まえて研究計画整理票と原稿を修正し、修正版を提出する。

2026年度 応用言語学研究所 博士前期課程 特別演習指導テーマ一覧

職名	氏名	主な研究指導テーマ
講師	鍛治 広真	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語の記述的研究 ○ 音声学、形態音韻論、形態統語論に関する対照研究 ○ フィールド調査による言語研究
教授	片桐 史尚	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語教育におけることばと文化に関する研究 ○ 日本語教育における音声指導法の研究 ○ 言語活動における非言語コミュニケーションの研究 ○ 言語教授法と社会背景に関する研究
教授	河村 昌子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中国近現代文学の研究（主に五四時期以降） ○ 日中比較文学（近代以降） ○ 現代中国の言語表現
教授	木山 三佳	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語能力の習得に関する研究（文法・語彙・談話） ○ 言語技能の習得に関する研究（聴解・読解・作文・会話） ○ 言語教育における指導法に関する研究
教授	ケイコナカムラ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語心理学 (Psycholinguistics) ○ 言語獲得 (First language acquisition)、第2言語習得 (Second language acquisition) & バイリンガリズム (Bilingualism) ○ 語用論 (Pragmatics)・社会言語学 (Sociolinguistics) ○ 英語教育 (English language teaching)
教授	佐々木 文彦	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語の意味・用法の変化に関する研究 ○ 言語コーパスを用いた語義分析・言語変化の研究 ○ オノマトペに関する研究 ○ 日本語内の異文化間コミュニケーションに関する研究
教授	嶋田 珠巳	<ul style="list-style-type: none"> ○ フィールド調査による言語研究、文法に関する諸問題 ○ 文の意味（情報構造、時の表現） ○ 言語接触（アイルランド英語、コードスイッチング、クレオール） ○ 社会言語学（言語とアイデンティティ、エスニシティなど） ○ World Englishes
准教授	曹 泰和	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現代中国語文法に関する諸問題 ○ 日中対照言語学 ○ 日中異文化コミュニケーションに関する研究 ○ 日本の中国語教育に関する研究
准教授	田川 麻央	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語教育学に関する研究 ○ 学習者に関する研究 ○ 教室活動に関する研究 ○ 言語の理解、産出に関する研究
講師	辰己 雄太	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理論言語学（統語論・意味論・形態論）の立場からの研究 ○ 対照言語学、類型言語学の立場からの理論的な研究 ○ 量子化や数量表現に関する理論的な研究
教授	中川 仁	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中国語及び日本語との対照言語研究（中国語の言語学的分析と日本語との対照研究） ○ 中国語文化圏における言語政策（清朝末期の文字改革運動及び台湾の国語政策との関連性） ○ 東アジアにおける言語問題（中国における共通語の単一言語化と台湾における多言語主義化、母語の復権運動） ○ 日本における中国語研究（日本で戦後研究された中国語の研究と閩語関係資料の研究）
准教授	中嶋 諒	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中国古典にかかわる研究 ○ 中国古典語（漢文）にかかわる研究 ○ 日本における中国古典の受容にかんする研究

注：担当教員は変更となる場合があります。

応用言語学研究科

[博士後期課程]

日本語教育学特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

佐々木 文彦 (ささき ふみひこ)

■ 授業の概要

博士論文を執筆する学生の研究テーマを中心に、日本語・日本語教育の調査・研究方法について考究する。

■ 到達目標

一般目標：自らが取り組む研究課題について、幅広い視野に立って分析し、明快に論ずることができる

個別目標：①日本語学・言語学：日本語教育に関する知識を整理し、説明することができる

②日本語教育における未知の領域を開拓し、問題提起と解決を図ることができる

■ 履修条件

コーパス駆動型研究、言語習得研究、言語研究、教材開発に関心のある大学院生

■ 評価基準・方法

レポート 40 % プレゼンテーション 40 % 研究姿勢 20 %

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（課題を学生自身が発見して報告し、ディスカッションする。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（毎回の課題を PC で提出する。）

■ 教科書

必要に応じて適宜文献を指示する。

■ 参考書

必要に応じて適宜文献を指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：オリエンテーション 授業内容：授業内容の概要について整理する。 事前学修 2.0hr：研究テーマの検討 事後学修 2.0hr：研究テーマの検討	16 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 9 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
2 回	授業テーマ：研究テーマの設定 1 授業内容：研究テーマについて発表する。 事前学修 2.0hr：参考文献リストを作成 事後学修 2.0hr：参考文献リストを作成	17 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 10 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
3 回	授業テーマ：研究テーマの設定 2 授業内容：研究テーマについてフィードバックを受けて、内容を修正する。 事前学修 2.0hr：参考文献リストを作成 事後学修 2.0hr：ビブリオグラフィー作成	18 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 11 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
4 回	授業テーマ：研究計画書の作成 1 授業内容：研究計画の概要をまとめる。 事前学修 2.0hr：研究計画書案の作成 事後学修 2.0hr：研究計画書のチェック	19 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 12 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
5 回	授業テーマ：研究計画書の作成 2 授業内容：研究計画の概要についてフィードバックを受けて、修正する。 事前学修 2.0hr：研究計画書案の作成 事後学修 2.0hr：研究計画書のチェック	20 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 13 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
6 回	授業テーマ：研究計画書の作成 3 授業内容：研究計画の妥当性についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：研究計画書案の作成 事後学修 2.0hr：研究計画書のチェック	21 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 14 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
7 回	授業テーマ：研究計画書の作成 4 授業内容：前回のディスカッションを受けて研究計画修正し、具体的な計画を立てる。 事前学修 2.0hr：研究計画書案の作成 事後学修 2.0hr：研究計画書のチェック	22 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 15 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
8 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 1 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備	23 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 16 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
9 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 2 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備	24 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 17 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
10 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 3 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備	25 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議 18 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備

11 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議4 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備	26 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議19 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
12 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議5 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備	27 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議20 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
13 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議6 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備	28 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議21 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
14 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議7 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備	29 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議22 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備
15 回	授業テーマ：研究経過の報告と討議8 授業内容：修正した研究計画書に基づいて「先行研究の検討」「データ収集」「データ分析」「理論構築」等を進め、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：次回の報告準備	30 回	授業テーマ：研究報告書の完成・提出 授業内容：研究報告書を完成させて提出する。 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：総括

英語教育学特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

平井 清子 (ひらい せいこ)

■ 授業の概要

第二言語習得の研究方法を学びながら、英語教育を研究対象として科学的に探究する思考様式を身につける。執筆予定の博士論文のテーマに関する論文を自分で選び、研究方法や結果の解釈の妥当性等の観点から批判的に読む。その上で、博士論文の調査課題を設定し、研究方法を具体化する。

■ 到達目標

一般目標：英語教育を研究対象として科学的に探究する思考様式を身につける。

自分が執筆する博士論文の調査課題と方法を具体化する。

個別目標：第二言語習得の研究方法を理解する。

英語教育および第二言語習得論に関する文献を批判的に読むことができる。

博士論文の調査課題を設定し、研究方法を計画する。

■ 履修条件

特になし。

■ 評価基準・方法

授業への貢献 50%

学年末レポート 50%

■ フィードバック方法

授業中に適宜行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（予備学習で学生が主体的に問題を発見し、授業では他者との対話や協働を通して理解を深める）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（資料検索・収集をはじめ、資料の配布などにも使用の予定）

■ 教科書

白畑 知彦, 若林 茂則 他(2010).『詳説 第二言語習得研究—理論から研究法まで』研究社.

■ 参考書

Jim Cummins (2021). Rethinking the Education of Multilingual Learners: A Critical Analysis of Theoretical Concepts. Multilingual Matters.

その他、授業中に提示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

英語教育学における博士論文執筆のための研究方法を学びながら、各自の研究方法を具現化する。授業においては、博士論文の調査課題を設定し、関連文献の理解の確認、ディスカッション、研究討議を中心に行う。

授業内容

第 1 回 オリエンテーション(コースの概要と評価について)

第 2 回～3 回 第二言語学習者の特性と第二言語習得研究の歴史

第 4 回～5 回 生成文法理論に基づく第二言語習得研究

第 6 回～7 回 処理可能性理論に基づく第二言語習得研究

認知的アプローチに基づく第二言語習得研究

第 8 回～9 回 指導と第二言語習得

第 10 回～11 回 年齢と第二言語習得

第 12 回～13 回 第二言語習得研究でのデータ収集方法

第 14 回～15 回 第二言語習得に関する研究論文の書き方

第 16 回 文献ノートの作り方

第 17 回～20 回 文献調査

第 21 回～23 回 調査課題と研究方法の検討

第 24 回～27 回 調査道具の作成と検討

第 28 回～30 回 当該論文の意義・文献調査・調査課題、調査方法の総点検

事前学修

次の授業で読むものや課題については、事前に指示ないし、資料を配布します。

事後学修

授業内での疑問点を解決する。関係する文献を自分で見つけるなど、自分が興味を持ったことに対して、自発的に研究に取り組む。

中国語教育学特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

曹 泰和 (そう たいわ)

■ 授業の概要

大学中国語教育の現状と課題を概観し、教授法について考究する。

■ 到達目標

一般目標：中国語教育において、修得が難しいとされる文法項目を把握し、それに関する研究成果を整理・提示することができる。

個別目標：①中国語教育の現状と課題を整理・説明し、新たな見解を提示することができる。

②専門的な文法知識を備えるとともに、教育上重要な未開拓の領域を見出し、それを研究する能力を身につける。

③教材開発において必要な知識や能力を身につける。

■ 履修条件

中国語教育、中国語文法、日中言語対照、教材開発に関心のある大学院生

■ 評価基準・方法

レポート 40 % プレゼンテーション 40 % 研究姿勢 20 %

■ フィードバック方法

課題等のフェードバックは、学修支援システム manaba またはメール等を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（教育関連の論文を読み、学生自身が問題提起してディスカッションする）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（毎回ではない）

■ 教科書

プリントを配布します。

■ 参考書

『中国語教育』中国語教育学会発行

『日本の中国語教育—その現状と課題・2002—』日本中国語学会

『漢語語音習得と教学研究』李智強著 北京語言大学出版社

『対外漢語教学語法探索』国家漢辦教学処編 中国社会科学院出版社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

中国語教育の過去と現状を踏まえて、中国語の教授法について考える

授業内容

中国語教育の過去及び現状についての論文を読み、各自で課題を考えて報告し、ディスカッションする。

中国語の教授法について、文法項目に関する具体的なテーマを取り上げる。例えば、「“了”をいかに教えるか」に関連する論文を読み、課題を考えて報告し、ディスカッションする。

中国語教材の作成過程を踏まえ、実践的に教材開発に取り組む。

事前学修

配布資料のレジメを作成し、報告の準備をする。

事後学修

紹介されている参考文献を読み、課題をまとめる。

言語接触特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

嶋田 珠巳 (しまだ たまみ)

■ 授業の概要

接触言語学分野の論文や文献を読んでその内容を理解し、検討する。

■ 到達目標

一般目標：言語接触に関する専門知識を身につけ、具体的な諸問題を考察する手がかりを得る。

個別目標：(1) 授業で扱った話題についてその内容を理解し、説明することができる。

(2) 教科書および諸論文の内容から、検討すべき中心的議論をあげて、考察を展開することができる。

(3) 自らの研究テーマとの関連において、諸事象を捉えることができる。

■ 履修条件

何らかの言語学(日本語学、英語学、社会言語学、応用言語学を含む)の素養のあること。

■ 評価基準・方法

評価基準：到達目標の(1)~(3)ができているか、あるいはその到達度。

方法：授業への取り組み 50%、レポート 50%をもとに、総合的に評価する。

■ フィードバック方法

授業内で質問などへのフィードバックを全体に対して行う。

試験等に関するフィードバックは希望者に面談にて応じる。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(授業内での発言が求められる。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

なし

■ 教科書

受講生の研究テーマ等を考慮して選定する。言語接触について書かれたいくつかの英語論文、日本語論文を使用する。

■ 参考書

嶋田珠巳・斎藤兆史・大津由紀雄 編 (2019)『言語接触——英語化する日本語から考える「言語とはなにか」』東京大学出版会。

他は適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

本授業の中心的なテーマは「言語接触の諸問題」である。

授業内容

バイリンガリズム、コードスイッチング、クレオール、土着化した変種、言語接触による文法形成、言語とアイデンティティ、日本における言語諸問題、言語教育などのトピックを取り上げる。いくつかの論文の精読を通して、研究の背景、論文の理解に必要な概念と理論、言語データなどを解説する。受講生の関心と疑問から討議を進める。

事前学修

あらかじめ授業で扱う論文を配布するので、読んでおく。参考書の関連箇所を読み、内容を整理しておく。

事後学修

考察を整理する。自らの研究テーマとの関わりにおいてさらに考察を深め、文献にあたる。

異文化間コミュニケーション特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

木山 三佳 (きやま みか)

■ 授業の概要

国や文化のレベルだけでなく個人レベルでも日常的に異文化接触が起きる現代社会において、異文化間コミュニケーションを正しく理解し、異なる文化の人と適切なコミュニケーションを行うスキルを身につける重要性は高まっている。本講義では、コミュニケーション論、コミュニケーションと社会の諸要素との関係性、異文化間コミュニケーション能力等について学ぶ。

■ 到達目標

一般目標：コミュニケーション論の基礎的な力を確認し、異文化間コミュニケーションの諸問題について理解を深め流を活発に行える力を身につけることを目指す。リスクコミュニケーションの領域での社会調査論的アプローチを学び、異文化間コミュニケーションの研究手法を身につける。

個別目標：コミュニケーション、異文化間コミュニケーションを構成する要素を説明できる
コミュニケーション、異文化間コミュニケーションの様相と関係性について説明できる
コミュニケーション、異文化間コミュニケーションを達成するために必要なことを説明できる
社会調査論的アプローチで異文化間コミュニケーションの研究計画を立てることができる

■ 履修条件

特になし

■ 評価基準・方法

授業内の課題 50 %、期末レポート 50 %

■ フィードバック方法

対面もしくは manaba でフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・話し合い学習法）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（文章作成、コメントシートの作成等に利用する。）

■ 教科書

- ①辻大介・是永論・関谷直也(2024)『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣
- ②本名信行、秋山高二、竹下裕子、ベイツ・ホッフア編著(2005)『第2版 異文化理解とコミュニケーション 1 ことばと文化』三修社
- ③福田充『リスクコミュニケーションとメディア 社会調査論的アプローチ』北樹出版

■ 参考書

本名信行、秋山高二、竹下裕子、ベイツ・ホッフア、ブルックス・ヒル編著(2005)『第2版 異文化理解とコミュニケーション 2 人間と組織』三修社
船本修三(2017)『「知る力」を身につける 情報社会のコミュニケーション能力』
そのほか、授業で指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

1～12 回はテキスト①、13～25 回はテキスト②、26～30 回はテキスト③である。

- 1 コミュニケーションとは何か
- 2 ことばとコミュニケーション
- 3 身体とコミュニケーション
- 4 談話・文章を理解するメカニズム
- 5 会話のダイナミクス
- 6 社会関係とコミュニケーション
- 7 親密性とコミュニケーション
- 8 都市空間とコミュニケーション
- 9 メディアの影響力—理論・学説を中心に
- 10 メディアの悪影響—検証の方法論を中心に
- 11 マーケティング・コミュニケーション
- 12 コーポレート・コミュニケーション
- 13 ことばと文化—人々から生まれて人々をつなぐ
- 14 コミュニケーションのしくみとはたらき
- 15 ことばの含み—表の意味、裏の意味
- 16 会話のなりたち—意図をどう伝えるか
- 17 コミュニケーション・スタイル—ところ変わればことばも変わる
- 18 男ことばと女ことば
- 19 文化とメタファー
- 20 通訳と翻訳—異文化の橋渡し
- 21 日本語教育と異文化コミュニケーション—タイからの報告
- 22 メディアと異文化ステレオタイプ
- 23 テレビ広告からみた日米文化比較
- 24 異文化理解の教育とトレーニング
- 25 コーモアと異文化コミュニケーション
- 26 リスクコミュニケーション研究
- 27 リスクとメディアに関する調査計画と仮説
- 28 現代人の持つリスク意識とその構造
- 29 リスクコミュニケーションとメディア
- 30 リスクに関する社会教育の可能性

授業内容

各回のテキスト内容についての議論を行う。
反転授業のスタイルで進めるので、事前学修として該当部分は各自読み進めること。

事前学修

テキスト本文を毎回読んでくること。テキストに紹介されている参考文献も必ず読んでおくこと。

事後学修

各回のテーマについて、授業内での議論を踏まえて、レポートを作成する。

言語習得特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

木山 三佳 (きやま みか)

■ 授業の概要

第二言語習得についての専門書・文献の講読

■ 到達目標

一般目標：第二言語習得に関わる最新の研究の知見を説明できる

個別目標：①第二言語習得の認知システムについて説明ができる

②自分の研究テーマに関わる最新の研究の知見を説明できる

■ 履修条件

提出期限の遵守

■ 評価基準・方法

①事後課題レポート、②事前課題(自分のテーマに関わる研究論文のレポートおよびコメント)

■ フィードバック方法

課題のフィードバックは manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（レジュメを共有する）

■ 教科書

授業内で紹介する

■ 参考書

Hughes &Reed 2017 Teaching and Researching Speaking , Routledge

Mackey &Gass 2012 Research Methods in Second Language Acquisition, Wiley-Blackwell

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

学習者の第二言語運用能力の発達について探究する。

授業内容

毎回、論文講読を行う。紹介する論文は 1 週間前に参加者に共有する。全員が一度以上その論文を読んでいることを前提に議論を行う。

事前学修

自分の研究テーマに沿った研究論文を探しリストを作成する。リストの中から、毎回 1~3 編をワークシートにまとめて提出する。発表担当回には、レジュメを作成する。

事後学修

紹介された論文についてレポートを作成する。担当回は、授業で受けた質問やコメントをまとめたレポートを作成する。

語用論特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

辰己 雄太 (たつみ ゆうた)

■ 授業の概要

語用論に関する専門書、論文などの精読及び論評

■ 到達目標

一般目標：語用論について、専門的な知識を習得する。

個別目標：1. 語用論の研究目的、意義、概要、研究方法などを明確に説明できるようになる。
2. 語用論に関する先行研究を体系的に理解し、説明することができる。

■ 履修条件

語用論を学ぶことが自身の研究課題にどのように役立つのかを明確に説明ができること。また、授業前後に毎回提示される課題に取り組み、提出物は必ず締め切りまでに提出すること。

■ 評価基準・方法

授業外学習への取り組み、課題の提出状況、授業内での議論への積極的な参加などを総合的に判断し、評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うこととする。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（必要に応じて、PowerPoint、Word などのソフトを搭載したノートパソコンを持参すること）

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

Horn, Laurence R. & Ward, Gregory, eds. 2005. The Handbook of Pragmatics. Malden, MA: Blackwell Publishing.

Birner, Betty J. 2013. Introduction to Pragmatics. Malden, MA: Wiley-Blackwell.

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

語用論についての専門的な知識を学ぶ。特に論理学や数学などの、証明や論理形式を重視する立場から、deixis、implicature、presupposition、speech acts などを中心に学ぶ。

授業内容

毎回、講義内で論文の精読を行う。取り上げる論文や専門書を事前に一度以上は読み、内容を理解していることを前提に議論を行う。

事前学修

事前に指示した文献や参考文献を必ず読み、発表担当になっている場合には事前に発表資料を作成すること。

事後学修

講義の中で扱った文献以外にも、関連する文献を自身で探し、積極的に学習を進めること。

意味論特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

辰己 雄太 (たつみ ゆうた)

■ 授業の概要

意味論に関する専門書、論文などの精読及び論評

■ 到達目標

一般目標：意味論について、専門的な知識を習得する。

個別目標：1. 意味論の研究目的、意義、概要、研究方法などを明確に説明できるようになる。
2. 意味論に関する先行研究を体系的に理解し、説明することができる。

■ 履修条件

意味論を学ぶことが自身の研究課題にどのように役立つのかを明確に説明ができること。また、授業前後に毎回提示される課題に取り組み、提出物は必ず締め切りまでに提出すること。

■ 評価基準・方法

授業外学習への取り組み、課題の提出状況、授業内での議論への積極的な参加などを総合的に判断し、評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うこととする。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（必要に応じて、PowerPoint、Word などのソフトを搭載したノートパソコンを持参すること）

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

Maienborn, Claudia, Klaus von Heusinger, and Paul Portner, eds. 2011-2012. *Semantics: An International Handbook of Natural Language Meaning*. Vols. 1-3. Berlin /New York: De Gruyter Mouton.

Aloni, Maria, and Paul Dekker, eds. 2016. *The Cambridge Handbook of Formal Semantics*. Cambridge: Cambridge University Press.

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

意味論についての専門的な知識を学ぶ。特に論理学や数学などの、証明や論理形式を重視する立場から、lambda calculus、scope、predicate logic、propositional logic などを中心に学ぶ。

授業内容

毎回、講義内で論文の精読を行う。取り上げる論文や専門書を事前に一度以上は読み、内容を理解していることを前提に議論を行う。

事前学修

事前に指示した文献や参考文献を必ず読み、発表担当になっている場合には事前に発表資料を作成すること。

事後学修

講義の中で扱った文献以外にも、関連する文献を自身で探し、積極的に学習を進めること。

対照言語学特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

中川 仁 (なかがわ ひとし)

■ 授業の概要

この授業では、対照言語学をただ単に、それぞれの個別言語学として共時的にみていくことだけではなく、言語の本質や意味を多角的な視点で解明していくことを主旨とする。言語学を音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の分析にととまらず、自己の客観的な視点とそれに伴う相関関係にある学問分野にも言及し、言語の周辺にある現象も同時に理解し、言語研究の本質を探究していくことを必要とする。つねに文献や言語現象に批判的な姿勢も必要ではあるが、そこから学ぶものや新たな発見的な要素もあるので、それぞれの事象に対して、つねに言及していくことをつけ加えておく。

■ 到達目標

一般目標：言語に対する客観的な視点を培養することができる。また言語現象に対しての本質的理解と探求心を身に付けることができる。自己の探究心により、批判的な側面と正当的な考え方を構築することができる。

個別目標：基礎言語学を分野ごとに詳しく説明ができる。また言語現象についても、その本質的な理解と批判的な視点を判断できるようになる。(つまり基礎言語学を多角的な視野から考察すること、その条件やことがらが説明できるということである。)

■ 履修条件

言語学の基礎的な知識とその周辺にある学問的な分野を習得していること。また先行研究に対する分析能力があることと文献に対して忠実であることを条件とする。(自ら考え、自らの疑問に探求心をもって接すること。)

■ 評価基準・方法

一定の回数の研究発表や毎回の討論にも積極的に参加し、毎回の課題を提出することを義務とする。また欠席については事前に連絡をすること。(評価方法は、授業時の発言や発表、毎回の課題の取り組みを含む。)

■ フィードバック方法

課題に関わるフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うこととする。また個別による指導を含めた、フィードバックを進める。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッション及びプレゼンテーション等を行う。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (事前事後における学修及び論文、課題作成においてパソコンを使用する。)

■ 教科書

とくに教科書は指定しないが、毎回の資料は manaba に於いて提示する。(プリントを配布することもある。)

■ 参考書

とくに参考書はないが、授業時にその都度、先行研究となる論文や資料、文献を紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：授業の心得として(対照言語学及び言語学の学問的意味) 授業内容：人間社会における言葉の存在を説明し、母語と日本語との対比を理解していく。また言語的な行動としての発話についても説明し、言及していく。 事前学修 2.0hr：人間と言語の関係について、自らの視点で考える。 事後学修 2.0hr：人と言葉の関係を客観性をもとにまとめる。	16 回	授業テーマ：研究計画書の作成 I 授業内容：自らの研究分野における計画書の作成をしていく。(それぞれの先行研究と文献について再度検討し、着眼点となる内容を整理していく。) 事前学修 2.0hr：研究計画書案を進め、先行研究と文献について考えてみる。 事後学修 2.0hr：研究計画書案で指導を受けた部分についてノートにまとめる。
2 回	授業テーマ：言語と歴史(共時的な側面と通時的な側面) 授業内容：言葉の共時態と通時態を説明し、それぞれの言語事象についての理解を深めていく。また母語との共時的レベルと通時的レベルについても考えていく。 事前学修 2.0hr：共時的な言語現象と通時的な言語現象の大枠を考える。 事後学修 2.0hr：言語の周辺にある現象について、そのながれをまとめる。	17 回	授業テーマ：研究計画書の作成 II 授業内容：自らの研究分野における計画書の作成をしていく。(それぞれの問題点及び疑問点を抽出し、それについて再度検討し、文献やデータを駆使して、その内容をまとめていく。) 事前学修 2.0hr：研究計画書案の問題点や疑問点をつい、客観的な視点で考える。 事後学修 2.0hr：研究計画書案の指導を受けた部分についてノートにまとめる。
3 回	授業テーマ：言語と社会(社会現象と言語との関係) 授業内容：社会における言葉の存在をそれぞれの段階として、階層、地域、集団などの言葉の差異を説明し、社会と言葉の関係性に言及していく。そして自国の言葉の階層、地域、集団などの特徴についても理解していく。 事前学修 2.0hr：言葉と社会の周辺的な事柄について考える。 事後学修 2.0hr：言葉の変遷を社会的な周辺的な事柄としてまとめる。	18 回	授業テーマ：研究計画書の作成 III 授業内容：自らの研究分野における計画書の作成をしていく。(それぞれの問題点及び疑問点を抽出し、それについて再度検討し、客観的な考察ができるように論を展開していく。) 事前学修 2.0hr：研究計画書案の問題点や疑問点をつい、客観的な視点で考えてみる。 事後学修 2.0hr：研究計画書案の指導を受けた部分についてノートにまとめる。
4 回	授業テーマ：言語と民族(言葉と民族誌との関係) 授業内容：言葉と民族の一体化の概念を『想像の共同体』をもとに説明し、その言葉と民族、国民国家的な概観を理解していく。(ベネディクト・アンダーソンのいう視点を理解していく。) 事前学修 2.0hr：言葉と民族の関係性を考える。 事後学修 2.0hr：言語と民族誌の生成をまとめる。	19 回	授業テーマ：研究計画書の作成 IV 授業内容：自らの研究分野における計画書の作成をしていく。(それぞれの問題点及び疑問点を抽出し、それについて再度検討し、解決策を見出し、その論を進めていく。) 事前学修 2.0hr：研究計画書案の問題点や疑問点の解決方法を把握する。 事後学修 2.0hr：研究計画書案の問題点や疑問点の解決方法を把握しノートにまとめる。
5 回	授業テーマ：言語とイデオロギー(言語とイデオロギーの本質への探究) 授業内容：言葉とイデオロギーの概念を『想像の共同体』をもとに説明し、その言葉と民族に関わるイデオロギーを理解していく。(ベネディクト・アンダーソンのいう視点を理解していく。) 事前学修 2.0hr：言語とイデオロギーの本質について考える。 事後学修 2.0hr：言語とイデオロギー、政治的な言語への操作についてまとめる。	20 回	授業テーマ：研究経過報告の準備に入る 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだしていく。そして自らの新たな論を展開していく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備しておく。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、次回の報告準備をする。
6 回	授業テーマ：言語と記号(言葉と文字の関係性) 授業内容：言葉の記号性という視点において、表記形態の表現方法を説明し、同時に少数言語の表記形態の表現方法についても理解していく。そして言葉と文字の関係性をも理解していく。 事前学修 2.0hr：文字の生成について考える。 事後学修 2.0hr：文字の生成過程をまとめる。	21 回	授業テーマ：研究経過報告と討論 I 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論していく。そしてその討論をもとに再度、検証していく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、次回の報告準備をする。
7 回	授業テーマ：個別言語の生成過程(言語の生成とその意義) 授業内容：個別言語における音声学・音韻論・形態論・統語論の立場から、とくに母語と対比し、それぞれのレベルにおいての特徴的な説明をし、その特徴の生成過程を見出し、理解していく。 事前学修 2.0hr：個別言語の生成過程について考える。 事後学修 2.0hr：個別言語の生成過程を客観的にまとめる。	22 回	授業テーマ：研究経過報告と討論 II 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論していく。そしてその討論に基づき、論の展開を考えていく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、次回の報告準備をする。

8 回	授業テーマ：個別言語の構造(言語の特徴を見出す) 授業内容：個別言語における統語論の立場から、とくに母語と対比し、それぞれの構造や規則性を見出し、理解していく。文構造の実態的な検証をおこない理解していく。 事前学修 2.0hr：個別言語の特徴をそれぞれ考える。 事後学修 2.0hr：個別言語の特徴を客観的な視点でまとめる。	23 回	授業テーマ：研究経過報告と討論Ⅲ 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論していく。そして結果についての論証を再度考えていく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、次回の報告準備をする。
9 回	授業テーマ：個別言語の言語行動(言語行動の特徴を見出す) 授業内容：個別言語における言語行動の立場から、とくに母語と対比し、それぞれの行動的な段階を説明していく。フィールド的な実証研究の視点から理解していく。 事前学修 2.0hr：言語行動の特徴について考える。 事後学修 2.0hr：言語行動の特徴とその本質についてまとめる。	24 回	授業テーマ：研究経過報告と討論Ⅳ 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論していく。そして結果についての論証を再度考えていく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、次回の報告準備をする。
10 回	授業テーマ：言語の定義とそのまとめ 授業内容：言葉の定義をまとめていく。そして言葉における研究方法論を理解していく。とくに混在する項目を整理し、まとめていき、それを説明していく。 事前学修 2.0hr：第 1 回から第 9 回までの言語研究の方法論を考える。 事後学修 2.0hr：第 1 回から第 9 回までの言語研究の基礎的な基盤をまとめる。	25 回	授業テーマ：研究経過報告と討論Ⅴ 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論していく。そして結果についての論証を再度考えていく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、次回の報告準備をする。
11 回	授業テーマ：言語に対する基礎知識のまとめとして 授業内容：言語学における基本的な考え方のまとめとして説明し、それぞれの分野における専門用語についても、再度、理解していく。 事前学修 2.0hr：第 1 回～第 9 回の言語研究の方法と問題点について考えてみる。 事後学修 2.0hr：第 1 回～第 9 回の言語研究の方法と問題点についてまとめる。	26 回	授業テーマ：研究経過報告と討論Ⅵ 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論した結果をまとめていく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、次回の報告準備をする。
12 回	授業テーマ：研究テーマの検討に入る(個々の研究分野との関連性を考える) 授業内容：自らの研究分野の説明をし、それについての関連性のある分野を整理していく。(それぞれの分野における研究の方向性を理解し、進めていく。) 事前学修 2.0hr：自らの研究テーマとの関連性について考えてみる。 事後学修 2.0hr：自らの研究テーマとの関連性についてノートにまとめる。	27 回	授業テーマ：研究経過報告と討論Ⅶ 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論した結果をまとめていく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、次回の報告準備をする。
13 回	授業テーマ：自らの研究テーマと文献との関わりを考える 授業内容：自らの研究分野における研究題目を説明し、それについての文献との関連性を整理していく。(それぞれの分野における研究の方向性と文献を整理し、それぞれの特徴を見出していく。) 事前学修 2.0hr：自らの研究テーマにより、その関わりのある文献に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：自らの研究テーマにより、その関わりのある文献についてノートにまとめる。	28 回	授業テーマ：研究経過報告と討論Ⅷ 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論した結果をまとめていく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、次回の報告準備をする。
14 回	授業テーマ：研究テーマの先行研究を考える 授業内容：自らの研究題目の説明をし、それについての先行研究を整理し、理解していく。(それぞれの分野における研究の方向性を理解し、先行研究から見出したものを再度検討していく。) 事前学修 2.0hr：研究テーマにより、その先行研究と文献リストを考える。 事後学修 2.0hr：研究テーマにより、その先行研究と文献リストをノートにまとめる。	29 回	授業テーマ：研究経過報告と討論Ⅸ 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論した結果を論として展開し、報告書をまとめていく。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過と討論した結果を把握し、研究報告書としてまとめる。
15 回	授業テーマ：研究計画書の作成に入る 授業内容：自らの研究分野における計画書の作成をしていく。(それぞれの問題点などを抽出し、それについてまとめていく。) 事前学修 2.0hr：研究計画書案の準備をする。 事後学修 2.0hr：研究計画書案の指導を受けた問題点や疑問点をノートにまとめる。	30 回	授業テーマ：研究経過報告と討論Ⅹ 授業内容：自らの研究分野における研究経過を打ち立てていく。(それぞれの研究課題の検証を説明し、解決策を導きだし、それについて討論した結果を論として展開し、報告書をまとめ完成させる。) 事前学修 2.0hr：研究経過の進捗状況について準備する。 事後学修 2.0hr：研究経過の結果を報告書としてまとめ完成させる。

統語論特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

嶋田 珠巳 (しまだ たまみ)

■ 授業の概要

統語論分野の文献を読んでその内容を理解し、論題について考察する。

■ 到達目標

一般目標：統語論の論題について、内容を理解し、考察を展開することができる。

個別目標：(1) 授業で扱った論文の内容を理解し、説明することができる。

(2) 検討すべき中心的な議論をあげて、考察を展開することができる。

■ 履修条件

英文が読めること。何らかの言語学(日本語学、英語学、応用言語学など)の素養のあること。

■ 評価基準・方法

評価基準：到達目標の(1)と(2)ができているか、あるいはその到達度。

方法：授業への取り組み 50%, レポート 50%をもとに、総合的に評価する。

■ フィードバック方法

授業内で適宜行う。評価等に関しては、希望に応じて面談を行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(内容理解、考察など、発言の機会がある。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

なし

■ 教科書

使用しない。

■ 参考書

James McCloskey (1996) "Subjects and subject position in Irish" in Borsley and Roberts, *The Syntax of the Celtic Languages: A Comparative Perspective*, Cambridge: Cambridge University Press.

Ian G. Roberts (2005) *Principles and Parameters in VSO Language: A Case Study in Welsh*, Oxford: Oxford University Press.

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

アイルランド英語に引き継がれるアイルランド語の統語的性質を McCloskey(1996) および Roberts (2005) を読みながら考察する。

授業内容

第 1～7 回 アイルランド英語の文法特徴と統語論上の問題の所在

第 8～20 回 VSO 言語の統語論に関する文献講読

第 21～25 回 アイルランド語の形態統語法

第 26～30 回 アイルランド英語に引き継がれるアイルランド語の統語的性質

事前学修

授業で扱う論文等を読んでおく。

事後学修

授業の内容を整理し、以降の考察に繋げる。

言語機能特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

嶋田 珠巳 (しまだ たまみ)

■ 授業の概要

言語学の文献を読んでその内容を理解し、検討する。

■ 到達目標

一般目標：言語学の専門知識を身につけ、文例をあげながら具体的に考察することができる。

個別目標：(1) 授業で扱った話題について、内容を理解し、説明することができる。

(2) 検討すべき中心的な論題を立てて、考察を展開することができる。

■ 履修条件

何らかの言語学(日本語学、英語学、社会言語学、応用言語学を含む)の素養のあること。

■ 評価基準・方法

評価基準：到達目標の(1)・(2)ができているか、あるいはその到達度。

方法：授業への取り組み 50%、レポート 50%をもとに、総合的に評価する。

■ フィードバック方法

質問等のフィードバックは授業内で全体に対して行う。

評価等のフィードバックは希望者に面談にて応じる。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(発言、討議の機会がある)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

なし

■ 教科書

指定しない。時間と言語について書かれたいくつかの日本語論文、英語論文を使用する。

■ 参考書

嶋田珠巳・鍛冶広真 編著『時間と言語』三省堂, 2021 年。

平田聡・嶋田珠巳 著『時間はなぜあるのか? チンパンジー学者と言語学者の探検』ミネルヴァ書房, 2022 年。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

本授業の中心的なテーマは「時の言語表現」である。特に、時間とダイクシスについて考察する。

授業内容

いくつかの論文の精読を通して、研究の背景、論文の理解に必要な概念と理論、言語データなどを解説する。受講生の関心と疑問から討議を進める。

事前学修

あらかじめ授業で扱う論文を配布するので、読んでおく。参考書の関連箇所を読み、内容を整理しておく。

事後学修

考察を整理する。授業で紹介する論文等を読み、さらに考察を深める。

近代英文学特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

佐藤 亨 (さとう とおる)

■ 授業の概要

近代英文学研究の一環としてロマン派を取り上げる。ロマン派とは 18 世紀末から 19 世紀初頭のヨーロッパにおいて、自由と平等を理想とするフランス革命に影響を受け、同時に、都市化や自然破壊などをもたらした産業革命による社会の変化への反動として生まれた文学潮流である。授業では、ウィリアム・ブレイク、ウィリアム・ワーズワス、サミュエル・テイラー・コールリッジ、ジョージ・ゴードン・バイロン、パーシィ・ビッシュ・シェリー、ジョン・キーツなどの詩人を取り上げ、作品を読解・鑑賞しながら、近代という時代、そして詩的想像力の在り様について考える。

■ 到達目標

一般目標：ロマン派の特徴として以下の点が挙げられる——理性よりも感情を重視、社会的規範からの解放と個性の重視、体制批判、自然回帰と自然賛美、中世主義、エキゾチシズム(異国趣味)など。以上の点を、実際に読んだ詩作品から詩行を引用しながら説明し、議論ができるようにしたい。

個別目標：ロマン派の特徴として以下の点が挙げられる——理性よりも感情を重視、社会的規範からの解放と個性の重視、体制批判、自然回帰と自然賛美、中世主義、エキゾチシズム(異国趣味)など。以上の点について、自分なりにテーマを設定し、8,000 字程度のレポートを書くこと。

■ 履修条件

積極性のある学生を望む。

■ 評価基準・方法

授業の参加度(出席回数ならびに発言など)とレポートから総合的に判断する。

■ フィードバック方法

リアクション・ペーパーを書いてもらい、一方通行にならないよう心掛ける。manaba を用いて質疑応答する。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(グループや全体でのディスカッションを行う)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(詩の背景となる画像などを紹介する)

■ 教科書

『ロマン派詩選』(上島健吉解説注釈、研究社)

■ 参考書

『イギリス・ロマン派詩人』(磯田光一、河出書房新社)

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

ロマン主義とは何かという問題をロマン派詩人の作品の読解を通して考える。同時に、近代の英国、ならびにヨーロッパについて考える視点を養成する。

授業内容

詩のテキストを正確に読むことを第一とする。その際、詩人の伝記的背景、歴史・社会・文化的背景などのコンテクストを踏まえたい。扱う詩人はウィリアム・ブレイク、ウィリアム・ワーズワス、サミュエル・テイラー・コールリッジ、ジョージ・ゴードン・バイロン、パーシィ・ビッシュ・シェリー、ジョン・キーツであるが、まずは各詩人の詩を一・二編ずつ読み、ロマン派全体の輪郭をとらえ(総論)、それから各詩人の問題(各論)に入っていきたい。

事前学修

読む予定の詩の予習。扱う詩人の伝記的背景、詩が書かれた時代や社会について調べてくる。

事後学修

扱った詩の内容、扱った詩人の伝記的背景、詩が書かれた時代や社会について確認する。

中国思想・文化特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

中嶋 諒 (なかじま りょう)

■ 授業の概要

朱熹(1130～1200)とその門人、陳淳(1159～1223)の文集資料を講読する。

■ 到達目標

一般目標：中国近世の思想文献を読み解く力を身につける。

個別目標：①中国古典語(漢文)を正確に理解できる。

②工具書を利用して、人名、地名等を調べることができる。

③検索システムなどを駆使して、出典を探し当てることができる。

■ 履修条件

中国古典語(漢文)を講読することになるので、現代中国語、または漢文訓読のいずれかに習熟していること。

■ 評価基準・方法

授業時の積極性(40%)、レポート(60%)

■ フィードバック方法

授業中の討論において、その都度指摘する。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(討論)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

なし

■ 教科書

授業時にテキスト(朱熹、陳淳の文集資料)を配布する。学生の興味関心にあわせて、その他のテキストを配布する場合もある。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

朱熹「玉山講義」と朱門陳淳「巖陵講義」を読む

授業内容

第1～15回 朱熹「玉山講義」を読む

第16～30回 陳淳「巖陵講義」を読む

事前学修

テキストの指定された箇所を目を通し、出典、固有名詞等を調べておく。

事後学修

再度指定された箇所を読んで、その内容を完全に理解する

中国古典文学特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

土谷 彰男 (つちや あきお)

■ 授業の概要

中国古典文学の作品講読を通じて、この分野に対する理解を深める。本年度は中唐・白居易『白氏文集』を取り上げる。博士前期課程では制科に応じた際の「策林」七十五篇(馬本巻六二～六五)を取り扱ったが、博士後期課程では、この「策林」精読を通じて得られた知見に基づき、「翰林制詔」(同巻五四～五七)を取り扱う。「翰林」は職名で翰林学士を指し、「制詔」は天子の詔勅を起草すること。唐代官制では、天子の詔勅は中書舍人や翰林学士の任にあった人物が手がけた。白居易は制科に登第したのち三十六歳にして翰林学士の職に就いた。授業ではこの「翰林制詔」を読み進めつつ、古典文体の読解に習熟するとともに、関連する史書・制書や作品などに対してこれを理解し、それらを通じて当時の社会機構に対してこれを深く考察したい。

■ 到達目標

一般目標：中国古典文学の作品精読を通じて、この分野に対する理解を深める。

個別目標：白居易『白詩文集』に収める「翰林制詔」の読解を通じてこれを理解するとともに、史書及び制書、ならびにその他の作品などを理解し当時の社会機構を考察する。

■ 履修条件

博士前期課程で中国古典文学特論を履修していることが望ましい。また、作品講読にあたって、漢文訓読又は現代中国語のいずれかに習熟していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

授業では受講者の間で作品を輪読する。受講者はあらかじめ与えられた作品に対して調査発表を行い、成績はその達成度に応じて評価される。なお、授業時における課題発見とその解決の積極性はこれを重視する。

■ フィードバック方法

授業における調査発表に対して適宜個別具体的にフィードバックを行う。追加調査を要する場合、manaba 等の e-learning システムを通じてフィードバックを行う場合もある。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

なし

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（関連する資料を参照する。）

■ 教科書

『白居易文集校注』第 3～4 冊(謝思焯校注、中華書局、2015)より該当箇所を印刷教材として、授業時にこれを配布します。

■ 参考書

『白氏文集』1～12 下巻(岡村繁著、明治書院、新釈漢文大系、1988～2018)

そのほか、授業時に適宜指示します。

「翰林制詔」(那波本巻三七～四〇)：『白氏文集』7 上(新釈漢文大系 103)

<https://www.meijishoin.co.jp/book/b98511.html>

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

制詔の文体と唐代社会

授業内容

『白居易文集校注』第 2 冊・巻第十七「翰林制詔一」のうち、「白氏文集の批判的研究」(花房英樹、1960)の「作品表」に示される次の作品番号の作品を取り扱う。

○ 3154 ○ 3155 ○ 3156 ○ 3157 ○ 3158 ○ 3159 ○ 3160 ○ 3161 ○ 3162 ○ 3163 ○ 3164 ○ 3165 ○ 3166 ○ 3167
○ 3168 ○ 3169 ○ 3170 ○ 3171 ○ 3172 ○ 3173 ○ 3174 ○ 3175 ○ 3176 ○ 3177 ○ 3178 ○ 3179 ○ 3180 ○
3181 ○ 3182 ○ 3183 ○ 3184 ○ 3185 ○ 3186 ○ 3187 (以上、翰林制詔一・三十七篇)

その上で、史書は『旧唐書(くとうじょ)』『新唐書(しんとうじょ)』『資治通鑑』など、制書は『唐六典』『唐会要』『冊府元龜(さつぷげんき)』『唐大詔令集』など、作品は白居易の諷刺詩など、これらを適宜参照する。

事前学修

作品の本文及び注釈のいずれもあらかじめ下読みを行い内容を理解し、授業発表の内容を用意する(1.5 時間をめやすとする)。

事後学修

授業を通じて得られた新たな知見は、文献に照らし合わせてこれを確認し理解を深める(1.5 時間をめやすとする)。

中国現代文学特講

開講学科等：応用博後 | 4 単位 | 開講期：通

河村 昌子 (かわむら しょうこ)

■ 授業の概要

張承志(Zhang Chengzhi,1948-)の日本論『敬重与惜別』(張承志著、梅村坦監訳『中国と日本——批判の刃を己に』垂紀書房 2015)から数篇を取り上げ、関連する作品や研究を参照しながら購読する。

■ 到達目標

一般目標：中国現代文学を研究する方法を身に付けることができる。

個別目標：①文中で言及されている事柄について調べることができる。

②文章を実証的な視点から読むことができる。

③実証的なアプローチを前提として、作者の思想を理解できる。

■ 履修条件

中国語を読んで、日本語に訳せることが望ましい。

■ 評価基準・方法

授業への取り組み 70 %、レポート 30 %で評価する。

■ フィードバック方法

課題等へのフィードバックは授業時に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(討論)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(Word を用いての資料作成)

■ 教科書

授業時に配布する。

■ 参考書

授業時に指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：張承志について 授業内容：張承志及び『敬重与惜別』について概要を解説する。 事前学修 2.0hr：授業の概要を読み、到達目標を理解する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	16 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(1) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第7章「文学的惜別」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
2 回	授業テーマ：文化大革命と紅衛兵運動 授業内容：文化大革命と紅衛兵運動について概要を解説する。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	17 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(2) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第7章「文学的惜別」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
3 回	授業テーマ：魯迅『呐喊』自序(1) 授業内容：魯迅『呐喊』自序を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	18 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(3) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第7章「文学的惜別」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
4 回	授業テーマ：魯迅『呐喊』自序(2) 授業内容：魯迅『呐喊』自序を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	19 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(4) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第7章「文学的惜別」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
5 回	授業テーマ：魯迅『藤野先生』(1) 授業内容：魯迅『藤野先生』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	20 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(5) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第2章「三笠公園」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
6 回	授業テーマ：魯迅『藤野先生』(2)竹内好『魯迅』(1) 授業内容：魯迅『藤野先生』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	21 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(6) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第2章「三笠公園」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
7 回	授業テーマ：太宰治『惜別』(1) 授業内容：太宰治『惜別』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	22 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(7) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第2章「三笠公園」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
8 回	授業テーマ：太宰治『惜別』(2) 授業内容：太宰治『惜別』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	23 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(8) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第3章「長崎筆記」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
9 回	授業テーマ：太宰治『惜別』(3) 授業内容：太宰治『惜別』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	24 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(9) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第3章「長崎筆記」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
10 回	授業テーマ：尾崎秀樹『惜別前後—太宰治と魯迅』(1) 授業内容：尾崎秀樹『惜別前後—太宰治と魯迅』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	25 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(10) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第3章「長崎筆記」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
11 回	授業テーマ：尾崎秀樹『惜別前後—太宰治と魯迅』(2) 授業内容：尾崎秀樹『惜別前後—太宰治と魯迅』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	26 回	授業テーマ：張承志『敬重与惜別』(11) 授業内容：張承志『敬重与惜別』第3章「長崎筆記」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。

12 回	授業テーマ：藤井省三『魯迅と日本文学』(1) 授業内容：藤井省三『魯迅と日本文学』「魯迅と太宰治——竹内好による伝記小説『惜別』批判をめぐって」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	27 回	授業テーマ：巴金『訪問広島』(1) 授業内容：巴金『訪問広島』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
13 回	授業テーマ：藤井省三『魯迅と日本文学』(2) 授業内容：藤井省三『魯迅と日本文学』「魯迅と太宰治——竹内好による伝記小説『惜別』批判をめぐって」を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	28 回	授業テーマ：巴金『訪問広島』(2) 授業内容：巴金『訪問広島』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
14 回	授業テーマ：『仙台における魯迅の記録』(1) 授業内容：仙台における魯迅の記録を調べる会編『仙台における魯迅の記録』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	29 回	授業テーマ：巴金『訪問広島』(3) 授業内容：巴金『訪問広島』を読む。 事前学修 2.0hr：資料を読み、関連事項を調べる。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。
15 回	授業テーマ：『仙台における魯迅の記録』(2) 授業内容：仙台における魯迅の記録を調べる会編『仙台における魯迅の記録』を読む。 事前学修 2.0hr：前期の教材及び関連資料を読み、振り返る。 事後学修 2.0hr：授業の内容を整理し、記録をとる。	30 回	授業テーマ：1年間のまとめ 授業内容：張承志の日本観を振り返る。 事前学修 3.5hr：授業の内容を振り返り、レポートを作成する。 事後学修 0.5hr：この授業の到達目標を達成できたか、確認する。

特別研究 I

開講学科等：応用博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

河村 昌子 (かわむら しょうこ)

■ 授業の概要

中国の近現代文学、近代以降の日中比較文学に関する博士論文作成の指導をします。

■ 到達目標

一般目標：博士論文執筆に向けて準備を進める。

個別目標：①研究テーマに関する先行研究を整理し、自分の研究の位置づけを明らかにすることができる。

②博士論文執筆の方向性を定めることができる。

③博士論文執筆に必要な資料を、適切に収集し、熟読して、学術的に分析できる。

④博士論文の一部となる学術論文を書きあげることができる。

■ 履修条件

研究対象の作品、関連する作品、一次資料を大量に読むこと。

研究テーマに関わる学会、研究会等に積極的に参加すること。

■ 評価基準・方法

授業中の取り組み 50 %、博士論文執筆に向けた作業の完成度 50 % で評価します。

■ フィードバック方法

課題等へのフィードバックは授業時に行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（討論）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、PowerPoint を用いての資料作成）

■ 教科書

使用しません。

■ 参考書

適宜指示します。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

博士論文に必要とされる基準を理解し、適切な研究を行い、適格な論文を執筆するための能力を発展させます。

授業内容

第 1,2 週：修士論文を基礎にして、博士論文のテーマを設定する。

第 3-6 週：博士論文のテーマに関する先行研究を収集して整理し、自分の研究の位置づけを明らかにする。

第 7-10 週：博士論文の一部となる学術論文のテーマを設定する。

第 11-20 週：学術論文のテーマに関する文献を熟読、分析する。

第 21-28 週：学術論文を書き進め、完成させる。

第 29-30 週：今後の研究課題を整理する。

事前学修

研究計画に沿って積極的に資料調査、文献読解、論文執筆を進めてください。

事後学修

意義ある研究成果をあげるために何が必要か考えながら、授業で見つけた不足点を補ってください。

特別研究 I

開講学科等：応用博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

木山 三佳 (きやま みか)

■ 授業の概要

博士論文の執筆の支援を行う。博士論文の構想を練るために、先行研究を読み理論的な基盤をつくり、自分の研究の焦点を絞る。博士論文の構成を考え、計画的に研究発表、論文執筆を行うための指導を行う。

■ 到達目標

一般目標：研究意義を明確にし、理論的枠組みのある博士論文を執筆、発表する。

個別目標：修士論文で明らかになった課題を解決する方法を考えられる。

研究領域における最新の研究動向を報告できる。

博士論文の目的を決め、研究の構成を決める。

計画的に調査を進める。論文を執筆する。

■ 履修条件

主体的、積極的な取り組みを期待する。

■ 評価基準・方法

年度末の研究レポートによって評価する。学内外の研究会に参加する。論文を発表する。

■ フィードバック方法

フィードバックは対面または manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（研究課題の整理や論文の共有に使用する。）

■ 教科書

特になし。

■ 参考書

授業内で指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

博士論文の構想を練る。

授業内容

第 1 回～第 5 回 修士論文を検討し、自分の研究の位置づけを明確にする。

第 6 回～第 10 回 研究テーマの学問領域での理論的基盤となる文献を読む。

第 11 回～第 15 回 読んだ文献を踏まえて、研究テーマが置かれている理論的な体系を整理する。

第 16 回～第 20 回 理論的枠組みを同じくする先行研究を読んで、研究課題と結果を整理し、研究の切り口を見つける。

第 21 回～第 25 回 見出した切り口から、考えうる研究課題を検討し、複数の研究課題の関係を考えながら、博士論文の題目を検討する。

第 25 回～第 30 回 研究課題ごとの研究計画をたてる。先行研究の構成を検討する。

事前学修

課題を与えられた場合、速やかに完成させておく。

事後学修

授業内で明らかになった課題に取り組む。

特別研究 I

開講学科等：応用博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

嶋田 珠巳 (しまだ たまみ)

■ 授業の概要

言語学における博士論文執筆のための研究指導を行う。授業においては、関連文献の理解の確認、ディスカッション、研究討議を中心に行う。

■ 到達目標

一般目標：博士論文の執筆に向けた準備を行う。

個別目標：(1) 学修する領域において、基礎的な内容が正しく理解できている。

(2) 授業で扱った論文の内容を正しく理解し、そのうえで批判的な考察ができる。

(3) 研究テーマを固め、そのテーマを追う手だてや関連論文が分かり、研究をすすめていける状態にある。

■ 履修条件

研究の方向性などについて、履修登録までに担当教員と面談していること。

■ 評価基準・方法

総合評価とする。

■ フィードバック方法

必要に応じて適宜行う。成績評価に関しても、希望により面談を行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（博士論文の取り組みはアクティブラーニングなしにありえない）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし

■ 教科書

受講生と相談して決める。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

第 1～3 回 研究領域とテーマの方向性

第 4～10 回 基本文献の読解

第 11～17 回 研究論文の読解と討議

第 18～21 回 博士論文テーマの決定

第 22～25 回 1 年次レポートの作成

第 26～30 回 フィードバックと研究討議

授業内容

第 1～3 回 研究領域とテーマの方向性

第 4～10 回 基本文献の読解

第 11～17 回 研究論文の読解と討議

第 18～21 回 博士論文テーマの決定

第 22～25 回 1 年次レポートの作成

第 26～30 回 フィードバックと研究討議

事前学修

前回の授業での指導内容に応じて学修を進める。

事後学修

授業内での疑問点を解決する。必要な文献にあたるなど、自分が興味をもったことがらに対して、自発的に研究に取り組む。

特別研究 I

開講学科等：応用博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

中川 仁 (なかがわ ひとし)

■ 授業の概要

日本語及び中国語との対照言語学研究、東アジアの言語政策及び言語問題についての研究、そして言語学との関連性のある分野をカルチュラルスタディーズの立場から研究していく方法などを研究課題として、もつ院生への指導をおこなうものである。また博士論文を作成するために、つねに探求心を持ち、先行研究と文献の整理を徹底し、論文執筆にあたり、その考察方法と独自性を十分に養うものである。(文献への忠実な理解と批判を着眼点におき、文献を解釈していく方法論を培っていく。)

■ 到達目標

一般目標：博士論文の一部(一章及び一節となる部分)となる論文を完成させ、自己の探究心とその新たな知見をきりひろくことができる。

個別目標：博士論文を書くための基礎的な知識を十分に説明できる。またその分野の文献等の解釈ができるようになる。(先行研究の文献を自分なりに解釈し、それを判断できる力を身に付けるということである。)

■ 履修条件

自己の探求心を持ち、研究に対して忠実であること。

■ 評価基準・方法

年度末に研究論文の一部として、博士論文の一部を提出する。または博士論文の一部として論文も発表する。(本学及び外部の論文集などへの投稿を積極的に行う。また学会及び研究会における口頭発表も含むこととする。)

■ フィードバック方法

課題に関わるフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うことと、個別による指導を含めた、フィードバックとで進める。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッション及びプレゼンテーション等を行う。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (事前事後における課題作成、論文執筆においてパソコンを使用する。)

■ 教科書

とくに用意はしないが、必要な文献等はその都度紹介する。

■ 参考書

先行研究として必要な論文や文献等はその都度紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

授業テーマ

第 1 回～第 5 回 研究の題目や論文作成の構想。

第 6 回～第 15 回 先行研究と文献の整理をおこない、基本に忠実な研究方法を構築していく。

第 16 回～第 20 回 整理した先行研究と文献について、どの程度把握したかを討議していく。

第 21 回～第 24 回 先行研究と文献についての考察や独自の見解を討議していく。(その研究方法には、文献研究及びフィールド調査等も含む。)

第 25 回～第 28 回 研究したものに対して発表をしていく。

第 29 回～第 30 回 博士論文の一部(一章及び一節となる部分)となる論文を完成させる。

授業内容

第 1 回～第 5 回 研究の題目について構想を練ること。

第 6 回～第 15 回 先行研究及び文献の整理をし、先人の考えと自分の考えの異なり方を見出し、研究方法を構築していくこと。

第 16 回～第 20 回 整理した先行研究と文献について、どの程度把握し、批判的にみているのか討議していくこと。

第 21 回～第 24 回 先行研究と文献についての考察や独自の見解を討議していくこと。(その研究方法には、文献研究、フィールド調査等も含む。)

第 25 回～第 28 回 自分の研究した見解や詳細をもとに発表をしていくこと。(学内外における勉強会及び研究会などで発表していくことを含む。)

第 29 回～第 30 回 博士論文の一部となる論文を完成させること。(学内外における紀要、論文集及びそれ以外の雑誌なども含む。)

事前学修

積極的に研究を進めていくこと。そして学内における研究会、発表会及び学外における研究会、学会にも参加し、発表することを進める。

事後学修

研究している過程でみられる新たな知見に対して、忠実に向かい合い、考察を進めていくこと。そして研究の独自性を構築していくこと。

特別研究Ⅱ

開講学科等：応用博後 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

中川 仁 (なかがわ ひとし)

■ 授業の概要

博士論文の作成に必要な論文執筆指導である。博士論文の構想を練り、研究課題を整理し、その課題を探索していくことに力点を置く。そして論文の執筆を進める。

■ 到達目標

一般目標：博士論文の一部となる論文を完成させ、自己の探究心とその新たな知見をきりひろくことができる。また探究心を養うための方策として、ある課題を設定することによって、その課題に言及し、どのような形で証明できるのか、その方法論を身につける。

個別目標：博士論文の主軸たる先行研究について整理したものを説明できる。またその論文の周辺にある分野をも包摂する形で、学術分野の一部として判断し、その分野を構築することができる。

■ 履修条件

自己の探究心を持ち、研究に対して、忠実であること。また基礎言語学及びその周辺にある分野の知見を深めること。つまり言語学との相関関係にある分野をも包摂する形で、探究心を養うという意味である。

■ 評価基準・方法

年度末に提出する研究論文で評価する。(学内及び学外においての研究機関が発行する論文集にも応募を試みる。)

■ フィードバック方法

課題に関わるフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うことと、個別による指導を含めた、フィードバックとで進める。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッション及びプレゼンテーション等を行う。)

■ 授業でのPCの利用(利用内容)

あり(事前事後における課題作成、論文執筆においてパソコンを使用する。)

■ 教科書

とくにないが、必要な文献等は、その都度紹介する。

■ 参考書

先行研究として必要な論文や文献等は、その都度紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

論文指導として、論文作成における基本的な知識を培養し、博士論文の構想を考える。

第1回～第3回 論文作成の心構え。(論文作成にあたり、基礎文献にしっかりとあたっておく)

第4回～第13回 研究課題を整理する。(基礎となりえる課題を整理及び分類していく)

第14回～第20回 論文作成における課題を整理する。(作成にあたり課題に言及する)

第21回～第24回 研究論文の骨格となる、論の推敲が適切か確認していく。

第25回～第26回 研究方法と論証の仕方が適切であるかを確認していく。

第27回～第28回 論の推敲と論証が適切であるかを討議していく。

第29回～第30回 博士論文の一部及び一節となる論を発表する。

授業内容

第1回～第3回 博士論文作成にあたっての心構え。

第4回～第13回 研究の題目や論文作成の構想。(論文作成の準備)

第14回～第20回 先行研究と文献の整理をおこない、基本に忠実な研究方法を構築していく。

第21回～第24回 整理した先行研究と文献について、どの程度把握し、批判的にみているのか討議していく。(研究論文の骨格を築いていく)

第25回～第26回 先行研究と文献についての考察や独自の見解を討議していく。(その研究方法には、文献研究及びフィールド調査研究を含む)

第27回～第28回 研究したものに対して、発表していく。

第29回～第30回 博士論文の一部となる論文を完成させる。

事前学修

積極的に研究を進めていくこと。そして学内での発表会及び学外での研究会、学会に参加し、発表すること。そしてその発表について、批評していただいたものを再度考えて、その課題を克服すること。

事後学修

研究している過程でみられる新たな知見に対して、忠実に向かい合い、考察を進めていく。また研究の独自性を構築していく。そして自らが提唱しようとする研究分野を確立すること。

特別研究Ⅲ

開講学科等：応用博後 | 3年次 | 4単位 | 開講期：通

河村 昌子 (かわむら しょうこ)

■ 授業の概要

中国の近現代文学、近代以降の日中比較文学に関する博士論文作成の指導をします。

■ 到達目標

一般目標：博士論文を完成させる。

個別目標：①研究テーマに関する先行研究を整理し、自分の研究の位置づけを明らかにすることができる。

②博士論文に用いる資料を、適切に収集し、熟読して、学術的に分析できる。

③学術的な討論を行い、それに基づいて自身の研究を改善していくことができる。

④適格な博士論文を書きあげることができる。

■ 履修条件

研究対象の作品、関連する作品、一次資料を大量に読むこと。

研究テーマに関わる学会、研究会等に積極的に参加すること。

■ 評価基準・方法

授業中の取り組み 50%、博士論文執筆に向けた作業の完成度 50% で評価します。

■ フィードバック方法

課題等へのフィードバックは授業時に行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（討論）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、PowerPoint を用いての資料作成）

■ 教科書

使用しません。

■ 参考書

適宜指示します。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

博士論文に必要なとされる基準を理解し、適切な研究を行い、適格な論文を完成させます。

授業内容

第 1,2 週：研究経過を再確認し、博士論文完成に向けて執筆計画を立てます。

第 3-10 週：博士論文の執筆を進めていきます。進捗状況にあわせて内容を確認し、論述の不備、不足を改善します。

第 11-15 週：博士論文全体の内容を確認し、論述の不備、不足を改善します。

第 16-19 週：プレゼンテーションの準備をします。

第 20-30 週：プレゼンテーションへの指摘に基づいて、論述の不備、不足を修正し、博士論文を完成させます。

事前学修

研究計画に沿って積極的に資料調査、論文執筆を進めてください。

事後学修

意義ある研究成果をあげるために何が必要か考えながら、授業で見つけた不足点を補ってください。

特別研究Ⅲ

開講学科等：応用博後 | 3年次 | 4単位 | 開講期：通

木山 三佳 (きやま みか)

■ 授業の概要

博士論文の指導を行う。博士論文を執筆する過程において、研究領域における広い知識を身に付け、論理性を高め、論文執筆の力を高める。

■ 到達目標

一般目標：博士論文を完成させる。

個別目標：研究領域についての最新の研究成果を含めた専門的な説明をすることができる。

目的、研究課題、研究方法、結果、考察に一貫性のある博士論文を執筆できる。

コメントを正しく理解し、修正を行える。

専門外の研究領域についても的確なコメントをすることができる。

■ 履修条件

査読付きの研究雑誌に研究論文を2本投稿し、研究発表を1回以上行う。

自分の研究領域以外の研究に積極的に関心を持つ。

ゼミや研究会で他者の研究に意義のあるコメントを行う。

■ 評価基準・方法

年度末に提出する研究論文(これは外部の論文提出も含む)で評価する。

■ フィードバック方法

課題および試験のフィードバックは manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッション)

■ 授業でのPCの利用(利用内容)

あり(研究課題の整理や論文の共有に利用する。)

■ 教科書

授業で指示する。

■ 参考書

J.Novak 1998 Learning, creating, and using knowledge, Routledge

Levy & Ransdell 2009 The Science of Writing, Routledge

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

博士論文の完成を目指す。

授業内容

第1回～第3回 博士論文執筆のプレゼンテーションをおこなう。

第4回～第13回 研究の題目や論文作成の構想。(論文作成の具体的な提示)

第14回～第20回 先行研究と文献の整理を再度おこなう、基本に忠実な研究方法を構築する。

第21回～第24回 整理した先行研究と文献について、どの程度把握したかを理解する。(研究論文の骨格を執筆する)

第25回～第26回 先行研究と文献についての考察や独自の見解を提示する。

第27回～第28回 研究したものに対して発表する。

第29回～第30回 博士論文を完成させる。

事前学修

積極的に研究を進める。

最新の研究成果を集める。

データの収集を計画的に行う。

論文の執筆を精力的に行う。

研究会、学会に参加し、発表する。

事後学修

研究課題の整理を更新する。他者のコメントを正しく理解し、修正を行う。

2026年度 応用言語学研究科 博士後期課程 特別研究指導テーマ一覧

職名	氏名	主な研究指導テーマ
教授	河村昌子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中国近現代文学の研究 ○ 日中比較文学（近代以降）
教授	木山三佳	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語能力の習得に関する研究（文法・語彙・談話） ○ 言語技能の習得に関する研究（聴解・読解・作文・会話） ○ 言語教育における指導法に関する研究
教授	嶋田珠巳	<ul style="list-style-type: none"> ○ フィールド調査による言語研究、文法に関する諸問題 ○ 接触言語学、言語のダイナミズム ○ 英語変種の多様性と連続性 ○ 社会言語学分野における研究
教授	中川 仁	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中国語及び日本語との対照言語研究 （音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論等による言語分析研究） ○ 中国語文化圏における言語問題と言語政策 （東アジアの言語状況と多言語主義、母語復権運動） ○ 日本における中国語研究 （戦後日本における中国語と方言研究） ○ 日本語教育と言語学との関連性

注：担当教員は変更となる場合があります。

経済学研究科

[修士課程]

ミクロ経済学特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

廣部 恒忠 (ひろべ つねただ)

■ 授業の概要

本講義の目的は、ミクロ経済学に関する研究論文を読む際に必要となる中・上級ミクロ経済学の標準的な内容を修得することである。ミクロ経済学は、人間の行動とその相互作用を分析するための基本的枠組みを提供する学問である。大学院におけるミクロ経済学の学修水準を担保しつつ、理論のみならず現実の経済問題への応用も配慮し、実証ミクロ経済学としての基礎的な素養を身につける。

■ 到達目標

- 一般目標：1. 大学院レベルにおけるミクロ経済学の学修内容を身につけることができる。
2. ミクロ経済学の理論・モデルを使って、現実の経済問題や経済現象を数理的に理解することができる。

- 個別目標：(1)市場メカニズムの特徴と政府の役割を、均衡分析とゲーム理論を使って、説明することができる。
(2)伝統的な価格理論と新進の戦略的ミクロ経済学の理論について理解し、その特徴を説明することができる。
(3)事例分析を通し、実証分析能力と理論の応用力を涵養する。

■ 履修条件

1. 1 年次の履修が望ましい。 2. マクロ経済学特論を 1 年次に同時に履修することが望ましい。

なお、下記授業スケジュール等についてはあくまで予定であり、授業の進捗状況等に拠り、適宜、柔軟に調整、修正、変更いたします。

■ 評価基準・方法

授業平常点 40 %、及びレポート課題等 60 %により総合評価し、また、フィードバックを含め学修過程において、適宜、manaba システム等を利用します。

■ フィードバック方法

manaba 等を利用して課題などのフィードバックを行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (授業状況に応じて)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (授業状況に応じて)

■ 教科書

神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 (2014 年)、神取道宏『ミクロ経済学の技』日本評論社 (2017 年)。

■ 参考書

必要に応じて、適宜、紹介します。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス (経済学の目的と方法) 授業内容：ガイダンスを実施 (経済学の目的と方法) 事前学修 2.0hr：ミクロ経済学特論の教科書を確認し、序文と目次に目を通す。 事後学修 2.0hr：経済学の 3 つの重要な概念 (均衡、最適化、経験主義) をまとめる。	16 回	授業テーマ：市場の失敗 (外部性) 授業内容：市場の失敗 (外部性) に係る解説など 事前学修 2.0hr：ピグー税の実例 (ロンドン混雑税) について調べる。 事後学修 2.0hr：ピグー税と補助金の問題点についてまとめる。
2 回	授業テーマ：消費者行動の理論 (家計の最適化行動) 授業内容：消費者行動の理論 (家計の最適化行動) に係る解説など 事前学修 2.0hr：凸集合、目的関数と制約式の理解を深める。 事後学修 2.0hr：最適消費計画問題を図を使って解く。	17 回	授業テーマ：外部性の解決 授業内容：外部性の解決に係る解説など 事前学修 2.0hr：交渉による外部性の解決について調べる。 事後学修 2.0hr：コースの定理についてまとめる。
3 回	授業テーマ：消費者行動の理論 (家計の最適化行動) 授業内容：事例分析、および必要な数学の知識についての補足など 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：教科書の該当箇所を復習する。	18 回	授業テーマ：市場の失敗 (公共財) 授業内容：市場の失敗 (公共財) に係る解説など 事前学修 2.0hr：公共財の最適供給量について調べる。 事後学修 2.0hr：公共財の最適供給条件とリンダール均衡についてまとめる。
4 回	授業テーマ：消費者行動の理論 (最適消費の性質) 授業内容：消費者行動の理論 (最適消費の性質) に係る解説など 事前学修 2.0hr：限界分析、ラグランジュの未定乗数法について理解を深める。 事後学修 2.0hr：スルツキー分解についてまとめる。	19 回	授業テーマ：市場支配力と独占 授業内容：市場支配力と独占に係る解説など 事前学修 2.0hr：独占企業の最適生産条件について調べる。 事後学修 2.0hr：独占の弊害と独占禁止法の関係についてまとめる。
5 回	授業テーマ：合理的行動 (合理性の考え方についてのグループディスカッションなど) 授業内容：合理的行動に係る解説など 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：合理的行動についてまとめる。	20 回	授業テーマ：事例分析 (自然独占と価格規制) 授業内容：事例分析 (自然独占と価格規制) の紹介など 事前学修 2.0hr：東北電力の規制価格を読む。 事後学修 2.0hr：限界費用価格規制と平均費用価格規制の利点と欠点を整理する。
6 回	授業テーマ：企業行動の理論 (生産関数) 授業内容：企業行動の理論 (生産関数) に係る解説など 事前学修 2.0hr：企業のとらえ方、凸と凹関数について調べる。 事後学修 2.0hr：利潤最大化と費用最小化の条件を理解し、まとめる。	21 回	授業テーマ：同時手番のゲームとナッシュ均衡 (1) 授業内容：同時手番のゲームとナッシュ均衡に係る解説など 事前学修 2.0hr：事例 (リエンシー制度) を読む。 事後学修 2.0hr：ナッシュ均衡が実現する理由についてまとめる。
7 回	授業テーマ：企業行動の理論 (費用関数) 授業内容：企業行動の理論 (費用関数) に係る解説など 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：短期と長期の費用曲線の関係についてまとめる。	22 回	授業テーマ：同時手番のゲームとナッシュ均衡 (2) 授業内容：同時手番のゲームとナッシュ均衡 (応用編) 事前学修 2.0hr：クルーノー・ナッシュ均衡について調べる。 事後学修 2.0hr：ベルトラン・モデルのナッシュ均衡についてまとめる。
8 回	授業テーマ：利潤と所得分配 (所得格差についてのグループディスカッションなど) 授業内容：利潤と所得分配に係る解説など 事前学修 2.0hr：なぜ所得格差が生まれるのかを考える。 事後学修 2.0hr：完全分配定理についてまとめる。	23 回	授業テーマ：不確実性と期待効用モデル 授業内容：不確実性と期待効用モデルに係る解説など 事前学修 2.0hr：不確実性と期待効用について調べる。 事後学修 2.0hr：期待効用モデルについてまとめる。
9 回	授業テーマ：市場均衡 (部分均衡分析) 授業内容：市場均衡 (部分均衡分析) に係る解説など 事前学修 2.0hr：準線形の効用関数とパレート改善について調べる。 事後学修 2.0hr：教科書の該当箇所を復習する。	24 回	授業テーマ：時間を通じたゲームと戦略の信頼性 (1) 授業内容：時間を通じたゲームと戦略の信頼性に係る解説など 事前学修 2.0hr：部分ゲーム完全均衡の概念について調べる。 事後学修 2.0hr：動学版ゲームの部分ゲーム完全均衡についてまとめる。
10 回	授業テーマ：事例分析 (TTP とコメの自由化) 授業内容：事例分析 (TTP とコメの自由化) の紹介など 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を復習する。 事後学修 2.0hr：コメの自由化に関する事実解明的・規範的な分析を整理する。	25 回	授業テーマ：時間を通じたゲームと戦略の信頼性 (2) 授業内容：時間を通じたゲームと戦略の信頼性 (応用編) 事前学修 2.0hr：金融危機と銀行破綻処理の事例を読む。 事後学修 2.0hr：コミットメントと繰り返しゲームの理論についてまとめる。

11 回	授業テーマ：市場均衡(余暇と労働供給) 授業内容：市場均衡(余暇と労働供給)に係る解説など 事前学修 2.0hr：後屈労働供給曲線について調べる。 事後学修 2.0hr：最適労働供給の条件についてまとめる。	26 回	授業テーマ：保険とモラル・ハザード 授業内容：保険とモラル・ハザードに係る解説など 事前学修 2.0hr：エージェンシーの理論について調べる。 事後学修 2.0hr：モラル・ハザードとその対策についてまとめる。
12 回	授業テーマ：市場均衡(厚生経済学の第1基本定理) 授業内容：市場均衡(厚生経済学の第1基本定理)に係る解説など 事前学修 2.0hr：契約曲線について調べる。 事後学修 2.0hr：財の交換に関するパレート効率性の条件についてまとめる。	27 回	授業テーマ：逆淘汰とシグナリング 授業内容：逆淘汰とシグナリングに係る解説など 事前学修 2.0hr：シグナリング均衡について調べる。 事後学修 2.0hr：労働市場のシグナリング均衡についてまとめる。
13 回	授業テーマ：市場均衡(厚生経済学の第2基本定理と経済政策) 授業内容：市場均衡(厚生経済学の第2基本定理と経済政策)に係る解説など 事前学修 2.0hr：効率性の条件について理解を深める。 事後学修 2.0hr：厚生経済学の第1定理と第2定理についてまとめる。	28 回	授業テーマ：実証ミクロ経済学の手法とその周辺の話題(1) 授業内容：実証ミクロ経済学の手法とその周辺の話題に係る解説など 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：教科書の該当箇所を復習する。
14 回	授業テーマ：市場メカニズムの特長(資源配分と所得分配) 授業内容：市場メカニズムの特長(資源配分と所得分配)に係る解説など 事前学修 2.0hr：市場メカニズムの情報効率性と誘因整合性について調べる。 事後学修 2.0hr：市場メカニズムの特長をまとめる。	29 回	授業テーマ：実証ミクロ経済学の手法とその周辺の話題(2) 授業内容：実証ミクロ経済学の手法とその周辺の話題(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：教科書の該当箇所を復習する。
15 回	授業テーマ：前期のまとめ 授業内容：スタディサマリーおよびグループディスカッションなど 事前学修 2.0hr：教科書の第1部 価格理論を再読する。 事後学修 2.0hr：教科書の該当箇所、或いは補足した学修事項などを復習する。	30 回	授業テーマ：実証ミクロ経済学の手法とその周辺の話題(3)および今年度のまとめ 授業内容：実証ミクロ経済学の手法とその周辺の話題(応用編)、その他 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：教科書の該当箇所を復習する。

マクロ経済学特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

影山 純二 (かげやま じゅんじ)

■ 授業の概要

本講義の目的は、マクロ経済学に関する研究論文を読む際に必要となる基礎知識を習得することです。具体的には、ソローの経済成長モデル、ライフサイクル・モデル、世代重複モデルなどの基本モデルを習得し、それらが研究に際してどう応用されているか学習します。また実証分析の手法についても概観します。

■ 到達目標

一般目標：マクロ経済学に関する研究論文を理解するために必要な基礎知識を習得すること。

個別目標：(1) 最適化モデルを理解すること。

(2) モデル分析が実証分析にどのようにつながっているか理解すること。

■ 履修条件

学部レベルのミクロ経済学とマクロ経済学を理解している必要があります。これらの知識がおぼつかない場合は、担当教員まで相談して下さい。

■ 評価基準・方法

課題 (80%) と試験 (20%)。課題及び定期試験のフィードバックは、授業中に行う。

■ フィードバック方法

随時、口頭または manaba 等を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッションへの積極的な参加を期待します。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (レポート作成に必要。)

■ 教科書

講義ノート『経済学のモデリング』を利用。その他、必要に応じて教科書を相談。

■ 参考書

デビッド・ローマー『上級マクロ経済学』他、随時紹介。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済学と数学の復習 事後学修 2.0hr：学部レベルの経済学と数学の復習	16 回	授業テーマ：ここまでの復習 授業内容：ここまでの復習 事前学修 2.0hr：課題を全て見直す 事後学修 2.0hr：課題を全て見直す
2 回	授業テーマ：学部レベルの経済学と数学の復習 授業内容：学部レベルの経済学と数学の復習 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済学と数学の復習 事後学修 2.0hr：学部レベルの経済学と数学の復習	17 回	授業テーマ：第 7 章 授業内容：世代重複モデル (需要側) (1) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
3 回	授業テーマ：学部レベルの経済学と数学の復習 授業内容：学部レベルの経済学と数学の復習 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済学と数学の復習 事後学修 2.0hr：学部レベルの経済学と数学の復習	18 回	授業テーマ：第 7 章 授業内容：世代重複モデル (需要側) (2) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
4 回	授業テーマ：第 1 章 授業内容：経済学とは？ 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	19 回	授業テーマ：第 7 章 授業内容：世代重複モデル (需要側) (3) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
5 回	授業テーマ：第 2 章 授業内容：最適化モデル (1) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	20 回	授業テーマ：第 7 章 授業内容：世代重複モデル (需要側) (4) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
6 回	授業テーマ：第 2 章 授業内容：最適化モデル (2) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	21 回	授業テーマ：第 7 章 授業内容：世代重複モデル (需要側) (5) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
7 回	授業テーマ：第 3 章 授業内容：2 財消費者モデル (1) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	22 回	授業テーマ：第 8 章 授業内容：世代重複モデル (供給側含む) (1) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
8 回	授業テーマ：第 3 章 授業内容：2 財消費者モデル (2) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	23 回	授業テーマ：第 8 章 授業内容：世代重複モデル (供給側含む) (2) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
9 回	授業テーマ：第 3 章 授業内容：2 財消費者モデル (3) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	24 回	授業テーマ：第 8 章 授業内容：世代重複モデル (供給側含む) (3) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
10 回	授業テーマ：第 4 章 授業内容：ネイピア数と自然対数 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	25 回	授業テーマ：第 9 章 授業内容：実証分析の理論：基本的な考え方 (1) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
11 回	授業テーマ：第 5 章 授業内容：微分 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	26 回	授業テーマ：第 9 章 授業内容：実証分析の理論：基本的な考え方 (2) 事前学修 4.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う

12 回	授業テーマ：ここまでの復習 授業内容：復習 事前学修 2.0hr：課題を全て見直す 事後学修 2.0hr：課題を全て見直す	27 回	授業テーマ：第 10 章 授業内容：計量モデル (1) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
13 回	授業テーマ：第 6 章 授業内容：ソローモデル (1) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	28 回	授業テーマ：第 10 章 授業内容：計量モデル (2) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
14 回	授業テーマ：第 6 章 授業内容：ソローモデル (2) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	29 回	授業テーマ：第 10 章 授業内容：計量モデル (3) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う
15 回	授業テーマ：第 6 章 授業内容：ソローモデル (3) 事前学修 2.0hr：対応する箇所を読む 事後学修 2.0hr：章末課題を行う	30 回	授業テーマ：総括 授業内容：学修内容の振り返り 事前学修 4.0hr：今までの学修内容を見直す 事後学修 2.0hr：今までの学修内容を見直す

実証分析特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

中澤 栄一 (なかざわ えいいち)

■ 授業の概要

経済学や経営学の分析を実際に行うことが可能になるためには、抽象的な理論モデルを用いた理論分析 (theoretical analysis) と、具体的な統計データを扱う実証分析 (empirical analysis) との、双方の知識を確実に身につける必要があります。この授業では、Excel や統計分析のソフトウェアを用いて、修士論文の作成や博士課程への進学に必要な実証分析の能力を身につけてもらうことを目的とします。なお、可能な限りコンピュータを用いた演習形式で授業を行う予定です。

■ 到達目標

一般目標：経済学やビジネスの諸問題に関して、自力で数量的な分析ができるようになることを一般目標とします。

個別目標：Excel や統計分析のソフトウェアを用いて、修士論文の作成や博士課程への進学に必要な実証分析の能力を身につけることができるようになることを個別目標とします。

■ 履修条件

学部レベルの統計学や計量経済学を学習した経験がない人は、以下の参考書に挙げた本を事前に読んで理解しておいてください。パンデミックの再発等の理由により、対面授業が実施できなくなった場合には、改めてコースニュースを通じて連絡します。

■ 評価基準・方法

原則として、毎回の課題の提出に基づいて評価します。

なお、遠隔授業になった場合は、指定された授業時間内に Zoom 等を用いたリアルタイム授業を行いますので、時間内に参加することを出席要件とします。

フィードバックは、対面授業中に行います。

■ フィードバック方法

授業中にフィードバックを行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (反転「流」授業)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (Excel を用いた統計分析、「R」を用いた統計分析)

■ 教科書

最初の授業で履修者と相談して決めます。

■ 参考書

松浦寿幸『独習! ビジネス統計』東京図書、2012 年。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：講義の概要説明 授業内容：授業の取り進め方や、成績評価の方法などについて、詳細に説明します。 事前学修 2.0hr：学部レベルの情報処理の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	16 回	授業テーマ：前期授業の復習 授業内容：今回は、経済データを用いた前期授業の総復習を行います。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
2 回	授業テーマ：Excel と統計分析ソフトウェアの操作方法 授業内容：日本の経済成長率の推移を表すグラフを作成し、経済成長率がマイナス成長となっている年の理由を説明してもらいます。 事前学修 2.0hr：学部レベルの情報処理の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	17 回	授業テーマ：会計データを用いた実証分析(1)：経営指標の計算と、レーダーチャートの作成 授業内容：会計データを用いた実証分析を扱います。 今回は手始めに、主な経営指標の計算と、レーダーチャートの作成を行います。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
3 回	授業テーマ：回帰分析の基礎：散布図の作成 授業内容：マクロ経済学で学んだ消費関数を求める準備として、所得を投資との関係をあらわす散布図を描いてもらいます。 事前学修 2.0hr：学部レベルの情報処理の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	18 回	授業テーマ：会計データを用いた実証分析(2)：損益分岐点の推計(1) 授業内容：今回と次回は、株式会社オリエンタルランドの財務データを用いて、損益分岐点分析を行う予定です。 今回の分析には、「スクATTER グラフ法」を用います。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
4 回	授業テーマ：回帰分析の基礎：消費関数の推定 授業内容：単回帰分析の公式にもとづき、Excel を用いて消費関数を求めてもらいます。 事前学修 2.0hr：学部レベルの情報処理の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	19 回	授業テーマ：会計データを用いた実証分析(3)：損益分岐点の推計(2) 授業内容：今回は、前期で学んだ回帰分析の方法を用いて、Excel により複雑な損益分岐点分析を行います。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
5 回	授業テーマ：回帰分析の基礎：財政支出乗数の推定(閉鎖経済のケース) 授業内容：マクロ経済学で学ぶ「乗数効果」の理論的知識を用いて、前回までに求めた消費関数の推定結果の意味を解釈します。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	20 回	授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(1)：回帰分析(1) 授業内容：今回からは、統計ソフト「R」を用いて、プログラミングによる実証分析を行います。 今回はデータの読み込みやプログラミングの基礎を学びます。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
6 回	授業テーマ：回帰分析の基礎：財政支出乗数の推定(開放経済のケース) 授業内容：今回はさらに、輸入関数を推定することにより、開放経済における政府支出乗数を計算し、前回の閉鎖経済のケースと比較します。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	21 回	授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(2)：回帰分析(2) 授業内容：今回はプログラミングに慣れるために、前々回の授業で Excel を用いて行った分析を、「R」を用いて行ってみます。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
7 回	授業テーマ：回帰分析の応用：生産関数の直接推定(制約なしモデル) 授業内容：今回からは、重回帰分析の例として、ミクロ経済学で学ぶ「生産関数」を推定します。今回は、時系列データ (time series data) を用いて「規模に関する収穫一定」の仮定をおかない「制約なしモデル」を推定します。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	22 回	授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(3)：回帰分析(3) 授業内容：今回は横断面データを用いて、Excel では難しい、説明変数の選択をプログラムによって行います。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。

8 回	<p>授業テーマ：回帰分析の応用：生産関数の直接推定(制約ありモデル) 授業内容：時系列データを用いて「規模に関する収獲一定」の仮定をおいた「制約ありモデル」を推定し、前回の推定結果と比較します。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>	23 回	<p>授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(4)：回帰分析(4) 授業内容：今回は、Excel では難しい回帰分析に付きまとう問題(多重共線性、不均一分散、系列相関)のテストと対処方法について学びます。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>
9 回	<p>授業テーマ：回帰分析の応用：生産関数の直接推定(分析結果の解釈) 授業内容：今回は、前回までの 2 回の授業で推定した、回帰分析の結果の見方を説明します。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>	24 回	<p>授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(5)：パネル分析(1) 授業内容：パネル・データを用いて、Excel では難しい高度な分析方法(固定効果モデル、変量効果モデル)を学びます。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>
10 回	<p>授業テーマ：回帰分析の応用：生産関数の直接推定(自力で分析を行えるようになる) 授業内容：これまでの授業で「製造業」について行った「生産関数の直接推定」の分析作業を、「非製造業(市場経済のみ、住宅・分類不明を除く)」について自力で行ってください。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>	25 回	<p>授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(6)：パネル分析(2) 授業内容：パネル分析の結果(プーリング・モデル、固定効果モデル、変量効果モデル)を比較する方法を学びます。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>
11 回	<p>授業テーマ：回帰分析の応用：生産関数の直接推定(フィードバック) 授業内容：これまでの授業で「製造業」について行った「生産関数の直接推定」の分析作業を「非製造業(市場経済のみ、住宅・分類不明を除く)」について自力で行い、分析結果に対して個別にフィードバックを行います。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>	26 回	<p>授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(7)：パネル分析(3) 授業内容：パネル・データを用いた基礎的な動学的分析の方法を学びます。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>
12 回	<p>授業テーマ：回帰分析の応用：生産関数の直接推定(横断面データ) 授業内容：今回は、横断面データ(cross section data)を用いた重回帰分析の方法を学びます。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>	27 回	<p>授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(8)：主成分分析(1) 授業内容：経営学や自然科学の分野で用いられることの多い、主成分分析(Principal Component Analysis)の方法を学びます。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>
13 回	<p>授業テーマ：回帰分析の応用：生産関数の直接推定(パネル・データ) 授業内容：今回は、パネル・データ(panel data)を用いた重回帰分析の方法を学びます。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>	28 回	<p>授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(9)：主成分分析(2) 授業内容：主成分分析(Principal Component Analysis)の結果を解釈する方法について学びます。 事前学修 2.0hr：研究発表の準備 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>
14 回	<p>授業テーマ：レポートの作成準備 授業内容：与えられたデータの「第 2 次産業」(ピンク色に塗られている産業)の中から特定の 1 産業を選び、生産関数を推計しなさい(分析には最新の時系列データを用いること)。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>	29 回	<p>授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(10)：因子分析(1) 授業内容：経営学や心理学の分野で用いられることの多い、因子分析(Factor Analysis)の方法を学びます。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>
15 回	<p>授業テーマ：レポートの完成とフィードバック 授業内容：与えられたデータの「第 3 次産業」(水色に塗られている産業)の中から特定の 1 産業を選び、生産関数を推計しなさい(分析には最新の時系列データを用いること)。今回は分析結果に対して個別にフィードバックを行います。 事前学修 2.0hr：学部レベルの経済数学の復習 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>	30 回	<p>授業テーマ：統計ソフト「R」を用いた実証分析(11)：因子分析(2) 授業内容：因子分析(Factor Analysis)の結果を解釈する方法について学びます。 事前学修 2.0hr：修士 1 年レベルの経済数学(線型代数/解析学) 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。</p>

データサイエンス特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通 | 備考：2025 年度以降入学生のみ履修可能

萩原 里紗 (はぎわら りさ)

■ 授業の概要

本授業は、大学院生を対象に、データサイエンスの理論と社会科学における実証研究への応用を体系的に学ぶことを目的とする。統計的推論、因果推論、パネルデータ分析、構造推定、合成コントロール法、機械学習、テキスト・SNS データ分析、ネットワーク分析、ベイズ統計などの主要手法を取り上げ、研究デザインからデータ分析、結果の解釈までの一連の研究プロセスを理解する。さらに、研究倫理および再現可能な研究実践についても扱い、実証研究を自立して設計・実行・発表できる能力の育成を目指す。

■ 到達目標

一般目標：本授業の一般目標は、データサイエンスの主要な理論と分析手法を理解し、社会科学における実証研究に応用できる能力を養うことである。統計的推論、因果推論、構造推定、機械学習などの方法論を体系的に学び、研究課題に応じた適切な分析手法を選択・実装し、結果を論理的に解釈・説明できる力を身につける。また、研究倫理や再現可能な研究実践の重要性を理解し、主体的に研究を遂行する基礎的能力の習得を目指す。

個別目標：1. 社会科学分野における実証研究の課題を理解し、現実社会の問題の背景にある要因やメカニズムを論理的に整理できる(問題発見力)
2. 研究課題に基づいて適切な仮説を設定し、その検証に必要なデータ、分析手法、および関連する先行研究を収集・整理できる(調査力)
3. 統計ソフト(R, Python 等)を用いてデータの整理・可視化・計量分析を行い、仮説を検証するための実証分析を実施できる(分析力)
4. 分析結果を適切に解釈し、研究成果を論理的に整理して発表・議論できる(発信力)

■ 履修条件

本授業は大学院レベルのデータ分析科目であり、統計学および計量経済学の基礎知識を有していることを前提とする。R や Python 等の統計ソフトの基本的な操作経験があることが望ましい。また、授業では英語の学術論文を読むため、英語文献を理解する基礎的な読解力を備えていること。

■ 評価基準・方法

平常点では、授業への出席状況、ディスカッションへの参加、グループワークへの協力姿勢など、授業への主体的な取り組みを総合的に評価する。課題では、授業内で提示するデータ分析課題の提出状況と内容を評価し、論理的構成や適切な引用、分析の妥当性を重視する(平常点：40 %、課題：60 %)

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、次回授業時に全員に対してまとめて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(グループワーク、実習形式の授業を実施する)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(グループワーク、データ収集・分析、論文・レポート・発表資料作成等で、毎回使用する)

■ 教科書

教科書は使用しない。教材として、授業資料を学修支援システム manaba にて配布する。

■ 参考書

Angrist, J. D., & Pischke, J.-S. (2015). *Mastering Metrics: The Path from Cause to Effect*. Princeton University Press.

Cunningham, S. (2021). *Causal Inference: The Mixtape*. Yale University Press.

Wooldridge, J. M. (2020). *Introductory Econometrics: A Modern Approach (7th ed.)*. Cengage Learning.

James, G., Witten, D., Hastie, T., & Tibshirani, R. (2021). *An Introduction to Statistical Learning (2nd ed.)*. Springer.

*授業では必要に応じて関連する学術論文を配布する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス：データサイエンスの位置づけ 授業内容：本授業の目的・構成の説明、データサイエンスの射程と研究分野での位置づけを概説する。 事前学修 1.0hr：シラバスの精読。 事後学修 2.0hr：自身の研究関心と本授業内容との対応関係を整理する。	16 回	授業テーマ：構造推定 IV (推定手法) 授業内容：NFXP 法やシミュレーション推定を扱う。 事前学修 2.0hr：指定論文の読解。 事後学修 2.0hr：推定手順を整理する。
2 回	授業テーマ：研究デザインと因果推論の基礎 授業内容：相関と因果の違い、反実仮想フレームワークを解説する。 事前学修 2.0hr：指定資料の読解。 事後学修 2.0hr：自身の研究テーマにおける因果関係を言語化する。	17 回	授業テーマ：構造推定 V (識別と計算上の課題) 授業内容：識別条件、計算負荷、初期値問題を解説する。 事前学修 2.0hr：前回内容の復習。 事後学修 2.0hr：構造推定の限界を整理する。
3 回	授業テーマ：データの種類の可視化 授業内容：横断・パネル・時系列データの特徴と探索的可視化を扱う。 事前学修 2.0hr：基本的なデータ構造の復習。 事後学修 2.0hr：簡単な可視化演習に取り組む。	18 回	授業テーマ：構造推定の応用例 授業内容：労働・産業組織等の分野における構造推定の応用研究を紹介する。 事前学修 2.0hr：事例論文の読解。 事後学修 2.0hr：自身の研究分野への応用可能性を検討する。
4 回	授業テーマ：統計的推論の基礎 授業内容：推定・検定・信頼区間の考え方を再確認する。 事前学修 2.0hr：統計学基礎の復習。 事後学修 2.0hr：演習問題への取り組み。	19 回	授業テーマ：合成コントロール法 授業内容：政策評価・制度変更を題材に、合成コントロール法の考え方や代表的応用例を扱う。 事前学修 2.0hr：指定論文の読解。 事後学修 2.0hr：自身の研究テーマへの適用可能性を検討する。
5 回	授業テーマ：線形回帰モデル 授業内容：OLS の仮定と推定量の解釈を整理する。 事前学修 2.0hr：回帰分析に関する基礎読書。 事後学修 2.0hr：回帰分析の実装演習。	20 回	授業テーマ：機械学習入門 授業内容：社会科学研究における機械学習の基本的な考え方や役割を概説する。 事前学修 2.0hr：統計的学習に関する基礎資料の読解。 事後学修 2.0hr：機械学習が有効となり得る場面を整理する。
6 回	授業テーマ：一般化線形モデル 授業内容：ロジット・プロビット等の非線形モデルを扱う。 事前学修 2.0hr：確率分布の復習。 事後学修 2.0hr：GLM を用いた演習。	21 回	授業テーマ：正則化手法 授業内容：Ridge, Lasso 等の正則化手法を解説する。 事前学修 2.0hr：線形回帰の復習。 事後学修 2.0hr：正則化手法の比較演習。
7 回	授業テーマ：モデル診断とロバスト推定 授業内容：不均一分散、外れ値、ロバスト標準誤差を解説する。 事前学修 2.0hr：指定論文の読解。 事後学修 2.0hr：モデル診断の実践演習。	22 回	授業テーマ：ツリー系モデル 授業内容：決定木・ランダムフォレストを扱う。 事前学修 2.0hr：指定資料の読解。 事後学修 2.0hr：モデルの特徴整理。

8 回	授業テーマ：パネルデータ分析 I 授業内容：固定効果・ランダム効果モデルを扱う。 事前学修 2.0hr：パネルデータの基礎理解。 事後学修 2.0hr：推定結果の解釈練習。	23 回	授業テーマ：モデル評価と交差検証 授業内容：汎化性能と評価指標を解説する。 事前学修 2.0hr：前回内容の復習。 事後学修 2.0hr：交差検証の実践。
9 回	授業テーマ：パネルデータ分析 II 授業内容：動学パネルモデルと推定上の課題を解説する。 事前学修 2.0hr：前回内容の復習。 事後学修 2.0hr：追加演習への取り組み。	24 回	授業テーマ：ネットワーク分析入門 授業内容：社会ネットワーク分析の基礎概念、中心性、ネットワーク構造を解説する。 事前学修 2.0hr：基礎資料の読解。 事後学修 2.0hr：簡単なネットワーク指標を計算する。
10 回	授業テーマ：因果推論手法 I (操作変数法) 授業内容：内生性と IV 推定の考え方を扱う。 事前学修 2.0hr：指定論文の読解。 事後学修 2.0hr：IV 設定の妥当性を検討する。	25 回	授業テーマ：テキストデータ分析 授業内容：テキストデータの前処理と基本的分析手法を解説する。 事前学修 2.0hr：テキスト分析概説の読解。 事後学修 2.0hr：簡単な分析演習。
11 回	授業テーマ：因果推論手法 II (差の差分法) 授業内容：DiD の識別仮定と応用例を解説する。 事前学修 2.0hr：事例論文の精読。 事後学修 2.0hr：自身の研究への適用可能性を検討する。	26 回	授業テーマ：SNS データ分析 授業内容：SNS データの取得方法と応用分析を扱う。 事前学修 2.0hr：前回内容の復習。 事後学修 2.0hr：研究への応用可能性を検討する。
12 回	授業テーマ：因果推論手法 III (回帰不連続デザイン) 授業内容：RDD の理論と実装上の注意点を扱う。 事前学修 2.0hr：指定資料の読解。 事後学修 2.0hr：RDD 設定例を整理する。	27 回	授業テーマ：研究倫理と再現可能性 授業内容：データ分析研究における研究倫理と再現可能性の基本原則を学ぶ。 事前学修 2.0hr：ガイドラインの読解。 事後学修 2.0hr：自身の研究計画を点検する。
13 回	授業テーマ：構造推定入門 I (縮約形との比較) 授業内容：構造モデルの考え方や政策反実仮定を解説する。 事前学修 2.0hr：基礎文献の読解。 事後学修 2.0hr：構造推定が必要となる研究課題を整理する。	28 回	授業テーマ：ベイズ統計の基礎 授業内容：事前分布・事後分布・MCMC の基本を解説する。 事前学修 2.0hr：確率論の復習。 事後学修 2.0hr：簡単なベイズ推定演習。
14 回	授業テーマ：構造推定入門 II (静学モデル) 授業内容：単純な効用最大化モデルと推定を扱う。 事前学修 2.0hr：モデル設定の予習。 事後学修 2.0hr：簡単な静学モデルを記述する。	29 回	授業テーマ：学生研究発表 I 授業内容：学生による研究発表と討論を行う。 事前学修 2.0hr：発表準備。 事後学修 2.0hr：コメントを踏まえた修正。
15 回	授業テーマ：構造推定 III (動学モデルの基礎) 授業内容：動学的最適化とベルマン方程式を解説する。 事前学修 2.0hr：動学モデルの直感的理解。 事後学修 2.0hr：モデル構造を図式化する。	30 回	授業テーマ：学生研究発表 II・総括 授業内容：研究発表の続きと授業全体の総括を行う。 事前学修 2.0hr：発表準備。 事後学修 2.0hr：授業内容の総整理。

税法通則特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

工藤 克宜 (くどう かつのり)

■ 授業の概要

この講義は、1 租税法総論、2 租税争訟法、3 国際課税の3部で構成しており、税法修士論文作成に必要な租税法の専門的な知識の習得を目指すものである。1 租税法総論では、租税法律主義、租税公平主義、租税法の解釈と適用を扱う。2 租税争訟法では、納税者の権利救済制度である国税不服申立制度、租税訴訟を扱い、判例研究の前提となる租税争訟制度について理解を深める。3 国際課税では、主な国際課税制度を概説する。各回の講義では、授業テーマに関連する判例研究も行う。

■ 到達目標

一般目標：税法修士論文の作成のために必要な租税法の解釈と適用等に関する専門的知識及び判例研究技法を身につけるとともに、国際課税制度の基本的な知識を習得する。

個別目標：①租税法律主義、租税公平主義、租税法の解釈と適用について理解し説明できる。

②租税争訟法について理解し説明できる。

③主な国際課税制度について基本的な内容を理解し説明できる。

■ 履修条件

学修成果を最終的に質の高い税法修士論文の作成につなげるため、事前配付資料及び manaba に搭載する資料など指定する資料を事前に読み込むこと。また、判例研究では、担当する事例を発表しディスカッションする。

なお、租税実体法を「所得課税法特論」等で扱うので、併せて履修すること。

■ 評価基準・方法

評価の基準(目安)は (1) 各回の講義への取組み、貢献が 50 %、(2) 各回の課題(レポート、小テストなど)への対応が 50 %である。

■ フィードバック方法

授業の履修状況に関して必要なフィードバックやアドバイスは各回の講義及び manaba の「個別指導コレクション」により行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(税法に共通する解釈・適用に係る主な論点等について各自の意見を発表しディスカッションする。判例研究では担当する事例を発表する。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(PC 等を活用して manaba の課題を提出する。)

■ 教科書

金子宏『租税法(二十四版)』(弘文堂、2021 年)

中里実ほか編『租税判例百選(第7版)』別冊ジュリスト(有斐閣、2021 年)

■ 参考書

佐藤英明『スタンダード所得税法(第4版)』(弘文堂、2024 年)

中尾巧、木山泰嗣『新・税務訴訟入門』(商事法務、2023 年)

新堂幸司『新民事訴訟法(第6版)』(弘文堂、2019 年)

税務大学校講本『国税通則法』(税務大学校)

増井良啓・宮崎裕子『国際租税法(第4版)』(東京大学出版会、2019 年)

川田剛『国際課税の基礎知識(11 訂版)』(税務経理協会、2021 年)

川田剛『基礎から身につく国際課税』(大蔵財務協会、2024 年)

ほか随時紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：講義の進め方、税法を学ぶに当たってのポイント(学修方法・情報収集の方法)や税法の読み方・解釈の仕方などに関する留意点について確認する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	16 回	授業テーマ：租税争訟法⑥租税訴訟総説 授業内容：租税訴訟の全体像を確認し、最高裁昭和 48 年 4 月 26 日第一小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「108」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
2 回	授業テーマ：租税法律主義①(憲法と租税法) 授業内容：憲法と租税法の関係について確認するとともに、最高裁昭和 60 年 3 月 27 日大法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「1」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	17 回	授業テーマ：租税争訟法⑦訴訟要件、訴えの利益 1 授業内容：訴訟要件について確認するとともに、訴えの利益について、最高裁昭和 60 年 4 月 23 日第三小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「109」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
3 回	授業テーマ：租税法律主義② 授業内容：租税法律主義について教科書で確認するとともに、東京高裁平成 7 年 11 月 28 日判決及び最高裁平成 22 年 7 月 6 日第三小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「4」「5」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	18 回	授業テーマ：租税争訟法⑧訴えの利益 2 授業内容：訴えの利益について、更正・再更正などのケースを考察するとともに、最高裁昭和 42 年 9 月 19 日第三小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「119」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
4 回	授業テーマ：租税法律主義③ 授業内容：租税法の解釈と通達の関係について最高裁昭和 33 年 3 月 28 日第二小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「6」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	19 回	授業テーマ：租税争訟法⑨立証責任 授業内容：租税訴訟における立証責任について確認し、東京高裁平成 6 年 3 月 30 日判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「111」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
5 回	授業テーマ：租税公平主義 授業内容：租税公平主義について教科書で確認するとともに、租税法律主義と租税公平主義の関係について大阪高裁昭和 44 年 9 月 30 日判決を採り上げて考える。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「9」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	20 回	授業テーマ：租税争訟法⑩執行停止、判決、原告訴訟、租税争訟法まとめ 授業内容：執行停止、判決、国側の原告訴訟等について確認し、横浜地裁小田原支部平成 7 年 9 月 26 日判決を検討する。 最後に、租税争訟法の講義を総括する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「11」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、別途指定する課題を作成・提出する。
6 回	授業テーマ：租税法の解釈と適用① 授業内容：租税法の解釈(文理解釈・趣旨解釈)について、最高裁平成 22 年 3 月 2 日第三小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「13」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	21 回	授業テーマ：国際課税①国際課税の基本構造、基礎概念 授業内容：国際課税の基本構造、基礎概念について確認し、東京高裁昭和 59 年 3 月 14 日判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「70」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。

7 回	授業テーマ：租税法の解釈と適用② 授業内容：租税法と私法の関係として「借用概念」について教科書で確認するとともに、最高裁平成 23 年 2 月 18 日第二小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「14」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	22 回	授業テーマ：国際課税②インバウンド取引の課税 授業内容：インバウンド取引の課税として、非居住者・外国法人、国内源泉所得などについて確認し、東京高裁平成 28 年 1 月 28 日判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「72」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
8 回	授業テーマ：租税法の解釈と適用③ 授業内容：民法の「信義則」と税法の関係について最高裁昭和 62 年 10 月 30 日第三小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「17」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	23 回	授業テーマ：国際課税③アウトバウンド取引の課税 授業内容：アウトバウンド取引の課税に関し、外国税額控除及び外国子会社配当益金不算入制度等を確認し、最高裁平成 17 年 12 月 19 日第二小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「19」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
9 回	授業テーマ：租税法の解釈と適用④ 授業内容：私法上の契約と税法における解釈・適用の関係について東京高裁平成 11 年 6 月 21 日判決を検討する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「18」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	24 回	授業テーマ：国際課税④租税条約 授業内容：租税条約の概要及び日米租税条約を確認し、東京地裁平成 29 年 2 月 17 日判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前の配付資料及び『租税判例百選』の「78」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
10 回	授業テーマ：課税要件事実論 授業内容：課税要件事実論の総論を確認し、最高裁平成 18 年 1 月 24 日第三小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「54」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	25 回	授業テーマ：国際課税⑤移転価格税制 1 授業内容：移転価格税制の概要、独立企業間価格の算定方法の全体像を確認し、東京地裁平成 29 年 4 月 11 日判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「76」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
11 回	授業テーマ：租税争訟法①租税争訟法総説 授業内容：納税者の権利救済と租税争訟法の全体像を確認する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	26 回	授業テーマ：国際課税⑥移転価格税制 2 授業内容：独立企業間価格の算定方法(続き)、無形資産取引等について確認し、東京高裁平成 27 年 5 月 13 日判決及などを検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「77」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
12 回	授業テーマ：租税争訟法②総額主義と争点主義 授業内容：総額主義と争点主義について確認し、最高裁昭和 56 年 7 月 14 日第三小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「120」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	27 回	授業テーマ：国際課税⑦外国子会社合算税制 1 授業内容：外国子会社合算税制について確認し、最高裁平成 21 年 10 月 29 日第一小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前の配付資料及び『租税判例百選』の「74」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
13 回	授業テーマ：租税争訟法③処分の意義、不服審査の手続き、再調査の請求 授業内容：処分の意義、不服審査の手続き、再調査の請求について確認し、最高裁平成 18 年 1 月 9 日第一小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「25」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	28 回	授業テーマ：国際課税⑧外国子会社合算税制 2 授業内容：引き続き外国子会社合算税制について確認し、最高裁平成 29 年 10 月 24 日第三小法廷判決及び最高裁令和 5 年 11 月 6 日判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「75」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
14 回	授業テーマ：租税争訟法④審査請求と国税不服審判所 授業内容：審査請求と国税不服審判所について確認する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	29 回	授業テーマ：国際課税⑨過少資本税制、過大支払利子税制 授業内容：過少資本税制及び過大支払利子税制について確認し、東京地裁令和 2 年 9 月 3 日判決を検討する。 事前学修 2.0hr：事前の配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
15 回	授業テーマ：租税争訟法⑤裁判事例を読む 授業内容：国税不服審判所の裁判事例の読み方、検索方法を確認し、実際に裁判事例を読む。 事前学修 2.0hr：事前配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	30 回	授業テーマ：国際課税⑩グローバル・ミニマム課税ほか 授業内容：グローバル・ミニマム課税制度の概要を確認するほか、最新の国際課税の動向を検討する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料を予習する。 事後学修 2.0hr：本講の授業を踏まえて別途指定する課題を作成・提出する。

財政学特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

中平 千彦 (なかひら かずひこ)

■ 授業の概要

この講義では、Rosen and Gayer, *Public Finance*(10th ed.) をテキストにして、財政学を「公権力体としての政府が行う経済活動の分析」として捉え、財政学の標準的理論と公共選択論および公共経済学の主要トピックスを学ぶ。あるいは、資源配分、社会的再分配、景気安定化などの社会目標と、政府・公共部門の望ましい行動、適正規模などの関係が研究される中で財政学が発展したことを意識しつつ、現代の財政学と財政学理論を学習する。さらに、公共財供給、規制、課税、経済厚生、公債負担と財政運営、公共投資と社会資本整備、費用便益分析、社会保障などの具体的項目も、講義時間の許す限り扱う。

■ 到達目標

一般目標：財政学、公共選択論、および公共経済学を分析手法として経済分析ができるようになる。

個別目標：各受講生が目標を見つけ、努力することで、財政学および公共経済学の基本的問題を、理論・実証の両面から捉えられるようになる。

■ 履修条件

・大学院生として最低限度の「英語で書かれた文献を理解する能力」を有すること。

・学部レベルの、ミクロ(マイクロ)経済学、マクロ経済学、統計学、計量経済学、財政学、公共経済学の知識を持っていること。

■ 評価基準・方法

・課題 1(25%)+課題 2(25%)+課題 3(25%)+課題 4(25%)=評価点 (100%) の評点配分で成績判定を行う。

・全課題の提出は義務であり、1 つでも未提出となった場合は単位を認定しない。また、課題点数が基準最低点を下回る場合は単位を認定しない。

■ フィードバック方法

・課題などのフィードバックは基本的に manaba を利用して行いますが、講義内またはオフィスアワーで個別対応することもあります。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(アクティブ・ラーニングの要素として、学習課題に、教員提示型の設問に加えて、受講生提示型の設問も含める)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(必要に応じてノート・パソコンを使った演習を行います)

■ 教科書

・Rosen, Harvey and Ted Gayer, *Public Finance*, 10th ed.(Global Edition)(pap), McGraw Hill Higher Education, 2014.

■ 参考書

・Gruber, Jonathan, *Public Finance and Public Policy*, 7th ed., Worth Publishers, 2022.

・Hillman, Arye L. *Public Finance and Public Policy: A Political Economy Perspective on the Responsibilities and Limitations of Government*, 3rd ed., Cambridge University Press, 2019.

・Hyman, David N. *Public Finance: A Contemporary Application of Theory to Policy*, 12th ed., Cengage Learning, 2020.

・Ihori, Toshihiro, *Principles of Public Finance*, Springer Verlag, 2018.

・Tresch, Richard W. *Public Finance: A Normative Theory*, 4th ed., Academic Press, 2022.

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：Tools of Positive Analysis (1) 授業内容：“Causation versus Correlation”、“Experimental Studies”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：シラバスを事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	16 回	授業テーマ：Efficient and Equitable Taxation (1) 授業内容：“Optimal Commodity Taxation”、“The Ramsey Rule”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
2 回	授業テーマ：Tools of Positive Analysis (2) 授業内容：“Observational Studies”、“Quasi-Experimental Studies”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	17 回	授業テーマ：Efficient and Equitable Taxation (2) 授業内容：“Optimal User Fees”、“Optimal Income Taxation”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
3 回	授業テーマ：Tools of Normative Analysis 授業内容：“The First Fundamental Theorem of Welfare Economics”、“Fairness and the Second Fundamental Theorem of Welfare Economics”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	18 回	授業テーマ：Efficient and Equitable Taxation (3) 授業内容：“Horizontal Equity”、“Costs of Running the Tax System”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
4 回	授業テーマ：Public Goods 授業内容：“Efficient Provision of Public Goods”、“The Privatization Debate”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	19 回	授業テーマ：The Personal Income Tax (1) 授業内容：“Excludable Forms of Money Income”、“Exemptions and Deductions”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
5 回	授業テーマ：Externalities 授業内容：“Public Responses to Externalities”、“Positive Externalities”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	20 回	授業テーマ：The Personal Income Tax (2) 授業内容：“Rate Structure”、“Taxes and Inflation”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
6 回	授業テーマ：Political Economy 授業内容：“Representative Democracy”、“Explaining Government Growth”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	21 回	授業テーマ：Personal Taxation and Behavior (1) 授業内容：“Labor Supply”、“Labor Supply and Tax Revenues”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
7 回	授業テーマ：Education 授業内容：“Justifying Government Intervention in Education”、“What Can Government Intervention in Education Accomplish?”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	22 回	授業テーマ：Personal Taxation and Behavior (2) 授業内容：“Tax-Preferred Savings Accounts”、“Taxes and the Capital Shortage”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。

8 回	授業テーマ：Cost-Benefit Analysis 授業内容：“Discount Rate for Government Projects”、“Valuing Public Benefits and Costs”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	23 回	授業テーマ：Personal Taxation and Behavior (3) 授業内容：“Portfolio Composition”、“A Note on Politics and Elasticities”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
9 回	授業テーマ：The Health Care Market 授業内容：“What’s Special about Health Care?”、“Do We Want Efficient Provision of Health Care?”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	24 回	授業テーマ：The Corporation Tax (1) 授業内容：“Investment Tax Credit”、“Efficient Tax Rate on Corporate Capital”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
10 回	授業テーマ：Government and the Market for Health Care 授業内容：“Private Health Insurance”、“Government Provision of Health Insurance: Medicare and Medicaid”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	25 回	授業テーマ：The Corporation Tax (2) 授業内容：“A Tax on Corporate Capital”、“A Tax on Economic Profits”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
11 回	授業テーマ：Social Security 授業内容：“Structure of Social Security”、“Effects of Social Security on Economic Behavior”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	26 回	授業テーマ：The Corporation Tax (3) 授業内容：“Taxation of Multinational Corporations”、“Corporation Tax Reform”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
12 回	授業テーマ：Income Redistribution: Conceptual Issues 授業内容：“Rationales for Income Redistribution”、“Expenditure Incidence”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	27 回	授業テーマ：Deficit Finance (1) 授業内容：“Neoclassical Model”、“Ricardian Model”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
13 回	授業テーマ：Expenditure Programs for the Poor 授業内容：“Income Maintenance and Work Incentives”、“Unemployment Insurance”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	28 回	授業テーマ：Deficit Finance (2) 授業内容：“Benefits-Received Principle”、“Intergenerational Equity”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
14 回	授業テーマ：Taxation and Income Distribution 授業内容：“Partial Equilibrium Models”、“General Equilibrium Models”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	29 回	授業テーマ：Fundamental Tax Reform: Taxes on Consumption and Wealth 授業内容：“Consumption Taxes”、“Value-Added Tax”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
15 回	授業テーマ：Taxation and Efficiency 授業内容：“Excess Burden Measurement with Demand Curves”、“Differential Taxation of Inputs”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	30 回	授業テーマ：Public Finance in a Federal System 授業内容：“The Teibout Model”、“Intergovernmental Grants”の項目について学びます。 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。

金融論特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

小黒 曜子 (おぐろ ようこ)

■ 授業の概要

本講義の目的は、現在の金融構造を理解することと、金融に関連する学術論文を読むために必要な知識を習得することです。現在の金融構造を理解するために、金融の歴史を学修することからスタートし、金融に関連する実証研究につなげられるように学修を進めていきます。

■ 到達目標

- 一般目標：・現在の金融構造を理解すること。
・金融に関連する学術論文を読むために必要な知識を習得すること。
- 個別目標：・金融の歴史を理解すること。
・先行研究の実証分析方法を理解すること。

■ 履修条件

- ・学部レベルのミクロ経済学とマクロ経済学の理論を理解していること。
- ・初回から必ず出席すること。
- ・関心を持って、講義に「参加」すること。

■ 評価基準・方法

プレゼンテーション 40 %、レポート・試験 40 %、講義への取組み度合い 20 %

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、講義、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（プレゼンテーション、ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（PPT 報告）

■ 教科書

適宜、指示します。

■ 参考書

- ・ R. Z. Aliber(著), C. P. Kindleberger(著) Manias, Panics, and Crashes: A History of Financial Crises, Seventh Edition
- ・ キンドルバーガー (著), アリバー (著), 高遠 裕子 (翻訳) 『熱狂、恐慌、崩壊 (原著第 6 版) 金融危機の歴史』
- ・ 小川 英治 『グローバル化と基軸通貨: ドルへの挑戦』
- ・ 深尾 光洋 『金融不況の実証分析—金融市場情報による政策評価』

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、イントロダクション 授業内容：この講義の概観、担当の割り当て 事前学修 2.0hr：ミクロ経済学・マクロ経済学の復習をする。 事後学修 2.0hr：復習、課題を行う。	16 回	授業テーマ：実証研究のイントロダクション 授業内容：参考になる学術論文の紹介 事前学修 2.0hr：計量経済学の復習を行う。 事後学修 2.0hr：復習、課題を行う。
2 回	授業テーマ：ニクソン・ショック 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	17 回	授業テーマ：基軸通貨米ドル(1) 授業内容：履修者によるディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所、該当論文を読む。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。
3 回	授業テーマ：中南米危機、累積債務問題 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	18 回	授業テーマ：基軸通貨米ドル(2) 授業内容：履修者によるディスカッション 事前学修 3.0hr：該当論文の手法を理解する。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。
4 回	授業テーマ：ブラザ合意 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	19 回	授業テーマ：基軸通貨米ドル(3) 授業内容：データについての情報交換、ディスカッション 事前学修 2.0hr：データを収集する。 事後学修 2.0hr：レポートを作成する。
5 回	授業テーマ：ブラック・マンデー 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	20 回	授業テーマ：ユーロ(1) 授業内容：履修者によるディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所、該当論文を読む。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。
6 回	授業テーマ：日本のバブル崩壊 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	21 回	授業テーマ：ユーロ(2) 授業内容：履修者によるディスカッション 事前学修 3.0hr：該当論文の手法を理解する。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。
7 回	授業テーマ：ユーロ 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	22 回	授業テーマ：ユーロ(3) 授業内容：データについての情報交換、ディスカッション 事前学修 2.0hr：データを収集する。 事後学修 2.0hr：レポートを作成する。
8 回	授業テーマ：金融工学 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	23 回	授業テーマ：円(1) 授業内容：履修者によるディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所、該当論文を読む。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。

9 回	授業テーマ：アジア通貨危機 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	24 回	授業テーマ：円(2) 授業内容：履修者によるディスカッション 事前学修 3.0hr：該当論文の手法を理解する。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。
10 回	授業テーマ：「ニュー・エコノミー」 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	25 回	授業テーマ：円(3) 授業内容：データについての情報交換、ディスカッション 事前学修 2.0hr：データを収集する。 事後学修 2.0hr：レポートを作成する。
11 回	授業テーマ：リーマン・ショック 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	26 回	授業テーマ：人民元(1) 授業内容：履修者によるディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所、該当論文を読む。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。
12 回	授業テーマ：ユーロ危機 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	27 回	授業テーマ：人民元(2) 授業内容：履修者によるディスカッション 事前学修 3.0hr：該当論文の手法を理解する。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。
13 回	授業テーマ：金融の歴史の総まとめ(次なる危機?) 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	28 回	授業テーマ：人民元(3) 授業内容：データについての情報交換、ディスカッション 事前学修 2.0hr：データを収集する。 事後学修 2.0hr：レポートを作成する。
14 回	授業テーマ：世界金融情勢の今後の展望 授業内容：報告担当者による報告、ディスカッション 事前学修 3.0hr：資料該当箇所を読み、プレゼンテーション・ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：復習、課題を行う。	29 回	授業テーマ：研究報告(1) 授業内容：これまでに行った実証分析をまとめた研究報告、ディスカッション 事前学修 4.0hr：報告準備をする。 事後学修 2.0hr：レポート(最終)を作成する。
15 回	授業テーマ：第1回試験 授業内容：第14回までの内容についての試験 事前学修 3.5hr：試験準備をする。 事後学修 0.5hr：復習を行う。	30 回	授業テーマ：研究報告(2) 授業内容：これまでに行った実証分析をまとめた研究報告、ディスカッション 事前学修 4.0hr：報告準備をする。 事後学修 2.0hr：レポート(最終)を作成する。

経済政策特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

宮崎 礼二 (みやざき れいじ)

■ 授業の概要

伝統的に経済政策論において、「自由市場」vs.「政府介入」の対抗や、「小さな政府」or「大きな政府」の規模、あるいは「自由市場の美点」vs.「積極的な政府」のどちらを信用するのかなどが議論の俎上にのせられてきた。この議論が、保守 vs. リベラルの政策論争の基礎をなしてきた。本講義では、これら伝統的な政策論争の基礎を改めて捉えなおすために、社会の法則や政治制度がどのように道義的な理念、つまり所得と富の公正な分配という中心的課題に影響するのを取り扱う Political Economy の視点でアプローチする。

■ 到達目標

一般目標：1. 市場と経済政策との関係について説明できる。
2. 市場の機能と市場外の制度との関係性について現実の経済過程において説明できる。
3. 市場の存在についての自分の見解を説明できる。
4. 歴史具体的に格差と貧困について説明できる。

個別目標：1. ノートテーク能力を向上させる。
2. 個別的・具体的な事象を理論的・論理的に構成する能力を獲得する。
3. 論理的に説明する能力を身につける。

■ 履修条件

英語の読解力が必要。

■ 評価基準・方法

毎回の報告(80%)、レポート(20%)

■ フィードバック方法

授業内と manaba でフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（manaba の利用）

■ 教科書

受講生と相談して決める。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

受講生は、教科書の指定箇所のレジュメ作成と報告をおこない、討議を進める。

授業内容

指定のテキストの輪読。

事前学修

該当の章を予習し、討議の準備を行う。

事後学修

該当の章を復習する。

国際経済学特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

中澤 栄一 (なかざわ えいいち)

■ 授業の概要

この講義は、標準レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、および統計学の知識を前提として、以下の到達目標に沿って授業を行います。なお、履修者の研究テーマ上の関心に応じて、国際貿易論または国際金融論のいずれかの内容を扱います。(以下に挙げた毎回の授業内容等は、国際貿易論を扱う場合の授業計画の例になります。)

■ 到達目標

一般目標：理論分析の知識をもとに、統計データを用いた国際貿易または国際金融に関する理論分析・実証分析の方法と最新の研究成果を理解ができるようになることを一般目標とします。

個別目標：修士論文の作成や博士課程への進学に必要な、理論的な知識を現実の経済問題の数量的な分析に結びつける能力を身につけることを個別目標とします。

■ 履修条件

学部上級または中級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学および統計学をマスターしていることを前提としますので、これらの科目を履修していない学生は、「理論経済学特論Ⅰ」「理論経済学特論Ⅱ」および「実証分析特論」の授業の単位を取ってから、2年時にこの授業を履修してください。

■ 評価基準・方法

授業中の発表等に基づいて成績を評価します。

なお、遠隔授業になった場合は、指定された授業時間内に Zoom 等を用いたリアルタイム授業を行いますので、時間内に参加することを出席要件とします。

■ フィードバック方法

授業中にフィードバックを行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (講義内容の演習)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (講義内容の演習)

■ 教科書

履修者と相談して決めます。

■ 参考書

WTO and UNCTAD (2012), A Practical Guide to Trade Policy Analysis, United Nations and World Trade Organization.

英語版：

https://www.wto.org/english/res_e/publications_e/wto_unctad12_e.pdf

中国語版：

<https://vi.unctad.org/tpa/web/vol1/chinese.html>

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：講義の概要説明 授業内容：講義の概要説明をします。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	16 回	授業テーマ：実証分析の方法について：統計学と計量経済学の分析手法の基礎を復習 授業内容：実証分析の方法について：統計学と計量経済学の分析手法の基礎を復習します。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
2 回	授業テーマ：関税の効果(小国のケース) 授業内容：関税の効果(小国のケース)について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	17 回	授業テーマ：貿易フロー(1)：基本的なツール 授業内容：貿易フロー(1)：基本的なツールについて、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
3 回	授業テーマ：関税の効果(大国のケース) 授業内容：関税の効果(大国のケース)について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	18 回	授業テーマ：貿易フロー(2)：統計データと測定上の問題 授業内容：貿易フロー(2)：統計データと測定上の問題について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
4 回	授業テーマ：輸出補助金の効果 授業内容：輸出補助金の効果について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	19 回	授業テーマ：貿易フロー(3)：実践的方法 授業内容：貿易フロー(3)：実践的方法について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
5 回	授業テーマ：輸入数量割当の効果 授業内容：輸入数量割当の効果について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	20 回	授業テーマ：貿易政策の数量化(1)：基本的なツール 授業内容：貿易政策の数量化(1)：基本的なツールについて、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
6 回	授業テーマ：リカード・モデルの理論的基礎 授業内容：リカード・モデルの理論的基礎について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	21 回	授業テーマ：貿易政策の数量化(2)：統計データと測定上の問題 授業内容：貿易政策の数量化(2)：統計データと測定上の問題について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
7 回	授業テーマ：リカード・モデルの理論的発展 授業内容：リカード・モデルの理論的発展について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	22 回	授業テーマ：貿易政策の数量化(3)：実践的方法 授業内容：貿易政策の数量化(3)：実践的方法について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
8 回	授業テーマ：ヘクシャー=オリーン・モデルの理論的基礎 授業内容：ヘクシャー=オリーン・モデルの理論的基礎について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	23 回	授業テーマ：グラビティ・モデル(1)：グラビティ方程式の理論的基礎とさまざまな分析手法 授業内容：グラビティ・モデル(1)：グラビティ方程式の理論的基礎とさまざまな分析手法について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。

9 回	授業テーマ：ヘクシャー＝オリーン・モデルの理論的発展 授業内容：ヘクシャー＝オリーン・モデルの理論的発展について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	24 回	授業テーマ：グラビティ・モデル(2)：高度なモデリングの問題／統計データと測定上の問題 授業内容：グラビティ・モデル(2)：高度なモデリングの問題／統計データと測定上の問題について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
10 回	授業テーマ：規模の経済による国際貿易の理論的基礎 授業内容：規模の経済による国際貿易の理論的基礎について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	25 回	授業テーマ：グラビティ・モデル(3)：データセットの構築と実践的分析方法 授業内容：グラビティ・モデル(3)：データセットの構築と実践的分析方法について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
11 回	授業テーマ：規模の経済による国際貿易の理論的発展 授業内容：規模の経済による国際貿易の理論的発展について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	26 回	授業テーマ：貿易政策の部分均衡分析(1)：基本的なツール 授業内容：貿易政策の部分均衡分析(1)：基本的なツールについて、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
12 回	授業テーマ：海外アウトソーシングの理論的基礎 授業内容：海外アウトソーシングの理論的基礎について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	27 回	授業テーマ：貿易政策の部分均衡分析(2)：統計データと実践的方法 授業内容：貿易政策の部分均衡分析(2)：統計データと実践的方法について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
13 回	授業テーマ：海外アウトソーシングの理論的発展 授業内容：海外アウトソーシングの理論的発展について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	28 回	授業テーマ：貿易政策の一般均衡分析(1)：基本的なツール 授業内容：貿易政策の一般均衡分析(1)：基本的なツールについて、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
14 回	授業テーマ：新貿易理論～新貿易理論の理論的基礎 授業内容：新貿易理論～新貿易理論の理論的基礎について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	29 回	授業テーマ：貿易政策の一般均衡分析(2)：統計データと実践的方法 授業内容：貿易政策の一般均衡分析(2)：統計データと実践的方法について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。
15 回	授業テーマ：新貿易理論～新貿易理論の理論的発展 授業内容：新貿易理論～新貿易理論の理論的発展について、講義形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的なミクロ経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。	30 回	授業テーマ：貿易政策の一般均衡分析(3)：統計データと実践的方法 授業内容：貿易政策の一般均衡分析(3)：統計データと実践的方法について、演習形式で授業を行います。 事前学修 2.0hr：修士レベルの標準的な統計学・計量経済学 事後学修 2.0hr：授業で行った演習課題を自力で reproduce できるようにすること。

グローバル経済特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

宮崎 礼二 (みやざき れいじ)

■ 授業の概要

グローバル化が言われて久しい。「グローバル化」は「国際化」と同じなのだろうか。「グローバル化」と「グローバリズム」はどう違うのだろうか。

本講義はグローバル化をメインテーマに以下の2つの視点から講義を進める。

① 19世紀末から今日に至るおよそ150年間の世界経済の変遷を辿りながら、経済理論を道具に歴史具体的な経済事象を捉えなおして、今日急速に進行する「経済のグローバル化」現象を理解することを目指す。

② コロナ・パンデミック、米中対立、ロシアによるウクライナ侵略、トランプ大統領の再登場を契機に、グローバル化の潮流は逆流し始めている。改めて政治と経済の関係性を確認しながら、グローバル化の行方について検討する。

■ 到達目標

一般目標：1. グローバル化とはどのような現象かを説明できること。
2. 世界経済の変遷を、出来事の羅列ではなく、経済論理で再編成できること。
3. 歴史を相対化して現代経済を位置づけられること。
4. 現代多国籍企業の発展経路を世界経済の展開との連関で説明できること。

個別目標：1. 経済リテラシーを高めること。
2. 文献を自らの問題意識に引き付けて読みこなせるようになること。

■ 履修条件

英語読解力が必要である。

■ 評価基準・方法

報告を含む授業参加度(70%)、レポート(30%)

■ フィードバック方法

授業内とmanabaでフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッション)

■ 授業でのPCの利用(利用内容)

あり(manabaの利用)

■ 教科書

受講生と相談して決める。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

指定教材の担当箇所の報告と討論を中心に授業を進める。

授業内容

指定テキストの輪読。

事前学修

毎回の指定文献のレジュメ作成と参考文献を読んでくること。

事後学修

復習と参考文献による理解の補足と補強。

所得課税法特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

工藤 克宜 (くどう かつのり)

■ 授業の概要

我が国の税制の根幹を担う所得税及び法人税の課税対象はともに「所得」であるが、その仕組みはそれぞれ独自の課税理論に基づいている。前学期では所得税法の法理論的な問題や解釈・適用上の主な論点について学修する。後学期では法人税法について企業会計との関係、同法の中心的な規定である法 22 条及び法 22 条の 2 の規定をはじめ、同法の解釈・適用上の主な論点について学修する。各回の講義では、可能な限り関連する判例の検討も行う。

■ 到達目標

一般目標：本講の到達目標は、所得税法及び法人税法の基本構造、所得計算上の重要項目の趣旨・内容を理解し、法令解釈上の論点に関する学説及び重要な判例を理解し説明できることである。
個別目標：1 修士論文を作成するために必要な所得税法及び法人税法の基本構造、所得計算上の重要項目の趣旨・内容を理解し説明することができる。
2 所得税法及び法人税法の法令解釈上の論点に関する学説及び重要な判例を理解し説明することができる。

■ 履修条件

税法に関する修士論文を作成予定で、「税法通則特論」及び税法研究に関する「特別演習 I」を併せて履修すること。

■ 評価基準・方法

評価の基準(目安)は、(1) 各回の授業への取組みが 50 %、(2) 各回の課題(レポート、小テスト等)への対応が 50 %である。

■ フィードバック方法

授業の履修状況に関して必要なフィードバックやアドバイスは各回の講義及び manaba の「個別指導コレクション」により行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(所得税法及び法人税法に関する解釈・適用に係る主な論点等について各自の意見を発表しディスカッションする。判例研究では、担当する事例の発表を行う。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(PC 等を活用して manaba の課題を提出する。)

■ 教科書

金子宏『租税法(第二十四版)』(弘文堂、2021 年)
中里実ほか編『租税判例百選(第 7 版)』別冊ジュリスト(有斐閣、2021 年)

■ 参考書

佐藤英明『スタンダード所得税法(第 4 版)』(弘文堂、2024 年)
渡辺哲也『スタンダード法人税法(第 3 版)』(弘文堂、2023 年)
金子宏ほか『ケースブック租税法(第 6 版)』(弘文堂、2023 年)
成松洋一『法人税法 理論と計算(二十訂版)』(税務経理協会、2024 年)
税務大学校講本『所得税法(基礎編)』税務大学校
税務大学校講本『法人税法(基礎編)』税務大学校
ほか随時紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス・所得税(所得税法及び法人税法)の基本、所得税法(1) 授業内容：講義のガイダンス及び所得税法、法人税法を学ぶに当たってのポイント及び留意点などについて確認する。 事前学修 2.0hr：ガイダンスにおける指示事項を確認しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	16 回	授業テーマ：法人税法(1)(法人税の概要) 授業内容：法人税法を概観するとともに、法人税法を学修するに当たってのポイントを確認する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習する。
2 回	授業テーマ：所得税法(2)(所得概念) 授業内容：所得税法が採用する「包括的所得概念」について理解し、最高裁昭和 46 年 11 月 9 日第三小法廷判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「33」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	17 回	授業テーマ：法人税法(2)(法人税の基本構造) 授業内容：法人税法の性質、納税義務者及び課税所得の範囲、法人税の税率と税額計算について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「51」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
3 回	授業テーマ：所得税法(3)(課税単位、所得税額算出手順の概観) 授業内容：所得税の課税はどの範囲の個人に対してなされるかという課税単位の考え方について学修し、最高裁昭和 36 年 9 月 6 日大法廷判決を採り上げて研究する。また、所得税額算出手順を概説する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「30」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	18 回	授業テーマ：法人税法(3)(課税所得の計算原理) 授業内容：確定決算主義、公正処理基準、税務調整と損金経理、法人税の申告等について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「59」「65」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
4 回	授業テーマ：所得税法(4)(所得の帰属) 授業内容：経済的利得が誰の所得に帰属するのか学修し、最高裁昭和 51 年 3 月 18 日第一小法廷判決及び最高裁平成 16 年 11 月 2 日第三小法廷判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：『租税判例百選』の「31」「32」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	19 回	授業テーマ：法人税法(4)(益金の額の計算①) 授業内容：収益の認識基準、無償譲渡等について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「52」「53」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
5 回	授業テーマ：所得税法(5)(所得区分Ⅰ 利子所得及び配当所得) 授業内容：利子所得及び配当所得に係る税制について理解し、東京高裁平成 18 年 8 月 17 日判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所及び『租税判例百選』の「36」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	20 回	授業テーマ：法人税法(5)(益金の額の計算②) 授業内容：受取配当等の益金不算入等について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「54」「66」「68」「69」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
6 回	授業テーマ：所得税法(6)(所得区分Ⅱ 不動産所得) 授業内容：不動産所得について学修し、東京高裁平成 21 年 5 月 20 日判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所及び『租税判例百選』の「37」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	21 回	授業テーマ：法人税法(6)(損金の額の計算①費用の計上時期、同族会社等) 授業内容：損金の額の計上時期、棚卸資産の売上原価の計算、同族会社等について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「55」「56」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。

7 回	授業テーマ：所得税法(7)(所得区分Ⅲ 事業所得) 授業内容：事業所得について学修し、最高裁昭和 56 年 4 月 24 日第二小法廷判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所及び『租税判例百選』の「38」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	22 回	授業テーマ：法人税法(7)(損金の額の計算②役員等の給与、資産の評価損等) 授業内容：役員等の給与、資産の評価損等について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「60」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
8 回	授業テーマ：所得税法(8)(所得区分Ⅳ 給与所得及び退職所得) 授業内容：給与所得及び退職所得について学修し、最高裁平成 17 年 1 月 25 日第三小法廷及び最高裁昭和 58 年 12 月 6 日第三小法廷判決を採り上げて研究する。また、最高裁昭和 56 年 4 月 24 日第二小法廷判決を基に給与所得と事業所得の区分について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所及び『租税判例百選』の「39」「40」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	23 回	授業テーマ：法人税法(8)(損金の額の計算③寄附金、交際費等) 授業内容：寄附金、交際費、使途不明金等について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「61」「62」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
9 回	授業テーマ：所得税法(9)(所得区分Ⅴ 譲渡所得) 授業内容：譲渡所得について学修し、最高裁昭和 47 年 12 月 26 日第三小法廷判決、最高裁平成 4 年 7 月 14 日第三小法廷判決及び最高裁平成 17 年 2 月 1 日第三小法廷判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所及び『租税判例百選』の「41」「46」「47」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	24 回	授業テーマ：法人税法(9)(損金の額の計算④減価償却資産の償却費の計算) 授業内容：減価償却資産の償却費の計算について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料等及び『租税判例百選』の「57」「20」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
10 回	授業テーマ：所得税法(10)(所得区分Ⅵ 一時所得) 授業内容：一時所得について学修する。 事前学修 2.0hr：事前の配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	25 回	授業テーマ：法人税法(10)(損金の額の計算⑤繰延資産の償却費の計算等) 授業内容：繰延資産の償却費の計算、圧縮記帳、税額控除について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
11 回	授業テーマ：所得税法(11)(所得区分Ⅶ 雑所得) 授業内容：雑所得について学修し、最高裁平成 29 年 12 月 15 日第三小法廷判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所及び『租税判例百選』の「48」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	26 回	授業テーマ：法人税法(11)(損金の額の計算⑥租税公課等) 授業内容：租税公課等について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
12 回	授業テーマ：所得税法(12)(所得の計算Ⅰ 収入金額) 授業内容：収入金額について、収入の認識基準(「権利確定基準」と「管理支配基準」の関係など)を中心に学修する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所及び事前の配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	27 回	授業テーマ：法人税法(12)(損金の額の計算⑦引当金、貸倒損失、繰越欠損金等) 授業内容：貸倒引当金、貸倒損失、繰越欠損金、青色欠損金の繰戻し還付等について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「58」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
13 回	授業テーマ：所得税法(13)(所得の計算Ⅱ 必要経費) 授業内容：必要経費について法令の規定及び課税上の取扱いを学修し、必要経費算入の要件について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所及び事前の配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	28 回	授業テーマ：法人税法(13)グループ法人税制、グループ通算制度 授業内容：グループ法人税制、グループ通算制度について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
14 回	授業テーマ：所得税法(14)(損失の扱い、所得控除及び税額控除) 授業内容：所得計算上の損失の扱い、各種の所得控除及び税額控除について学修する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所及び事前の配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	29 回	授業テーマ：法人税法(14)組織再編税制、法人税申告・納付等 授業内容：組織再編税制、法人税申告・納付、青色申告の要件と特典等について概説する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料及び『租税判例百選』の「64」「63」を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
15 回	授業テーマ：所得税法(15)(所得税法のとめ) 授業内容：所得税法の講義を総括する。 事前学修 2.0hr：所得税法の講義内容全体を復習する。 事後学修 2.0hr：別途指定する課題を作成・提出する。	30 回	授業テーマ：法人税法(15)法人税法のとめ 授業内容：法人税法の講義を総括する。 事前学修 2.0hr：法人税法の講義内容全体を復習する。 事後学修 2.0hr：別途指定する課題を作成・提出する。

消費税法特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

工藤 克宜 (くどう かつのり)

■ 授業の概要

消費税は 1989 年に導入された比較的新しい税であるが、国民生活や経済取引に密接に関わっており、現在の税制や社会保障制度を支える基幹的な税となっている。近年、税制改正が頻繁に行われていることから消費税の仕組みについて正しく理解することが求められる。そこで、まず、消費税法の基礎理論と基本構造の骨格を理解した上で、経済取引の国際化を踏まえて「国境を越える取引と消費税」の関係や消費税制度が抱える諸問題(小規模事業者や中小事業者に対する特別制度の問題、軽減税率の問題、インボイスの導入など)について考える。これらを踏まえて、消費税法の解釈上の論点についての判例研究を行い、最後に消費税制度のあり方について考える。

■ 到達目標

一般目標：到達目標は、履修終了時点において、(1)消費税制度についての専門的知識を修得し(2)消費税法の解釈上の論点について深く考える法的思考力と判例考察の技法が身につけていることである。

個別目標：税法修士論文を作成するために必要な消費税制度及び消費税法の解釈上の論点についての専門的知識を修得し、重要な判例研究の技法が身につけている。

■ 履修条件

税法修士論文を作成予定で、「税法通則特論」及び「所得課税法特論」を併せて履修すること。

■ 評価基準・方法

評価基準は (1) 前学期における取組状況が 50 % (2) 後学期における「判例研究」の取組状況が 50 % である。

■ フィードバック方法

授業の履修状況に関して必要なフィードバックやアドバイスは各回の講義及び manaba の「個別指導コレクション」により行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (消費税制度のあり方や消費税法の解釈・適用に関する主な論点等について各自の意見を発表しディスカッションする。判例研究では担当する事例を発表する。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (PC 等を活用して manaba の課題を提出する。)

■ 教科書

佐藤英明・西山由美『スタンダード消費税法(第2版)』(弘文堂、2025年)(新版が出た場合はその版)

中里実ほか編『租税判例百選(第7版)』別冊ジュリスト(有斐閣、2021年)

■ 参考書

金子宏『租税法(第二十四版)』(弘文堂、2021年)

熊王征秀『消費税法講義録(第4版)』(中央経済社、2023年)

税務大学校講本『消費税法(基礎編)』(税務大学校)

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：講義の進め方、消費税法を学ぶに当たっての留意点、事例発表の担当等について確認する。 事前学修 2.0hr：事前に配付する資料等(manaba 搭載資料を含む)を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	16 回	授業テーマ：消費税法の問題について考える(1) 授業内容：消費税制度における中小事業者への課税(小規模事業者免税制度と簡易課税制度)の問題について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
2 回	授業テーマ：消費税法の基礎理論(1) 授業内容：消費税の基礎について確認するとともに、消費税の仕組みについて概観する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	17 回	授業テーマ：消費税法の問題について考える(2) 授業内容：「逆進性」の問題と軽減税率について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
3 回	授業テーマ：消費税法の基礎理論(2) 授業内容：日本の消費税の沿革と特色について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	18 回	授業テーマ：消費税法の問題について考える(3) 授業内容：インボイス制度について考える。 事前学修 2.0hr：インボイス制度について調べておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
4 回	授業テーマ：消費税法の基礎理論(3) 授業内容：日本の消費税の問題点(「益税」と「損税」)について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	19 回	授業テーマ：消費税の脱税・節税スキームについて考える 授業内容：消費税の脱税事案及び種々の節税スキームへの対応について考える 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
5 回	授業テーマ：消費税法の基礎理論(4) 授業内容：「ビジネスの多様化と消費税」について考える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	20 回	授業テーマ：判例研究(1) 授業内容：「役務提供の内外判定」の問題について、東京地裁平成 22 年 10 月 13 日判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：「租税判例百選」の「88」を予習し発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
6 回	授業テーマ：消費税法の基本構造(1) 授業内容：消費税の納税義務者及び消費税の課税対象(課税要件)について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	21 回	授業テーマ：判例研究(2) 授業内容：「輸出免税」に係る問題について、東京地裁平成 27 年 3 月 26 日判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：「租税判例百選」の「89」を予習し発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
7 回	授業テーマ：消費税法の基本構造(2) 授業内容：消費税の非課税取引について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	22 回	授業テーマ：判例研究(3) 授業内容：「免税事業者の課税売上高」の解釈について、最高裁平成 17 年 2 月 1 日第三小法廷判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：「租税判例百選」の「90」を予習し発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
8 回	授業テーマ：消費税法の基本構造(3) 授業内容：消費税の課税標準と税率について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	23 回	授業テーマ：判例研究(4) 授業内容：「課税仕入れを行った日」の解釈について、東京高裁令和元年 9 月 26 日判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：「租税判例百選」の「91」を予習し発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。

9 回	授業テーマ：消費税の基本構造(4) 授業内容：消費税の仕入税額控除の基本的な考え方と仕組みについて理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	24 回	授業テーマ：判例研究(5) 授業内容：「課税仕入れにおける対価の意義」について、大阪地裁平成 24 年 9 月 26 日判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：「租税判例百選」の「92」を予習し発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
10 回	授業テーマ：消費税の基本構造(5) 授業内容：非課税取引と仕入税額控除の関係と2つの計算方法について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	25 回	授業テーマ：判例研究(6) 授業内容：消費税法における「資産の譲渡」の概念(解釈)について、福岡高裁平成 24 年 3 月 22 日判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：「租税判例百選」の「93」を予習し発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
11 回	授業テーマ：消費税の基本構造(6) 授業内容：仕入税額控除の手続要件について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	26 回	授業テーマ：判例研究(7) 授業内容：「帳簿不提示と仕入税額控除」の問題について、最高裁平成 16 年 12 月 16 日第一小法廷判決を採り上げて研究する。 事前学修 2.0hr：「租税判例百選」の「94」を予習し発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
12 回	授業テーマ：消費税の基本構造(7) 授業内容：消費税の申告と納付について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	27 回	授業テーマ：消費税制度のあり方について考える(1) 授業内容：消費税が抱える問題点(「益税」及び「損税」の問題)について検討し今後のあり方を考える。 また、最高裁令和5年3月6日第一小法廷判決を検討する。 事前学修 2.0hr：manaba で別途指定する資料について予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
13 回	授業テーマ：国境を越える取引と消費税(1) 授業内容：輸入取引と輸出取引における課税又は免税について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	28 回	授業テーマ：消費税制度のあり方について考える(2) 授業内容：消費税が抱える問題点(「逆進性」の問題)について検討し今後のあり方を考える。 事前学修 2.0hr：manaba で別途指定する資料について予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
14 回	授業テーマ：国境を越える取引と消費税(2) 授業内容：国境を越えるデジタル取引(役務の提供)についての課税について理解する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。	29 回	授業テーマ：消費税制度のあり方について考える(3) 授業内容：消費税が抱える問題点(インボイス制度の課題)について考える。 事前学修 2.0hr：manaba で別途指定する資料について予習する。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習する。
15 回	授業テーマ：前学期のまとめ 授業内容：前学期のまとめとして消費税制度のポイントを総括する。 事前学修 2.0hr：事前に配付する資料等(manaba 搭載資料を含む)を予習する。 事後学修 2.0hr：前学期の講義全体を復習する。	30 回	授業テーマ：1年間の授業のまとめ 授業内容：1年間の授業を総括し消費税制度についての各自の意見をまとめる。 事前学修 2.0hr：これまでの授業を振り返る。 事後学修 2.0hr：今後の消費税制度のあり方についての各自の意見をまとめる。

会計学特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

池田 晋 (いけだ すすむ)

■ 授業の概要

証券市場のグローバル化や多国籍企業の増大など企業をとりまく環境は大きく変化している。そのような企業環境の変化にともない、企業会計や監査も進化している。本講義では、進化する企業会計や監査に対して、学術面からどのような貢献ができるかを考える。授業は、学術書・学術論文の輪読を中心に、受講生の関心や理解度を確かめながらフレキシブルに進めていく。

■ 到達目標

一般目標：基礎的な会計学の文献を読み、会計理論や会計実務の理解を深める。

個別目標：修士論文の作成に必要な調査・分析の手法を身につける。

■ 履修条件

財務会計の基礎知識。英文読解力があることが望ましい。

■ 評価基準・方法

講義ごとの報告30%、ディスカッションへの参加20%、学期末の課題50%(前後期に各1回)

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（反転授業）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word ソフトを搭載したノートパソコンを毎回持参すること）

■ 教科書

第1回の授業で指示する。

■ 参考書

授業中に適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、前期の講義の概要説明 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：財務会計論や簿記論などの復習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	16 回	授業テーマ：後期の講義の概要説明 授業内容：後期の講義の概要説明 事前学修 2.0hr：前期の復習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
2 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	17 回	授業テーマ：会計学の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
3 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	18 回	授業テーマ：会計学の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
4 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	19 回	授業テーマ：会計学の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
5 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	20 回	授業テーマ：学術論文の書き方 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
6 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	21 回	授業テーマ：発表の方法 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
7 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	22 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
8 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	23 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
9 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	24 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
10 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	25 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
11 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	26 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
12 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	27 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習

13 回	授業テーマ：会計学の方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習。 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	28 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
14 回	授業テーマ：会計学の方法—教科書の輪読— 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	29 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：前期のまとめ 事前学修 2.0hr：これまでの講義のまとめ 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：まとめ 事前学修 2.0hr：これまでの講義のまとめ 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習

企業金融特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通 | 備考：2025 年度以降入学生のみ履修可能

大石 隆介 (おおいし りゅうすけ)

■ 授業の概要

本科目は、企業が直面する資金調達、投資戦略、リスク管理、資本構成などの課題に対して、理論と実践の両面からアプローチすることを目的とする。コーポレートファイナンスの基本的枠組みを踏まえ、企業価値の最大化や効率的な資源配分、資金調達手法の最適化について体系的に学ぶ。講義では、理論的な枠組みの習得に加え、現場での意思決定プロセスや戦略策定の実例を分析し、実践的なスキルの向上を図る。

■ 到達目標

一般目標：企業金融に関する高度な理論と実務的手法を習得することで、企業価値の最大化や持続可能な成長を実現するための戦略的意思決定能力を養う。これにより、グローバルな視点と多角的な分析力を兼ね備えた金融の専門家として、急激な市場変化や経済環境の不確実性に柔軟に対応できる人材の育成を目指す。

個別目標：企業金融の基本原則、評価手法、資本構成、資金調達戦略など、主要な理論的枠組みを深く理解する。
学んだ理論を実務事例等を通じて、具体的な企業の課題に応用できる力を養う。

■ 履修条件

特になし

■ 評価基準・方法

クラス内テスト：40 % コースワーク(宿題・クラス内でのディスカッション等)：60 %

■ フィードバック方法

フィードバックは Manaba 等を活用し行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(授業中にはディスカッション等を行う。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(先行研究の分析やエクセルを使った実証分析を行う。)

■ 教科書

ゼミナール コーポレートファイナンス 朝岡大輔・砂川伸幸・岡田紀子(著)日本経済新聞出版

■ 参考書

コーポレートファイナンス入門 野間幹晴・本多俊毅(著)共立出版

コーポレートファイナンス 戦略と実践 田中慎一・保田隆明(著)ダイヤモンド社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：第 1 回授業はガイダンスとし、本科目の概要、履修上の注意点等について確認する。 事前学修 2.0hr：講義概要をよく読み、本講義に期待する内容を考えておく。 事後学修 2.0hr：ガイダンスに従い次の授業の準備をする。	16 回	授業テーマ：教科書第 7 章～第 12 章の復習 授業内容：第 16 回授業では第 10 回～第 15 回授業の復習を行う。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、復習する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 7 章～第 12 章を復習し、宿題に取り組む。
2 回	授業テーマ：コーポレートファイナンス(教科書第 1 章) 授業内容：第 2 回授業では、教科書第 1 章を学修する。ここではコーポレートファイナンスについて理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 1 章を復習し、宿題に取り組む。	17 回	授業テーマ：クラス内テスト2 授業内容：第 17 回授業では第 10 回～第 16 回授業の理解度を確認するためクラス内テスト2を行う。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、クラス内テスト2に備える。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書の関連分野を再度読み、復習する。
3 回	授業テーマ：バリュエーションの基礎(教科書第 2 章) 授業内容：第 3 回授業では教科書第 2 章を学修する。ここではバリュエーション等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、バリュエーションについて学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 2 章を復習し、宿題に取り組む。	18 回	授業テーマ：ディスカッション1(企業金融のゴールは何か) 授業内容：第 18 回授業では、'企業金融のゴールは何か' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業金融のゴールについて自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
4 回	授業テーマ：価値の創造(教科書第 3 章) 授業内容：第 4 回授業では教科書第 3 章を学修する。ここでは企業の価値創造等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、企業の価値創造について学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 3 章を復習し、宿題に取り組む。	19 回	授業テーマ：ディスカッション2(企業価値について) 授業内容：第 19 回授業では、'企業価値' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業価値について自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
5 回	授業テーマ：資本利益率とキャッシュフロー(教科書第 4 章) 授業内容：第 5 回授業では教科書第 4 章を学修する。ここでは企業の資本利益率とキャッシュフロー等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、資本利益率等について学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 4 章を復習し、宿題に取り組む。	20 回	授業テーマ：ディスカッション3(企業の投資意思決定について) 授業内容：第 20 回授業では、'企業の投資意思決定' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業の投資意思決定について自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
6 回	授業テーマ：ポートフォリオと CAPM(教科書第 5 章) 授業内容：第 6 回授業では教科書第 5 章を学修する。ここではポートフォリオと CAPM 等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、CAPM 等について学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 5 章を復習し、宿題に取り組む。	21 回	授業テーマ：ディスカッション4(リアルオプションについて) 授業内容：第 21 回授業では、'リアルオプション' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：リアルオプションについて自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
7 回	授業テーマ：資本コストの算出(教科書第 6 章) 授業内容：第 7 回授業では教科書第 6 章を学修する。ここでは資本コスト等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、資本コスト等について学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 6 章を復習し、宿題に取り組む。	22 回	授業テーマ：ディスカッション5(企業の資本コストについて) 授業内容：第 22 回授業では、'企業の資本コスト' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業の資本コストについて自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。

8 回	授業テーマ：教科書第 1 章～第 6 章の復習 授業内容：第 8 回授業では第 2 回～第 7 回授業の復習を行う。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、復習する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書 1：第 1 章～第 6 章を復習し、宿題に取り組む。	23 回	授業テーマ：ディスカッション 6 (企業の資本構成について) 授業内容：第 23 回授業では、'企業の資本構成' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業の資本構成について自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
9 回	授業テーマ：クラス内テスト 1 授業内容：第 9 回授業では第 2 回～第 8 回授業の理解度を確認するためクラス内テスト 1 を行う。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、クラス内テスト 1 に備える。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書の関連分野を再度読み、復習する。	24 回	授業テーマ：ディスカッション 7 (企業の利益処分について) 授業内容：第 24 回授業では、'企業の利益処分' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業の利益処分について自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
10 回	授業テーマ：投資評価と財務モデル(教科書第 7 章) 授業内容：第 10 回授業では教科書第 7 章を学修する。ここでは企業の投資評価と財務モデル等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、企業の投資評価等について学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 7 章を復習し、宿題に取り組む。	25 回	授業テーマ：ディスカッション 8 (企業の現金保有について) 授業内容：第 25 回授業では、'企業の現金保有' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業の現金保有について自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
11 回	授業テーマ：企業価値評価(教科書第 8 章) 授業内容：第 11 回授業では教科書第 8 章を学修する。ここでは企業価値評価等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、企業の価値評価等について学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 8 章を復習し、宿題に取り組む。	26 回	授業テーマ：ディスカッション 9 (企業の運転資本について) 授業内容：第 26 回授業では、'企業の運転資本' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業の運転資本について自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
12 回	授業テーマ：バリュエーションと経営戦略(教科書第 9 章) 授業内容：第 12 回授業では教科書第 9 章を学修する。ここではバリュエーションと経営戦略等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、バリュエーションと経営戦略について学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 9 章を復習し、宿題に取り組む。	27 回	授業テーマ：ディスカッション 10 (企業のリスク管理について) 授業内容：第 27 回授業では、'企業のリスク管理' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業のリスク管理について自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
13 回	授業テーマ：クロスホルダーとベンチャーのバリュエーション(教科書第 10 章) 授業内容：第 13 回授業では教科書第 10 章を学修する。ここではクロスホルダーとベンチャーのバリュエーション等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、クロスホルダーやベンチャーについて学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 10 章を復習し、宿題に取り組む。	28 回	授業テーマ：ディスカッション 11 (企業の M&A について) 授業内容：第 28 回授業では、'企業の M&A' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業の M&A について自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
14 回	授業テーマ：資本構成と資金調達(教科書第 11 章) 授業内容：第 14 回授業では教科書第 11 章を学修する。ここでは企業の資本構成と資金調達等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、企業の資金調達等について学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 11 章を復習し、宿題に取り組む。	29 回	授業テーマ：ディスカッション 12 (企業の事業売却について) 授業内容：第 24 回授業では、'企業の事業売却' をテーマにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：企業の事業売却について自身でリサーチを行う。 事後学修 2.0hr：ディスカッションの内容を復習する。
15 回	授業テーマ：ペイアウトと現金保有(教科書第 12 章) 授業内容：第 15 回授業では教科書第 12 章を学修する。ここでは企業のペイアウトと現金保有等について理解を深める。 事前学修 2.0hr：教科書の関連分野を読み、企業のペイアウト・現金保有について学修する。分からない箇所は質問できるように準備する。 事後学修 2.0hr：教科書第 12 章を復習し、宿題に取り組む。	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：第 30 回授業では、1 年間の学修について総括する。 事前学修 2.0hr：1 年間の学修について振り返る。 事後学修 2.0hr：これまでの学習内容を再度復習する。

監査論特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

池田 晋 (いけだ すすむ)

■ 授業の概要

証券市場のグローバル化や多国籍企業の増大など企業をとりまく環境は大きく変化している。そのような企業環境の変化にともない、企業会計や監査も進化している。本講義では、進化する企業会計や監査に対して、学術面からどのような貢献ができるかを考える。授業は、学術書・学術論文の輪読を中心に、受講生の関心や理解度を確かめながらフレキシブルに進めていく。

■ 到達目標

一般目標：基礎的な会計学の文献を読み、会計理論や会計実務の理解を深める。

個別目標：修士論文の作成に必要な調査・分析の手法を身につける。

■ 履修条件

財務会計の基礎知識。英文読解力があることが望ましい。

■ 評価基準・方法

講義ごとの報告30%、ディスカッションへの参加20%、学期末の課題50%(前後期に各1回)

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（反転授業）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word ソフトを搭載したノートパソコンを毎回持参すること）

■ 教科書

第1回の授業で指示する。

■ 参考書

授業中に適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、前期の講義の概要説明 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：財務会計論や簿記論などの復習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	16 回	授業テーマ：後期の講義の概要説明 授業内容：後期の講義の概要説明 事前学修 2.0hr：前期の復習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
2 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	17 回	授業テーマ：会計学の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
3 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	18 回	授業テーマ：会計学の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
4 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	19 回	授業テーマ：会計学の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
5 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	20 回	授業テーマ：学術論文の書き方 授業内容：学術論文の書き方の指導 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
6 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	21 回	授業テーマ：発表の方法 授業内容：発表の方法の指導 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
7 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	22 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
8 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	23 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
9 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	24 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
10 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	25 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
11 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	26 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
12 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	27 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習

13 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習。 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	28 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
14 回	授業テーマ：会計学の研究方法—教科書の輪読— 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	29 回	授業テーマ：監査論の書籍・論文輪読 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：前期のまとめ 事前学修 2.0hr：これまでの講義のまとめ 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：まとめ 事前学修 2.0hr：これまでの講義のまとめ 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習

経営学特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

飯田 信一 (いいた のぶかず)

■ 授業の概要

企業をとりまく環境は大きく変化している。企業は業界・企業規模などによってもその特性は大きく異なり、さらに個別の企業をみるとさらに違いがみられる。また、他国と比較した際に日本企業特有の特徴も多い。本講義では、担当教員の専門であるマーケティング、国際経営論を中心に、企業活動の現状を踏まえつつ、理論から導かれる実証研究の学修を通じ、新たな知見を導く学びの場を提供する。具体的には基本的な文献・論文のサーベイをもとに、輪読形式、およびケーススタディ形式で行う。なお講義の進行に当たっては、学生の興味関心や進路を考慮し内容を調整することもある。

■ 到達目標

一般目標：基礎的な文献の読み込みを通じ、企業活動についての理解を深める。さらに実際の企業の現場で起きていることを学術的な理論面から俯瞰し、新たな知見を見出せるようになる。

個別目標：将来の進路に備えた知識の習得を目標とする。研究者を目指す場合は基礎的な文献のサーベイから分析までの作法を身につける。就職を希望する場合は企業に対する視点を広げ、自身の進路選択の一助とする。

■ 履修条件

1. 【重要】経営学全般(経営戦略、組織行動、人的資源管理、マーケティング、会計)について基礎的知識があること。
2. 毎回の講義で取り上げる書籍・論文を指示・輪読するので、必ず読んで理解すること。
3. 毎回の講義で報告担当者を指名するので、必ず発表資料(レジュメ)を事前準備すること
4. 自主性、自律性が求められる

■ 評価基準・方法

講義ごとの輪読報告 30%、ディスカッションへの参加 20%、学期末課題 50%(前期末、後期末に各 1 回)。

* 課題提出期限を超過した場合、成績評価対象外とする。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、講義時あるいは学修支援システム manaba を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(学生による輪読、プレゼン発表を行う)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり (Word や PowerPoint ソフトを搭載したノートパソコンを毎回持参すること)

■ 教科書

第 1 回講義にて指示する。前期はマーケティング、後期は国際経営を主とする。

■ 参考書

第 1 回講義にて指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス：履修にあたっての諸注意・自己紹介と年間計画の策定 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：シラバスを読んで講義内容を把握する 事後学修 2.0hr：テキスト章立ての確認	16 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読① 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 4.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
2 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読① 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	17 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読② 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
3 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読② 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	18 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読③ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
4 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読③ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	19 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読④ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
5 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読④ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	20 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑤ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
6 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑤ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	21 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑥ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
7 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑥ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	22 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑦ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
8 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑦ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	23 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑧ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
9 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑧ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	24 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑨ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
10 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑨ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	25 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑩ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習

11 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑩ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習	26 回	授業テーマ：経営学に関する書籍・論文輪読⑩ 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：文献輪読の予習 事後学修 2.0hr：文献輪読の復習・次回講義の予習
12 回	授業テーマ：ケーススタディ：マーケティング事例① 授業内容：企業事例(ショートケース)を基に発表、ディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：ケースの予習 事後学修 2.0hr：ケースの復習・次回講義の予習	27 回	授業テーマ：ケーススタディ：国際経営事例① 授業内容：企業事例(ショートケース)を基に発表、ディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：ケースの予習 事後学修 2.0hr：ケースの復習
13 回	授業テーマ：ケーススタディ：マーケティング事例② 授業内容：企業事例(ショートケース)を基に発表、ディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：ケースの予習 事後学修 2.0hr：ケースの復習・次回講義の予習	28 回	授業テーマ：ケーススタディ：国際経営事例② 授業内容：企業事例(ショートケース)を基に発表、ディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：ケースの予習 事後学修 2.0hr：ケースの復習
14 回	授業テーマ：前期末レポート課題の提示 授業内容：前期のまとめ、前期末レポート課題の提示、作成上の留意点。 事前学修 2.0hr：前期のまとめ、復習 事後学修 4.0hr：前期末レポートの作成、完成	29 回	授業テーマ：後期末レポートの課題提示 授業内容：後期のまとめ、後期末レポート課題の提示、作成上の留意点。 事前学修 2.0hr：後期のまとめ 事後学修 4.0hr：後期末レポートを作成・完成させる
15 回	授業テーマ：前期末レポートの発表・提出、後期授業の計画 授業内容：上記テーマの講義・ディスカッション 事前学修 2.0hr：前期末レポートを作成・完成させる 事後学修 4.0hr：後期文献輪読の準備、予習	30 回	授業テーマ：後期末レポートの発表・提出、今後の研究活動について 授業内容：総まとめ、後期末レポートの発表、ディスカッション 事前学修 2.0hr：後期末レポートを作成・完成させる 事後学修 2.0hr：通年の学修を振り返り、今後の研究活動を考える

経営管理特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

岡村 龍輝 (おかむら りょうき)

■ 授業の概要

本科目では、経営理論における代表的な学説を原典に立ち返って講読することによって、その論点と学術的位置づけを正しく理解します。SCP 理論や RBV、取引費用理論、ネットワーク理論、資源依存理論など、経営理論が依って立つ理論には様々なものがあり、また研究対象となる経営現象も多岐に及びます。様々な経営理論はいかなる理論的根拠に基づいているのか、またそうした経営理論が経営現象に対してどのように展開されてきたのかを理解することによって、修士論文作成において依拠する学説の見取り図を得ることができるよう。

■ 到達目標

一般目標：経営理論における代表的な学説の論点と学術的な位置づけを理解している。

個別目標：1. 企業の全社的な問題に関する代表的な学説の論点と学術的な位置づけを理解している。

2. 企業の競争優位に関する代表的な学説の論点と学術的な位置づけを理解している。

3. 企業組織に関する代表的な学説の論点と学術的な位置づけを理解している。

■ 履修条件

とくにありません。

■ 評価基準・方法

1. 予習・復習状況(50%)：毎回の必読論文および関連論文の予習状況を確認するために、毎回の授業で小レポートを提出して貰います。

2. 担当課題(50%)：期間中、報告担当者となった回数および報告内容を評価します。

※原則として5分の4以上の出席が評価の前提条件となります。

■ フィードバック方法

授業内での課題の実施およびフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うことがあります。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(授業は基本的にディスカッション型で進めます。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(データ分析、文書作成など。)

■ 教科書

入山章栄著(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。

■ 参考書

毎回の授業で関連論文を指示します。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：学修内容と評価基準について説明します。 事前学修 3.0hr：教科書を一読してきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	16 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：後期の学修内容について確認します。 事前学修 3.0hr：教科書を一読してきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
2 回	授業テーマ：経営理論の概要 授業内容：経済学を中心に、心理学・社会学の知見もふまえて経営理論の概要について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	17 回	授業テーマ：SECI モデル 授業内容：組織的知識創造理論について、Socialization-Externalization-Combination-Internalization (SECI) モデルを中心に学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
3 回	授業テーマ：SCP 理論の基礎 授業内容：Structure-Conduct-Performance (SCP) 理論について、完全競争・完全独占やベインの参入障壁などを中心に学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	18 回	授業テーマ：心理学ベースの進化理論 授業内容：ネルソン・ウインターのルーティンの概念を中心に、心理学ベースの進化理論について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
4 回	授業テーマ：SCP 理論とポーターの競争戦略 授業内容：SCP 理論とポーターの競争戦略の関係について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	19 回	授業テーマ：ダイナミック・ケイパビリティ理論 授業内容：ティースなどによるダイナミック・ケイパビリティ理論について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
5 回	授業テーマ：RBV 授業内容：Resource Based View (RBV) について、ベンロースの見解やバーニーの VRI モデルなどを中心に学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	20 回	授業テーマ：リーダーシップの理論 授業内容：リーダーシップの二要因理論やコンティンジェンシー理論、トランスフォーメーション・リーダーシップなど、リーダーシップの基礎理論について体系的に学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
6 回	授業テーマ：SCP 理論と RBV の関係 授業内容：SCP 理論と RBV を対比し、両者の関係について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	21 回	授業テーマ：モチベーションの理論 授業内容：モチベーションの内容理論と過程理論について体系的に学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
7 回	授業テーマ：情報の経済学 授業内容：アカロフのレモン市場など、情報の経済学の基礎について学びます。 事前学修 2.0hr：これまでの学修内容をおさらいしてきて下さい。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	22 回	授業テーマ：認知バイアスの理論 授業内容：認知バイアスの理論について、社会アイデンティティ理論やプロスペクト理論を中心に学びます。 事前学修 2.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
8 回	授業テーマ：エージェンシー理論 授業内容：エージェンシー理論についてモニタリングとインセンティブを中心に学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	23 回	授業テーマ：感情の理論 授業内容：感情の理論について、感情のメカニズムや感情労働理論などについて学びます。 事前学修 2.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
9 回	授業テーマ：取引費用理論 授業内容：取引費用理論について、ホールドアップ問題と企業の境界などを中心に学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	24 回	授業テーマ：センスメイキング理論 授業内容：ワイクをはじめとするセンスメイキング理論について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。

10 回	授業テーマ：ゲーム理論の基礎 授業内容：ゲーム理論の基礎的な用語・概念・方法について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	25 回	授業テーマ：SWT 理論 授業内容：Strength of Weakness Ties (SWT)理論について、埋め込み理論やストラクチャル・ホール理論などととも学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
11 回	授業テーマ：ゲーム理論の応用 授業内容：ゲーム理論の企業活動や社会への応用について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	26 回	授業テーマ：ソーシャル・キャピタル理論 授業内容：SWT 理論などとの関連で、ソーシャル・キャピタル理論について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
12 回	授業テーマ：リアルオプション理論 授業内容：リアルオプション理論について、数値例を取り上げながら学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	27 回	授業テーマ：社会学ベースの制度理論 授業内容：社会学をベースとした制度理論について、同型化圧力や非市場戦略などを中心に学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
13 回	授業テーマ：BTF 理論 授業内容：Behavioral Theory of Firm (BTF)理論について、マーチ＝サイモンの組織的意思決定プロセスを中心に学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	28 回	授業テーマ：資源依存理論 授業内容：企業間における資源の依存関係により発生するパワーについて、資源依存理論に基づいて学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
14 回	授業テーマ：知の探索・知の深化の理論 授業内容：組織学習のプロセスと知の探索・知の深化について学びます。 事前学修 3.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	29 回	授業テーマ：組織エコロジー理論 授業内容：個体群生態学をベースにした組織エコロジー理論について、進化理論、レットクイーン理論をふまえながら学びます。 事前学修 2.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。
15 回	授業テーマ：組織の記憶の理論 授業内容：シェアード・メンタル・モデルやトランザクティブ・メモリー・システムなど、組織における記憶の理論について学びます。 事前学修 1.0hr：教科書および必読・関連論文を読み、内容をまとめてきて下さい。 事後学修 3.0hr：授業内容を振り返り、学んだことを確実に身につけて下さい。	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：これまで学んだ内容をふりかえりながら、各学生の修士論文について検討します。 事前学修 1.0hr：これまでの学修内容をおさらいしてきて下さい。 事後学修 3.0hr：修士論文の作成に向けて、これまで学んだ内容をどのように活かせるか検討して下さい。

公共経済学特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

廣部 恒忠 (ひろべ つねただ)

■ 授業の概要

この講義は、ミクロ経済学および厚生経済学の理論的背景をベースにします。そのため、講義全体の 2/3 程度において、まずは、学修上必須とされる理論的な基礎および応用を学び、その後、私たちの住む都市に起きている様々な課題を対象に、都市経済学的手法も紹介しながら、それまでに学んだ知識を応用しつつ、解決のための政策立案を志向していきたいと思えます。ここでは、大学院レベルで公共経済学を学ぶ上で必要な知識を焦点を絞ってマスターできるように内容を精選しています。また、その中で使われる数学についても初歩から学んでいくというスタイルで進めていきます。なお、受講者の興味・関心や必要に応じて、全体の難易度或いは下記講義内容について、適宜変更を加える場合がありますが、その際には事前にお知らせします。

■ 到達目標

一般目標：① 公共経済学を学ぶ上で必須となる理論的な基礎および応用力を身につける。

② 公共経済学の主要な研究対象の一つである「都市問題」に関し理解を深め、それに対して実務上も有効な政策的アプローチを学ぶ。

個別目標：① 公共経済学で扱われている諸問題を、数理的にも理解しモデル化等を通じて扱えるようになる。

② 主に応用ミクロ経済学に基づく理論的なモデル(例えば、立地モデル等)を学び、政策立案上においても活用できるようになる。

③ 主要な研究対象である、公害、環境、交通、公共料金、或いはその他都市問題等に関しても、幅広く取り組める応用力が身につけられる。

■ 履修条件

学部課程のミクロ経済学或いは公共経済学を履修済みであることが望ましいが、受講者の知識および学力に応じて、教科書および講義内容等を柔軟に調整する予定です。

なお、下記授業スケジュール等についてはあくまで予定であり、授業の進捗状況等に拠り、適宜、柔軟に調整、修正、変更いたします。

■ 評価基準・方法

授業平常点 40 %、及びレポート課題等 60 %により総合評価し、また、フィードバックを含め学修過程において、適宜、manaba システム等を利用します。

■ フィードバック方法

manaba 等を利用して課題などのフィードバックを行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(授業状況に応じて)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(授業状況に応じて)

■ 教科書

「コア・テキスト公共経済学」板谷淳一、佐野博之 著 新世社

■ 参考書

「現代都市経済学(第 2 版)」宮尾尊弘著 日本評論社、加えて、必要に応じて、適宜、紹介します。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：厚生経済学の基礎(最初に、講義に関する紹介やガイダンス等も含む) 授業内容：公共経済学全般に関する概要説明およびガイダンス 事前学修 2.0hr：シラバスや教科書の第 1 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	16 回	授業テーマ：外部不経済と政府の介入 授業内容：外部不経済と政府の介入(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 8 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
2 回	授業テーマ：市場経済における競争均衡 授業内容：市場経済における競争均衡について(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 1 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	17 回	授業テーマ：外部不経済と政府の介入 授業内容：外部不経済と政府の介入(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 8 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
3 回	授業テーマ：市場経済における競争均衡 授業内容：市場経済における競争均衡について(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 2 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	18 回	授業テーマ：コモンスの悲劇 授業内容：コモンスの悲劇(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 9 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
4 回	授業テーマ：パレート効率性と市場経済 授業内容：パレート効率性と市場経済について(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 2 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	19 回	授業テーマ：コモンスの悲劇 授業内容：コモンスの悲劇(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 9 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
5 回	授業テーマ：パレート効率性と市場経済 授業内容：パレート効率性と市場経済について(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 2 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	20 回	授業テーマ：財政的外部性 授業内容：財政的外部性(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 10 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
6 回	授業テーマ：社会厚生関数と所得分配 授業内容：社会厚生関数と所得分配(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 3 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	21 回	授業テーマ：財政的外部性 授業内容：財政的外部性(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 10 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
7 回	授業テーマ：社会厚生関数と所得分配 授業内容：社会厚生関数と所得分配(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 3 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	22 回	授業テーマ：ネットワーク外部性 授業内容：ネットワーク外部性(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 11 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
8 回	授業テーマ：公共財とフリーライド問題 授業内容：公共財とフリーライド問題(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 4 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	23 回	授業テーマ：ネットワーク外部性 授業内容：ネットワーク外部性(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 11 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
9 回	授業テーマ：公共財とフリーライド問題 授業内容：公共財とフリーライド問題(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 4 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	24 回	授業テーマ：不完全競争 授業内容：不完全競争(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第 12 章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。

10 回	授業テーマ：公共財の公的供給メカニズム 授業内容：公共財の公的供給メカニズム(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第5章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	25 回	授業テーマ：不完全競争 授業内容：不完全競争(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第12章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
11 回	授業テーマ：公共財の公的供給メカニズム 授業内容：公共財の公的供給メカニズム(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第5章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	26 回	授業テーマ：不確実性と市場の失敗 授業内容：不確実性と市場の失敗(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第13章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
12 回	授業テーマ：分権制による公共財の配分 授業内容：分権制による公共財の配分(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第6章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	27 回	授業テーマ：不確実性と市場の失敗 授業内容：不確実性と市場の失敗(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第13章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
13 回	授業テーマ：分権制による公共財の配分 授業内容：分権制による公共財の配分(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第6章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	28 回	授業テーマ：税や価格規制による歪みと市場の失敗 授業内容：税や価格規制による歪みと市場の失敗(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第14章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
14 回	授業テーマ：外部性と市場の失敗 授業内容：外部性と市場の失敗(基礎編) 事前学修 2.0hr：教科書の第7章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	29 回	授業テーマ：税や価格規制による歪みと市場の失敗 授業内容：税や価格規制による歪みと市場の失敗(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第14章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。
15 回	授業テーマ：外部性と市場の失敗 授業内容：外部性と市場の失敗(応用編) 事前学修 2.0hr：教科書の第7章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。	30 回	授業テーマ：政府の失敗 授業内容：政府の失敗(事例を含めて) 事前学修 2.0hr：教科書の第15章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：講義内容を復習し、指示通りに課題等に取り組むこと。

ゲーム理論特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通 | 備考：2025 年度以降入学生のみ履修可能

友利 厚夫 (ともり あつお)

■ 授業の概要

非協力ゲーム理論と進化ゲーム理論について講義する。前半は、完備情報下での静学ゲームと動学ゲームを取り上げ、ナッシュ均衡、混合戦略、後向き帰納法、サブゲーム完全均衡、繰り返しゲームなどについて検討する。後半は、不完備情報下での静学ゲームと動学ゲームを取り上げ、ベイジアン・ナッシュ均衡、オークション、顕示原理、完全ベイジアン均衡、シグナリング、チーブトーク、均衡の精緻化などについて検討する。さらに、進化ゲーム理論の基礎概念である進化的に安定な戦略やレプリケータ動学について検討する。

■ 到達目標

一般目標：非協力ゲーム理論と進化ゲーム理論の基本的な考え方および主要な均衡概念を体系的に理解するとともに、前提を明確にし、その含意と限界を検討するという科学的思考法を身につけ、この分野の研究論文を読むための基礎を習得することを目標とする。

個別目標：1. ゲームを適切に定式化できること

2. 主要な均衡概念の定義・適用範囲を説明できること

3. ゲーム理論の代表的なモデルを用いて具体的な問題を理論的に分析できること

■ 履修条件

ミクロ経済学の基礎および最適化理論や確率論の基礎を修得していること。

■ 評価基準・方法

課題(80%)、試験(20%)により評価する。

■ フィードバック方法

講義内で講評する。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(報告、ディスカッション)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(配布資料閲覧、課題作成、文献検索)

■ 教科書

ロバート・ギボンズ『経済学のためのゲーム理論入門』(福岡正夫、須田伸一翻訳)岩波書店,2020 年

■ 参考書

Drew Fudenberg and Jean Tirole, Game Theory, MIT Press, 1991.

岡田章『ゲーム理論 [第 3 版]』有斐閣, 2021 年。

グレーヴァ香子『非協力ゲーム理論』知泉書館, 2011 年。

Martin J. Osborne and Ariel Rubinstein, A Course in Game Theory, MIT Press, 1994.

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：社会科学におけるゲーム理論の位置付けについて議論する。 事前学修 4.0hr：ミクロ経済学及び最適化理論、確率論の基礎概念について復習しておく。 事後学修 2.0hr：指定文献を読み、ゲーム理論の必要性について、論点を整理する。	16 回	授業テーマ：不完備情報ゲーム 授業内容：タイプ、信念、事前分布などの不完備情報ゲームにおける基本概念を説明する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、タイプ、信念、事前分布などの基本概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、不完備情報ゲームの基本的な考え方を確認する。
2 回	授業テーマ：ゲームの標準型による表現 授業内容：プレイヤー、戦略、利得を定義し、標準型ゲームのモデルについて説明する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、標準型ゲームの基本概念と定義を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、標準型ゲームの構造を確認する。	17 回	授業テーマ：静学ベイジアンゲームの表現 授業内容：静学ベイジアンゲームの標準型による表現について説明する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、静学ベイジアンゲームに必要な概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、静学ベイジアンゲームの構造を確認する。
3 回	授業テーマ：支配戦略と逐次消去 授業内容：強支配、被支配戦略の逐次消去、合理性との関係を検討する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、支配戦略と逐次消去の定義を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、支配概念の含意を確認する。	18 回	授業テーマ：ベイジアン・ナッシュ均衡 授業内容：ベイジアン・ナッシュ均衡の定義を与え、その導出方法を検討する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、ベイジアン・ナッシュ均衡の定義を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、ベイジアン・ナッシュ均衡の導出方法を確認する。
4 回	授業テーマ：ナッシュ均衡 授業内容：最適反応とナッシュ均衡の定義を与え、純粋戦略均衡の例を通じてその含意を検討する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、最適反応とナッシュ均衡の定義を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、ナッシュ均衡の定義とその限界を確認する。	19 回	授業テーマ：不完備情報ゲームの応用 授業内容：オークションなどの代表的応用例を取り上げる。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、各応用例で用いられるモデルと均衡概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、オークションへの応用における分析結果を確認する。
5 回	授業テーマ：静学ゲームの応用 授業内容：クールノー競争、ベルトラン競争、共有地問題などを取り上げ、静学ゲームの応用について議論する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、各応用例で用いられるモデルと均衡概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、応用例における分析結果を検討する。	20 回	授業テーマ：顕示原理 授業内容：顕示原理を手がかりに、制度設計の基本的な考え方を検討する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、顕示原理に関わる基本概念と定義を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、顕示原理の意味を確認する。
6 回	授業テーマ：混合戦略 授業内容：混合戦略を導入し、混合戦略ナッシュ均衡について説明する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、混合戦略の定義を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、混合戦略導入の意義を確認する。	21 回	授業テーマ：不完備情報の動学ゲーム 授業内容：不完備情報の動学ゲームの基本概念を説明する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み返し、不完備情報の動学ゲームで用いられる主要概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、不完備情報の動学ゲームにおける主要論点を確認する。

7 回	授業テーマ：ナッシュ均衡の存在 授業内容：ナッシュ均衡の存在定理を証明する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、ナッシュ均衡について確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、ナッシュ均衡の存在定理の証明を復習する。	22 回	授業テーマ：完全ベイジアン均衡 授業内容：逐次合理性と信念の整合性を説明し、完全ベイジアン均衡を導入する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、逐次合理性と信念の整合性に関する基本概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、完全ベイジアン均衡の定義を確認する。
8 回	授業テーマ：完備情報の静学ゲームの展開 授業内容：完備情報の静学ゲームにおける基本概念を再確認し、必要な補足を加える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み返し、完備情報の静学ゲームにおける基本概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、完備情報の静学ゲームにおける論点を検討する。	23 回	授業テーマ：シグナリングゲーム 1 授業内容：シグナリングゲームの基本モデルを提示し、分離均衡とプーリング均衡について説明する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、シグナリングゲームの構造と主要概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、分離均衡とプーリング均衡の違いを確認する。
9 回	授業テーマ：展開形ゲーム 授業内容：ゲームツリー、情報集合、戦略について説明する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、展開形ゲーム、情報集合、戦略の定義を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、標準型と展開形の関係を確認する。	24 回	授業テーマ：シグナリングゲーム 2 授業内容：就職場場、投資、政策などへの応用を取り上げる。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、シグナリングの応用例で用いられる仮定と分析結果を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、応用例におけるモデルと分析結果を確認する。
10 回	授業テーマ：後ろ向き帰納法 授業内容：完備完全情報の動学ゲームにおける後ろ向き帰納法について説明する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、後ろ向き帰納法の考え方を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、後ろ向き帰納法の含意を確認する。	25 回	授業テーマ：チーブトークゲーム 授業内容：チーブトークゲームを検討する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、チーブトークゲームに関する基本概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、チーブトークゲームの構造を確認する。
11 回	授業テーマ：サブゲーム完全均衡 授業内容：サブゲーム完全均衡の概念を導入する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、サブゲームとサブゲーム完全均衡の定義を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、サブゲーム完全均衡の必要性を確認する。	26 回	授業テーマ：均衡の精緻化 授業内容：完全ベイジアン均衡の限界を確認し、均衡の精緻化の必要性を検討する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、精緻化に関する基本的な考え方を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、精緻化が必要となる理由を確認する。
12 回	授業テーマ：動学ゲームの応用 授業内容：シュタツケルバルク競争、逐次交渉、銀行の取付けなどを取り上げ、動学ゲームの応用を検討する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、各応用例で用いられるモデルの構造を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、応用例における分析結果を確認する。	27 回	授業テーマ：進化ゲームの基礎 授業内容：進化ゲームの基本モデルを提示し、進化的に安定な戦略について説明する。 事前学修 2.0hr：教科書または配布資料の該当箇所を読み、進化ゲームの基本概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、ESS とナッシュ均衡の関係を確認する。
13 回	授業テーマ：繰り返しゲーム 1 授業内容：繰り返しゲームの考え方について講義する。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、繰り返しゲームの考え方、割引因子の定義を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、繰り返しゲームの構造を確認する。	28 回	授業テーマ：レプリケータ動学 授業内容：レプリケータ動学を導入し、動学的安定性の考え方を検討する。 事前学修 2.0hr：教科書または配布資料の該当箇所を読み、レプリケータ動学の基本的な考え方を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、動学的安定性の意味を確認する。
14 回	授業テーマ：繰り返しゲーム 2 授業内容：共謀、効率賃金、時間整合性などの応用を検討し、必要に応じて理論的補足を加える。 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、繰り返しゲームの応用例で用いられる仮定と均衡概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、繰り返しゲームにおける均衡概念を確認する。	29 回	授業テーマ：進化ゲームの応用 授業内容：協力の進化、コミュニケーションの進化、社会規範の生成などを取り上げる。 事前学修 2.0hr：教科書または配布資料の該当箇所を読み、進化ゲームの応用例における基本概念を確認する。 事後学修 4.0hr：演習問題に取り組むとともに、指定文献を読み、進化ゲームの応用例における主要なモデルとその分析結果を確認する。
15 回	授業テーマ：前半総括 授業内容：前半の論点を振り返り、完備情報ゲームにおける主要なモデルと均衡概念を確認する。 事前学修 2.0hr：主要な定義と均衡概念を確認する。 事後学修 4.0hr：指定文献を読み、前期全体の主要論点を確認する。	30 回	授業テーマ：総括 授業内容：主要均衡概念の違いと関係を比較し、ゲーム理論の有効性と限界を議論する。 事前学修 2.0hr：全体を復習し、主要な均衡概念の定義と相違を確認する。 事後学修 4.0hr：指定文献を参照しつつ、講義全体を振り返り、ゲーム理論の有効性と限界を確認する。

人口問題特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

影山 純二 (かげやま じゅんじ)

■ 授業の概要

人口とは、生と死、出生に代表される生命の営みの描写であり、人口学とはその描写から生命の営みを再現し理解する試みです。だからこそ、人口学では生物学的要因とともに、社会・経済的要因が生命の営みにどう影響を与えるか分析する必要があります。本講義では、この方向性に沿いつつ、人口を多角的な視点から眺め、各種の人口問題について考察します。なお学生には、自分の考えを積極的に表明し、活発な討論をすることを求めます。

■ 到達目標

一般目標：人口問題に対して自分の意見を持ち、それを説得力がある形で展開できるようになること。

個別目標：(1) 人口学の基礎を理解すること。

(2) 人口が生物や社会経済的要因と結びついていることを理解すること。

(3) 人口に関するデータを扱うことができるようになること。

■ 履修条件

統計ソフトウェア (stata) を利用するので、コンピュータとソフトウェアを準備すること。購入の際はスペックを担当教員に相談すること。

■ 評価基準・方法

講義内での報告と討論への参加 (70%)、レポート (30%)。課題及び定期試験のフィードバックは、授業中に行う。

■ フィードバック方法

随時、口頭または manaba 等を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッションへの積極的な参加を期待します。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (統計ソフトウェアの利用が必要。)

■ 教科書

ドゥブケ&ジリポッティ『子育ての経済学』を考えているが、他に希望があれば初回授業時に提案すること。

■ 参考書

関係する論文などを随時紹介する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：希望する教科書を探してみる 事後学修 2.0hr：輪読報告準備	16 回	授業テーマ：データ分析：WVS/EVS の説明 授業内容：データベースの説明 事前学修 2.0hr：統計ソフトウェアの準備 事後学修 2.0hr：データで遊んでみる
2 回	授業テーマ：輪読報告 1 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	17 回	授業テーマ：データ分析：WVS/EVS 整理 授業内容：stata でのデータベースの整理について学修 事前学修 2.0hr：データベースの構築 事後学修 2.0hr：データベースの修正
3 回	授業テーマ：輪読報告 2 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	18 回	授業テーマ：データ分析：グラフ作成 1 授業内容：stata でのグラフ作成方法を学修 事前学修 2.0hr：自分なりに簡単なグラフを作成してみる 事後学修 2.0hr：グラフ作成のコマンド整理
4 回	授業テーマ：輪読報告 3 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	19 回	授業テーマ：データ分析：グラフ作成 2 授業内容：散布図を含むグラフ作成 事前学修 2.0hr：自分なりに散布図を作成してみる 事後学修 2.0hr：散布図作成のコマンド整理
5 回	授業テーマ：輪読報告 4 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	20 回	授業テーマ：データ分析：グラフ作成 3 授業内容：WVS/EVS を用いて面白い相関関係を発見し、グラフを作成 事前学修 2.0hr：自分なりに試してみる 事後学修 2.0hr：グラフ修正
6 回	授業テーマ：輪読報告 5 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	21 回	授業テーマ：レポート：準備 1 授業内容：今までの学修内容より WVS/EVS のデータを用いたレポートを作成 事前学修 2.0hr：テーマ検討 事後学修 2.0hr：テーマ修正
7 回	授業テーマ：輪読報告 6 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	22 回	授業テーマ：レポート：準備 2 授業内容：データ分析 事前学修 2.0hr：データ分析 事後学修 2.0hr：分析内容を再検討
8 回	授業テーマ：輪読報告 7 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：輪読報告準備	23 回	授業テーマ：レポート：準備 3 授業内容：分析内容に基づいてレポート作成 事前学修 2.0hr：レポート作成 事後学修 2.0hr：レポート内容を再検討
9 回	授業テーマ：輪読報告 8 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	24 回	授業テーマ：レポート発表 授業内容：レポート発表&ディスカッション 事前学修 2.0hr：発表準備 事後学修 2.0hr：発表内容の見直し
10 回	授業テーマ：輪読報告 9 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	25 回	授業テーマ：データ分析：回帰分析 1 授業内容：WVS/EVS を用いた回帰分析 事前学修 2.0hr：計量経済学について復習しておく 事後学修 2.0hr：様々な回帰分析を試す
11 回	授業テーマ：輪読報告 10 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	26 回	授業テーマ：データ分析：回帰分析 2 授業内容：自分のテーマに基づいて回帰分析を実施 事前学修 2.0hr：テーマ選定 事後学修 2.0hr：テーマと回帰分析内容の見直し

12 回	授業テーマ：輪読報告 11 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	27 回	授業テーマ：回帰分析を用いたレポート作成：準備 1 授業内容：回帰分析方法の確認 事前学修 2.0hr：仮説に基づいて回帰分析を実施 事後学修 2.0hr：回帰分析方法の見直し
13 回	授業テーマ：輪読報告 12 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	28 回	授業テーマ：回帰分析を用いたレポート作成：準備 2 授業内容：レポート作成 事前学修 2.0hr：レポート準備 事後学修 2.0hr：レポート見直し
14 回	授業テーマ：輪読報告 13 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	29 回	授業テーマ：回帰分析を用いたレポート作成 授業内容：様式の整理 事前学修 2.0hr：引用方法等の様式整理 事後学修 2.0hr：様式見直し
15 回	授業テーマ：前期の振り返り 授業内容：教科書全体を改めて概観する&ディスカッション 事前学修 2.0hr：教書の概観 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	30 回	授業テーマ：回帰分析を用いたレポート報告 授業内容：レポート報告 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：報告見直し

社会保障特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

下田 直樹 (しもだ なおき)

■ 授業の概要

少子高齢化の進行や家族形態、地域の変容、企業による雇用保障の弱体化や非正規労働者の増大などによって、日本のみならず世界の先進工業諸国は、社会保障全般の見直しと改革を余儀なくされています。これに伴い、第二次大戦後、西側世界で確立した福祉国家体制も揺らぎ始めています。この特論では、戦後の福祉国家の成立から、いわゆる福祉国家の「危機」を経て、ポスト福祉国家が模索されるようになった現在までの軌跡を検証し、その重要な柱である社会保障が直面する課題とその解決方法を受講者とともにディスカッションします。また、近年、成長著しいアジアの新興工業国の福祉国家への模索状況も検証します。

■ 到達目標

一般目標： 福祉国家の成立やその後の発展の軌跡を理解し、今日の福祉国家・社会保障の課題と今後について考え、ディスカッションすることができるようになる。
個別目標： 福祉国家とはどのような特徴をもった国家なのかを説明できる。福祉国家の類型と、それぞれのタイプの福祉国家がどのような問題点を抱えているか、論理的に説明できる。福祉国家の未来について深く考え、改革のための方法・方策を他人と議論することができる。

■ 履修条件

特になし。

■ 評価基準・方法

平常時の発表点(40%)と、授業最後のまとめの報告・レポートの点数(60%)で評価する。

■ フィードバック方法

課題発表等へのフィードバックは、都度、授業内で講評のかたちで行い、内容を記録する。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(毎回、授業テーマについて院生に報告(発表)を義務づけ、講評後、それをもとにディスカッションや指導を行う。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(授業中に PC を使って、先行研究や情報収集等を行う。)

■ 教科書

松田 亮三(著)、鎮目 真人(著)『社会保障の公私ミックス再論:多様化する私的領域の役割と可能性』(立命館大学産業社会学部創設 50 周年記念学術叢書)2016 年

■ 参考書

武田龍夫著『福祉国家の闘い-スウェーデンからの教訓』中公新書、ほか、授業の中で随時、案内・紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：開講にあたっての諸説明(ガイダンス) 授業内容：開講にあたって、授業の目的や 1 年間の授業内容、授業方法、進行についてガイダンスを行う。 事前学修 2.5hr：事前に社会保障と福祉国家について調べ、報告(発表)できるようにしておく。 事後学修 2.5hr：授業内容やディスカッションの内容をシート等にまとめておく。	16 回	授業テーマ：変わる労働と社会保障-男女共同参画 授業内容：少子高齢化だけでなく、労働のあり方や男女共同参画の進展によっても、社会保障制度はその改革を迫られている。その実状について検討する。 事前学修 2.0hr：男女共同参画について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。
2 回	授業テーマ：社会保障の発展と福祉国家 授業内容：第二次大戦後、西側の多くの先進資本主義諸国は、社会保障制度を発展・充実させ、福祉国家を成立させた。その歴史的経緯を確認し、なぜそうなったかを受講者全員でディスカッションする。 事前学修 2.0hr：指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのディスカッション及び授業で得た知識・知見をシートにまとめておく。	17 回	授業テーマ：変わる労働と社会保障-日本の企業保障の弱体化 授業内容：さらに、日本では、これまでのような企業の、男子正社員を中心とした社会保障制度も限界に達しつつある。まずはその実状を統計資料やデータをもとに検討し、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：日本企業の、男子正社員を中心とした社会保障制度について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。
3 回	授業テーマ：福祉国家の成立とその条件 授業内容：福祉国家とは何か、それがなぜ可能となったのかを受講院生に報告してもらい、ディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのディスカッション及び授業で得た知識・知見をシートにまとめておく。	18 回	授業テーマ：変わる労働と社会保障-非正規労働の激増 授業内容：日本に限らず多くの国で、経済のグローバル化とともに、非正規労働が激増し、社会保障制度の保護機能が弱体化してきている。これについて、データも利用しながら、受講生全員でディスカッションする。 事前学修 2.0hr：非正規労働問題について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。
4 回	授業テーマ：福祉国家の発展と経済成長 授業内容：福祉国家は、奇跡的ともいえる高度な経済成長を背景に発展した。その状況をフォローする。 事前学修 2.0hr：指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのディスカッション及び授業で得た知識・知見をシートにまとめておく。	19 回	授業テーマ：変容する家族・地域と社会保障 1 (ゲストスピーカーによる講演を含める) 授業内容：現在、多くの国で家族や地域のあり方も大きく変容している。これが社会保障制度にどのようなインパクトを与えているかについて検討する。 事前学修 2.0hr：家族や地域の変化について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。
5 回	授業テーマ：福祉国家の類型(世界の福祉国家) 1 授業内容：一口に福祉国家といっても、様々なタイプがある。比較的高度な福祉国家を創り上げたヨーロッパ諸国について、その実状を検討する。 事前学修 2.0hr：福祉国家の類型について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。	20 回	授業テーマ：変容する家族・地域と社会保障 2 (ディスカッション) 授業内容：前回の授業で取り上げた家族と地域の変容について、受講者全員でディスカッションする。 事前学修 2.0hr：引き続き、家族や地域の変化について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。まとめレポートを作成し、次回の授業で報告(発表)する。

6 回	授業テーマ：福祉国家の類型(世界の福祉国家) 2 授業内容：一口に福祉国家といっても、様々なタイプがある。日本をはじめとする、地域や家族をベースとしたアジア型の福祉国家を考察する。 事前学修 2.0hr：福祉国家の類型について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。	21 回	授業テーマ：社会保障改革の検証 1 授業内容：経済・社会・労働・地域・家族等のあり方が大きく変化していく時代にあって、それに対応するため社会保障制度はどのように改革されていくのであろうか。各国の社会保障改革を見ていく。 事前学修 2.0hr：事前に新聞、ネットなどで、関連記事をリストアップし、授業で報告(発表)する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。
7 回	授業テーマ：福祉国家改革の課題 1 授業内容：1980年代以降、少子高齢化や経済の低成長、国家財政の逼迫により、福祉国家の見直しが始まる。その改革課題について検討する。 事前学修 2.0hr：福祉国家全般の問題について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。	22 回	授業テーマ：社会保障改革の検証 2 授業内容：経済・社会・労働・地域・家族等のあり方が大きく変化していく時代にあって、それに対応するため社会保障制度はどのように改革されていくのであろうか。引き続き、各国の社会保障改革を見ていく。 事前学修 2.0hr：事前に新聞、ネットなどで、関連記事をリストアップし、授業で報告(発表)する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。
8 回	授業テーマ：福祉国家改革の課題 2 授業内容：前回に引き続き、福祉国家の改革課題について検討し、受講者全員でディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：福祉国家の諸課題について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。	23 回	授業テーマ：社会保障改革の検証 3 授業内容：経済・社会・労働・地域・家族等のあり方が大きく変化していく時代にあって、それに対応するため社会保障制度はどのように改革されていくのであろうか。引き続き、各国の社会保障改革を見ていく。 事前学修 2.0hr：事前に新聞、ネットなどで、関連記事をリストアップし、授業で報告(発表)する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。
9 回	授業テーマ：福祉国家改革の課題 3 授業内容：前回に引き続き、福祉国家の改革課題について検討し、受講者全員でディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：ヨーロッパの福祉国家について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。	24 回	授業テーマ：社会保障改革のための提言・提案の検討 1 授業内容：21世紀に入り、時代や状況が大きく変わる中で、社会保障制度をよりよく改革していくには、どうするべきか。これについて受講生に改革のための提言・提案を出してもらおう。 事前学修 2.5hr：事前に、自身の改革案を練り上げ、報告(発表)レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：授業での意見や知見をシートに整理しておく。
10 回	授業テーマ：福祉国家改革の課題 4 (まとめ) 授業内容：福祉国家改革の課題について、これまでのディスカッションの内容をまとめる。 事前学修 2.0hr：福祉国家改革の課題について、これまでの検討内容やディスカッションの結果をシートにまとめておく。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。論点整理を行い、次回の授業で報告(発表)する。	25 回	授業テーマ：社会保障改革のための提言・提案の検討 2 (ディスカッション) 授業内容：21世紀に入り、時代や状況が大きく変わる中で、社会保障制度をよりよく改革していくには、どうするべきか。これについて受講生に改革のための提言・提案を出してもらおうとともに、この回の授業では、それについて受講生全員でディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：事前に、自身の改革案を再度、検討し、報告(発表)レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：授業での意見や知見をシートに整理し、次回の授業で報告(発表)する。
11 回	授業テーマ：ポスト福祉国家の模索 1 授業内容：第2次大戦後に成立した福祉国家には、様々な問題があったとして、1990年代以降、新しい形の福祉国家を模索する動きが広がった。これについて最新の研究成果などもフォローしながら検討する。 事前学修 2.0hr：ポスト福祉国家について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。	26 回	授業テーマ：社会保障・福祉国家改革について 1 授業内容：これまでの授業での検討内容やディスカッション、その成果を蓄積したシートをもとに、社会保障・福祉国家改革について再度、検討する。 事前学修 2.0hr：授業に向けてディスカッションのポイントを整理し、自身の意見のまとめ準備する。 事後学修 2.0hr：授業での意見や知見をシートに整理しておく。
12 回	授業テーマ：ポスト福祉国家の模索 2 授業内容：第2次大戦後に成立した福祉国家には、様々な問題があったとして、1990年代以降、新しい形の福祉国家を模索する動きが広がった。これについて引き続き、最新の研究成果などもフォローしながら検討するとともに、受講生全員でディスカッションする。 事前学修 2.0hr：ポスト福祉国家について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。これまでの論点をまとめ、シートに記録する。	27 回	授業テーマ：社会保障・福祉国家改革について 2 (ディスカッション) 授業内容：社会保障・福祉国家改革とその将来について、自身の提言・提案をもとに、ディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：授業でのディスカッションに向けて、自身の提言・提案を再度、まとめ、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業での意見や知見をシートに整理しておく。
13 回	授業テーマ：少子高齢化と社会保障の見直し 1 授業内容：福祉国家を中心となって支えてきた社会保障制度は、一定の成果を上げながらも、少子高齢化によって、見直しを余儀なくされている。まず状況をデータ等で確認する。 事前学修 2.0hr：少子高齢化について、各種のデータをもとに、現状をまとめ、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。	28 回	授業テーマ：アジア諸国の福祉国家化への動向の紹介 授業内容：番外編として、現在、高成長と近代化のもと、福祉国家化するアジア諸国の実状をデータをもとに検討する。 事前学修 2.5hr：関連する情報を、授業中に紹介した資料やネット等などから得て、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業での意見や知見を配付のシートに整理しておく。
14 回	授業テーマ：少子高齢化と社会保障の見直し 2 授業内容：少子高齢化によって、なぜ社会保障制度は改革を迫られているのか。その連関を受講者全員でディスカッションする。 事前学修 2.0hr：少子高齢化と社会保障の見直しについて、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。関連情報をリストアップし、次回の授業で報告(発表)する。	29 回	授業テーマ：アジア諸国の福祉国家化についてのディスカッション 授業内容：前回の授業で検討したアジア諸国の福祉国家について、その特徴や機能、課題についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：関連する情報をネット等などから得ておく。指定文献・資料に目を渡し、ディスカッションに向けた準備を行う。 事後学修 2.0hr：授業での意見や知見をシートに整理し、まとめておく。
15 回	授業テーマ：少子高齢化と社会保障の見直し 3 (ディスカッション) 授業内容：少子高齢化はこれからも続く継続的な傾向である。これに対応するには、社会保障制度をどう改革していけばよいか。受講者全員でディスカッションする。 事前学修 2.0hr：少子高齢化と社会保障改革について、指定教科書及び、事前に manaba にアップした授業資料をよく読み、報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業の内容を復習する。これまでの論点を整理し、次回の授業で報告(発表)する。	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：これまでの1年間の学修内容ならびに調査・研究結果、ディスカッションの成果などのレポートにまとめる。 事前学修 2.0hr：これまでの学修や調査・研究の成果を振り返り、レポート作成用のシートにまとめておく。 事後学修 3.0hr：提出したまとめレポートを再度、見直し、必要な修正を加える。

労働経済学特論

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

白紙 利恵 (しらかみ りえ)

■ 授業の概要

少子高齢化・長寿化そして共生型社会への移行が進む過程で、人間の一生を通じた多様な働き方、社会参加に向けた政策のあり方等について、高齢者(高齢期)、女性、障害者等の「はたらく」局面に着目しながら、現状とその方向性、想定される効果や課題等について考察を深めます。

■ 到達目標

一般目標：「仕事」や「労働」について、歴史的経過を含めたトレンドを理解する

・高齢者や障害者など、日ごろ学生とは接点の少ない対象層について、理解を深めながら、就労をはじめとする社会参加の意義やその可能性について考えることができる。

・少子高齢化が進むなかで、一人一人の個性や特徴を「(人的)資源」として好循環させながら、個人の幸福感と地域社会の持続可能性(共生社会化)を高めていくための方策等について考えることができる。

個別目標：受講生個々の現状(日本語能力、関心事、目指しているキャリア等)を確認しつつ、個別に相談して決めていきます。

■ 履修条件

・特になし。ただし、講義は日本語で行いますので、日本語についての一定の素地を求めます。わからない場合は、個別に相談してください。

■ 評価基準・方法

・前期末、後期末にレポートの課題を提出します。

・講義の履修姿勢や課題提出の理解度(計 6 割)、前期後期末のレポート(計 4 割)で評価します。

■ フィードバック方法

・課題等のフィードバックは、対面(授業内)、manaba やメール等を通じて行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(学生によるプレゼンテーション。またコロナ等の状況が許せばフィールドワークでのディスカッションなどを予定)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(授業中、理解をより深めるための検索・確認機能として、インターネットに接続可能な端末を持参すること)

■ 教科書

・特にありません。基本は教員が事前にレジュメを用意します。講義のなかで、必要に応じてその都度指定します。

■ 参考書

・講義のなかで、指定します。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：オリエンテーション～本講義を履修するための基礎情報の把握 授業内容：本講座に関わる基礎情報、情報源情報について習得します。 事前学修 2.0hr：1年間を通じて何を学ぶかを理解する。各自のこれまでの労働経済学に関連する学習経験を振り返る。 事後学修 2.0hr：オリエンテーションで参考にした参考文献等について確認する。	16 回	授業テーマ：女性はどうのようにはたらいてきたか 授業内容：女性の昭和までのライフスタイルや働き方を、統計データ等を通じて確認します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
2 回	授業テーマ：人生 100 年代代の働き方を考える～歴史編 授業内容：昭和までの働き方を、統計データ等を通じて確認します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	17 回	授業テーマ：産業化・都市化と女性の仕事・生活 授業内容：高度経済成長期を通じた産業化と都市化の中での、女性労働の変化(就業者の増加と専業主婦というライフスタイルの誕生)について確認します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
3 回	授業テーマ：人生 100 年代代の働き方を考える～歴史編② 授業内容：平成期～現在までの日本人の働き方(の変化)を、統計データ等を通じて確認します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	18 回	授業テーマ：平成期以降の女性の生き方・働き方 授業内容：女性の平成以降の働き方の変化を、統計データ等を通じて確認します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
4 回	授業テーマ：人生 100 年代代の働き方を考える～未来に向けた変化を学ぶ① 授業内容：2040 年に向けた、人口構造等の変化、ライフサイクルの変化と共に、働き方がどう変わるのかを考察します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	19 回	授業テーマ：女性の生き方・働き方(これから) 授業内容：2040 年に向けた女性のライフスタイル、就業の変化を展望します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
5 回	授業テーマ：人生 100 年代代の働き方を考える～未来に向けた変化を学ぶ② 授業内容：2040 年に向けた働き方の変化に応じて求められる制度変化とは何かについて考察します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	20 回	授業テーマ：「主婦」は仕事か 授業内容：いわゆる「無償労働」の意味や経済性について考察します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
6 回	授業テーマ：人生 100 年代代の働き方を考える～未来に向けた変化を学ぶ③ 授業内容：AI とともに生きる「はたらくとは、どのようなことか、推察します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	21 回	授業テーマ：女性と仕事のこれらに向けて必要なこと 授業内容：働くことに関する日本の女性の特徴や、それを見据えた今後の変化、必要な施策等について考察します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
7 回	授業テーマ：人生 100 年代代における「高齢期」とは 授業内容：長寿化の中で、いわゆる「高齢期」のとらえ方はどう変わるのか、人々の生活様式の変化について学びます。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	22 回	授業テーマ：障害者と一緒に働く 序論① 授業内容：前提として、「障害」について基礎的な学びを得ます。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
8 回	授業テーマ：高齢期の働き方について考える(男性を例に) 授業内容：高齢期も継続して、いきいきと働き続けられるようにしていくために、制度の変革として求められるもの、必要な視点は何かについて学びます。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	23 回	授業テーマ：障害者と一緒に働く 序論② 授業内容：これまでの障害のある人の人生(傾向や特性)を歴史的に振り返ります。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。

9 回	授業テーマ：高齢期の働き方について考える(女性を例に) 授業内容：高齢期も、継続して、いきいきと働き続けられるようにしていくために、制度の変革として求められるもの、必要な視点は何かについて考察します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	24 回	授業テーマ：障害者も一緒に働く(制度の変遷) 授業内容：障害者の教育・就労等に関する制度の変遷について学びます。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
10 回	授業テーマ：高齢期の働き方～今後の課題と期待 授業内容：高齢期の就労の難しさはどこにあるのか。逆に「のびしろ」はどこにあるのか、について考察します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	25 回	授業テーマ：障害者も一緒に働く(実態編) 授業内容：現在、障害者はどこで、どれくらい働いているかについて、統計から読み解きます。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
11 回	授業テーマ：事例で学ぶ高齢期の働き方① 授業内容：ケース・スタディ。可能な限り、講師をお招きして体験等についてお話しいただき、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	26 回	授業テーマ：障害者も一緒に働く(記録編) 授業内容：障害者はどこで、どのように働いているか、文献から読み解きます。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
12 回	授業テーマ：事例で学ぶ高齢期の働き方② 授業内容：ケース・スタディ。可能な限り、講師をお招きして体験等についてお話しいただき、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	27 回	授業テーマ：障害者も一緒に働く(事例編)① 授業内容：ケース・スタディ。可能な限り、講師をお招きして体験等についてお話しいただき、ディスカッションします。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
13 回	授業テーマ：事例で学ぶ高齢期の働き方③ 授業内容：ケース・スタディ。可能な限り、講師をお招きして体験等についてお話しいただき、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	28 回	授業テーマ：障害者も一緒に働く(ケース・スタディ②) 授業内容：ケース・スタディ。可能な限り、講師をお招きして体験等についてお話しいただき、ディスカッションします。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
14 回	授業テーマ：高齢になっても働き続けることができる社会に向けて① 授業内容：今後に向けた定年制の在り方について検討します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	29 回	授業テーマ：障害のある人も一緒に働ける社会に向けて 授業内容：障害があってもより働きやすく、社会参加しやすい社会に向けた課題について、考察します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。
15 回	授業テーマ：高齢になっても働き続けることができる社会に向けて② 授業内容：今後に向けた公的年金の在り方について検討します。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る、課題に取り組む。	30 回	授業テーマ：まとめの講義 授業内容：1年間の講義を通じたまとめを行います。 事前学修 2.0hr：配布されたレジュメの内容と参考文献に目を通す。 事後学修 2.0hr：あいまいな点、疑問点を振り返る。

特別演習 I

開講学科等：経済修士 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

池田 晋 (いけだ すずむ)

■ 授業の概要

本演習は、会計学・監査論の分野で修士論文を作成する力を養成することを目的としている。研究テーマ選定、研究計画書の作成、資料の収集方法や関連する書籍・論文の輪読などとおして修士論文作成の準備を行う。

■ 到達目標

- 一般目標：修士論文作成に必要な基礎知識・技術を身につける。
個別目標：① 研究の具体的な課題および研究方法を明確にする。
② 学術研究を行うにあたってのマナーを身につける。

■ 履修条件

特にないが、英文の読解力があることが望ましい。

■ 評価基準・方法

報告・発表50%と学期末の課題50%(前後期に各1回)

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(反転授業)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(Word ソフトを搭載したノートパソコンを毎回持参すること)

■ 教科書

Trotman. K. T.[1995] Research Methods for Judgment and Decision Making Studies in Auditing, Coopers & Lybrand.

■ 参考書

Bonner. S. E.[2008] Judgment and Decision Making in Accounting, Pearson Prentice-Hall.

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、前期の講義の概要説明 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：「研究計画書」の作成 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	16 回	授業テーマ：夏季休暇中の研究活動の報告 授業内容：夏季休暇中の研究活動の報告 事前学修 2.0hr：報告資料の作成 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
2 回	授業テーマ：会計学の研究方法の習得 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	17 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
3 回	授業テーマ：会計学の研究方法の習得 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	18 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
4 回	授業テーマ：会計学の研究方法の習得 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	19 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
5 回	授業テーマ：会計学の研究方法の習得 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	20 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
6 回	授業テーマ：会計学の研究方法の習得 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	21 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
7 回	授業テーマ：会計学の研究方法の習得 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	22 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
8 回	授業テーマ：研究計画書 授業内容：「研究計画書」の見直し 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	23 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
9 回	授業テーマ：研究計画書 授業内容：「研究計画書」の見直し 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	24 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
10 回	授業テーマ：研究計画書 授業内容：「研究計画書」の見直し 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	25 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
11 回	授業テーマ：研究計画書 授業内容：「研究計画書」の見直し 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	26 回	授業テーマ：先行研究の調査 授業内容：書籍・論文輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
12 回	授業テーマ：会計学の研究方法の習得 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	27 回	授業テーマ：学術論文の書き方の習得 授業内容：学術論文の書き方の講義 事前学修 2.0hr：前回講義の復習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習

13 回	授業テーマ：会計学の方法の習得 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習。 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	28 回	授業テーマ：発表の方法の習得 授業内容：発表の方法の講義 事前学修 2.0hr：前回講義の復習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
14 回	授業テーマ：会計学の方法の習得 授業内容：教科書の輪読 事前学修 2.0hr：前回講義の復習と予習 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	29 回	授業テーマ：春季休暇中の研究活動の課題 授業内容：春季休暇中の研究活動の課題の検討 事前学修 2.0hr：最新の「研究計画書」, 修士論文の目次の作成 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習
15 回	授業テーマ：夏季休暇中の研究活動の課題設定 授業内容：夏季休暇中の研究活動の課題の検討 事前学修 2.0hr：これまでの講義のまとめ 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：まとめ 事前学修 2.0hr：これまでの講義のまとめ 事後学修 2.0hr：講義ノートの整理と復習

特別演習 I

開講学科等：経済修士 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

岡村 龍輝 (おかむら りょうき)

■ 授業の概要

本演習の目的は、経営戦略論、多国籍企業論、企業と社会論の分野を中心に、修士論文を作成するうえで必要となる基礎的な力を身につけることです。そのために、学生の研究テーマに関連する先行研究を読み込みながら、先行研究では達成されていない部分を発見して自らの研究課題(独自性)を明確にするとともに、修士論文作成上の基本的な作法を身につけることを目指します。なお、シラバスは経営戦略論をベースに記述していますが、経営戦略論、多国籍企業論、企業と社会論を中心とした研究分野のうち、どの分野に焦点を当てるかは履修者の研究テーマに応じて調整します。

■ 到達目標

一般目標：経営戦略論、多国籍企業論、企業と社会論の分野を中心に、自らの修士論文を作成するうえで必要となる基礎的な力を身につけている。

個別目標：1. 自らの研究課題(独自性)を明確にしている。

2. 修士論文作成上の基本的な作法を身につけている。

■ 履修条件

特にありません。

■ 評価基準・方法

1. 担当課題(50%)：期間中、報告担当者となった回数および報告内容を評価します。

2. 学年末課題(50%)：修士論文の第1章を提出してもらいます。

※上記1・2については、ルーブリック型手法により評価します。

■ フィードバック方法

授業内での課題の実施およびフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うことがあります。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(授業は基本的にPBL型で行ないます。)

■ 授業でのPCの利用(利用内容)

あり(データ分析、文書作成など。)

■ 教科書

特に指定しません。研究テーマに関する論文等を紹介または各自で収集し、報告してもらいます。

■ 参考書

入山章栄著(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業計画と評価方法について確認するとともに、各人の研究計画について報告し、ディスカッションします。 事前学修 1.0hr：研究計画書を用意して下さい。 事後学修 3.0hr：ディスカッションを振り返り、研究計画について再検討して下さい。	16 回	授業テーマ：夏季休暇中における研究成果の概要報告 授業内容：夏季休暇中の研究成果の概要について報告し、ディスカッションします。 事前学修 2.0hr：先行研究の内容を含め、参考文献リストを整理して下さい。 事後学修 2.0hr：ディスカッションを振り返り、今後の研究計画を見直して下さい。
2 回	授業テーマ：戦略とは 授業内容：経営戦略の概念や階層・種類について学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	17 回	授業テーマ：テーマと関連した実態の整理：担当者A 授業内容：修士論文のテーマに関する実態について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、実態の整理について再検討して下さい。
3 回	授業テーマ：競争優位の実現と維持 授業内容：競争優位・競争均衡・競争劣位と競争優位の持続について学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	18 回	授業テーマ：テーマと関連した実態の整理：担当者B 授業内容：修士論文のテーマに関する実態について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、実態の整理について再検討して下さい。
4 回	授業テーマ：業界の構造分析 授業内容：業界の構造分析について、ファイブ・フォース分析を中心に学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	19 回	授業テーマ：テーマと関連した実態の整理：担当者C 授業内容：修士論文のテーマに関する実態について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、実態の整理について再検討して下さい。
5 回	授業テーマ：差別化 授業内容：差別化戦略について、マーケティング戦略を中心に学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	20 回	授業テーマ：第1章第1節の報告：担当者A 授業内容：実態整理をふまえて第1章第1節(問題の所在)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第1章第1節について再検討して下さい。
6 回	授業テーマ：コスト・リーダーシップ(1) 授業内容：コスト・リーダーシップ戦略について、規模の経済を学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	21 回	授業テーマ：第1章第1節の報告：担当者B 授業内容：実態整理をふまえて第1章第1節(問題の所在)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第1章第1節について再検討して下さい。
7 回	授業テーマ：コスト・リーダーシップ(2) 授業内容：コスト・リーダーシップ戦略について、経験効果を学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	22 回	授業テーマ：第1章第1節の報告：担当者C 授業内容：実態整理をふまえて第1章第1節(問題の所在)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第1章第1節について再検討して下さい。
8 回	授業テーマ：顧客価値 授業内容：顧客価値について、価値マップの作成方法を含めて学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	23 回	授業テーマ：先行研究レビュー：担当者A 授業内容：先行研究レビューについて報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、先行研究レビューについて再検討して下さい。

9 回	授業テーマ：競争ポジション 授業内容：リーダー、チャレンジャー、ニッチャーなどの競争ポジションごとの戦略定石について学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	24 回	授業テーマ：先行研究レビュー：担当者B 授業内容：先行研究レビューについて報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、先行研究レビューについて再検討して下さい。
10 回	授業テーマ：製品ライフサイクル 授業内容：製品ライフサイクルの概念と各段階の戦略定石について学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	25 回	授業テーマ：先行研究レビュー：担当者C 授業内容：先行研究レビューについて報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、先行研究レビューについて再検討して下さい。
11 回	授業テーマ：事業の定義と企業ドメイン 授業内容：ドメインの概念と成長ベクトルについて学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	26 回	授業テーマ：第1章第2節の報告：担当者A 授業内容：先行研究レビューをふまえて第1章第2節(先行研究の到達点と課題)を報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第1章第2節について再検討して下さい。
12 回	授業テーマ：多角化 授業内容：多角化の概念やシナジーについて学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	27 回	授業テーマ：第1章第2節の報告：担当者B 授業内容：先行研究レビューをふまえて第1章第2節(先行研究の到達点と課題)を報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第1章第2節について再検討して下さい。
13 回	授業テーマ：垂直統合 授業内容：垂直統合の概念や make or buy の判断基準について学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究等の資料をノート(報告者はレジュメ)にまとめて下さい。 事後学修 2.0hr：学んだ内容を復習するとともに、次回に向けて先行研究等の資料を読んで下さい。	28 回	授業テーマ：第1章第2節の報告：担当者C 授業内容：先行研究レビューをふまえて第1章第2節(先行研究の到達点と課題)を報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第1章第2節について再検討して下さい。
14 回	授業テーマ：参考文献・資料の収集とまとめ方、記述方法 授業内容：先行研究などの参考文献・資料の収集方法とまとめ方、記述方法について学びます。 事前学修 2.0hr：先行研究における参考文献・資料の記述方法について確認して下さい。 事後学修 2.0hr：修士論文に用いる資料・データ等のリストを作成して下さい。	29 回	授業テーマ：研究課題の確定 授業内容：具体的な研究課題について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、研究課題について再検討して下さい。
15 回	授業テーマ：先行研究リストの作成 授業内容：先行研究リストについて報告し、ディスカッションします。 事前学修 2.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 2.0hr：ディスカッションを振り返り、参考文献リストについて再検討して下さい。	30 回	授業テーマ：春季休暇中における研究計画の報告 授業内容：春季休暇中における研究計画について報告し、ディスカッションします。 事前学修 2.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、研究計画について再検討して下さい。

特別演習 I

開講学科等：経済修士 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

影山 純二 (かげやま じゅんじ)

■ 授業の概要

本演習の目的は、経済理論、幸福度研究、人口経済学、生物経済学が交錯する分野において修士論文を作成する力を身につけることです。前期は幸福度研究に関する文献の輪読を中心に演習を進め、後期は修士論文に向けて各自のテーマに基づいて先行研究を整理します。

■ 到達目標

一般目標：修士論文を書くための基礎的知識を身につけること。

個別目標：経済理論、幸福度研究、人口経済学、生物経済学が交錯する分野において、特に自分が主題とするテーマを選び、その分野の研究を体系的に把握できること。

■ 履修条件

履修条件はないが、英語の論文を読む必要があることに留意すること。

■ 評価基準・方法

演習で行う報告 (100%)。課題及び定期試験のフィードバックは、授業中に行う。

■ フィードバック方法

随時、口頭で行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッションへの積極的な参加を期待します。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (統計ソフトウェアの利用が必要。)

■ 教科書

大石繁宏 (2009) 「幸せを科学する—心理学からわかったこと」

Kageyama & Teramura (2023) Perception of Family and Work in Low-Fertility East Asia.

■ 参考書

学生の研究テーマに応じて授業で紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：教科書の入手 事後学修 2.0hr：輪読準備	16 回	授業テーマ：サーベイについて 授業内容：サーベイ方法の振り返り 事前学修 2.0hr：先行研究として報告する論文準備と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて先行研究を整理
2 回	授業テーマ：輪読 1 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	17 回	授業テーマ：先行研究論文報告 1 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：先行研究として報告する論文準備と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて先行研究を整理
3 回	授業テーマ：輪読 2 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	18 回	授業テーマ：先行研究論文報告 2 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：先行研究として報告する論文準備と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて先行研究を整理
4 回	授業テーマ：輪読 3 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	19 回	授業テーマ：先行研究論文報告 3 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：先行研究として報告する論文準備と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて先行研究を整理
5 回	授業テーマ：輪読 4 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	20 回	授業テーマ：先行研究論文報告 4 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：先行研究として報告する論文準備と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
6 回	授業テーマ：輪読 5 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	21 回	授業テーマ：先行研究論文報告 5 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：先行研究として報告する論文準備と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて先行研究を整理
7 回	授業テーマ：輪読 6 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	22 回	授業テーマ：1 年次レポート(サーベイ)準備：テーマ 授業内容：テーマ選定 事前学修 2.0hr：自分なりにテーマを選定しておく 事後学修 2.0hr：テーマの見直し
8 回	授業テーマ：輪読 7 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	23 回	授業テーマ：1 年次レポート(サーベイ)準備：サーベイ 1 授業内容：サーベイの実施&ディスカッション 事前学修 2.0hr：サーベイの実施 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいてサーベイを整理
9 回	授業テーマ：輪読 8 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	24 回	授業テーマ：1 年次レポート(サーベイ)準備：サーベイ 2 授業内容：サーベイの実施&ディスカッション 事前学修 2.0hr：サーベイの実施 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいてサーベイを整理
10 回	授業テーマ：輪読 9 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	25 回	授業テーマ：1 年次レポート(サーベイ)準備：サーベイ 3 授業内容：サーベイの実施&ディスカッション 事前学修 2.0hr：サーベイの実施 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいてサーベイを整理
11 回	授業テーマ：輪読 10 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	26 回	授業テーマ：1 年次レポート(サーベイ)発表準備 1 授業内容：発表準備&ディスカッション 事前学修 2.0hr：発表準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに発表内容を見直し

12 回	授業テーマ：輪読 11 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	27 回	授業テーマ：1 年次レポート(サーベイ)発表準備 2 授業内容：発表準備&ディスカッション 事前学修 2.0hr：発表準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに発表内容を完成
13 回	授業テーマ：輪読 12 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	28 回	授業テーマ：1 年次レポート(サーベイ)発表 授業内容：発表&ディスカッション 事前学修 2.0hr：発表準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに発表内容を見直し
14 回	授業テーマ：輪読 13 授業内容：報告&ディスカッション 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて自分の考えを整理	29 回	授業テーマ：1 年次レポート文章(サーベイ)作成 授業内容：文章での作成&様式整理、ディスカッション 事前学修 2.0hr：文章作成&様式整理 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいてレポートを見直し
15 回	授業テーマ：前期総括 授業内容：教科書 2 冊について総括 事前学修 2.0hr：教科書 2 冊を振り返る 事後学修 2.0hr：総括に基づいてノート整理	30 回	授業テーマ：1 年次レポート文章(サーベイ)提出 授業内容：提出&ディスカッション 事前学修 2.0hr：1 年次レポート文章(サーベイ)完成 事後学修 2.0hr：1 年間の学習成果整理

特別演習 I

開講学科等：経済修士 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

工藤 克宜 (くどう かつのり)

■ 授業の概要

本ゼミは、税法通則特論及び所得課税法特論の講義とリンクさせながら、租税法に関する判例研究などを通じて法的思考力を高めつつ、各自の税法修士論文作成のために必要な研究を進めることを目的とする。そのため、判例研究においては、実際の判決文を読み、判旨を踏まえ、①法令の立法趣旨・経緯、②法令の条文解釈、③学説及び先行研究を整理し事例研究を行い、税法知識及び法的思考力の向上を図る。また、随時、各自の研究計画書を更新しながら研究活動を計画的に進め、その状況と内容を報告する。

■ 到達目標

一般目標：本ゼミの到達目標は、税法に関する修士論文作成に向けて必要不可欠な税法知識及び法的思考力を身につけ、各自の研究を着実に進めることである。

個別目標：税法修士論文の作成に必要な条文の解釈、先行研究の整理、判例研究等をすることができる。

また、税法修士論文作成に向けた研究計画書を作成し、計画的に研究活動を進めることができる。

■ 履修条件

「税法通則特論」及び「所得課税法特論」を併せて履修すること。

■ 評価基準・方法

評価の基準(目安)は、①ゼミへの取組状況(研究状況、意見表明、討議等)が 60%、②判例研究の成果(課題への取組み)が 40%である。

■ フィードバック方法

授業の履修状況に関して必要なフィードバックやアドバイスは各回のゼミ及び manaba の「個別指導コレクション」により行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(各回のテーマについて各自の見解を表明しディスカッションを行う。判例研究では担当した事例の判決文を検討し発表する。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(PC 等を活用して演習を行う。)

■ 教科書

金子宏『租税法(第二四版)』(弘文堂、2021 年)

中里実ほか編『租税判例百選(第 7 版)』別冊ジュリスト(有斐閣、2021 年)(新版が出た場合はその版)

■ 参考書

適宜、参考文献を紹介する。また、必要に応じて参考資料を配付する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：ゼミの進め方、税法修士論文作成に向けた研究方法についてガイダンスを行う。 事前学修 2.0hr：事前に manaba の掲載する授業コンテンツを予習する。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	16 回	授業テーマ：研究計画書の更新、発表 授業内容：研究計画書を更新し、リサーチクエスト、条文解釈、先行研究、判例研究等の内容を発表する。 事前学修 2.0hr：研究計画書の更新、発表の準備 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
2 回	授業テーマ：税法条文の読み方 授業内容：税法通則特論の授業を踏まえ税法条文の読み方を確認する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	17 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「51(ベトナム籍日本人事件)等の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例及び配付する判決を予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
3 回	授業テーマ：租税訴訟法の概要 授業内容：租税訴訟法の概要について確認する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料等を予習する。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	18 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「65(大竹貿易事件)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
4 回	授業テーマ：判決文の読み方 授業内容：租税訴訟の判決文の読み方について確認する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料を確認する。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	19 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「52」の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
5 回	授業テーマ：裁決、判例、文献の収集・整理方法 授業内容：税法修士論文作成のための裁決、判例、文献の収集・整理方法を確認する。 事前学修 2.0hr：事前配付資料を確認する。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	20 回	授業テーマ：研究計画書の更新、発表 授業内容：研究計画書を更新し、リサーチクエスト、条文解釈、先行研究、判例研究等の内容を発表する。 事前学修 2.0hr：研究計画書の更新、発表の準備。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
6 回	授業テーマ：研究計画書の発表 授業内容：現段階のリサーチクエスト、研究計画書を発表する。 事前学修 2.0hr：研究計画書の作成、発表 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	21 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「56」の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
7 回	授業テーマ：裁判所見学 授業内容：裁判所(最高裁判所ほか)を見学し、実際の公判を傍聴する。 事前学修 2.0hr：日本の裁判制度について予習する。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	22 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「60」の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
8 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「31」(「生計を一にするの意義」)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	23 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「62」(萬有製薬事件)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。

9 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「33」(制限超過利息)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	24 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「57」(NTT ドコモ事件)、「20」(パラティーナ事件)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：当該判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
10 回	授業テーマ：研究計画書の更新、発表 授業内容：研究計画書を更新し、リサーチクエスト、条文解釈、先行研究、判例研究等の内容を発表する。 事前学修 2.0hr：研究計画書の更新、発表の準備。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	25 回	授業テーマ：研究計画書の更新、発表 授業内容：研究計画書を更新し、リサーチクエスト、条文解釈、先行研究、判例研究等の内容を発表する。 事前学修 2.0hr：研究計画書の更新、発表 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
11 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「38」(事業所得と給与所得の区分)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	26 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「58」(興銀事件)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
12 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「40」(10年退職金事件)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	27 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「66」(クラヴィス事件)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
13 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「48」(一時所得と雑所得の区別)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	28 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「63」(ユニバーサルミュージック事件)の判決及び最高裁判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
14 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「50」(配偶者控除)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	29 回	授業テーマ：判例研究 授業内容：『租税判例百選』の「64」(ヤフー事件)の判例について先行研究や評釈等をもとに読み解き、それを踏まえてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：該当判例の判決文を読み予習する。発表者は発表の準備をする。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。
15 回	授業テーマ：ゲストとの意見交換 授業内容：ゲスト(税法修士論文を執筆した OBOG)による研究成果発表と意見交換を行う。 事前学修 2.0hr：OBOG の税法修士論文を予習する。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	30 回	授業テーマ：1年間のまとめ 授業内容：1年間のゼミを総括する。 事前学修 2.0hr：1年間のゼミを踏まえ特別演習Ⅱにおける研究計画を立案する。 事後学修 2.0hr：修士論文のテーマについてエントリーする。

特別演習 I

開講学科等：経済修士 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

下田 直樹 (しもだ なおき)

■ 授業の概要

この特別演習 I では、入学試験時に提出した「研究計画」をもとに、修士論文作成に向けて、その見直しと掘り下げを行うとともに、そのために必要となる資料収集の方法や関連する領域の学習・研究計画を立てることを目標とする。

■ 到達目標

一般目標： 入学時に提出した、当初の「研究計画」の内容を再度見直し、また深化させることで、修士論文のテーマを早く決定することができ、早期の取組みを期待できる。さらに研究のための不足点が明らかになることで、自らが何をすればよいかの研究目標が明確化できる。

個別目標： 研究目的を明確化し、論文を書くための綿密な研究執筆計画を立案することができる。研究のための史料・資料について収集の手筈を整えることができる。

■ 履修条件

特になし。

■ 評価基準・方法

報告・発表点(50%)と授業最後の報告レポートの点数(50%)を合計して評価する。

■ フィードバック方法

報告・課題発表等へのフィードバックは、都度、演習内で講評のかたちで行い、優秀なものは内容を記録し、次回の授業での議論の素材とする。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(毎回、ゼミ生(院生)には授業テーマに沿った報告(発表)を求め、講評後、それをもとにディスカッションする。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(授業中に PC を使って、先行研究や情報収集等を行う。)

■ 教科書

特に指定しない。毎回、研究計画に関わる論文や雑誌記事等を持ち寄る。

■ 参考書

小浜裕久著『経済論文の技法—データが語る・データで語る』日本評論社、ほか、必要に応じて、紹介・案内する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：特別演習 1 の進め方についてのガイダンス 授業内容：2 年後の修士論文作成・提出に向けて、特別演習 1 の授業内容と進め方についてガイダンスを行う。 事前学修 2.0hr：2 年間の研究の計画案を立て、次回の授業で報告(発表)できるよう準備しておく。 事後学修 3.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	16 回	授業テーマ：夏季休暇中の研究活動の報告 授業内容：夏季休暇中の研究活動の成果を報告(発表)する。 事前学修 2.0hr：夏季休暇中の研究活動についての報告(発表)用の原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。
2 回	授業テーマ：修士論文作成についての説明 授業内容：修士論文とは何か。どのように作成するか。その審査基準などについて、ひととおり説明し、説明し、質疑応答を行う。 事前学修 2.0hr：志願の際に出した「研究計画書」のポイントを報告できるよう、まとめておく。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	17 回	授業テーマ：先行研究等の紹介(社会保障関連) 授業内容：研究計画＝修士論文の作成に繋がる社会保障関連の先行研究について紹介し、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：社会保障関連の先行研究等をリストアップし、レジュメにまとめておく。 事後学修 2.0hr：授業で得た先行研究の知見等を整理、ノートにまとめておく。
3 回	授業テーマ：「研究計画書」の再確認 授業内容：志願の際に提出した「研究計画書」を再確認し、必要なアドバイスと指導を行う。 事前学修 2.5hr：前回のアドバイスをもとに「研究計画書」の見直し案を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見を整理し、もう一度、研究計画書を作成し直す。	18 回	授業テーマ：先行研究等の紹介(労働経済関連) 授業内容：研究計画＝修士論文の作成に繋がる労働経済関連の先行研究について紹介し、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：労働経済関連の先行研究等をリストアップし、レジュメにまとめておく。 事後学修 2.0hr：授業で得た先行研究の知見等を整理し、ノートにまとめておく。
4 回	授業テーマ：意見交換とディスカッション 授業内容：作成し直した「研究計画書」について、意見交換しディスカッションする。 事前学修 2.0hr：「研究計画」についての自身の考えや意見を整理し、報告(発表)できるように準備しておく。 事後学修 2.0hr：出された意見等をノートに整理し、さらに「研究計画書」を修正する。	19 回	授業テーマ：先行研究等の紹介(福祉国家研究関連) 授業内容：研究計画＝修士論文の作成に繋がる福祉国家研究関連の先行研究について紹介し、ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：福祉国家研究関連の先行研究等をリストアップし、レジュメにまとめておく。 事後学修 2.0hr：授業で得た先行研究の知見等を整理、シートにまとめておく。
5 回	授業テーマ：「研究計画書」の見直し作業 授業内容：修正した「研究計画書」をもとに、修士論文をどのように作成していくのかをアドバイスする。 事前学修 2.5hr：修正「研究計画書」をもとに、修士論文作成に向けたおおまかな予定表を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理し、次回の授業に向けて、質問事項を用意しておく。	20 回	授業テーマ：研究テーマの再確認 授業内容：これまでの学修・研究の成果を踏まえ、再度、研究計画を再考する。ディスカッションする。 事前学修 2.0hr：いま一度、研究テーマについて検討し、変更の有無についての報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 1.0hr：授業でのアドバイスや意見をシートに整理しておく。
6 回	授業テーマ：「研究計画書」に基づく具体的な研究スケジュール案の検討 授業内容：「研究計画」が回り、おおまかな予定が立ったら、これらに基づいて、2 年間の具体的な研究スケジュールを作成する。 事前学修 2.0hr：研究スケジュール案の報告(発表)用原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	21 回	授業テーマ：「研究計画書」の再報告と指導 授業内容：これまでの学修・研究の成果を踏まえ、「研究計画書」の再検討を行う。 事前学修 2.0hr：新しい「研究計画書」を作成し、報告(発表)する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。
7 回	授業テーマ：1 年次の研究内容の確認 授業内容：具体的な研究スケジュールが立ったら、1 年次にどのような内容を学修・研究するかを検討する。 事前学修 2.0hr：具体的な研究スケジュールに基づき、1 年次の学修・研究内容のプランを練る。それを報告(発表)レジュメとして準備する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	22 回	授業テーマ：意見交換とディスカッション 授業内容：新しくなった研究計画について、意見交換とディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：研究計画についての自分なりの意見をまとめておく。 事後学修 2.0hr：出された意見等をノートに整理しておく。
8 回	授業テーマ：学修・研究プランについての意見交換 授業内容：1 年次の学修・研究プランについて報告(発表)をしてもらい、必要なアドバイスをを行い、意見交換する。 事前学修 2.0hr：意見交換に向けて、質問事項などを用意する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見交換の結果をノートに整理しておく。	23 回	授業テーマ：研究方法、資料利用上の諸注意 授業内容：新しい研究計画に基づいて、研究方法や資料利用について、必要な指導を行う。 事前学修 2.0hr：研究方法、資料利用に関する文献を読んで、内容を報告(発表)できるようにしておく。 事後学修 2.0hr：授業で得た知見等を整理、ノートにまとめておく。

9 回	授業テーマ：特別演習 1 での研究課題の検討 授業内容：他の授業科目と併せ、1 年次の特別演習 1 では、どのような研究課題を取り上げ、検討するかを共に検討する。 事前学修 2.0hr：特別演習での研究課題案を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	24 回	授業テーマ：執筆方法等の諸注意 授業内容：新しい研究計画に基づいて、執筆方法等について、必要な指導を行う。 事前学修 2.0hr：執筆方法に関する文献等を読んで、質問事項を用意しておく。 事後学修 2.0hr：授業で得た知見等を整理、ノートにまとめておく。
10 回	授業テーマ：研究課題に基づくゼミ指導(1) 授業内容：「研究計画書」に基づく修士論文作成に繋がる研究課題に取り組む。 事前学修 2.0hr：研究課題報告のためのレジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	25 回	授業テーマ：インターネット利用上の諸注意 授業内容：新しい研究計画に基づいて、インターネット利用について、必要な指導を行う。 事前学修 2.0hr：インターネット利用に関する文献・資料等を読んで、注意点をレジュメにまとめておく。 事後学修 2.0hr：授業で得た知見等を整理、ノートにまとめておく。
11 回	授業テーマ：研究課題に基づくゼミ指導(2) 授業内容：「研究計画書」に基づく修士論文作成に繋がる研究課題に取り組む。 事前学修 2.0hr：研究課題報告のためのレジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	26 回	授業テーマ：その他、修士論文作成にかかわる諸事項の注意 授業内容：新しい研究計画に基づいて、修士論文作成にかかわる諸注意事項について、必要な指導を行う。 事前学修 2.0hr：manaba にアップする授業資料をよく読んで、質問事項等を考えて、リストアップしておく。 事後学修 2.0hr：授業で得た知見等をノートに整理、まとめておく。
12 回	授業テーマ：研究課題に基づくゼミ指導(3) 授業内容：「研究計画書」に基づく修士論文作成に繋がる研究課題に取り組む。 事前学修 2.0hr：研究課題報告のためのレジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	27 回	授業テーマ：修士論文の作成計画指導 授業内容：2 年に進級後、ただちに修士論文作成にかかれるよう、必要な指導を行う。 事前学修 2.0hr：修士論文の作成スケジュールを立て、それについての報告(発表)原稿を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。
13 回	授業テーマ：資料・データ収集についての指導 授業内容：修士論文作成にとって、重要なことの一つは、資料やデータの収集である。そのための必要な指導を行う。 事前学修 2.0hr：研究のために必要な資料名等をリストアップ、報告(発表)レジュメにまとめる。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をシートに整理しておく。	28 回	授業テーマ：1 年間を通しての質疑応答 授業内容：1 年間の学修・研究活動の終了に際して、質問があれば受けつけ、意見交換を行う。 事前学修 2.0hr：聞いておきたい内容をあらかじめ整理し、レジュメにまとめておく。 事後学修 2.0hr：出された意見等をノートに整理しておく。
14 回	授業テーマ：データの見方等についての指導 授業内容：併せて、収集したデータの善し悪しや、その見方について必要な指導を行う。 事前学修 2.0hr：データの見方等について、授業で質問したい事柄をあらかじめ整理し、一覧を作成しておく。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	29 回	授業テーマ：春季休暇中の研究活動についての指導 授業内容：春季休暇中の研究活動について、優先順位等の指導を行う。 事前学修 2.0hr：春季休暇中の研究活動についての計画書を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。
15 回	授業テーマ：夏季休暇中の研究活動についての指導 授業内容：夏季休暇中の研究活動について、優先順位等の指導を行う。 事前学修 2.0hr：夏季休暇中の研究活動についての計画書を作成する。 事後学修 2.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。	30 回	授業テーマ：まとめと題名の確定(報告レポートにまとめる) 授業内容：1 年間の学修・研究活動を振り返り、その成果をまとめるとともに、修士論文の題名確定のために必要な指導を行う。 事前学修 2.0hr：これまでのアドバイスをもとに、論文の題名(案)を考え、報告(発表)できるようにしておく。 事後学修 3.0hr：授業でのアドバイスや意見をノートに整理しておく。

特別演習 I

開講学科等：経済修士 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

廣部 恒忠 (ひろべ つねただ)

■ 授業の概要

履修者が修士課程において研究を計画している中から関連する項目を選び、文献の輪読を中心に演習を進め、研究能力を養う。

■ 到達目標

一般目標：修士論文を書くための基礎的知識を身につけること。

個別目標：上記分野において、自ら修士論文作成に係るテーマを選び、その分野の研究を体系的に把握できる力を涵養すること。

■ 履修条件

履修条件はないが、経済学の素養の他に大学院で必要な最低限の英語と数学の基礎力を身につけていること。

■ 評価基準・方法

演習で行う報告 (100%)。課題及びその他のフィードバックは、適宜、授業中にて実施する予定である。

■ フィードバック方法

manaba 等を利用して課題などのフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッションへの積極的な参加を期待)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (実証分析を実施する際、適宜、統計ソフトウェアを利用)

■ 教科書

輪読する文献については、履修者と相談の上で決定する予定である。

■ 参考書

適宜、授業において紹介する予定である。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：輪読する文献候補を探す 事後学修 2.0hr：輪読準備	16 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
2 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	17 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
3 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	18 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
4 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	19 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
5 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	20 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
6 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	21 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
7 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	22 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
8 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	23 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
9 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	24 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
10 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	25 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
11 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	26 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
12 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	27 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備

13 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	28 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
14 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	29 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備
15 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：輪読と報告準備	30 回	授業テーマ：輪読報告 授業内容：輪読 事前学修 2.0hr：輪読と報告準備 事後学修 2.0hr：1年間の学習成果整理

特別演習 I

開講学科等：経済修士 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

宮崎 礼二 (みやざき れいじ)

■ 授業の概要

修士論文のテーマ選定と論文作成の準備作業を行うことを目的とする。

■ 到達目標

一般目標：1. 文献収集、論文構想の報告ができるようになる。

2. 論文マナーを身につける。

3. 先行研究のサーベイによって、研究史に自分のテーマを位置づけることができる。

個別目標：1. 自分の研究テーマにおいて卓越した見識を獲得する。

2. 自分の研究テーマの社会的な意義について説明できる。

■ 履修条件

1. インターネットの利用は、論文検索とジャーナルのダウンロードに限定すること。

2. 国会図書館や他大学の図書館あるいは資料室に足を運ぶことを厭わず、文献収集に努めること。

■ 評価基準・方法

論文草稿(100%)

■ フィードバック方法

個別指導と manaba でフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッション)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (manaba の利用)

■ 教科書

受講者と相談して決める。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

授業テーマ

論文構想の組み立て方や論文作法などを中心にテーマごと個別指導を行う。

授業内容

論文テーマに沿った文献報告を中心に進める。

事前学修

1. 各自の研究テーマの論文収集。

2. 研究史の整理。

3. 論文の読み込み。

4. 資料収集。

事後学修

1. 自分のテーマを先行研究の中で相対化。

2. 先行論文の整理。

3. 資料の整理。

特別演習Ⅱ

開講学科等：経済修士 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

池田 晋 (いけだ すずむ)

■ 授業の概要

修士論文の完成のための指導。

■ 到達目標

- 一般目標：1. 修士論文の完成。
2. 研究テーマについて詳細に語る事ができる。
3. 研究史における自分のテーマのオリジナリティと意義を示す事ができる。

- 個別目標：1. 個別的・具体的な事象を理論的・論理的に構成する能力を獲得する。
2. 論理的に説明する能力を身につける。

■ 履修条件

特別演習Ⅰを履修したもの。

■ 評価基準・方法

修士論文(100%)

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（反転授業）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word ソフトを搭載したノートパソコンを毎回持参すること）

■ 教科書

特に指定なし

■ 参考書

講義にて指示

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス(研究計画のチェック) 授業内容：ガイダンス 事前学修 1.5hr：シラバスを読んで、本演習に期待する内容を考えること 事後学修 2.5hr：学習内容を振り返りシートを記入する	16 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
2 回	授業テーマ：論点の指導 授業内容：論点の指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	17 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
3 回	授業テーマ：修士論文構成の指導 授業内容：修士論文構成の指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	18 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
4 回	授業テーマ：資料収集の指導 ①内容の吟味 授業内容：資料収集の指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	19 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
5 回	授業テーマ：資料収集の指導 ②経過報告 授業内容：資料収集の指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	20 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
6 回	授業テーマ：資料収集の指導 ③経過報告 授業内容：資料収集の指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	21 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
7 回	授業テーマ：資料収集の指導 ④経過報告 授業内容：資料収集の指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	22 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
8 回	授業テーマ：資料の補足収集 ①新規分 授業内容：資料の補足収集 事前学修 3.0hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	23 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
9 回	授業テーマ：資料の補足収集 ②新規分 授業内容：資料の補足収集 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	24 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
10 回	授業テーマ：修士論文中間発表会の発表骨子作成 授業内容：修士論文中間発表会の発表骨子作成 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	25 回	授業テーマ：論文個別指導(章別) 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する
11 回	授業テーマ：修士論文中間発表会の発表骨子作成 授業内容：修士論文中間発表会の発表骨子作成 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	26 回	授業テーマ：完成論文の検討 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する

12 回	授業テーマ：修士論文中間発表会のまとめ 授業内容：修士論文中間発表会のまとめ 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	27 回	授業テーマ：完成論文の検討 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：副査への提出準備
13 回	授業テーマ：修士論文中間発表へのコメントの整理 授業内容：修士論文中間発表へのコメントの整理 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	28 回	授業テーマ：完成論文の検討 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：修論提出準備
14 回	授業テーマ：修士論文各章の構成 授業内容：修士論文各章の構成 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	29 回	授業テーマ：完成論文の検討 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：修論提出準備
15 回	授業テーマ：修士論文問題点の検討 授業内容：修士論文問題点の検討 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：学習内容をファイルにて保存する	30 回	授業テーマ：完成修士論文の見直し 授業内容：個別指導 事前学修 1.5hr：前回の見直しをする 事後学修 2.5hr：修論提出準備

特別演習Ⅱ

開講学科等：経済修士 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

岡村 龍輝 (おかむら りょうき)

■ 授業の概要

この授業の目的は、修士論文を作成することです。特別演習Ⅰで設定した研究課題に対して、研究方法やデータ収集、分析など各章の内容について修士論文執筆の進行に合わせて指導します。

■ 到達目標

一般目標：可能な限りレベルの高い修士論文を作成し、期限までに提出できる。

- 個別目標：1. 先行研究を踏まえて独自性のある研究テーマを設定することができる。
2. 設定した研究テーマに対して適切な研究方法を選択することができる。
3. 選択した研究方法に応じてデータ処理等の適切な手法を用いて分析することができる。
4. 分析の結果に基づいて妥当なインプリケーションを導き出すことができる。
5. 標準的な作法に基づいて文章を執筆することができる。
6. 上記全てを満たした結果として、修士論文として合格しうる論文を作成することができる。

■ 履修条件

とくにありません。

■ 評価基準・方法

修士論文(100%)：修士論文の内容について、ルーブリック型手法によって評価します。

■ フィードバック方法

修士論文作成過程における課題の実施およびフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行うことがあります。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（授業は基本的に PBL 型で進めます。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（データ分析、文書作成など。）

■ 教科書

とくに指定しませんが、研究方法について示唆に富む文献として、須田敏子著(2019)『マネジメント研究への招待』中央経済社をお勧めします。

■ 参考書

ケース・スタディを選択した場合には、アレキサンダー・ジョージ、アンドリュウ・ベネット著、泉川泰博訳(2013)『社会科学のケース・スタディ：理論形成のための定性的手法』勁草書房をお勧めします。

また、定量的実証研究の場合には、石黒格編著(2021)『改訂 Stata による社会調査データの分析：入門から応用まで』北大路書房をお勧めします。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：これからの修士論文作成の流れを確認します。また、報告順を決めます。 事前学修 2.0hr：これまでに作成した修士論文の内容を確認して下さい。 事後学修 4.0hr：授業での意見やアドバイスを整理し、修士論文に反映させて下さい。	16 回	授業テーマ：夏季休暇中の研究成果の報告 授業内容：夏季休暇中の研究成果について報告し、ディスカッションします。 事前学修 2.0hr：夏季休暇中における研究成果を整理して下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、今後の修士論文執筆に反映させて下さい。
2 回	授業テーマ：分析方法についての解説 授業内容：分析方法について、事例研究と定量的実証研究に分けて解説します。 事前学修 4.0hr：どのような分析方法があるか調べてきて下さい。 事後学修 4.0hr：授業での意見やアドバイスを整理し、修士論文に反映させて下さい。	17 回	授業テーマ：分析結果・事例記述の検討：担当者A 授業内容：定量的実証研究の場合には分析結果を、事例研究の場合には事例の記述について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、分析結果・事例記述について再検討して下さい。
3 回	授業テーマ：分析方法の検討：担当者A 授業内容：分析方法について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、分析方法について再検討して下さい。	18 回	授業テーマ：分析結果・事例記述の検討：担当者B 授業内容：定量的実証研究の場合には分析結果を、事例研究の場合には事例の記述について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、分析結果・事例記述について再検討して下さい。
4 回	授業テーマ：分析方法の検討：担当者B 授業内容：分析方法について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、分析方法について再検討して下さい。	19 回	授業テーマ：分析結果・事例記述の検討：担当者C 授業内容：定量的実証研究の場合には分析結果を、事例研究の場合には事例の記述について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、分析結果・事例記述について再検討して下さい。
5 回	授業テーマ：分析方法の検討：担当者C 授業内容：分析方法について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、分析方法について再検討して下さい。	20 回	授業テーマ：第3章の報告：担当者A 授業内容：前回の検討内容をふまえて第3章(分析結果・事例記述)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第3章について再検討して下さい。
6 回	授業テーマ：第2章の報告：担当者A 授業内容：分析方法の検討をふまえて第2章(分析方法・分析枠組み)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第2章について再検討して下さい。	21 回	授業テーマ：第3章の報告：担当者B 授業内容：前回の検討内容をふまえて第3章(分析結果・事例記述)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第3章について再検討して下さい。
7 回	授業テーマ：第2章の報告：担当者B 授業内容：分析方法の検討をふまえて第2章(分析方法・分析枠組み)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第2章について再検討して下さい。	22 回	授業テーマ：第3章の報告：担当者C 授業内容：前回の検討内容をふまえて第3章(分析結果・事例記述)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第3章について再検討して下さい。

8 回	授業テーマ：第2章の報告：担当者C 授業内容：分析方法の検討をふまえて第2章(分析方法・分析枠組み)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第2章について再検討して下さい。	23 回	授業テーマ：第4章の報告：担当者A 授業内容：第4章(考察)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第4章について再検討して下さい。
9 回	授業テーマ：第2章の修正：担当者A 授業内容：前回の検討内容をふまえて第2章(分析方法・分析枠組み)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第2章について再検討して下さい。	24 回	授業テーマ：第4章の報告：担当者B 授業内容：第4章(考察)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第4章について再検討して下さい。
10 回	授業テーマ：第2章の修正：担当者B 授業内容：前回の検討内容をふまえて第2章(分析方法・分析枠組み)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第2章について再検討して下さい。	25 回	授業テーマ：第4章の報告：担当者C 授業内容：第4章(考察)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第4章について再検討して下さい。
11 回	授業テーマ：第2章の修正：担当者C 授業内容：前回の検討内容をふまえて第2章(分析方法・分析枠組み)について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、第2章について再検討して下さい。	26 回	授業テーマ：「はじめに」の報告 授業内容：「はじめに」について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、「はじめに」について再検討して下さい。
12 回	授業テーマ：中間報告会の準備 授業内容：中間報告会用の資料について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、中間報告会用の資料について再検討して下さい。	27 回	授業テーマ：「おわりに」の報告 授業内容：「おわりに」について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、「おわりに」について再検討して下さい。
13 回	授業テーマ：中間報告会のリハーサル 授業内容：中間報告会のリハーサルを行ない、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、中間報告会の練習をして下さい。	28 回	授業テーマ：修士論文の最終確認 授業内容：修士論文について最終確認し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、修士論文に反映させて下さい。
14 回	授業テーマ：中間報告会のふりかえり 授業内容：中間報告会で受けたコメントをふりかえり、ディスカッションします。 事前学修 2.0hr：中間報告会で受けたコメントを整理して下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、今後の修士論文執筆に反映させて下さい。	29 回	授業テーマ：修士論文要旨の報告 授業内容：修士論文要旨について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、修士論文要旨に反映させて下さい。
15 回	授業テーマ：夏季休暇中における研究計画 授業内容：夏季休暇中の研究計画について報告し、ディスカッションします。 事前学修 2.0hr：夏季休暇中の修士論文執筆計画を考えて下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、夏季休暇中の修士論文執筆計画に反映させて下さい。	30 回	授業テーマ：最終試験の準備 授業内容：最終試験用の資料について報告し、ディスカッションします。 事前学修 4.0hr：報告の準備をして下さい。 事後学修 4.0hr：ディスカッションを振り返り、最終試験用資料に反映させて下さい。

特別演習Ⅱ

開講学科等：経済修士 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

影山 純二 (かげやま じゅんじ)

■ 授業の概要

本演習の目的は、経済理論、幸福度研究、人口経済学、生物経済学が交錯する分野において修士論文を作成することです。そのために必要な基礎的な文献を読むとともに、自分自身の研究課題を進めつつ研究テーマをアップデートしていきます。そしてその過程で、実証分析に必要な Stata の使い方や理論モデルの構築について復習し、最終的には修士論文を仕上げます。

■ 到達目標

一般目標：修士論文を書くこと。

個別目標：経済理論、幸福度研究、人口経済学、生物経済学が交錯する分野において、特に自分が主題とするテーマを選び、その分野の研究を体系的に把握し、新しい知見を生み出すことができるようになること。

■ 履修条件

履修条件はないが、英語の論文を読む必要があることに留意すること。また Stata が利用できる環境が必要である。

■ 評価基準・方法

演習で行う報告 (100%)。課題及び定期試験のフィードバックは、授業中に行う。

■ フィードバック方法

随時、口頭で行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッションへの積極的な参加が必要。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (統計ソフトウェアの利用が必要。)

■ 教科書

利用しない。

■ 参考書

各自の研究テーマに即した論文を紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：研究計画の作成 事後学修 2.0hr：自分自身の研究計画をアップデートしておく	16 回	授業テーマ：修士論文テーマ決定 授業内容：修士論文テーマ決定報告とディスカッション 事前学修 2.0hr：修士論文テーマ報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて修士論文テーマの修正
2 回	授業テーマ：研究計画発表 授業内容：研究計画発表&ディスカッション 事前学修 2.0hr：研究計画の作成 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて計画見直し	17 回	授業テーマ：修士論文最終計画書準備 授業内容：修士論文最終計画書作成とディスカッション 事前学修 2.0hr：修士論文最終計画書準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて修士論文最終計画書見直し
3 回	授業テーマ：先行論文紹介 1 授業内容：自分の研究に関係深い論文を紹介&ディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献整理と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて先行研究整理を進める	18 回	授業テーマ：修士論文最終計画書の完成 授業内容：修士論文最終計画書の提出とディスカッション 事前学修 2.0hr：修士論文最終計画書の準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて修士論文最終計画書の修正
4 回	授業テーマ：先行論文紹介 2 授業内容：自分の研究に関係深い論文を紹介&ディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献整理と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて先行研究整理を進める	19 回	授業テーマ：修士論文：データ分析 1 授業内容：データ分析とディスカッション 事前学修 2.0hr：c 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいてデータ分析を進める
5 回	授業テーマ：先行論文紹介 3 授業内容：自分の研究に関係深い論文を紹介&ディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献整理と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて先行研究整理を進める	20 回	授業テーマ：修士論文：データ分析 2 授業内容：データ分析とディスカッション 事前学修 2.0hr：最終計画書 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいてデータ分析を進める
6 回	授業テーマ：研究計画のアップデート 授業内容：研究計画アップデートとディスカッション 事前学修 2.0hr：研究計画アップデートと報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて計画見直し	21 回	授業テーマ：修士論文：データ分析方法の精査 授業内容：データ分析方法の精査とディスカッション 事前学修 2.0hr：データ分析方法の確認 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいてデータ分析方法見直し
7 回	授業テーマ：研究計画書作成 授業内容：研究計画書作成とディスカッション 事前学修 2.0hr：研究計画書作成と報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて研究計画書修正	22 回	授業テーマ：修士論文：データ分析内容の精査 授業内容：データ分析内容の精査とディスカッション 事前学修 2.0hr：データ分析内容の確認 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいてデータ分析内容見直し
8 回	授業テーマ：修士論文進展報告：準備 1 授業内容：修士論文進展報告準備とディスカッション 事前学修 2.0hr：修士論文進展報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて修士論文修正	23 回	授業テーマ：修士論文発表準備 授業内容：修士論文発表準備とディスカッション 事前学修 2.0hr：論文内容の作成 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて論文内容見直し
9 回	授業テーマ：修士論文進展報告：準備 2 授業内容：修士論文進展報告準備とディスカッション 事前学修 2.0hr：修士論文進展報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて修士論文修正	24 回	授業テーマ：修士論文発表 1 授業内容：修士論文発表とディスカッション 事前学修 2.0hr：発表準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて論文内容見直し
10 回	授業テーマ：修士論文進展報告 1 授業内容：修士論文進展報告とディスカッション 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて報告内容修正	25 回	授業テーマ：修士論文発表 2 授業内容：修士論文発表とディスカッション 事前学修 2.0hr：発表準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて論文見直し
11 回	授業テーマ：修士論文進展報告 2 授業内容：修士論文進展報告とディスカッション 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて報告内容修正	26 回	授業テーマ：修士論文：図表の整理 授業内容：修士論文の図表整理とディスカッション 事前学修 2.0hr：修士論文の図表作成 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて図表見直し

12 回	授業テーマ：分析内容精査 1 授業内容：修士論文進展報告におけるデータ分析内容の精査とディスカッション 事前学修 2.0hr：データ分析内容の整理 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて分析内容修正	27 回	授業テーマ：修士論文文章作成 1 授業内容：修士論文の文章作成とディスカッション 事前学修 2.0hr：修士論文の文章作成 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて修士論文見直し
13 回	授業テーマ：分析内容精査 2 授業内容：修士論文進展報告におけるデータ分析内容の精査とディスカッション 事前学修 2.0hr：データ分析内容の整理 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて分析内容修正	28 回	授業テーマ：修士論文文章作成 2 授業内容：修士論文の文章作成とディスカッション 事前学修 2.0hr：修士論文の文章作成 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて修士論文見直し
14 回	授業テーマ：分析内容精査 3 授業内容：修士論文進展報告におけるデータ分析内容の精査とディスカッション 事前学修 2.0hr：データ分析内容の整理 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて分析内容修正	29 回	授業テーマ：修士論文最終確認 授業内容：体裁等の確認 事前学修 2.0hr：論文提出準備 事後学修 2.0hr：確認内容に基づいて論文見直し
15 回	授業テーマ：修士論文テーマ再考 授業内容：前期の研究内容を振り返る 事前学修 2.0hr：研究内容の整理 事後学修 2.0hr：研究内容の計画練り直し	30 回	授業テーマ：修士論文提出 授業内容：修士論文に浮いてディスカッション 事前学修 2.0hr：提出準備 事後学修 2.0hr：ディスカッションに基づいて今後について検討

特別演習Ⅱ

開講学科等：経済修士 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

工藤 克宜 (くどう かつのり)

■ 授業の概要

本ゼミでは、税法通則特論及び所得課税法特論の履修による専門知識の修得並びに特別演習Ⅰの履修による判例研究の成果を踏まえて、ゼミ生自身が研究を深めたいテーマを選定し主体的に研究し、その研究成果が最終的に修士号の学位取得に値する質の高い修士論文として結実するよう必要な指導・助言を行う。なお、修士論文の作成に当たっては、本ゼミの時間外においても、ゼミ生が自主的かつ早期に参考文献や先行研究等を収集・分析し、論文作成を計画的に遂行することが求められる点について十分留意する。

■ 到達目標

一般目標：本ゼミの到達目標は、ゼミ生が自ら研究テーマを選定してそのテーマに関する裁判例、先行研究、参考文献等を自主的かつ積極的に収集し、これらを精力的に読み込んで多角的かつ計画的に研究することにより、最終的にその研究の成果として質の高い修士論文を完成させることである。

個別目標：1 研究成果が修士号の付与に値する質の高い修士論文として結実している。

2 税に関する職業専門として活躍するために必要なリーガルマインド(法的思考・視野)と専門的スキルが身についている。

■ 履修条件

特別演習Ⅰを履修した者を対象とし、質の高い修士論文の作成・提出を条件とする。

■ 評価基準・方法

1 修士論文の作成・提出を必要条件とし、評価の基準(目安)は、①修士論文80%、②研究プロセス20%である。

2 課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ フィードバック方法

修士論文の作成に関して必要なフィードバックやアドバイスは manaba の「個別指導コレクション」により行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(修士論文案についてディスカッションを深める。)

■ 授業でのPCの利用(利用内容)

あり(PC等を活用して修士論文の作成指導を行う。)

■ 教科書

金子宏 著 『租税法(第二十四版)』(弘文堂、2021年)

中里実ほか 編 『租税判例百選(第7版)』(有斐閣、2021年)

その他修士論文のテーマに関係する先行研究・論文等必要な資料・文献を適宜紹介する。

■ 参考書

修士論文の作成に資する参考資料を適宜提供するが、ゼミ生自身も修士論文の作成に必要な参考文献や先行研究などを早期かつ積極的に収集・分析し意欲的に読み込むこと。なお、研究に必要な裁判例等については自ら法令検索システムなどから判決文を検索して内容を十分吟味すること。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：修士論文の作成に当たってのポイントや留意点の確認 授業内容：修士論文の様式、書き方、作成に当たって留意点について確認する。 事前学修 3.0hr：事前に manaba に搭載する資料を予習する。 事後学修 2.0hr：ゼミ内容を復習する。	16 回	授業テーマ：論文案の検討 授業内容：夏季休暇期間において作成した論文案について検討する。 事前学修 4.0hr：夏季休暇期間に論文案を作成する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。
2 回	授業テーマ：論文テーマの吟味及びエントリー 授業内容：論文テーマについてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：論文テーマに関する参考文献や参考情報を自分なりに吟味する。 事後学修 2.0hr：論文テーマを確定し参考文献及び参考情報を収集する。	17 回	授業テーマ：論文の作成指導(1) 授業内容：論文案を基に論文の作成に関する指導・アドバイスを行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて引き続き論文案を作成する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。
3 回	授業テーマ：論文テーマに関する参考文献及び参考情報の収集方法 授業内容：論文テーマに関する参考文献及び参考情報の収集方法について指導する。 事前学修 2.0hr：論文テーマに関する参考文献や参考情報を自分なりに調べる。 事後学修 4.0hr：ゼミを踏まえて参考文献および参考情報を収集する。	18 回	授業テーマ：論文の作成指導(2) 授業内容：論文案の作成状況に応じて必要な指導・アドバイスを行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて引き続き論文案を作成する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。
4 回	授業テーマ：論文テーマに関する論点の抽出・整理 授業内容：論文テーマに関する関係法令、通達、関連裁判例を基に研究すべき論点を抽出・整理する。 事前学修 3.0hr：論文テーマに関する関係法令、通達、関連裁判例を調べる。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論点を整理する。	19 回	授業テーマ：論文の作成指導(3) 授業内容：論文案の作成状況に応じて必要な指導・アドバイスを行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて引き続き論文案を作成する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。
5 回	授業テーマ：論文の論点に関する学説の分析・整理 授業内容：論文の論点に関する学説の分析・整理について指導する。 事前学修 4.0hr：論文の論点に関する学説を調べておく。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論点を整理する。	20 回	授業テーマ：論文の作成指導(4) 授業内容：論文の作成状況に応じて必要な指導・アドバイスを行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて引き続き論文案を作成する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。
6 回	授業テーマ：論点に関する先行研究の収集 授業内容：論点に関する先行研究の収集方法について指導する。 事前学修 4.0hr：論点に関する先行研究を自分なりに探す。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて先行研究の収集に努める。	21 回	授業テーマ：論文の作成指導(5) 授業内容：論文の作成状況に応じて必要な指導・アドバイスを行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて引き続き論文案を作成する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。
7 回	授業テーマ：論点に関する先行研究の分析 授業内容：収集した先行研究の分析方法について指導する。 事前学修 4.0hr：収集した先行研究を読む。 事後学修 2.0hr：参考文献の収集に努めるとともに先行研究について意欲的に読み込む。	22 回	授業テーマ：論文の作成指導(6) 授業内容：論文の作成状況に応じて必要な指導・アドバイスを行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて引き続き論文案を作成する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。
8 回	授業テーマ：論文テーマに関する裁判例の検索・収集 授業内容：論文テーマに関する裁判例の検索・収集の仕方について指導する。 事前学修 4.0hr：論文テーマに関する裁判例を調べてみる。 事後学修 2.0hr：論文テーマに関する裁判例を検索・収集する。	23 回	授業テーマ：論文の作成指導(7) 授業内容：論文の作成状況に応じて必要な指導・アドバイスを行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて引き続き論文案を作成する。 事後学修 3.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。
9 回	授業テーマ：論文テーマに関する裁判例の分析 授業内容：論文テーマに関する裁判例の分析方法について指導する。 事前学修 4.0hr：収集した裁判例に関する研究者の「評釈」を調べて収集しておく。 事後学修 4.0hr：研究者の「評釈」を十分吟味して論文の参考とする箇所を整理する。	24 回	授業テーマ：論文の作成指導(8) 授業内容：論文の作成状況に応じて必要な指導・アドバイスを行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて引き続き論文案を作成する。 事後学修 3.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。

10 回	授業テーマ：論文テーマに関する論点についての見解の整理 授業内容：論文のテーマに関する論点についての各自の見解を整理する。 事前学修 3.0hr：論点に関する自分の見解を考えておく。 事後学修 4.0hr：論点についての見解を整理し文章としてまとめる。	25 回	授業テーマ：論文の作成指導(9) 授業内容：論文の作成状況に応じて必要な指導・アドバイスを行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて引き続き論文案を作成する。 事後学修 3.0hr：ゼミを踏まえて論文案を修正する。
11 回	授業テーマ：論文構想の検討 授業内容：論文の構想(「方向性」や「流れ」)について指導する。 事前学修 3.0hr：これまでの研究を踏まえ論文構想について自分なりに練っておく。 事後学修 3.0hr：ゼミを踏まえて論文構成について整理する。	26 回	授業テーマ：最終審査用論文の作成 授業内容：作成した論文案を最終審査用論文として完成させる。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて最終審査用論文の原案を作成する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて最終審査用論文を作成する。
12 回	授業テーマ：論文構成の検討 授業内容：論文構成について検討する。 事前学修 3.0hr：前回のゼミを踏まえて論文構成を考える。 事後学修 3.0hr：ゼミを踏まえて論文構成をまとめる。	27 回	授業テーマ：最終審査用論文論の推敲 授業内容：最終審査用論文の形式チェック(構成・引用・参考文献など)を行う。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて最終審査用論文を推敲する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて最終審査用論文の形式チェックを行う。
13 回	授業テーマ：論文の「スケルトン」の作成 授業内容：論文案の骨格(「スケルトン」)を作成について指導する。 事前学修 3.0hr：論文構成を基に論文の骨格(「スケルトン」)について考える。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて論文の「スケルトン」をまとめる。	28 回	授業テーマ：最終審査用論文の完成 授業内容：最終審査用論文について吟味・精査する。 事前学修 2.0hr：前回のゼミを踏まえて最終審査用論文を推敲する。 事後学修 2.0hr：最終審査用論文を完成させる。
14 回	授業テーマ：論文の中間発表資料の作成 授業内容：論文の中間発表資料の作成について指導する。 事前学修 3.0hr：論文の「スケルトン」を基に中間発表資料の案を作成する。 事後学修 2.0hr：ゼミを踏まえて中間発表資料を作成する。	29 回	授業テーマ：最終試験用論文の提出及び論文要旨の作成 授業内容：最終試験用論文を提出するとともに論文要旨を作成する。 事前学修 4.0hr：最終試験用論文を完成させる。 事後学修 2.0hr：担当教員に最終審査用論文及び論文要旨を提出する。
15 回	授業テーマ：論文の「中間発表」 授業内容：論文の「中間発表」に参加する。 事前学修 4.0hr：「中間発表」に向けて準備する。 事後学修 4.0hr：夏季休暇期間において論文案を作成に努める。	30 回	授業テーマ：2年間のゼミの総括及び今後の抱負について意見発表 授業内容：修士論文の最終試験を受験するとともに2年間のゼミの総括及び今後の抱負について意見発表を行う。 事前学修 2.0hr：今後に向けての抱負についてまとめる。 事後学修 2.0hr：税理士として活躍することを見据えて今後の抱負を表明する。

特別演習Ⅱ

開講学科等：経済修士 | 2 年次 | 4 単位 | 開講期：通

廣部 恒忠 (ひろべ つねただ)

■ 授業の概要

本演習の目的は、履修者の修士論文作成およびその完成を支援することです。特別演習Ⅰに続き、そのために必要な基礎的な文献を読みつつ、自分で研究テーマを見つけ出し、優秀な修士論文を完成させることが目標となります。なお、その際に、実証のみならず理論的な考察も重要です。

■ 到達目標

一般目標：修士論文を完成させること。

個別目標：経済学の諸分野において、まずオリジナリティが発揮できそうなテーマを探し出すこと、そしてその関連分野の既存研究を調べ、そこから自分の論文の主題を見つけられるようになること。

■ 履修条件

特に履修条件はありませんが、日本語、英語どちらでも論文を書ける用意があること、また、実証、理論両方に適応できることが望まれます。また、必要に応じて、各種ソフトウェアの適切な利用が期待されます。

■ 評価基準・方法

演習の中で行う報告等で評価します。課題及びその他のフィードバックは、適宜、授業中にて実施する予定です。

■ フィードバック方法

manaba 等を利用して課題などのフィードバックを行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション等の実施に応じて）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（各種ソフトウェア等の利用に応じて）

■ 教科書

特定しません。適宜、必要に応じて使用します。

■ 参考書

適宜、必要に応じて紹介します。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：ガイダンス 事前学修 2.0hr：研究計画書の作成準備 事後学修 2.0hr：研究計画の見直しなど	16 回	授業テーマ：修士論文仮報告 1 授業内容：修士論文の仮報告 事前学修 2.0hr：修士論文作成 事後学修 2.0hr：修士論文の見直し
2 回	授業テーマ：修士論文の方向性について報告(研究計画書・スケジュール等の作成 1) 授業内容：修士論文の方向性についてディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	17 回	授業テーマ：修士論文仮報告 2 授業内容：修士論文の仮報告など 事前学修 2.0hr：修士論文アウトライン作成 事後学修 2.0hr：修士論文アウトラインの見直し
3 回	授業テーマ：修士論文の方向性について報告(研究計画書・スケジュール等の作成 2) 授業内容：修士論文の方向性についてディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	18 回	授業テーマ：研究計画・スケジュールの再調整など 授業内容：今後の研究スケジュール等の打ち合わせ 事前学修 2.0hr：研究計画の修正等 事後学修 2.0hr：研究計画の修正等
4 回	授業テーマ：修士論文の方向性について報告(研究計画書・スケジュール等の作成 3) 授業内容：先行文献の整理とディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	19 回	授業テーマ：修士論文作成等 1 授業内容：修士論文作成に関する相談 事前学修 2.0hr：修士論文作成 事後学修 2.0hr：修士論文の見直し
5 回	授業テーマ：修士論文の方向性について報告(研究計画書・スケジュール等の作成 4) 授業内容：先行文献の整理とディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	20 回	授業テーマ：修士論文作成等 2 授業内容：修士論文作成に関する相談 事前学修 2.0hr：修士論文作成 事後学修 2.0hr：修士論文の見直し
6 回	授業テーマ：修士論文の方向性について進展報告 1 授業内容：先行文献の整理とディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	21 回	授業テーマ：修士論文作成等 3 授業内容：修士論文作成に関する相談 事前学修 2.0hr：修士論文作成 事後学修 2.0hr：修士論文の見直し
7 回	授業テーマ：修士論文の方向性について進展報告 2 授業内容：先行文献の整理とディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	22 回	授業テーマ：修士論文作成等 4 授業内容：修士論文作成に関する相談 事前学修 2.0hr：修士論文作成 事後学修 2.0hr：修士論文の見直し
8 回	授業テーマ：修士論文の方向性について進展報告 3 授業内容：先行文献の整理とディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	23 回	授業テーマ：修士論文作成等 5 授業内容：修士論文作成に関する相談 事前学修 2.0hr：修士論文作成 事後学修 2.0hr：修士論文作成
9 回	授業テーマ：中間報告準備 1 授業内容：修士論文のテーマと内容に関するディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	24 回	授業テーマ：修士論文作成等 6 授業内容：修士論文作成に関する相談 事前学修 2.0hr：修士論文作成 事後学修 2.0hr：修士論文作成
10 回	授業テーマ：中間報告準備 2 授業内容：修士論文のテーマと内容に関するディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	25 回	授業テーマ：修士論文作成等 7 授業内容：修士論文作成に関する相談 事前学修 2.0hr：修士論文作成 事後学修 2.0hr：修士論文作成
11 回	授業テーマ：中間報告準備 3 授業内容：修士論文のテーマと内容に関するディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	26 回	授業テーマ：修士論文作成等 8 授業内容：修士論文作成に関する相談 事前学修 2.0hr：修士論文作成 事後学修 2.0hr：修士論文作成

12 回	授業テーマ：中間報告準備4 授業内容：修士論文のテーマと内容に関するディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	27 回	授業テーマ：修士論文の最終打ち合わせ1 授業内容：修士論文に関する最終打ち合わせ 事前学修 2.0hr：修士論文の最終版準備 事後学修 2.0hr：修士論文の見直し
13 回	授業テーマ：中間報告準備5 授業内容：修士論文のテーマと内容に関するディスカッション 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	28 回	授業テーマ：修士論文の最終打ち合わせ2 授業内容：修士論文に関する最終打ち合わせ 事前学修 2.0hr：修士論文の最終版準備 事後学修 2.0hr：修士論文の見直し
14 回	授業テーマ：修士論文のテーマ再考1 授業内容：中間報告でもらったコメントに基づき、必要に応じて、修士論文のテーマを再考など 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	29 回	授業テーマ：修士論文報告1 授業内容：修士論文の報告 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：修士論文の見直し
15 回	授業テーマ：修士論文のテーマ再考2 授業内容：中間報告でもらったコメントに基づき、必要に応じて、修士論文を適宜修正など 事前学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備 事後学修 2.0hr：先行文献の整理と報告準備	30 回	授業テーマ：修士論文報告2 授業内容：修士論文の報告 事前学修 2.0hr：報告準備 事後学修 2.0hr：修士論文の見直し

特別演習Ⅱ

開講学科等：経済修士 | 2年次 | 4単位 | 開講期：通

宮崎 礼二 (みやざき れいじ)

■ 授業の概要

修士論文の完成のための指導。

■ 到達目標

一般目標：1. 修士論文の完成。

2. 研究テーマについて詳細に語ることができる。

3. 研究史における自分のテーマのオリジナリティと意義を示すことができる。

個別目標：1. 個別的・具体的な事象を理論的・論理的に構成する能力を獲得する。

2. 論理的に説明する能力を身につける。

■ 履修条件

修士論文の作成に集中すること。

■ 評価基準・方法

修士論文(100%)

■ フィードバック方法

個別指導と manaba でフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (ディスカッション)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (manaba の利用)

■ 教科書

なし。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

授業テーマ

修士論文の完成を目指した個別指導を行う。

授業内容

修士論文の進捗状況の報告を中心に進める。

事前学修

1. 関連文献の読み込みと整理。

2. 資料収集。

3. 毎回の論文報告の準備。

事後学修

1. 論文報告での指摘からの修正作業。

2. 関連論文・資料の補足と整理。

研究・論文技法演習

開講学科等：経済修士 | 4 単位 | 開講期：通

中平 千彦 (なかひら かずひこ)

■ 授業の概要

この講義は、大学院修士課程初年次の学生を受講対象とし、研究に対する視座を論文作成と研究報告の観点から養い、さらに、それらの技術的側面を理解することを目的として実施される。

前半では、まず研究の基本姿勢を学び、次に論文作成の基本的な構成技術、すなわち、論文内の序論・研究方法・結果・考察・結論の各項目において、何を書き、何を表現すべきなのかを学ぶ。後半では、研究報告ないしは発表の場面において、どのように伝え、いかなる表現を適用すべきかを学ぶ。具体的には、学会報告(発表)についての基本的な心得、報告論文の内容と報告事項の整合性、報告スライドやポスターの作成、プレゼンテーションについて考え、それらを運用するための技法を習得する。

また、講義は、教員による解説のみならず、受講生による課題への取り組みや報告も含み、演習形式で運営される。

■ 到達目標

一般目標：各受講生が、学術研究、論文作成、学会報告に対する基本的視座を獲得できるようになる。

個別目標：各受講生が、目標を見つけ、努力することで、学術研究、論文作成、学会報告についての基本的問題を理解できるようになる。

■ 履修条件

・大学院生として最低限度の日本語および英語における文献理解能力を有すること。

■ 評価基準・方法

・課題 1(20%)+課題 2(20%)+課題 3(20%)+課題 4(20%)+参加度(20%) = 評価点(100%) の評点配分で成績判定を行う。

・全課題の提出は義務であり、1 つでも未提出となった場合は単位を認定しない。また、課題点数が基準最低点を下回る場合は単位を認定しない。

■ フィードバック方法

・課題などのフィードバックは基本的に、講義内またはオフィスアワーで行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(課題の提出と個人報告)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(必要に応じてノート・パソコンを使った演習を行います)

■ 教科書

(前半)

酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 最終完結版』共立出版,2026 年。

(後半)

酒井聡樹『これから学会発表する若者のために一ポスターと口頭のプレゼン技術(第 2 版)』共立出版,2018 年。

■ 参考書

・Swales John M., and Freak, Christine B. *Academic Writing for Graduate Students:Essential Tasks and Skills*, 3rd ed., University of Michigan Press, 2012.

・Thomson, William, *A Guide for the Young Economist*, 3rd ed., MIT Press, 2026.

・University of Chicago Press Editorial Staff, *The Chicago Manual of Style*, 18th ed., University of Chicago Press, 2024.

・アメリカ心理学会(編), 前田樹海, 江藤裕之(訳)『APA 論文作成マニュアル(第 3 版)』医学書院, 2023 年。

・ケイト・L・トゥラビアン, ウェイン・C・ブース, グレゴリー・G・コロンブ, ジョセフ・M・ウィリアムズ(著), 沼口隆, 沼口好雄(訳)『シカゴ・スタイルー研究論文執筆マニュアルー』慶應義塾大学出版会, 2012 年。

・ジョセフ・F・トリマー(著), 丸橋良雄, 日高真帆(訳)『MLA 英語論文作成ガイドー補遺・APA 方式ー』英光社, 2011 年。

・ダン・レメニイ(著), 小樽商科大学ビジネス創造センター(訳)『社会科学系大学院生のための研究の進め方:修士・博士論文を書くまえに』同文館出版, 2002 年。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：資料解釈と文章表現 授業内容：資料解釈および文章表現に関する総合演習 事前学修 2.0hr：シラバスを事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	16 回	授業テーマ：学会発表におけるスライドについて 授業内容：どのような情報を伝えるのか、一貫性を持たせる、各スライドで書くべきこと 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
2 回	授業テーマ：論文作成の基本 授業内容：論文の基本知識、論文と学術雑誌、論文構成の基本、論文発表と学会発表の違い 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	17 回	授業テーマ：学会発表と論文について 授業内容：学会発表、学会発表と論文発表の違い、ポスター発表と口頭発表の違い 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
3 回	授業テーマ：論文の発表と研究成果 授業内容：論文発表と研究成果、論文を発表するべき理由 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	18 回	授業テーマ：学会発表のポスターとスライドの作成 授業内容：ポスター・スライドの構成要素、取り組み問題と結論、説得力のある序論、演題に入れる情報 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
4 回	授業テーマ：研究上の注意事項 授業内容：生成 AI 利用上の注意、研究進捗状況と論文作成 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	19 回	授業テーマ：ポスターとスライドにおける研究方法の説明 授業内容：研究方法の説明、説明すべきこと 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
5 回	授業テーマ：単独の研究と共同研究 授業内容：共著者の確認、筆頭著者・最終著者・責任著者、著者の順番、研究チームが著者となる場合の注意 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	20 回	授業テーマ：ポスターとスライドにおける研究結果・考察・結論の提示 授業内容：研究結果・考察・結論の示し方、考察と得られた結果の統合的解釈、結論とまとめの違い 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
6 回	授業テーマ：論文の構想 授業内容：論文内容の構想、着眼点について 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	21 回	授業テーマ：ポスターとスライドにおける要旨の提示 授業内容：要旨の書き方、論文と要旨との違い 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。

7 回	授業テーマ：論文における結論 授業内容：論文における結論の扱い、論文に載せる結果、取り組む問題と結論の対応 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	22 回	授業テーマ：学会発表における心構え (1) 授業内容：学会発表の意義、何を伝えるのか、学会発表と聴衆 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
8 回	授業テーマ：論文の内容と構成 授業内容：論文の構成、構成の要素 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	23 回	授業テーマ：学会発表における心構え (2) 授業内容：わかりやすい発表、主張を導く論理、聴衆を想定する 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
9 回	授業テーマ：学術雑誌と研究内容 授業内容：学術雑誌が扱う研究分野、学術雑誌の注目度と論文掲載の難易度 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	24 回	授業テーマ：ポスターとスライドにおける情報と主張 授業内容：必要かつ不可欠な情報を示す、主張するために必要な情報を示す、論理的なつながりを意識する 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
10 回	授業テーマ：論文の掲載 授業内容：論文の字数制限、論文掲載料、オープンアクセスジャーナルへの投稿 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	25 回	授業テーマ：ポスターとスライドに共通する技術的要素 授業内容：ポスター・スライドに共通するプレゼンテーション技術、全体像を示してから細部を説明、情報を読み取りやすくする 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
11 回	授業テーマ：論文における序論と論点 授業内容：序論で何を書くべきか、序論の骨子 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	26 回	授業テーマ：ポスターとスライドにおける図表の提示 授業内容：図表の提示、論文の図表をそのまま使わない、数値の比較は図、表で示してよい情報 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
12 回	授業テーマ：論文における序論と説得力 授業内容：説得力のない序論、説得力のある序論 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	27 回	授業テーマ：ポスター作製上の注意事項 授業内容：ポスターの大きさや視野、聴衆の基本的な姿勢、各項目で書くべきこと 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
13 回	授業テーマ：論文のタイトルについて 授業内容：良いタイトル、タイトルに入れるべき情報 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	28 回	授業テーマ：ポスター発表の注意事項 授業内容：ポスター発表の仕方、説明の仕方、図表の読み取り方の説明とデータの意味 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
14 回	授業テーマ：論文における研究方法の提示 授業内容：研究方法の説明、読者に示すべき情報 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	29 回	授業テーマ：ポスターとスライドを用いた発表における工夫 授業内容：口頭発表の仕方、発表時間と適度な間の取り方、スライドの内容と発表 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。
15 回	授業テーマ：論文における研究結果の提示 授業内容：結果の章を書く際の心がけ、結果の章で書き示すこと 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。	30 回	授業テーマ：学会発表における質疑応答 授業内容：質疑応答の仕方、質問への対応、聴衆の知識に配慮する 事前学修 2.0hr：テキストの該当箇所を事前に読む。 事後学修 2.0hr：講義ノートを復習し、関連事項について調べる。

2026年度 経済学研究科 修士課程 特別演習指導テーマ一覧

職名	氏名	主な研究指導テーマ
教授	池田 晋	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業不祥事の研究 ○ 監査人の判断・意思決定に関する研究 ○ グローバル企業のコーポレートガバナンス
教授	大石 隆介	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業金融（コーポレート・ファイナンス）に関する研究 ○ 企業の資金制約に関する研究 ○ 企業投資のキャッシュ・フロー感応度に関する研究 ○ 企業の投資行動に関する実証研究
准教授	岡村 龍輝	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業の競争優位性に関する研究（経営戦略論） ○ 企業の国際展開とその影響に関する研究（多国籍企業論、国際経営論） ○ 企業行動とその社会的影響に関する研究（企業と社会論、CSR論） ○ 企業行動に関する制度理論的研究
教授	影山 純二	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口経済学 ○ 経済理論（ミクロ経済学、マクロ経済学） ○ 幸福度研究 ○ 生物経済学
教授	工藤 克宜	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所得税法の解釈をめぐる諸問題 ○ 法人税法の解釈をめぐる諸問題 ○ 消費税法等の解釈をめぐる諸問題 ○ 国際課税等の諸問題 ○ 税法通則の主な論点に関する諸問題
教授	下田 直樹	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉国家の歴史的研究 ○ 生活保障機能からみた社会保険と私保険の役割と関係の研究 ○ 少子・高齢社会と社会保障改革の課題の検討 ○ 雇用・賃金・労働時間の諸問題
教授	廣部 恒忠	<ul style="list-style-type: none"> ○ 応用経済学（国際金融、ファイナンス、労働経済等への応用） ○ 都市・地域経営論（リージョナルマーケティング論等を含む） ○ 都市・地域経済学、空間経済学、経済地理学、地域研究 ○ AI（人工知能）の経済・経営分野への応用、経営科学、経営工学 ○ データマイニング手法等を用いた統計学、データサイエンス
准教授	宮崎 礼二	<ul style="list-style-type: none"> ○ アメリカ経済論 ○ 国際経済関係史 ○ 世界経済論

注：担当教員は変更となる場合があります。

不動産学研究科

[博士前期課程]

不動産研究方法論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

小松 広明 (こまつ ひろあき)・斎藤 千尋 (さいとう ちひろ)・浜島 裕美 (はまじま ひろみ)

■ 授業の概要

本授業の目的は、これから研究活動を行い修士論文を執筆する者が理解しているべき研究の基礎的な知識と、研究遂行に際して遵守すべき行動規範を学ぶ。具体的には、研究の方法としては研究論文の構成の仕方、参考文献や資料の集め方・扱い方、論証の方法などである。これらは学問分野に応じた特徴があるが、都市建築学系、経済学系、法学系に特に焦点をあてて学ぶ。また研究遂行上の行動規範としては、研究の社会的な役割と研究者の責任、共同研究の進め方について、研究活動における具体的な問題事例を紹介し理解を深める。

■ 到達目標

一般目標：本授業の到達目標は、研究者に求められる学術的な能力、規範を知り、具体的に実行できるようになることである。

個別目標：1. 研究論文や資料を入手できるようになること

2. 研究テーマに関連した研究論文を読み、その構成、論証方法を踏まえ、要約、整理できるようになること

3. 研究テーマに適した分析方法を選ぶことができること

4. 研究者の責務、公正な研究のあり方、社会の中での科学の役割、法令遵守の原則を踏まえ研究を進められるようになること

■ 履修条件

特になし。

■ 評価基準・方法

授業への参加度、レポート・報告の水準による。

■ フィードバック方法

レポート、報告へのフィードバックは授業での討論や manaba を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし（持ち込み可）

■ 教科書

なし。

■ 参考書

日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会 「科学の健全な発展のために 第2版 ー誠実な科学者の心得ー」丸善出版 2025

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：授業の概要、研究の社会的な役割、規範 授業内容：授業の流れと評価について。研究論文の特徴、役割について。研究遂行上の行動規範、研究の不正について。研究論文を探す方法について。 事前学修 2.0hr：都市建築学に関する自身の知識と関心を整理しておく。 事後学修 2.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
2 回	授業テーマ：都市建築系論文の構成 授業内容：研究論文の論文の背景、目的について。論証方法について。結論、研究の課題について。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
3 回	授業テーマ：都市建築学系論文を比較検討し整理する 授業内容：研究論文の体裁について。論文の位置づけについて。先行研究の整理について。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
4 回	授業テーマ：都市建築学系の研究資料を探す 授業内容：公開されている統計資料について。直接確かめることの重要性について。資料の加工について。研究ノートについて。研究で使ったデータの管理・利活用について。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
5 回	授業テーマ：1～4回のまとめ、共同研究の進め方 授業内容：各自の研究テーマの先行研究を収集、整理し、テーマに関連する公開されている統計資料から判明していることをプレゼンテーションする。今後の研究の方向性についてディスカッションすることで、各自の研究テーマの不動産学としての意義を考える。最後に、研究室における共同研究の特徴、共同研究の進め方の注意点を考える。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
6 回	授業テーマ：経済学系論文を読む 授業内容：論文作成の概要、事例-コード・マトリックス(先行研究のまとめ方)、因果推論について学修する。 事前学修 2.0hr：経済学に関する自身の知識と関心を整理しておく。 事後学修 2.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
7 回	授業テーマ：経済学系論文の目的・論証方法・結論などを整理する 授業内容：定量的アプローチとして、(顕示選好データ分析：ヘドニック・アプローチ)、差の差分分析、回帰不連続デザインについて学修する。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
8 回	授業テーマ：経済学系論文を比較検討する 授業内容：定量的アプローチとして、CVM (仮想的市場評価法)、操作変数法、マッチング法(傾向スコア)について学修する。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
9 回	授業テーマ：経済学系研究のアプローチを検討する 授業内容：定性的アプローチとして、ラダリング調査法(手段目的連鎖モデル)について学修する。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
10 回	授業テーマ：6～9回のまとめ 授業内容：定性的アプローチとして、質的データ分析(コーディング)について学修する。その上で、経済学系研究のアプローチの総括を行う。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。

11 回	授業テーマ：法学系論文を読む 授業内容：法学系論文の種類・名称・表示方法等について確認し、テーマを選定する。 事前学修 2.0hr：法学に関する自身の知識と関心を整理しておく。 事後学修 2.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
12 回	授業テーマ：法学系論文を比較検討する 授業内容：法学系論文の調査方法を確認し、テーマに関する文献を収集して分析・検討する。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
13 回	授業テーマ：判例の読み方を学ぶ 授業内容：判例調査の方法と引用の仕方を確認し、テーマに関する判例を収集して分析・検討する。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
14 回	授業テーマ：法学系論文を書く 授業内容：法学系論文の構成パターンと論の進め方を確認し、テーマに関する法律論文を執筆する。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。
15 回	授業テーマ：11～14回のまとめ 授業内容：執筆した論文の内容を、制限時間内で発表してもらい、発表用資料と発表内容について履修者同士で質疑応答を行う。 事前学修 3.0hr：与えられた課題に取り組みレポートを作成しておく。 事後学修 1.0hr：理解の不十分な点を整理し調べる。

不動産数理の基礎演習

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

金 東煥 (きむ どんぷあん)・斎藤 千尋 (さいとう ちひろ)

■ 授業の概要

不動産市場や都市構造を分析する上で、ある程度の数学的知識が必要となります。本演習では、博士前期課程の科目群の学修に必要な数学や統計学の基礎的な内容の解説を行います。

■ 到達目標

一般目標：不動産市場や都市構造を分析するための数学的知識を身につける。

個別目標：①微積分を体得し不動産市場分析などへの応用ができるようになる。

②研究で用いる統計データについて、適切に要約できるようになる。

③研究で用いる統計データに基づき、適切な推測ができるようになる。

■ 履修条件

特になし。

■ 評価基準・方法

随時行う演習課題、レポート課題(100%)

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（授業中の演習）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（主に EXCEL を使用した統計分析）

■ 教科書

日本統計学会編 改訂版 日本統計学会公式認定統計検定2級対応 統計学基礎 東京図書 2015

■ 参考書

『経済学で出る数学(改訂版)』、経済セミナー増刊、日本評論社、2013

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：講義の目標、講義の主な内容、教材、成績評価方法などについて説明する。 事前学修 1.0hr：シラバスを読み、講義の目標、講義の主な内容、教材、成績評価方法などについて確認する。 事後学修 3.0hr：ガイダンスで説明した主なトピックについてネットなどで調べる。
2 回	授業テーマ：基礎数学 授業内容：不動産数理の基礎数学である指数・対数、数列等を学ぶ。 事前学修 2.0hr：指数・対数、数列等についてネットなどで調べる。 事後学修 2.0hr：指数・対数、数列に関する演習問題を解くこと。
3 回	授業テーマ：微分とその応用 授業内容：微分に関する全般知識と不動産分野におけるその応用について学ぶ。 事前学修 2.0hr：微分についてネットなどで調べる。 事後学修 2.0hr：微分とその応用に関する演習問題を解くこと。
4 回	授業テーマ：偏微分・全微分とその応用 授業内容：偏微分・全微分に関する全般知識と不動産分野におけるその応用について学ぶ。 事前学修 2.0hr：偏微分・全微分についてネットなどで調べる。 事後学修 2.0hr：偏微分・全微分に関する演習問題を解くこと。
5 回	授業テーマ：ラグランジュ乗数法とその応用 授業内容：ラグランジュ乗数法に関する全般知識と不動産分野におけるその応用について学ぶ。 事前学修 2.0hr：ラグランジュ乗数法についてネットなどで調べる。 事後学修 2.0hr：ラグランジュ乗数法に関する演習問題を解くこと。
6 回	授業テーマ：積分とその応用 授業内容：積分に関する全般知識と不動産分野におけるその応用について学ぶ。 事前学修 2.0hr：積分についてネットなどで調べる。 事後学修 2.0hr：積分とその応用に関する演習問題を解くこと。
7 回	授業テーマ：前半のまとめ、不動産データ分析への応用 授業内容：6 回までの前半部分のまとめを行いながら、不動産データ分析への応用について学ぶ。 事前学修 2.0hr：学期開始から今まで学んだ内容を整理する。 事後学修 2.0hr：授業中にチェックした重要内容を総復習し、修士論文のテーマへの応用可能性を検討する。
8 回	授業テーマ：統計学の紹介 データの要約 授業内容：統計学の部の見通しとして記述統計と推測統計の違いを理解する。変数の分類、量的データの分布、分布の特徴の要約について学ぶ。 事前学修 2.0hr：教科書の第 1 章の 1.1-1.5 に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：演習問題に取り組む。
9 回	授業テーマ：変数のデータの記述と要約 授業内容：2 変数のデータの記述と要約として散布図、相関係数を学ぶ。質的データの記述としてクロス集計表を学ぶ。 事前学修 2.0hr：教科書の第 1 章の 1.6.1-1.6.3、1.6.5 に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：演習問題に取り組む。
10 回	授業テーマ：回帰分析 授業内容：独立変数と従属変数、回帰直線、最小二乗法、予測値、残差、決定係数、重回帰分析など回帰分析の基本事項を学ぶ。 事前学修 2.0hr：教科書の第 1 章の 1.6.4 に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：演習問題に取り組む。
11 回	授業テーマ：確率と確率変数 授業内容：推測統計の基礎となる確率について、事象と確率、確率の計算、条件付き確率、独立性、確率変数などを学ぶ。 事前学修 2.0hr：教科書の第 2 章 2.1-2.4 に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：演習問題に取り組む。

12 回	授業テーマ：主な確率分布・2変数の確率分布 授業内容：離散型確率分布、連続型確率分布について学ぶ。ベルヌーイ分布、2項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布、指数分布、2変量正規分布など。 事前学修 2.0hr：教科書の第2章 2.7-2.9 に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：演習問題に取り組む。
13 回	授業テーマ：正規分布からの標本分布、大数の法則 授業内容：母集団の確率分布と標本の確率分布について学ぶ。正規分布する母集団からの標本分布として χ^2 分布、t 分布、F 分布を学ぶ。 事前学修 2.0hr：教科書の第2章 2.10-2.11、第3章 3.1-3.2 に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：演習問題に取り組む。
14 回	授業テーマ：推定と検定 授業内容：点推定、区間推定について学ぶ。検定の考え方、平均値の検定、分散の検定、平均の差の検定など学ぶ。 事前学修 2.0hr：教科書の第4章に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：演習問題に取り組む。
15 回	授業テーマ：クロス集計表の検定、回帰分析の検定 授業内容：母比率の差の検定、クロス集計表の独立性の検定、回帰分析の係数の推定と検定、回帰分析の分散分析、無相関の検定を学ぶ。 事前学修 2.0hr：教科書の第4章 4.4.4、第5章、第6章 6.2-6.3 に目を通しておく。 事後学修 2.0hr：演習問題に取り組む。

日本不動産事情特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：後

兼重 賢太郎 (かねしげ けんたろう)・前島 彩子 (まえしま あやこ)・山本 卓 (やまもと たかし)

■ 授業の概要

最近の我が国の不動産をめぐる環境も大きく変化している。このような状況の中で不動産学研究科学生には各自の専門分野以外にも不動産事情全般に対する知識が欠かせない。本講義では日本の不動産分野ついて、「市場・経営」、「法・政策」、「建築・都市計画」等の立場から担当教員が講義を行うことにより、不動産事情全般に関する知識を深める。

■ 到達目標

一般目標：日本の不動産事情全般に関する基本的な知識を不動産学研究科学生にふさわしい水準で理解することを本講義の一般目標とする。

個別目標：1. 不動産にかかる「市場・経営」分野についての、基礎的な概念、一般的な研究動向を把握し、不動産学専攻大学院生として研究活動をするうえでの最低限の知見を身に着ける。
2. 不動産にかかる「建築・都市計画」分野についての、基礎的な概念、一般的な研究動向を把握し、不動産学専攻大学院生として研究活動をするうえでの最低限の知見を身に着ける。
3. 不動産にかかる「法・政策」分野についての、基礎的な概念、一般的な研究動向を把握し、不動産学専攻大学院生として研究活動をするうえでの最低限の知見を身に着ける。

■ 履修条件

特になし。

■ 評価基準・方法

授業への参加状況、レポート等に基づき評価を行う。

■ フィードバック方法

課題のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（自分自身の研究状況の発表、質疑応答が予定されている。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（課題作成に向けて、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎的スキルは必須であり、毎回自分の PC を持参してもらう。）

■ 教科書

使用しない。

■ 参考書

随時紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：不動産の特性—動産との違い— 授業内容：研究対象となる不動産と特性を考える。具体的には、不動産は動産と比較して、どのような違いが認められるのか、不動産鑑定評価基準を手がかりに考察を行う。 事前学修 2.0hr：不動産とは何かについて考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
2 回	授業テーマ：不動産の経済価値と評価制度 授業内容：不動産の経済価値を把握することが、不動産を対象とした研究の足掛かりとなる。授業では、その目的を達成するために、不動産鑑定評価手法の基礎を学ぶ。 事前学修 2.0hr：不動産の経済価値へのアプローチを考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
3 回	授業テーマ：不動産の経営管理と事業運営 授業内容：企業経営は保有・賃借する不動産に基づいて行われることが一般的である。企業不動産のあり方と企業業績との間にどのような関係性があるのかに焦点を定める。その知見を振り所に、企業不動産戦略を考える。 事前学修 2.0hr：不動産事業を成功させるためには何が必要か考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
4 回	授業テーマ：不動産の資産税制度と情報開示 授業内容：固定資産税制度に焦点を定め、不動産と税の関係性を考える。具体的には、課税の基礎となる不動産の評価、特例措置、情報開示に焦点を定め、北米の制度との比較も試みる。 事前学修 2.0hr：公平・公正な資産税のあり方を考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
5 回	授業テーマ：不動産の会計制度と会計情報の利用 授業内容：不動産会計制度の沿革や制度概要を学ぶ。そして、不動産会計制度に基づいた会計情報は、投資家や金融機関にどのような影響を与えているのかを考える。 事前学修 2.0hr：経営者・投資家の視点から企業不動産のあり方を考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
6 回	授業テーマ：成熟した空間をもつ不動産 授業内容：文化財建築の維持管理・活用に関する基礎的な概念、研究動向を整理する。 事前学修 2.0hr：歴史的な側面から不動産の可能性・課題を考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
7 回	授業テーマ：近年の特徴的な規模用途の不動産 授業内容：環境配慮型建築に関する基礎的な概念、研究動向を整理する。 事前学修 2.0hr：近年の特徴的な不動産のあり方から不動産の可能性・課題を考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
8 回	授業テーマ：災害と防災・復興 授業内容：災害により顕在化した不動産供給の課題、関連する国際的な研究動向を整理する。 事前学修 2.0hr：災害の側面から不動産の可能性・課題を考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
9 回	授業テーマ：建築生産と維持管理 授業内容：BIM、デジタルシミュレーションに関する基礎的な概念、研究動向を整理する。 事前学修 2.0hr：供給維持の側面から不動産の可能性・課題を考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。

10 回	授業テーマ：ライフスタイルを反映した不動産 授業内容：ライフスタイルの変化と不動産の関係に関する基礎的な概念、研究動向を整理する。 事前学修 2.0hr：ライフスタイルの側面から不動産の可能性・課題を考える。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
11 回	授業テーマ：不動産法制の特徴 授業内容：日本の不動産に関する法制度全般の概要および最新動向を考察する。 事前学修 2.0hr：不動産に関する法制度の特徴を調べ、自分なりの考えをまとめる。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
12 回	授業テーマ：不動産取引に関する法・政策 授業内容：日本の不動産取引に関する法制度や政策の特徴を考察する。 事前学修 2.0hr：不動産取引に関する法制度・政策を調べ、自分なりの考えをまとめる。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
13 回	授業テーマ：不動産の所有に関する法・政策 授業内容：日本の不動産所有に関する法制度や政策の特徴を考察する。 事前学修 2.0hr：不動産の所有に関する法制度・政策を調べ、自分なりの考えをまとめる。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
14 回	授業テーマ：不動産の利用に関する法・政策 授業内容：日本の不動産利用に関する法制度や政策の特徴を考察する。 事前学修 2.0hr：不動産の利用に関する法制度・政策を調べ、自分なりの考えをまとめる。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。
15 回	授業テーマ：都市・まちづくりに関する法・政策 授業内容：日本の都市・まちづくりに関する法制度や政策の特徴を考察する。 事前学修 2.0hr：都市・まちづくりに関する法制度・政策を調べ、自分なりの考えをまとめる。 事後学修 2.5hr：授業で学んだことを自分なりに整理し、文書にまとめる。

地域再生特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：後

小杉 学 (こすぎ まなぶ)・藤木 亮介 (ふじき りょうすけ)

■ 授業の概要

地域再生に関する諸問題と、その解決に向けた最新の取り組みについて学修する。社会、経済、法制度、さらに歴史的背景も踏まえ、問題の本質を捉えていく。

■ 到達目標

一般目標：地域再生に関する諸問題の実態、発生メカニズム、解決策、残された課題について理解する。

個別目標：地域再生に関する諸問題の実態、発生メカニズム、解決策、残された課題それぞれについて、正確かつ分かりやすく説明することができる。

■ 履修条件

- ・地域再生に関する基礎的・一般的・先端的な知識を修得していること。
- ・地域再生に関する最新の議論に精通していること。

■ 評価基準・方法

レポートの質、プレゼンテーションのわかりやすさ、討論への積極的姿勢などを総合的に評価する。

■ フィードバック方法

レポートやプレゼンテーションに対するフィードバックは授業中に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、Powerpoint を搭載したノートパソコンを毎回持参すること。）

■ 教科書

必要に応じて授業の中で紹介する。

■ 参考書

必要に応じて授業の中で紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：本授業の概要、進め方について説明する。地域再生の現状について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
2 回	授業テーマ：地方都市の現状 授業内容：地方都市の現状について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
3 回	授業テーマ：地方都市が抱える問題 授業内容：地方都市が抱える問題について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
4 回	授業テーマ：中心市街地活性化法および中心市街地活性化基本計画の概要 授業内容：中心市街地活性化法および中心市街地活性化基本計画の概要について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
5 回	授業テーマ：中心市街地活性化の取り組み事例 授業内容：過去の中心市街地活性化の取り組み事例について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
6 回	授業テーマ：中心市街地活性化の失敗と限界 授業内容：中心市街地活性化の失敗と限界について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
7 回	授業テーマ：コンパクトシティ・都市再生特別措置法・立地適正化計画 授業内容：コンパクトシティ・都市再生特別措置法・立地適正化計画について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
8 回	授業テーマ：地方都市再生と空き家問題 授業内容：地方都市再生と空き家問題について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
9 回	授業テーマ：まちづくり会社 授業内容：まちづくり会社、特に滋賀県長浜市のまちづくり会社「黒壁」についてレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
10 回	授業テーマ：リノベーションまちづくり 授業内容：リノベーションまちづくりの取り組みについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。

11 回	<p>授業テーマ：米国のランドバンク 授業内容：米国のランドバンクについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
12 回	<p>授業テーマ：日本のランドバンク(つるおかランド・バンク) 授業内容：日本のランドバンク、とくに日本版ランドバンクのパイオニアと言われる「つるおかランド・バンク」の取り組みについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
13 回	<p>授業テーマ：日本のランドバンク(かみのやまランドバンク) 授業内容：日本のランドバンク、とくに明海大学不動産学部が参画する「かみのやまランドバンク」の取り組みについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
14 回	<p>授業テーマ：地方創生 授業内容：内閣府が推進する「地方創生」について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
15 回	<p>授業テーマ：地域再生のまとめ 授業内容：本授業で扱ってきた地域再生のまとめについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>

居住環境マネジメント特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

小杉 学 (こすぎ まなぶ)

■ 授業の概要

居住環境とは、「居住」をとりまく物的環境、人的環境、社会環境の総体のこと。それらは、居住に強い影響を及ぼしている。マネジメントは「管理」。語源は「上手く扱うこと」。居住環境を「うまく扱うこと」ができれば、居住の質は向上する。この授業では、都市の重要な居住形態である区分所有マンションを取り上げる。その居住環境は、共用部分、区分所有法、管理組合、区分所有者、管理会社等で構成され、それらが複雑に絡み合っている。そこで発生する諸問題と、その解決に向けた最新のマネジメントについて学修する。社会、経済、法制度、さらに歴史的背景も踏まえ、問題の本質を捉えていく。

■ 到達目標

一般目標：区分所有マンションで発生する諸問題の実態、発生メカニズム、解決策、残された課題について理解する。

個別目標：区分所有マンションで発生する諸問題の実態、発生メカニズム、解決策、残された課題それぞれについて、正確かつ分かりやすく説明することができる。

■ 履修条件

マンション管理の基礎知識を習得していること。学部3年次授業「集合住宅管理論」の単位を修得していれば問題ない。管理業務主任者やマンション管理士の資格までは必要ない(あれば十分)。基礎知識が無い場合は、下記教科書の第1部を4月中に熟読し、理解しておくこと(暗記は不要)。

■ 評価基準・方法

レポートの質、プレゼンテーションのわかりやすさ、討論への積極的姿勢などを総合的に評価する。

■ フィードバック方法

レポートやプレゼンテーションに対するフィードバックは授業中に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッション・プレゼンテーション)

■ 授業でのPCの利用(利用内容)

あり(Word、Powerpointを搭載したノートパソコンを毎回持参すること。)

■ 教科書

齊藤広子/篠原みち子/鎌野邦樹『新・マンション管理の法律と実務』日本加除出版

■ 参考書

必要に応じて授業の中で紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス・マンションの現状 授業内容：本授業の概要、進め方について説明する。マンションの現状について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
2 回	授業テーマ：マンションの歴史 授業内容：マンションの歴史について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
3 回	授業テーマ：マンション管理の諸問題 授業内容：マンションの管理の諸問題について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
4 回	授業テーマ：管理規約・標準管理規約・原始規約 授業内容：管理規約・標準管理規約・原始規約について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
5 回	授業テーマ：理事会・理事・監事 授業内容：理事会・理事・監事について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
6 回	授業テーマ：管理者・管理会社 授業内容：管理者・管理会社について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
7 回	授業テーマ：マンション管理士 授業内容：マンション管理士について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
8 回	授業テーマ：義務違反者・利益相反問題 授業内容：義務違反者・利益相反問題について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：前今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
9 回	授業テーマ：タワーマンション・ヴィンテージマンション・投資マンション・リゾートマンション 授業内容：タワーマンション・ヴィンテージマンション・投資マンション・リゾートマンションについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。

10 回	<p>授業テーマ：高経年マンション・管理不全マンション 授業内容：高経年マンション・管理不全マンションについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
11 回	<p>授業テーマ：第三者管理方式 授業内容：第三者管理方式について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
12 回	<p>授業テーマ：マンションの建替え・敷地売却 授業内容：マンションの建替え・敷地売却について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
13 回	<p>授業テーマ：被災マンションの復旧・取壊し・敷地売却 授業内容：被災マンションの復旧・取壊し・敷地売却について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
14 回	<p>授業テーマ：マンションのコミュニティとガバナンス 授業内容：マンションのコミュニティとガバナンスについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
15 回	<p>授業テーマ：マンションの経営的管理 授業内容：マンションの経営的管理について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>

不動産企画・経営特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

中城 康彦 (なかじょう やすひこ)

■ 授業の概要

資産として保有するものから資源として利用するものへと土地概念が変容している。一方地球資源の観点からは環境に負荷をかけない利用が要請されている。この観点から、今後一層重要性を高めるものと予想される持続可能な都市再生の実現に必要な論点について取り上げ、具体的に検討を加える。

■ 到達目標

一般目標：不動産事業を空間の利用と価値の側面からとらえ、任意の事業について、実現可能性、公平性の視点から客観的に説明する能力を身につける。

個別目標：・不動産の所有と利用の権利と価格を説明できる。

・複数権利者の権利変換計画を作成できる。

・不動産の賃貸事業の経営計画を作成し投資判断することができる。

■ 履修条件

授業に積極的に参加すること。

■ 評価基準・方法

講義への参加姿勢、レポートを総合的に評価する。随時提出するミニレポート等の内容より理解度を確認し、必要に応じてフィードバックする。

■ フィードバック方法

各回、当日のディスカッションの内容について振り返りのプレゼンテーションをする。補足すべき点について指摘を受けた場合は翌週までに指摘内容をカバーして提示する。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (授業は双方向の意見交換を重視して行う)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (不動産事業の収支、投資、権利変換等を試算する)

■ 教科書

中城康彦「建築プロデュース」市ヶ谷出版社

■ 参考書

中城康彦「教養としての「不動産」大全 日本実業出版社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：土地と建物を理解する建築プロデュースの 4 つの要件 授業内容：・土地と建物は近くて遠い存在である。建築プロデュースではその両者の関係性を理解し正しく構築する必要がある ・権利と価格は近くて遠い存在である。建築プロデュースではその両者の関係性を理解し正しく構築する必要がある ・土地、建物、権利、価格を建築プロデュースの 4 要件ととらえ、それを繋ぐ視点について学修する 事前学修 2.0hr：教科書を購入し、該当部分(第 1 章第 1 節)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、これまでであいまいにしていたことの解明に努める
2 回	授業テーマ：建築プロジェクトの担い手 授業内容：・賃貸型の建築プロジェクトの展開について局面ごとに求められる知見とその担い手を整理する ・分譲型の建築プロジェクトの展開について局面ごとに求められる知見とその担い手を整理する ・不動産業の業態と専門職業家の役割を整理し、欠落する部分がないか検討する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第 2 章)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、大学院での研究内容、および、終了後のキャリアについて整理する
3 回	授業テーマ：建築のライフサイクルに関わる不動産の法と制度-不動産の所有と利用 授業内容：・土地と建物別不動産制でそれぞれに所有者が存在する日本の法制度と英米法の制度を比較する ・土地の所有者と利用者の一致と分離、建物の所有者と利用者の一致と分離の組み合わせで、不動産利活用を実現する ・借地権、借家権の意味、および、借地借家法の効果と限界を考察する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第 3 章第 1 節)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、これからの所有と利用について整理し、書き留める
4 回	授業テーマ：建築のライフサイクルに関わる不動産の法と制度-1：不動産の登記と取引 授業内容：・第三者対抗力の意味を所有権、借地権、借家権、その他の用益権および担保権について整理する ・不動産登記簿の編纂と対抗力、および、専門職業家の分業について整理する。また、双方代理について考察する ・売買に関する民法の規定を踏まえたうえで不動産の売買の特殊性への対応方法を考察する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第 3 章第 2 節)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、これからの登記と取引のあり方を整理し、書き留める
5 回	授業テーマ：建築のライフサイクルに関わる不動産の法と制度-2：不動産の価格と税金 授業内容：・価値と価格の関係性を整理する ・相続税の路線価を利用した不動産権の価格評価と不動産市場の取引価格および不動産鑑定評価との関係を整理する ・不動産課税の概要と課税評価額の考え方と課題を整理する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第 3 章第 3 節)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、これからの価格と税金のあり方を整理し、書き留める
6 回	授業テーマ：建築のライフサイクルに関わる不動産の法と制度-3：不動産の経営と管理 授業内容：・空き家、空き地問題が示す所有者による経営の限界を整理する ・所有者、経営者、管理者が役割を分担して不動産の適正利用を進める方策を学修する ・経営の専門職能家、管理の専門職能家のあり方について海外のケースを踏まえて検討する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第 3 章第 4 節)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、これからの経営と管理のあり方を整理し、書き留める
7 回	授業テーマ：基本構想を作成する 授業内容：・容積率制限、斜線制限と事務所建築の配置計画、平面計画、断面計画を踏まえて建築可能な階数と面積を検討する ・想定する事務所建築の面積表を作成する ・賃貸有効率(レントラブル比)を求める 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第 4 章)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、演習敷地(図 4・11)の基本構想を作成する

8 回	<p>授業テーマ：不動産の収益価格を評価する 授業内容：・収益還元法を多面的に理解する ・直接還元法の意味と直接還元式を導くプロセスを理解する ・直接還元法を用いて収益価格を求める 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第5章)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、演習敷地(図4・11)の収益価格を査定する</p>
9 回	<p>授業テーマ：事業収支計画を作成する 授業内容：・エクセル用いて賃貸事業収支計算プログラムを作成する ・作成したプログラムを用いて事業収支を計算する ・同じビルを家賃水準が異なる場所に建築する場合の収支を計算して比較する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第6章)を読んで理解するとともに、表計算ソフトで事業収支プログラムを作成する 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、演習敷地(図4・11)の事業収支計画を作成する</p>
10 回	<p>授業テーマ：不動産投資を分析する 授業内容：・エクセルを用いて投資分析のプログラムを作成する ・作成したプログラムを用いて投資分析を行う ・自己資本の割合を変えて投資適格なプロジェクトを構築する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第7章)を読んで理解するとともに、表計算ソフトで不動産投資分析プログラムを作成する 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、演習敷地(図4・11)の投資分析を行う</p>
11 回	<p>授業テーマ：都市再生事業(共同ビル建設)をプロデュースする-1：権利変換の考え方 授業内容：・複数の土地所有者が土地を一体化して共同ビルを建築する場合の権利変換の考え方を整理する ・共同ビルを区分所有する場合に適用される区分所有法の特徴と留意点を整理する ・等価交換事業、市街地再開発事業の権利変換を学修する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第8章第1節)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、演習敷地(図4・11)の権利変換の方針を決める</p>
12 回	<p>授業テーマ：都市再生事業(共同ビル建設)をプロデュースする-2：従前資産評価 授業内容：・近隣接する土地の土地価格の異同を理論的に把握する手法を学修する ・共同ビルに提供する各所有者の土地ごとに最有効使用ビルを想定する ・最有効使用ビルに収益還元法を適用して土地価格を求める 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第8章第2節第3節)を読んで理解するとともに、収益還元法を立体的に適用するプログラムを作成する 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、演習敷地(図4・11)の従前資産(更地)の価格を評価する</p>
13 回	<p>授業テーマ：都市再生事業(共同ビル建設)をプロデュースする-3：従後資産評価 授業内容：・一体化した敷地に最有効使用ビルを想定し、収益還元法を適用して土地価格を求める ・一体利用することで生じる増分価値を把握する ・増分価値を配分基準に基づいて配分する方法を整理する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第8章第3節)を読んで理解するとともに、プログラムを利用して従後資産価値と増分価値を求める 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、演習敷地(図4・11)の従後資産(更地)価格と増分価値を評価する</p>
14 回	<p>授業テーマ：都市再生事業(共同ビル建設)をプロデュースする-4：権利変換計画 授業内容：・増分価値配分後の土地価格によって権利変換する方法を整理する ・各階を区分所有することを前提する場合に各権利者が取得可能な階を示して権利変換計画を作成する ・各権利者が取得する階を図面化して権利変換計画をわかりやすく表現する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第8章第3節)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、演習敷地(図4・11)の権利変換計画を作成する</p>
15 回	<p>授業テーマ：時間と空間の有効利用 授業内容：・これまでの学修を通じて、不動産の価値は時間と空間の相乗積で生じることを再確認する ・都市再生、建築再生では、所有者による利用が不全なことで生じることから、時間と空間の互恵的利用の重要性を学ぶ ・近時話題の利活用の事例を時間と空間の有効活用の視点で総括する 事前学修 2.0hr：教科書の該当部分(第5章第2節)を読んで理解すること 事後学修 2.0hr：授業内容を再確認するとともに、これからの都市空間の有効利用について整理する</p>

不動産経済学特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：後

金 東煥 (きむ どんぶん)

■ 授業の概要

不動産市場の動向を理解し、適切な投資判断や政策評価を行うためには、経済学的視点に基づく理論的・実証的分析が不可欠である。本講義では、不動産経済学の基礎理論から応用までを体系的に学び、ミクロ経済学・マクロ経済学の枠組みを用いて不動産市場の価格形成メカニズム、需要・供給構造、市場の効率性、不動産バブル、都市経済学との関連などについて理論分析と実証分析の双方の視点から体系的に講義を行う。

■ 到達目標

一般目標：不動産市場を経済学的視点から分析する能力を身につけ、不動産経済学に関する理論的理解と分析能力を高め、研究分野に対する視野を拡大する。

個別目標：①不動産経済学の基礎理論を理解し、自ら説明できる。

②需要・供給分析、価格決定理論、市場分析モデルを用いて不動産市場を分析できる。

③不動産市場データを用いた実証分析を行い、政策提言や投資判断に応用できる。

■ 履修条件

特になし。ただし、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎知識があることが望ましい。

■ 評価基準・方法

講義中のレポートと課題 (50%)、ディスカッション (10%)、期末レポート (40%)、に基づき総合的に評価する。なお、5 分の 4 以上の出席を評価の前提条件とし、欠席や遅刻は減点とする。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。希望に応じて面談でのフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (反転授業(授業内容の予習と復習)、授業中のディスカッションと授業前後の課題調査、ケーススタディ分析)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (必要に応じて PC を活用する(データ分析、統計ソフトウェアの活用、プレゼンテーション)。)

■ 教科書

特に指定しない。毎回の講義の前に講義用のレジュメなどを配布する。

■ 参考書

山崎福寿・浅田義久『土地と住宅市場の経済分析』東京大学出版会、2008

DiPasquale, Denise and William C. Wheaton『Urban Economics and Real Estate Markets』Prentice Hall,1996

講義の都度、適宜、参考文献を紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：講義ガイダンス 授業内容：講義の目標、講義の主な内容、教材、成績評価方法などについて説明する。不動産経済学とは何か、その研究対象と意義について概説する。 事前学修 1.0hr：シラバスを読み、講義の目標、講義の主な内容、教材、成績評価方法などについて確認する。 事後学修 3.0hr：ガイダンスで説明した不動産経済学の主なトピックについて調べる。
2 回	授業テーマ：不動産の経済学的特性 授業内容：不動産の固有性(不動性、個別性、耐久性、高額性)が市場に与える影響について学ぶ。他の財との相違点を経済学的に理解する。 事前学修 2.0hr：不動産の特性について文献やインターネットで調べる。 事後学修 2.0hr：不動産の特性が価格形成に与える影響についてまとめる。
3 回	授業テーマ：不動産市場の需要理論 授業内容：家計の効用最大化行動と住宅需要、企業の利潤最大化行動と事業用不動産需要について学ぶ。需要曲線の導出と需要の価格弾力性について理解する。 事前学修 2.0hr：ミクロ経済学における需要理論について復習する。 事後学修 2.0hr：不動産需要の決定要因と弾力性について演習問題を解く。
4 回	授業テーマ：不動産市場の供給理論 授業内容：短期供給と長期供給の違い、供給曲線の導出、建設コストと土地価格の関係について学ぶ。不動産供給の非弾力性について理解する。 事前学修 2.0hr：ミクロ経済学における供給理論について復習する。 事後学修 2.0hr：不動産供給の特性と供給制約についてまとめる。
5 回	授業テーマ：不動産価格の決定メカニズム 授業内容：需要・供給均衡による価格決定、市場均衡の安定性、価格調整メカニズムについて学ぶ。ワルラス均衡とマーシャル均衡の違いを理解する。 事前学修 2.0hr：市場均衡理論について文献で調べる。 事後学修 2.0hr：不動産市場における均衡価格の計算演習を行う。
6 回	授業テーマ：賃料理論とキャピタリゼーション 授業内容：賃料決定理論、賃料と資産価格の関係、キャップ・レート(還元利回り)について学ぶ。ゴードン成長モデルの応用を理解する。 事前学修 2.0hr：不動産投資の収益評価方法について調べる。 事後学修 2.0hr：賃料データを用いて資産価格を推計する演習を行う。
7 回	授業テーマ：ストック・フロー・モデル 授業内容：DiPasquale-Wheaton モデル(4 象限モデル)について学ぶ。不動産スペース市場と資産市場の相互関係、短期均衡と長期均衡を理解する。 事前学修 2.0hr：4 象限モデルについて文献やインターネットで調べる。 事後学修 2.0hr：4 象限モデルの各象限の関係性と調整メカニズムについてまとめる。
8 回	授業テーマ：不動産市場の情報と効率性 授業内容：市場の効率性仮説、情報の非対称性、逆選択とモラルハザード、不動産市場における情報開示の重要性について学ぶ。 事前学修 2.0hr：情報の経済学について文献で調べる。 事後学修 2.0hr：不動産市場における情報問題の事例を収集し分析する。
9 回	授業テーマ：不動産バブルの経済分析 授業内容：資産価格バブルの理論、日本の不動産バブルの発生と崩壊、バブル期の価格形成メカニズムについて学ぶ。 事前学修 2.0hr：日本の不動産バブルの歴史について調べる。 事後学修 2.0hr：バブル発生の経済的要因と政策対応についてまとめる。

10 回	授業テーマ：都市経済学と立地理論 授業内容：都市の形成と集積の経済、地代理論、アロンソ・モデル、中心業務地区(CBD)の形成について学ぶ。 事前学修 2.0hr：都市経済学の基礎理論について調べる。 事後学修 2.0hr：地価の距離逓減パターンについて実際のデータで検証する。
11 回	授業テーマ：住宅市場の経済分析 授業内容：住宅市場の特性、持ち家と賃貸の選択理論、住宅ローン市場、住宅政策の経済効果について学ぶ。 事前学修 2.0hr：日本の住宅市場の現状と住宅政策について調べる。 事後学修 2.0hr：持ち家・賃貸の選択に関する経済分析を行う。
12 回	授業テーマ：商業用不動産市場の分析 授業内容：オフィス市場、商業施設市場の需要・供給構造、空室率の決定要因、賃料サイクルについて学ぶ。 事前学修 2.0hr：日本のオフィス市場の動向について調べる。 事後学修 2.0hr：オフィス賃料と空室率の関係について実証分析を行う。
13 回	授業テーマ：不動産金融と証券化 授業内容：不動産ファイナンスの仕組み、REIT（不動産投資信託）、不動産証券化の経済効果、投資分析の手法について学ぶ。 事前学修 2.0hr：REIT の仕組みと日本の REIT 市場について調べる。 事後学修 2.0hr：REIT 投資の収益性分析を行う。
14 回	授業テーマ：不動産政策と税制 授業内容：土地政策、住宅政策、都市計画規制の経済効果、不動産税制(固定資産税、譲渡所得税等)の影響について学ぶ。 事前学修 2.0hr：日本の不動産関連税制について調べる。 事後学修 2.0hr：不動産税制が市場に与える影響について分析する。
15 回	授業テーマ：不動産経済学の実証研究と総括 授業内容：不動産経済学における実証研究の方法論、計量経済学的分析手法、最新の研究動向について学ぶ。講義全体の総括を行う。 事前学修 2.0hr：これまでの講義内容を整理し、疑問点をまとめる。 事後学修 2.0hr：不動産経済学の知見を自身の研究テーマにどう応用できるか検討する。

不動産計量経済分析特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：後

原野 啓 (はらの けい)

■ 授業の概要

不動産市場や都市構造の分析はデータを用いた実証的アプローチが不可欠になりつつある。本特論は、計量経済学の手法を中心に学び、不動産や都市構造、地価等の統計データを実際に用いて、不動産市場の価格分析や都市政策の効果分析を学ぶことを目的とする。数学とパソコンを使うため、数学やパソコンに対して知識が必要である。

【重要】

- (1) 本科目は、対面授業形式で実施する。manaba は資料配付及び課題提出、質問や連絡に用いる。
- (2) 本科目は、統計ソフト (Stata) を活用した演習科目であるため、学内のパソコンルームを利用して講義を行う。

■ 到達目標

- 一般目標：不動産市場のデータを使った実証分析ができるようになること。
- 個別目標：(1) 大規模な実証データを構築、管理できるようになること。
(2) データ分析のための統計量計算とその説明ができるようになること。
(3) 回帰分析を行い、結果の解釈・説明およびシミュレーションができるようになること。

■ 履修条件

「計量経済学」の学修経験がない学生は、学部で前期に開講する「計量経済学」を必ず聴講すること。
詳細は原野まで問い合わせること。

■ 評価基準・方法

講義毎に提出される課題(60%)および最終課題(40%)による総合評価を行う。

■ フィードバック方法

フィードバックは、翌週の授業冒頭で行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (計量分析ソフトの利用方法を学修する)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (演習科目であり、PC を利用して計量分析を学習する)

■ 教科書

西山・新谷・川口・奥井, 『計量経済学』, 有斐閣, 2019.

■ 参考書

松浦寿幸, 『Stata によるデータ分析入門 第 3 版』, 東京図書, 2021.

その他については、適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、実証分析を学ぶまえの下準備 授業内容：授業ガイダンスの実施、エクセルの操作方法の復習を行う。 事前学修 1.0hr：レジュメを読んで、講義の取り組み方を確認する 事後学修 3.0hr：まとめ・演習作業
2 回	授業テーマ：不動産計量分析・計量経済学の復習 授業内容：計量経済学の復習として、エクセルを利用した計量経済学の演習を行う。操作方法、分析結果の表の見方を復習する。 事前学修 1.0hr：エクセルを用いた計量分析の操作方法を確認する 事後学修 3.0hr：エクセルを用いて計量分析を行い、基本的な計量分析の方法を確認する
3 回	授業テーマ：推定の考え方 授業内容：最小二乗法によって得られる係数について、理論上の確認を行う。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、推定の方法について確認する 事後学修 3.0hr：エクセルを用いて推定について演習を行い、推定の考え方について整理する
4 回	授業テーマ：検定の考え方 授業内容：係数の有意性は t 検定によって行われるが、t 検定が何をやっているのか、推計されたパラメータが統計的に有意であることの意味を確認する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、仮設検定について確認する 事後学修 3.0hr：仮設検定について演習を行い、帰無仮説・対立仮説、t 分布と t 分布表の利用法を整理する
5 回	授業テーマ：回帰分析での推定と検定 授業内容：回帰分析を行い、t 検定における帰無仮説を変更した場合の有意性の変化について確認する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、回帰分析について確認する 事後学修 3.0hr：エクセルを用いて回帰分析の演習を行い、回帰係数の推定・検定の考え方を整理する
6 回	授業テーマ：最小二乗法の仕組みと適用条件 (1) 授業内容：最小二乗法によって得られる分析結果は、複数の仮定が満たされる場合に一致性を持つ。満たすべき仮定にどのようなものがあるのかを確認する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、最小二乗法について確認する 事後学修 3.0hr：最小二乗推定量が blue になるのは、どのような仮定が満たされているときなのかを整理する
7 回	授業テーマ：最小二乗法の仕組みと適用条件 (2) 授業内容：先週と同様、最小二乗法によって得られる分析結果は、複数の仮定が満たされる場合に一致性を持つ。満たすべき仮定にどのようなものがあるのかを確認する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、どのようなケースで blue のための誤差項の仮定が満たされないのかを確認する 事後学修 3.0hr：blue のための誤差項の仮定が満たされない場合に、推定量にどのような問題が生じるのかを理解し、対処方法を整理する
8 回	授業テーマ：加重最小二乗法と一般化最小二乗法 授業内容：最小二乗法において仮定が満たされない場合に、推計方法を修正する必要がある。その一つとして、一般化最小二乗法について学修する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、加重最小二乗法と一般化最小二乗法について確認する 事後学修 3.0hr：不均一分散や共分散が生じている場合の対象法であることを整理する
9 回	授業テーマ：プロビットモデルと最尤法 授業内容：ここでは、被説明変数のとる値が 0 または 1 の 2 値変数である場合に、非線形モデルとして推計することについて学修する。その際、従来の最小二乗法ではなく、最尤法で推計する方法を学修する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、線形確率モデルの問題点を確認する 事後学修 3.0hr：プロビットモデルとロジットモデルの仕組みについて整理する

10 回	授業テーマ：ロジスティックモデルと最尤法 授業内容：2 値変数を被説明変数とする分析方法として、ロジスティック分析による推計方法について学修する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、最尤法によるプロビットモデルの推定について確認する 事後学修 3.0hr：係数と限界効果の違いについて整理し、プロビットモデルの推定結果が読み取れるようにする
11 回	授業テーマ：操作変数を用いた因果関係の特定 (1) 授業内容：最小二乗法において仮定が満たされない場合の対応方法として、操作変数法について学修する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、内生性バイアスについて確認する 事後学修 3.0hr：同時決定・内生性バイアスへの対処法として操作変数法や 2 段階最小二乗法について整理する
12 回	授業テーマ：操作変数を用いた因果関係の特定 (2) 授業内容：先週に続き、操作変数法について学修するが、推計結果の正しさを検定する方法について学修する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、操作変数法の推計方法について確認する 事後学修 3.0hr：操作変数が誤差項・説明変数・被説明変数とどのような関係にあるのか整理する
13 回	授業テーマ：パネルデータ分析と固定効果モデル 授業内容：データセットがワンショットではなく、時系列方向に複数入手することが出来る場合がある。こうしたパネルデータを用いる方法について学修する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、パネルデータ分析について確認する 事後学修 3.0hr：変量効果モデル・固定効果モデルの特徴と違いを整理する
14 回	授業テーマ：効果・影響の測定 (1) 授業内容：パネルデータ分析の分析手法の一つとして、政策評価などを行う際に利用されることが多い DID 分析について学修する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、パネルデータによる DID 分析について確認する 事後学修 3.0hr：政策評価に DID 分析が有用であること整理し、トリートメントグループとコントロールグループの違いを整理する
15 回	授業テーマ：効果・影響の測定 (2) 授業内容：政策効果を分析する際に、内生変数が見つからない場合の代替的な手法として、マッチング法について学修する。 事前学修 1.0hr：教科書を読んで、マッチング推定について確認する 事後学修 3.0hr：DID 分析やマッチング推定の正しい分析と分析結果を正しく読み取れるよう整理する

不動産金融特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

小林 誠 (こばやし まこと)

■ 授業の概要

金融と不動産とが融合したといわれる不動産証券化の世界を、不動産ノンリコースファイナンス・金融リスク管理業務の現役の実務家の観点から明らかにしていく。

そもそも金融(=お金を融通する)とは何か? 証券化とは何か? 証券化対象となる不動産とは何か? 不動産証券化の仕組み・ストラクチャーとは? どのようなプレーヤーによってストラクチャーが組成されているか? など、金融や不動産証券化の基礎について、実務の世界からわかりやすく解説し、後期開講予定の「アセットマネジメント特論」へ繋げていく。

講義中のディスカッションや適宜宿題として出す課題を通じて、より理解を深めていきたい。

■ 到達目標

一般目標：金融や不動産証券化の基本的な知識を習得することで、不動産証券化の専門家や実務家と基本的なディスカッションができるようになることを目標とする。また、後期開講予定の「アセットマネジメント特論」での、不動産証券化や不動産ファンドに関するケーススタディ・ディスカッションが行えるよう、基礎知識を習得することを目標とする。

個別目標：受講者自身の個別の研究テーマと不動産ファイナンスの仕組みとを関連付けて第三者と議論をしたり、専門用語の使い方を理解して論文に挿入をしたりすることができるようになる。

■ 履修条件

民法・会社法の基礎知識および簿記3級程度の会計の基礎知識があることが望ましい。

■ 評価基準・方法

講義への出席率、講義の受講態度、課題への取組姿勢、講義中の発表や発言の際の説得力及び到達目標の達成度に基づき総合的に評価する。

また、原則として5分の4以上の出席を評価の前提条件とする。

■ フィードバック方法

課題等へのフィードバックは、講義時間内、学修支援システム manaba 等を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(様々な論点についてのディスカッションも交えながら進めていきます。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

なし

■ 教科書

特になし(講義の進行に合わせてオリジナルレジメを配布予定)。

■ 参考書

最新「不動産ファンドがよ〜くわかる本」(第2版) 脇本和也著 出版社：秀和システム

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、「不動産」とは何か? 不動産証券化の対象となる不動産とは? 授業内容：身近に存在する多数の不動産の中で、どのような不動産が証券化の対象となるか、金融商品となりうる不動産はどのような不動産かについて、整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：講義概要を読んで、本講義に期待する内容を考えておく。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
2 回	授業テーマ：「お金儲け」とは? 金融とは? 授業内容：日頃漠然と理解している「お金儲け=お金を生み出すこと」について考え、さらには「金融とは何か?」について金融実務家の観点から整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
3 回	授業テーマ：証券化対象不動産の把握(1)~物件概要(権利関係・物的関係) 授業内容：証券化対象となる不動産の概要について、権利関係・物的関係の観点から整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
4 回	授業テーマ：証券化対象不動産の把握(2)~エンジニアリングレポート 授業内容：不動産の物的関係・権利関係を検証する為のツールであるエンジニアリングレポートの内容について整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
5 回	授業テーマ：証券化対象不動産の把握(3)~不動産収支(レントロール/キャッシュフロー) 授業内容：証券化の対象となる不動産は、不動産自体が「お金=収益」を生み出す不動産でなければなりません。不動産の収支とは何かについて整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
6 回	授業テーマ：金融商品の価格と価値(Price & Value)~Price と Value の違い、Value ロジック 授業内容：そもそも不動産が金融商品になるためには、その価値が客観的に算定でき、価格が付けられなければならない。価値とは何か? 価格とは何か? について整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
7 回	授業テーマ：不動産の価格と価値(1)~不動産鑑定評価の基礎 授業内容：金融商品の一つとなった不動産の価値を算定するツールである不動産鑑定評価の基礎について整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
8 回	授業テーマ：不動産の価格と価値(2)~不動産鑑定評価の手法(取引事例比較法、原価法、収益還元法/試算価格の調整)不動産鑑定評価書 授業内容：不動産の価値を算定するツールである不動産鑑定評価の手法について、不動産鑑定評価書も参照しながら整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
9 回	授業テーマ：デット&エクイティ、レバレッジ効果 授業内容：不動産を証券化する際にはデット(借入金)が使われるのが通常です。なぜデットが使われるのかについて、デットとエクイティの相違、レバレッジ効果の観点から整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。

10 回	<p>授業テーマ：デットプレーヤー&エクイティプレーヤー 授業内容：不動産証券化の金融周りのプレーヤーであるデットプレーヤーとエクイティプレーヤーについて整理をすると同時に、最大のデットプレーヤーである銀行の機能についても合わせて整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。</p>
11 回	<p>授業テーマ：不動産証券化ストラクチャー(1)～コーポレート(リコース)ファイナンス VS アセット(ノンリコース)ファイナンス 授業内容：コーポレートファイナンスとアセットファイナンスの違いから、不動産証券化ストラクチャーの根幹をなすノンリコースファイナンスについて整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。</p>
12 回	<p>授業テーマ：不動産証券化ストラクチャー(2)～倒産隔離、二重課税の回避 授業内容：証券化ストラクチャーが成立する為の最も重要な要素である「倒産隔離」と「二重課税の回避」について整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。</p>
13 回	<p>授業テーマ：不動産証券化ストラクチャー(3)～導管体 授業内容：「倒産隔離」と「二重課税の回避」を充足させる為の、ヴィークル・導管体となる企業体について整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。</p>
14 回	<p>授業テーマ：J-REIT についての考察(投資対象銘柄の選定に際して) 授業内容：不動産証券化ストラクチャーの最上位に位置付けられるJ-REIT(ジェイ・リート)について、銘柄選定の観点も加味しながら整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。</p>
15 回	<p>授業テーマ：講義全体のとまとめ振り返り/ケーススタディー取り組みに向けて 授業内容：第1回～第14回の講義を振り返り、ケーススタディーを中心に構成される後期開講予定の「アセットマネジメント特論」へと繋いでいきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。</p>

不動産投資特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：後

小松 広明 (こまつ ひろあき)

■ 授業の概要

本講義では、現代ファイナンス理論を学ぶとともに、計算機(PC)を用いた実習を交えながら、不動産投資において必要不可欠となる収益価格に対する理解を深めることを目的とする。なお、実習においては、データ解析ソフトとして、オープンソフトウェアの R を用いる。

■ 到達目標

一般目標：①不動産投資の収益性を算定できる。

② R 言語による基礎的なプログラミングができる。

個別目標：データ分析を通じて、実証的根拠に基づいた合理的な意思決定を行うことができる。

■ 履修条件

『不動産数理の基礎演習』を履修していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

課題演習 50 %、ディスカッション 50 %

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（演習課題を通じてディスカッションを適宜実施）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（情報処理演習室の PC を利用）

■ 教科書

特になし。

■ 参考書

前川俊一(2014)『不動産投資のためのファイナンス入門』プログレス

金明哲(2007)『R によるデータサイエンス』森北出版

秋山裕(2009)『R による計量経済学』オーム社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：イントロダクション・NPV と IRR の算定 授業内容：投資投資判断指標とそのルールについて学修する。 事前学修 2.0hr：キーワードについて調べておく。 事後学修 2.0hr：参考資料等を用いて知識の整理を行う。
2 回	授業テーマ：DCF 法による収益価格の算定① 授業内容：証券化対象不動産の評価手法となる DCF 法の考え方について学修する。 事前学修 2.0hr：キーワードについて調べておく。 事後学修 2.0hr：参考資料等を用いて知識の整理を行う。
3 回	授業テーマ：DCF 法による収益価格の算定②(演習・ディスカッション) 授業内容：PC を利用して、DCF 法による収益価格を算定し、当該結果をもとにディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：参考資料等で R によるプログラムの解説を読む。 事後学修 2.0hr：演習課題について R でのプログラムを実行する。
4 回	授業テーマ：リスクとリターン① 授業内容：資産がもたらすリスクとリターンの関係性、中心極限定理について学修する。 事前学修 2.0hr：キーワードについて調べておく。 事後学修 2.0hr：参考資料等を用いて知識の整理を行う。
5 回	授業テーマ：リスクとリターン②(演習・ディスカッション) 授業内容：PC を利用して、投資家のリスク選好、確実性効果、所有効果について演習を通じて学修する。 事前学修 2.0hr：参考資料等で R によるプログラムの解説を読む。 事後学修 2.0hr：演習課題について R でのプログラムを実行する。
6 回	授業テーマ：VaR・モンテカルロシミュレーション① 授業内容：金融リスク指標の一つである VaR の考え方について学修する。 事前学修 2.0hr：キーワードについて調べておく。 事後学修 2.0hr：参考資料等を用いて知識の整理を行う。
7 回	授業テーマ：VaR・モンテカルロシミュレーション②(演習・ディスカッション) 授業内容：PC を利用して、VaR をモンテカルロシミュレーションのもとに具体的に算定する。 事前学修 2.0hr：参考資料等で R によるプログラムの解説を読む。 事後学修 2.0hr：演習課題について R でのプログラムを実行する。
8 回	授業テーマ：CAPM ① 授業内容：ポートフォリオのリスクとリターンの関係性、資本市場線、シングルファクターモデルについて学修する。 事前学修 2.0hr：キーワードについて調べておく。 事後学修 2.0hr：参考資料等を用いて知識の整理を行う。
9 回	授業テーマ：CAPM ②(演習・ディスカッション) 授業内容：PC を利用して、証券市場線、分散投資効果について演習を通じて学修する。 事前学修 2.0hr：参考資料等で R によるプログラムの解説を読む。 事後学修 2.0hr：演習課題について R でのプログラムを実行する。
10 回	授業テーマ：WACC ① 授業内容：資本コストの考え方、具体的な算定方法について学修する。 事前学修 2.0hr：キーワードについて調べておく。 事後学修 2.0hr：参考資料等を用いて知識の整理を行う。
11 回	授業テーマ：WACC ②(演習・ディスカッション) 授業内容：PC を利用して、加重平均資本コストを算定した上で不動産投資判断を行う演習を実施する。 事前学修 2.0hr：参考資料等で R によるプログラムの解説を読む。 事後学修 2.0hr：演習課題について R でのプログラムを実行する。

12 回	授業テーマ：ヘドニック価格関数①(マンション価格) 授業内容：ヘドニック・アプローチの考え方について学修する。 事前学修 2.0hr：キーワードについて調べておく。 事後学修 2.0hr：参考資料等を用いて知識の整理を行う。
13 回	授業テーマ：ヘドニック価格関数②(マンション価格)(演習・ディスカッション) 授業内容：PC を利用して、取引データに基づく理論価格の算定方法について演習を通じて学修する。 事前学修 2.0hr：参考資料等で R によるプログラムの解説を読む。 事後学修 2.0hr：演習課題について R でのプログラムを実行する。
14 回	授業テーマ：ヘドニック地価関数①(商業地地価) 授業内容：関数型選択と説明変数選択の2つの視点から回帰モデルの定式化について学修する。 事前学修 2.0hr：キーワードについて調べておく。 事後学修 2.0hr：参考資料等を用いて知識の整理を行う。
15 回	授業テーマ：ヘドニック地価関数②(商業地地価)(演習・ディスカッション) 授業内容：PC を利用して、対数線型モデルの性質とその利点について演習を通じて学修する。 事前学修 2.0hr：参考資料等で R によるプログラムの解説を読む。 事後学修 2.0hr：演習課題について R でのプログラムを実行する。

アセットマネジメント特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：後

小林 誠 (こばやし まこと)

■ 授業の概要

不動産&不動産以外の資産と金融が融合した「証券化」の発展に必要な不可欠な機能を果たしている「アセットマネジメント業務」、特に「不動産アセットマネジメント業務」について、ケーススタディを通じて、現役の金融実務家の観点から明らかにしていく。

そもそも金融(=お金を融通する)とは何か？ 証券化とは何か？ 証券化対象となる不動産とは何か？ 不動産証券化の仕組み・ストラクチャーとは？ どのようなプレーヤーによってストラクチャーが組成されているか？ など、金融や不動産証券化の基礎について整理をする前期開講予定の「不動産金融特論」で習得した基礎知識を屈指して、ケーススタディを展開していく。

ディスカッションを中心とした講義となることから、当該ディスカッションや適宜宿題として出す課題を通じて、より理解を深めていきたい。

■ 到達目標

一般目標：ケーススタディを通じて、不動産アセットマネジメント業務、レンダープレーヤーやエクイティプレーヤーを疑似体験することで、不動産証券化の専門家と実務的なディスカッションができるようになることを目標とする。

また、前期開講予定の「不動産金融特論」で習得した基礎知識を、実務に繋げていくことを目標とする。

個別目標：受講者自身の個別の研究テーマと不動産ファイナンスの仕組みとを関連付けて第三者と議論をしたり、専門用語の使い方を理解して論文に挿入をしたりすることができるようになる。

■ 履修条件

本講座は、前期に開講する「不動産金融特論」の応用編と位置付けられ、ケーススタディ・ディスカッションを中心とした授業を展開していくことから、「不動産金融特論」を履修していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

講義への出席率、講義の受講態度、課題への取組姿勢、講義中の発表や発言の際の説得力及び到達目標の達成度に基づき総合的に評価する。

また、原則として5分の4以上の出席を評価の前提条件とする。

■ フィードバック方法

課題等へのフィードバックは、講義時間内、学修支援システム manaba 等を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(様々な論点についてのディスカッションも交えながら進めていきます。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

なし

■ 教科書

特になし(講義の進行に合わせてオリジナルレジメを配布する)

■ 参考書

最新「不動産ファンドがよ〜くわかる本」(第2版) 脇本和也著 出版社：秀和システム

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、アセットマネジメントとは何か？ 授業内容：アセットマネジメントとは何か？ 特に不動産アセットマネジメントとは何か？ 等、アセットマネジメント業務の基礎を整理していきます。 事前学修 2.0hr：講義概要を読んで、本講義に期待する内容を考えておく。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
2 回	授業テーマ：ファンドとは？ 投資信託とは？ ファンドマネジメントとは何か？ 授業内容：アセットマネジメントの対象となるファンドや投資信託とは？、ファンドマネジメントとは何か？ について整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
3 回	授業テーマ：「アセットマネジメント」「ファンドマネジメント」にかかる基礎的なリスク管理 授業内容：アセットマネジメントやファンドマネジメントを展開する際の基礎的なリスク管理の考え方について整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
4 回	授業テーマ：ケーススタディ～オフィス 授業内容：オフィスビルの証券化・アセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
5 回	授業テーマ：ケーススタディ～レジデンシャル 授業内容：レジデンシャルの証券化・アセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
6 回	授業テーマ：ケーススタディ～物流倉庫 授業内容：物流倉庫の証券化・アセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
7 回	授業テーマ：不動産の価格と価値～事業用不動産の Value と Price、賃料負担能力 授業内容：ホテル、商業施設、ヘルスケア等の事業用不動産のケーススタディを行う前提となる、事業用不動産の Value と Price、重要概念である「賃料負担能力」等について整理をしていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
8 回	授業テーマ：ケーススタディ～ショッピングモール、商業施設 授業内容：ショッピングモール等の大型商業施設の証券化・アセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
9 回	授業テーマ：ケーススタディ～ホテル①(ビジネスホテル、シティホテル) 授業内容：ビジネスホテル、シティホテルの証券化・アセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。

10 回	授業テーマ：ケーススタディ～ホテル②(リゾートホテル・ラグジュアリーホテル) 授業内容：リゾートホテル・ラグジュアリーホテルの証券化・アセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
11 回	授業テーマ：ケーススタディ～ヘルスケア 授業内容：有料老人ホーム等のヘルスケア施設の証券化・アセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
12 回	授業テーマ：ケーススタディ～開発型証券化 授業内容：開発案件にかかる証券化・アセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
13 回	授業テーマ：ケーススタディ～上場 J-REIT、私募 J-REIT 授業内容：不動産証券化ストラクチャーの最上位に位置付けられる J-REIT(ジェイ・リート)の内、上場 J-REIT について、私募 J-REIT と比較しつつ、投資家・ファンドマネージャーの銘柄選定の観点も加味しながら、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
14 回	授業テーマ：ケーススタディ～不動産 ST 授業内容：不動産 ST (セキュリティ・トークン)のアセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。
15 回	授業テーマ：ケーススタディ～不動産以外の金融商品のアセットマネジメント、講義全体のまとめと振り返り 授業内容：不動産以外の金融商品のアセットマネジメント業務について、ケーススタディを行っていきます。さらに第 1 回～第 14 回の講義を振り返り、総括をします。 事前学修 2.0hr：教科書の関連箇所(講師が範囲を指定する)を読んで、授業内容を確認する。 事後学修 2.0hr：講義の復習をしっかりと行い、宿題(もしあれば)に取り組む。

都市空間データ処理特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：後

斎藤 千尋 (さいとう ちひろ)

■ 授業の概要

市街地の地図情報の中、建物、道路の図形情報は、都市空間の状況を伝える重要な情報である。また都市空間情報の主題図の背景として、様々な活用が行われている。本授業では、都市空間の情報として建物、道路に関する地図の情報処理を扱う。ここで学ぶ内容は、①国土地理院が公開している基盤地図情報をラスターデータ(二次元セル空間)に変換すること、②ラスターデータによる建物、道路データ上で距離を計測すること、③建物、道路の空間的な状況を指標化することである。これらの学修から都市空間の建物集合の特徴を定量的に、視覚的に表現する能力を身につけることを目標とする。本年度は、JavaScript 言語を利用する。また、AI による開発も援用する。

■ 到達目標

- 一般目標：公開されている地理情報データを活用できるようになること。
都市空間に関する情報を的確に地図上に表現できるようになること。
- 個別目標：基盤地図情報のデータフォーマットを理解すること。
都市空間の要素のラスターデータ化と、距離を計測するアルゴリズムを理解し活用できるようになること。
建物の配置の形態的な指標を算出し活用できるようになること。
街区、街路網の形態的な指標を算出し活用できるようになること。
AI を援用して意図する処理を開発すること。

■ 履修条件

プログラム言語の学習に興味を持ち、都市計画または建築設計の科目の学習経験があることが望ましい。
(本授業は隔年開講である)

■ 評価基準・方法

ラスターデータによる空間分析のプログラミングの演習(25%)、建物配置、街区・街路網の構成の分析の演習(25%)、これらのプログラムを活用した地区空間の分析のレポート課題(50%)で評価する。

■ フィードバック方法

提出物については教室でフィードバックを行うが、manaba による時間外の質疑応答も積極的に利用する。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(パソコンによるプログラミング、データ分析・可視化)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(同上)

■ 教科書

授業中に JavaScript 言語に関する教材、空間データ処理に関する教材を配布する。

■ 参考書

JavaScript 言語の入門書を用意しておくこと良い(母語で書かれた入門書でよい)。
貞広幸雄・山田育穂・石井儀光「空間解析入門 都市を測る・都市がわかる」朝倉書店 2018
青木 樂・國見 幸加他 p5.js で学ぶ JavaScript 入門 インプレス 2024
Casey Reas・Ben Fry Processing をはじめよう 第2版 2016

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：都市空間の分析、データ処理の概要 授業内容：この授業で取り上げる都市空間の範囲と用いる空間データを解説する。授業で用いるプログラムの開発環境、実行環境を準備する。簡単なプログラムの作成と実行を行う。 事前学修 0.5hr：講義概要を読んでおくこと。 事後学修 2.0hr：プログラムの実行方法を復習しておくこと。
2 回	授業テーマ：セルによる建物、道路のデータ化と描画 授業内容：空間データを表現、描画する方法としてベクトルデータによる方法、ラスターデータによる方法を解説し、簡単なプログラムで学修したことを確認する。 事前学修 2.0hr：変数、演算子、式について予習しておくこと。配列変数の予習をしておくこと。 事後学修 2.0hr：オブジェクトについて復習しておくこと。
3 回	授業テーマ：配列、繰り返し処理、条件分岐 授業内容：空間データを記憶するための配列について学ぶ。また繰り返し処理として for 文、条件分岐として if 文を学ぶ。二次元の配列によるラスターデータの記憶を学ぶ。 事前学修 2.0hr：if 文、for 文について予習しておくこと。 事後学修 2.0hr：繰り返し処理、条件分岐の演習問題に取り組むこと。
4 回	授業テーマ：二次元セル空間における図形面積、周長の計測 授業内容：空間データの分析の出発点として、ラスターデータの図形の面積の計算、周長の計算を学ぶ。 事前学修 2.0hr：ラスターデータ、for 文の復習をしておくこと。 事後学修 2.0hr：周長の計測の演習問題に取り組むこと。
5 回	授業テーマ：オブジェクト 授業内容：オブジェクトの機能もちいて、様々な空間データをまとめて扱う方法を学ぶ。 事前学修 2.0hr：変数の宣言、配列の宣言を復習しておくこと。 事後学修 2.0hr：オブジェクトの宣言、生成の演習問題に取り組むこと。
6 回	授業テーマ：データ構造 キュー、スタック、プライオリティキュー 授業内容：ラスターデータ上の最短経路探索を学ぶ準備としてキュー、スタック、プライオリティキューのデータ構造を学ぶ。 事前学修 2.0hr：オブジェクトの復習をしておくこと。 事後学修 2.0hr：データの並べ替えの演習に取り組むこと。
7 回	授業テーマ：データ構造 グラフデータ 授業内容：グラフデータの記憶方法を学び、ラスターデータ上の経路の表現に応用する。 事前学修 2.0hr：配列、オブジェクトの復習をしておくこと。 事後学修 2.0hr：最短経路の探索の演習問題に取り組むこと。
8 回	授業テーマ：二次元セル空間の最短経路の探索 授業内容：ラスターデータをグラフデータ化し、ダイクストラ法により最短経路探索を行う。 事前学修 2.0hr：ダイクストラ法による最短経路の探索の復習をしておくこと。 事後学修 2.0hr：二次元セル空間の最短経路の探索の演習問題に取り組むこと。

9 回	授業テーマ：基盤地図情報 授業内容：国土地理院が公開する基盤地図情報について XML 形式でまとめられた図形のフォーマット、座標などについて解説する。また基盤地図情報からラスター形式の空間データを作成する。 事前学修 2.0hr：基盤地図情報のサイトで基盤地図情報の予習をしておくこと。 事後学修 2.0hr：基盤地図情報のラスター化の演習問題に取り組むこと。
10 回	授業テーマ：二次元セル空間のバッファ図形、ボロノイ領域 授業内容：空間データの分析でよく用いられるバッファ図形をラスターデータで作成すること、またバッファ図形の作成プログラムを応用してボロノイ領域の作成を行う。 事前学修 2.0hr：二次元セル空間の最短経路の探索の復習をしておくこと。 事後学修 2.0hr：バッファ図形の演習問題に取り組むこと。
11 回	授業テーマ：二次元セル空間の可視範囲の探索 授業内容：ラスターデータ上の図形が作り出す陰の領域をよけた最短経路探索による可視範囲の探索を学ぶ。 事前学修 2.0hr：二次元セル空間の最短経路の探索の復習をしておくこと。 事後学修 2.0hr：基盤地図情報を用いた可視範囲の演習問題に取り組むこと。
12 回	授業テーマ：都市空間の分析：建物の隣棟関係 授業内容：ラスターデータ上の図形の近接関係を特定するアルゴリズムにより、建物の隣棟関係、隣棟間隔を求める方法を学ぶ。 事前学修 2.0hr：二次元セル空間のバッファ図形の作成、可視範囲の探索を復習しておくこと。 事後学修 2.0hr：基盤地図情報を用いた演習問題に取り組むこと。
13 回	授業テーマ：都市空間の分析：空地のまとまりと空地の見通し 授業内容：可視範囲における最近点と最遠点の大きさから、ラスターデータの空間部分のまとまり、見通しを量的に表現することを学ぶ。 事前学修 2.0hr：二次元セル空間の可視範囲を復習しておくこと。 事後学修 2.0hr：基盤地図情報を用いた演習問題に取り組むこと。
14 回	授業テーマ：都市空間の分析：迂回率と街区の構成 授業内容：2点間の距離は直線距離と経路距離で表すことができる。この比率が迂回率である。迂回率の算出、迂回率による街区集合、街路網の特徴の定量的な表現方法を学ぶ。 事前学修 2.0hr：二次元セル空間の最短経路の探索の復習をしておくこと。 事後学修 3.0hr：基盤地図情報を用いた演習問題に取り組むこと。
15 回	授業テーマ：建物配置モデル・街区形成のシミュレーション 授業内容：授業で学んだ空間データの分析方法を応用した建物配置に関するモデルとシミュレーションを紹介する。 事前学修 2.5hr：指示された文献を読んでおくこと。 事後学修 2.0hr：レポート課題に取り組むこと。

不動産公法特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

兼重 賢太郎 (かねしげ けんたろう)

■ 授業の概要

不動産に関連する行政法は多岐にわたる。本講義では、行政法制度の背後にある考え方や法理論等を、判例や関連文献を読み解きながら、明らかにしていく。なお、受講者には、毎回、レジュメを作成し、報告してもらう。このレジュメ・報告をもとに、全員で討議する形で講義を進める。

■ 到達目標

一般目標：様々な行政法制度の背後にある考え方、法理論等が理解できるようになることを、本講義の一般目標とする。

個別目標：行政法の基本構造を説明できるようになること、判例や文献を読み込んだ上で的確に要点をまとめることができるようになること、論理的に議論できるようになることを、本講義の個別目標とする。

■ 履修条件

学部時代に、法律系の科目を履修済みであることが望ましい。また、毎回レジュメを作成・報告してもらうため、受講者の積極的な参加が求められる。

■ 評価基準・方法

作成されたレジュメの質、討議への参加状況、講義への取り組み姿勢等を総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、授業内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（毎回、全員で議論する。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし

■ 教科書

大橋真由美・北島周作・野口貴公美(2024 年)『行政法 判例 50 [第 2 版]』有斐閣。

■ 参考書

『行政判例百選 I・II [第 8 版]』。『精読行政法判例』(弘文堂、2023 年)。

その他、講義の中で、適宜、指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス、行政法の基本的な考え方 授業内容：講義全体の進め方を確認するとともに、行政法の基本的な考え方について考察する。 事前学修 1.0hr：教科書の目次と使い方を读んだうえで、不明な点を整理しておくこと。 事後学修 3.0hr：講義を踏まえ、行政法の基本的な考え方を自分なりに再整理すること。
2 回	授業テーマ：法律による行政の原理 授業内容：法律による行政の原理に関する判例として有名な「浦安ヨット事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
3 回	授業テーマ：行政行為 授業内容：行政行為の取消請求事件として「新宿たぬきの森事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
4 回	授業テーマ：行政裁量 授業内容：行政裁量が争点となった裁判例として「伊方原発訴訟」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
5 回	授業テーマ：行政立法・行政基準 授業内容：行政通達が生争点となった裁判例として「ケンコーコム事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
6 回	授業テーマ：行政計画 授業内容：都市計画に関する裁判例として「林試の森事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
7 回	授業テーマ：行政契約・行政調査 授業内容：行政と私人との協定に関する裁判例として「公害防止協定事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
8 回	授業テーマ：行政指導 授業内容：行政指導の任意性が問題となった裁判例として「品川マンション事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
9 回	授業テーマ：行政上の義務履行確保 授業内容：行政上の義務履行確保が問題となった裁判例として「宝塚パチンコ規制事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
10 回	授業テーマ：行政手続 授業内容：行政手続の違法性が問題となった裁判例として「一級建築士免許取消事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。

11 回	授業テーマ：取消訴訟(1)：処分性 授業内容：都市計画事業計画の処分性が問題となった裁判例として「浜松土地区画整理事業事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
12 回	授業テーマ：取消訴訟(2)：原告適格 授業内容：周辺住民等の第三者の原告適格が問題となった裁判例として「小田急訴訟」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
13 回	授業テーマ：取消訴訟(3)：訴えの利益 授業内容：訴えの利益の有無が問題となった裁判例として「建築確認取消訴訟」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
14 回	授業テーマ：国家賠償 授業内容：宅建業者への知事の免許付与・監督権限などが問題となった裁判例として「宅建業法事件」を取り上げ、その法的論点、裁判所の考え方、学説などについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示した教科書の該当箇所を読み、レジュメを作成すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、関連文献・判例等を調査し、レジュメをブラッシュアップすること。
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：講義全体を振り返り、まとめをおこなう。 事前学修 2.0hr：これまで作成したレジュメ等をふりかえり、疑問点および自分自身の到達レベル等を確認・整理すること。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、全体を復習すること。

建築計画特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

藤木 亮介 (ふじき りょうすけ)

■ 授業の概要

本講義では、不動産学の側面から建築計画について学びます。建築物は建てられた瞬間から不動産になり、長期にわたって利用されます。したがって、不動産学領域における建築に関わる計画としては、新築に関わる計画のみならず、建築物の維持管理に関わる計画、建築物の再生に関わる計画も含まれ、それぞれのフェーズで、所有・利用・修繕・管理・コストを踏まえた検討が必要になります。本講義では主に既存建築物に焦点を当て、コストを踏まえた維持管理・再生に関わる計画について学修します。

■ 到達目標

一般目標：建築物の生涯を通じた利用・管理・保全に関わる計画を立案するための知識を修得する。

個別目標：・建築物の劣化の要因と修繕・再生の方法を説明できる。

・建築物の長期利用を見据えた修繕・再生に関わる計画を立案できる。

■ 履修条件

建築基準法、都市計画法、区分所有法(建物の区分所有等に関する法律)の基礎的知識を有していること。

■ 評価基準・方法

授業への取り組み姿勢・積極性(50%)、課題(50%)に基づき総合的に評価する。

■ フィードバック方法

事前学修のフィードバックは指導時間内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッション、プレゼンテーション)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(エクセルを用いてデータを整理する。ワードを用いてレポート・報告書などを執筆する。パワーポイントを用いてプレゼン資料を作成する。)

■ 教科書

特になし。

■ 参考書

必要に応じて紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業のすすめ方、評価の方法、出欠席の取り方、スケジュール、全体構成について説明する。 事前学修 2.0hr：シラバスを読んで授業の取り組み方を確認する。 事後学修 2.0hr：関心のある既存建築物について、維持管理に関する基本的な情報を収集する。
2 回	授業テーマ：公団分譲の階段室型団地型マンション 授業内容：公営住宅標準設計 51C 型を踏まえ、日本住宅公団から分譲された団地型マンションについて考察する。 事前学修 2.0hr：公営住宅標準設計 51C 型について調べる。 事後学修 2.0hr：日本住宅公団から分譲された団地型マンションについて調べる。
3 回	授業テーマ：マンションの大規模修繕 授業内容：マンションで行われる大規模修繕工事の計画手法と課題について学修する。 事前学修 2.0hr：マンションの大規模修繕工事の事例について調べる。 事後学修 2.0hr：マンションで行われる大規模修繕工事の課題について情報を整理する。
4 回	授業テーマ：マンションの給排水設備改修 授業内容：マンションで行われる給排水設備改修工事の計画手法と課題について学修する。 事前学修 2.0hr：マンショで行われる給排水設備改修工事の事例について調べる。 事後学修 2.0hr：専有部分の給排水設備改修工事について情報を整理する。
5 回	授業テーマ：建築基準法の改正と耐震改修 授業内容：構造規定に関わる建築基準法改正の変遷と鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修計画について学修する。 事前学修 2.0hr：1981 年の建築基準法改正の内容を調べる。 事後学修 2.0hr：マンションで行われる耐震改修の課題について情報を整理する。
6 回	授業テーマ：建物の省エネルギー化と断熱改修 授業内容：鉄筋コンクリート造建築物の断熱改修計画について学修する。 事前学修 2.0hr：マンショで行われる断熱改修事例について調べる。 事後学修 2.0hr：マンショで行われる断熱改修の課題について情報を整理する。
7 回	授業テーマ：既存建築物の再生事例に関する課題-1 授業内容：高経年化した既存建築物の再生事例について、その手法・利用・管理の特徴を整理し、意義や課題について考察する。 事前学修 2.0hr：既存建築物の再生事例について調べる。 事後学修 2.0hr：授業であつかった再生事例の事業実施手法について情報を整理する。
8 回	授業テーマ：既存建築物の再生事例に関する課題-2 授業内容：高経年化した既存建築物の再生事例について、その手法・利用・管理の特徴を整理し、意義や課題について考察する。 事前学修 2.0hr：既存建築物の再生事例について調べる。 事後学修 2.0hr：授業であつかった再生事例の事業実施手法について情報を整理する。
9 回	授業テーマ：建物の劣化と計画修繕 授業内容：建物の劣化の要因とその対処方法、ならびに計画修繕の概念について学修する。 事前学修 2.0hr：計画修繕について調べる。 事後学修 2.0hr：計画修繕と経常修繕の考え方について授業を復習する。
10 回	授業テーマ：マンションの長期修繕計画 授業内容：マンションの長期修繕計画標準様式・作成ガイドラインについて学修する。 事前学修 2.0hr：マンション長期修繕計画標準様式・作成ガイドライン(国土交通省)について調べる。 事後学修 2.0hr：マンション長期修繕計画標準様式・再生ガイドラインの改正の変遷を整理する。
11 回	授業テーマ：マンションの長期マネジメント計画 授業内容：マンションの管理を踏まえた超長期のマネジメント計画について学修する。 事前学修 2.0hr：マンションの長期マネジメント計画(公益財団法人マンション管理センター)について調べる。 事後学修 2.0hr：マンションの長期マネジメント計画の課題について情報を整理する。

12 回	<p>授業テーマ：マンションの超長期修繕計画</p> <p>授業内容：マンションの終末(建替え・再生)を見据えた超長期の修繕計画について学修する。</p> <p>事前学修 2.0hr：超長期修繕計画に関わる既往研究を調べる。</p> <p>事後学修 2.0hr：マンションの超長期修繕計画の課題について情報を整理する。</p>
13 回	<p>授業テーマ：マンションの再生計画</p> <p>授業内容：合意形成・費用を踏まえたマンションの再生計画について学修する。</p> <p>事前学修 2.0hr：区分所有法 17 条「共用部分の変更」について、事前に理解しておく。</p> <p>事後学修 2.0hr：区分所有法 17 条「共用部分の変更」と再生工事の関係性について情報を整理する。</p>
14 回	<p>授業テーマ：区分所有法の建物の更新</p> <p>授業内容：2025 年区分所有法の改正で定義された「建物の更新」について、その概要と課題を学修する。</p> <p>事前学修 2.0hr：区分所有法で規定する「建物の更新」について調べる。</p> <p>事後学修 2.0hr：「建物の更新」の課題について情報を整理する。</p>
15 回	<p>授業テーマ：まとめ</p> <p>授業内容：授業全体を振り返り、建物の生涯を通じた建築計画に関わる課題を考察する。</p> <p>事前学修 2.0hr：授業全体を振り返り、各授業回の要旨をまとめる。</p> <p>事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、自分の意見をまとめる。</p>

不動産政策特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

小林 正典 (こばやし まさのり)

■ 授業の概要

この科目では、履修者が修了後に企業、NPO、自治体等の組織での不動産政策の企画・立案・調整や不動産ビジネスの経営を先導する際に必要となる課題認識力、リーダーシップ等のスキルを総合的に養います。具体的には、講師が不動産政策実務での改革を担った中央政府、地方自治体、財団、地域活動での不動産政策の企画・立案の経験、不動産政策分野の事例研究に基づき、都市開発関連の政策、不動産流通政策、不動産管理政策、不動産取引法務、不動産経済分析、不動産再生政策、国際不動産政策等の不動産政策関連の実務の実態と課題、不動産ビジネスの展開に必要な知識・ノウハウを提供します。

■ 到達目標

一般目標：この科目の履修者は、不動産開発・不動産流通市場の活性化に向けた合意形成・意思決定の本質とその方法論、不動産取引で必要とされる社会と消費者に対する洞察力、不動産を巡る法的課題など不動産市場における政策課題の理解力・解決力、不動産市場の実態・将来予測をデータを活用して把握できる分析力、グローバル化する不動産市場における新たな不動産ビジネスを展開する実行力を養うことができることを目標としております。

個別目標：この科目の履修者は、講師が提供する事例の研究、複数の不動産政策の実務家、不動産経営者などのゲストスピーカーとの対話を通じて、不動産市場の最前線における不動産政策の展開の実態を具体的に理解できるような機会を設けます。また、講義中のみならず、講義の前後も講師と随時、質疑応答、意見交換を行い、履修者の理解が深められるように、講師と履修者とのコミュニケーションを重視します。

■ 履修条件

この科目の履修条件は特にありません。不動産政策の基礎的な知識や経験がなくても、この科目の履修を通じて、不動産政策の様々な分野(都市開発、不動産投資、不動産流通、不動産管理、不動産再生、国際不動産ビジネス等)の理解ができるように、教科書の購読をしていただくだけで履修可能です。なるべく多くの学生の皆さんの履修を歓迎します。

■ 評価基準・方法

履修者の授業における発言の機会・内容、グループワークへの貢献、ミニレポート、中間・最終レポート等を総合して、成績評価を行います。なるべく積極的な授業への参加を期待しております。

■ フィードバック方法

アクティブラーニングの一手法である反転授業をベースとします。講義の前に、課題を動画(20-30分程度のもの)やファイルで Google Classroom にアップロードし、受講生は予習として授業前に動画やファイルを視聴・チェックしていただきます。授業内では、毎回の授業テーマとなる問題を事前に提起した内容について、意見交換する機会も設けたいと思います。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(動画またはファイルを Google Classroom にアップロードする。受講生は予習として授業前に動画・ファイルを確認し、毎回の授業テーマとなる問題を動画・ファイルにて提起し、インタラクティブな講義を意識する。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(授業スライドに QR コードを付し、Google Form 等を使って学生の意見を集める。動画・ファイルの問いや Form への回答について対話する。)

■ 教科書

①不動産政策研究・総論「不動産政策概論」東洋経済新報社、②不動産政策研究・各論 I「不動産取引法務」東洋経済新報社、③不動産政策研究・各論 II「不動産経済分析」東洋経済新報社、④不動産政策研究・各論 III「不動産再生政策」東洋経済新報社、⑤不動産政策研究・各論 IV「国際不動産政策」東洋経済新報社、⑥ Transnational Private Regulations for Sustainable Urban Development, Springer、⑦「不動産ビジネスの課題と未来」東洋経済新報社 (ISBN: 978-4-492-76269-1)、⑧「都市経営論-持続可能な都市マネジメント」(ISBN: 978-4-621-31103-5)丸善出版、⑨「公共政策学-理論と政策デザインの実践」(ISBN: 978-4-621-31125-7)丸善出版(⑦~⑨は今夏に出版予定)

■ 参考書

①「世界の空き家対策」学芸出版社、②「既存住宅市場の活性化」東洋経済新報社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：不動産政策特論の全体像 授業内容：不動産政策の体系、過去から今日までの不動産政策の展開の経緯、近年の不動産市場における政策課題、本科目の全体像について、分かりやすく解説する。 事前学修 2.0hr：私が考える不動産政策とは、私が展開する不動産政策とは、ということを実前に考える。 事後学修 2.0hr：不動産政策研究・総論「不動産政策概論」から、興味のあるテーマ・章を選んで、どんなことを考えたか、今後、どんな研究をしたいのか、ミニレポートを書く。
2 回	授業テーマ：不動産開発政策の展開 授業内容：都市開発、都市再生など不動産開発政策に関する現状・課題について解説し、今後の不動産開発政策の方向性について議論する。 事前学修 2.0hr：最近の不動産開発事例について情報収集し、どのような影響・効果があるかを考える。 事後学修 2.0hr：これからの不動産開発の課題・あり方について考えて、ミニレポートを書く。
3 回	授業テーマ：不動産投資政策の展開 授業内容：不動産投資市場の現状について解説し、不動産投資政策の取組や今後の方向性について議論する。 事前学修 2.0hr：不動産投資に関する情報収集を行い、不動産投資市場の課題について考える。 事後学修 2.0hr：不動産投資市場の活性化に向けて、どのような取組・政策が必要となるかを考えて、ミニレポートを書く。
4 回	授業テーマ：不動産流通政策の展開 授業内容：既存住宅市場の現状・課題、既存住宅市場の活性化、不動産流通システムの整備に関する政策の最新動向を解説し、不動産流通市場の現場の課題を解決するための今後の不動産流通政策について議論する。 事前学修 2.0hr：「既存住宅市場の活性化」(東洋経済新報社)を実前に読む。 事後学修 2.0hr：「既存住宅市場の活性化」(東洋経済新報社)から、興味のあるテーマ・章を選んで、どんなことを考えたか、ミニレポートを書く。
5 回	授業テーマ：不動産取引法務の課題 授業内容：宅地建物取引業法に基づく不動産取引の安全確保、不動産流通市場の活性化に向けて、不動産事業者と消費者(売主と買主、貸主と借主等)との合意形成と法的課題に関する最新の市場の動向・判例等を解説し、対応策について議論する。 事前学修 2.0hr：不動産政策研究・各論 I「不動産取引法務」を実前に読む。 事後学修 2.0hr：不動産政策研究・各論 I「不動産取引法務」から、興味のあるテーマ・章を選んで、どんなことを考えたか、ミニレポートを書く。
6 回	授業テーマ：住宅政策の展開 授業内容：空き家対策、マンション建て替え促進等の住宅政策の近年の取組みを解説しながら、国際比較の観点から、今後の我が国における空き家対策を中心とした住宅政策を議論する。 事前学修 2.0hr：「世界の空き家対策」(学芸出版社)を実前に読む。 事後学修 2.0hr：「世界の空き家対策」(学芸出版社)から、興味のあるテーマ・章を選んで、どんなことを考えたか、ミニレポートを書く。

7 回	<p>授業テーマ：不動産経済分析の展開 授業内容：不動産市場の透明性の向上、データを活用した不動産市場の経済分析手法の研究について解説し、不動産市場の経済分析研究を今後さらに充実していくための政策を議論する。 事前学修 2.0hr：不動産政策研究・各論 II 「不動産経済分析」を事前に読む。 事後学修 2.0hr：不動産政策研究・各論 II 「不動産経済分析」から、興味のあるテーマ・章を選んで、どんなことを考えたか、ミニレポートを書く。</p>
8 回	<p>授業テーマ：環境不動産の潮流 授業内容：環境不動産の普及、ESG 投資、環境不動産市場の現状について解説し、不動産市場における環境政策の取組や今後の方向性について議論する。 事前学修 2.0hr：不動産市場における環境政策について情報収集し、環境不動産とは何かを考える。 事後学修 2.0hr：環境不動産だと思われる事例・政策を選び、環境不動産が市場に与える影響・効果について考えて、ミニレポートを書く。</p>
9 回	<p>授業テーマ：不動産管理政策の展開 授業内容：民間賃貸住宅管理・マンションの管理など不動産管理市場の現状について解説し、不動産管理政策の取組や今後の方向性について議論する。 事前学修 2.0hr：不動産管理に関する官民における取組を情報収集し、今後の政策課題を考える。 事後学修 2.0hr：不動産管理市場を確立し、社会的な課題解決につなげる方策を考えて、ミニレポートを書く。</p>
10 回	<p>授業テーマ：不動産再生政策の展開 授業内容：官民連携・協働による不動産ストックを活かした不動産再生市場の現状について解説し、不動産再生政策の取組や今後の方向性について議論する。 事前学修 2.0hr：不動産政策研究・各論 III 「不動産再生政策」を事前に読む。 事後学修 2.0hr：不動産政策研究・各論 III 「不動産再生政策」から、興味のあるテーマ・章を選んで、どんなことを考えたか、ミニレポートを書く。</p>
11 回	<p>授業テーマ：官民連携政策の展開 授業内容：国内における官民連携事業 (PPP/PFI) や官民連携まちづくり政策を解説し、不動産政策として関わる今後のあるべき官民連携政策について議論する。 事前学修 2.0hr：官民連携事業 (PPP/PFI) について情報収集し、官民連携事業の成功のポイントを考える。 事後学修 2.0hr：官民連携事業 (PPP/PFI) の成功事例を選び、どのようなことが成功の要因・効果と言えるかを考えて、ミニレポートを書く。</p>
12 回	<p>授業テーマ：スマートシティ政策の動向 授業内容：国内におけるスマートシティ政策を解説し、国内外のスマートシティ政策、不動産政策として関わる今後のあるべきスマートシティ政策について議論する。 事前学修 2.0hr：国内外のスマートシティに関する情報収集を行い、スマートシティを成功するための政策を考える。 事後学修 2.0hr：どのようなスマートシティが成功と言えるかを考えて、国内外の成功と言えるスマートシティの事例を選び、ミニレポートを書く。</p>
13 回	<p>授業テーマ：国際不動産政策の展開 授業内容：海外不動産取引制度の把握と国際化時代における不動産市場の実態と課題について解説し、今後の国際不動産政策のあり方について議論する。 事前学修 2.0hr：不動産政策研究・各論 IV 「国際不動産政策」、Transnational Private Regulations for Sustainable Urban Development, Springer を事前に読む。 事後学修 2.0hr：不動産政策研究・各論 IV 「国際不動産政策」、Transnational Private Regulations for Sustainable Urban Development, Springer から、興味のあるテーマ・章を選んで、どんなことを考えたか、ミニレポートを書く。</p>
14 回	<p>授業テーマ：不動産政策テーマ別グループワーク 授業内容：事前に提示するグループワークのテーマについて解説し、その後、各自が選択したテーマごとに分かれて、自分のグループメンバー・パートナーと次回の発表に向けてプレゼン資料の議論・作成を行う。 事前学修 2.0hr：グループワークのテーマについて情報収集を行う。 事後学修 2.0hr：各グループに分かれて、グループワークを進める。</p>
15 回	<p>授業テーマ：不動産政策特論のまとめ 授業内容：各グループからのグループワークの発表、講師からのコメントを行い、最後に、不動産政策特論の全体のまとめ、これからの不動産政策研究のあり方・方向性について解説・議論する。 事前学修 2.0hr：各チーム・パートナーとのプレゼン資料を準備する。 事後学修 2.0hr：グループワークを振り返りつつ、最終レポートの作成・提出を行う。</p>

不動産取引法特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

浜島 裕美 (はまじま ひろみ)

■ 授業の概要

不動産の取引に際して関連する様々な法制度について、判例や論文などを題材に、参加者で討論を行う。不動産取引が安全かつ円滑に行われるためには、どのような法制度が必要なのか、また、現況の問題点は何か、より効果的な解決策はないか、など、多角的に議論を行う。

なお、テーマは履修者により選定してもらうため、ここでの記載は過年度のものである。

■ 到達目標

一般目標：不動産取引に関しては、さまざまな分野の法律が絡んでくるため、法制度の大枠を把握した上で、不動産取引を理解する能力を身につける。

個別目標：(1)法制度と法による規制とその目的、構造が理解できる。

(2)不動産取引に関連するさまざまな法制度の全体像を把握できる。

■ 履修条件

法律の基礎科目を履修済みであることが望ましい。履修していない場合は、学部の法律系授業を聴講することを奨める。

■ 評価基準・方法

毎回の質疑応答内容、作成されたレジュメの内容、ディベートの内容、ディベートのマナーにより評価する。

■ フィードバック方法

課題及び定期試験のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word ソフトを搭載したノートパソコンを必要に応じて持参すること）

■ 教科書

テーマによって適宜指示する。

■ 参考書

テーマによって適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

テーマは受講者からの希望や、不動産の時事的話題、新しい判例や提訴の話題や法改正などを扱う。

授業内容

今まで扱ったテーマの例

- (1) マンション関連法の改正
- (2) 相続不動産の売却と税
- (3) 人口減少と地方創生のまちづくり
- (4) 建物外観調査と AI
- (5) メガソーラー設置不許可裁判例
- (6) 不動産情報ライブラリ
- (7) マンション大規模修繕談合事件

など

事前学修

各自の、テーマに関する基礎知識と習熟度によるが、

毎回、3～5 h 程度の事前学修が必要である。

事前学修内容は指示するが、例として下記などである。

- (1) 資料の入手・読み込み
- (2) 概要レポート作成
- (3) 疑問・質問の抽出
- (4) 関連資料の調査

など

事後学修

各回のテーマと内容によるが、

毎回、3～5 h 程度の事後学修が必要である。

事後学修内容は指示するが、例として下記などである。

- ・まとめレポートの作成
- ・他の受講者のレポートとの比較
- ・ディベート内容の付加
- ・疑問・質問への回答の付加
- ・教員からの助言の付加
- ・関連資料による掘り下げ

など

都市空間マネジメント特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

前島 彩子 (まえしま あやこ)

■ 授業の概要

本講義では、都市のマネジメントのあり方について、ハードとソフトの双方から学びます。高齢化、空地・空き家、災害への脆弱性、インフラの老朽化などの課題に対して、国内外の先進的な試みを行っている諸都市を参考事例としながら、快適なあるいは居心地のよい都市空間がどのように形成され維持されているのかを考察します。また、身近な都市空間について調査し、マネジメントの方針提示を試みます。

身近な都市空間の参考例として、都心の中心業務地区、浦安市元町エリアの視察を予定しています。

■ 到達目標

一般目標：多様な地理的・歴史的な背景、社会的背景をもつ人々によって成り立っている都市空間の特性を分析し、マネジメントに関する理解を深める。
個別目標：都市空間の特性を整理・指摘できる。

都市空間の特性に応じたマネジメント手法の提案ができる。

■ 履修条件

なし

■ 評価基準・方法

授業参加度及び課題 50%、レポート 50%

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（現地視察、改善提案、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word、PowerPoint 等を搭載したノートパソコンを持参する。）

■ 教科書

なし

■ 参考書

開講時に案内する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業の概要を説明する。 事前学修 0.5hr：シラバスを読む 事後学修 3.5hr：関心のある都市について基本的な情報や背景を確認する
2 回	授業テーマ：世界の都市空間と日本の都市空間 授業内容：都市空間の基本的な捉え方をもとに、各地の都市空間の特徴について考える。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：授業内容の復習
3 回	授業テーマ：成長する都市空間の課題 授業内容：成長段階にある都市空間の特徴を整理し、課題について考える。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：授業内容の復習
4 回	授業テーマ：成熟した都市空間の課題<特徴> 授業内容：成熟段階にある都市空間の特徴を整理し、課題について考える。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：授業内容の復習
5 回	授業テーマ：成熟した都市空間の課題<対応> 授業内容：成熟段階にある都市空間の課題に対する先進的な対応事例について考える。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：授業内容の復習
6 回	授業テーマ：都市空間の調査方法 授業内容：都市空間の調査方法について学修する。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：授業内容の復習
7 回	授業テーマ：都市データの収集 授業内容：都市空間の特徴把握に関わるデータ、その収集方法について学修する。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：授業内容の復習
8 回	授業テーマ：都市データのまとめ 授業内容：都市空間の特徴把握に関わるデータ処理を試行する。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：授業内容の復習
9 回	授業テーマ：エリアマネジメント、再生 授業内容：都市空間の再生、エリアマネジメントの先行事例について学修する。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：授業内容の復習
10 回	授業テーマ：担い手 授業内容：都市空間の再生、エリアマネジメントの先行事例における、担い手のあり方を考える。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：授業内容の復習
11 回	授業テーマ：身近な都市空間を調べる<現地視察> 授業内容：身近な都市空間をフィールドワークをもとに調べ、特徴・課題を整理し、解決策の提案を行う。 調べ方の参考として、浦安エリアを対象に現地視察を行う。 事前学修 2.0hr：前回授業で指示した部分の予習 事後学修 2.0hr：各自が扱う対象地の検討

12 回	授業テーマ：身近な都市空間を調べる<課題抽出> 授業内容：現地視察をもとに、発見された課題について意見交換する。 事前学修 3.5hr：現地を視察する 事後学修 0.5hr：課題を補完するデータについて検討する。
13 回	授業テーマ：身近な都市空間を調べる<データ比較> 授業内容：発見された課題と補完したデータの関係性について意見交換する。 事前学修 3.5hr：関連データを収集する。 事後学修 0.5hr：修正点・補足箇所の整理
14 回	授業テーマ：身近な都市空間を調べる<解決策> 授業内容：調査対象の都市空間の課題に適した解決策について意見交換する。 事前学修 3.5hr：課題の解決案について考える。 事後学修 0.5hr：修正点・補足箇所の整理
15 回	授業テーマ：発表・修正 授業内容：調査結果に基づく具体都市の実態をレイアウトした資料(A3 サイズ)にまとめて報告し、意見交換する。 事前学修 3.5hr：レポート作成 事後学修 0.5hr：今後の課題、発展可能性を探る

不動産会計特論

開講学科等：不動産博前 | 2 単位 | 開講期：前

山本 卓 (やまもと たかし)

■ 授業の概要

最近、企業不動産戦略 (CRE) の重要性が浸透し、不動産研究においても無視できない状況となってきている。この背景には、不動産会計制度が国際的に進展してきていることが指摘できる。本講義では、このような時代的要請を踏まえ、会計・経営の視点から不動産を研究する方法論を学ぶ。なお、レポートについて進捗に応じて複数回発表してもらい、参加者の討議を踏まえ、充実した内容にする。

■ 到達目標

一般目標：不動産にかかる、経営、管理の知識を身につけ、不動産を効果的に経営、管理する提案能力を獲得する。

個別目標：本授業の個別目標は下記のとおりとなる。

- (1) 不動産会計の概観や歴史的展開を理解し、説明できる。
- (2) 会計・経営・不動産領域の学術文献のサーベイができる。
- (3) 会計データを活用した不動産領域における実証研究手法を理解し、それに基づき実際の分析ができる。
- (4) CRE をめぐる課題を指摘し、それを改善するための方策の提案をレポート及びプレゼンで行うことができる。

■ 履修条件

特にないが、会計・経営領域に関心があることが望ましい。

■ 評価基準・方法

小課題の提出状況 (60%) とレポート (40%) で評価を行う。

■ フィードバック方法

課題のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。希望に応じて面談でのフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (毎回課題等について発表してもらい、教員・学生間で質疑応答を行う。)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (課題作成やプレゼン等で、ワードやパワーポイントを使用する。)

■ 教科書

manaba を通じて事前に授業資料を提示する。

■ 参考書

須田一幸 (2000) 『財務会計の機能』 白桃書房

大日方隆 (2013) 『アドバンスト財務会計』 中央経済社

山本卓 (2009) 『財務情報と企業不動産分析』 創成社

山本卓 (2011) 『企業不動産の会計と環境』 創成社

山本卓 (2015) 『投資不動産会計と公正価値評価』 創成社

山本卓編著 (2017) 『グローバル社会と不動産価値』 創成社

山本卓編著 (2021) 『ストック型社会への企業不動産分析』 創成社

山本卓 (2025) 『企業不動産読本』 KEN 不動産研究

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：本授業の基本的な進め方やルールを周知する。ビジネス社会において不動産に係る会計制度や財務管理を学ぶ重要性を確認する。 事前学修 2.0hr：不動産会計分野における問題意識を整理する。 事後学修 2.0hr：自分の修士論文の内容との関係を把握・整理する。
2 回	授業テーマ：財務会計の機能 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「財務会計の機能」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：参考書 (須田 (2000)) 第 1 章、第 2 章を通読する。 事後学修 2.0hr：参考書 (須田 (2000)) 第 1 章、第 2 章を熟読し、理解に努める。
3 回	授業テーマ：実証会計研究の方法論 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「実証会計研究の方法論」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：参考書 (須田 (2000)) 第 3 章から第 7 章を通読する。 事後学修 2.5hr：参考書 (須田 (2000)) 第 3 章から第 7 章を熟読し、理解に努める。
4 回	授業テーマ：企業不動産戦略の研究動向 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「企業不動産戦略の研究動向」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：教科書第 1 章を通読する。 事後学修 2.5hr：教科書第 1 章を熟読し、理解に努める。
5 回	授業テーマ：不動産会計制度の概観 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「不動産会計制度の概観」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：参考書 (山本 (2011)) 第 1 章を通読する。 事後学修 2.5hr：参考書 (山本 (2011)) 第 1 章を熟読し、理解に努める。
6 回	授業テーマ：公正価値 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「公正価値」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：教科書第 2 章を通読する。 事後学修 2.5hr：教科書第 2 章を熟読し、理解に努める。
7 回	授業テーマ：コーポレートガバナンスと企業不動産 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「コーポレートガバナンスと企業不動産」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：教科書第 3 章を通読する。 事後学修 2.5hr：教科書第 3 章及び関連文献を熟読し、理解に努める。

8 回	<p>授業テーマ：固定資産再評価と経営行動 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「固定資産再評価と経営行動」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたくうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：参考書（山本（2009））第 5 章を通読する。 事後学修 2.5hr：参考書（山本（2009））第 5 章及び関連文献を熟読し、理解に努める。</p>
9 回	<p>授業テーマ：減損会計と経営行動 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「減損会計と経営行動」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたくうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：教科書第 4 章を通読する。 事後学修 2.5hr：教科書第 4 章及び関連文献を熟読し、理解に努める。</p>
10 回	<p>授業テーマ：投資不動産会計と経営行動 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「投資不動産会計と経営行動」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたくうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：教科書第 5 章を通読する。 事後学修 2.5hr：教科書第 5 章及び関連文献を熟読し、理解に努める。</p>
11 回	<p>授業テーマ：環境と企業不動産 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「環境と企業不動産」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたくうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：教科書第 6 章及び第 7 章を通読する。 事後学修 2.5hr：教科書第 6 章・第 7 章及び関連文献を熟読し、理解に努める。</p>
12 回	<p>授業テーマ：環境経営と企業不動産 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「環境経営と企業不動産」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたくうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：教科書第 8 章を通読する。 事後学修 2.5hr：教科書第 8 章及び関連文献を熟読し、理解に努める。</p>
13 回	<p>授業テーマ：証券市場と企業不動産 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「証券市場と企業不動産」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたくうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：事前配布論文を通読する。 事後学修 2.5hr：当該事前配布論文及び関連文献を熟読し、理解に努める。</p>
14 回	<p>授業テーマ：不動産会計における鑑定人の役割 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「不動産会計における鑑定人の役割」についての研究上の論点を講義する。それを踏まえたくうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 2.0hr：事前配布論文を通読する。 事後学修 2.5hr：当該事前配布論文及び関連文献を熟読し、理解に努める。</p>
15 回	<p>授業テーマ：レポート発表 授業内容：第 1 回から第 14 回までの基礎論点の振り返りを行い、理解を確実なものとする。さらに各自が取り組んできたテーマにかかるレポート発表を行ってもらい、それについて質疑をする。 事前学修 4.0hr：レポートの作成と発表の準備を行う。 事後学修 4.0hr：レポート作成を通して、自分の修士論文の内容との関係を考察・整理する。</p>

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：前

兼重 賢太郎 (かねしげ けんたろう)

■ 授業の概要

主に公法学・基礎法学分野に関わる文献(欧文文献を含む)や判例等を読み解きながら、受講者の修士論文のテーマ設定と修士論文作成の準備を行う。

■ 到達目標

一般目標：主に公法学分野や基礎法学分野などに関する近年の研究動向を踏まえ、受講者の修士論文のテーマが設定できることを一般目標とする。

個別目標：論文作成に必要な情報へのアクセスができること、欧文を含む文献や判例を読み込んだ上で的確に要約できること、論文を作成する際の作法が習得できることを、個別目標とする。

■ 履修条件

後期に、不動産公法特論を履修することが望ましい。

■ 評価基準・方法

演習への取り組み姿勢、指示した成果物によって、総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、演習の時間内をはじめ、随時行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(毎回、教員を交えて議論する。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(報告・発表のために PC を利用する。)

■ 教科書

必要に応じて、適宜、指示する。

■ 参考書

必要に応じて、適宜、指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：全体の進め方について確認するとともに、各自の研究テーマ・研究計画について、教員を交えて議論する。 事前学修 3.0hr：現時点での、受講生各自の研究テーマ・研究計画等をまとめること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、研究テーマ・研究計画等を見直すこと。
2 回	授業テーマ：公法学の基本的考え方 授業内容：教員が指示した文献の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：指示した文献等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
3 回	授業テーマ：基礎法学の基本的考え方 授業内容：教員が指示した文献の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：指示した文献等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
4 回	授業テーマ：近年の研究動向の把握・分析(1) 授業内容：教員が指示した研究論文等の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：指示した研究論文等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
5 回	授業テーマ：近年の研究動向の把握・分析(2) 授業内容：教員が指示した研究論文等の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：指示した研究論文等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
6 回	授業テーマ：近年の研究動向の把握・分析(3) 授業内容：教員が指示した研究論文等の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：指示した研究論文等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
7 回	授業テーマ：近年の研究動向の把握・分析(4) 授業内容：近年の研究動向を整理したものを報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：前回までの演習を踏まえ、文献リストを作成した上で、近年の研究動向を整理すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、文献リスト等をブラッシュアップすること。
8 回	授業テーマ：関連する判例等の収集・分析(1) 授業内容：教員が指示した判例等の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：指示した判例等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
9 回	授業テーマ：関連する判例等の収集・分析(2) 授業内容：教員が指示した判例等の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：指示した判例等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
10 回	授業テーマ：関連する判例等の収集・分析(3) 授業内容：複数の判例を整理したものを報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：前回までの演習を踏まえ、判例リストを作成し、複数の判例の要点整理すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、判例リスト等をブラッシュアップすること。
11 回	授業テーマ：研究方法・論文作成方法(1) 授業内容：教員が指示した文献の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究の方法論や論文作成方法に関する文献等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
12 回	授業テーマ：研究方法・論文作成方法(2) 授業内容：教員が指示した文献の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究の方法論や論文作成方法に関する文献等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。

13 回	授業テーマ：受講者の研究テーマ設定(1) 授業内容：研究テーマの概要を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：受講者各自の研究テーマについて、その概要を文書で作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、研究テーマを再検討すること。
14 回	授業テーマ：受講者の研究テーマ設定(2) 授業内容：研究テーマの概要を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：受講者各自の研究テーマについて、前回の演習を踏まえた検討結果を文書で作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、研究テーマを再検討すること。
15 回	授業テーマ：全体のまとめ 授業内容：ここまでの成果を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：これまでの成果として、成果物を作成し、報告すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、全体を見直し、成果物をブラッシュアップすること。

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：前

金 東煥 (きむ どんぷあん)

■ 授業の概要

本講義では、研究テーマを設定し、当該テーマに関連する先行研究のサーベイを行い、研究の目的、研究の方向性および学術的な位置づけを明確にする。

■ 到達目標

一般目標：先行研究のサーベイを実施して、各々の先行研究の論文について、論文の内容を的確に要約するとともに、各論文の目的、研究仮説、研究方法、導出された結論を分析して、まとめることができる。

個別目標：①研究テーマに基づいて、各研究論文の構成を体系的に説明することができる。

②先行研究と研究テーマの関係を明確にして、研究の方向性を明確にすることができる。

■ 履修条件

特に定めない。ただし、不動産学部の卒業生は『不動産学研究』または『卒業論文』の履修が望ましい。

■ 評価基準・方法

論文要約課題 60 %、研究テーマ設定 40 %。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（アクティブラーニングで授業中の研究サーベイおよび分析を行い、その結果についてディスカッションを実施する。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（授業中の研究サーベイ、分析作業において適宜活用する。）

■ 教科書

特になし、必要に応じて提示する。

■ 参考書

特になし、必要に応じて提示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：研究課題の探索とテーマ設定 授業内容：不動産学に関する多様な研究領域を概観し、各自の問題意識を明確化したうえで研究テーマの方向性を検討する。 事前学修 2.0hr：研究関心分野を整理し、テーマ候補について検討する。 事後学修 2.0hr：検討した研究テーマを文章としてまとめる。
2 回	授業テーマ：研究テーマの具体化と先行研究の把握 授業内容：自己の研究関心に関連する先行研究を調査し、研究テーマの妥当性および研究の位置づけを検討する。 事前学修 2.0hr：先行研究をサーベイして、研究テーマについて検討する。 事後学修 2.0hr：研究テーマについて考えをまとめる。
3 回	授業テーマ：先行研究レビューⅠ：研究論文把握 授業内容：既存研究の要約内容を報告し、研究目的・仮説・使用データ・分析手法・結果の解釈について議論する。 事前学修 2.0hr：複数の論文について研究目的・仮説を比較整理する。 事後学修 2.0hr：議論内容を踏まえて論理解を深める。
4 回	授業テーマ：先行研究レビューⅡ：研究論文分析 授業内容：取り上げた先行研究について、研究目的、問題意識、仮説設定の妥当性を確認し、各論文がどのような研究視点から不動産学上の課題を捉えているかを検討する。あわせて、自身の研究テーマとの関連性について議論する。 事前学修 2.0hr：対象論文を精読し、研究目的・問題意識・仮説を整理する。 事後学修 2.0hr：論文の研究視点と自分の研究関心との関係をまとめる。
5 回	授業テーマ：先行研究レビューⅢ：研究論文再検討 授業内容：先行研究における分析枠組みを確認し、仮説がどのような理論的背景に基づいて構成されているかを検討する。研究課題に対して、どのような説明変数・観点が設定されているかを整理し、研究設計の考え方を学ぶ。 事前学修 2.0hr：対象論文の理論的背景と仮説設定の内容を整理する。 事後学修 2.0hr：自分の研究テーマに応用できる分析枠組みを検討する。
6 回	授業テーマ：先行研究レビューⅣ：研究論文の分析手法 授業内容：先行研究で使用されているデータの種類、収集方法、対象地域、対象期間、変数設定などを確認し、それぞれの研究で採用されている分析手法の特徴と適用可能性について検討する。 事前学修 2.0hr：対象論文のデータ構成と分析方法を整理する。 事後学修 2.0hr：自分の研究に利用可能なデータや分析手法を考察する。
7 回	授業テーマ：先行研究レビューⅤ：研究論文の統計手法 授業内容：各論文の分析結果を確認し、その結果がどのような意味を持つのかを検討する。係数や傾向の読み取り、仮説の支持・不支持、結果の妥当性について議論し、研究成果の解釈方法を学ぶ。 事前学修 2.0hr：対象論文の分析結果と結論を整理する。 事後学修 2.0hr：分析結果の意味と課題について自分の言葉でまとめる。
8 回	授業テーマ：先行研究レビューⅥ：統計分析手法考察 授業内容：先行研究の学術的意義や実務的含意を確認するとともに、データ、方法、対象範囲などに関する限界を検討する。研究論文を批判的に読む姿勢を養い、自身の研究課題の独自性を考える視点を身につける。 事前学修 2.0hr：対象論文の意義と限界を整理する。 事後学修 2.0hr：自分の研究テーマとの差別化の可能性をまとめる。
9 回	授業テーマ：先行研究レビューⅦ：研究論文の分析方法再検討 授業内容：複数の先行研究を比較し、研究目的、問題意識、仮説設定の共通点と相違点を整理する。研究テーマの立て方や、研究課題の設定方法の違いを把握し、自身の研究テーマをより明確にする。 事前学修 2.0hr：複数の論文について研究目的・仮説を比較整理する。 事後学修 2.0hr：比較結果を踏まえ、自分の研究テーマの位置づけを整理する。
10 回	授業テーマ：先行研究レビューⅧ：分析方法検討 授業内容：複数の先行研究を対象に、使用データ、分析期間、対象地域、分析手法などを比較し、それぞれの研究方法の特徴を整理する。どの手法がどの研究課題に適しているかを考察する。 事前学修 2.0hr：複数の論文について研究目的・仮説を比較整理する。 事後学修 2.0hr：自分の研究に最も適したデータと手法についてまとめる。

11 回	<p>授業テーマ：先行研究レビューⅨ：先行研究解釈</p> <p>授業内容：複数の先行研究の分析結果を比較し、結果の共通性や差異、その背景にある要因について検討する。結果の違いがデータ、対象、手法、時期などの違いに由来する可能性を考察し、解釈の妥当性を議論する。</p> <p>事前学修 2.0hr：複数論文の結果と結論を比較整理する。</p> <p>事後学修 2.0hr：研究成果の差異が生じる要因について考察をまとめる。</p>
12 回	<p>授業テーマ：先行研究レビューⅩ：先行研究の考察</p> <p>授業内容：これまでに検討した先行研究を総括し、研究目的、仮説、データ、分析方法、結果の各観点から整理する。そのうえで、未解明の課題や研究上の空白を把握し、自身の研究課題の独自性と意義を明確にする。</p> <p>事前学修 2.0hr：これまでに扱った論文の内容を総括的に整理する。</p> <p>事後学修 2.0hr：自身の研究テーマの位置づけと今後の課題を文章化する。</p>
13 回	<p>授業テーマ：サーベイ結果の整理Ⅰ：調査内容整理方法</p> <p>授業内容：先行研究 10 編程度を対象に、研究目的、仮説、方法、結果などの基本情報を整理し、比較可能な形で表形式を作成する。研究成果を可視化することで、研究傾向を俯瞰的に把握する。</p> <p>事前学修 2.0hr：論文整理に必要な分類項目や整理視点を検討する。</p> <p>事後学修 2.0hr：作成した先行研究表を見直し、不足項目を補う。</p>
14 回	<p>授業テーマ：サーベイ結果の整理Ⅱ：調査内容整理及び再検討</p> <p>授業内容：作成した先行研究表をもとに、研究対象、分析方法、結論の傾向を整理し、既存研究の到達点と限界を検討する。そのうえで、自身の研究が先行研究の中でどの位置にあるかを明確にする。</p> <p>事前学修 2.0hr：研究の共通点・相違点が把握できるよう整理表を見直す。</p> <p>事後学修 2.0hr：自分の研究の独自性と位置づけを文章で整理する。</p>
15 回	<p>授業テーマ：サーベイ結果の整理Ⅲ：調査内容を再整理</p> <p>授業内容：先行研究表の整理と比較検討の結果を踏まえて、自身の研究課題、分析視点、研究方法を再整理する。先行研究レビューを論文執筆へ接続するために、研究目的、研究仮説、方法、期待される結論を体系的にまとめる。</p> <p>事前学修 2.0hr：研究課題に関連する分類項目や分析視点を再確認する。</p> <p>事後学修 2.0hr：論文作成に向けた研究計画の骨子をまとめる。</p>

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：前

小杉 学 (こすぎ まなぶ)

■ 授業の概要

修士論文のテーマ設定と修士論文作成の準備を行う。

■ 到達目標

一般目標：・修士論文のテーマ設定ができる。

個別目標：・論文作成に必要な情報にアクセスできる。

・既往研究の収集と要約ができる。

・収集した情報や既往研究の情報整理ができる。

・テーマの設定とその設定理由としての意義や位置づけを的確に表現できる。

■ 履修条件

・都市計画、区分所有法、マンション管理に関する基礎的な知識を修得していること。

・前学期に「居住環境マネジメント特論」を履修することが望ましい。

■ 評価基準・方法

・作業や議論への積極性、報告書の的確性、内容の密度、プレゼンテーションの明瞭性、質疑応答における正確性などを総合的に判断する。

■ フィードバック方法

・事前学修のフィードバックは指導時間内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、Powerpoint を搭載したノートパソコンを毎回持参すること。）

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書

・高橋佑磨・片山なつ『伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール』技術評論社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：本演習の進め方について説明を行う。居住環境マネジメントに関連する関心事や問題意識について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：居住環境マネジメントに関連する関心事や問題意識について、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後のゼミ報告や研究に反映できるようにまとめておく。
2 回	授業テーマ：情報収集の方向性検討 授業内容：情報収集の方向性について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
3 回	授業テーマ：収集した情報の検討 授業内容：収集した情報の内容について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
4 回	授業テーマ：収集した情報の整理 授業内容：整理した情報の活用方法について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
5 回	授業テーマ：既往研究の調査と抽出 授業内容：既往研究の調査方法について説明し、実際にインターネットで調査と抽出を行う。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
6 回	授業テーマ：既往研究の検討 授業内容：抽出した既往研究の内容について検討を行う。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
7 回	授業テーマ：既往研究の整理 授業内容：抽出した既往研究の整理を行う。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
8 回	授業テーマ：既往研究の位置づけ 授業内容：整理した既往研究の位置づけを行う。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
9 回	授業テーマ：テーマの仮設定 授業内容：居住環境マネジメントに関連する関心事や問題意識、収集した情報、抽出した既往研究などから、研究テーマを仮設定する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。

10 回	授業テーマ：テーマの設定 授業内容：仮設定したテーマから、研究の目的や方法、意義・位置づけを検討し、それらをもとに研究テーマを設定する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
11 回	授業テーマ：研究の意義の執筆 授業内容：これまでに検討してきたことを踏まえて、研究の意義を執筆する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
12 回	授業テーマ：研究の位置づけの執筆 授業内容：これまでに検討してきたことを踏まえて、研究の位置づけを執筆する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
13 回	授業テーマ：研究の目的の執筆 授業内容：これまでに検討してきたことを踏まえて、研究の目的を執筆する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
14 回	授業テーマ：研究の方法の執筆 授業内容：これまでに検討してきたことを踏まえて、研究の方法を執筆する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、プレゼンテーションを作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、プレゼンテーションに反映できるようにまとめておく。
15 回	授業テーマ：研究テーマに関するプレゼンテーション作成 授業内容：設定したテーマ、執筆した研究の意義、位置づけ、目的、方法を踏まえて、研究テーマに関するプレゼンテーションを作成する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、プレゼンテーションを作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、プレゼンテーションに反映させる。

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：前

小松 広明 (こまつ ひろあき)

■ 授業の概要

研究の対象、主題、テーマを定め、テーマを定め、当該研究テーマに関連する先行研究のレビューを行い、取り組むべき研究の相対的位置づけを明確にする。

■ 到達目標

一般目標：先行研究のサーベイを行い、それぞれの論文について、①目的、②仮説、③方法、④結果の4つに要約することができる。

個別目標：研究テーマのもとに、これまでの研究の蓄積について解説することができる。

■ 履修条件

不動産学部卒業生については『不動産学研究』を履修していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

論文要約課題 50 %、研究テーマの設定に関する理解度 50 %。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッションを適宜実施）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：研究の対象、主題の絞り込み 授業内容：不動産を対象として、自己の疑問や問題を抽出し、主題の絞り込みを行う。 事前学修 2.0hr：研究の対象、主題について検討する。 事後学修 2.0hr：研究の対象、主題について自己の考えをまとめる。
2 回	授業テーマ：研究テーマの検討 授業内容：主題に即応する先行研究を調べ、当該論文を参照して研究のテーマを定める。 事前学修 2.0hr：研究テーマについて検討する。 事後学修 2.0hr：研究テーマについて自己の考えをまとめる。
3 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約① 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
4 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約② 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
5 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約③ 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
6 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約④ 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
7 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約⑤ 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
8 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約⑥ 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
9 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約⑦ 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
10 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約⑧ 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。

11 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約⑨ 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
12 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約⑩ 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
13 回	授業テーマ：サーベイ結果のコード化① 授業内容：研究論文 10 編程度の情報(目的、仮説、方法、結果)を、マトリックス(表)に整理する。その上で、これまでに得られた研究結果を概観し、自己の研究の相対的な位置づけを明確にする。 事前学修 2.0hr：テキストデータを縮約するコードについて検討する。 事後学修 2.0hr：事例・コード・マトリックスを念頭にコード化を見直す。
14 回	授業テーマ：サーベイ結果のコード化② 授業内容：研究論文 10 編程度の情報(目的、仮説、方法、結果)を、マトリックス(表)に整理する。その上で、これまでに得られた研究結果を概観し、自己の研究の相対的な位置づけを明確にする。 事前学修 2.0hr：テキストデータを縮約するコードについて検討する。 事後学修 2.0hr：事例・コード・マトリックスを念頭にコード化を見直す。
15 回	授業テーマ：サーベイ結果のコード化③ 授業内容：研究論文 10 編程度の情報(目的、仮説、方法、結果)を、マトリックス(表)に整理する。その上で、これまでに得られた研究結果を概観し、自己の研究の相対的な位置づけを明確にする。 事前学修 2.0hr：事例・コード・マトリックスに用いるべきコードを複数選定する。 事後学修 2.0hr：事例・コード・マトリックスに用いるべきコードを特定する。

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：前

斎藤 千尋 (さいとう ちひろ)

■ 授業の概要

不動産学における建築・都市空間に関わる研究テーマを議論することで、習得すべき知識、技術を明確にする。

■ 到達目標

一般目標：研究テーマに必要な学習が明確になる。

個別目標：テーマに関連した先行研究を整理すること。

先行研究で用いられている研究方法、分析手法を把握すること。

■ 履修条件

研究テーマを担当教員とよく相談してから履修すること。

■ 評価基準・方法

ゼミの発表内容により、研究テーマが明確になったかどうかを評価する。

■ フィードバック方法

ゼミ中のフィードバックが中心であるが、時間外も、メール、manaba による質疑応答を積極的に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（文献、データ収集）

■ 教科書

なし。

■ 参考書

必要に応じて指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

研究テーマの設定、研究の位置づけ、研究方法の検討

授業内容

入学時に提出された研究計画書に基づき、その研究テーマがどのような専門領域に関わるかを議論する。

そこで明らかになった領域における先行研究をリストアップし読む。これにより現在どのような研究課題があるのかを把握する。またその専門領域における古典的文献を把握する。

これらの文献サーベイから、受講者に足りない知識や研究上の手法（統計的手法や情報システムの利用法）が明らかになってくるので、その学習計画を立て、特別演習Ⅱにおける学習の準備をする。

事前学修

自ら調べたり、ゼミで指示されたりした文献等を読むこと。各 3.5hr

事後学修

ゼミで指摘された事項を研究ノートにまとめること。各 0.5hr

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：前

中城 康彦 (なかじょう やすひこ)

■ 授業の概要

不動産を時間と空間としてとらえ、不動産を利用と価値の両面から検証するための基礎的知識の習得に努める。そのプロセスの中で自らの研究課題の発見に努める

■ 到達目標

一般目標：不動産が抱える課題や未解決の事象を把握でき、それらについて、客観的、合理的に整理する能力を身につける。

個別目標：・ 学術論文を探索して読み込むことができる。

・ 不動産と社会の関係を説明できる。

・ 設定した課題を解決するための道筋を描くことができる。

■ 履修条件

授業中は積極的に成果を公表するとともに議論に参加すること。

■ 評価基準・方法

課題に対する取り組みとその成果により評価する。随時提出するミニレポート等の内容より理解度を確認し、必要に応じてフィードバックする。

■ フィードバック方法

各回、当日のディスカッションの内容について振り返りのプレゼンテーションをする。補足すべき点について指摘を受けた場合は翌週までに指摘内容をカバーして提示する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（授業は双方向の意見交換を重視して行う）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（論文取りまとめの図表の作成に利用する）

■ 教科書

研究テーマごとに別途指示する。

■ 参考書

中城康彦「教養としての「不動産」大全」日本実業出版社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：授業の目的、スケジュール、方法と説明 授業内容：・ 授業の進め方、参加の姿勢、到達目標、スケジュールなど、2 年間で論文を完成させることを見越した全般的な事項の伝達と意見交換 事前学修 2.0hr：取り上げたい課題について資料を収集分析して、発表するための準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
2 回	授業テーマ：不動産と不動産学 授業内容：・ 論文は不動産学に係る論文であることを確認する。不動産に係る事象を不動産学のテーマとしてとらえる視点や方法などのようなものかなどについて意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
3 回	授業テーマ：土地と建物 授業内容：・ 不動産は土地と建物から構成されていることから、それぞれの属性のどのような点に関心や社会の課題があるかについて意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
4 回	授業テーマ：所有と利用 授業内容：・ 不動産は所有者による利用が原則ではあるものの、所有者以外が利用することも多いことから、所有(者)と利用(者)の一致と分離のメリットとデメリットについて整理する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
5 回	授業テーマ：空間と時間 授業内容：・ 不動産の価値はある空間をある時間にわたって利用することを源泉とする。不動産の価値を空間と時間の組み合わせでとらえる視点に立って、不動産の事象を説明することを試みる 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
6 回	授業テーマ：不動産をめぐる近時の状況－ 1 授業内容：・ 不動産にかかる経済社会の課題に興味をもち、不動産学の視点で分析して説明する力を養う。具体的な事象を取り上げて意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
7 回	授業テーマ：不動産をめぐる近時の状況－ 2 授業内容：・ 不動産にかかる経済社会の課題に興味をもち、不動産学の視点で分析して説明する力を養う。具体的な事象を取り上げて意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
8 回	授業テーマ：不動産をめぐる近時の状況－ 3 授業内容：・ 不動産にかかる経済社会の課題に興味をもち、不動産学の視点で分析して説明する力を養う。具体的な事象を取り上げて意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
9 回	授業テーマ：不動産をめぐる近時の状況－ 4 授業内容：・ 不動産にかかる経済社会の課題に興味をもち、不動産学の視点で分析して説明する力を養う。具体的な事象を取り上げて意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
10 回	授業テーマ：不動産をめぐる近時の状況－ 5 授業内容：・ 不動産にかかる経済社会の課題に興味をもち、不動産学の視点で分析して説明する力を養う。具体的な事象を取り上げて意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

11 回	授業テーマ：不動産をめぐる近時の状況－6 授業内容：・不動産にかかる経済社会の課題に興味をもち、不動産学の視点で分析して説明する力を養う。具体的な事象を取り上げて意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
12 回	授業テーマ：不動産学の到達点と課題 授業内容：・不動産学研究、不動産学教育を踏まえ、不動産学の可能性と未達の課題について整理する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
13 回	授業テーマ：各自の問題意識 授業内容：・これまでの学修を踏まえ、どのような事象に対してどのような問題意識をもっているか整理のうえ意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
14 回	授業テーマ：問題意識と不動産学研究 授業内容：・各自の問題意識を不動産学研究のテーマとして取り上げる場合の取り上げ方や分析、ならびに、成果について意見交換する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：・これまでの学修内容を取りまとめ、研究の展開について整理する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：前

浜島 裕美 (はまじま ひろみ)

■ 授業の概要

不動産に関わる法制度とその運用について、多面的に考えていく。論文や判例、また外国法も題材として、広く柔軟な思考を養う。

■ 到達目標

一般目標：修士論文執筆に向け、論文作成の際のルール(書式や引用方法、引用のルール、脚注の付け方、その他)を身に付ける。また、自分のテーマに関連する法律の基礎的知識を習得する。

個別目標：(1) 学術論文に必要な形式を理解し、執筆することができる。

(2) 自分の論文のテーマに関連する文献の収集、分析、検討ができる。

■ 履修条件

学部で提供している法律系科目を修得していることが望ましい。履修していない場合は、少なくとも民法の教科書は読んでくること。

■ 評価基準・方法

学習への取り組みとその成果物によって評価する。

■ フィードバック方法

課題のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(ディスカッション・ディベート)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(Excel、Word ソフトを搭載したノートパソコンを必要に応じて持参すること)

■ 教科書

各自のテーマにより、適宜指示する。

■ 参考書

各自のテーマにより、適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業の進め方・スケジュールと研究方法の確認 事前学修 2.0hr：関心あるテーマと関連法の調査 事後学修 2.0hr：テーマに関連する法律調査
2 回	授業テーマ：法律の基礎知識の確認(1)民法、借地借家法、区分所有法等、テーマに関連する私法 授業内容：不動産私法に関する基礎知識を確認する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する法律調査 事後学修 2.0hr：テーマに関連する法律調査
3 回	授業テーマ：法律の基礎知識の確認(2)建築基準法、都市計画法、宅建業法等、テーマに関連する公法 授業内容：不動産公法に関する基礎知識を確認する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する法律調査 事後学修 2.0hr：文献収集(インターネット・大学図書館)
4 回	授業テーマ：文献収集方法(1)インターネットによる文献・データ収集 授業内容：文献の収集をインターネットにて行う。 事前学修 2.0hr：文献収集(インターネット・大学図書館) 事後学修 2.0hr：文献収集(他大学図書館、国会図書館)
5 回	授業テーマ：文献収集方法(2)国会図書館や他大学図書館等による文献・データ収集 授業内容：文献の収集を大学図書館・国会図書館等で行う。 事前学修 2.0hr：文献収集(他大学図書館、国会図書館) 事後学修 2.0hr：判例収集(大学図書館ネットワーク)
6 回	授業テーマ：判例収集方法(1)学内ネットワークによる判例収集 授業内容：学内ネットワークにおいて関連判例を収集する。 事前学修 2.0hr：判例収集(大学図書館ネットワーク) 事後学修 2.0hr：判例収集(判例雑誌)
7 回	授業テーマ：判例収集方法(2)学内図書館等による判例収集 授業内容：学内ネットワークにおいて関連判例評論を収集する。 事前学修 2.0hr：判例収集(判例雑誌) 事後学修 2.0hr：収集資料分析(報告書作成)
8 回	授業テーマ：資料分析方法(1)収集した図書、データ等を整理する 授業内容：収集文献・判例の整理・分析を行う。 事前学修 2.0hr：収集資料分析(報告書作成) 事後学修 2.0hr：収集資料分析(報告書作成)
9 回	授業テーマ：資料分析方法(2)収集した図書、データ等を分析する 授業内容：収集図書・データの整理・分析を行う。 事前学修 2.0hr：収集資料分析(報告書作成) 事後学修 2.0hr：テーマの発見
10 回	授業テーマ：テーマの発見と検討(1)前回までの結果を踏まえ、テーマを発見する 授業内容：テーマの決定 事前学修 2.0hr：テーマの発見 事後学修 2.0hr：テーマの検討
11 回	授業テーマ：テーマの発見と検討(2)発見したテーマの新規性、独自性を検討する 授業内容：テーマの新規性・独自性を検討する。 事前学修 2.0hr：テーマの検討 事後学修 2.0hr：既往研究収集(報告書作成)
12 回	授業テーマ：既往研究収集・分析 授業内容：既往研究の収集・分析を行う。 事前学修 2.0hr：既往研究収集(報告書作成) 事後学修 2.0hr：既往研究分析(報告書作成)

13 回	授業テーマ：既往研究集分析・発表 授業内容：既往研究の分析結果を報告書にまとめる。 事前学修 2.0hr：既往研究分析(報告書作成) 事後学修 2.0hr：関連判例収集(報告書作成)
14 回	授業テーマ：関連判例収集・分析 授業内容：関連判例の収集と分析を行う。 事前学修 2.0hr：関連判例収集(報告書作成) 事後学修 2.0hr：関連判例分析(報告書作成)
15 回	授業テーマ：関連判例分析・発表 授業内容：関連判例の分析結果を報告書にまとめる。 事前学修 2.0hr：関連判例分析(報告書作成) 事後学修 2.0hr：報告書まとめ

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：前

原野 啓 (はらの けい)

■ 授業の概要

修士論文の作成準備として、興味がある分野の先行研究を読みこみ、経済理論・実証分析の理解を深める。また、当該テーマの先行研究を整理し、研究テーマの設定を行う。

■ 到達目標

一般目標：先行研究や自身の研究テーマの経済学的意義を明確に把握することができる。

個別目標：
・不動産関連の社会問題を経済学的な観点で理解できる
・住宅政策の経済学的な意義を理解できる

■ 履修条件

大学院の「不動産計量経済分析特論」を必ず履修すること。

なお、学部時代に「計量経済学」を履修していない場合は、学部で前期開講している「計量経済学」を必ず履修すること。詳細は教員に問い合わせること。

■ 評価基準・方法

授業課題への取り組みと成果により評価する。

■ フィードバック方法

フィードバックは、各授業の冒頭で行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（調査対象とするエリアへの現地調査などを予定している）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（PC(特にエクセル)を用いて計量分析の演習を行う）

■ 教科書

研究テーマを踏まえて、適宜指示する。

■ 参考書

研究テーマを踏まえて、適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：ガイダンスを行う 事前学修 3.0hr：興味がある研究テーマについて検討し、資料や先行研究の整理する 事後学修 1.0hr：講義内容を踏まえて、研究テーマを再検討し、資料や先行研究の整理する
2 回	授業テーマ：研究テーマに関連する理論モデルの学修① 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：研究テーマに関連する経済理論を学修する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、理論モデルを文章にまとめる
3 回	授業テーマ：研究テーマに関連する理論モデルの学修② 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：研究テーマに関連する経済理論を学修する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、理論モデルを文章にまとめる
4 回	授業テーマ：研究テーマに関連する理論モデルの学修③ 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：研究テーマに関連する経済理論を学修する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、理論モデルを文章にまとめる
5 回	授業テーマ：研究テーマに関連する理論モデルの学修④ 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：研究テーマに関連する経済理論を学修する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、理論モデルを文章にまとめる
6 回	授業テーマ：研究テーマに関連する理論モデルの学修⑤ 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：研究テーマに関連する経済理論を学修する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、理論モデルを文章にまとめる
7 回	授業テーマ：研究テーマに関連する理論モデルの学修⑥ 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：研究テーマに関連する経済理論を学修する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、理論モデルを文章にまとめる
8 回	授業テーマ：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ① 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：既往の研究論文を読み込み、要約する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、研究テーマに対する先行研究の位置づけ・問題点・課題をまとめる
9 回	授業テーマ：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ② 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：既往の研究論文を読み込み、要約する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、研究テーマに対する先行研究の位置づけ・問題点・課題をまとめる
10 回	授業テーマ：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ③ 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：既往の研究論文を読み込み、要約する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、研究テーマに対する先行研究の位置づけ・問題点・課題をまとめる
11 回	授業テーマ：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ④ 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：既往の研究論文を読み込み、要約する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、研究テーマに対する先行研究の位置づけ・問題点・課題をまとめる

12 回	授業テーマ：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ⑤ 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：既往の研究論文を読み込み、要約する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、研究テーマに対する先行研究の位置づけ・問題点・課題をまとめる
13 回	授業テーマ：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ⑥ 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：既往の研究論文を読み込み、要約する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、研究テーマに対する先行研究の位置づけ・問題点・課題をまとめる
14 回	授業テーマ：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ⑦ 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：既往の研究論文を読み込み、要約する 事後学修 1.0hr：授業での議論をふまえて、研究テーマに対する先行研究の位置づけ・問題点・課題をまとめる
15 回	授業テーマ：研究テーマの整理 授業内容：研究テーマの整理 事前学修 3.0hr：自身の研究テーマについて、研究目的・研究方法・期待される結果・利用するデータについて整理する 事後学修 1.0hr：授業での議論を踏まえて、研究目的・研究方法・期待される結果・利用するデータについて再整理する

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：前

藤木 亮介 (ふじき りょうすけ)

■ 授業の概要

修士論文の執筆に向けて、建築物の劣化、保全、再生、ならびに適切な管理に関わる基礎的知識を修得する。また、建築ストックに関わる社会問題について、その背景や要因を明らかにし、自らの研究課題を設定する。

■ 到達目標

一般目標：・建築ストックに関わる社会問題を把握し、自分の取り組む研究課題を設定するための能力を修得する。

個別目標：・関心のある社会問題について、その背景や要因に関する情報を収集することができる。

・関心のある社会問題に関わる既往研究を収集し、その内容を整理することができる。

■ 履修条件

建築基準法、都市計画法、区分所有法(建物の区分所有等に関する法律)の基礎知識を有していること。

■ 評価基準・方法

授業への取り組み姿勢や積極性、作成した研究資料、教員との議論の内容などを総合的に評価する。

■ フィードバック方法

事前学修のフィードバックは指導時間内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（エクセル・ワードを用いて研究資料を作成する。パワーポイントを用いてプレゼン資料を作成する。）

■ 教科書

特になし。

■ 参考書

必要に応じて紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業のすすめ方、評価の方法、出欠席の取り方、スケジュール、全体構成について説明する。また、建築ストックに関わる意見交換を行う。 事前学修 2.0hr：建築ストックに関する自らの関心事について調べ、授業において発表するための準備をする。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。
2 回	授業テーマ：建築ストックを取り巻く社会問題 授業内容：建築ストックを取り巻く社会問題を調べ、その内容を報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：建築ストックに関わるものとして、どのような社会問題があるかを調べ、その内容を報告資料としてまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、追加調査を行い情報を補完する。
3 回	授業テーマ：関心のある社会問題の現状 授業内容：関心のある社会問題について現在の状況を調査し、その内容を報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：前回の授業を踏まえて、関心のある社会問題について現状を調べ、報告資料としてまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、追加調査を行い情報を補完する。
4 回	授業テーマ：関心のある社会問題の背景 授業内容：関心のある社会問題の背景について、自ら調べた内容を報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：前回の授業を踏まえて、関心のある社会問題の背景を調べ、報告資料としてまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、追加調査を行い情報を補完する。
5 回	授業テーマ：関心のある社会問題が生じた要因 授業内容：関心のある社会問題が生じた要因について、自ら調べた内容を報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：前回の授業を踏まえて、関心のある社会問題が生じた要因を調べ、報告資料としてまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、追加調査を行い情報を補完する。
6 回	授業テーマ：収集した情報の整理 授業内容：関心のある社会問題について、自ら調べた内容を一旦整理し、その社会問題を俯瞰する。また、その内容を考察しディスカッションする。 事前学修 2.0hr：これまでに調べた内容を整理し、報告資料としてまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、あらためて情報の整理をする。
7 回	授業テーマ：既往研究の調査・討論-1 授業内容：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、その内容を報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、それぞれ要約するとともにリストにまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、既往研究の類型化を行う。
8 回	授業テーマ：既往研究の調査・討論-2 授業内容：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、その内容を報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、それぞれ要約するとともにリストにまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、既往研究の類型化を行う。
9 回	授業テーマ：既往研究の調査・討論-3 授業内容：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、その内容を報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、それぞれ要約するとともにリストにまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、既往研究の類型化を行う。
10 回	授業テーマ：既往研究の調査・討論-4 授業内容：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、その内容を報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、それぞれ要約するとともにリストにまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、既往研究の類型化を行う。
11 回	授業テーマ：既往研究の調査・討論-5 授業内容：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、その内容を報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：関心のある社会問題に関連する既往研究を収集し、それぞれ要約するとともにリストにまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、既往研究の類型化を行う。
12 回	授業テーマ：研究課題の設定 - 1 授業内容：自らが選定した社会問題の解決に向けた方策や課題を設定する。 事前学修 2.0hr：関心のある社会問題について、その解決にむけた方策や課題を整理し授業での報告資料としてまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究課題の整理を行う。

13 回	授業テーマ：研究課題の設定 - 2 授業内容：自らが選定した社会問題の解決に向けた方策や課題を設定する。 事前学修 2.0hr：関心のある社会問題について、その解決にむけた方策や課題を整理し授業での報告資料としてまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究課題の整理を行う。
14 回	授業テーマ：研究課題の設定 - 3 授業内容：自らが選定した社会問題の解決に向けた方策や課題を設定する。 事前学修 2.0hr：関心のある社会問題について、その解決にむけた方策や課題を整理し授業での報告資料としてまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究課題の整理を行う。
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：これまでに収集した情報をまとめ、自らが取り組む研究課題を確定させる。 事前学修 2.0hr：これまでに収集した情報をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で指摘された内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：前

前島 彩子 (まえしま あやこ)

■ 授業の概要

不動産学の都市空間を対象とした修士論文作成にとりかかる基礎力を養う。

都市空間を構成する建築物とそれをとりまく環境の地域性、建築生産・建築構法の変遷を中心とした研究領域に関して、その分野における基礎的な先行研究を理解したうえで、研究テーマを構想する。

修士論文執筆に必要なスキルのうち、主として、先行研究の探索、論文の読解、資料・データの読取り分析を身につける。

■ 到達目標

一般目標：関心のある研究領域に関する先行研究を探し出し、論文読解ができる。

個別目標：(1) 関心のある研究領域について、一般的な課題や研究動向等を理解している。

(2) 関心のある研究領域に関する代表的な論文の読解および相違の説明ができる。

(3) 関心のある研究領域に関する代表的な調査方法と得られる結果・限界を理解している。

■ 履修条件

研究活動について事前に面談すること。

■ 評価基準・方法

授業への参加状況と提出された課題の内容を総合して判断する。

■ フィードバック方法

ゼミで直接コメントするとともに LMS に蓄積する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（現地視察、プレゼンテーション、反転授業、ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word、図面作成ソフト等を搭載したノートパソコンを持参する。）

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜案内する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：論文作成の全体像を確認する。 事前学修 1.0hr：事前準備 事後学修 3.0hr：次回の展開整理
2 回	授業テーマ：研究計画の概要検討<情報列挙> 授業内容：関心と問題意識に関わる情報を列挙する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
3 回	授業テーマ：研究計画の概要検討<課題整理> 授業内容：列挙した関心と問題意識に関わる情報をもとに、課題を整理する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
4 回	授業テーマ：研究計画の概要検討<解決の糸口> 授業内容：関心と問題意識に関わる課題整理に基づき、解決の糸口を検討する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
5 回	授業テーマ：関連先行研究の探索<収集> 授業内容：先行研究の調査、収集方法について確認する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
6 回	授業テーマ：関連先行研究の探索<追加収集> 授業内容：関心と問題意識に関わる課題に関する先行研究を収集する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
7 回	授業テーマ：関連先行研究の探索<整理> 授業内容：収集した先行研究を調査方法等により整理する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
8 回	授業テーマ：関連先行研究の探索<レビュー> 授業内容：収集した先行研究をレビューする。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
9 回	授業テーマ：関連先行研究の探索<位置づけ> 授業内容：収集した先行研究それぞれの位置づけを明確化する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
10 回	授業テーマ：関連先行研究の探索<独自性検討> 授業内容：先行研究をふまえて、自分の研究の独自性を検討する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
11 回	授業テーマ：調査方法の試行<検討> 授業内容：自分の研究の独自性に基づくプレ調査を検討する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理

12 回	授業テーマ：調査方法の試行<計画> 授業内容：自分の研究の独自性に基づくプレ調査の計画をたてる。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
13 回	授業テーマ：調査方法の試行<実施> 授業内容：プレ調査を計画に基づき実施する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
14 回	授業テーマ：調査方法の試行<検証> 授業内容：プレ調査の結果を検証する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：プレ調査の結果から本調査の結果を予測し、調査方法の見直しを行う。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理

特別演習 I

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：前

山本 卓 (やまもと たかし)

■ 授業の概要

修士論文の作成の準備とトレーニングのため、不動産に係る経営学領域における基礎的学術文献の輪読と課題レポートの作成を行う。

■ 到達目標

一般目標：不動産にかかる、経営、管理、情報分析の知見を身につけ、不動産を効果的に活用する提案のための理論的知見と実証技能を獲得する。

個別目標：不動産に係る経営学領域において、学術論文を作成するために必要となる以下の基礎的能力を身につける。

- ・文献調査能力
- ・仮説構築能力
- ・データ分析能力
- ・論理展開能力
- ・論文作成能力
- ・プレゼン能力

■ 履修条件

「不動産会計特論」の履修を条件とする。

■ 評価基準・方法

授業への参加・貢献状況と課題レポートへの取り組み状況に基づき評価する。

■ フィードバック方法

面談でのフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（自分自身の研究状況の発表、質疑応答が予定されている。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（論文作成や研究発表等で、ワードやパワーポイントを使用する。）

■ 教科書

学生の研究の方向性を勘案し、相談のうえ適切な文献を指示する。

■ 参考書

山本卓 (2009) 『財務情報と企業不動産分析』創成社

山本卓 (2011) 『企業不動産の会計と環境』創成社

山本卓 (2013) 『不動産会計と経営行動』創成社

山本卓 (2015) 『投資不動産会計と公正価値評価』創成社

山本卓編著 (2017) 『グローバル社会と不動産価値』創成社

山本卓編著 (2021) 『ストック型社会への企業不動産分析』創成社

山本卓 (2025) 『企業不動産読本』KEN 不動産研究

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：修士論文作成に向けた、基本的作業事項、スケジュールを教員が示し、教員、学生の双方が課題意識を共有する。 事前学修 3.0hr：研究のイメージを持つ。 事後学修 2.0hr：授業での討議に基づき今後の研究の方向性を考える。
2 回	授業テーマ：論文の検索方法 授業内容：学生の方で、先行研究のサーベイを行う。その結果としての文献リストを作成し、授業において教員・学生が議論し、文献リストを策定する。それに基づき、文献の読み込みと要点の文書化へと導く。 事前学修 3.0hr：自分の研究分野についてどんな学術文献があるのか調べてみる。 事後学修 2.0hr：図書館等において関係する文献を具体的に把握整理する。
3 回	授業テーマ：基礎的な学術論文に基づいた討議（分野1） 授業内容：学生の方で、文献リスト（分野1）に基づいた文献を収集し、それらを読み込んだうえで授業で報告する。それに基づき教員・学生が議論し、先行研究の要点を文書化する。 事前学修 3.0hr：経営学領域で基礎的な学術文献を読み内容の把握をする。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該論文について考察を深め文書にまとめる。
4 回	授業テーマ：基礎的な学術論文に基づいた討議（分野2） 授業内容：学生の方で、文献リスト（分野2）に基づいた文献を収集し、それらを読み込んだうえで授業で報告する。それに基づき教員・学生が議論し、先行研究の要点を文書化する。 事前学修 3.0hr：経営学領域で基礎的な学術文献を読み内容の把握をする。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該論文について考察を深め文書にまとめる。
5 回	授業テーマ：基礎的な学術論文に基づいた討議（分野3） 授業内容：学生の方で、文献リスト（分野3）に基づいた文献を収集し、それらを読み込んだうえで授業で報告する。それに基づき教員・学生が議論し、先行研究の要点を文書化する。 事前学修 3.0hr：経営学領域で基礎的な学術文献を読み内容の把握をする。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該論文について考察を深め文書にまとめる。
6 回	授業テーマ：基礎的な学術論文に基づいた討議（分野4） 授業内容：学生の方で、文献リスト（分野4）に基づいた文献を収集し、それらを読み込んだうえで授業で報告する。それに基づき教員・学生が議論し、先行研究の要点を文書化する。 事前学修 3.0hr：経営学領域で基礎的な学術文献を読み内容の把握をする。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該論文について考察を深め文書にまとめる。
7 回	授業テーマ：課題レポートの中間報告 授業内容：第1回から第6回までの授業を受けて、先行研究の要点を整理したうえで、報告を行う。 事前学修 3.0hr：上記の学術論文の読み込みに基づき、課題レポートの最終化に向けての中間資料を準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受けて、課題レポートの最終化に向けて作業内容を整理する。

8 回	授業テーマ：研究論点の抽出方法 授業内容：第 7 回の先行研究の要点整理を受け、修士論文が扱う研究論点の抽出方法について、教員・学生が議論し、研究論点を具現化する。 事前学修 3.0hr：研究において何を明らかにしたいのか考えてみる。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、研究論点把握について文書にまとめる。
9 回	授業テーマ：仮説構築の方法 授業内容：第 8 回授業で抽出された研究論点に基づいた仮説の構築方法について焦点を定める。教員・学生が議論し、仮説を具現化する。 事前学修 3.0hr：研究における仮説設定のあり方について、既読文献を参考に考えてみる。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、仮説構築について文書にまとめる。
10 回	授業テーマ：ケーススタディによる仮説の検証方法 授業内容：第 9 回で具現化された仮説について、ケーススタディによって検証を試みる手法を示す。 事前学修 3.0hr：関係する学術文献の読み込みを行う。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、要点を文書にまとめる。
11 回	授業テーマ：実証分析による仮説の検証方法 授業内容：第 9 回で具現化された仮説について、財務データを使用した実証分析によって検証を試みる手法を示す。 事前学修 3.0hr：関係する学術文献の読み込みを行う。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、要点を文書にまとめる。
12 回	授業テーマ：実証会計理論の基礎 (分野 1) 授業内容：第 11 回の実証分析の基礎理論となる「実証会計理論(分野 1)」についての概要を示し、具体的な適用手法を学ぶ。 事前学修 3.0hr：関係する学術文献の読み込みを行う。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、要点を文書にまとめる。
13 回	授業テーマ：実証会計理論の基礎 (分野 2) 授業内容：第 11 回の実証分析の基礎理論となる「実証会計理論(分野 2)」についての概要を示し、具体的な適用手法を学ぶ。 事前学修 3.0hr：関係する学術文献の読み込みを行う。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、要点を文書にまとめる。
14 回	授業テーマ：課題レポートの発表 授業内容：第 1 回授業から第 13 回授業までの、成果をパワーポイントのスライドに整理して、発表を行う。これに基づいて、重要な研究上の漏れがないかチェックを行う。 事前学修 3.0hr：課題レポートの発表準備を行う。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、課題レポートを最終化する。
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：第 1 回授業から第 14 回授業までの成果の振り返りを行う。これらの反省に基づき、修士論文作成へ向けての骨格を形作る。 事前学修 3.0hr：一連の授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する。 事後学修 3.0hr：修士論文の作成に向けて知見の整理を行う。

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：後

兼重 賢太郎 (かねしげ けんたろう)

■ 授業の概要

特別演習Ⅰの成果を踏まえ、受講者各自の修士論文執筆に向けた研究の方法論を修得し、研究テーマと研究計画を確定させる。なお、随時、一定の分量以上の文章を書き上げる学修も並行して行う。

■ 到達目標

一般目標：受講者各自の修士論文作成に向けた最終準備が整うこと(論文執筆にすぐに取りかかれる状態になること)を一般目標とする。

個別目標：修士論文の研究計画を確定すること、一定の分量以上の文章を論文作法に則り書き上げる力を修得することを、個別目標とする。

■ 履修条件

特別演習Ⅰを修得済みであること。不動産公法特論(後期開講)をあわせて履修することが望ましい。

■ 評価基準・方法

演習への取り組み姿勢、成果物等を総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、演習の時間内をはじめ、随時行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(毎回、教員を交えて議論する。)

■ 授業でのPCの利用(利用内容)

あり(報告・発表のためにPCを利用する。)

■ 教科書

必要に応じて、適宜、指示する。

■ 参考書

必要に応じて、適宜、指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：全体の進め方を確認するとともに、現時点での研究テーマ・研究計画等を報告し、教員を交えて議論する。 事前学修 2.0hr：現時点での、受講生各自の研究テーマ・研究計画等を整理しておくこと。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、研究テーマ・研究計画等を見直すこと。
2 回	授業テーマ：特別演習Ⅰの成果確認(1) 授業内容：特別演習Ⅰの成果を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：特別演習Ⅰの成果を報告するための資料を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、作成した資料をブラッシュアップすること。
3 回	授業テーマ：特別演習Ⅰの成果確認(2) 授業内容：特別演習Ⅰの成果を報告し、全員で議論する。 事前学修 3.0hr：前回の指摘事項等を踏まえ、ブラッシュアップした報告資料を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、作成した資料をブラッシュアップすること。
4 回	授業テーマ：研究方法論(1)：文献研究 授業内容：教員が指示した文献等の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：指示した文献等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
5 回	授業テーマ：研究方法論(2)：判例研究 授業内容：教員が指示した判例等の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：指示した文献等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
6 回	授業テーマ：研究方法論(3)：その他の方法論 授業内容：教員が指示した文献等の内容を報告し、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：指示した文献等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
7 回	授業テーマ：研究テーマの設定(1)：問題の所在 授業内容：レポートを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究テーマの背景、問題の所在等について、報告レポートを作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、レポートをブラッシュアップすること。
8 回	授業テーマ：研究テーマの設定(2)：方法論の確定 授業内容：レポートを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究テーマに即した方法論について、報告レポートを作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、レポートをブラッシュアップすること。
9 回	授業テーマ：研究テーマの設定(3)：調査対象等 授業内容：レポートを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究テーマに即した調査対象等について、報告レポートを作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、レポートをブラッシュアップすること。
10 回	授業テーマ：研究の具体化(1)：関連する文献リストの完成 授業内容：文献リストと要約を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究テーマに関連する文献を収集したうえで、文献リスト並びにその要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、文献リスト等をブラッシュアップすること。
11 回	授業テーマ：研究の具体化(2)：関連する判例リストの完成 授業内容：判例リストと要約を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究テーマに関連する判例を収集したうえで、判例リスト並びにその要約を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、判例リスト等をブラッシュアップすること。
12 回	授業テーマ：研究の具体化(3)：調査対象・方法等 授業内容：レポートを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：第9回の演習での指摘・議論等を踏まえ、具体的な調査対象・方法論等をレポートにまとめること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、レポートをブラッシュアップすること。

13 回	授業テーマ：研究計画書の作成 授業内容：研究計画書を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究計画書案を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、研究計画書案をブラッシュアップすること。
14 回	授業テーマ：研究計画書の完成 授業内容：研究計画書を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 2.0hr：前回の演習を踏まえ、研究計画書を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、研究計画書をブラッシュアップし、完成させること。
15 回	授業テーマ：全体のまとめ 授業内容：成果物を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 2.0hr：これまでの成果として、成果物をとりまとめ、報告すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、全体を見直し、成果物をブラッシュアップすること。

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：後

金 東煥 (きむ どんぶん)

■ 授業の概要

本授業では、修士論文の作成に向けて、不動産経済学に関する理解を体系的に深めるとともに、研究上の論点を整理し、明確な研究テーマの設定を行うことを目的とする。先行研究の精読と分析作業を通じて、研究課題の背景を把握し、自身の研究の位置づけや学術的意義を明確にする力を養う。

■ 到達目標

一般目標：多数の関連文献を精読したうえで先行研究のレビューを体系的にまとめ、修士論文の研究背景および研究上の位置づけを整理し、発表することができる。

- 個別目標：①修士論文として取り組む研究テーマを設定できる。
②研究テーマに関連する先行研究の内容を正確に理解できる。
③自身の研究テーマと先行研究との相違点や独自性について説明できる。

■ 履修条件

「特別演習Ⅰ」履修し、単位を修得していること

■ 評価基準・方法

論文要約課題(50%)および研究テーマに関する期末レポート内容(50%)により評価する。

■ フィードバック方法

課題に対する講評は、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（事前サーベイ、分析、ディスカッションで活用）

■ 授業でのPCの利用（利用内容）

あり（授業中の事前サーベイ、分析で活用）

■ 教科書

必要に応じて指示する。

■ 参考書

必要に応じて指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：前学期の先行研究レビューの振り返りと修士論文執筆の方向性策定 授業内容：授業の目的、進行方法、評価基準を説明するとともに、修士論文作成に向けた研究の進め方や基本的な研究姿勢について確認する。 事前学修 2.0hr：自身が関心を持つ研究分野について整理し、関連する統計資料や先行研究を調査して研究テーマの候補を検討する。 事後学修 2.0hr：授業で示された研究の進め方を踏まえ、研究テーマ候補を再検討し、文献整理の方向性を明確にする。
2 回	授業テーマ：研究テーマの検討Ⅰ：文献サーベイ 授業内容：各自の研究関心に基づき、修士論文のテーマの方向性を検討する。研究対象となる不動産市場の課題を整理し、それらを説明する理論モデルの基本構造について理解を深める。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
3 回	授業テーマ：研究テーマの検討Ⅱ：研究テーマ考察 授業内容：研究テーマに関連する理論的背景を踏まえ、研究課題として明らかにすべき論点を具体的に整理する。仮説設定の考え方や研究目的の明確化の方法について検討する。 事前学修 2.0hr：研究テーマに関連する理論的議論を整理し、検証すべき論点を明確にする。 事後学修 2.0hr：仮説の構成や分析視点について再検討し、研究計画の骨子を修正する。
4 回	授業テーマ：先行研究のレビューⅠ：関連論文サーベイ 授業内容：研究テーマに関連する主要論文を収集し、研究動向や理論的枠組みの整理を行う。文献検索の方法や研究レビューの進め方について指導する。 事前学修 2.0hr：学術論文データベース等を用いて関連文献を検索し、重要論文を選定する。 事後学修 2.0hr：収集した論文の要点を整理し、研究レビューの基礎資料を作成する。
5 回	授業テーマ：先行研究レビューⅡ：研究目的の把握 授業内容：収集した先行研究論文について研究目的、分析手法、結論の内容を体系的に整理し、研究の特徴と成果の意義を理解する。 事前学修 2.0hr：比較対象となる論文を整理し、分析方法や結果の相違点を確認する。 事後学修 2.0hr：比較検討の結果を踏まえ、自身の研究テーマとの関連性を考察する。
6 回	授業テーマ：先行研究レビューⅢ：研究論文の構成把握 授業内容：複数の先行研究論文を比較し、研究対象、分析方法、結果の違いについて検討し、研究アプローチの多様性を理解する。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
7 回	授業テーマ：先行研究レビューⅣ：研究論文の構成に関する考察 授業内容：先行研究レビューの結果を踏まえ、自身の研究テーマの学術的な位置づけや独自性について検討する。 事前学修 2.0hr：先行研究レビュー内容を整理し、研究の共通点や相違点を検討する。 事後学修 2.0hr：自身の研究の新規性について考察を深める。
8 回	授業テーマ：研究テーマの再検討 授業内容：先行研究レビューの結果を踏まえて研究テーマおよび仮説設定を見直し、研究計画の方向性を明確にする。 事前学修 2.0hr：研究レビュー結果を整理し、研究課題の修正点を検討する。 事後学修 2.0hr：研究計画の構成を見直し、仮説設定を精緻化する。
9 回	授業テーマ：先行研究レビュー再検討Ⅰ：研究テーマと先行研究の相違点考察 授業内容：先行研究として追加文献の収集を行い、研究レビューの範囲を拡張するとともに新たな研究視点を検討する。 事前学修 2.0hr：重要論文の再読を行い研究内容を精査する。 事後学修 2.0hr：研究レビュー資料を修正・補足する。
10 回	授業テーマ：先行研究レビュー再検討Ⅱ：研究テーマと先行研究の問題意識考察 授業内容：重要論文の内容を再整理し、研究理解を深化させるとともに研究目的と分析方法の関係について検討する。 事前学修 2.0hr：重要論文の再読を行い研究内容を精査する。 事後学修 2.0hr：研究レビュー資料を修正・補足する。

11 回	授業テーマ：先行研究レビュー再検討Ⅲ：研究テーマと先行研究の深い考察 授業内容：研究テーマと先行研究の関係を総合的に整理し、仮説設定や分析方法の妥当性について議論する。研究テーマとの相違点、改善点を考察する。 事前学修 2.0hr：研究計画と文献レビューの整合性を確認する。 事後学修 2.0hr：研究テーマの位置づけを文章として整理する。
12 回	授業テーマ：研究テーマ報告準備Ⅰ：報告資料準備 授業内容：研究テーマを確定するための資料を作成し、研究背景、研究目的、先行研究レビューの内容を体系的に整理する。研究テーマ報告会の準備をする。 事前学修 2.0hr：発表資料の構成案を作成する。 事後学修 2.0hr：資料内容を見直し、論理構成を改善する。
13 回	授業テーマ：研究テーマ報告準備Ⅱ：報告資料修正 授業内容：研究テーマ報告会の資料を準備し、精度を高め、研究論点の明確化および論理展開の改善を図る。 事前学修 2.0hr：研究内容を再整理し資料を修正する。 事後学修 2.0hr：発表準備の不足点を補う。
14 回	授業テーマ：研究テーマ報告会の練習と資料修正 授業内容：研究テーマ報告会の発表練習を通じて説明方法や論理構成の適切性を確認し、指摘事項を踏まえて資料の修正を行う。 事前学修 2.0hr：発表原稿を作成し説明内容を整理する。 事後学修 2.0hr：改善点を反映し資料を修正する。
15 回	授業テーマ：研究レビューの総括と研究計画の確定 授業内容：研究テーマ報告会の発表結果を踏まえ、先行研究を最終的に整理し、修士論文作成に向けた研究課題と研究計画を確定する。 事前学修 2.0hr：研究レビュー全体を再確認する。 事後学修 2.0hr：今後の研究計画を文章としてまとめる。

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：後

小杉 学 (こすぎ まなぶ)

■ 授業の概要

修士論文のための予備調査の企画と実施を行い、得られた知見を報告書にまとめる。

■ 到達目標

- 一般目標：・修士論文のための予備調査の企画と実施ができる。
- 個別目標：・前学期に設定したテーマに即した予備調査の企画と実施ができる。
- ・得られたデータの整理と分析ができる。
 - ・予備調査結果を報告書にまとめることができる。
 - ・予備調査結果をパワーポイントを用いてプレゼンテーションすることができる。

■ 履修条件

- ・特別演習Ⅰを修得済みであること。
- ・「居住環境マネジメント特論」を修得済みであることが望ましい。

■ 評価基準・方法

- ・作業や議論への積極性、報告書の的確性、内容の密度、プレゼンテーションの明瞭性、質疑応答における正確性などを総合的に判断する。

■ フィードバック方法

- ・事前学修のフィードバックは指導時間内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、Powerpoint を搭載したノートパソコンを毎回持参すること。）

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書

- ・高橋佑磨・片山なつ『伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール』技術評論社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：予備調査の方向性 授業内容：予備調査の方向性について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：予備調査の方向性について構想し、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
2 回	授業テーマ：予備調査の仮企画 授業内容：予備調査の仮企画を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
3 回	授業テーマ：予備調査の企画 授業内容：仮企画を修正し、予備調査企画を決定する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
4 回	授業テーマ：アンケートシート・ヒアリングシートの作成 授業内容：アンケートシート、ヒアリングシートを作成する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
5 回	授業テーマ：アンケートシート・ヒアリングシートの修正 授業内容：アンケートシート、ヒアリングシートを修正する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
6 回	授業テーマ：対象者リスト、調査費用の検討 授業内容：対象者リスト、調査費用について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
7 回	授業テーマ：予備調査の実施 授業内容：予備調査を実施する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
8 回	授業テーマ：データの整理 授業内容：得られたデータを整理する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
9 回	授業テーマ：データの分析 授業内容：整理されたデータを分析する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
10 回	授業テーマ：得られた知見の考察 授業内容：分析から得られた知見を考察する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。

11 回	授業テーマ：予備調査報告書の執筆 授業内容：得られた知見と考察結果を報告書として執筆する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
12 回	授業テーマ：予備調査報告書の修正 授業内容：執筆した予備調査報告書を修正する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
13 回	授業テーマ：予備調査結果のプレゼンテーション作成 授業内容：予備調査結果報告書をもとにパワーポイントでプレゼンテーションを作成する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
14 回	授業テーマ：予備調査結果のプレゼンテーション修正 授業内容：作成したプレゼンテーションを修正する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、プレゼンテーションを作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、プレゼンテーションに反映できるようにまとめておく。
15 回	授業テーマ：発表練習 授業内容：完成したプレゼンテーションの発表練習を行う。スピーチの速度、音量、パワーポイントのタイミング、予想される質疑応答など。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、プレゼンテーションを作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、プレゼンテーションに反映させる。

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：後

小松 広明 (こまつ ひろあき)

■ 授業の概要

先行研究のレビューの結果について、事例-コード・マトリックスを用いて整理し、ストーリー化を行う。その上で、取り組むべき研究テーマの新規性について検討する。

■ 到達目標

一般目標：①先行研究のサーベイの結果を、事例-コード・マトリックスに整理することができる。

②論文のストーリーラインを示すことができる。

個別目標：取り組むべき研究テーマと先行研究との相対的位置づけ、研究の新規性について述べることができる。

■ 履修条件

『特別演習Ⅰ』の単位を修得していること。

■ 評価基準・方法

論文要約課題 50%、研究テーマの中間発表の内容 50%。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッションを適宜実施）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：事例-コード・マトリックスの概要 授業内容：前学期より作成している事例-コード・マトリックスを後学期においても継続して作成する。 事前学修 2.0hr：事例-コード・マトリックスについて調べておく。 事後学修 2.0hr：事例-コード・マトリックスの作成をイメージする。
2 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討①(量的データ分析と質的データ分析の比較) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(量的データと質的データを区分)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
3 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討②(量的データ分析の検討：使用データ・統計手法) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(量的データ)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
4 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討③(量的データ分析の検討：使用データ・統計手法) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(量的データ)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
5 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討④(量的データ分析の検討：使用データ・統計手法) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(量的データ)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
6 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討⑤(量的データ分析の検討：使用データ・統計手法) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(量的データ)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
7 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討⑥(質的データ分析の検討：アンケート調査) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(質的データ)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
8 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討⑦(質的データ分析の検討：アンケート調査) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(質的データ)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
9 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討⑧(質的データ分析の検討：インタビュー調査) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(質的データ)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
10 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討⑨(質的データ分析の検討：インタビュー調査) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(質的データ)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。

11 回	<p>授業テーマ：先行研究のサーベイ・要約・研究方法の検討⑩(質的データ分析の検討：インタビュー調査) 授業内容：研究論文の要約結果を報告し、その上で当該論文の研究目的、仮説設定、使用データ(質的データ)、分析手法、分析結果の解釈についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。</p>
12 回	<p>授業テーマ：事例-コード・マトリックスの作成①(マトリックスの作成) 授業内容：前学期に行った論文要約の結果とあわせて、事例-コード・マトリックス(表)を改めて作成する。 事前学修 2.0hr：事例-コード・マトリックスの構成案を作成する。 事後学修 2.0hr：事例-コード・マトリックスの構成案を精査する。</p>
13 回	<p>授業テーマ：事例-コード・マトリックスの作成②(コーディング) 授業内容：事例-コード・マトリックス(表)をもとに、定性的コーディングを行い、論文要約マトリックスを新たに作成する。 事前学修 2.0hr：事例-コード・マトリックスの構成案を作成する。 事後学修 2.0hr：事例-コード・マトリックスを完成させる。</p>
14 回	<p>授業テーマ：先行研究レビューのストーリー化・研究テーマの新規性の検討①(論文ストーリーラインの設定) 授業内容：論文要約マトリックスをもとに、先行研究のこれまでの流れを示した上で、これから取り組む研究の相対的な位置づけを明らかにする。 事前学修 2.0hr：事例-コード・マトリックスをもとにストーリー化する。 事後学修 2.0hr：取り組むべき研究テーマの新規性について吟味する。</p>
15 回	<p>授業テーマ：先行研究レビューのストーリー化・研究テーマの新規性の検討②(論文ストーリーラインの精査) 授業内容：論文要約マトリックスに示された定性的コーディングと事例-コード・マトリックスのテキストデータの比較検討を繰り返すことで、精査された論文ストーリーラインを示す。 事前学修 2.0hr：論文のストーリーラインについて検討する。 事後学修 2.0hr：論文のストーリーラインを示す。</p>

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：後

斎藤 千尋 (さいとう ちひろ)

■ 授業の概要

特別演習Ⅰで設定した目標に沿って、受講者の研究遂行に必要な知識、技術を修得する。

■ 到達目標

一般目標：修士号取得者に期待される分析能力、問題処理能力を身につけ、自分の研究テーマを説明できること。

個別目標：データの収集方法を身に付けること

データの整理方法を身に付けること

研究テーマの位置づけをすること

■ 履修条件

研究テーマを担当教員とよく相談してから履修すること。

■ 評価基準・方法

テーマ発表会における発表により、研究テーマの位置づけの明確さと分析の方針を評価する。

■ フィードバック方法

ゼミ中のフィードバックが中心であるが、時間外も、メール、manabaによる質疑応答を積極的に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（文献、データ収集、分析作業）

■ 教科書

なし。

■ 参考書

必要に応じて指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

研究領域全般の教養の学修と研究遂行に必要な分析方法の習得

授業内容

各自のテーマによって学習内容は異なるが、大枠以下のような流れで演習を進める。

研究に必要な知識の学習にあたっては、そのテーマにとって古典的な文献を読み、そこからつづく先行研究の積み重ねを辿ることで、受講者の設定した研究テーマの位置づけを明確なものにする。

研究に必要な分析手法の学習にあたっては、当該手法に関する標準的なテキストを選定、それに従い、学習、演習を進める。ある程度の学習が進んだ時点で、研究テーマに沿った調査や分析作業に着手し、学習効果を確認する。不足する知識、技術を再確認し特別演習Ⅲの調査・分析作業に備える。

事前学修

ゼミの発表や演習に必要な文献収集、読書、調査、分析作業を行うこと。

研究の経過を研究ノートにまとめること。 各 3.5hr

事後学修

ゼミで指摘された事項を研究ノートにまとめ、作業の方針に反映すること。 各 0.5hr

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：後

中城 康彦 (なかじょう やすひこ)

■ 授業の概要

前学期の演習の成果を踏まえ、論文のテーマを設定するための指導を行う。研究課題に関連する既存文献をサーベイして問題意識を深める。研究計画を作成して論文完成までのスケジュールを作成する。

■ 到達目標

一般目標：不動産が抱える課題や未解決の事象を把握でき、それらについて、客観的、合理的に整理する能力を身につける。

個別目標：・ 学術論文を探索して読み込むことができる。

・ 不動産と社会の関係を説明できる。

・ 設定した課題を解決するための道筋を描くことができる。

■ 履修条件

授業中は積極的に成果を公表するとともに議論に参加すること。

■ 評価基準・方法

課題に対する取り組みとその成果により評価する。随時提出するミニレポート等の内容より理解度を確認し、必要に応じてフィードバックする。

■ フィードバック方法

各回、当日のディスカッションの内容について振り返りのプレゼンテーションをする。補足すべき点について指摘を受けた場合は翌週までに指摘内容をカバーして提示する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（授業は双方向の意見交換を重視して行う）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（論文取りまとめの図表の作成ほかに利用する）

■ 教科書

研究テーマごとに別途指示する。

■ 参考書

中城康彦「教養としての「不動産」大全」日本実業出版社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：授業の目的、スケジュール、方法の説明 授業内容：授業の進め方、取り組み姿勢、スケジュールなどについて確認する 事前学修 2.0hr：特別演習Ⅰの内容を再確認する 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
2 回	授業テーマ：問題意識の確認とその背景 授業内容：論文の作成を進めるにあたって、持っている問題意識の確認と抱えている課題を整理する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
3 回	授業テーマ：問題意識を説明する文献、資料の収集 授業内容：問題意識と関係する文献、論文、関連資料の所在を把握して入手する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
4 回	授業テーマ：収集した文献、資料の考え方と各自の考え方 授業内容：問題意識と収集した資料を比較考量して問題意識の確認を行う 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
5 回	授業テーマ：問題意識に即した既往研究の収集 授業内容：問題意識と関連するテーマについて著わされた既往研究を収集する 事前学修 2.0hr：既往研究を収集して読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
6 回	授業テーマ：既往研究の考え方と各自の考え方 授業内容：既往研究を読み解き、研究目的、方法、分析、結論の妥当性に考察を加える。併せて、自己の研究テーマとの関係性を位置づける 事前学修 2.0hr：既往研究を収集して読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
7 回	授業テーマ：既往研究の考え方と各自の考え方 授業内容：既往研究を読み解き、研究目的、方法、分析、結論の妥当性に考察を加える。併せて、自己の研究テーマとの関係性を位置づける 事前学修 2.0hr：既往研究を収集して読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
8 回	授業テーマ：研究テーマと仮説の設定 授業内容：これまでの学修を踏まえ、研究テーマを設定する。併せて、研究方法やスケジュールを考量して、導かれる結論について仮説を設定する 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
9 回	授業テーマ：研究テーマをめぐる近時の状況の整理 授業内容：研究テーマは多分に社会経済的に顕在化する課題を取り扱うところ、関連する事象をレビューして研究テーマ、方法の妥当性と社会的意義を確認する 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
10 回	授業テーマ：研究テーマをめぐる近時の状況の整理 授業内容：研究テーマは多分に社会経済的に顕在化する課題を取り扱うところ、関連する事象をレビューして研究テーマ、方法の妥当性と社会的意義を確認する 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

11 回	授業テーマ：研究テーマの検証 授業内容：研究したいこととその研究が可能かどうかは冷静に分析する必要がある。研究テーマに即した研究方法が展開できるか整理する。併せて、研究したいことと勉強したいことに混同がないか確認する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
12 回	授業テーマ：研究計画の作成 授業内容：修士論文への取組を本格化させる時期であることから、研究計画を再度検証する 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
13 回	授業テーマ：研究計画の発表 授業内容：研究テーマ、研究内容、これまでの研究成果等を取りまとめて研究計画として発表する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
14 回	授業テーマ：研究計画の修正 授業内容：異なる分野の教員などの意見を積極的に聴取し、研究計画に修正すべき点がないか検討して必要な修正を加える 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：これまでの学修内容を取りまとめて、本授業の成果とする 事前学修 2.0hr：まとめの事前準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：後

浜島 裕美 (はまじま ひろみ)

■ 授業の概要

特別演習Ⅰで習得した知識をふまえ、修士論文執筆に向けた具体的研究を行う。法律の論文は、図表よりも文章で論じることが多いため、レジュメを数多く作成して発表し、修士論文発表の準備を行う。

■ 到達目標

一般目標：修士論文作成に向け、既存研究の読み込みや最新の法的動向の調査を行う。また、レジュメやレポートを作成し、発表を行うことで、自分の考えを表現する能力を高める。

個別目標：(1) 修士論文のテーマを確定することができる。

(2) テーマに必要な情報収集・調査の方法を理解し、具体的に着手することができる。

■ 履修条件

特別演習Ⅰを修得していること。

■ 評価基準・方法

課題への取り組みと成果物、発表マナーの修得状況により評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word ソフトを搭載したノートパソコンを必要に応じて持参すること）

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：論文執筆と今後の作業に関するスケジュールを確認する。 事前学修 2.0hr：研究テーマの検討 事後学修 2.0hr：研究の背景・問題意識の考察、レジュメ作成。
2 回	授業テーマ：研究の背景・問題意識の検討(1)最新の法制度や社会の動向等に照らして、研究の背景が適切か検討する 授業内容：研究の背景が適切か検討する。 事前学修 2.0hr：研究の背景・問題意識の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：研究の背景・問題意識の考察、レジュメ作成
3 回	授業テーマ：研究の背景・問題意識の検討(2)最新の法制度や社会の動向等に照らして、問題意識が適切か検討する 授業内容：問題意識が適切か検討する。 事前学修 2.0hr：研究の背景・問題意識の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：研究内容の新規性・独自性の考察、レジュメ作成
4 回	授業テーマ：研究内容の新規性・独自性の検討(1)既往研究に照らして、研究内容の新規性を検討する 授業内容：研究内容の新規性を検討する。 事前学修 2.0hr：研究内容の新規性・独自性の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：研究内容の新規性・独自性の考察、レジュメ作成
5 回	授業テーマ：研究内容の新規性・独自性の検討(2)既往研究に照らして、研究内容の独自性を検討する 授業内容：研究内容の独自性を検討する。 事前学修 2.0hr：研究内容の新規性・独自性の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：既往研究・関連研究の収集・分析、レジュメ作成
6 回	授業テーマ：既往研究・関連研究の収集・分析(1)既往研究を収集・分析する 授業内容：扱う研究の収集・分析結果をまとめる。 事前学修 2.0hr：既往研究・関連研究の収集・分析、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：既往研究・関連研究の収集・分析、レジュメ作成
7 回	授業テーマ：既往研究・関連研究の収集・分析(2)関連研究を収集・分析する 授業内容：関連研究の収集・分析結果をまとめる。 事前学修 2.0hr：既往研究・関連研究の収集・分析、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：関連判例収集・分析、レジュメ作成
8 回	授業テーマ：関連判例収集・分析(1)関連判例を収集・分析する 授業内容：関連判例の収集・分析結果をまとめる。 事前学修 2.0hr：関連判例収集・分析、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：関連判例評釈収集・分析、レジュメ作成
9 回	授業テーマ：関連判例収集・分析(2)関連判例の評釈を収集・分析する 授業内容：関連判例の評釈の収集・分析結果をまとめる。 事前学修 2.0hr：関連判例評釈収集・分析、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
10 回	授業テーマ：テーマに関連する諸問題の検討(1)テーマから派生する問題について検討する 授業内容：派生問題を検討する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
11 回	授業テーマ：テーマに関連する諸問題の検討(2)テーマから派生する問題について文献等の収集・分析を行う 授業内容：派生問題に関する文献等の収集・分析結果をまとめる。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：比較法的視点からの考察、レジュメ作成

12 回	授業テーマ：比較法的視点からの検討(1)英米法系の法制度について検討を行う 授業内容：外国法との比較検討を行う。英米法系の法制度の検討 事前学修 2.0hr：比較法的視点からの考察、レジюме作成 事後学修 2.0hr：比較法的視点からの考察、レジюме作成
13 回	授業テーマ：比較法的視点からの検討(2)大陸法系の法制度について検討を行う 授業内容：外国法との比較検討を行う。大陸法系の法制度の検討 事前学修 2.0hr：比較法的視点からの考察、レジюме作成 事後学修 2.0hr：研究計画書作成
14 回	授業テーマ：作業の洗い出し・研究計画書作成 授業内容：必要な作業の洗い出し・研究計画書の検討 事前学修 2.0hr：研究計画書作成 事後学修 2.0hr：まとめ
15 回	授業テーマ：まとめと講評 授業内容：前回までの作業・検討結果のまとめと講評を行う。 事前学修 2.0hr：まとめ 事後学修 2.0hr：まとめ

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：後

原野 啓 (はらの けい)

■ 授業の概要

修士論文の作成にむけて、経済理論・実証分析の理解を深め、研究論点を明確化し、研究テーマの設定を行う。

■ 到達目標

一般目標：研究テーマ発表会において、多数の既存研究を精読してレビューをまとめ、修士論文の背景・研究の位置づけを整理した発表ができる

個別目標：・ 修士論文のテーマを決めること

・ 研究テーマに関連する既存研究を理解できるようになること

・ 研究テーマと複数の既存研究の相違点を

■ 履修条件

大学院の「不動産計量経済分析特論」を必ず履修すること。

なお、学部時代に「計量経済学」を履修していない場合は、学部で前期開講している「計量経済学」を必ず履修すること。詳細は教員に問い合わせること。

■ 評価基準・方法

授業課題への取り組みと成果により評価する。

■ フィードバック方法

各授業の冒頭で行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（講義内容を踏まえて、講義内でディスカッションをする）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（PC(特にエクセル)を用いて計量分析の演習を行う）

■ 教科書

研究テーマを踏まえて、適宜指示する。

■ 参考書

研究テーマを踏まえて、適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：ガイダンスを行う 事前学修 3.0hr：興味がある研究テーマについて検討し、資料や先行研究の整理する 事後学修 1.0hr：講義内容を踏まえて、研究テーマを再検討し、資料や先行研究の整理する
2 回	授業テーマ：研究テーマの検討：研究テーマを大雑把に決める 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
3 回	授業テーマ：研究テーマの検討：何を明らかにすべきか仮説を検討する 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
4 回	授業テーマ：既存研究のレビュー：関係する論文を収集する 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
5 回	授業テーマ：既存研究のレビュー：目的・論証方法・結論を整理する 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
6 回	授業テーマ：既存研究のレビュー：目的・論証方法・結論を整理する 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
7 回	授業テーマ：既存研究のレビュー：研究テーマと既存研究の関係を整理する 授業内容：研究テーマに関連する理論モデルの学修 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
8 回	授業テーマ：研究テーマの再検討：研究テーマ及び仮説を再考する 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
9 回	授業テーマ：既存研究のレビュー：関係する論文を追加収集する 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
10 回	授業テーマ：既存研究のレビュー：目的・論証方法・結論を再整理する 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
11 回	授業テーマ：既存研究のレビュー：研究テーマと既存研究の関係を整理し、仮説や論証方法を検討する 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する

12 回	授業テーマ：研究テーマ発表会の資料作成 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
13 回	授業テーマ：研究テーマ発表会の資料作成 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
14 回	授業テーマ：研究テーマ発表会の発表練習および資料修正 授業内容：研究テーマに関連する先行研究のサーベイ 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する
15 回	授業テーマ：発表を踏まえて既存研究の最収集および再整理を行う 授業内容：研究テーマの整理 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：演習での議論等を踏まえて、事前準備をした資料を修正・補完する

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：後

藤木 亮介 (ふじき りょうすけ)

■ 授業の概要

修士論文の執筆に向けて建築ストックに関連する社会問題を把握し、修士論文のテーマを設定する。

■ 到達目標

一般目標：修士論文の執筆に向けて、自らが設定した研究テーマの意義を説明するための能力を修得する。

個別目標：・ 研究テーマを設定し、既往研究との関係を説明できる。

・ 研究テーマに関する研究方法を説明できる。

■ 履修条件

特別演習Ⅰを修得済みであること。

建築基準法、都市計画法、区分所有法(建物の区分所有等に関する法律)の基礎知識を有していること。

■ 評価基準・方法

授業への取り組み姿勢や積極性、作成した研究資料、教員との議論の内容などを総合的に評価する。

■ フィードバック方法

事前学修のフィードバックは指導時間内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（エクセル・ワードを用いて研究資料を作成する。パワーポイントを用いてプレゼン資料を作成する。）

■ 教科書

特になし。

■ 参考書

必要に応じて紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業のすすめ方、研究テーマ発表会にむけたスケジュール、全体構成について説明する。また、特別演習Ⅰの成果を振り返る。 事前学修 2.0hr：特別演習Ⅰの成果を整理する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。
2 回	授業テーマ：研究テーマの仮設定 授業内容：特別演習Ⅰの成果を踏まえ、研究テーマを仮設定する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：特別演習Ⅰの成果を踏まえて、研究テーマを検討する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究テーマについて再度検討する。
3 回	授業テーマ：研究テーマの設定 授業内容：前回授業を踏まえ、研究テーマを設定する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：前回授業を踏まえて、研究テーマを検討する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。
4 回	授業テーマ：研究方法の検討-1 授業内容：研究の方法を検討し報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：研究テーマに応じた研究方法を検討する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究方法について再度検討する。
5 回	授業テーマ：研究方法の検討-2 授業内容：研究の方法を検討し報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：研究テーマに応じた研究方法を検討する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。
6 回	授業テーマ：情報収集・調査内容の検討 授業内容：情報収集方法、ならびに調査方法を検討し報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：研究テーマに応じた情報収集方法、調査方法を検討する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。
7 回	授業テーマ：調査・情報収集-1 授業内容：収集したデータを整理し報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：調査を行い、データを収集する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、収集したデータの整理を行う。
8 回	授業テーマ：調査・情報収集-2 授業内容：収集したデータを整理し報告する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：調査を行い、データを収集する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、収集したデータの整理を行う。
9 回	授業テーマ：データ分析-1 授業内容：収集したデータを分析し考察する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：収集したデータを分析する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、収集したデータの追加分析を行う。
10 回	授業テーマ：データ分析-2 授業内容：収集したデータを分析し考察する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：収集したデータを分析する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、収集したデータの追加分析を行う。
11 回	授業テーマ：研究テーマ発表資料の作成・発表練習-1 授業内容：これまでの成果をまとめて、研究テーマ発表会にむけた資料を作成し、発表練習をする。 事前学修 2.0hr：研究テーマ発表資料を作成する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究テーマ発表資料の修正を行う。
12 回	授業テーマ：研究テーマ発表資料の作成・発表練習-2 授業内容：これまでの成果をまとめて、研究テーマ発表会にむけた資料を作成し、発表練習をする。 事前学修 2.0hr：研究テーマ発表資料を作成する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究テーマ発表資料の修正を行う。

13 回	授業テーマ：研究テーマ・研究内容の再調整-1 授業内容：研究テーマ発表会を踏まえて、研究テーマ・研究内容を再調整する。 事前学修 2.0hr：研究テーマ発表会での指摘事項を整理する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究テーマ・研究内容の再調整を行う。
14 回	授業テーマ：研究テーマ・研究内容の再調整-2 授業内容：研究テーマ発表会を踏まえて、研究テーマ・研究内容を再調整する。 事前学修 2.0hr：研究テーマ発表会での指摘事項を整理する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究テーマ・研究内容の再調整を行う。
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：修士論文執筆に向けて、これまでの成果を整理する。 事前学修 2.0hr：前回授業での指摘事項を踏まえて後学期の成果をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で指摘された内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1年次 | 2単位 | 開講期：後

前島 彩子 (まえしま あやこ)

■ 授業の概要

特別演習Ⅰの成果をふまえ、修士論文の研究テーマを検討する。

研究テーマの検討にあたっては、研究目的を明らかにすること、目的に適した調査方法を導くこと、既往研究との位置づけを明確にすることに取り組む。以上の成果を研究テーマ発表会で発表し、意見を踏まえて検討・修正する。

■ 到達目標

一般目標：研究テーマ発表会において、研究の目的、方法、位置づけを説明できる。

個別目標：(1) 修士論文のテーマを固める。

(2) 修士論文のテーマと先行研究の関係が説明できる。

(3) 修士論文のテーマ追求に適した調査方法が説明できる。

■ 履修条件

特別演習Ⅰの単位を取得していること。

■ 評価基準・方法

授業への参加状況と研究テーマ報告会の内容を総合して判断する。

■ フィードバック方法

ゼミで直接コメントするとともに LMS に蓄積する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（現地視察、プレゼンテーション、反転授業、ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word、図面作成ソフト等を搭載したノートパソコンを持参する。）

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜案内する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：研究テーマ発表会に向けた活動スケジュールを確認する。 事前学修 1.0hr：事前準備 事後学修 3.0hr：次回の展開整理
2 回	授業テーマ：研究の内容の具体的検討<概要> 授業内容：プレ調査の結果を踏まえ、調査の実行可能性を含めて研究内容を具体的に検討する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
3 回	授業テーマ：研究の内容の具体的検討<詳細> 授業内容：研究内容の検討を深める。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
4 回	授業テーマ：先行研究のレビュー<収集> 授業内容：関連の深い論文の収集を進める。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
5 回	授業テーマ：先行研究のレビュー<整理> 授業内容：関連の深い論文の背景、目的、方法、結論の整理を行う。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
6 回	授業テーマ：先行研究のレビュー<追加整理> 授業内容：関連の深い論文の背景、目的、方法、結論の整理を追加する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
7 回	授業テーマ：先行研究のレビュー<位置づけ> 授業内容：先行研究と研究テーマの位置づけを整理する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
8 回	授業テーマ：研究テーマの再検討 授業内容：先行研究のレビューを踏まえて、研究テーマを再検討する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
9 回	授業テーマ：先行研究の追加収集 授業内容：再検討した研究テーマに沿った先行研究を追加収集する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
10 回	授業テーマ：先行研究の再整理 授業内容：追加収集した先行研究について、背景、目的、方法、結論を整理する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
11 回	授業テーマ：先行研究と研究テーマの位置づけ再整理 授業内容：先行研究と研究テーマの位置づけを再度整理する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理

12 回	授業テーマ：研究テーマ発表会資料の作成 授業内容：これまでの活動をまとめ、研究テーマ発表会で発表できる形式の資料にまとめる。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
13 回	授業テーマ：研究テーマ発表会資料の作成、発表練習 授業内容：準備した発表資料に基づき、発表練習を行う。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
14 回	授業テーマ：研究テーマ及び研究アプローチの再検討 授業内容：発表に対するコメントを参考にして、研究テーマ及びアプローチを再検討する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：論文をまとめるにあたって今後必要となる取組を確認する。 事前学修 3.0hr：事前準備 事後学修 1.0hr：次回の展開整理

特別演習Ⅱ

開講学科等：不動産博前 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：後

山本 卓 (やまもと たかし)

■ 授業の概要

修士論文の作成に向けて、不動産に係る経営学領域においての各種文献調査、先行研究の把握・整理、研究論点の明確化と研究テーマの決定を行う。

■ 到達目標

一般目標：不動産にかかる、経営、管理、情報分析の知見を身につけ、不動産を効果的に活用する提案のための理論的知見と実証技能を獲得する。

個別目標：不動産に係る経営学領域において、学術論文を作成するために必要となる以下の基礎的能力を身につける。

- ・文献調査能力
- ・仮説構築能力
- ・データ分析能力
- ・論理展開能力
- ・論文作成能力
- ・プレゼン能力

■ 履修条件

「不動産会計特論」の履修を条件とする。

■ 評価基準・方法

授業への参加状況と課題への取り組み状況に基づき評価する。

■ フィードバック方法

面談でのフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（自分自身の研究状況の発表、質疑応答が予定されている。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（論文作成や研究発表等で、ワードやパワーポイントを使用する。）

■ 教科書

修士論文の研究テーマを考慮し、学生と相談のうえ適切な文献を指示する。

■ 参考書

山本卓 (2009) 『財務情報と企業不動産分析』 創成社

山本卓 (2011) 『企業不動産の会計と環境』 創成社

山本卓 (2013) 『不動産会計と経営行動』 創成社

山本卓 (2015) 『投資不動産会計と公正価値評価』 創成社

山本卓編著 (2017) 『グローバル社会と不動産価値』 創成社

山本卓編著 (2021) 『ストック型社会への企業不動産分析』 創成社

山本卓 (2025) 『企業不動産読本』 KEN 不動産研究

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：特別演習Ⅰの成果に基づき、修士論文作成に向けた、基本的作業事項、スケジュールを教員が示し、教員、学生の双方が課題意識を共有する。 事前学修 3.0hr：研究の方向性を考える。 事後学修 3.0hr：研究の方向性を明確にする。
2 回	授業テーマ：修士論文のテーマ検討 授業内容：特別演習Ⅰの成果に基づき、適切な修士論文のテーマ設定について、教員・学生が議論する。 事前学修 3.0hr：修士論文のテーマを準備する。 事後学修 3.0hr：修士論文の概ねのテーマを固める。
3 回	授業テーマ：文献調査の方法論 授業内容：特別演習Ⅰの成果に基づき、より詳細で網羅的な、文献調査を目的とした方法論を学ぶ。 事前学修 3.0hr：研究論点に基づき、文献を収集する方向性や範囲を検討する。 事後学修 3.0hr：授業における討議に基づき、収集する文献の方向性や範囲を決める。
4 回	授業テーマ：先行研究のリスト作成 授業内容：第 3 回授業に基づき、より詳細で、網羅的・体系的な先行研究リストを作成する。それに基づき、文献収集方法を検討する。 事前学修 3.0hr：収集する文献のリストの素案を考える。 事後学修 3.0hr：収集する文献のリストを固める。
5 回	授業テーマ：先行研究の検討 (和文研究書) 授業内容：第 4 回で作成された先行研究リストに基づいた文献調査 (和文研究書) を行う。収集された文献を読み込み、研究内容を批判的に吟味する。 事前学修 3.0hr：文献の読み込みと報告用レポートを準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づき、当該結果を文書化する。
6 回	授業テーマ：先行研究の検討 (和文雑誌) 分野 1 授業内容：第 4 回で作成された先行研究リストに基づいた文献調査 (和文雑誌・分野 1) を行う。収集された文献を読み込み、研究内容を批判的に吟味する。 事前学修 3.0hr：文献の読み込みと報告用レポートを準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づき、当該結果を文書化する。
7 回	授業テーマ：先行研究の検討 (和文雑誌) 分野 2 授業内容：第 4 回で作成された先行研究リストに基づいた文献調査 (和文雑誌・分野 2) を行う。収集された文献を読み込み、研究内容を批判的に吟味する。 事前学修 3.0hr：文献の読み込みと報告用レポートを準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づき、当該結果を文書化する。
8 回	授業テーマ：先行研究の検討 (和文雑誌) 分野 3 授業内容：第 4 回で作成された先行研究リストに基づいた文献調査 (和文雑誌・分野 3) を行う。収集された文献を読み込み、研究内容を批判的に吟味する。 事前学修 3.0hr：文献の読み込みと報告用レポートを準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づき、当該結果を文書化する。

9 回	<p>授業テーマ：サーベイ論文の中間報告 授業内容：第 5 回から第 8 回までの授業を踏まえ、それらの要点をパワーポイントのスライドにまとめ報告してもらう。それに基づき、教員と学生が議論を行い、重要論点の漏れがないか確認する。 事前学修 3.0hr：上記の作業に基づき、中間報告用のサーベイ論文の素案を準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づきサーベイ論文素案に肉付けの方向性を検討する。</p>
10 回	<p>授業テーマ：先行研究の検討 (英文ジャーナル) 分野 1 授業内容：第 4 回で作成された先行研究リストに基づいた文献調査 (英文ジャーナル・分野 1) を行う。収集された文献を読み込み、研究内容を批判的に吟味する。 事前学修 3.0hr：文献の読み込みと報告用レポートを準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づき、当該結果を文書化する。</p>
11 回	<p>授業テーマ：先行研究の検討 (英文ジャーナル) 分野 2 授業内容：第 4 回で作成された先行研究リストに基づいた文献調査 (英文ジャーナル・分野 2) を行う。収集された文献を読み込み、研究内容を批判的に吟味する。 事前学修 3.0hr：文献の読み込みと報告用レポートを準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づき、当該結果を文書化する。</p>
12 回	<p>授業テーマ：先行研究の検討 (英文ジャーナル) 分野 3 授業内容：第 4 回で作成された先行研究リストに基づいた文献調査 (英文ジャーナル・分野 3) を行う。収集された文献を読み込み、研究内容を批判的に吟味する。 事前学修 3.0hr：文献の読み込みと報告用レポートを準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づき、当該結果を文書化する。</p>
13 回	<p>授業テーマ：関連データの検討 授業内容：主として、実証研究で使用する各種データ(財務データ・企業不動産データ・地域データ等)の内容や範囲について、教員・学生の議論に基づき方向づけを行う。 事前学修 3.0hr：文献以外で収集すべきデータ等の内容・範囲を検討する。 事後学修 3.0hr：収集すべきデータの内容・範囲を明確化する。</p>
14 回	<p>授業テーマ：研究論点の明確化と仮説の構築 授業内容：特別演習 I 及び第 1 回から第 13 回授業の成果に基づき、より詳細な研究論点の明確化と仮説の構築を行う。 事前学修 3.0hr：上記の文献調査に基づき、修士論文の研究論点と仮説を考える。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づき、研究論点・仮説を明確化する。</p>
15 回	<p>授業テーマ：サーベイ論文の報告 授業内容：第 1 回から第 14 回授業の成果を、サーベイ論文の形にまとめ、それを報告してもらう。これに基づき、特別演習 I と特別演習 II の成果の確認を行う。 事前学修 3.0hr：修士論文の研究テーマに関連した最終的なサーベイの素案を準備する。 事後学修 3.0hr：授業での討議に基づき、研究テーマに関連したサーベイ論文を最終化する。</p>

特別演習Ⅲ

開講学科等：不動産博前 | 2 年次 | 2 単位 | 開講期：前

兼重 賢太郎 (かねしげ けんたろう)

■ 授業の概要

特別演習ⅠおよびⅡの成果を踏まえ、受講者各自の修士論文執筆に向けた研究を深化させる。

■ 到達目標

一般目標：受講者各自の修士論文の完成に向け、最終論文の中間的な位置づけとなる成果物(中間報告論文)を完成させることを一般目標とする。

個別目標：修士論文の研究計画を深化させること、各自の研究テーマに関連する既往研究を分析・評価すること、収集した判例・データ等を各自の視点から整理・分析すること、以上を個別目標とする。

■ 履修条件

特別演習ⅠとⅡを習得済みであること。不動産公法特論を履修済みであることが望ましい。

■ 評価基準・方法

演習への取り組み姿勢、成果物(中間報告論文等)を総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、演習の時間内をはじめ、随時行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(毎回、教員・受講者で議論する。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(報告・発表等のために PC を利用する。)

■ 教科書

必要に応じて、適宜、指示する。

■ 参考書

必要に応じて、適宜、指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：全体の進め方を確認するとともに、研究テーマ・研究計画について、教員・他の受講者を交えて、議論する。 事前学修 2.0hr：現時点での、受講者各自の研究テーマ・研究計画等をあらかじめ整理しておくこと。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、研究テーマ・研究計画等を見直すこと。
2 回	授業テーマ：特別演習Ⅱの成果確認(1) 授業内容：特別演習Ⅱの成果を報告し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：特別演習Ⅱの成果を報告するための資料を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、作成した資料をブラッシュアップすること。
3 回	授業テーマ：特別演習Ⅱの成果確認(2) 授業内容：前回の指摘・議論を踏まえてブラッシュアップした内容を報告し、それについて善意案で議論する。 事前学修 3.0hr：前回の指摘事項等を踏まえ、ブラッシュアップした報告資料を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、作成した資料をさらにブラッシュアップすること。
4 回	授業テーマ：研究方法論(1)：文献資料研究 授業内容：修士論文の参考とする文献等の要約を報告し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：これまでの収集した文献等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
5 回	授業テーマ：研究方法論(2)：判例研究 授業内容：参考となる判例等の要約を報告し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：これまでの収集した判例等を読み込み、要約を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
6 回	授業テーマ：研究方法論(3)：その他の方法論 授業内容：修士論文に関する研究方法の要約を報告し、それについて全員で議論する。 事前学修 2.0hr：これまでの研究経緯を踏まえた研究方法を検討し、その要約を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、要約をブラッシュアップすること。
7 回	授業テーマ：研究テーマの熟考(1)：研究対象・目的の確定 授業内容：これまでの演習を踏まえ、研究対象・目的に関するレポートを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：これまでの演習を踏まえ、研究対象、研究目的、研究の背景などについて、報告レポートを作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、レポートをブラッシュアップすること。
8 回	授業テーマ：研究テーマの熟考(2)：研究方法の確定 授業内容：これまでの演習を踏まえ、研究テーマに即した研究方法に関するレポートを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：これまでの演習を踏まえ、研究テーマに即した研究方法に関するレポートを作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、レポートをブラッシュアップすること。
9 回	授業テーマ：研究テーマの熟考(3)：収集データ等の整理 授業内容：これまでの演習を踏まえ、研究テーマに即した収集データ等を整理したレポートを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：これまでに収集したデータ等を整理し、それらをまとめたレポートを作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、レポートをブラッシュアップすること。
10 回	授業テーマ：中間報告論文の作成(1)：関連する文献・判例リストの完成 授業内容：中間報告論文の当該部分を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究テーマに関連する文献・判例等を収集したうえで、文献・判例リストを完成させ、論文の一部として作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、ブラッシュアップすること。
11 回	授業テーマ：中間報告論文の作成(2)：研究方法・研究目的・研究の射程の精査 授業内容：中間報告論文の当該部分を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：研究方法・研究目的・研究の射程を精査し、論文形式で作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、ブラッシュアップすること。
12 回	授業テーマ：中間報告論文の作成(3)：収集データ等の分析 授業内容：中間報告論文の当該部分を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：調査対象や方法論を明示したうえで、収集データ等を分析し、論文形式で作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、ブラッシュアップすること。

13 回	<p>授業テーマ：中間報告論文の作成(4)：結論の完成および全体的な見直し</p> <p>授業内容：これまでの演習を踏まえ、結論をまとめたうえで、中間報告論文を提出し、それについて全員で議論する。</p> <p>事前学修 3.0hr：これまでの演習を踏まえ、結論をまとめたうえで、修士論文の中間報告論文を作成すること。</p> <p>事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、全体的な見直しを行ない、中間報告論文をブラッシュアップすること。</p>
14 回	<p>授業テーマ：中間報告論文の完成</p> <p>授業内容：これまでの演習を踏まえ、中間報告論文を提出し、それについて全員で議論する。</p> <p>事前学修 4.0hr：前回の演習での指摘・議論等を踏まえ、中間報告論文を完成させること。</p> <p>事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、中間報告論文をブラッシュアップし、完成させること。</p>
15 回	<p>授業テーマ：中間報告論文の提出</p> <p>授業内容：中間報告論文を提出し、それについて全員で議論する。</p> <p>事前学修 4.0hr：これまでの成果として、中間報告論文を完成させ、報告・提出すること。</p> <p>事後学修 3.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、全体を見直し、中間報告論文をさらにブラッシュアップし、特別演習Ⅳに備えること。</p>

特別演習Ⅲ

開講学科等：不動産博前 | 2年次 | 2単位 | 開講期：前

小杉 学 (こすぎ まなぶ)

■ 授業の概要

修士論文のための調査の企画と実施を行い、得られた知見を報告書にまとめる。

■ 到達目標

- 一般目標：・修士論文のための調査の企画と実施ができる。
- 個別目標：・前年度に設定したテーマに即した調査の企画と実施ができる。
- ・得られたデータの整理と分析ができる。
 - ・調査結果を報告書にまとめることができる。
 - ・調査結果をパワーポイントを用いてプレゼンテーションすることができる。

■ 履修条件

- ・特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱを修得済みであること。
- ・「居住環境マネジメント特論」を修得済みであることが望ましい。

■ 評価基準・方法

・作業や議論への積極性、報告書の的確性、内容の密度、プレゼンテーションの明瞭性、質疑応答における正確性などを総合的に判断する。

■ フィードバック方法

・事前学修のフィードバックは指導時間内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・プレゼンテーション）

■ 授業でのPCの利用（利用内容）

あり（Word、Powerpoint を搭載したノートパソコンを毎回持参すること。）

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書

・高橋佑磨・片山なつ『伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール』技術評論社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：調査の方向性 授業内容：調査の方向性について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：調査の方向性について構想し、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
2 回	授業テーマ：調査の仮企画 授業内容：調査の仮企画を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
3 回	授業テーマ：調査の企画 授業内容：仮企画を修正し、調査企画を決定する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
4 回	授業テーマ：アンケートシート・ヒアリングシートの作成 授業内容：アンケートシート、ヒアリングシートを作成する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
5 回	授業テーマ：アンケートシート・ヒアリングシートの修正 授業内容：アンケートシート、ヒアリングシートを修正する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
6 回	授業テーマ：対象者リスト、調査費用の検討 授業内容：対象者リスト、調査費用について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
7 回	授業テーマ：調査の実施 授業内容：調査を実施する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
8 回	授業テーマ：データの整理 授業内容：得られたデータを整理する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
9 回	授業テーマ：データの分析 授業内容：整理されたデータを分析する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
10 回	授業テーマ：得られた知見の考察 授業内容：分析から得られた知見を考察する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。

11 回	授業テーマ：調査報告書の執筆 授業内容：得られた知見と考察結果を報告書として執筆する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
12 回	授業テーマ：調査報告書の修正 授業内容：執筆した調査報告書を修正する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
13 回	授業テーマ：調査結果のプレゼンテーション作成 授業内容：調査報告書をもとにパワーポイントでプレゼンテーションを作成する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
14 回	授業テーマ：調査結果のプレゼンテーション修正 授業内容：作成したプレゼンテーションを修正する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、プレゼンテーションを作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、プレゼンテーションに反映できるようにまとめておく。
15 回	授業テーマ：発表練習 授業内容：完成したプレゼンテーションの発表練習を行う。スピーチの速度、音量、パワーポイントのタイミング、予想される質疑応答など。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、プレゼンテーションを作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、プレゼンテーションに反映させる。

特別演習Ⅲ

開講学科等：不動産博前 | 2 年次 | 2 単位 | 開講期：前

小松 広明 (こまつ ひろあき)

■ 授業の概要

研究テーマに関連する統計データを収集し、仮説の設定を行う。その上で、当該仮説を検証するための手法として、定量的アプローチ、定性的アプローチのそれぞれの特徴を踏まえて適切に選定する。当該分析結果の解釈を行う。

■ 到達目標

一般目標：研究テーマのもとに、①研究の目的、②仮説の設定、③研究の方法、④結果の4つに即して論文を構成できる。

個別目標：研究テーマのもとに、仮説検証の分析手法として、定量的アプローチ、定性的アプローチのそれぞれの特徴を解説することができる。

■ 履修条件

特別演習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

統計分析手法の検討結果 80 %、分析結果の解釈 20 %。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

なし

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（ノート型 PC を指示にしたがって持参すること。）

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：研究テーマに即応した統計データの探索・収集① 授業内容：仮説の設定を行うために、研究テーマに即応した統計データを広く集める。 事前学修 2.0hr：研究テーマに関連する統計データを収集する。 事後学修 2.0hr：仮説を導出するために、統計データを用いて図表を作成する。
2 回	授業テーマ：研究テーマに即応した統計データの探索・収集② 授業内容：仮説の設定を行うために、研究テーマに即応した統計データを継続して収集する。 事前学修 2.0hr：研究テーマに関連する統計データを収集する。 事後学修 2.0hr：仮説を導出するために、統計データを用いて図表を作成する。
3 回	授業テーマ：仮説の設定① 授業内容：統計データ、既往研究をもとに仮説を設定する。 事前学修 2.0hr：研究テーマに即した既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
4 回	授業テーマ：仮説の設定② 授業内容：統計データ、既往研究をもとに、仮説を修正のうえ、再度設定する。 事前学修 2.0hr：研究テーマに即した既往の研究論文を精読し、要約する。 事後学修 2.0hr：論文要約の内容を精査する。
5 回	授業テーマ：統計分析手法の検討① 授業内容：定量的アプローチとして、ヘドニック・アプローチの適用可能性を検討する。 事前学修 2.0hr：ヘドニック・アプローチについて調べる。 事後学修 2.0hr：分析手法の特徴を踏まえて、使用データと適用可能性について考察する。
6 回	授業テーマ：統計分析手法の検討② 授業内容：定量的アプローチとして、操作変数法の適用可能性を検討する。 事前学修 2.0hr：操作変数法について調べる。 事後学修 2.0hr：分析手法の特徴を踏まえて、使用データと適用可能性について考察する。
7 回	授業テーマ：統計分析手法の検討③ 授業内容：定量的アプローチとして、回帰不連続デザインの提供可能性を検討する。 事前学修 2.0hr：回帰不連続デザインについて調べる。 事後学修 2.0hr：分析手法の特徴を踏まえて、使用データと適用可能性について考察する。
8 回	授業テーマ：統計分析手法の検討④ 授業内容：定量的アプローチとして、差の差分分析の適用可能性を検討する。 事前学修 2.0hr：差の差分分析について調べる。 事後学修 2.0hr：分析手法の特徴を踏まえて、使用データと適用可能性について考察する。
9 回	授業テーマ：統計分析手法の検討⑤ 授業内容：定量的アプローチとして、傾向スコアの適用可能性を検討する。 事前学修 2.0hr：傾向スコアについて調べる。 事後学修 2.0hr：分析手法の特徴を踏まえて、使用データと適用可能性について考察する。
10 回	授業テーマ：統計分析手法の検討⑥ 授業内容：定量的アプローチとして、ロジスティック回帰分析の適用可能性を検討する。 事前学修 2.0hr：ロジスティック回帰分析について調べる。 事後学修 2.0hr：分析手法の特徴を踏まえて、使用データと適用可能性について考察する。
11 回	授業テーマ：統計分析手法の検討⑦ 授業内容：定量的アプローチとして、順序ロジスティック回帰分析の適用可能性を検討する。 事前学修 2.0hr：順序ロジスティック回帰分析について調べる。 事後学修 2.0hr：分析手法の特徴を踏まえて、使用データと適用可能性について考察する。
12 回	授業テーマ：統計分析手法の検討⑧ 授業内容：定量的アプローチとして、ラダリング調査(手段目的連鎖モデル)の適用可能性を検討する。 事前学修 2.0hr：ラダリング調査(手段目的連鎖モデル)について調べる。 事後学修 2.0hr：分析手法の特徴を踏まえて、使用データと適用可能性について考察する。

13 回	授業テーマ：統計分析手法の検討⑨ 授業内容：定性的アプローチとして、質的データ分析(コーディング)の提供可能性を検討する。 事前学修 2.0hr：質的データ分析(コーディング)について調べる。 事後学修 2.0hr：分析手法の特徴を踏まえて、使用データと適用可能性について考察する。
14 回	授業テーマ：分析結果の解釈① 授業内容：統計分析手法を適用した結果をもとに、仮説の検証を行う。 事前学修 2.0hr：仮説の設定根拠を統計データ、既往研究から整理する。 事後学修 2.0hr：仮説の検証結果を整理する。
15 回	授業テーマ：分析結果の解釈② 授業内容：統計分析手法を適用した結果をもとに、仮説を適宜修正のうえ、当該検証を行う。 事前学修 2.0hr：仮説の検証結果を踏まえて、仮説の修正を行う。 事後学修 2.0hr：仮説の修正・検証結果を整理する。

特別演習Ⅲ

開講学科等：不動産博前 | 2 年次 | 2 単位 | 開講期：前

中城 康彦 (なかじょう やすひこ)

■ 授業の概要

前学年の演習の成果を踏まえ、論文のテーマを設定するための指導を行う。研究課題に関連する既存文献をサーベイして問題意識を深める。研究計画を作成して論文完成までのスケジュールを作成し、論文の骨子を完成させる。

■ 到達目標

一般目標：研究テーマを確定し、仮説を設定し、修士論文の骨格を完成させる能力を身につける。

個別目標：・設定した課題を解決するための道筋を描くことができる。

・仮説を証明するために必要な資料を収集できる。

・資料を分析して論文に纏めることができる。

■ 履修条件

授業中は積極的に成果を公表するとともに議論に参加すること。

■ 評価基準・方法

課題に対する取り組みとその成果により評価する。随時提出するミニレポート等の内容より理解度を確認し、必要に応じてフィードバックする。

■ フィードバック方法

各回、当日のディスカッションの内容について振り返りのプレゼンテーションをする。補足すべき点について指摘を受けた場合は翌週までに指摘内容をカバーして提示する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（授業は双方向の意見交換を重視して行う）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（論文取りまとめの図表の作成に利用する）

■ 教科書

研究テーマごとに別途指示する。

■ 参考書

中城康彦「教養としての「不動産」大全」日本実業出版社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：授業の目的、スケジュール、方法の説明 授業内容：授業の内容、取り組み姿勢やスケジュールについて意見交換する 事前学修 2.0hr：特別演習Ⅱの内容を再確認する 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
2 回	授業テーマ：問題意識の確認と仮説の再設定 授業内容：修士論文の作成が本格化するに際し、問題意識の確認を行い、仮説について修正すべき点がないか整理する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
3 回	授業テーマ：仮説を説明する文献、資料の収集 授業内容：勉強から研究へ昇華させる時期に当たることから、仮説を補強し、または、否定する文献や資料を収集し、研究の展開の筋道を強化する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
4 回	授業テーマ：仮説を説明するための研究方法の決定 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法を決定する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
5 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：仮説を実証するための資料の収集と分析を行う 事前学修 2.0hr：既往研究を収集して読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
6 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：仮説を実証するための資料の収集と分析を行う 事前学修 2.0hr：既往研究を収集して読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
7 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：仮説を実証するための資料の収集と分析を行う 事前学修 2.0hr：既往研究を収集して読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
8 回	授業テーマ：中間取りまとめ 授業内容：仮説を実証するための資料の分析をとりまとめて、研究の到達度を検証する 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
9 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：仮説を実証するための資料の収集と分析を行う 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
10 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：仮説を実証するための資料の収集と分析を行う 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
11 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：仮説を実証するための資料の収集と分析を行う 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

12 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：仮説を実証するための資料の収集と分析を行う 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
13 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：仮説を実証するための資料の収集と分析を行う 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
14 回	授業テーマ：到達部分について修士論文草稿案の作成 授業内容：得られた研究成果を取りまとめたうえで文章化し、資料と論述の相互関係を強化する 事前学修 2.0hr：論文草稿案の作成 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：到達部分について作成した修士論文草稿を完成させる 事前学修 2.0hr：まとめの事前準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備内容の修正

特別演習Ⅲ

開講学科等：不動産博前 | 2 年次 | 2 単位 | 開講期：前

浜島 裕美 (はまじま ひろみ)

■ 授業の概要

特別演習Ⅰ、Ⅱの成果を踏まえ、修士論文を執筆するための能力を養う。研究目的の設定・既存研究の調査・収集・分析を行い、論文の骨子を完成させる。

■ 到達目標

一般目標：研究テーマと研究目的を確定し、修士論文の骨子を完成させる能力を身につける。

個別目標：・研究テーマと研究目的に従った論文を構成できる。

- ・既存文献を収集して分析することができる。
- ・修士論文執筆に必要な文章を作成できる。

■ 履修条件

特別演習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。

■ 評価基準・方法

課題への取り組み、授業中のディスカッションの内容、文献収集状況、論文執筆の進捗状況、その他総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは学修支援システム manaba にて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word ソフトを搭載したノートパソコンを必要に応じて持参すること）

■ 教科書

必要に応じて適宜指示する。

■ 参考書

必要に応じて適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業の進め方の説明、授業スケジュールの確認、その他必要な打ち合わせを行う。 事前学修 2.0hr：特別演習Ⅰ・Ⅱの内容を確認し、整理してくる。 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
2 回	授業テーマ：研究テーマの再検討(1)問題意識の検討 授業内容：特別研究Ⅱでの検討結果を再検討する。最新の法制度や社会の動向等に照らして、問題意識が修士論文に相応しいか再検討する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
3 回	授業テーマ：研究テーマの再検討(2)独自性の検討 授業内容：特別研究Ⅱでの検討結果を再検討する。最新の法制度や社会の動向等に照らして、問題意識の独自性が修士論文に相応しいか再検討する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
4 回	授業テーマ：研究テーマの再検討(3)新規性の検討 授業内容：特別研究Ⅱでの検討結果を再検討する。最新の法制度や社会の動向等に照らして、問題意識の新規性が修士論文に相応しいか再検討する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
5 回	授業テーマ：研究テーマの確定 授業内容：これまでの検討結果を踏まえ、研究テーマを確定する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
6 回	授業テーマ：既往研究・関連研究の収集(1)文献調査 授業内容：特別研究Ⅱでの調査結果を再検討する。最新の論文・著書などを調査する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
7 回	授業テーマ：既往研究・関連研究の収集(2)法改正の動向調査 授業内容：特別研究Ⅱでの調査結果を再検討する。最新の法改正の動向などを調査する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
8 回	授業テーマ：既往研究・関連研究の分析(1)論文等の分析 授業内容：特別研究Ⅱでの調査結果を再検討する。収集した論文・著書の内容を分析してその内容をまとめる。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
9 回	授業テーマ：既往研究・関連研究の分析(2)独自性の分析 授業内容：特別研究Ⅱでの調査結果を再検討する。収集した論文・著書の内容を分析結果を踏まえ、書こうとしている修士論文の独自性を検討する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
10 回	授業テーマ：既往研究・関連研究の分析(3)新規性の分析 授業内容：特別研究Ⅱでの調査結果を再検討する。収集した論文・著書の内容を分析結果を踏まえ、書こうとしている修士論文の新規性を検討する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
11 回	授業テーマ：既往研究・関連研究の分析(4)法改正動向の分析 授業内容：特別研究Ⅱでの調査結果を再検討する。収集した法改正の動向などを分析してその内容をまとめる。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
12 回	授業テーマ：修士論文前半部分のまとめ(1)論文構成の確定 授業内容：ここまでの研究成果をまとめる。論文の構成を確定し、執筆する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成

13 回	授業テーマ：修士論文前半部分のまとめ(2)目次の確定 授業内容：ここまでの研究成果をまとめる。論文の目次を確定し、各部分を執筆する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジюме作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジюме作成
14 回	授業テーマ：修士論文前半部分のまとめ(3)既往研究のまとめ 授業内容：ここまでの研究成果をまとめる。既往研究を整理し、修士論文の独自性・新規性について執筆する。 事前学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジюме作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジюме作成
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：ここまでの研究成果をまとめる。修士論文前半部分の執筆が概ね完成できることを目指す。 事前学修 2.0hr：修士論文前半部分を執筆する。 事後学修 2.0hr：修士論文後半部分の執筆に向けて必要な作業を始める。

特別演習Ⅲ

開講学科等：不動産博前 | 2年次 | 2単位 | 開講期：前

藤木 亮介 (ふじき りょうすけ)

■ 授業の概要

修士論文の執筆に向けて建築ストックに関連する社会問題を把握し、修士論文のテーマに関する論点の明確化をはかる。そのうえで、修士論文の枠組みを設定する。

■ 到達目標

一般目標：修士論文の執筆に向けて論点の明確化をはかるとともに、研究課題の解決策を検討するために必要となる知識と能力を修得する。

個別目標：・修士論文であつかう課題について、その要因を説明することができる。

・修士論文であつかう課題について、その解決に向けた情報を収集することができる。

・修士論文であつかう課題について、その解決に向けた方策を検討することができる。

・修士論文の枠組みを設定することができる。

■ 履修条件

特別演習Ⅰ・Ⅱを修得済みであること。

建築基準法、都市計画法、区分所有法(建物の区分所有等に関する法律)の基礎知識を有していること。

■ 評価基準・方法

授業への取り組み姿勢や積極性、作成した研究資料、教員との議論の内容などを総合的に評価する。

■ フィードバック方法

事前学修のフィードバックは指導時間内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（エクセル・ワードを用いて研究資料を作成する。パワーポイントを用いてプレゼン資料を作成する。）

■ 教科書

特になし。

■ 参考書

必要に応じて紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業のすすめ方、修士論文執筆に向けたスケジュール、全体構成について説明する。また、特別演習Ⅱの成果を振り返る。 事前学修 2.0hr：特別演習Ⅱの成果を整理する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。
2 回	授業テーマ：研究テーマの確認と論点の検討 授業内容：特別演習Ⅱの成果を踏まえ、研究テーマをあらためて確認する。また、そのテーマにそった論点の検討を行う。 事前学修 2.0hr：特別演習Ⅱの成果を踏まえて、論点の検討を行う。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。
3 回	授業テーマ：修士論文の執筆に向けた論点の整理-1 授業内容：前回授業を踏まえ、修士論文の執筆に向けて複数ある論点を整理する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：前回授業を踏まえ、修士論文の執筆に向けて複数ある論点の整理をする。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、あらためて論点の整理を行う。
4 回	授業テーマ：修士論文の執筆に向けた論点の検討-2 授業内容：前回授業を踏まえ、修士論文の執筆に向けて複数ある論点を整理する。また、その内容についてディスカッションする。 事前学修 2.0hr：前回授業を踏まえ、修士論文の執筆に向けて複数ある論点の整理をする。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、あらためて論点の整理を行う。
5 回	授業テーマ：修士論文の枠組みの検討-1 授業内容：修士論文であつかう複数の論点を整理し、修士論文の構成や枠組みを検討する。 事前学修 2.0hr：修士論文の構成を検討する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の構成や枠組みを再検討する。
6 回	授業テーマ：修士論文の枠組みの検討-2 授業内容：修士論文であつかう複数の論点を整理し、修士論文の構成や枠組みを検討する。 事前学修 2.0hr：修士論文の構成を検討する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の構成や枠組みを再検討する。
7 回	授業テーマ：論点①に関する背景・目的・研究の方法の検討 授業内容：論点①について、背景、目的、論理的にどのようなことを明らかにできるか、研究の方法などを検討する。 事前学修 2.0hr：論点①に関する情報を整理する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、背景、目的、研究の方法をまとめる。
8 回	授業テーマ：論点①に関する情報収集と分析-1 授業内容：必要な情報を収集し、根拠を明示したうえで、課題の要因や解決に向けた方策などを論理的に考察する。 事前学修 2.0hr：情報を収集すると共に、収集した情報を分析する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、分析結果と考察をまとめる。
9 回	授業テーマ：論点①に関する情報収集と分析-2 授業内容：必要な情報を収集し、根拠を明示したうえで、課題の要因や解決に向けた方策などを論理的に考察する。 事前学修 2.0hr：情報を収集すると共に、収集した情報を分析する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、分析結果と考察をまとめる。
10 回	授業テーマ：論点①に関する結論の検討 授業内容：ここまでで検討・検証・整理した情報と、その分析結果についてまとめ、明らかにできたことを整理する。 事前学修 2.0hr：論点①で分析・検討したことについて、整理する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、論点①の結論をまとめる。
11 回	授業テーマ：論点②に関する背景・目的・研究の方法の検討 授業内容：論点②について、背景、目的、論理的にどのようなことを明らかにできるか、研究の方法などを検討する。 事前学修 2.0hr：論点②に関する情報を整理する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、背景、目的、研究の方法をまとめる。

12 回	授業テーマ：論点②に関する情報収集と分析-1 授業内容：必要な情報を収集し、根拠を明示したうえで、課題の要因や解決に向けた方策などを論理的に考察する。 事前学修 2.0hr：情報を収集すると共に、収集した情報を分析する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、分析結果と考察をまとめる。
13 回	授業テーマ：論点②に関する情報収集と分析-2 授業内容：必要な情報を収集し、根拠を明示したうえで、課題の要因や解決に向けた方策などを論理的に考察する。 事前学修 2.0hr：情報を収集すると共に、収集した情報を分析する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、分析結果と考察をまとめる。
14 回	授業テーマ：論点②に関する結論の検討 授業内容：ここまでで検討・検証・整理した情報と、その分析結果についてまとめ、明らかにできたことを整理する。 事前学修 2.0hr：論点②で分析・検討したことについて、整理する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、論点②の結論をまとめる。
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：修士論文執筆に向けて、これまでの成果を整理する。 事前学修 2.0hr：後学期にむけて、前回授業での指摘事項や成果をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業で指摘された内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。

特別演習Ⅲ

開講学科等：不動産博前 | 2年次 | 2単位 | 開講期：前

前島 彩子 (まえしま あやこ)

■ 授業の概要

特別演習Ⅱの成果をふまえ、修士論文の骨子を整え、中間発表会で報告する。
都市空間を構成する建築物とそれをとりまく環境の地域性、建築生産・建築橋法の変遷を中心とした研究領域に関して、先行研究をふまえたうえで、独自の仮説構築・検証・論理展開に必要な各種資料・データの収集整理に取り組む。
修士論文執筆に必要なスキルのうち、主として、仮説を構築する力、論理展開力を身につける。

■ 到達目標

一般目標：中間発表会において、修士論文の「背景・目的」「先行研究レビュー」「研究方法」「想定される結論」を報告できる。
個別目標：(1) 修士論文の骨子にそった文献調査、仮説構築、データ分析、論理展開ができる。
(2) 修士論文の中間段階の成果をプレゼン資料にまとめることができる。
(3) 中間発表会で報告し、適切な質疑応答ができる。

■ 履修条件

特別演習Ⅱの単位を取得していること。

■ 評価基準・方法

授業への参加状況と中間発表会の報告・質疑応答を総合して判断する。

■ フィードバック方法

ゼミで直接コメントするとともに LMS に蓄積する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（現地視察、プレゼンテーション、反転授業、ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word、図面作成ソフト等を搭載したノートパソコンを持参する。）

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜案内する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：中間発表会に向けた活動スケジュールを確認する。 事前学修 3.0hr：中間発表会までのスケジュールを考える。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、スケジュールの見直しを行う。
2 回	授業テーマ：研究論点の見直し 授業内容：特別演習Ⅰ、Ⅱを振り返り、研究の論点を再検討する。 事前学修 3.0hr：特別演習Ⅰ、Ⅱを振り返り、取り組む論点を抽出する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
3 回	授業テーマ：仮説の構築準備 授業内容：仮説とその論証に必要な調査について考える。 事前学修 3.0hr：研究論点に応じた仮説をたてる。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
4 回	授業テーマ：仮説の構築 授業内容：仮説を構築し、検証の方向性を考える。 事前学修 3.0hr：仮説に必要な調査事例を列挙する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
5 回	授業テーマ：研究方法の検討 授業内容：研究方法の方向性について検討する。 事前学修 3.0hr：仮説に応じた研究方法の方向性を整理する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
6 回	授業テーマ：研究方法の精査 授業内容：研究方法を精査し、方針を確定する。 事前学修 3.0hr：研究方法を具体的に整理する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
7 回	授業テーマ：資料・データの収集 授業内容：収集された資料・データの内容を確認し、修正点を確認する。 事前学修 3.0hr：研究目的に合致した資料・データを収集する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
8 回	授業テーマ：資料・データの整理 授業内容：整理・分類の妥当性について考える。 事前学修 3.0hr：収集した資料・データを整理・分類する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
9 回	授業テーマ：資料・データの分析 授業内容：分析の妥当性について考える。 事前学修 3.0hr：整理した資料・データを分析する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
10 回	授業テーマ：資料・データの追加収集 授業内容：追加収集分とあわせて資料・データを適切なかたちで整理する。 事前学修 3.0hr：不足している資料・データを追加収集する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
11 回	授業テーマ：中間発表会の資料作成 授業内容：発表資料の内容を確認し、発表資料を作成する。 事前学修 3.0hr：中間発表の内容を抽出し、資料の素案を作成する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。

12 回	授業テーマ：中間発表会の発表原稿作成 授業内容：発表原稿の内容を確認し、発表原稿を作成する。 事前学修 3.0hr：中間発表の発表原稿の素案を作成する。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
13 回	授業テーマ：中間発表会の発表練習 授業内容：発表練習を行い、修正点を確認する。 事前学修 3.0hr：発表練習を繰り返し、発表原稿を調整する。 事後学修 3.0hr：中間発表会の準備を行う。
14 回	授業テーマ：研究方法等の再検討 授業内容：中間発表会で寄せられたコメントを分析する。 事前学修 3.0hr：中間発表会の準備を行う。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。
15 回	授業テーマ：研究論点の見直し 授業内容：中間発表会のコメントを踏まえて、研究方法等を再検討する。 事前学修 3.0hr：研究方法の見直しを行う。 事後学修 3.0hr：授業内容を踏まえ、次回の展開を整理する。

特別演習Ⅳ

開講学科等：不動産博前 | 2 年次 | 2 単位 | 開講期：後

兼重 賢太郎 (かねしげ けんたろう)

■ 授業の概要

特別演習Ⅰ～Ⅲの成果を踏まえ、受講者各自の修士論文を完成させる。

■ 到達目標

一般目標：受講者各自の修士論文の完成に向け、本演習での議論・指摘等、事前審査会等での議論・指摘等を踏まえ、修士論文を完成させることを一般目標とする。

個別目標：修士論文の完成はもとより、事前審査会、最終論文審査等において、修士論文に関し、的確に報告・説明・質疑応答ができること。

■ 履修条件

特別演習Ⅰ～Ⅲを履修済みであること。

■ 評価基準・方法

演習への取り組み姿勢、修士論文その他の成果物等を総合的に評価する。

■ フィードバック方法

フィードバックは、演習の時間内をはじめ、随時行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（毎回、教員・受講者で議論する。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（報告・発表等のために PC を利用する。）

■ 教科書

必要に応じて、適宜、指示する。

■ 参考書

必要に応じて、適宜、指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：全体の進め方を確認するとともに、研究テーマ・研究計画等について、教員を交えて議論する。 事前学修 2.0hr：現時点での、受講者各自の研究テーマ・研究計画等をあらかじめ整理しておくこと。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、研究テーマ・研究計画等を見直すこと。
2 回	授業テーマ：特別演習Ⅲの成果確認(1) 授業内容：特別演習Ⅲの成果(中間報告論文等)を報告し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：中間報告論文を見直し、特別演習Ⅲの成果を報告するための資料を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、作成した資料をブラッシュアップすること。
3 回	授業テーマ：特別演習Ⅲの成果確認(2) 授業内容：前回の指摘・議論等を踏まえてブラッシュアップした内容を報告し、それについて全員で議論する。 事前学修 3.0hr：前回の指摘・議論等を踏まえ、ブラッシュアップした報告資料を作成すること。 事後学修 1.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、作成した資料をさらにブラッシュアップすること。
4 回	授業テーマ：修士論文の作成(1)：研究目的等 授業内容：修士論文の研究目的等に関する部分を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 2.0hr：これまでの演習を踏まえ、修士論文の研究目的等に関する部分を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップすること。
5 回	授業テーマ：修士論文の作成(2)：既往研究等の分析 授業内容：修士論文の既往研究等の整理・分析に関する部分を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 2.0hr：修士論文の既往研究等の整理・分析に関する部分を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップすること。
6 回	授業テーマ：修士論文の作成(3)：データ等の分析・考察 授業内容：修士論文のデータ等の分析・考察にあたる部分を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 4.0hr：修士論文の要となるデータ等の分析・考察を行い、修士論文の該当部分として作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップすること。
7 回	授業テーマ：修士論文の作成(4)：データ等のさらなる分析・考察 授業内容：前回の演習を踏まえ、修士論文のデータ等の分析・考察にあたる部分をブラッシュアップしたものを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 4.0hr：前回の演習を踏まえ、引き続き、データ等の分析・考察を行い、修士論文の当該部分として作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップすること。
8 回	授業テーマ：修士論文の作成(5)：結論部分の考察 授業内容：修士論文の結論について考察し、修士論文の結論部分として作成すること。 事前学修 4.0hr：ここまでの演習を踏まえ、修士論文の結論部分を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップすること。
9 回	授業テーマ：修士論文の提出・発表 授業内容：修士論文を提出・発表し、それについて全員で議論する。 事前学修 4.0hr：ここまで作成した修士論文を提出し、そのポイントを報告すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップすること。
10 回	授業テーマ：修士論文の作成(1)：論文構成の精査 授業内容：修士論文の最終的な目次・各章の概要等を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 4.0hr：これまでの演習を踏まえ、論文構成を精査し、最終的な目次・各章の概要等を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文の目次・構成等をブラッシュアップすること。
11 回	授業テーマ：修士論文の作成(2)：研究方法・研究目的・研究の射程等の精査 授業内容：修士論文の研究目的・研究の射程等に関する部分を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 4.0hr：研究方法・研究目的・研究の射程を精査し、その部分の論文を作成すること。 事後学修 2.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップすること。
12 回	授業テーマ：修士論文の作成(3)：データ等の分析・考察、結論の考察 授業内容：修士論文の要となるデータ等の分析・考察、および、結論の考察を行い、それらをまとめたものを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 4.0hr：修士論文のデータ等を分析・考察するとともに、結論を考察し、論文としてまとめること。 事後学修 4.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップすること。

13 回	授業テーマ：修士論文の作成(4)：全体的なとりまとめと見直し 授業内容：これまでの演習を踏まえ、一通り、全体をとりまとめたものを提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 4.0hr：これまでの演習を踏まえ、論文としての体裁等を整え、全体をとりまとめたものを作成すること。 事後学修 4.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップするとともに、必要に応じて、全体の構成を見直すこと。
14 回	授業テーマ：修士論文の完成 授業内容：最終提出に向けて、ほぼ完成させた修士論文を提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 4.0hr：これまでの演習を踏まえ、最終提出に向けた修士論文を作成すること。 事後学修 4.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、論文をブラッシュアップし、完成させること。
15 回	授業テーマ：修士論文の提出 授業内容：修士論文を教員に提出し、それについて全員で議論する。 事前学修 4.0hr：これまでの成果として、修士論文を完成させ、教員に報告・提出すること。 事後学修 4.0hr：演習での指摘・議論等を踏まえ、全体を再度見直し、最終的な提出に向けて、論文をブラッシュアップすること。

特別演習Ⅳ

開講学科等：不動産博前 | 2 年次 | 2 単位 | 開講期：後

小杉 学 (こすぎ まなぶ)

■ 授業の概要

修士論文を執筆する。

■ 到達目標

一般目標：・修士論文を作成することができる。

個別目標：・前学期の調査に基づいて結論を導くことができる。

・研究対象事例固有の問題点や課題について、表面的な発見や理解に留まらず掘り下げた考察ができる。

・調査研究の重要な点について、適切な図や表を用いて分かりやすく説明することができる。

■ 履修条件

・特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱを修得済みであること。

・「居住環境マネジメント特論」を修得済みであることが望ましい。

■ 評価基準・方法

・作業や議論への積極性、論旨的確性、内容の密度、プレゼンテーションの明瞭性、質疑応答における正確性などを総合的に判断する。

■ フィードバック方法

・事前学修のフィードバックは指導時間内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、Powerpoint を搭載したノートパソコンを毎回持参すること。）

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書

・高橋佑磨・片山なつ『伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール』技術評論社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：論文の全体像とタイトル 授業内容：論文の全体像とタイトルについて検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：論文の構成について構想し、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
2 回	授業テーマ：論文の構造 授業内容：論文の構造を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
3 回	授業テーマ：論文の章立て 授業内容：論文の章立てを検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
4 回	授業テーマ：社会的背景 授業内容：序論における社会的背景を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
5 回	授業テーマ：既往研究の調査 授業内容：既往研究について調べる。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
6 回	授業テーマ：既往研究の整理 授業内容：調べた既往研究について整理する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
7 回	授業テーマ：理論的背景 授業内容：序論における理論的背景を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
8 回	授業テーマ：研究目的 授業内容：序論における研究目的を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
9 回	授業テーマ：研究の意義 授業内容：序論における研究の意義を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
10 回	授業テーマ：研究方法 授業内容：序論における研究方法を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
11 回	授業テーマ：各論の1つ目(第2章) 授業内容：各論の1つ目(第2章)を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。

12 回	授業テーマ：各論の2つ目(第3章) 授業内容：各論の2つ目(第3章)を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
13 回	授業テーマ：各論の3つ目(第4章) 授業内容：各論の3つ目(第4章)を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
14 回	授業テーマ：結論 授業内容：結論を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、プレゼンテーションを作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、プレゼンテーションに反映できるようにまとめておく。
15 回	授業テーマ：発表練習 授業内容：完成したプレゼンテーションの発表練習を行う。スピーチの速度、音量、パワーポイントのタイミング、予想される質疑応答など。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、プレゼンテーションを作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、プレゼンテーションに反映させる。

特別演習Ⅳ

開講学科等：不動産博前 | 2 年次 | 2 単位 | 開講期：後

小松 広明 (こまつ ひろあき)

■ 授業の概要

実証研究としての論文を仕上げる。当該論文は、①はじめに(研究の背景・目的)、②既往研究の整理、③仮説の設定、④方法の説明、⑤分析の結果、⑥結論(おわりに)の6つから構成される。授業では、当該流れを踏まえて、それぞれにおいて記述すべき具体的な内容について学修する。

■ 到達目標

一般目標：実証研究の論文構成を理解した上で、論文を作成することができる。

個別目標：独自の分析結果を、既往研究との相対的關係(新規性)を踏まえた上で説明することができる。

■ 履修条件

『特別演習Ⅲ』の単位を修得していること。

■ 評価基準・方法

論文の内容 70 %、研究発表の内容 30 %。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

なし

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(ノート型 PC を指示にしたがって持参すること。)

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：実証研究の論文作成①(研究テーマの再確認) 授業内容：研究の背景・目的の記述 事前学修 2.0hr：設定した研究テーマに関連する統計データを整理する。 事後学修 2.0hr：統計データを用いて問題意識を表現する図表を作成する。
2 回	授業テーマ：実証研究の論文作成②(統計データを用いた図表作成) 授業内容：研究の背景・目的の記述内容の加筆修正 事前学修 2.0hr：記述すべき内容の論理構成を検討する。 事後学修 2.0hr：実証研究の論文としての記述内容を精査する。
3 回	授業テーマ：実証研究の論文作成③(既往研究の整理) 授業内容：コード・マトリックを利用した既往研究の整理 事前学修 2.0hr：サーベイ論文を読み、研究テーマの分野における全体像を把握する。 事後学修 2.0hr：既往研究の内容をコード・マトリックスに整理する。
4 回	授業テーマ：実証研究の論文作成④(新規性・独自性の記述) 授業内容：既往研究との相対的比較における新規性・独自性の記述 事前学修 2.0hr：コード・マトリックスのもとに研究の新規性・独自性を確認する。 事後学修 2.0hr：実証研究の論文としての記述内容を精査する。
5 回	授業テーマ：実証研究の論文作成⑤(使用データの記述統計量の整理) 授業内容：実証研究に用いるデータの特徴、記述統計量の整理 事前学修 2.0hr：使用データの記述統計量を作成する。 事後学修 2.0hr：実証研究の論文としての記述内容を精査する。
6 回	授業テーマ：実証研究の論文作成⑥(分析手法1による結果の記述) 授業内容：複数の分析手法のうち1つ目の分析結果の再吟味 事前学修 2.0hr：分析手法1の結果を図表に整理する。 事後学修 2.0hr：分析手法1の記述内容を精査する。
7 回	授業テーマ：実証研究の論文作成⑦(分析手法2による結果の記述) 授業内容：複数の分析手法のうち2つ目の分析結果の再吟味 事前学修 2.0hr：分析手法2の結果を図表に整理する。 事後学修 2.0hr：分析手法2の記述内容を精査する。
8 回	授業テーマ：実証研究の論文作成⑧(分析手法3による結果の記述) 授業内容：複数の分析手法のうち3つ目の分析結果の再吟味 事前学修 2.0hr：分析手法3の結果を図表に整理する。 事後学修 2.0hr：分析手法3の記述内容を精査する。
9 回	授業テーマ：実証研究の論文作成⑨(結論の記述) 授業内容：複数の分析手法の結果を総合的に整理 事前学修 2.0hr：複数の分析結果を簡潔に整理する。 事後学修 2.0hr：分析結果としてのパンチラインを見定める。
10 回	授業テーマ：実証研究の論文作成⑩(結論の精査) 授業内容：分析結果が示す学術的・政策的インプリケーションの提示 事前学修 2.0hr：分析結果が意味する学術的・政策的含意を整理する。 事後学修 2.0hr：結論としての記述内容を精査する。
11 回	授業テーマ：研究発表資料の作成①(発表ストーリーラインの構築) 授業内容：研究発表の制限時間を踏まえたストーリーラインの構築 事前学修 2.0hr：発表用のスライドを作成する。 事後学修 2.0hr：発表内容を精査する。
12 回	授業テーマ：研究発表資料の作成②(スライドの作成) 授業内容：使用データの抽出・図表の選定 事前学修 2.0hr：発表用のスライドを修正する。 事後学修 2.0hr：発表内容を精査する。

13 回	授業テーマ：研究発表資料の作成③(プレゼンテーション実施) 授業内容：発表用スライドを用いたプレゼンテーションの実施 事前学修 2.0hr：研究発表の制限時間を踏まえてプレゼンテーションの練習を行う。 事後学修 2.0hr：プレゼンテーションの完成度を高める。
14 回	授業テーマ：提出論文の精査①(参考文献リストの作成) 授業内容：参考文献の一覧表の作成 事前学修 2.0hr：論文に引用・参照した文献を一覧表として整理する。 事後学修 2.0hr：加筆修正のうえ、参考文献リストを完成させる。
15 回	授業テーマ：提出論文の精査②(補論・付表の作成) 授業内容：本文の内容を補足するための補論・付表の作成 事前学修 2.0hr：参考文献表の後に補論・付表を必要に応じて添付する。 事後学修 2.0hr：提出論文として記述内容の充実化を図る。

特別演習Ⅳ

開講学科等：不動産博前 | 2 年次 | 2 単位 | 開講期：後

中城 康彦 (なかじょう やすひこ)

■ 授業の概要

前学期の演習の成果を踏まえ、論文のテーマを設定するための指導を行う。研究課題に関連する既存文献をサーベイして問題意識を深める。研究計画にもとづいて、論文を完成させる。

■ 到達目標

一般目標：スケジュールに従い、修士論文を完成させる能力を身につける

個別目標：・設定した課題を解決するための道筋を描くことができる。

・仮説を証明するために必要な資料を収集できる。

・資料を分析して論文に纏めることができる。

■ 履修条件

授業中は積極的に成果を公表するとともに議論に参加すること。

■ 評価基準・方法

課題に対する取り組みとその成果により評価する。随時提出するミニレポート等の内容より理解度を確認し、必要に応じてフィードバックする。

■ フィードバック方法

各回、当日のディスカッションの内容について振り返りのプレゼンテーションをする。補足すべき点について指摘を受けた場合は翌週までに指摘内容をカバーして提示する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（授業は双方向の意見交換を重視して行う）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（論文取りまとめの図表の作成に利用する）

■ 教科書

研究テーマごとに別途指示する。

■ 参考書

中城康彦「教養としての「不動産」大全」日本実業出版社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：授業の目的、スケジュール、方法の説明 授業内容：授業の内容、取り組み姿勢、これまでの成果物をもとに、今後の進め方を確認する 事前学修 2.0hr：特別演習Ⅲの内容を再確認する 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
2 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：修士論文の作成が本格化するに際し、問題意識の確認を行い、仮説について修正すべき点がないか整理する 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
3 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：勉強から研究へ昇華させる時期に当たることから、仮説を補強し、または、否定する文献や資料を収集し、研究の展開の筋道を強化する 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
4 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法を決定する 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
5 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法に従って研究を進める 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
6 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法に従って研究を進める 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
7 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法に従って研究を進める 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
8 回	授業テーマ：中間とりまとめ 授業内容：仮説を実証するための資料の収集と分析をとりまとめて、研究の到達度を検証する 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
9 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法に従って研究を進める 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
10 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法に従って研究を進める 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
11 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法に従って研究を進める 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

12 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法に従って研究を進める 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
13 回	授業テーマ：研究方法に即した研究資料の収集と分析 授業内容：研究の展開に筋道について、より具体的に時間、費用、場所、関係者などを考量のうえ、採用する研究方法に従って研究を進める 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
14 回	授業テーマ：修士論文草稿の作成 授業内容：研修の成果を取りまとめて修士論文の草稿づくりを進める 事前学修 2.0hr：授業内容に沿った意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：修士論文草稿を完成させる 事前学修 2.0hr：まとめの事前準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

特別演習Ⅳ

開講学科等：不動産博前 | 2 年次 | 2 単位 | 開講期：後

浜島 裕美 (はまじま ひろみ)

■ 授業の概要

特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの成果を踏まえ、修士論文を執筆するための能力を養う。研究目的の設定・既存研究の調査・収集・分析を行い、修士論文を完成させる。

■ 到達目標

一般目標：修士論文を完成させ、論文発表できる能力を身につける。

個別目標：・ 学術論文を執筆することができる。

- ・ 学術論文発表ができる。
- ・ 論文の要旨が説明できる。
- ・ 論文の要旨を執筆できる。

■ 履修条件

特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修済みであること。

■ 評価基準・方法

課題への取り組み、授業中のディスカッションの内容、文献収集状況、論文執筆の進捗状況、その他総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは学修支援システム manaba にて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word ソフトを搭載したノートパソコンを必要に応じて持参すること）

■ 教科書

必要に応じて適宜指示する。

■ 参考書

必要に応じて適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業の進め方の説明、授業スケジュールの確認、その他必要な打ち合わせを行う。 事前学修 4.0hr：特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容を確認し、整理してくる。 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
2 回	授業テーマ：論文前半部分の再検討 授業内容：特別研究Ⅲでの成果を再検討する。執筆した修士論文の前半部分を見直し、欠陥がないか検討する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
3 回	授業テーマ：中韓報告会に向けて(1)発表要旨の作成 授業内容：中韓報告会に向けて、発表要旨を作成する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
4 回	授業テーマ：中韓報告会に向けて(2)発表資料の作成 授業内容：中韓報告会に向けて、発表資料を作成する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
5 回	授業テーマ：中韓報告会に向けて(3)発表練習 授業内容：中韓報告会に向けて、発表練習をする。わかりやすい資料になっているか、印刷のレイアウトは適切か、口頭発表は聞き取りやすいか、時間内に終了できるか、を検討する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
6 回	授業テーマ：私見の作成(1)問題点の指摘 授業内容：私見を設定する。ここまでの成果を踏まえて、今の状況の法的・社会的・将来的な問題点を指摘する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
7 回	授業テーマ：私見の作成(2)問題点の解決策の検討 授業内容：問題点に対する解決策を複数案考案する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
8 回	授業テーマ：私見の作成(3)解決策の実現可能性の検討 授業内容：考案した解決策の実現可能性を検討する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
9 回	授業テーマ：私見の作成(4)解決策の選択 授業内容：複数の解決策の優劣を検討する。一つに絞るか組み合わせるか、何通りか検討する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
10 回	授業テーマ：私見の作成(5)私見のまとめ 授業内容：検討した私見を論文にまとめる。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 2.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
11 回	授業テーマ：事前審査会に向けて(1)発表要旨の作成 授業内容：事前審査会に向けて、発表要旨を作成する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成

12 回	授業テーマ：事前審査会に向けて(2)発表資料の作成 授業内容：事前審査会に向けて、発表資料を作成する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
13 回	授業テーマ：事前審査会に向けて(3)発表練習 授業内容：事前審査会に向けて、発表練習をする。わかりやすい資料になっているか、印刷のレイアウトは適切か、口頭発表は聞き取りやすいか、時間内に終了できるか、を検討する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
14 回	授業テーマ：修士論文執筆 授業内容：ここまでの研究成果をまとめ、修士論文を執筆する。 事前学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成 事後学修 4.0hr：テーマに関連する諸問題の考察、レジュメ作成
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：ここまでの研究成果をまとめ、修士論文を執筆する。 事前学修 4.0hr：修士論文を執筆する。 事後学修 4.0hr：修士論文を完成させる。

特別演習Ⅳ

開講学科等：不動産博前 | 2年次 | 2単位 | 開講期：後

藤木 亮介 (ふじき りょうすけ)

■ 授業の概要

特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの成果を踏まえ、修士論文を執筆する。研究テーマに沿った研究課題を明確にしたうえで、その課題の要因や関連する情報を分析し、解決に向けた示唆を導く。これらを取りまとめ、修士論文として完成させる。

■ 到達目標

一般目標：学術論文として修士論文を執筆し、その内容を論理的に説明できる能力を修得する。

個別目標：・これまでの研究成果を整理し、修士論文としてまとめることができる。

・修士論文の発表会で、自ら執筆した修士論文の意義・目的・結論を論理的に説明することができる。

■ 履修条件

特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを修得済みであること。

自分の研究テーマに関わる基礎知識を有していること。

■ 評価基準・方法

授業への取り組み姿勢や積極性、作成した資料や報告書、教員との議論の内容などを総合的に評価する。

■ フィードバック方法

事前学修のフィードバックは指導時間内に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（エクセル・ワードを用いて研究資料を作成する。パワーポイントを用いて発表用プレゼン資料を作成する。）

■ 教科書

特になし。

■ 参考書

必要に応じて紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業のすすめ方、修士論文執筆に向けたスケジュール、全体構成について説明する。また、特別演習Ⅲの成果を振り返る。 事前学修 3.0hr：特別演習Ⅲの成果を整理する。 事後学修 3.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。
2 回	授業テーマ：修士論文の目的と結論の検討 授業内容：特別演習Ⅲで検討した論点①②での知見を踏まえ、修士論文の目的に整合する結論の内容を検討する。 事前学修 3.0hr：修士論文の全体の構成と目的を見直し、導き出すことのできる結論を検討する。 事後学修 3.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。
3 回	授業テーマ：修士論文の骨子の検討 授業内容：特別演習Ⅲで検討した論点①②での知見、ならびに前回授業を踏まえ、修士論文の骨子を検討する。 事前学修 3.0hr：修士論文の構成・枠組みを検討する。 事後学修 3.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の構成・枠組みを再検討する。
4 回	授業テーマ：修士論文の目次の検討 授業内容：特別演習Ⅲでの成果、ならびに前回授業を踏まえて、修士論文の目次を検討する。 事前学修 3.0hr：修士論文の目次を作成する。 事後学修 3.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、授業を踏まえて修士論文の目次を修正する。
5 回	授業テーマ：研究資料・データの整理 授業内容：これまでに作成した研究資料・データを整理し、修士論文に活用できるように見直しをする。 事前学修 3.0hr：これまでに作成した研究資料・データを見直す。 事後学修 3.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、研究資料・データの再調整を行う。
6 回	授業テーマ：修士論文の執筆-1（序論：背景・目的） 授業内容：これまでの研究成果を取りまとめ、修士論文の序論の内、背景・目的に関する内容を検討する。 事前学修 4.0hr：修士論文の内、背景と目的の素案を執筆する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の序論の執筆をすすめる。
7 回	授業テーマ：修士論文の執筆-2（序論：既往研究・研究の枠組み） 授業内容：これまでの研究成果を取りまとめ、修士論文の序論の内、既往研究と研究の枠組みに関する内容を検討する。 事前学修 4.0hr：修士論文の内、既往研究と研究の枠組みの素案を執筆する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の序論をまとめる。
8 回	授業テーマ：修士論文の執筆-3（序論の見直し） 授業内容：前回・前々回の授業を振り返り、修士論文の序論の内容をあらためて見直す。 事前学修 3.0hr：修士論文の内、序論について内容を見直す。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の序論を修正する。
9 回	授業テーマ：修士論文の執筆-4（本論：論点①） 授業内容：論点①について、研究の背景・目的・研究の方法・分析結果・結論(小結)に関する内容を検討する。 事前学修 4.0hr：論点①の背景・目的・研究の方法・分析結果・結論(小結)の素案を執筆する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の本論の執筆をすすめる。
10 回	授業テーマ：修士論文の執筆-5（本論：論点①） 授業内容：論点①について、研究の背景・目的・研究の方法・分析結果・結論(小結)に関する内容を検討する。 事前学修 4.0hr：論点①の背景・目的・研究の方法・分析結果・結論(小結)の素案を執筆する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の本論の執筆をすすめる。
11 回	授業テーマ：修士論文の執筆-6（本論：論点②） 授業内容：論点②について、研究の背景・目的・研究の方法・分析結果・結論(小結)に関する内容を検討する。 事前学修 4.0hr：論点②の背景・目的・研究の方法・分析結果・結論(小結)の素案を執筆する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の本論の執筆をすすめる。

12 回	授業テーマ：修士論文の執筆-7 (本論：論点②) 授業内容：論点②について、研究の背景・目的・研究の方法・分析結果・結論(小結)に関する内容を検討する。 事前学修 4.0hr：論点②の背景・目的・研究の方法・分析結果・結論(小結)の素案を執筆する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の本論をまとめる。
13 回	授業テーマ：修士論文の執筆-8 (結論) 授業内容：修士論文の結論に関する内容を検討する。 事前学修 4.0hr：修士論文の結論の素案を執筆する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、修士論文の結論をまとめる。
14 回	授業テーマ：修士論文の発表準備 授業内容：修士論文の発表に向けて、パワーポイントを用いた発表用資料を検討する。 事前学修 4.0hr：発表用資料、ならびに発表用原稿の素案を作成する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を整理し、今後の研究活動に反映できるようにまとめる。また、授業を踏まえて発表用資料を修正する。
15 回	授業テーマ：修士論文の完成 授業内容：修士論文発表会での指摘内容などを反映した修士論文の最終稿をまとめるとともに、梗概資料を作成する。 事前学修 4.0hr：最終的な修士論文・梗概資料を作成する。 事後学修 2.0hr：授業で議論した内容を踏まえて、最終提出用の修士論文・梗概資料を完成させる。

特別演習Ⅳ

開講学科等：不動産博前 | 2年次 | 2単位 | 開講期：後

前島 彩子 (まえしま あやこ)

■ 授業の概要

特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの成果をふまえ、修士論文を完成させる。

■ 到達目標

一般目標：学術論文としての内容を備えた修士論文をまとめることができる。

個別目標：(1) 研究活動で得られた情報を、論文構成に基づき集約することができる。

(2) 論文発表会で、提出論文の意義、残された課題を説明できる。

■ 履修条件

特別演習Ⅲの単位を取得していること。

■ 評価基準・方法

授業への参加状況と修士論文の内容を総合して判断する。

■ フィードバック方法

ゼミで直接コメントするとともに LMS に蓄積する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（現地視察、プレゼンテーション、反転授業、ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word、図面作成ソフト等を搭載したノートパソコンを持参する）

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜案内する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：修士論文完成にむけた活動スケジュールを確認する。 事前学修 4.0hr：修士論文完成までのスケジュールを考える。 事後学修 4.0hr：修士論文完成までの詳細な研究スケジュールを作成する。
2 回	授業テーマ：収集整理された資料・データの確認 授業内容：これまでに収集整理した資料・データの見直しを行う。 事前学修 4.0hr：特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの研究作業の振り返りをする。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、資料・データの最終確認をする。
3 回	授業テーマ：予備的分析の準備 授業内容：資料・データを用いて予備的な分析手段について確認する。 事前学修 4.0hr：特別演習ⅠからⅢまでの研究作業を振り返り、分析方法を検討する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、予備的な分析を行う。
4 回	授業テーマ：予備的分析結果の検討 授業内容：分析結果の解釈について確認する。 事前学修 4.0hr：予備的分析結果の解釈を検討する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、具体的に分析を進める。
5 回	授業テーマ：資料・データの分析 授業内容：分析結果の課題について確認する。 事前学修 4.0hr：分析を実施した際の課題等をまとめる。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、分析結果の課題の見直し。
6 回	授業テーマ：資料・データの分析結果の検討 授業内容：分析結果の解釈について確認する。 事前学修 4.0hr：分析結果の解釈を考える。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、分析結果の表示方法の修正
7 回	授業テーマ：仮説の検証 授業内容：分析結果と仮説との関係を検証する。 事前学修 4.0hr：分析結果と仮説との関係を考える。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、仮説を検証する。
8 回	授業テーマ：修士論文の骨子の検討 授業内容：これまでに実施した研究作業を統合し修士論文の骨子を議論する。 事前学修 4.0hr：これまでの研究作業結果の再整理をする。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、修士論文の骨子を固める。
9 回	授業テーマ：修士論文の原稿作成1：背景と目的 授業内容：研究の背景と目的の部分を執筆し、確認する。 事前学修 4.0hr：修士論文の問題提起部分の素案を作成する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、研究の背景と目的の部分の内容を固める。
10 回	授業テーマ：修士論文の原稿作成2：先行研究レビュー 授業内容：先行研究レビューの部分の執筆し、確認する。 事前学修 4.0hr：先行研究の部分の素案を作成する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、先行研究の部分の内容を固める。
11 回	授業テーマ：修士論文の原稿作成3：資料・データ分析 授業内容：資料・データ分析の部分の執筆し、確認する。 事前学修 4.0hr：資料・データ分析の部分の素案を作成する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、資料・データの分析部分の内容を固める。
12 回	授業テーマ：修士論文の原稿作成4：結論 授業内容：結論の部分の執筆し、確認する。 事前学修 4.0hr：結論部分の素案を作成する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、結論部分の内容を固める。

13 回	授業テーマ：修士論文の原稿作成5：概ねの完成 授業内容：論文の体裁を整えて完成させる。 事前学修 4.0hr：修士論文の原稿を準備する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、修士論文の原稿を固める。
14 回	授業テーマ：修士論文の発表準備 授業内容：発表練習を行い、修正点を確認する。 事前学修 4.0hr：発表会の資料や発表の準備を行う。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、資料や発表の内容を固める。
15 回	授業テーマ：修士論文の完成 授業内容：指摘内容の反映を見直し、不備がないか確認する。 事前学修 4.0hr：発表会での指摘に基づき最終的な修士論文の原稿を用意する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、修士論文の原稿を仕上げる。

2026年度 不動産学研究科 博士前期課程 特別演習指導テーマ一覧

職名	氏名	主な研究指導テーマ
教授	兼重賢太郎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市法に関する理論的・実証的研究 ○ 都市空間に関する法社会学的研究 ○ 不動産をめぐる紛争解決システムの研究
准教授	金 東 煥	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産価格予測モデルの構築に関する研究 ○ 戸建住宅の価格推定モデル開発に関する研究 ○ 不動産市況分析のインデックス構築に関する研究 ○ マクロ経済市況とオフィス市場の関連性分析に関する研究
教授	小 杉 学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 区分所有マンションの管理に関する研究 ○ 区分所有マンションの建替え・解消に関する研究 ○ 地方都市の居住地・商業地再生に関する研究 ○ 公民連携まちづくりに関する研究
教授	小 松 広 明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産の価格形成要因としてのウェルビーイング (Well-being) に関する研究 ○ 居住者の不動産に対する価値意識構造に関する研究 ○ 収益用不動産の価格形成に関する実証的研究
教授	斎 藤 千 尋	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市空間の構成に関する研究 ○ 居住空間に関わる情報処理の研究 ○ 都市像に関する研究
教授	中 城 康 彦	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産の事業手法に関する研究 ○ 不動産鑑定評価理論に関する研究 ○ 賃貸不動産の経営と管理に関する研究 ○ 建築物の調査・診断・再生に関する研究
教授	浜 島 裕 美	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産取引に係る法的諸問題の研究 ○ 区分所有法に関する研究 ○ 環境に関する法的諸問題に関する研究
准教授	原 野 啓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 住宅流通市場の活性化に関する研究 ○ 住宅政策の政策効果に関する実証研究 ○ 中古住宅市場の政策効果に関する実証研究
教授	藤 木 亮 介	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建築物の長期的な修繕計画に関する研究 ○ マンション（区分所有集合住宅）の改修工事に関する研究 ○ 高経年建築物の再生に関する研究 ○ 衰退する郊外地域の再生に関する研究
教授	前 島 彩 子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建築都市環境の地域性に関する研究 ○ 建築生産・建築構法の変遷に関する研究 ○ 非専門工事業者によるリフォームに関する研究
教授	山 本 卓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産会計（減損会計、投資不動産会計、固定資産再評価、資産除去債務、リース会計等）にかかると実証的・制度的研究 ○ 企業不動産戦略（CRE）の実施方策及び効果検証にかかると研究 ○ 不動産評価・コンサルティングの効果的実施方策にかかると研究 ○ 固定資産税評価制度の国際比較にかかると研究 ○ 環境不動産・環境経営にかかると研究

注：担当教員は変更となる場合があります。

不動産学研究科

[博士後期課程]

環境・情報分析特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：後

齋藤 千尋 (さいとう ちひろ)

■ 授業の概要

現代においては、現実を情報化し、それに基づき的確な判断を下す、ということがあらゆる場面で求められている。不動産分野についても同様である。環境に関わる様々な情報をデータ化し分析すること、分析や判断の前提となる様々な価値観を明確にすることを本講義では主題とする。以下の到達目標、授業内容は、市街地環境、特に空間に関心をもつ受講者を想定したもので、市街地環境に関わるデータを題材とした分析方法の学習や、分析方法を応用した学術論文を精読するものとなっている。しかし、どのような環境、情報を対象とするかは、受講者の研究テーマを考慮して調整する。

■ 到達目標

一般目標：市街地環境に関わる様々な情報をデータ化し分析し、分析や判断の前提となる様々な価値観を明確にできるようになること。

個別目標：(1) 研究課題に応じた分析手法を身に付ける。

(2) 研究課題に応じて適切な分析手法を選択できるようになる。

■ 履修条件

研究テーマにおいて、都市・建築に関する情報分析の必要がある学生を対象とする。

■ 評価基準・方法

討論、レポートにより授業の題材の理解度を確かめる。

■ フィードバック方法

提出物等へのフィードバックは授業中に行うが、manaba により時間外の質疑応答も積極的に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（データ収集、分析ツールの演習）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（データ収集、分析ツールの演習）

■ 教科書

なし

■ 参考書

受講者のテーマに応じて指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

- 1, 2回 : 受講者の研究における分析手法の確認
- 3, 4回 : 分析手法のサーベイ、分析ツールの紹介
- 5～14回 : 先行研究の購読、データ収集、分析方法の学修
- 15回 : 先行研究のレビュー、データ分析のまとめ

授業内容

最初に、受講生の研究テーマを紹介してもらい、研究遂行上必要とされる環境・情報に関する教養、分析ツールを話し合う。(1、2回目)

次のステップとしては、関連する文献を選択し提示する他、必要に応じて、テーマに相応しい分析ツール(地理情報システム、統計解析ツール、プログラミング言語など)を選定する。(3、4回目)

以降は、文献購読、データ収集と分析作業を適宜行うことで、環境・情報に関する理解を深めていく。(5～14回目)

最終的には、各自の論文の一部をなすようなデータや文献整理がまとまることを想定している。(15回目)

事前学修

- 1～2回 博士論文で取り組む題目にかかわる先行研究のリストを整理しておく 各 3hr
- 3～4回 授業で指示された分析ツールに関する文献を読んでおく。各 3hr
- 5～14回 授業で用いるデータを準備する。各 2hr
- 15回 レポート作成とプレゼンテーションの準備する。3hr

事後学修

- 1～2回 授業で指示された分析手法を用いた文献をサーベイする。各 1hr
- 3～4回 授業で学んだ分析ツールの使用法を復習する。各 1hr
- 5～14回 授業時に行った分析結果を考察する。各 2hr
- 15回 指摘事項についてレポートの修正を行う。1hr

不動産鑑定理論特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：前

中城 康彦 (なかじょう やすひこ)

■ 授業の概要

不動産の価格を時間・空間・人間の相関でとらえ、その関係が端的に価格反映されるいくつかの題材をとりあげることによって、鑑定評価の論点を浮き彫りにする。

これらは社会・行政制度とも密接に関係するものであることより、リースホールド、建物長期利用、計画許可制、公的住宅の払い下げ、国際財務報告基準への統合など、わが国と異なる、もしくは、先行する制度に立脚する英国の評価理論の対比を行い、あわせてアジア近隣諸国の鑑定評価について考察する。

■ 到達目標

一般目標：社会事象を資産価値の側面から把握する能力を習得する。

個別目標：・不動産鑑定評価の課題を説明できる。

・海外の不動産制度と不動産鑑定評価理論を説明できる。

■ 履修条件

鑑定評価理論を理解していること。英語のテキストを読み、日本語で報告できること。授業中は積極的に成果を公表するとともに議論に参加すること。

■ 評価基準・方法

担当テーマの取りまとめ内容、プレゼンテーション力、討議を総合的に考慮する。随時提出するミニレポート等の内容より理解度を確認し、必要に応じてフィードバックする。

■ フィードバック方法

各回、当日のディスカッションの内容について振り返りのプレゼンテーションをする。補足すべき点について指摘を受けた場合は翌週までに指摘内容をカバーして提示する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（授業は双方向の意見交換を重視して行う。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（鑑定評価手法を適用して価格を算出する。）

■ 教科書

授業中に指定する。

■ 参考書

中城康彦「教養としての「不動産」大全」日本実業出版社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：・日本の不動産鑑定評価に関する認識の確認 ・受講する狙いと到達目標の確認 ・事業の進め方についての意見交換 事前学修 2.0hr：日本の不動産鑑定評価基準、解説本を読む 事後学修 2.0hr：授業内容にしたがった資料等の入手
2 回	授業テーマ：鑑定評価における時間の概念 授業内容：・収益還元法が、将来純収益の現在価値の総和と定義することの意味を確認する ・期間権の価格が、利用可能な時間によって決定されることの意味を確認する ・複利現価率、複利年金現価率を理解し算出方法を確認する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
3 回	授業テーマ：鑑定評価における空間の意味 授業内容：・不動産の価格が容積率によって決定されることの意味を確認する ・優れた設計による建築空間と陳腐化した建築空間による価値と価格の違いを確認する ・更地価格と空中権、区分地上権の価格を比較し土地価格の三次元化、四次元化を考察する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
4 回	授業テーマ：私法と公法の補完と相克－規制緩和 授業内容：・空中権の移転～都市計画法・建築基準法（公法）と地役権（私法）の補完関係～を整理する ・立体道路制度～都市計画法（公法）と区分地上権（私法）の補完関係～を整理する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
5 回	授業テーマ：私法と公法の補完と相克－農地の保全 授業内容：・農住組合による農的土地利用と都市的土地利用にみる不動産価値の互恵について整理する ・生産緑地制度にみる土地利用制限と都市空間の価値を整理する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
6 回	授業テーマ：私法と公法の補完と相克－マンション建替え 授業内容：・区分所有法が規定する共有持分の考え方とマンションの市場価値の関係を整理する ・マンション建替えに参加する場合の権利割合をどう考えるべきか考察する ・従前マンションの場所の利益を合理的に説明する方法があるか検討する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
7 回	授業テーマ：借地権と借家権の権利と価格 授業内容：・借地権に価格が発生する理由を整理し、鑑定評価手法との整合性を確認する ・借家権に価格が発生しない理由を整理し、鑑定評価手法との整合性を確認するとともに、立退料を説明する ・権利が存在することと価格が存在することは同義ではないこと（法と経済）を学修する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

8 回	<p>授業テーマ：英国リースホールドの権利と価格－フリーホールド買取り価格の評価 1</p> <p>授業内容：・英国のリースホールド制度と日本の借地権の異同について学修する ・産業革命後の英国で 99 年ビルディングリースの利用が多くなった歴史的背景、および、ガーデンシティムーブメントの出現を学修する</p> <p>事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する</p>
9 回	<p>授業テーマ：英国リースホールドの権利と価格－フリーホールド買取り価格の評価 2</p> <p>授業内容：・初期の基準にもとづく買取り価格の評価をレビューする</p> <p>事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する</p>
10 回	<p>授業テーマ：英国リースホールドの権利と価格－フリーホールド買取り価格の評価 3</p> <p>授業内容：・買取り制度が拡充した経緯を整理する ・近時の基準にもとづく買取り価格の評価をレビューする</p> <p>事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する</p>
11 回	<p>授業テーマ：英国公的住宅払い下げの権利と価格</p> <p>授業内容：・公的住宅の払い下げで用いられるシェアードオーナーシップ制度を学修する ・シェアードオーナーシップの日本の空き家活用他で利用することを想定した場合の課題について意見交換する</p> <p>事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する</p>
12 回	<p>授業テーマ：ハワイ州のタイムシェア制度の権利と価格</p> <p>授業内容：・ハワイ州でタイムシェアが普及している背景と制度の内容及び課題を整理する ・タイムシェアする不動産の権利の内容と価格評価について考察する</p> <p>事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する</p>
13 回	<p>授業テーマ：英国 RICS 評価基準と国際財務評価基準</p> <p>授業内容：・RICS の評価基準と日本の不動産鑑定評価基準の異同を確認する ・国際財務評価基準と日本の不動産鑑定評価基準の関係を整理する</p> <p>事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する</p>
14 回	<p>授業テーマ：IVS 国際評価基準と日本の不動産鑑定評価基準</p> <p>授業内容：・IVS 国際評価基準と日本の不動産鑑定評価基準の異同を確認する</p> <p>事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する</p>
15 回	<p>授業テーマ：鑑定評価基準に含まれない価値とその評価</p> <p>授業内容：不動産鑑定評価基準の評価額にあらわれない価値にはどのようなものがあるか確認し、その社会的意義や評価の考え方について意見交換する</p> <p>事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を理解し、意見発表の準備をする 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する</p>

不動産投資理論特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：前

小松 広明 (こまつ ひろあき)

■ 授業の概要

不動産投資に関する合理的な意思決定には、過去のデータから将来を予測することが欠かせない。本講義では、時系列分析の基礎的な概念を解説するとともに、計算機(PC)を用いた実習を交えながら、不動産市場の予測方法に対する理解を深めることを目的とする。なお、実習においては、データ解析ソフトとして、オープンソフトウェアの R を用いる。

■ 到達目標

一般目標：不動産市場データの変動をもとに、将来予測が行えるようになること。

個別目標：①経済時系列の予測手順を理解する。

②各モデルの診断を行うことができる。

■ 履修条件

講義の演習では、R 言語によるプログラミングを行うことから、若干の当該知識を有していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

課題演習 50 %、ディスカッション 50 %

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（演習課題を通じてディスカッションを適宜実施）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（情報処理演習室の PC を利用）

■ 教科書

適宜資料を配布する。

■ 参考書

ウォルター・エンダース(2019)『実証のための計量時系列分析』有斐閣

西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣

沖本竜義(2010)『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店

田中孝文(2008)『R による時系列分析入門』シーエービー出版

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：時系列分析の基礎①(経済時系列データの変動要因) 授業内容：時系列データの4つの成分と当該データを利用した景気動向指数について学修する。 事前学修 2.0hr：一般的な経済時系列データの変動要因について調べておく。 事後学修 2.0hr：受講内容の復習を行う。
2 回	授業テーマ：時系列分析の基礎②(定常確率過程) 授業内容：定常性成立の3つの要件、分散の安定化について学修する。 事前学修 2.0hr：定常確率過程について調べておく。 事後学修 2.0hr：受講内容の復習を行う。
3 回	授業テーマ：ARMA 過程①(AR 過程の予測) 授業内容：自己回帰モデルとランダムウォーク・モデルについて学修する。 事前学修 2.0hr：AR 過程について調べておく。 事後学修 2.0hr：受講内容の復習を行う。
4 回	授業テーマ：ARMA 過程②(MA 過程の予測) 授業内容：移動平均(MA)モデルと ARMA モデルについて学修する。 事前学修 2.0hr：MA 過程について調べておく。 事後学修 2.0hr：受講内容の復習を行う。
5 回	授業テーマ：ランダム・ウォーク 授業内容：PC を利用して、ランダム・ウォークのシミュレーションを行う。 事前学修 2.0hr：ランダム・ウォークを調べておく。 事後学修 2.0hr：自己の PC を用いて演習課題の復習を行う。
6 回	授業テーマ：ホワイト・ノイズ 授業内容：PC を利用して、ホワイト・ノイズの標本データを作成する。その上で、ヒストグラムを作成する。 事前学修 2.0hr：ホワイト・ノイズについて調べておく。 事後学修 2.0hr：自己の PC を用いて演習課題の復習を行う。
7 回	授業テーマ：単位根過程①(単位根過程と定常過程の比較) 授業内容：時系列分析における統計的検定として、単位根過程、DF 検定、ADF 検定について学修する。 事前学修 2.0hr：単位根過程について調べておく。 事後学修 2.0hr：受講内容の復習を行う。
8 回	授業テーマ：単位根過程②(単位根検定) 授業内容：PC を利用して、時系列分析における統計的検定について演習を通じて学修する。 事前学修 2.0hr：単位根検定について調べておく。 事後学修 2.0hr：自己の PC を用いて演習課題の復習を行う。
9 回	授業テーマ：ARIMA モデル(モデルの推定・診断) 授業内容：PC を利用して、ARIMA モデルを推定する。また、推定結果の診断を行う。 事前学修 2.0hr：ARIMA モデルについて調べておく。 事後学修 2.0hr：自己の PC を用いて演習課題の復習を行う。
10 回	授業テーマ：VAR モデル①(グレンジャー因果性) 授業内容：ベクトル自己回帰モデル、グレンジャー因果性について学修する。 事前学修 2.0hr：グレンジャー因果性について調べておく。 事後学修 2.0hr：受講内容の復習を行う。
11 回	授業テーマ：VAR モデル②(インパルス応答関数) 授業内容：PC を利用して、VAR モデルの推定を行い、グレンジャー因果性の有無、インパルス応答関数、分散分解を学修する。 事前学修 2.0hr：インパルス応答関数について調べておく。 事後学修 2.0hr：自己の PC を用いて演習課題の復習を行う。

12 回	授業テーマ：ARCH モデル・GARCH モデル①(ARCH モデルの推定) 授業内容：条件付き不均一分散、ARCH モデルについて学修する。 事前学修 2.0hr：ARCH モデルについて調べておく。 事後学修 2.0hr：受講内容の復習を行う。
13 回	授業テーマ：ARCH モデル・GARCH モデル②(使用データの整備) 授業内容：PC を利用して、株価データの収集、データフレーム型への変換、ヒストグラムの描画、Q-Q プロット図の作成を行う。 事前学修 2.0hr：事前に使用データを確認しておく。 事後学修 2.0hr：自己の PC を用いて演習課題の復習を行う。
14 回	授業テーマ：ARCH モデル・GARCH モデル③(GARCH モデルの推定) 授業内容：PC を利用して、ARCH モデル、GARCH モデルを推定し、当該推定結果についてディスカッションを行う。 事前学修 2.0hr：GARCH モデルについて調べておく。 事後学修 2.0hr：自己の PC を用いて演習課題の復習を行う。
15 回	授業テーマ：状態空間モデル(総括：ARMA モデルとの比較) 授業内容：ARMA モデルとの比較のもとに、カルマンフィルタと状態空間モデルについて学修する。 事前学修 2.0hr：状態空間モデルと ARMA モデルを比較し、それぞれの特徴について調べておく。 事後学修 2.0hr：受講内容の復習を行う。

企業不動産管理論特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：前

山本 卓 (やまもと たかし)

■ 授業の概要

近年、企業経営は、保有する不動産のあり方に左右される傾向が強まっている。すなわち、企業不動産を適切に管理することにより、企業価値を高めることが経営者に求められている。また、企業を取り巻く関係者（投資家、債権者、監査人等）もこのような視点から企業をモニタリングすることが要請される。本授業では、このような背景を踏まえたうえで、一般に CRE(Corporate Real Estate) と称され、企業不動産の効率的管理を実現していくための知見を身につけると同時にこの分野の研究動向を把握する。

■ 到達目標

一般目標：不動産学と密接に関連する経営学領域の学問的素養を身につけ、学会で通用する研究活動に必要な学術的スキルを獲得する。

個別目標：本授業の個別目標は下記のとおりとなる。

- (1) 企業不動産管理の概観や歴史的展開を理解し、文書で表現できる。
- (2) 企業不動産管理の理解に不可欠な、会計、財務管理、不動産評価の知見を統合的に身につけ学術論文に反映できる。
- (3) 企業不動産管理を研究するうえでの基礎的な分析手法を身につけ、それに基づき分析結果を導き出せる。

■ 履修条件

会計・経営領域に関心があり、当該分野で博士論文の作成を予定していること。

■ 評価基準・方法

講義への参加・貢献状況 (30%) とレポート (70%) で評価を行う。

■ フィードバック方法

課題のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。希望に応じて面談でのフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（毎回課題等について発表してもらい、教員・学生間で質疑応答を行う。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（課題作成やプレゼン等で、ワードやパワーポイントを使用する。）

■ 教科書

適宜、学術論文等を配布する。

■ 参考書

須田一幸 (2000) 『財務会計の機能』 白桃書房、大日方隆 (2013) 『アドバンスト財務会計』 中央経済社
山本卓 (2009) 『財務情報と企業不動産分析』 創成社、山本卓 (2011) 『企業不動産の会計と環境』 創成社
山本卓 (2013) 『不動産会計と経営行動』 創成社、山本卓 (2015) 『投資不動産会計と公正価値評価』 創成社
山本卓編著 (2017) 『グローバル社会と不動産価値』 創成社、山本卓編著 (2021) 『ストック型社会への企業不動産分析』 創成社
山本卓 (2025) 『企業不動産読本』 KEN 不動産研究

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：本授業の基本的な進め方やルールを周知する。ビジネス社会において不動産に関する会計制度や財務管理を学ぶ重要性を確認するとともに、学術研究上の留意点を示す。 事前学修 2.0hr：不動産と経営学領域における問題意識を整理する。 事後学修 3.0hr：自分の博士論文の内容との関係を把握・整理する。
2 回	授業テーマ：CRE 研究の歴史的展開 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「CRE 研究の歴史的展開」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受けて、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。
3 回	授業テーマ：CRE 研究における研究手法 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「CRE 研究における研究手法」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受けて、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。
4 回	授業テーマ：CRE 研究の具体例 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「CRE 研究の具体例」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。
5 回	授業テーマ：CRE 研究と実証会計研究 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「CRE 研究と実証会計研究」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。
6 回	授業テーマ：コーポレートガバナンスと CRE 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「コーポレートガバナンスと CRE」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。
7 回	授業テーマ：固定資産再評価と CRE 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「固定資産再評価と CRE」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。
8 回	授業テーマ：減損会計と CRE 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「減損会計と CRE」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。

9 回	<p>授業テーマ：投資不動産会計と CRE 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「投資不動産会計と CRE」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。</p>
10 回	<p>授業テーマ：環境経営と CRE 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「環境経営と CRE」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。</p>
11 回	<p>授業テーマ：M&A と CRE 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「M & A と CRE」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。</p>
12 回	<p>授業テーマ：環境経営と企業不動産 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「環境経営と企業不動産」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。</p>
13 回	<p>授業テーマ：不動産公正価値と鑑定人 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「不動産公正価値と鑑定人」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。</p>
14 回	<p>授業テーマ：遊休不動産と CRE 授業内容：前回の課題の解説や振り返りを行ったうえで、「遊休不動産と CRE」についての研究上の論点や研究方法等を講義する。それを踏まえたうえで、取り組んでもらう課題のポイントを示す。 事前学修 3.0hr：事前配布論文を読み込み、疑問点や課題を整理する。 事後学修 3.0hr：授業での討議を受け、当該テーマの理解を深め、自身の博士論文作成の参考にする。</p>
15 回	<p>授業テーマ：レポート発表 授業内容：第 1 回から第 14 回までの基礎論点の振り返りを行い、理解を確かなものとする。さらに各自が取り組んできたテーマにかかるレポート発表を行ってもらい、それについて質疑をする。それに基づき、学術論文へ昇華できるよう指導する。 事前学修 4.0hr：レポートの作成と発表の準備を行う。 事後学修 4.0hr：レポート作成を通して、自分の博士論文の内容との関係を考察・整理する。</p>

不動産市場分析特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：前

原野 啓 (はらの けい)

■ 授業の概要

博士論文を執筆するにあたって必要な実証分析スキルの充実を図る。論文執筆をする際には、多様な先行研究を引用・参照する必要があるが、これまでの講義では扱っていない多様な実証分析が用いられていることが多々ある。博士論文執筆に必要な先行研究のサーベイを行い、未学習の実証分析の推計方法について学修しつつ、Stata を利用してその手法の学修を行う。

■ 到達目標

一般目標：実証分析の分析手法を学習し、先行研究を読み解くことができるようになること

個別目標：(1) 研究課題に応じた分析手法を身に付ける

(2) 研究課題に応じて適切な分析手法を選択できるようになる

■ 履修条件

計量経済学の学修が終了していること(学部「計量経済学」、大学院「不動産計量経済分析特論」)

■ 評価基準・方法

課題の提出・授業参加・課題の理解度を踏まえて評価する

■ フィードバック方法

提出物等へのフィードバックは授業中に行うが、manaba により時間外の質疑応答も積極的に行う

■ アクティブ・ラーニングの実施 (実施内容)

あり (分析ツールの演習)

■ 授業での PC の利用 (利用内容)

あり (分析ツールの演習)

■ 教科書

なし

■ 参考書

受講者のテーマに応じて指示する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外 (事前・事後) の学修及び学修目安時間

授業テーマ

- (1) 受講者の研究内容に応じて、先行研究についてサーベイを行う
- (2) 先行研究で特にどのような実証分析が行われているかを確認する
- (3) 演習可能なデータ等を利用して分析手法について学修する

授業内容

先行研究毎に、以下の内容にて授業を進める。

- (1) 先行研究の内容についてまとめる(特に、本人の研究テーマとの関連性について)
- (2) 用いられている分析手法についてまとめる
- (3) 統計解析ソフトなどを利用して分析手法の演習を行う

事前学修

事前学修は必須であり、対応する内容によって必要な事前学修時間は異なる

- (1) 先行研究の内容についてまとめる(4hr)
- (2) 実証分析の手法についてまとめる(10hr)
- (3) 対応するデータの準備(2hr)

事後学修

各回のテーマと内容によるが、事後学修は必須である

- (1) 先行研究に関連する文献の収集と概要確認(2hr)
- (2) 実証分析の手法について詳細を確認する(10hr)
- (3) 統計解析ソフトなどを利用して分析手法の再現し、不明な分析コマンドについて確認する(4hr)
- (4) 事後学修の内容を整理した資料の作成(4hr)

地域再生特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：前

小杉 学 (こすぎ まなぶ)

■ 授業の概要

地域再生に関する諸問題と、その解決に向けた最新の取り組みについて学修する。社会、経済、法制度、さらに歴史的背景も踏まえ、問題の本質を捉えていく。

■ 到達目標

一般目標：地域再生に関する諸問題の実態、発生メカニズム、解決策、残された課題について理解する。

個別目標：地域再生に関する諸問題の実態、発生メカニズム、解決策、残された課題それぞれについて、正確かつ分かりやすく説明することができる。

■ 履修条件

- ・ 地域再生に関する基礎的・一般的・先端的な知識を修得していること。
- ・ 地域再生に関する最新の議論に精通していること。

■ 評価基準・方法

レポートの質、プレゼンテーションのわかりやすさ、討論への積極的姿勢などを総合的に評価する。

■ フィードバック方法

レポートやプレゼンテーションに対するフィードバックは授業中に行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、Powerpoint を搭載したノートパソコンを毎回持参すること。）

■ 教科書

必要に応じて授業の中で紹介する。

■ 参考書

必要に応じて授業の中で紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイドランス・マンションの現状 授業内容：本授業の概要、進め方について説明する。マンションの現状について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
2 回	授業テーマ：地方都市の現状 授業内容：地方都市の現状について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
3 回	授業テーマ：地方都市が抱える問題 授業内容：地方都市が抱える問題について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
4 回	授業テーマ：中心市街地活性化法および中心市街地活性化基本計画の概要 授業内容：中心市街地活性化法および中心市街地活性化基本計画の概要について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
5 回	授業テーマ：中心市街地活性化の取り組み事例 授業内容：過去の中心市街地活性化の取り組み事例について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
6 回	授業テーマ：中心市街地活性化の失敗と限界 授業内容：中心市街地活性化の失敗と限界について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
7 回	授業テーマ：コンパクトシティ・都市再生特別措置法・立地適正化計画 授業内容：コンパクトシティ・都市再生特別措置法・立地適正化計画について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
8 回	授業テーマ：地方都市再生と空き家問題 授業内容：地方都市再生と空き家問題について学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：前今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
9 回	授業テーマ：まちづくり会社 授業内容：まちづくり会社、特に滋賀県長浜市のまちづくり会社「黒壁」についてレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。
10 回	授業テーマ：リノベーションまちづくり 授業内容：リノベーションまちづくりの取り組みについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。

11 回	<p>授業テーマ：米国のランドバンク 授業内容：米国のランドバンクについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
12 回	<p>授業テーマ：日本のランドバンク(つるおかランド・バンク) 授業内容：日本のランドバンク、とくに日本版ランドバンクのパイオニアと言われる「つるおかランド・バンク」の取り組みについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
13 回	<p>授業テーマ：日本のランドバンク(かみのやまランドバンク) 授業内容：日本のランドバンク、とくに明海大学不動産学部が参画する「かみのやまランドバンク」の取り組みについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
14 回	<p>授業テーマ：地方創生 授業内容：マンションのコミュニティとガバナンスについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>
15 回	<p>授業テーマ：地域再生のまとめ 授業内容：本授業で扱ってきた地域再生のまとめについて学生がレポートを報告し、その内容について学生間でディスカッションを行うとともに、教員が補足説明する。 事前学修 3.0hr：今回の授業テーマに関するレポートを作成する。 事後学修 1.0hr：今回の授業の議事録を作成する。また、今回の授業内容を踏まえて、今回授業で発表したレポートを改善する。</p>

建築計画論特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：後

前島 彩子 (まえしま あやこ)

■ 授業の概要

建築の周辺環境を含めた空間が、どのように計画され、運営・利用されているのかについて、その背景となる技術や制度、文化をふまえて理解を深めます。

まず、建築の計画手法は、建築類型や技術・制度・文化とどう対応しているか？ 時代や地域によりどのような考慮がみられるか？ を学びます。これに基づき、現代社会の課題に対する、創造的な解決策や再生への介入の在り方を考えます。

■ 到達目標

一般目標：分析対象となる都市空間・建築物に対して、建築計画上的特徴を指摘できる。

個別目標：都市空間・建築物の成立背景について、系譜のおよび地域的な側面から、論理的に思考することができる。

都市空間・建築物の再生や改修について、その介入に関する社会制度や技術技能の考え方を習得する。

■ 履修条件

建築分野に関する基本的知識を修得していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

毎回のレジュメ作成と議論への参加(50%)、最終レポートの内容(50%)を総合的に判断します。

■ フィードバック方法

毎回の講義、manaba を通じて行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（反転学修(レジュメ作成)、ディスカッション、建築見学）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（作図、データ分析、発表）

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜案内する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：この授業の目的、概要、進め方を確認する。 社会の変化(少子高齢化、グローバル化、情報化、公民連携、環境配慮、地域再生など)と建築計画の関わり的一端をつかむ。 事前学修 1.0hr：シラバスを読み授業の全体像をつかむ。 事後学修 3.0hr：再度、授業の全体像を見直し、自らの研究テーマとの関連を整理する。
2 回	授業テーマ：建築類型と建築計画1 住宅 授業内容：代表的な住宅を参考にしながら、文化・気候、産業・制度が住まいの空間構成・性能品質、運営にどういった影響を与えるか考える。 事前学修 3.0hr：授業テーマに関連する資料を収集し、レジュメを作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
3 回	授業テーマ：建築類型と建築計画2 オフィス・庁舎 授業内容：代表的なオフィスや庁舎を参考にしながら、文化・気候、産業・制度が執務空間の空間構成・性能品質、運営にどういった影響を与えるか考える。 事前学修 3.0hr：授業テーマに関連する資料を収集し、レジュメを作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
4 回	授業テーマ：建築類型と建築計画3 商業施設・ショッピングモール 授業内容：代表的な商業施設・ショッピングモールを参考にしながら、文化・気候、産業・制度が商業空間の空間構成・性能品質、運営にどういった影響を与えるか考える。 事前学修 3.0hr：授業テーマに関連する資料を収集し、レジュメを作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
5 回	授業テーマ：建築類型と建築計画4 生産施設・交通拠点 授業内容：代表的な生産施設・交通拠点を参考にしながら、文化・気候、産業・制度が施設の空間構成・性能品質、運営にどういった影響を与えるか考える。 事前学修 3.0hr：授業テーマに関連する資料を収集し、レジュメを作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
6 回	授業テーマ：レポート1 建築類型 授業内容：研究対象事例についてまとめたレポート1を発表し、議論する。 事前学修 3.0hr：1-5回の授業をふまえ、レポート1を作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
7 回	授業テーマ：技術史と構法計画1 鉄骨造とその改修 授業内容：各時代を代表する鉄骨造の事例を参照しながら、労働力・技能、産業・制度が鉄骨造構法の計画や性能品質、コストにどういった影響を与えるか考える。 事前学修 3.0hr：授業テーマに関連する資料を収集し、レジュメを作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
8 回	授業テーマ：技術史と構法計画2 鉄筋コンクリート造とその改修 授業内容：各時代を代表する鉄筋コンクリート造の事例を参照しながら、労働力・技能、産業・制度が鉄筋コンクリート造構法の計画や性能品質、コストにどういった影響を与えるか考える。 事前学修 3.0hr：授業テーマに関連する資料を収集し、レジュメを作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
9 回	授業テーマ：技術史と構法計画3 木造とその改修 授業内容：各時代を代表する木造の事例を参照しながら、労働力・技能、産業・制度が木造構法の計画や性能品質、コストにどういった影響を与えるか考える。 事前学修 3.0hr：授業テーマに関連する資料を収集し、レジュメを作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。

10 回	授業テーマ：技術史と構法計画4 地盤・基礎 授業内容：基礎計画に関わる代表的な事例を参照しながら、労働力・技能、産業・制度が基礎構法の計画や性能品質、コストにどういった影響を与えるか考える。液状化対策や曳家についても扱います。 事前学修 3.0hr：授業テーマに関連する資料を収集し、レジュメを作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
11 回	授業テーマ：技術史と構法計画5 工業化・環境配慮 授業内容：工業化や環境配慮に関わる代表的な事例を参照しながら、労働力・技能、産業・制度がそれらの計画や性能品質、コストにどういった影響を与えるか考える。モジュラー建築やカーボン排出量についても扱います。 事前学修 3.0hr：授業テーマに関連する資料を収集し、レジュメを作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
12 回	授業テーマ：レポート2 技術・制度 授業内容：研究対象事例についてまとめたレポート2を発表し、議論する。 事前学修 3.0hr：7-11 回までの授業をふまえ、レポート2を作成する。 事後学修 1.0hr：授業を振り返り、要点を整理する。
13 回	授業テーマ：調査 授業内容：研究対象の事例を対象に、調査(見学、統計、文献、その他)を実施し、結果を報告する。 事前学修 3.5hr：研究対象の事例を対象に調査を計画し、実施する。 事後学修 0.5hr：授業を振り返り、要点を整理する。
14 回	授業テーマ：分析 授業内容：調査によって得られた結果を分析し、明らかにした点および残された課題について議論する。 事前学修 3.5hr：調査によって得られた結果を分析し、明らかにした点および残された課題を整理する。 事後学修 0.5hr：授業を振り返り、要点を整理する。
15 回	授業テーマ：レポート3 まとめ 授業内容：研究対象の建築計画上の特徴をまとめたレポートを発表し、議論する。 事前学修 3.5hr：レポート1、レポート2および 14 回までの授業をふまえ、レポート3を完成させる。 事後学修 0.5hr：授業全体を振り返り、自らの研究への反映を整理する。

住宅政策論特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：前

藤木 亮介 (ふじき りょうすけ)

■ 授業の概要

高度経済成長期に大量供給された住宅は、老朽化による建替えや取り壊しが進められる一方で、建替えられていないものも数多く存在している。特に、郊外に建つマンション(区分所有集合住宅)は、合意形成の困難性から建替えたくても建替えられないといった事情がある。こうした住宅は築 50 年を超えるが、中には良質な住宅ストックとして維持保全されているものもあり、フローからストックの時代に移った今、こうした住宅ストックの流通・価値評価・政策に関わる課題を整理するとともに、その対応策を検討していく必要が生じている。そこで本講義では、上記に関係する公的資料や既往の研究資料を精読したうえで、既存住宅ストックに関連する政策手法を学ぶと共に、現状の課題やその解決方法を考えていく。

■ 到達目標

一般目標：現状の住宅ストックの実態を把握し、その課題の構造を理解すると共に、その解決策を考えるための能力を身につける。

個別目標：(1) 住宅ストックの課題を説明することができる。

(2) 住宅ストックの実態とそれに対応した住宅政策との関連を説明することができる。

■ 履修条件

建築基準法、都市計画法、建物の区分所有等に関する法律、マンションの管理の適正化の推進に関する法律、マンションの再生等の円滑化に関する法律について、基礎知識を有していること。

■ 評価基準・方法

講義への取り組み姿勢、レポート、プレゼンテーション、議論の内容により総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題等へのフィードバックは授業中に行う。また、manaba による質疑応答も適宜行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料を作成する。ワードを用いてレポートを作成する。）

■ 教科書

なし

■ 参考書

必要に応じて紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

- (1) 受講者の研究内容や専門分野の紹介
- (2) 受講者それぞれが取り扱うテーマ(住宅ストックに関する課題・政策)の選定
- (3) 各テーマに応じた公的資料・既往の研究資料の精読
- (4) 各テーマのプレゼンテーション・議論
- (5) 他者の発表や議論を踏まえた最終レポートのまとめ

授業内容

まず、受講者それぞれの専門分野や研究分野、ならびにそれらが「住宅ストックに関する課題や政策」とどのように関連しているかを紹介してもらう。そのうえで、各自がとりくむ具体的なテーマを選定する。

テーマ決定後は、関連する公的資料や既往の研究資料の精読を通じて、現状の要点や解決すべき課題、今後の展望を整理し、プレゼンテーション資料としてまとめる。

授業内でのプレゼンテーション実施後、受講者同士での多角的な議論を行い、他者からの視点や知見を取り入れる。

最終的には、これらの議論で得られた知見をフィードバックさせ、自身の考察をさらに深化させた最終レポートを作成する。

事前学修

それぞれが選定したテーマや、修得済み知識にもよるが、毎回、2～5h 程度の事前学修が必要となる。

事前学修の目安は以下の通り。

- (1) 受講者の研究内容や専門分野に関するプレゼンテーション資料の作成(2h)
- (2) 受講者それぞれが取り扱う課題・政策に関する情報収集、ならびにテーマ選定に関わる提案資料の作成(3h)
- (3) それぞれのテーマに応じた公的資料・既往の研究資料の精読(5h)
- (4) プレゼンテーション資料の作成(5h)
- (5) 他者の発表・議論を踏まえた最終レポートの作成(5h)

事後学修

それぞれが選定したテーマや、修得済み知識にもよるが、毎回、2～4h 程度の事後学修が必要となる。

事後学修の目安は以下の通り。

- (1) 受講者の研究内容や専門分野に関するプレゼンテーション資料の不足情報の補完(2h)
- (2) 受講者それぞれが取り扱う課題・政策に関する未収集情報の追加収集(2h)
- (3) それぞれのテーマに応じた公的資料・既往の研究資料の追加収集(3h)
- (4) プレゼンテーション資料の見直し、不足情報の補完(4h)
- (5) 最終レポートの修正(2h)

不動産公法特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：後

兼重 賢太郎 (かねしげ けんたろう)

■ 授業の概要

不動産に関連する公法(行政法)分野は多岐にわたる。本講義では、受講者と教員とで不動産に関連する公法分野(特に都市法分野)の研究テーマを設定し、そのテーマに即した近時の研究動向を把握・考察する。

■ 到達目標

一般目標：近時の公法分野(特に都市法分野)の研究動向を把握することを目標とする。
個別目標：博士論文における既往研究の整理に資することを目標とする。

■ 履修条件

「不動産公法特講」を履修していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

毎回の報告・議論等の質・量などを踏まえ、総合的に評価する。

■ フィードバック方法

フィードバックは、授業内で毎回行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(毎回、全員で議論する。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(報告・発表のために PC を利用する。)

■ 教科書

内海麻利編著『縮減社会の管轄と制御』(2024年、法律文化社)および金井利之編著『縮減社会の合意形成』(2019年、第一法規)。

■ 参考書

講義の中で、適宜、指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：講義全体の進め方を確認するとともに、管轄と制御という概念をキーワードにしつつ、縮減社会における公法的課題について概観する。 事前学修 2.0hr：教科書として指定した図書の「はじめに」を読んだ上で、論点や不明点などを整理する。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、縮減社会における公法的課題について、自分なりに考察し、整理する。
2 回	授業テーマ：人口減少化にある日本の管轄と制御に関する課題 授業内容：人口減少化にある日本の都市政策の管轄と制御に関する課題を把握し、特に重要となる政策課題について、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
3 回	授業テーマ：空間制度の管轄と制御の実態 授業内容：近年の都市計画に関する諸制度の改正を概観するとともに、都市政策に関し、積み残された課題や新たな課題について、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
4 回	授業テーマ：都市空間管理法制における管轄と制御 授業内容：空き家問題に着目し、空家対策指針・各地の条例等の執行現状などを概観するとともに、積み残された課題や新たな課題について、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
5 回	授業テーマ：農山村の空間制度における管轄と制御 授業内容：近年の農山村地域の運営組織に着目し、縮減社会における農用地の活用や保全などに関し、その現状や課題について、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
6 回	授業テーマ：自治体における空間の管轄と制御 授業内容：近年の地域の公共交通のあり方に着目し、地域公共交通の望ましい計画や運営などに関し、その現状や課題について、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
7 回	授業テーマ：フランス都市政策からの示唆 授業内容：フランスの都市政策について概観するとともに、日本の都市政策の課題に対し、どのような示唆があるのかを全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
8 回	授業テーマ：アメリカの都市計画からの示唆 授業内容：現代のアメリカの都市計画制度について概観するとともに、日本の都市計画制度の課題に対し、どのような示唆があるのかを全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
9 回	授業テーマ：ドイツの放置不動産問題からの示唆 授業内容：ドイツの放置不動産に関する問題について概観するとともに、日本の空き家・空き地問題等に対し、どのような示唆があるのかを全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
10 回	授業テーマ：オランダの空間制度からの示唆 授業内容：オランダの空間制度について概観するとともに、日本の国土政策・都市政策の課題に対し、どのような示唆があるのかを全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
11 回	授業テーマ：合意形成の原理 授業内容：さまざまな制度や政策を実施していく上で、合意形成の抱える問題やどのような合意形成を図る必要があるのかについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。

12 回	授業テーマ：空き家問題に関する合意形成 授業内容：空き家問題の対処に関し、現状での課題を踏まえた上で、いかなる合意形成を図る必要があるのかについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
13 回	授業テーマ：合意形成と訴訟 授業内容：合意形成を目指していたものの、それがうまくいかない場合には、訴訟へと移行するケースも考えられる。合意形成と訴訟との関係について、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
14 回	授業テーマ：空間制御における合意形成 授業内容：望ましい都市計画を実施していく上においては、住民や利害関係者との間でいかなる合意形成を図る必要があるのかについて、全員で議論する。 事前学修 2.0hr：事前に指示したテキストの該当箇所を読み、レジュメを作成する。 事後学修 2.0hr：講義での議論などを踏まえ、レジュメをブラッシュアップする。
15 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：講義全体をふり返り、まとめをおこなう。 事前学修 2.0hr：これまで作成したレジュメ等をふり返り、これからの各受講生の研究への示唆などを確認・整理する。 事後学修 2.0hr：講義を踏まえ、これからの各受講生の研究への示唆をまとめる。

環境法政策論特講

開講学科等：不動産博後 | 2 単位 | 開講期：前

浜島 裕美 (はまじま ひろみ)

■ 授業の概要

環境法政策とは、環境法と環境政策をあわせた言葉で、今やグローバル化する環境問題に対処するためには、法制度の枠組みだけでなく、様々な政策上の手法を用いる必要があることから生まれた。環境基本法を頂点とする環境法が対象とする「環境」の範囲は、大気、水、土壌、静謐、森林や原野、海浜、農地、野生動植物、日照、景観、歴史的遺産など非常に幅が広く、これらの環境を保護・保全すべき手法や主体も別々である。本講義では、環境法の体系と環境政策の手法とを学ぶ中で、複雑に入り組んだ問題を解きほぐす方法を考えていく。

■ 到達目標

一般目標：環境法の体系を修得し、不動産と環境との関連を理解し、幅広い視点で環境について考える能力を身につける。

個別目標：(1)不動産と環境法政策との関連を理解することができる。

(2)環境法政策の体系を説明できる。

■ 履修条件

不動産と環境法政策に関する基礎的素養を身につけていること。

■ 評価基準・方法

講義への取り組み姿勢、レポート、プレゼンテーション、ディベート内容により総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題及び質問等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word ソフトを搭載したノートパソコンを必要に応じて持参すること）

■ 教科書

授業時に指定する。

■ 参考書

必要に応じて適宜、紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

(1)受講者の研究歴に応じて、環境法政策分野のテーマを複数、決定する。

(2)テーマに応じて、文献購読、判例調査などを行う。

(3)一つのテーマごとに、レポート、プレゼンテーション、討論を行う。

(4)最終レポートとプレゼンテーションを行う。

授業内容

テーマ毎に、以下の内容にて授業を進める。

(1)テーマの提案・講評・決定

(2)文献・判例の調査・収集・分析・検討

(3)レポート作成、プレゼンテーション資料作成、討論

(4)最終レポート提出・プレゼンテーション・討論

事前学修

各自の、テーマに関する基礎知識と習熟度によるが、

毎回、2～5 h 程度の事前学修が必要である。

事前学修内容は指示するが、例として下記などである。

(1)文献の収集、分析(3hr)

(2)判例調査、分析(3hr)

(3)レポート作成(5hr)

(4)プレゼンテーション資料作成(2hr)

(5)討論準備(2hr)

事後学修

各回のテーマと内容によるが、

毎回、2～5 h 程度の事後学修が必要である。

事後学修内容は指示するが、例として下記などである。

(1)未収集文献の収集、分析(4hr)

(2)未調査判例の収集、分析(3hr)

(3)レポートの見直し(5hr)

(4)プレゼンテーション資料の見直し(2hr)

(5)討論の振り返り(2hr)

特別研究 I

開講学科等：不動産博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

兼重 賢太郎 (かねしげ けんたろう)

■ 授業の概要

博士前期課程(修士課程)における研究成果を踏まえ、博士論文の執筆に向けて、受講者の研究を深化させる。

■ 到達目標

一般目標：博士論文執筆に向けて、研究の基礎的な枠組みを完成させる。

個別目標：博士論文の研究テーマ・研究方法論を確定させるとともに、関連する既往研究を網羅したうえで、データや判例等を整理・分析する。
最終的な成果物として、学術雑誌に投稿できるレベルの論文を作成する。

■ 履修条件

特になし。不動産公法特論を履修していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

研究への取り組み姿勢、成果物等を総合的に評価する。

■ フィードバック方法

フィードバックは、演習の時間内をはじめ、随時行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(毎回、教員を交えて議論する。)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(報告・発表のために PC を利用する。)

■ 教科書

特になし。

■ 参考書

特になし。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

博士前期課程(修士課程)における研究成果を踏まえ、博士論文の執筆に向けて、受講者の研究を深化させる。

授業内容

演習形式で行い、毎回、教員を交えて議論する。議論できるためのペーパーを毎回作成する。最終的な成果物として、学術雑誌に投稿できるレベルの論文を作成する。

事前学修

毎回の演習までに、報告・議論のためのペーパーを作成する。既往研究のリストを作成する。各回 3 時間。

事後学修

演習での議論を踏まえ、ペーパーや既往研究リストを随時修正する。最終的な成果物として、学術雑誌に投稿できるレベルの論文を作成する。各回 3 時間。

特別研究 I

開講学科等：不動産博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

小杉 学 (こすぎ まなぶ)

■ 授業の概要

前学期：博士論文のテーマ設定と博士論文作成の準備を行う。

後学期：博士論文のための予備調査の企画と実施ができる。

■ 到達目標

一般目標：前学期：博士論文のテーマ設定ができる。

後学期：博士論文のための予備調査の企画と実施ができる。

個別目標：博士論文作成に必要な情報にアクセスできる。

- 博士論文作成に必要な既往研究の収集と要約ができる。
- 収集した情報や既往研究の情報整理ができる。
- テーマの設定とその設定理由としての意義や位置づけを的確に表現できる。
- 仮テーマに即した予備調査の企画と実施ができる。
- 得られたデータの整理と分析ができる。
- 予備調査結果を報告書にまとめることができる。
- 予備調査結果をパワーポイントを用いてプレゼンテーションすることができる。

■ 履修条件

- 都市計画、区分所有法、マンション管理等に関する基礎的・一般的・先端的な知識を修得していること。
- 都市計画、区分所有法、マンション管理等に関する最新の議論に精通していること。

■ 評価基準・方法

作業や議論への積極性、報告書の的確性、内容の密度、プレゼンテーションの明瞭性、質疑応答における正確性などを総合的に判断します。

■ フィードバック方法

事前学修のフィードバックは指導時間内に行います。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Word、Powerpoint を搭載したノートパソコンを毎回持参すること。）

■ 教科書

特に指定しません。

■ 参考書

高橋佑磨・片山なつ『伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール』技術評論社

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：本演習の進め方について説明を行う。博士論文作成に関する関心事や問題意識について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：博士論文作成に関連する関心事や問題意識について、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。	16 回	授業テーマ：予備調査の方向性 授業内容：予備調査の方向性について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：予備調査の方向性について構想し、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
2 回	授業テーマ：情報収集の方向性検討 授業内容：情報収集の方向性について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。	17 回	授業テーマ：予備調査の仮企画 授業内容：予備調査の仮企画を検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
3 回	授業テーマ：収集した情報の検討 授業内容：収集した情報の内容について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。	18 回	授業テーマ：予備調査の企画 授業内容：仮企画した予備調査を修正し、予備調査を決定する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
4 回	授業テーマ：収集した情報の整理 授業内容：整理した情報の活用方法について検討する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。	19 回	授業テーマ：アンケートシート・ヒアリングシートの作成 授業内容：アンケートシート、ヒアリングシートを作成する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。
5 回	授業テーマ：既往研究の調査と抽出 授業内容：既往研究の調査方法について説明し、実際にインターネットで調査と抽出を行う。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。	20 回	授業テーマ：アンケートシート・ヒアリングシートの修正 授業内容：アンケートシート、ヒアリングシートを修正する。事前学修で作成した資料のプレゼンテーション、およびその内容についてのディスカッションを行う。 事前学修 3.0hr：前回のゼミで指摘された事項を踏まえて、今回のゼミ報告に必要な資料を作成する。 事後学修 1.0hr：今回のゼミで指摘されたことを整理し、今後の報告や研究に反映できるようにまとめておく。

特別研究Ⅰ

開講学科等：不動産博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

小松 広明 (こまつ ひろあき)

■ 授業の概要

研究の対象、主題、テーマを定め、テーマを定め、国際的視点から当該研究テーマに関連する先行研究のレビューを行い、取り組むべき研究の相対的位置づけを明確にする。また、先行研究のレビューの結果について、事例-コード・マトリックスを用いて整理し、ストーリー化を行い、取り組むべき研究テーマの新規性について検討する。

なお、必要に応じて、議論を要する場合には、テレビ会議システム(Zoom)を利用した同時双方向での実施を予定している。

■ 到達目標

一般目標：①先行研究(国内外の文献)のサーベイの結果を、事例-コード・マトリックスに整理することができる。

②論文のストーリーラインを示すことができる。

個別目標：国内外の文献をもとに、取り組むべき研究テーマと先行研究との相対的位置づけ、研究の新規性について述べるができる。

■ 履修条件

博士前期課程において特別演習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

論文要約課題 50 %、研究テーマの新規性に関する理解度 50 %。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッションを適宜実施）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

研究の対象、主題、テーマを定め、当該研究テーマに関連する先行研究のレビューを行い、取り組むべき研究の相対的位置づけを明確にする。また、先行研究のレビューの結果について、事例-コード・マトリックスを用いて整理し、ストーリー化を行う。その上で、取り組むべき研究テーマの新規性について検討する。

授業内容

先行研究論文のテキストデータを整理する事例-コード・マトリックスによる分析の方法、定性的コーディングについて学修する。

事前学修

先行研究論文の要約を講義の前に行う。事前学修として 2 時間を確保すること。

論文の要約は、①目的、②仮説、③方法、④結果の 4 点について情報を整理すること。

事後学修

事後学修として 2 時間を確保すること。

事例-コード・マトリックス(表)に、論文要約の結果を随時入力し、テキストデータとしての情報整理に努めること。

特別研究 I

開講学科等：不動産博後 | 1年次 | 4単位 | 開講期：通

斎藤 千尋 (さいとう ちひろ)

■ 授業の概要

研究テーマの議論、関連研究の調査を進めることから、博士論文の構成を明確にしていく。

■ 到達目標

一般目標：博士論文の構成の明確化と、研究スケジュールの策定ができる。

個別目標：研究テーマの位置づけができていること。

研究の目的が明確になること。

論証方法の方針が明確になっていること。

■ 履修条件

一定の形式に沿った論文やレポートの執筆の経験があること。

■ 評価基準・方法

ゼミに提出するレジュメやそれに基づく議論、研究経過報告書により到達目標の達成度を評価する。

■ フィードバック方法

ゼミ中にフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（文献、データ収集）

■ 教科書

なし。

■ 参考書

必要に応じて指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

研究テーマの明確化、研究計画の策定

授業内容

入学時に提出された研究計画書に基づき、先行研究をリストアップし整理する。

研究テーマを具体的な論文構成に発展させ、関連学会での発表や投稿論文に対応づける。

予定される調査、分析の実施に要する期間を見積もり、研究スケジュールを策定する。

以上の事項を、各回、ディスカッションにより進めていく。

事前学修

テーマに関連する文献を読み、内容を整理すること。

各自テーマに関連する学会などの行事に参加すること。

研究計画に沿った調査、分析等の作業を進めること。

研究の進行状況を説明する資料を準備すること。 各回 3.5hr

事後学修

ゼミで指摘された事項を整理すること。 各回 0.5hr

特別研究 I

開講学科等：不動産博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

中城 康彦 (なかじょう やすひこ)

■ 授業の概要

博士論文の完成にむけて、対象領域の設定、既往研究のサーベイ、仮説の設定など、基礎的条件を整理する。また、当面の課題となる査読論文の投稿のための準備を行う。

■ 到達目標

一般目標：博士論文の体裁、内容の質と量を理解し、各自のテーマの範囲を設定する能力を習得する。

個別目標：論文を探索して読み込み、構成を説明できる。

- ・ 各自のテーマと関連する既往研究を比較して説明できる。
- ・ 博士論文を作成するまでに取り組む課題と仮説を説明できる。

■ 履修条件

各回とも事前に準備したペーパーを用意し、これにもとづいて議論を進めること。

■ 評価基準・方法

課題に対する取り組みとその成果により評価する。

■ フィードバック方法

各回、当日のディスカッションの内容について振り返りのプレゼンテーションをする。補足すべき点について指摘を受けた場合は翌週までに指摘内容をカバーして提示する。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（授業は双方向の意見交換を重視して行う）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（論文取りまとめの図表の作成ほかに利用する）

■ 教科書

研究テーマごとに別途指示する。

■ 参考書

研究テーマごとに別途指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：授業の目的、スケジュール、方法の説明 授業内容：授業の内容、取り組み姿勢、スケジュールなどについて意見交換する 事前学修 2.0hr：研究テーマ、背景、目的、方法などについて意見発表準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	16 回	授業テーマ：研究方法・研究スケジュールの設定 授業内容：中間報告で得られた成果を踏まえ、爾後の研究方法と研究スケジュールを再設定する 事前学修 2.0hr：修正等をした研究方法・研究スケジュールにかかる資料作成 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
2 回	授業テーマ：修士論文の到達点と課題 授業内容：作成した修士論文をレビューして研究の背景、方法、結論ほかを確認する。併せて、博士論文との関係について意見交換する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	17 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
3 回	授業テーマ：博士論文等の収集 授業内容：博士論文はどのような装丁で、どれほどの分量をもち、どのように展開しているか、また、論考はどのような形式で行われているかを確認する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	18 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
4 回	授業テーマ：博士論文の体裁と内容の程度 授業内容：博士論文はどのような装丁で、どれほどの分量をもち、どのように展開しているか、また、論考はどのような形式で行われているかを確認する。いくつかの博士論文に接し、自分の研究の方法論と親和性が高いものについてより深く考察を加える 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	19 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
5 回	授業テーマ：査読論文の仕組み 授業内容：博士論文を執筆する前提として査読論文の審査を通過する必要があることから、査読論文の仕組みを理解する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	20 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
6 回	授業テーマ：研究スケジュールの作成 授業内容：研究テーマを設定したうえで、研究をどのような方法で進めていくかスケジュールを作成する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	21 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
7 回	授業テーマ：不動産学研究所の歴史と内容 授業内容：博士(不動産学)の学位を旨とすることから、不動産学研究所のこれまでの歴史と内容をレビューする。併せて、研究テーマと関係が深い分野の研究の進み具合を確認する 事前学修 2.0hr：教科書、参考書、資料を読み、内容を整理し、意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	22 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
8 回	授業テーマ：不動産学研究所の近時の傾向―査読論文のサーベイ 授業内容：主要な学会において近時採択された査読論文をサーベイして研究の内容および研究者の活動を整理する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	23 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

9 回	授業テーマ：不動産学研究的近時の傾向－査読論文のサーベイ 授業内容：主要な学会において近時採択された査読論文をサーベイして研究の内容および研究者の活動を整理する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	24 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
10 回	授業テーマ：不動産学研究的近時の傾向－査読論文のサーベイ 授業内容：主要な学会において近時採択された査読論文をサーベイして研究の内容および研究者の活動を整理する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	25 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
11 回	授業テーマ：不動産に係る近時の課題 授業内容：研究テーマは不動産に関連する経済社会面での課題と関係するところ、近時不動産に関連する分野でどのような事象が問題となり、その背景に何があるか、不動産学研究的の視点で整理する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	26 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
12 回	授業テーマ：不動産に係る近時の課題 授業内容：研究テーマは不動産に関連する経済社会面での課題と関係するところ、近時不動産に関連する分野でどのような事象が問題となり、その背景に何があるか、不動産学研究的の視点で整理する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	27 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
13 回	授業テーマ：不動産に係る近時の課題 授業内容：研究テーマは不動産に関連する経済社会面での課題と関係するところ、近時不動産に関連する分野でどのような事象が問題となり、その背景に何があるか、不動産学研究的の視点で整理する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	28 回	授業テーマ：設定した研究方法・内容の具体的な展開 授業内容：研究スケジュールに従い、必要な資料の収集、分析ほかに取り組んで、論文の骨格作りを行う 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
14 回	授業テーマ：研究テーマと仮説の設定 授業内容：これまでの学修成果を踏まえ、研究テーマの再確認を行ったうえで、研究方法と導かれる成果について仮説を設定する 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	29 回	授業テーマ：到達部分についての博士論文草稿の作成 授業内容：これまでの学修成果を踏まえ、博士論文の草稿を作成する。併せて、査読論文に応募するための準備を進める 事前学修 2.0hr：授業内容に即した資料の収集分析と意見発表の準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する
15 回	授業テーマ：中間報告 授業内容：これまでの学修成果を踏まえ、成果を取りまとめて中間報告を行う 事前学修 2.0hr：中間報告準備 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する	30 回	授業テーマ：まとめ 授業内容：1年間の学修成果を成果物に取りまとめる。併せて、論文の各部分について、必要十分性を検証する 事前学修 2.0hr：まとめ発表の準備 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、事前準備の内容を修正、補完する

特別研究 I

開講学科等：不動産博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

浜島 裕美 (はまじま ひろみ)

■ 授業の概要

博士論文の作成に向けて、研究テーマの検討、既存研究のサーベイ、法改正の動向や諸外国の制度の調査などを行う。

■ 到達目標

一般目標：博士論文の大まかな方向性を定め、博士論文を執筆する基礎を身に付ける。

個別目標：(1) 学術論文に必要な形式を理解し、執筆することができる。

(2) 自分の論文のテーマに関連する文献の収集、分析、検討ができる。

(3) 学会発表、研究論文投稿など、研究活動に参加し、議論することができる。

■ 履修条件

不動産法と環境法政策に関する基礎的素養を身につけていること。

■ 評価基準・方法

講義への取組み姿勢、レポート、プレゼンテーション、ディベートにより総合的に評価する。

■ フィードバック方法

課題・質問等のフィードバックは、学修支援システム manaba を通して行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション・ディベート）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（Excel、Word ソフトを搭載したノートパソコンを必要に応じて持参すること）

■ 教科書

授業時に指定する。

■ 参考書

必要に応じて、適宜、紹介する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

- (1) 研究計画書の検討
- (2) 既存研究の調査、収集、分析
- (3) 法制度や判例の最新動向の調査
- (4) 諸外国の法制度の調査、検討
- (5) 博士論文のテーマ、構成の検討
- (6) 研究スケジュールの策定

授業内容

- (1) 作成した研究計画書を検討し、計画の内容やスケジュールの修正を行う。
- (2) 既存研究の調査・収集・分析を行い、追加収集の必要性を判断する。
- (3) 法制度や判例の最新動向を調査し、研究の方向性を修正する必要性を判断する。
- (4) 諸外国の法制度を調査、検討し、比較法的観点の扱いを検討する。
- (5) 博士論文のテーマ、構成を再検討し、完成に向けた作業を確認する。
- (6) 博士論文完成に向けた研究スケジュールを確認し、必要な論文執筆(査読論文)に取り掛かる。

事前学修

各回に応じて、3～5hr

- (1) 研究計画書の精査、引用文献等の収集、検討(3hr)
- (2) 既存研究の調査、収集、研究(3hr)
- (3) 法制度や判例の最新動向の調査(3hr)
- (4) 諸外国の法制度の調査、検討(5hr)
- (5) 博士論文のテーマ、構成の検討(5hr)
- (6) 研究スケジュールの策定(3hr)

事後学修

各回に応じて、2～5hr

- (1) 研究計画書の再考察(3hr)
- (2) 既存研究の遺漏部分の調査、収集、研究(4hr)
- (3) 法制度や判例の最新動向の調査の再検討(2hr)
- (4) 諸外国の法制度の調査の遺漏部分の調査(5hr)
- (5) 博士論文のテーマ、構成の再検討(3hr)
- (6) 研究スケジュールの見直し(2hr)

特別研究 I

開講学科等：不動産博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

原野 啓 (はらの けい)

■ 授業の概要

博士前期課程(修士課程)における研究成果を踏まえ、博士論文の執筆に向けて、受講者の研究を深化させる。

■ 到達目標

一般目標：博士論文執筆に向けて、研究の方向性と枠組みを完成させる。

個別目標：博士論文の研究テーマを確定させる。また、必要なデータの収集、実証分析、結果を取りまとめ、論文を執筆する。

■ 履修条件

計量経済学の講義を履修済みであること(学部「計量経済学」、大学院「不動産計量経済分析特論」)

■ 評価基準・方法

研究への取り組み姿勢、成果物等を総合的に評価する。

■ フィードバック方法

フィードバックは、演習の時間内をはじめ、随時行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施(実施内容)

あり(教員と学生間でディスカッションする機会を設ける)

■ 授業での PC の利用(利用内容)

あり(PC(Stata)を用いて実証分析を行う)

■ 教科書

特になし

■ 参考書

適宜指示する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

授業テーマ

博士前期課程(修士課程)における研究成果を踏まえ、博士論文の執筆に向けて、研究を深化させる。

授業内容

演習形式で行い、毎回、教員を交えて議論する。議論するためのペーパーを毎回作成する。

事前学修

毎回の演習までに、論文執筆に必要な調査・研究を行い、成果をまとめてくること。課題は、論文執筆の状況に依存するが、先行研究のサーベイ、推計手法の学修、分析結果及び解釈、論文執筆などになる。各回 10 時間程度はかかるものと思われる。

事後学修

演習での議論を踏まえ、必要な事後学修を行う。課題は演習での内容に依存するが、先行研究のサーベイ、推計手法の学修、分析結果及び解釈、論文執筆などになる。各回 10 時間程度はかかるものと思われる。

特別研究 I

開講学科等：不動産博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

藤木 亮介 (ふじき りょうすけ)

■ 授業の概要

本講義では、博士論文の完成に向けて、まずは研究の背景を整理し、研究テーマを設定する。そのうえで、研究の骨子となる研究項目を明確にする。また、具体的な研究スケジュールを立案し、調査・分析・論文執筆に必要な予想時間を可視化する。さらに、本年度の到達目標として、査読付き学術論文を一通執筆する。

■ 到達目標

一般目標：研究テーマを設定し、博士論文の構成を組み立てる能力を身に付ける。

個別目標：・研究の社会的背景を正確に把握することができる。

・研究方法を設定することができる。

・研究スケジュールを立案することができる。

・研究に必要な文献調査・データ収集・データ分析をすることができる。

■ 履修条件

建築基準法、都市計画法、建物の区分所有等に関する法律、マンションの管理の適正化の推進に関する法律、マンションの再生等の円滑化に関する法律について、基礎知識を有していること。

■ 評価基準・方法

授業前に作成した事前準備資料、議論への取り組み姿勢、その他の作成資料などにより総合的に評価する。

■ フィードバック方法

事前準備資料に対しては、指導時間中にフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション、プレゼンテーション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（エクセル・ワードを用いて研究資料を作成する。パワーポイントを用いて発表用プレゼン資料を作成する。）

■ 教科書

なし

■ 参考書

必要に応じて紹介する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：授業の進め方、博士論文執筆に向けた全体概要、評価の方法などについて説明を行う。また、これまでの研究成果やこれからの研究の方向性について議論を行う。 事前学修 2.0hr：研究の方向性について、プレゼンテーション資料を作成する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	16 回	授業テーマ：査読論文の執筆に向けた準備 授業内容：前学期の授業を踏まえ、博士論文で取り組む研究項目の一つ(例：研究項目 A)について、査読論文の執筆に向けた準備をする。また、その内容について議論する。 事前学修 2.0hr：研究項目 A の具体的な研究の枠組みについてまとめる。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
2 回	授業テーマ：博士論文の構成 授業内容：過去の博士論文を参考にして、多く用いられている博士論文の構成について理解する。 事前学修 2.0hr：過去の博士論文の構成と論述方法をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	17 回	授業テーマ：研究の背景と目的(研究項目 A) 授業内容：研究項目 A に対する、研究の背景と目的を整理する。また、その内容について議論する。 事前学修 2.0hr：研究項目 A について、その研究の背景と目的を整理する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
3 回	授業テーマ：査読論文の構成 授業内容：博士論文を執筆する前提として、査読付き学術論文を執筆する必要がある。そこで、査読付き学術論文の構成について理解する。 事前学修 2.0hr：過去の査読付き学術論文を読み、その構成と論述方法をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	18 回	授業テーマ：既往研究の整理(研究項目 A) 授業内容：研究項目 A に関連する既往研究を整理する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：研究項目 A に関わる既往研究を収集・精読し、その内容をまとめると共に、分野やカテゴリーごとに分類・整理する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
4 回	授業テーマ：これまでの研究成果の発表-1 授業内容：これまでに取り組んだ代表的な研究成果を授業で発表する。また、その研究成果について発展的な議論を行う。 事前学修 2.0hr：これまでの代表的な研究成果の一つについて、プレゼンテーション資料を作成する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	19 回	授業テーマ：研究の方法(研究項目 A) 授業内容：研究項目 A の検討を進めるための研究の方法や研究対象を整理する。また、その内容について議論する。 事前学修 2.0hr：研究項目 A について、研究の方法と研究対象を整理する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
5 回	授業テーマ：これまでの研究成果の発表-2 授業内容：これまでに取り組んだ代表的な研究成果を授業で発表する。また、その研究成果について発展的な議論を行う。 事前学修 2.0hr：これまでの代表的な研究成果の一つについて、プレゼンテーション資料を作成する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	20 回	授業テーマ：調査・情報収集(研究項目 A)-1 授業内容：研究項目 A について、「研究の方法」に準じて調査を行いデータを収集する。収集したデータは授業で報告するとともに、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：調査を行い、データを収集する。また、収集したデータは整理して報告資料としてまとめる。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
6 回	授業テーマ：取り組もうとしている研究テーマと社会課題-1 授業内容：取り組もうとしている研究テーマとその社会課題について、授業で発表する。そのうえで、その内容について議論を行う。 事前学修 2.0hr：研究テーマと社会課題について、プレゼンテーション資料を作成する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	21 回	授業テーマ：調査・情報収集(研究項目 A)-2 授業内容：研究項目 A について、「研究の方法」に準じて調査を行いデータを収集する。収集したデータは授業で報告するとともに、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：調査を行い、データを収集する。また、収集したデータは整理して報告資料としてまとめる。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。

7 回	授業テーマ：取り組もうとしている研究テーマと社会課題-2 授業内容：取り組もうとしている研究テーマとその社会課題について、授業で発表する。そのうえで、その内容について議論を行う。 事前学修 2.0hr：研究テーマと社会課題について、プレゼンテーション資料を作成する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	22 回	授業テーマ：調査・情報収集(研究項目 A)-3 授業内容：研究項目 A について、「研究の方法」に準じて調査を行いデータを収集する。収集したデータは授業で報告するとともに、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：調査を行い、データを収集する。また、収集したデータは整理して報告資料としてまとめる。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
8 回	授業テーマ：既往研究の整理-1 授業内容：研究テーマに関連する既往研究を分野やカテゴリーごとに分類し整理する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：既往研究を収集・精読し、その内容をまとめると共に、分野やカテゴリーごとに分類・整理する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	23 回	授業テーマ：データ分析-1 授業内容：調査で収集したデータを分析し、そこから得られた知見を授業で報告する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：収集したデータの分析を行う。またそこから得られた知見をまとめる。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
9 回	授業テーマ：既往研究の整理-2 授業内容：研究テーマに関連する既往研究を分野やカテゴリーごとに分類し整理する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：既往研究を収集・精読し、その内容をまとめると共に、分野やカテゴリーごとに分類・整理する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	24 回	授業テーマ：データ分析-2 授業内容：調査で収集したデータを分析し、そこから得られた知見を授業で報告する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：収集したデータの分析を行う。またそこから得られた知見をまとめる。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
10 回	授業テーマ：研究の構成-1 授業内容：研究テーマを確定させ、博士論文の骨子となる研究項目(例：研究項目 A・B・C)を立案する。また、その具体的な内容について議論を行う。 事前学修 2.0hr：研究テーマと具体的な研究項目をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	25 回	授業テーマ：査読論文執筆-1(背景・目的・研究の方法) 授業内容：研究の背景と目的、ならびに研究の方法を執筆する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：研究の背景と目的、ならびに研究の方法を、論文を提出する学会の様式にしたがって執筆する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
11 回	授業テーマ：研究の構成-2 授業内容：立案した研究項目(研究項目 A・B・C)について、その具体的な内容を整理する。また、その具体的な内容について議論を行う。 事前学修 2.0hr：各研究項目の具体的な内容を整理する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	26 回	授業テーマ：査読論文執筆-2(調査・分析) 授業内容：調査結果やデータの分析結果について執筆する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：調査結果やデータの分析結果を執筆する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
12 回	授業テーマ：研究の方法-1 授業内容：各研究項目に対する研究の方法と研究対象を整理する。また、その内容について議論する。 事前学修 2.0hr：各研究項目に対する研究の方法と研究対象をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	27 回	授業テーマ：査読論文執筆-3(調査・分析) 授業内容：調査結果やデータの分析結果について執筆する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：調査結果やデータの分析結果を執筆する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
13 回	授業テーマ：研究の方法-2 授業内容：各研究項目に対する研究の方法と研究対象を整理する。また、その内容について議論する。 事前学修 2.0hr：各研究項目に対する研究の方法と研究対象をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	28 回	授業テーマ：査読論文執筆-4(考察・まとめ) 授業内容：調査結果やデータの分析結果に基づき、考察やまとめを執筆する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：調査結果やデータの分析結果に基づき、考察やまとめを執筆する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
14 回	授業テーマ：研究スケジュールの作成 授業内容：各研究項目の検討に要する具体的な時間、博士論文執筆に必要な時間を考慮して研究スケジュールを立案する。また、その内容について議論する。 事前学修 2.0hr：研究スケジュールを立案する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	29 回	授業テーマ：査読論文執筆-5(全体確認・要約) 授業内容：査読論文の全体を確認し、要約を執筆する。また、その内容について議論する。 事前学修 4.0hr：査読論文を提出する学会の体裁に準じてとりまとめ、要約を執筆する。 事後学修 4.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。
15 回	授業テーマ：中間報告 授業内容：これまでの学修を踏まえて、博士論文の構成をあらためて整理し授業で発表する。また、その内容について議論する。 事前学修 3.0hr：中間報告に向けてプレゼンテーション資料を準備する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。	30 回	授業テーマ：査読論文の最終確認と1年間のまとめ 授業内容：査読論文の全体を再確認して提出できる状態にし、提出先となる学会に提出する。 また、一年を振り返り、次年度の取り組み(研究項目 B・C)について、その研究方針を整理する。 事前学修 4.0hr：査読論文の最終確認を行う。また、次年度の研究方針を整理する。 事後学修 2.0hr：授業内容を踏まえ、授業前に作成した事前準備資料を修正・補完する。

特別研究 I

開講学科等：不動産博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

前島 彩子 (まえしま あやこ)

■ 授業の概要

建築計画建築生産分野の博士論文執筆のための研究指導を行う。
関連文献の理解の確認、ディスカッション、調査の試行を行う。

■ 到達目標

一般目標：博士論文執筆に向けて、研究の基礎的な枠組みを完成させる。
個別目標：学修する領域において、基礎的な内容が正しく理解できている。
関連する既往研究の内容を正しく理解し、そのうえで批判的な考察ができる。
研究テーマを固め、そのテーマを追究する手だてや関連論文が分かり、研究をすすめていける状態にある。
最終的な成果物として、学会発表論文を作成する。

■ 履修条件

建築計画建築生産に関する研究テーマに関心を持ち、修士論文を作成する能力を有していること。
建築計画論特講を履修していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

研究計画の立案力、研究手法の獨創性、研究テーマに関する既往研究論文調査内容と理解度などを総合的に判断する。

■ フィードバック方法

フィードバックは、演習の時間内をはじめ、随時行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（現地視察、発表、調査活動。研究テーマに関係する事柄に関心を持ち自主的に情報収集する。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（作図・データ作成・発表等のために PC を利用する。毎回持参すること。）

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜指示する

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

建築計画建築生産分野の博士論文執筆のための研究指導を行う。
関連文献の理解の確認、ディスカッション、調査の試行を行う。

授業内容

博士論文の研究テーマ・研究方法論を確定させるとともに、関連する既往研究を網羅したうえで、プレ調査を行いその結果を整理・分析する。
最終的な成果物として、学会発表論文を作成する。
演習形式で行い、毎回、教員を交えて議論する。

事前学修

毎回の演習までに、報告・議論のためのレジュメ資料を作成する。既往研究のリスト(目的、方法、結果)を作成する。
各回 3 時間

事後学修

演習での議論を踏まえ、ペーパーや既往研究リストを随時修正する。
各回 3 時間

特別研究 I

開講学科等：不動産博後 | 1 年次 | 4 単位 | 開講期：通

山本 卓 (やまもと たかし)

■ 授業の概要

博士論文の作成の準備とトレーニングのため、不動産に係る経営学領域における先行研究のサーベイ、研究論点の明確化を行い、それを踏まえたうえで仮説の構築を行う。

■ 到達目標

一般目標：不動産学と密接に関連する経営学領域の学問的素養を身につけ、学会で通用する研究活動に必要な学術的スキルを獲得する。博士論文の作成に向けて、基礎的な研究能力を身につける。

個別目標：不動産に係る経営学領域において、学会で通用する水準の学術論文を作成するために必要となる以下の基礎的能力を身につける。

・文献調査能力 ・仮説構築能力 ・データ分析能力 ・論理展開能力 ・論文作成能力 ・プレゼン能力

■ 履修条件

企業不動産管理論特講を履修していること。

■ 評価基準・方法

授業への参加状況と課題レポートへの取り組み状況に基づき評価する。

■ フィードバック方法

面談でのフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（自分自身の研究状況の発表、質疑応答が予定されている。）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（論文作成に向けて、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎的スキルは必須であり、毎回自分の PC を持参してもらう。）

■ 教科書

学生の研究の方向性を助案し、相談のうえ適切な文献を指示する。

■ 参考書

山本卓 (2009)『財務情報と企業不動産分析』創成社、山本卓 (2011)『企業不動産の会計と環境』創成社、

山本卓 (2013)『不動産会計と経営行動』創成社、山本卓 (2015)『投資不動産会計と公正価値評価』創成社、

山本卓編著 (2017)『グローバル社会と不動産価値』創成社、山本卓編著 (2021)『ストック型社会への企業不動産分析』創成社

山本卓 (2025)『企業不動産読本』KEN 不動産研究

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：博士論文作成に向けての基本的事項を確認する。 事前学修 4.0hr：博士論文完成までの研究作業のイメージを準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、博士論文完成の長期的な研究作業を考える。	16 回	授業テーマ：仮説検証のための研究方法の検討（分野1） 授業内容：分野1の仮説検証を行うための研究方法を検討する。 事前学修 4.0hr：先行研究を踏まえながら、適切な研究方法を考える。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、研究方法を明確化する。
2 回	授業テーマ：修士論文の再検証 授業内容：修士論文についての振り返りを行う。 事前学修 4.0hr：修士論文でやり残した課題等を整理する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該課題を博士論文の研究に反映できるか検討する。	17 回	授業テーマ：仮説検証のための研究方法の検討（分野2） 授業内容：分野2の仮説検証を行うための研究方法を検討する。 事前学修 4.0hr：先行研究を踏まえながら、適切な研究方法を考える。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、研究方法を明確化する。
3 回	授業テーマ：研究の基本的方向性にかかる検討（分野1） 授業内容：研究分野の一つである分野1についての研究論点を検討する。 事前学修 4.0hr：分野1について研究論点等の洗い出しをする。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該研究論点を博士論文への反映を検討する。	18 回	授業テーマ：仮説検証のための研究方法の検討（分野3） 授業内容：分野3の仮説検証を行うための研究方法を検討する。 事前学修 4.0hr：先行研究を踏まえながら、適切な研究方法を考える。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、研究方法を明確化する。
4 回	授業テーマ：研究の基本的方向性にかかる検討（分野2） 授業内容：研究分野の一つである分野2についての研究論点を検討する。 事前学修 4.0hr：分野2について研究論点の洗い出しをする。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該研究論点を博士論文への反映を検討する。	19 回	授業テーマ：分野1にかかる分析用データの仮収集 授業内容：分野1にかかる仮説検証を行うための検証用データを暫定的に収集する。 事前学修 4.0hr：分野1の分析を試行するための暫定データを収集する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、データを補足する。
5 回	授業テーマ：研究の基本的方向性にかかる検討（分野3） 授業内容：研究分野の一つである分野3についての研究論点を検討する。 事前学修 4.0hr：分野3について研究論点の洗い出しをする。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該研究論点を博士論文への反映を検討する。	20 回	授業テーマ：分野2にかかる分析用データの仮収集 授業内容：分野2にかかる仮説検証を行うための検証用データを暫定的に収集する。 事前学修 4.0hr：分野2の分析を試行するための暫定データを収集する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、データを補足する。
6 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ（分野1） 授業内容：分野1について、研究論点に従い、学術文献のサーベイの方向性について検討する。 事前学修 4.0hr：上記で検討した研究論点に沿い、分野1の先行研究のサーベイを行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該内容を文書化する。	21 回	授業テーマ：分野3にかかる分析用データの仮収集 授業内容：分野3にかかる仮説検証を行うための検証用データを暫定的に収集する。 事前学修 4.0hr：分野3の分析を試行するための暫定データを収集する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、データを補足する。
7 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ（分野2） 授業内容：分野2について、研究論点に従い、学術文献のサーベイの方向性について検討する。 事前学修 4.0hr：上記で検討した研究論点に沿い、分野2の先行研究のサーベイを行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受けて、当該内容を文書化する。	22 回	授業テーマ：分野1にかかる暫定的分析 授業内容：分野1の仮説検証のために、暫定的データに基づいた分析を行う。 事前学修 4.0hr：分野1について、暫定的なデータによる分析を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、再検証を行う。
8 回	授業テーマ：先行研究のサーベイ（分野3） 授業内容：分野3について、研究論点に従い、学術文献のサーベイの方向性について検討する。 事前学修 4.0hr：上記で検討した研究論点に沿い、分野3の先行研究のサーベイを行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該内容を文書化する。	23 回	授業テーマ：分野2にかかる暫定的分析 授業内容：分野2の仮説検証のために、暫定的データに基づいた分析を行う。 事前学修 4.0hr：分野2について、暫定的なデータによる分析を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、再検証を行う。

9 回	授業テーマ：研究論点の明確化と仮説の設定 (分野1) 授業内容：分野1について、先行研究のサーベイを踏まえ、今後明らかにすべき究明事項を検討する。 事前学修 4.0hr：分野1について、先行研究のサーベイに基づき研究論点を明確化し、仮説案を準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該仮説構築について文書にまとめる。	24 回	授業テーマ：分野3にかかる暫定的分析 授業内容：分野3の仮説検証のために、暫定的データに基づいた分析を行う。 事前学修 4.0hr：分野3について、暫定的なデータによる分析を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、再検証を行う。
10 回	授業テーマ：研究論点の明確化と仮説の設定 (分野2) 授業内容：分野2について、先行研究のサーベイを踏まえ、今後明らかにすべき究明事項を検討する。 事前学修 4.0hr：分野2について、先行研究のサーベイに基づき研究論点を明確化し、仮説案を準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該仮説構築について文書にまとめる。	25 回	授業テーマ：分野1の分析結果の解釈 授業内容：分野1について、暫定的データに基づいた分析結果について、その妥当性を検証する。 事前学修 4.0hr：分野1の暫定的な分析結果の考察を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、考察を補強する。
11 回	授業テーマ：研究論点の明確化と仮説の設定 (分野3) 授業内容：分野3について、先行研究のサーベイを踏まえ、今後明らかにすべき究明事項を検討する。 事前学修 4.0hr：分野3について、先行研究のサーベイに基づき研究論点を明確化し、仮説案を準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該仮説構築について文書にまとめる。	26 回	授業テーマ：分野2の分析結果の解釈 授業内容：分野2について、暫定的データに基づいた分析結果について、その妥当性を検証する。 事前学修 4.0hr：分野2の暫定的な分析結果の考察を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、考察を補強する。
12 回	授業テーマ：サーベイ論文の骨子の作成 授業内容：先行研究を整理したサーベイ論文を作成するための基本的方向性を検討する。 事前学修 4.0hr：今までの研究作業に基づき、サーベイ論文の骨子案を準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該サーベイ論文の骨子を固める。	27 回	授業テーマ：分野3の分析結果の解釈 授業内容：分野3について、暫定的データに基づいた分析結果について、その妥当性を検証する。 事前学修 4.0hr：分野3の暫定的な分析結果の考察を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、考察を補強する。
13 回	授業テーマ：サーベイ論文の原稿作成と検討 授業内容：上記の基本的方向性に基づき、サーベイ論文原稿を作成し、内容を検討する。 事前学修 4.0hr：サーベイ論文の骨子に基づき、原稿作成作業を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該サーベイ論文の内容を概ね固める。	28 回	授業テーマ：分析レポートの作成準備 授業内容：分野1、分野2、分野3の上記の分析結果を整理する。 事前学修 4.0hr：上記の暫定的な分析についてのレポートの作成準備を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、準備内容を補強する。
14 回	授業テーマ：サーベイ論文の原稿完成 授業内容：サーベイ論文原稿を作成し、内容を再検討したうえで、最終化させる。 事前学修 4.0hr：サーベイ論文の原稿を準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該サーベイ論文の原稿を完成させる。	29 回	授業テーマ：分析レポートの原案の作成 授業内容：分野1、分野2、分野3の整理された分析結果に基づき分析レポートの原案を作成する。 事前学修 4.0hr：上記の暫定的な分析についてのレポートの原案を作成する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、レポート内容を補強する。
15 回	授業テーマ：今後の研究作業に向けての検討 授業内容：上記の一連の作業を振り返り、より明確な研究論点・仮説を特定する。 事前学修 4.0hr：一連の研究作業の内容を振り返り、今後に向けた課題等を洗い出す。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、今後の研究作業にかかる課題等を整理する。	30 回	授業テーマ：分析レポートの完成 授業内容：分野1、分野2、分野3にかかる分析レポートの原案を検討のうえ最終化する。 事前学修 4.0hr：上記の暫定的な分析についてのレポートを完成させる。 事後学修 4.0hr：当該レポートに基づき、次年度の研究の具体的な構想を行う。

特別研究Ⅱ

開講学科等：不動産博後 | 2 年次 | 4 単位 | 開講期：通

山本 卓 (やまもと たかし)

■ 授業の概要

特別研究Ⅰでの成果を踏まえ、より具体的な博士論文の作成の準備のため、すでに構築された仮説の検証のための研究方法を検討し、各種データの収集整理を行う。さらにこれを踏まえた研究分析を実施する。これらの研究成果を学会報告用の研究論文にまとめる。

■ 到達目標

一般目標：不動産学と密接に関連する経営学領域の学問的素養を身につけ、学会で通用する研究活動に必要な学術的スキルを獲得する。さらに、これを踏まえ、博士論文の作成に向けての学術的エビデンスとなる研究成果に結びつける。

個別目標：不動産に係る経営学領域において、学会で通用する水準の学術論文を作成するために必要となる以下の基礎的・応用的能力を身に着ける。
・文献調査能力 ・仮説構築能力 ・データ分析能力 ・論理展開能力 ・論文作成能力 ・プレゼン能力

■ 履修条件

企業不動産管理論特講を履修していること。

■ 評価基準・方法

授業への参加状況と論文作成への取り組み状況に基づき評価する。

■ フィードバック方法

面談にてフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（自分自身の研究状況の発表、質疑応答が予定されている）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（論文作成に向けて、ワード、エクセル、パワーポイントの基礎的スキルは必須であり、毎回自分の PC を持参してもらう。）

■ 教科書

学生の研究の方向性を勘案し、相談のうえ適切な文献を指示する。

■ 参考書

山本卓 (2009)『財務情報と企業不動産分析』創成社、山本卓 (2011)『企業不動産の会計と環境』創成社

山本卓 (2013)『不動産会計と経営行動』創成社、山本卓 (2015)『投資不動産会計と公正価値評価』創成社

山本卓編著 (2017)『グローバル社会と不動産価値』創成社、山本卓編著 (2021)『ストック型社会への企業不動産分析』創成社

山本卓 (2025)『企業不動産読本』KEN 不動産研究

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業テーマ：ガイダンス 授業内容：論文作成のスケジュール確認を行う。 事前学修 4.0hr：特別研究Ⅰの成果の振り返りを行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、博士論文完成に向けてのスケジュールを確認する。	16 回	授業テーマ：研究データの再分析（分野2） 授業内容：分野2について、別の角度からの分析を行う。 事前学修 4.0hr：上記で検討した残された課題を検証するために、研究データを別の角度より分析し、結果を整理する。 事後学修 4.0hr：研究データの分析結果を総合的に解釈する。
2 回	授業テーマ：特別研究Ⅰの再検証 授業内容：特別研究Ⅰの全般的な振り返りを行う。 事前学修 4.0hr：特別研究Ⅰでやり残した課題等を整理する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該課題を博士論文の研究に反映できるか検討する。	17 回	授業テーマ：研究データの再分析（分野3） 授業内容：分野3について、別の角度からの分析を行う。 事前学修 4.0hr：上記で検討した残された課題を検証するために、研究データを別の角度より分析し、結果を整理する。 事後学修 4.0hr：研究データの分析結果を総合的に解釈する。
3 回	授業テーマ：構築された仮説の再検討（分野1） 授業内容：既に構築された分野1について、再度修習した文献やデータに基づき再検討を行う。 事前学修 4.0hr：既に構築されている分野1の仮説について批判的に再吟味する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該仮説の充実化を進める。	18 回	授業テーマ：研究結果の整理（分野1） 授業内容：分野1について、分析結果の解釈を行う。 事前学修 4.0hr：上記の一連の研究データの分析結果を統合的に解釈する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、研究結果の解釈を最終化する。
4 回	授業テーマ：構築された仮説の再検討（分野2） 授業内容：既に構築された分野2について、再度修習した文献やデータに基づき再検討を行う。 事前学修 4.0hr：既に構築されている分野2の仮説について批判的に再吟味する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該仮説の充実化を進める。	19 回	授業テーマ：研究結果の整理（分野2） 授業内容：分野2について、分析結果の解釈を行う。 事前学修 4.0hr：上記の一連の研究データの分析結果を統合的に解釈する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、研究結果の解釈を最終化する。
5 回	授業テーマ：構築された仮説の再検討（分野3） 授業内容：既に構築された分野3について、再度修習した文献やデータに基づき再検討を行う。 事前学修 4.0hr：既に構築されている分野3の仮説について批判的に再吟味する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該仮説の充実化を進める。	20 回	授業テーマ：研究結果の整理（分野3） 授業内容：分野3について、分析結果の解釈を行う。 事前学修 4.0hr：上記の一連の研究データの分析結果を統合的に解釈する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、研究結果の解釈を最終化する。
6 回	授業テーマ：仮説検証のための研究方法の検討（分野1） 授業内容：分野1の仮説について、検証のための研究方法を議論し、方向性を固める。 事前学修 4.0hr：上記で構築した仮説の検証のための、検証方法を整理する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該仮説検証の研究方法を固める。	21 回	授業テーマ：分野1にかかる研究結果メモを作成する。 授業内容：分野1についての、研究結果の骨子を文書化する。 事前学修 4.0hr：分野1にかかる研究結果について、文書化のための準備を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、研究結果メモを最終化する。
7 回	授業テーマ：仮説検証のための研究方法の検討（分野2） 授業内容：分野2の仮説について、検証のための研究方法を議論し、方向性を固める。 事前学修 4.0hr：上記で構築した仮説の検証のための、検証方法を整理する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該仮説検証の研究方法を固める。	22 回	授業テーマ：分野2にかかる研究結果メモを作成する。 授業内容：分野2についての、研究結果の骨子を文書化する。 事前学修 4.0hr：分野2にかかる研究結果について、文書化のための準備を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、研究結果メモを最終化する。
8 回	授業テーマ：仮説検証のための研究方法の検討（分野3） 授業内容：分野3の仮説について、検証のための研究方法を議論し、方向性を固める。 事前学修 4.0hr：上記で構築した仮説の検証のための、検証方法を整理する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該仮説検証の研究方法を固める。	23 回	授業テーマ：分野3にかかる暫定的分析 授業内容：分野3についての、研究結果の骨子を文書化する。 事前学修 4.0hr：分野3にかかる研究結果について、文書化のための準備を行う。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、研究結果メモを最終化する。
9 回	授業テーマ：研究データの整備（分野1） 授業内容：分野1について研究方法に適用に資するためのデータを整備する。 事前学修 4.0hr：分野1について、研究に使用するデータを準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該研究データを完成させる。	24 回	授業テーマ：学会発表用の報告論文の構成を検討する。 授業内容：学会発表に向けて、発表内容の骨子を固める。 事前学修 4.0hr：上記の一連の研究結果を踏まえ、論文構成を考える。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、論文構成を最終化する。

10 回	授業テーマ：研究データの整備 (分野2) 授業内容：分野2について研究方法に適用に資するためのデータを整備する。 事前学修 4.0hr：分野2について、研究に使用するデータを準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該研究データを完成させる。	25 回	授業テーマ：学会発表用の報告論文の素案を検討する。 授業内容：学会発表に向けて、発表論文の素案を作成する。 事前学修 4.0hr：上記で確定した論文構成に基づき報告論文の素案を準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、報告論文の見直しを検討する。
11 回	授業テーマ：研究データの整備 (分野3) 授業内容：分野3について研究方法に適用に資するためのデータを整備する。 事前学修 4.0hr：分野3について、研究に使用するデータを準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、当該研究データを完成させる。	26 回	授業テーマ：学会発表用の報告論文を作成する。 授業内容：学会発表に向けて、発表論文の内容を固める。 事前学修 4.0hr：上記での見直し作業を反映した論文を準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、学会発表用の報告論文を最終化させる。
12 回	授業テーマ：研究データの分析 (分野1) 授業内容：分野1について、整備された研究データに基づき所定の分析を試みる。 事前学修 4.0hr：既に検討されていた研究方法に基づき研究データを分析し、結果を整理する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、残された課題を整理する。	27 回	授業テーマ：学会発表を行う。 授業内容：準備した論文に基づき学会発表を行う。 事前学修 4.0hr：学会発表にむけての報告の準備を行う。 事後学修 4.0hr：学会発表で提起された問題点を整理する。
13 回	授業テーマ：研究データの分析 (分野2) 授業内容：分野2について、整備された研究データに基づき所定の分析を試みる。 事前学修 4.0hr：既に検討されていた研究方法に基づき研究データを分析し、結果を整理する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、残された課題を整理する。	28 回	授業テーマ：学会発表の反省を行う。 授業内容：学会発表での討論者からのコメント等の整理を行う。 事前学修 4.0hr：学会発表で討論者等からの指摘事項について、対応を考える。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、学会発表での課題の克服方法を整理する。
14 回	授業テーマ：研究データの分析 (分野3) 授業内容：分野3について、整備された研究データに基づき所定の分析を試みる。 事前学修 4.0hr：既に検討されていた研究方法に基づき研究データを分析し、結果を整理する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、残された課題を整理する。	29 回	授業テーマ：学会発表の総括を行う。 授業内容：学会発表での討論者からのコメント等を再吟味し、研究のブラシアップの方向性を探る。 事前学修 4.0hr：学会発表の課題克服のための方法についての具体的道筋を準備する。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受け、学会発表の課題克服のための方法についての具体的道筋を最終化する。
15 回	授業テーマ：研究データの再分析 (分野1) 授業内容：分野1について、別の角度からの分析を行う。 事前学修 4.0hr：上記で検討した残された課題を検証するために、研究データを別の角度より分析し、結果を整理する。 事後学修 4.0hr：研究データの分析結果を総合的に解釈する。	30 回	授業テーマ：学会誌投稿論文の方向性を検討する。 授業内容：学会発表の振り返りを行い、それに基づき投稿論文の基本的内容を固める。 事前学修 4.0hr：学会報告の経験を踏まえ、学会誌投稿用論文の方向性をイメージする。 事後学修 4.0hr：授業での討議を受けて、学会誌投稿論文の方向性のイメージを固める。

特別研究Ⅲ

開講学科等：不動産博後 | 3年次 | 4単位 | 開講期：通

小松 広明 (こまつ ひろあき)

■ 授業の概要

博士論文を作成する。これまでの研究成果を基礎として、先行研究との比較から論文の新規性を定性的に明らかにする。また、論文全体の論旨を明瞭にするために、章および節の構成を整える。

なお、必要に応じて、議論を要する場合には、テレビ会議システム(Zoom)を利用した同時双方向での実施を予定している。

■ 到達目標

一般目標：①論文内容の「独自性」を説明できる。

②研究成果の「新規性」について説明できる。

③博士論文の「社会的貢献性」について解説できる。

個別目標：①全体の論旨を明瞭にするため、章および説を適切に配置できる。

②自己の主張する説・解釈について、関連する先行研究を提示できる。

■ 履修条件

特別研究Ⅱを履修していることが望ましい。

■ 評価基準・方法

論文の論理構成の検討内容 80%、提出課題の内容 20%。

■ フィードバック方法

課題等のフィードバックは、学修支援システム「manaba」を通じて行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッションを適宜実施）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

なし

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

博士論文を作成するため、既に設定した研究テーマのもと、①仮説の設定、②データの収集、③統計分析手法の適用、④結果の解釈という一連の研究プロセスを見直しながら、これまでの研究成果を取りまとめる。また、論文の論旨の明瞭性を考慮のうえ、論理構成を再吟味する。

授業内容

先行研究のレビューに位置付けられる事例-コード・マトリックス(特別研究Ⅰにおいて学修)の成果をもとに、研究成果の新規性について議論する。また、論文の独自性を示すために、自己の主張する説・解釈について、関連する先行研究を整理し、相違点を明確にする。さらに、本研究が、不動産学分野において果たし得る社会的貢献を明確化し、研究意義を再確認する。

事前学修

先行研究のレビューに取り組む。なお、事前学修として2時間程度を確保すること。

事後学修

先行研究の内容を事例-コード・マトリックスに整理し、先行研究との比較をもとに、これまでに取り組んできた研究成果の新規性の検証を行う。なお、事後学修として2時間程度を確保すること。

特別研究Ⅲ

開講学科等：不動産博後 | 3年次 | 4単位 | 開講期：通

斎藤 千尋 (さいとう ちひろ)

■ 授業の概要

これまでの研究活動にもとづき博士論文を執筆する。

■ 到達目標

一般目標：学術的な研究活動を主体的に管理し進めることができるようになること。

個別目標：研究の背景と目的、研究方法の設定、分析と考察の実施を一貫して進める能力

複数の研究成果をまとめる構成力

論文テーマと結びついた新たな研究課題を見つける能力

■ 履修条件

特別研究Ⅱが履修済みであること。

■ 評価基準・方法

ゼミに提出するレジュメやそれに基づく議論、学会等での発表の梗概、論文により到達度を評価する。

■ フィードバック方法

ゼミ中にフィードバックを行う。

■ アクティブ・ラーニングの実施（実施内容）

あり（ディスカッション）

■ 授業での PC の利用（利用内容）

あり（文献、データ収集、データ解析）

■ 教科書

なし。

■ 参考書

必要に応じて指示する。

■ 授業テーマ・授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業テーマ

博士論文の執筆

授業内容

特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱでの研究活動を通して得られた知見を、博士論文としてまとめる。具体的には、研究の背景や目的をわかりやすく書くことで、研究の位置づけを明確にすること、研究を通じて行ったことを章立てにして論理的に述べること、新たに得られた知見を明確にし、また研究課題を示し、次の研究への示唆を述べること、などを指導する。

以上の事項を各回のゼミでディスカッションをしながら進めていく。

事前学修

論文を執筆する。研究テーマに関連した学会行事や業界のイベントに積極的に参加すること。 各回 3.5hr

事後学修

ゼミで指摘された事項を研究ノートにまとめる。 各回 0.5hr

2026年度 不動産学研究科 博士後期課程 特別研究指導テーマ一覧

職名	氏名	主な研究指導テーマ
教授	兼重賢太郎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市法制の系譜学的研究 ○ 都市空間に関する法社会学的研究
教授	小杉 学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 区分所有マンションの管理に関する研究 ○ 区分所有マンションの建替え・解消に関する研究 ○ 地方都市の居住地・商業地再生に関する研究 ○ 公民連携まちづくりに関する研究
教授	小松 広明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産の価格形成要因としてのウェルビーイング（Well-being）に関する研究 ○ 居住者の不動産に対する価値意識構造に関する研究 ○ 収益用不動産の価格形成に関する実証的研究
教授	斎藤 千尋	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建物群の配置のための情報処理システムの研究 ○ 敷地境界に依存しない建築形態規制の研究 ○ 都市像の表現手法に関する研究
教授	中城 康彦	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産の価値に関する研究 ○ 不動産関連専門職業家の職能に関する研究 ○ 賃貸不動産の経営と管理に関する研究 ○ 建築物の調査・診断・再生に関する研究
教授	浜島 裕美	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産取引に係る法的諸問題の研究 ○ 環境に関する法的諸問題に関する研究
准教授	原野 啓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産市場に関連する実証的研究 ○ 不動産市場を対象とした政策に関する実証的研究
教授	藤木 亮介	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建築物の長期的な修繕計画に関する研究 ○ マンション（区分所有集合住宅）の改修工事に関する研究 ○ 高経年建築物の再生に関する研究 ○ 住宅ストック（戸建て・集合住宅）の再生に向けた住宅政策に関わる研究
教授	前島 彩子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建築都市環境の地域性に関する研究 ○ 建築生産・建築構法の変遷に関する研究 ○ ストック改修にかかる構法計画・社会システムに関する研究
教授	山本 卓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不動産会計にかかる実証的・制度的研究 ○ 企業不動産戦略（CRE）の実施方策及び効果検証にかかる研究 ○ 固定資産税評価にかかる実証的・制度的研究

注：担当教員は変更となる場合があります。



MEIKAI UNIVERSITY

<https://www.meikai.ac.jp>

